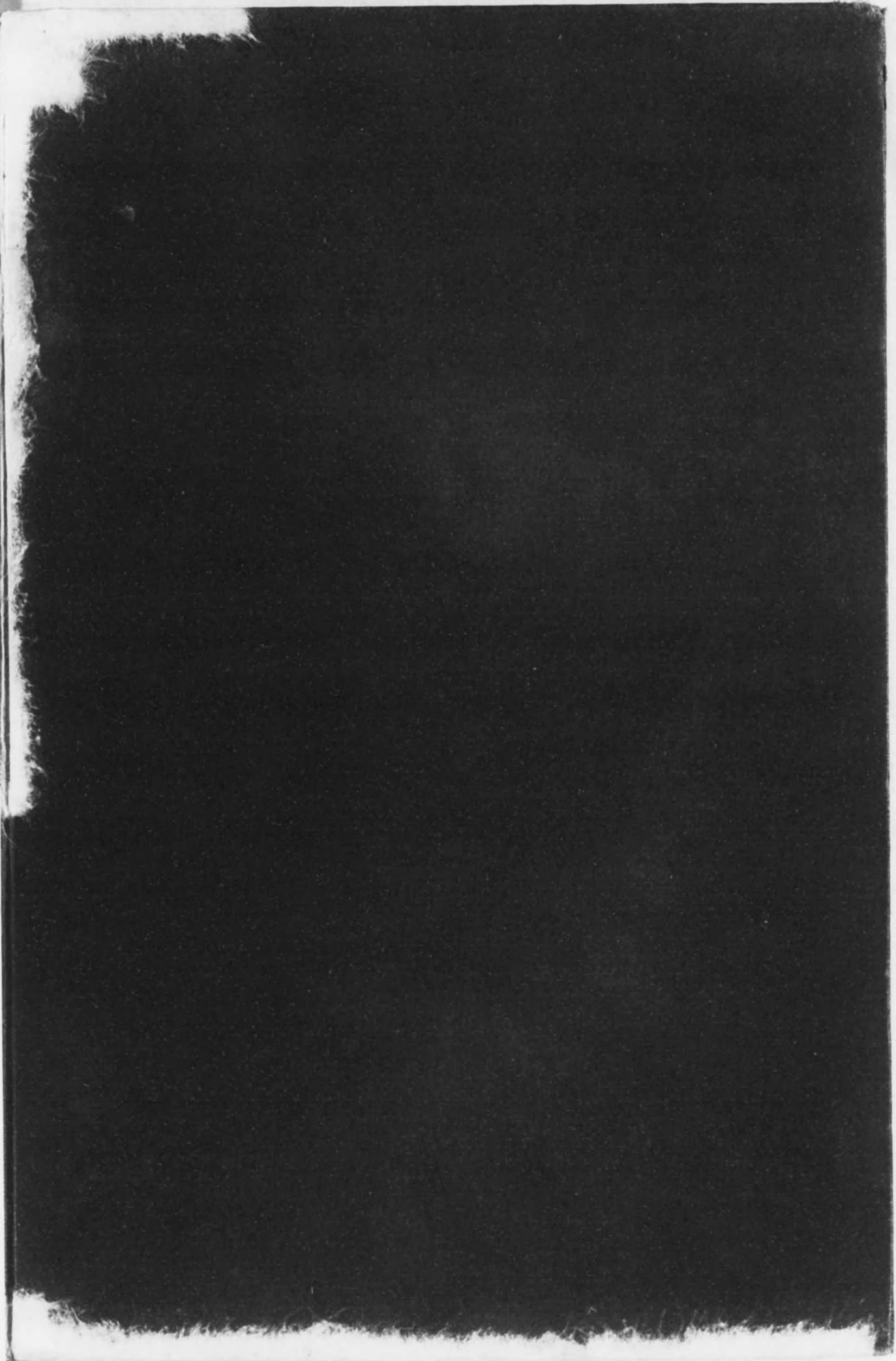




始



49
126

861

R
491.1
N77
3



日本解剖學文獻集

貞享三年(1686)ヨリ

昭和八年(1933)マデ

日本解剖學會



序

昭和九年四月日本解剖學會第四十二回集會ニ日本解剖學文献集ノ議ガ提出サレ、其編纂ガ日本解剖學會ノ事業トシテ企圖サレテ以來、委員ハ文献調査採録ニ當リ多數同僚諸氏ノ助力ニ依リ、又財團法人啓明會ノ經濟的援助ノ下ニ此仕事ヲ進メテ行ツタノデアル。途中此事業ノ提案者デアリ、且委員ノ一人トシテ最モ盡力サレタ岡嶋教授ノ急逝ガアリ、又委員中一人ハ遠地ニ轉任、一人ハ海外ニ出張ト云フヤウナ出來事ノタメ可ナリノ困難ト不便トニ見舞ハレタガ、仕事ハ續ケラレ三年後ノ今日漸ク之ガ刊行ヲ見ル運ビトナツタ。

集メルトコロノ項目ハ實ニ一萬ヲ越エ、貞享三年カラ昭和八年マデ日本デ發表サレタ解剖學文献ノ重要ナモノハ殆ド網羅シ盡サレタツモリデアルガ、ナホ逸脱シタモノモ尠クナイデアラウ。誤謬モ亦無イトハ言ヘヌ。幸ニ同僚諸氏ノ指摘ヲ得テ訂正補充シテ行キタイト思フ。

文献目錄中齒科方面ノモノハ專ラ日本齒科醫學專門學校教授柴田信博士ヲ煩ハシ、動物學方面ノモノハ多ク農林省水産講習所助教授稻葉傳三郎氏及ビ東京帝國大學理學部犬尾三郎氏ノ勞ニ依ル。明治時代及ビ明治以前刊行ノ圖書目錄ニ就イテハ慶應義塾大學醫學部教授藤浪剛一博士ノ好意ヲ辱ウシタ。又同醫學部解剖學教室ノ中野鑄太郎氏ハ文献「カード」ノ整理校正其他繁雜ナ事務ニ終始多大ノ助力ヲ致サレタ。共ニ茲ニ記シテ感謝ノ意ヲ表ス。

昭和十一年十一月

日本解剖學文献集編纂委員

故	岡	鳥	敬	治
	西		成	甫
	森		於	菟
	谷	口	虎	年
	望	月	周	三郎

本文獻集ノ刊行ニ就イテハ財團法人啓明會ノ援助ヲ受ケタリ茲ニ特記シテ感謝ノ意ヲ表ス

凡 例

1. 明治以前貞享3年(1686)カラ昭和8年(1933)末日マデニ日本デ刊行サレ
タ解剖學及ビ之ニ關係アル文献ヲ採録シタ。
2. 分類ハ主トシテ Anatomischer Bericht ニ範ヲ取ツタ。
3. 各項ヲ次ニ記載ノ如キ順ニ配列シタ。
番號. 著者名: 表題. 【雜誌略名】卷, 號. 日本年號(西曆年號). [研究對象]
4. 雜誌ノ略名ハ主トシテ日本學術研究會議ノ規定ニ從ヒ, 其他ハ適宜ノ略名ヲ用
キタ。ナホ參照採録雜誌目錄ノ注意事項ヲ讀マレタシ。
5. 日本年號デ「明」ハ「明治」, 「大」ハ「大正」, 「昭」ハ「昭和」ノ略。

參照採録雜誌目錄

注意事項

- 1) 目錄ハ學術研究會議編纂ノ「日本醫學雜誌並關係雜誌目錄及略名表」(昭和7年, 1932), 「同追補第一」(昭和8年, 1933) 及ビ岩波講座生物學ノ「國內生物學關係雜誌報告類目錄」(昭和9年, 1934) ニ記載ノモノヲ主トシテ參照シタ。
- 2) ●印ハ上記三目錄中ニ記載サレナイモノヲ示ス。
- 3) 括弧内ハ略名。括弧ノ次ノ數字及ビ「以前, 以後」等ノ文字ハ缺本或ハ入手不能ノタメ未調査ヲ示ス。其太字ハ卷, 細字ハ號ヲ示ス。

A

Acta Medicinalia in Keijo (Acta med. Keijo)
 Acta Scholae Medicinalis Universitatis
 Imperialis in Kioto (Acta Scholae med. Kioto)
 Aichi Journal of Experimental Medicine.
 (Aichi J. of exper. Med.)
 愛知醫學會雜誌 (愛知醫會誌)
 愛知醫學校同窓會雜誌 (愛知醫校同窓誌)
 愛知縣立醫學專門學校同窓會雜誌 (愛知醫專同
 窓誌, 愛知醫專校友誌)
 Annotationes Zoologicae Japonenses (Ann. zool.
 jap.)
 Arbeiten aus dem Anatomischen Institut
 der Kaiserlich-Japanischen Universität
 zu Sendai. (Arb. anat. Inst. Sendai)
 Arbeiten aus der dritten Abteilung des
 Anatomischen Institutes der Kaiserlichen
 Universität Kyoto. (Arb. III. anat. Inst.
 Kyoto, Arb. anat. Inst. Kyoto)
 Arbeiten aus der Medicinischen Universität
 Okayama. (Arb. med. Fak. Okayama)

B

Bullutin of the College of Agriculture, Tokyo
 Imperial University, Japan. (Bull. Coll. Agr.
 Tokyo Imp. Univ.)
 病理ト治療 (病理治療)
 病理學紀要 (名古屋) (病理學紀要)

C

Cytologia (Cytologia)

D

大日本耳鼻咽喉科會々報 (大日耳鼻)
 大日本齒科醫學會々誌 (大日齒會誌)
 ●第四回體育研究會々誌
 傳研業績報告 (傳研業績) 缺: 昭和3年以前
 動物學雜誌 (動物誌)
 同門會々報 (同門會)

E

●榮養研究所報告

F

Folia Anatomica Japonica (Fol. anat. jap.)

G

癌 (癌)
 眼科臨床醫報 (眼臨) I.
 學校衛生 (學校衛生)
 軍醫團雜誌 (軍醫團)
 軍醫學會雜誌 (軍醫會, 軍醫會誌)
 グレンツゲビート (Grenzgeb.)

H

犯罪學雜誌 (犯罪學, 犯罪學會誌, 金澤犯罪學)
 皮膚科紀要 (皮膚紀要)
 皮膚科及泌尿器科雜誌 (皮膚誌, 皮誌, 泌尿誌,
 皮膚誌)
 皮膚ト泌尿 (皮膚)
 保險醫學雜誌 (保險醫誌)
 北海道醫學雜誌 (北海道醫誌)

北海醫報 (北海醫報) 缺: 56, 59, 61.
 北越醫學會報 (北越醫會報)
 北越醫學會雜誌 (北越醫會誌)
 北海道皮膚科泌尿器科 (北海道皮膚)
 福岡醫科大學雜誌 (福岡醫大誌, 福岡醫誌)
 福井縣醫學會雜誌 (福井會誌, 福井醫會誌) 缺:
 1, 2, 28-33, 43 以後
 兵庫縣醫學會雜誌 (兵庫醫會誌) 缺: 1-13, 52,
 53, 103.

I

遺傳學雜誌 (遺傳誌)
 醫學研究 (醫研究)
 醫學中央雜誌 (醫中央誌, 醫中誌)
 醫事及雜誌索引 (醫事索引)
 醫事公論 (醫公論) 缺: 457 以前
 醫海時報 (醫海時報) 缺: 明治 31 年以前
 (但 1-79 起調查)
 岩波講座 (生物學) (岩波講座生物學)
 醫事新聞 (醫新聞)

J

Japan Dental Science (Jap. dent. Sci.)
 Japan Medical World. (Jap. med. World)
 Japanese Journal of Experimental Medicine.
 (Jap. J. exper. Med.)
 Japanese Journal of Medical Sciences.
 I. Anatomy. (Jap. J. of med. Sci. I)
 Japanese Journal of Medical Sciences.
 II. Biochemistry. (Jap. J. of med. Sci. II.
 Biochem.)
 Japanese Journal of Medical Sciences.
 III. Biophysics. (Jap. J. med. Sci. III.)
 Japanese Journal of Medical Sciences.
 IV. Pharmacology. (Jap. J. of med. Sci. IV.
 Pharm.)
 Japanese Journal of Medical Sciences.
 V. Pathology. (Jap. J. med. Sci. V. Pathology)
 Japanese Journal of Obstetrics and
 Gynecology. (Jap. J. Obst. and Gyn.)
 Japanese Journal of Zoology (Jap. J. of Zool.)
 Journal of Imperial Fisheries Institute. (J.
 Imp. Fisheries Inst.)
 Journal of Oriental Medicine (J. Oriental
 Medicine)
 Journal of Science of the Hiroshima

University, Series B. Division I. (J. Sci.
 Hiroshima Univ.)

Journal of the College of Agriculture,
 Tohoku Imperial University, Sapporo,
 Japan. (J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.)

Journal of the College of Agriculture,
 Hokkaido Imperial University, Sapporo,
 Japan. (J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.)

Journal of the College of Agriculture,
 Imperial University of Tokyo. (J. coll. Agr.
 Imp. Univ. Tokyo)

Journal of the College of Science, Imperial
 University of Tokyo (J. coll. Sci.)

Journal (of the) Faculty of Science, Tokyo
 Imperial University. Section IV. Zoology
 (J. Fac. Sci. Sect. Zool.)

Journal of the Faculty of Science, Hokkaido
 Imperial University Series VI. Zoology.
 (J. Fac. Sci. Hokk. Imp. Univ. Series VI. Zool.)

Journal of the Department of Agriculture,
 Kyushu Imperial University, Fukuoka,
 Japan. (J. Dep. Agr. Kyushu Imp. Univ.)

●Journal of Keijo Dental Association (J. Keijo-
 dental Ass.)

K

解剖學雜誌 (解剖誌)
 海軍醫學會雜誌 (海軍醫誌) 缺: 明治 45 年 2 月
 以前, 大正 9-12 年.
 金澤醫學會雜誌 (金澤醫會誌) 缺: 29, 31, 32,
 34, 40, 45. 以後
 金澤醫科大學解剖學教室業績 (金澤解剖業績)
 鹿兒島醫學雜誌 (鹿兒島醫誌) 缺: 26 以後
 關西醫事 (關西醫事)
 京城醫學紀要 (京城醫學紀要)
 京城醫學專門學校紀要 (京城醫專紀要)
 ●京城齒科醫學會雜誌 (京城齒醫會誌)
 Keijo Journal of Medicine (Keijo J. of Med.)
 慶應醫學 (慶應醫學)
 ●慶應レントゲン學叢書
 螢光 (螢光)
 結核 (結核)
 結核雜誌 (結核誌)
 顯微鏡 (顯微鏡)
 顯微鏡學會雜誌 (東京) (東京顯微鏡會誌)

N

研瑤會雜誌 (研瑤誌)
 近畿婦人科學會雜誌 (近畿婦誌)
 Kitasato Archives of Experimental Medicine
 (Kitasato Arch. of exp. Med.) 缺: 1-6, 7, 1, 4,
 8, 9, 1.
 ●口腔科學 (口腔)
 熊本醫學會雜誌 (熊本醫會誌)
 熊本醫專校友會雜誌 (熊本醫專誌)
 ●熊本齒界新聞 (熊本齒新聞)
 倉敷中央病院年報 (倉敷病院報)
 國家醫學會雜誌 (國家醫會誌)
 國家醫學雜誌 (國家醫誌)
 口腔病學會雜誌 (口腔會誌, 口腔誌, 口腔)
 國民衛生 (國民衛生)
 國政醫學雜誌 (國政醫學誌) 缺: 1, 6-8.
 ●小峯研究所紀要 (小峯紀要) 缺: 3 以後.
 好生館醫事研究雜誌 (好生館醫誌)
 京都醫學雜誌 (京都醫誌)
 京都府立醫科大學雜誌 (京都府大誌)
 京都府立醫學專門學校校友會雜誌 (京都府醫專
 誌)
 九大醫報 (九大醫報)
 九州齒科學會雜誌 (九州齒會誌)
 九州帝國大學農學部學藝雜誌 (九大農藝誌, 九大
 農學誌)

M

Memoirs of the College of Science, Kyoto
 Imperial University, Series B. (Mem. Coll.
 Sci. Kyoto Imp. Univ.) 缺: 110 以前, 142 以後
 滿鮮之醫界 (滿鮮醫界)
 滿洲醫學雜誌 (滿洲醫誌).
 民族衛生 (民族衛生)
 ●民族ト歴史
 Mitteilungen aus der Medizinischen Fakultät
 der Kaiserlichen Universität zu Tokyo.
 (Mitt. med. Fak. Tokyo)
 Mitteilungen aus der Medizinischen Fakultät
 der Kaiserlichen Kyushu Universität zu
 Fukuoka. (Mitt. med. Fak. Fukuoka)
 Mitteilungen aus der Medicinischen Akademie
 (Hochschule) zu Keijo. (Mitt. med. Akad.
 Keijo)
 Mitteilungen über Allgemeine Pathologie und
 Pathologischen Anatomie. (Mitt. allg. Pathol.
 etc.)

長崎醫科大學法醫學教室業報 (長崎法醫報)
 長崎醫學會雜誌 (長崎醫會誌)
 Nagoya Journal of Medical Science (Nagoya
 J. of med. Sci.)
 ●名古屋醫科大學同窓會雜誌 (名大同窓會雜誌)
 ●中山文化研究所紀要
 南滿醫學會雜誌 (南滿醫會誌)
 ●南滿洲齒科醫學會誌 (南滿洲齒會誌, 南滿齒醫
 會誌)
 日本微生物學病理學雜誌 (日微生物誌)
 日本病理學會雜誌 (日病理學誌, 日理會誌)
 日本衛生學會雜誌 (日衛生會誌)
 日本眼科學會雜誌 (日眼會誌) 缺: 6, 28.
 日本學術協會報告 (日本學協報告)
 日本外科學會雜誌 (日外會誌)
 日本外科寶函 (日外寶)
 日本泌尿器科學會雜誌 (日泌會誌, 日尿會誌)
 缺: 17. 以前
 日本婦人科學會雜誌 (日婦會誌, 日婦誌)
 日本醫科大學雜誌 (日醫大誌)
 日本醫學會誌 (第一乃至八回) (日醫會誌, 聯
 合醫會誌)
 日本醫學輯報 (Jap. J. of med. Sci.) (日本
 醫學輯報, 日醫輯報, 日醫報)
 日本公衆保健協會雜誌 (日公保健誌)
 日本內分泌學會雜誌 (日內分泌, 日內泌誌, 日內
 分誌)
 日本內科學會雜誌 (日內會誌)
 日本レントゲン學會雜誌 (日レントゲン會誌)
 日本整形外科學會雜誌 (日整形會誌) 缺: 1-3.
 日本消化器病學會雜誌 (日消化會誌)
 日本鐵道醫協會雜誌 (日鐵道會誌, 日鐵協會誌)
 缺: 1, 5, 6, 7, 1-6, 11, 8, 1, 2, 5, 7, 9-12, 9 3-5
 8, 11, 12.
 日本畜產學會報 (日畜會報, 日畜產會報)
 日本獸醫學會雜誌 (日獸醫誌)
 日本之齒界 (日齒界, 日本齒界)
 日本齒科學會雜誌 (日齒會誌, 日齒醫會誌, 日齒
 會, 日齒學會誌)
 日本齒科口腔科學會雜誌 (日齒口會誌)
 日本之醫界 (日醫界)
 日本醫事新聞 (日醫新聞) 缺: 3, 15, 4, 1, 3, 5.
 日本醫事新報 (日醫新報) 缺: 255.

- 日本醫事週報 (日醫週報)
- 日本齒科醫學專門學校學生會々誌 (日齒醫專學生會「富士見」)
- 日本矯正齒科學會々誌
- 日本大學齒科紀要 (日本大學齒紀要)
- 新潟醫科大學病理學教室研究報告 (新潟病理報)
- 日新醫學 (日新醫學)
- 腦 (腦)
- 乳兒學雜誌 (乳兒誌)

O

- 岡山醫學會雜誌 (岡山醫會誌, 岡山醫誌)
- 大阪醫學會雜誌 (阪醫會誌) 缺: 1, 2, 1-12, 14, 16 以下 4, 5-9, 11-12, 5, 2.
- 大阪醫學研究會雜誌 (阪醫研誌) 缺: 1-26, 32-34, 以後.
- 大阪齒科醫學專門學校學友會雜誌 (大阪齒醫專學友誌)

●おとづれ

- 應用動物學雜誌 (應用動雜)
- 應用獸醫學雜誌 (應用獸醫誌)

R

- レントゲン學雜誌 (レントゲン誌)
- 陸軍獸醫團報 (陸軍獸醫報) 缺: 明治45年以前
- 臨床病理血液學雜誌 (臨床病理學血液學)
- 臨床醫學研究 (臨醫研究)
- 臨床產科婦人科 (臨床產科, 臨床產婦)
- 臨床齒科 (臨床齒)
- 臨床小兒科雜誌 (臨床兒誌)
- 勞働科學研究 (勞働研究)

S

- Science Reports of the Tokyo Bunrika Daigaku Section, B. Biology. (Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.)
- 濟生學會醫事新報 (濟生會醫報)
- 產婆學雜誌 (產婆誌) 缺: 169 以後
- 產科婦人科學雜誌 (產婦誌) 缺: 明治39年以前, 明治42年以後.
- Scientific Reports from the Governmental Institut (Scient. Reports Governm. Inst., Sci. Rep. from. the Gov. Inst.)
- 生理學研究 (生理研究)
- 成醫會月報 (成醫月報)

成醫會雜誌 (成醫會, 成醫會誌)

- 生命保險會社協會々報
- 齒科學報 (齒學報)
- 齒科月報 (齒月報)
- 齒科醫學 (齒醫學)
- 齒科醫報 (齒醫報)
- 齒海公論 (齒海公論)
- 齒科新報 (齒新報)
- 神經學雜誌 (神經誌)
- 新齒科醫報 (新齒醫報)
- 札幌博物學會々報 (札幌博會報)
- 水產學會報 (水產學會報)
- 水產學雜誌 (水產誌)
- 水產研究誌 (水產研究誌)
- 水產講習所研究報告 (水產講習報告, 水產講習報告)
- 水產試驗場報告 (水產試驗場報告)
- 社會醫學雜誌 (社會醫誌, 社會醫學)

●植物及ビ動物

昭和齒科評論 (昭和齒評論)

T

- 體性 (體性) 缺: 1-7.
- 臺灣醫學會雜誌 (臺灣醫會誌)
- 臺灣齒科月報 (臺灣齒月報)
- 臺灣齒科醫學會々誌 (臺灣齒醫會誌)
- 千葉醫學會雜誌 (千葉醫會誌, 千葉醫會)
- 千葉醫學專門學校々友會雜誌 (千葉醫專會誌)
- 畜産試驗場報告 (畜産試報告)
- 畜産試驗場彙報 (畜産試驗場彙報)
- 嶺西醫報 (嶺西醫報)
- 東北醫學雜誌 (東北醫誌)
- Tohoku Journal of Experimental Medicine. (Tohoku J. exp. Med.)
- 東京醫學會雜誌 (東京醫會誌) 缺: 47.
- 東京醫事新誌 (東京醫誌)
- 東京女醫學會雜誌 (東京女醫會誌)
- 東洋醫學雜誌 (東洋醫誌)
- 東洋齒科月報 (東洋齒月報)
- Transactions of Nippon Dental Association. (Transact. Nippon dental Ass.)
- 朝鮮醫學會雜誌 (朝鮮醫會誌)
- 朝鮮之齒界 (朝鮮齒界)

- 朝鮮齒科醫學會雜誌 (朝鮮齒醫會誌)
- 中外醫事新報 (中外醫事報)
- 中央眼科醫報 (中央眼科報)
- 中央婦人科學雜誌 (中央婦會誌)
- 中央醫學會雜誌 (中央醫會誌)
- 中央醫事 (中央醫事) 缺: 1-24, 38, 40, 41, 43, 50, 51, 66.
- 中央獸醫會雜誌 (中央獸醫誌)

Y

- 山田病院々友會雜誌 (山田誌)
- 優生學 (東京) (優生學)

Z

- 耳鼻咽喉科 (耳鼻)
- 兒童研究 (兒童研究)
- 兒科雜誌 (兒科誌)

- 實驗醫學雜誌 (實驗醫學, 實驗醫誌)
- 實驗醫報 (實驗醫報)
- 人類學雜誌 (人類誌)
- 人性 (人性)
- 實踐醫學叢書 (實踐醫學)
- 實驗消化器病學 (實驗消化病)
- 女醫界 (女醫)
- 助產學雜誌 (助產誌)
- 兒童齒科研究所紀要
- 助產看護之友 (助產看護友)
- 助產ノ友 (助產友)
- Zytologische Studien von Sakae Saguchi (Zytologische Studien)
- 順天堂醫事研究會雜誌 (順天堂醫誌)
- 十全會雜誌 (十全會誌)

【附】

- 1) 雜誌ノ發行所ハ凡テ之ヲ省略シタ。前記ノ三目錄ヲ参照サレタシ。
- 2) 次ニ掲ゲル雜誌ハ調査シタガ採録ニ價スル文献ヲ得ナカッタ。

醫學原著索引, 結核雜誌, 關西醫海時報, 日本女醫學會雜誌, 臺灣醫事新誌, 東北醫學會々報, 日本法醫學會雜誌。

目	次
序	1
凡例	3
参照採録雑誌目録	5
I. 一般	1
1. 歴史	1
2. 解剖學教室	1
3. 名 彙	1
4. 統計一般	2
5. 研究方法	3
1. 肉眼的研究法	3
2. 注入, 屍體保存	4
3. 測定法トソノ理論	4
4. 研究用器具	5
5. 測定器	6
6. 顯微鏡トソノ操作	6
7. 組織研究法	6
8. 固 定	7
9. 固定ト染色	8
10. 染色ト色素	8
11. 銀 染 法	11
12. 包埋, 切片, 封鎖	11
13. 組織培養法	12
14. 血液, 血球検査	12
15. 描寫, 寫真	12
16. 復 構 術	13
6. 細 胞	13
1. 細胞一般	13
2. 細胞構造, 原形質, 顆粒	15
3. ミトコンドリア	16
4. ゴルヂ内網	17
5. 好銀顆粒ト好「クローム」 細胞	17
6. 中心小體	18
7. 核 一 般	18
8. 染 色 體	19
9. 核分裂ト細胞分裂	22
7. 組 織	23
1. 組織一般	23
2. 色素組織	25
3. 生體染色一般	25
4. 組織培養一般	27
5. グリコゲン	27
6. 結締織一般, 結締織細胞	28
7. 格子狀纖維	23
8. 彈力纖維	23
9. 脂肪組織	29
10. 髓	30
11. 肥胖細胞	30
12. 内 皮	30
13. 組織球, 網狀織内皮	30
14. 軟骨組織	32
15. 骨組織, 骨髓	32
16. 上 皮	33
17. 腺	34
18. 筋 組 織	34
19. 神經組織一般	35
20. 神經細胞	36
21. 神經纖維	38
22. 神經膠組織	38
23. 神經終末	39
8. 發 光 器	41
9. 性, 性 徵	41
10. 生殖, 性週期	43
11. 發 生 學	44
1. 發生一般	44
2. メタモルフオーゼ	44
3. 性細胞一般	45

4. 精細胞, 精液 45

5. 卵細胞 47

6. 排卵, 受精(交尾) 49

7. 初期發生 50

8. 胎盤, 胎膜(卵膜) 51

9. 臍, 臍帶 53

10. 胎兒 54

11. 多胎 54

12. 雙胎 54

13. 品胎 55

14. 四胎以上 56

15. 妊娠, 分娩, 產卵 56

12. 實驗形態學 57

1. 機械發生 57

2. 光線, 放射線, 電氣ノ影響 58

3. 化學的物質ノ影響 60

4. 食餌ノ影響 61

5. 剔出, 切除, 切斷, 結紮等 62

6. 移植 63

7. 再生, 變性 65

8. 去勢 67

13. 遺傳 67

1. 遺傳一般 67

2. 猩々蠅 69

3. 蠶 70

4. 植物 71

14. 體格, 體型, 體質, 發育 72

1. 一般 72

2. 身體外形, 身體測定, 測定方法 73

3. 胎兒, 初生兒, 乳兒 75

4. 兒童 76

5. 學生, 生徒 79

6. 壯丁 80

7. 競技者, 體育 81

8. 鮮, 支, 滿, 臺人其他 81

9. 身長, 體重其他 83

10. 體表面積 83

11. 頭部, 頸部 84

12. 胸圍, 胸廓, 胸部, 腹部, 臀部 84

13. 上肢 85

14. 生體骨盤 85

15. 下肢 85

16. 動物ノ體質, 體重, 體長, 發育 86

II. 系統解剖學 87

1. 骨 87

1. 骨一般 87

2. 骨發育一般, 化骨一般 87

3. 頭骨一般 88

 顱門 89

 眼窩 89

 鼻腔, 鼻部 90

 口蓋 90

 縫合 90

4. 人種頭骨 91

5. 頭骨各論 91

 後頭骨 91

 楔狀骨 92

 側頭骨 92

6. 胸骨 95

7. 四肢骨 98

8. 上肢骨 98

9. 下肢骨 100

10. 骨(動物) 104

 頭骨 104

 舌骨, 鯁骨 105

 胸骨 105

 四肢骨 105

2. 關節 106

 關節ノ韌帶(動物) 108

3. 筋 108

1. 背筋 108

2. 頭筋 109

3. 頸筋 109

4. 胸筋 110

5. 腹筋 110

6. 橫膈膜 110

7. 上肢筋 111

8. 下肢筋 111

9. 腱ノ腱鞘 111

10. 筋ノ腱(動物) 111

11. 發電器官 112

4. 內臟 113

1. 內臟一般 113

2. 消化器 114

 消化器一般 114

 口腔一般, 口唇 115

 唾液腺(口腔腺) 115

 舌 116

 齒 116

1. 齒牙一般 116

2. 技術 117

3. 口腔檢查ノ齒牙檢查 117

4. 古代人齒 118

5. 人種齒 118

6. 齒形態, 畸形, 大小, 重量, 位置, 位置異常 119

7. 齒髓腔, 齒根, 齒根管 120

8. 齒數 121

9. 齒弓, 咬合 122

10. 結節, 咬頭 122

11. 乳齒 123

12. 先天齒, 齒ノ發生, 萌生, 埋伏 123

13. 智齒 124

14. 齒齦 125

15. 齒ノ構造 125

16. 珐瑯質 126

17. 象牙質 126

18. 白堊質 127

19. 齒髓組織 127

20. 齦蝕, 咬耗 127

21. 齒ノ病理 128

22. 動物ノ齒 128

 口蓋ノ口蓋垂 130

 扁桃腺 131

 咽頭 132

食道 132

胃 133

腸一般 136

小腸 136

大腸 140

肛門, 肛門腺 141

脾 142

肝 143

膽囊, 膽管 146

3. 呼吸器 147

 呼吸器一般 147

 外鼻, 鼻腔 147

 喉頭 149

 氣管, 氣管支 150

 肺 151

 胸膜, 胸腔 153

 總弓其他 153

4. 尿生殖器 153

 尿生殖器一般 153

 尿器 154

 尿器一般 154

 腎 154

 輸尿管, 腎盂 158

 膀胱, 尿道 160

生殖器 161

 生殖器一般 161

 副生殖腺, ビツダー氏器 162

 半陰陽 163

 男性生殖器一般 164

 精子, 精液 164

 睪丸, 副睪 164

 精管, 精囊, 前列腺 166

 陰莖, 陰囊, 包皮 167

 女性生殖器一般 167

 卵巢 168

 卵管 170

 子宮, 陰 171

 處女膜, 外陰部, 女性尿道等 174

 腹膜, 網膜, 腸間膜, 體腔等 174

 會陰 175

5. 內分泌器 175

內分泌器一般..... 175
 甲狀腺..... 177
 上皮小體(旁甲狀腺)..... 179
 胸腺..... 180
 副腎..... 181
 頸動脈腺..... 183
 尾閥腺..... 183
 ランゲルハンス氏島..... 183
 腦下垂體..... 184
 松果體..... 186
 黃體..... 187
 間細胞..... 188

5. 脈管..... 188
 1. 脈管一般..... 188
 2. 血液及血球一般..... 188
 3. 血液像..... 191
 4. 赤血球..... 192
 5. 白血球..... 194
 6. 血小板..... 198
 7. 血液型(人類學參照)..... 198
 8. 心臟..... 198
 心臟一般..... 198
 心臟ノ畸形..... 199
 刺戟傳導系..... 200
 心ノ構造..... 201
 9. 血管一般..... 203
 血管ノ構造..... 204
 10. 動脈..... 205
 動脈一般..... 205
 心臟..... 206
 頭部..... 206
 頸部..... 207
 胸部..... 207
 腹部..... 208
 上肢..... 209
 下肢..... 209
 11. 靜脈..... 209
 靜脈一般..... 209
 心臟..... 210
 頭部..... 210

頸部..... 210
 胸部..... 210
 腹部..... 211
 上肢..... 211
 下肢..... 212

12. 淋巴管系..... 212
 淋巴腺一般..... 214
 淋巴球, 淋巴..... 214
 局部淋巴腺, 淋巴管..... 215

13. 脾..... 218

6. 神經系..... 219
 1. 神經系一般..... 219
 2. 神經組織..... 219
 3. 腦一般..... 223
 4. 前腦..... 225
 5. 中腦, 菱形腦..... 227
 6. 腦迴轉, 溝, 葉..... 229
 7. 腦重量..... 230
 8. 神經系ノ發生..... 231
 9. 腦ノ病理..... 231
 10. 腦室, 腦膜, 脈絡叢,
 腦脊液..... 232
 11. 腦神經一般..... 234
 12. 脊髓一般..... 239
 13. 脊髓神經一般..... 241
 14. 末梢神經一般..... 242
 15. 交感神經一般..... 243

7. 感覺器..... 245
 感覺器一般..... 245
 1. 視器..... 246
 視器一般..... 246
 角膜, 鞏膜..... 247
 虹彩, 瞳孔, 毛樣體, 脈絡膜..... 249
 視神經, 網膜, 眼底..... 251
 水晶體, 硝子體, 眼房及淋巴..... 253
 淚器..... 254
 眼球筋..... 254
 結膜..... 254
 眼瞼..... 255

視器發生, 實驗形態學..... 255

2. 聽器..... 256
 聽器一般..... 256
 外耳..... 258
 外聽道, 鼓膜..... 258
 中耳..... 259
 內耳..... 259
 聽神經ノ其終末..... 261
 聽器ノ發生..... 262

3. 嗅器..... 263
 4. 味器..... 263
 5. 皮膚..... 263
 皮膚一般..... 263
 皮膚ノ組織..... 264
 皮膚色素, 蒙古斑..... 265
 皮膚附屬器一般..... 267
 立毛筋..... 268
 皮膚腺..... 268
 乳房..... 269
 乳腺..... 270
 皮膚神經..... 270
 毛髮..... 271
 皮膚移植..... 273
 爪..... 273

III. 局處解剖學..... 273

IV. 人類學..... 274
 人類學, 人種學一般..... 274
 人類學歷史及文獻..... 275
 人類起原..... 276
 發掘骨..... 276
 各人種..... 278
 日本人祖先論..... 280
 指紋..... 280
 血液型..... 282

V. 畸形, 異常..... 285
 畸形一般..... 285
 頭部, 顏面, 頸部ノ畸形..... 288
 內臟畸形..... 289
 內臟轉位..... 291

VI. 動物..... 292
 哺乳類..... 292
 鳥類..... 292
 爬蟲類..... 292
 兩棲類..... 293
 魚類..... 293
 原索類..... 294
 前肛類..... 294
 棘皮類..... 294
 毛類..... 295
 節足類..... 295
 圓形類..... 298
 軟體類..... 298
 環形類..... 300
 輪形類..... 301
 紐形類..... 301
 扁形類..... 301
 腔腸類..... 303
 原生類..... 304

VII. 雜..... 305

VIII. 補遺..... 306

IX. 單行書..... 307
 明治以前..... 307
 明治以降..... 308
 大正時代..... 310
 昭和以降..... 310
 年代不詳..... 311

人名索引
 A..... 312
 B..... 314
 C..... 314
 D..... 314
 E..... 314
 F..... 315
 G..... 315
 H..... 315
 I..... 320
 J..... 323

K..... 323
 L..... 330
 M..... 330
 N..... 335
 O..... 338
 P..... 341
 R..... 342

S..... 342
 T..... 347
 U..... 352
 W..... 353
 Y..... 354
 Z..... 357

I. 一般

1. 歴史

1. 田口和美：解剖學ノ由來及ビ其ノ醫學ノ大本タル事。【濟生學會醫報】8。【東京醫誌】801-805。明26(1893)。
 2. 大澤岳太郎：日本解剖學史。【東京醫誌】941,944。明29(1896)。
 3. —：解剖學ノ現状。【東京醫誌】1083-1085。【顯微鏡】27。明32(1899)。
 4. —：明治三十一年中我國ニ於ケル解剖學ノ進歩。【東京醫誌】1091。明32(1899)。
 5. 小林清之進：醫學ト歴史トノ關係。【北越醫會報】123。明34(1901)〔多羅症アリ〕。
 6. 大澤岳太郎：解剖學ノ發達。附。消食器系統ノ上皮ニ就テ(綜)。【日新醫學】1。明44-45(1911-12)〔脊椎動物〕。
 7. 金子治郎：古代ノ解剖學史(綜)。【十全會誌】17,4。明45(1912)。
 8. 大澤岳太郎：胎生學ノ趨勢。【東京醫誌】1754。大1(1912)〔鯉、龜、家兔、鳥、等々〕。
 9. —：胎生學ノ進歩ニ就テ。【醫新聞】847。明45(1912)。
 10. 八木田九一郎：十七八世紀頃ノ個體發生學トウオルフ氏。【醫海時報】915。明45(1912)。
 11. 大澤岳太郎：解剖學史。【醫海時報】967。大2(1913)。
 12. 進藤篤一：臨床解剖學概説。【實驗醫報】8, 88。大10-11(1921-22)。
 13. 吳秀三：我邦漢方醫及ビ蘭方醫ノ最初ノ解剖ニ關スル讀史餘談。【中外醫事新報】114, 3, 1159。昭4-5(1929-30)。
 14. 金子治郎：解剖ニ就テノ懷舊。【犯罪學】3, 2, 3。昭5(1930)。
 15. 新潟病院解剖三十體祭。【北越醫會報】104。明30(1897)。
 16. 新潟ノ解剖。【北越醫會報】108。明31(1898)。
 17. 三條病院ノ病體解屍。【北越醫會報】108。明31(1898)。
 18. 三浦解剖組合。【北越醫會報】127。明35(1902)。(主トシテ病理解剖)。
 19. —：今田東氏ノ計音井ニ來歴(故今田氏ノ遺體剖檢)。【北越醫會報】22。明22(1889)。
 20. 故今田助教授ヘ賞金, 今田氏獎學金。【北越醫會報】24。明23(1890)。

21. マルビーギーノ二百年祭。【北越醫會報】80。【顯微鏡】1。明27(1894)。(マ氏小傳)。
 22. 小金井博士。【北越醫會報】120。明33(1900)。(岡博士遺傳)。
 23. 齋藤勝壽：醫學博士田口和美先生ヲ敬弔ス。【阪醫會誌】3, 3。明37(1904)。
 24. 塚口利三郎：フリードリッヒ, ヌーヴェス先生ヲ弔ス。【阪醫會誌】23, 12。大13(1924)。
 25. 本庄彌：吉田康平ノ解剖的所見。【醫海時報】728。明41(1908)。
 26. 長與又郎：桂公爵遺骸剖檢錄。【癌】8, 1。大3(1914)。
 27. 佐藤清：陸軍中將山田忠三郎閣下剖檢錄。【癌】10, 3。大5(1916)。
 28. 長與又郎：青山胤通先生剖檢錄。【癌】13, 3。大8(1919)。

2. 解剖學教室

29. 鈴木文太郎：京都帝國大學醫科大學解剖學教室ニ就テ。【東京醫會誌】1, 11。明36(1903)。
 30. 原正：本學解剖教室收容屍體ノ統計並ニ其利用ニ就イテ。【福岡醫大誌】1, 2。明40(1907)。
 31. 中野鑄太郎：本校解剖學教室屍體統計(綜)。【十全會誌】58。明43(1910)。
 32. 保田收藏, 金子康次郎, 奥田喜久三, 鴨井補正, 大浦俊男, 古川利三, 橋本敏文：九大病理學教室臟器統計 1。【福岡醫大誌】11, 1。大7(1918)。
 33. 星三藏：剖檢材料ノ統計的研究 1。特ニ重量ヨリ見タル副腎, 胸腺ノ發育, 附, 腦重ニ就テ。【日病理會誌】17。昭2(1927)。

3. 名彙

34. 佐藤恒久：眼筋ノ名稱ニ就テ(綜)。【順天堂醫誌】161-163。明26(1883)。
 35. 解剖用語ノ査定。【醫海時報】75。明28(1895)。
 36. 關場不二彦：「アイヌ」語肢體名稱。【中外醫事報】408, 409。明30(1897)。
 37. 安井洋：身體部位ノ名稱並ビニ銃砲創ノ統計ニ適用スベキ身體區分ニ就テ。【軍醫會】153。明39(1906)。

38. 三田谷啓：身體名義考。【人性】5,1,2,3,5,明42(1909).
 39. 石川喜直：學術語協定希望(會)。【東京醫誌】1714, 明44(1911).
 40. —：再ビ學術統一ニ就テ(會)。【醫公論】13, 大1(1912).
 41. 富士川一吾：身體名義考。【人性】13,10, 14, 1-6,8,9, 大7-8(1918-19).
 42. 金關丈夫：冠人名解剖學辭彙(綜)。【生理研究】4,3, 昭2(1927).
 43. —：稿本冠人名組織學胎生學辭彙(綜)。【生理研究】4,4, 昭2(1927).
 44. 釘本昌二, 羽部義孝：畜牛ノ特徴呼稱並ニ用語ニ關スル調査。【畜産試験場彙報】1, 昭2(1927).

4. 統計一般
 (出生・壽命・死亡・人口・
 月經・結婚・妊娠・分娩等)

45. 森田政雄：優良兒ノ生レ月比較。【優生學】2, 11, 大14(1925).
 46. 工藤武城：再ビ大和民族ノ朝鮮ニ於ケル分娩率ニ就テ(會)。【朝鮮醫會誌】13, 大3(1914).
 47. 古屋芳雄：本邦人兩性出生比率ノ研究(兩性出生比率ニ及ボス社會的及ビ生物學的研究ノ考察)。【日醫新報】562,563, 昭8(1933).
 48. —：本邦兩性出生ノ比率ニ關スル社會生物學的研究。【日醫新報】481, 482, 昭6(1932).
 49. 輝岐義等：我が邦出生率ノ社會生物學的研究。【勞働研究】1,2, 大13-14(1924-25).
 50. 横山雅男：本邦人ノ生産力。【産婆誌】149, 大2(1913).
 51. 勝木新次, 岩崎辻男：本邦乳兒死亡ニ於ケル兩性比率(乳兒死亡ニ於ケル遺傳的要因ト環境的要因トニ關スル一考察)。【民族衛生】2,2, 昭7(1932).
 52. 矢野恒太：死亡表ト體格診査ノ關係。【保險醫學雜誌】1, 明35(1902).
 53. 宮入慶之助：我國ノ死亡原因統計ニ就テ。【醫海時報】395, 明35(1902).
 54. 勝木新次：本邦ニ於ケル兩性死亡率特ニ産業發達ガ青年ノ死亡率ニ及ボセル影響ニツキテ。【勞働研究】8,3, 昭6(1931).
 55. 工藤武城：朝鮮ニ於ケル母國民ノ死産率(會)。【朝鮮醫會誌】6, 大2(1917).
 56. 田結宗誠：多産多死ノ統計的事實。【醫海

時報】1870, 昭5(1930).
 57. 柴山五郎作：世界諸邦國ノ生死統計。【醫海時報】628, 明39(1906).
 58. 高島信淳：帝都ニ於ケル乳兒死亡並ニ出生率ノ統計觀察。【醫海時報】1869, 昭5(1930).
 59. 小山準二：兩棲類ノ壽命(抄)。【動物誌】37,442, 大14(1925).
 60. 水島治夫：人口ノ自然增加率。【民族衛生】2,3, 昭7(1932).
 61. 吉田東伍：日本人口男女ノ比例ニ就テ。【人類誌】6,66, 明24(1891).
 62. 熊谷直三郎：人口理論數式ニ就テ。【社會醫誌】457, 大14(1925).
 63. S. F.：結婚年齡ニ就テ。【國政醫學誌】29, 明22(1889).
 64. 山田謙治：月經調査ノ報告。【金澤醫會誌】1,4,5, 明22-23(1889-90).
 65. 上杉寛二：月經ト月ノ關係。【金澤醫會誌】2,15, 明23(1890).
 66. 楠田謙藏：日本婦人ノ初經年月及ビ月經持續日數並ニ兩者ノ關係ノ調査。1, 2. 【産科誌】3,10; 5,11, 明34-36(1901-3).
 67. 山田謙治：北陸婦人ノ月經及妊娠ニ就テ(會)。【産科誌】4,4, 明35(1902).
 68. —：日本婦人ノ月經及妊娠ニ就テ。【廣西醫報】67, 明35(1902).
 69. 楠田謙藏：日本婦人ノ結婚年齡。【産科誌】5,12, 明36(1903).
 70. —：最も適當ナル結婚年齡ヲ指定シ現時日本婦人ノ早婚ニ過グルコトヲ論ズ。【産科誌】6,1, 明37(1904).
 71. 高田耕安：精神狀態及ビ季節ノ月經初潮ニ及ボス影響ニ就テ。【産科誌】6,7, 明37(1904).
 72. 山崎正董：九州婦人ノ月經ニ就テ。【廣西醫報】87, 明37(1904).
 73. 楠田謙藏：日本婦人ノ最も適當ナル結婚年齡。【産婆誌】53, 明37(1904).
 74. 有馬歳三：初經, 結婚及ビ分娩ノ時季ニ就テ。【産婆誌】49, 明37(1904).
 75. 山崎正董：結婚年齡ト結婚後初産迄ノ歲月及ビ不妊トノ關係並ニ九州婦人結婚年齡ニ就テ。【産科誌】7,10, 明38(1905).
 76. 山崎正董：結婚年齡ト結婚後初産迄ノ歲月及ビ不妊トノ關係並ニ九州婦人結婚年齡ニ就テ。【廣西醫報】93, 明38(1905).
 77. —：九州婦人ノ月經ニ就テ。【産科誌】7, 3, 明38(1905).

78. —：我帝國ニ於ケル日本, 「アイヌ」琉球及ビ支那四種族婦人月經ノ初發, 持續及閉止ニ就キテ。【産科誌】99-103, 明41(1908).
 79. —：我帝國ニ於ケル日本, 「アイヌ」琉球及ビ支那四種族婦人月經ノ初發, 持續及閉止ニ就テ。【廣西醫報】103, 明41(1908).
 80. 池田寧：西鮮婦人(平壤地方)ノ初經ニ就テ(會)。【朝鮮醫會誌】13, 大3(1914).
 81. 岡島寛一：本邦婦人ニ於ケル月經週期ノ統計的觀察。【熊本醫事誌】34, 大11(1922).
 82. 松山直樹：本邦女學生ノ月經ニ關スル統計的觀察。【臨床産婦人科】4, 昭4(1924).
 83. 三田谷啓, 岩岡園子：月經ニ關スル調査(承前)【兒童研究】30,3, 大15(1926). 【女生徒】.
 84. 新谷二郎：紡績女工手月經ノ統計的觀察殊ニ就職ノ月經ニ及ボス影響。【臨床産婦人科】3, 昭3(1928).
 85. 石川重吉：日本婦人ニ於ケル月經初潮ニ關スル統計的考察。【醫海時報】1803, 昭4(1929).
 86. 緒方英俊：本縣婦人ノ月經初潮ニ就テ。【鹿児島醫誌】6,5, 昭4(1929).
 87. 平澤吉吉：初經及ビ結婚年齡並ニ結婚ヨリ第一胎兒ニ至ル期間ニ就テ。【臨床産婦人科】6, 昭6(1931).
 88. 小川順：月經持續日數ト初生兒發育(原)【近畿醫誌】14,1, 昭6(1931). 【初生兒 1024名】.
 89. 中川純一：月經週期ト妊娠期間, 3. 月經週期ト初生兒發育トノ關係。【近畿醫誌】14,4, 昭6(1931).
 90. —：月經週期ニ就テ。【産婆誌】16,2, 昭6(1931).
 91. 辻明俊：本邦女學生ノ月經, 3. 初潮年齢ト體格(身長, 體重, 胸圍)トノ關係。附, 月經ノ自覺的症狀ニ就テ。【臨床産婦人科】7, 昭7(1932).
 92. 松林鏡三：女子身體發育ニ關スル研究 1. 月經初潮ト身體發育。【民族衛生】2,1, 昭7(1932). 【788名ヲ4年間, 初經年齢, 初經ト季節, 初經以後ノ月經經過, 初經當時及ビ以後ノ身體發育等】.
 93. 小柴次郎, 川那邊喜美子, 倉石英, 山村あさ：本邦女學生ノ月經ニ關スル統計補遺(原著英文)。【近畿醫誌】16,2 (歐文號); 16,3, 昭8(1933). 【388名】.
 94. 栗田泰一：婦人ノ結婚ヨリ初回分娩ニ至ル期間並ニ各分娩期ヨリ後續分娩期ニ至ル期

間ノ統計的研究。【近畿醫誌】16,2, 昭8(1933).

5. 研究方法

1. 肉眼的研究法

95. 飯森益太郎：硬化法ニ就テ(會)。【金澤醫會誌】2,10, 明23(1890).
 96. 岩川友太郎：動物解剖手引草(鳥類ノ部)。【動物誌】4,42-44,46, 明25(1892).
 97. 鈴木文太郎：新硬化劑「フォルムアルデヒド」。【東京醫會誌】913, 明28(1895).
 98. ツチダ：解剖ノ門(雜)。【動物誌】8,96,97, 9, 99,101, 明29-30(1896-1897). 【動物解剖ニ關スル技術方法】.
 99. 大澤岳太郎：解剖雜錄(神經検査法)。【東京醫誌】1082, 明32(1899).
 100. 東自助：病理解剖術式。【醫海時報】546, 明37(1904).
 101. 旭憲吉：蠟製模型製作法ニ就テ。【福岡醫大誌】2,1, 明41(1908).
 102. 石川喜直：筋肉附著區印象法ニ就テ【第三回日本醫學會誌】明44(1911).
 103. 池口武夫：腦骨ノ脱脂試驗成績(會)。【醫公論】13, 大1(1912).
 104. 井尻辰之助：簡易ナルグロス氏三角形測定法並ニ大臀筋肉内注射法ニ關スル一二ノ注意。【皮誌】12,1, 明45(1912).
 105. 志柿源次郎：自家ノ考案ニ依ル筋肉透明法及ビ二三ノ標本供覽(會)。【臺灣醫會誌】12, 124, 大2(1913).
 106. 池田孝男：淋巴管表明方法ニ就テ(會)。【東京醫誌】1885, 大3(1914).
 107. —：淋巴管ノ表明方法ニ就テ。【第四回日本醫學會誌】大4(1915). 【人】.
 108. 賀川哲夫：グロス氏三角ヲ標定スベキ予メノ新法。【皮誌】16,2, 大5(1916).
 109. 八木千五百：透視標本製作ノ順序及ビ方法。【齒新報】7,5, 大6(1917). 【日本齒科學會誌】大6(1917).
 110. Mansfield, T. D.: Clay Modelling in the Study of Osteology. 【朝鮮醫會誌】49, 大13(1924).
 111. 西山信光：副鼻腔 Wood ノ合金鑄型製作新法。【大日耳鼻】31,6, 大14(1925). 【人】.
 112. 進士織平：簡便ナル溶蠟電(抄)。【動物誌】37,437, 大14(1925).
 113. Kumagai, Kuranosuke: New Clearing

Method which need no previous Dehydration. [Fol. anat. jap.] 3,2. 大14(1925).

114. 柏木正俊: ジョウレイ氏臓器保色貯藏法 = 就テ. [醫公論] 741. 大15(1926). [人].

115. 生田信保: 腸下垂體別出ノ一新法 = 就テ. [朝鮮醫會誌] 65. 大15(1926). [家免].

116. 堀田慎之: 後頭骨下穿刺竝ニ其ノ應用 = 就テ. [海軍醫誌] 16. 昭2(1927).

117. 森 於菟: 凍凝斷標本製作ニツキテノ一案(會). [東北醫誌] 10. 昭2(1927). [人].

118. 菅沼宣一: 齒牙透明標本作製ニ關スル余ノビリヂン法 = 就テ(會). [日齒醫會誌] 昭3(1928).

119. —: 齒牙透明標本作製ニ關スル余ノビリヂン法 = 就テ. [齒新報] 21,5. 昭3(1928).

120. 水野 操: 蠟模型製作法(綜). [軍醫圖] 150. 昭3(1928).

121. 青木文一郎: 局處解剖用水結切斷機及ビ製品ノ供覽(演). [動物誌] 45,532-3. 昭8(1933).

2. 注入, 屍體保存

122. 飯森益太郎: 組織學的尿管注入料ノ追加(演). [金澤醫會誌] 2,14. 明23(1899).

123. 鈴木文太郎: 漆ヲ注入料トスル法(綜). [金澤醫會誌] 4,35. 明25(1892). [死體血管注入料].

124. 鈴木文太郎: 解剖標本新貯藏法. [東京醫會誌] 7,7. 明26(1893).

125. —: 屍體貯藏 = 就テ. 附, 屍體薰藏法. [東京醫會誌] 7,4,5. 明26(1893).

126. —: 屍體貯藏 = 就テ. 附, 屍體薰藏法(綜). [金澤醫會誌] 5,37,38. 明26(1893).

127. 田口和美: 温用蠟油注入料. [東京醫會誌] 15,16. 明34(1901).

128. 竹崎季董: 肉眼的標本貯藏 = 就テ. [東京醫會誌] 16. 6. 明35(1902).

129. 長谷部篤松: 解剖的標本ノ貯藏液 = 就テ. [研索誌] 120. 大4(1915).

130. 須藤憲三: 血管注入料 = 就テ(會). [十全醫誌] 22,3. 大6(1917).

131. 辰己庄太郎, 黒田 顯: 膜様迷路血管注入標本作上ノ新方法. 附, 標本供覽(會). [大日耳鼻] 28,2. 大11(1922).

132. 結縁主計, 佐藤國男: 神經内色素注入 = 就テ(會). [解剖誌] 2,2. 昭4(1929). [家免].

133. 淺田 一: 死體腐敗菌ノ源泉. [醫海時報] 1810. 昭4(1929).

134. 山本八治: 血管注入法ノ研究(會). [解剖誌] 2,2. 昭4(1929). [人, 動物].

135. 舟岡省吾: 神經内注射法 = 就テ. [醫公論] 867. 昭4(1929). [鼠, 蛙].

136. Funaoka, Seigo: Die Injektion des Nerven. [Arb. III. anat. Inst. Kyoto] Serie A, 1. (1930). [Kaninchen, Ratte, Katze, Frosch].

137. —: Eine Injektionsmethode des Nervensystems. [Arb. III. anat. Inst. Kyoto] Serie A, 1. (1930). [Kaninchen, Ratte, Frosch].

3. 測定法トソノ理論

138. 大澤岳太郎: 頭骨測量方. [東京醫誌] 823. 明27(1894). [人].

139. 平井敏太郎: 小兒體重ノ測定式. [醫新聞] 675. 明37(1904).

140. 丸山 忍: 故今田東氏ノ内耳測定法 = 就テ(會). [東京醫誌] 1404. 明38(1905).

141. 能勢靜太: 腦ノ重要ナル廻轉溝及ビ破裂ヲ最モ簡單ナル式ヲ以テ確定スル法(能勢四分法). [醫新聞] 710. 明39(1906).

142. 西島得三: 予ノ考案セル體格等位序列決定法. [軍醫圖] 32. 明45(1912).

143. 杉江 董: 頭蓋骨測定法 = 就テ(抄). [神經誌] 14,11. 大4(1915).

144. 佐々木秀一: 形及ビ大サ表示法ノ一案. [醫新聞] 922. 大4(1915).

145. 山本勲助: ナーゼント氏身體「テスト」[學校衛生] 1,1. 大10(1921). [方法論].

146. 大串菊太郎: 余ノ體格榮養判定法. [醫公論] 536-539. 大11(1922).

147. 岡本規矩男: 計測數ノ整理及ビ編成ノ大要(綜). [慶應醫學] 2,11; 3,4. 大11(1922); 大12(1923).

148. 所 敏一: 頭骨計測ノ方法 = 就テ(綜). [齒新報] 17,3,4. 大13(1924).

149. 上田常吉: 人類學的計算ニ必要ナル二三ノノモグラフ(會). [解剖誌] 2,2. 昭4(1924).

150. 柴田 信: 齒牙ノ人類學的計測法トシテノ余ノ齒冠結節三角, 齒根三角及ビ齒根粗列 = 就テ. [齒新報] 18,5. 大14(1925).

151. 山本幹雄: 骨盤計ヲ以テセル胸廓ノ測定 = 就テ. [軍醫圖] 159. 大15(1926).

152. 川上理一: 平均價ト百分率トノ計算法. [衛生學] 4,1,3,4. 昭2(1927).

153. 杉上繁輝: 生物測定學 = 就テ(綜). [日新醫學] 18,4. 昭3(1928). [分布論].

154. 岡本規矩男: 體質人類學ノ計測方法.

(綜). [犯罪學] 1,1. 昭3(1928).

155. 武谷喜三次: 表面積律ノ批判. [福野醫大誌] 22,3. 昭4(1929).

156. 奥隅廣行: 余ガナセル齒弓測定法 = 就テ. [日齒口會誌] 36. 昭4(1929).

157. 杉山繁輝: 細胞ノ遊走速度測定法. [十全醫誌] 34,9. 昭4(1929).

158. Uyeda, Tsunekichi: Einige Nomogramme der in der Bio- und Anthropometrie gebräuchlichen Formeln. [Acta med. Keijo] 12,1. 昭4(1929).

159. 松田夏身: 頤孔測定法 = 就テ. [日齒會誌] 23,11. 昭5(1930).

160. 矢崎正方: 余ノ咀嚼運動器. 所謂咬合器ノ使用法竝ニ陶齒排列法. [齒學報] 35,5,6. 昭5(1930).

161. Ogushi, K. und Yoshida, K.: Die Grundformeln bezüglich der wachsenden Körperstatur des Menschen. (Vorl. Mitt.). [Fol. anat. jap.] 8,6. 昭5(1930).

162. 相川英夫: レントゲン線ニヨル骨盤測定法. [産科産婦人科] 5. 昭5(1930).

163. 溝上喜久男, 光永友紀, 北村勝衛: 咬合採得法 = 就テ. [大日齒會誌] 60. 昭6(1931). [顔面形態].

164. 杉山繁輝: 偶然誤差ノ境界 = 就テ(綜). [十全醫誌] 36,10. 昭6(1931).

165. —: 誤差論(生物測定學第二編)(綜). [日新醫學] 20,9. 昭6(1931).

166. 上田常吉: 左右兩側ヲ測定セル場合ニ於ケル標準誤差, 確率誤差等ノ計算法 = 就テ. [解剖誌] 4,5. 昭6(1931).

167. —: 確率積分ノ計算 = 使用スル函數尺度 = 就テ. [朝鮮醫會誌] 21,11. 昭6(1931).

168. 岡嶋敬治: 顯微鏡的幾何學的計測法(會). [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

169. —: 顯微鏡的幾何學的計測法(第二報)(會). [解剖誌] 5,7. 昭7(1932).

170. 小濱基次: 平均差ノ標準誤差(±√E₁²+E₂²)及ビ確率誤差(±√m₁²+m₂²)ノ表. [解剖誌] 4,12. 昭7(1932).

171. 上田常吉: 確率函數 $\bar{y} = \frac{N}{\sqrt{2\pi}\sigma} e^{-\frac{x^2}{2\sigma^2}}$ ノ計算 = 使用スル函數尺度 = 正常分布ノ曲線表示法 = 就テ. [解剖誌] 5,8. 昭7(1932).

172. 里見義一: 余ノ手腕部ニ線影像計測法ト機尺關節ノ異常例 = 就テ. [日整形會誌] 7. 昭7(1932).

173. 杉山繁輝: 面積測定「ブラ=メートル」ニ於ケル Amsler 氏面積計ノ正確度 = 就テ(綜). [十全醫誌] 37,12. 昭7(1932).

174. 上田常吉, 西岡辰藏: 赤血球計算トゴアソソノ法則ト = 就テ(會). [解剖誌] 6,4. 昭8(1933).

175. 宮村直夫: 血球計算ニ於テ生ズル誤差ノ數學的研究. 其 2. 血液ノ載物硝子塗抹標本ニ於ケル白血球分布ノ誤差特ニ區劃ナレタル標本 = 就テノ觀察. [十全醫誌] 38,11. 昭8(1933). [家免].

176. 上田常吉: 正常分布曲線ト其ノ計算法 = 就テ. (其 1, 其 2). [滿鮮ノ醫學] 143-145. 昭8(1933).

177. 宮村直夫: 血球計算ニ於テ生ズル誤差ノ數字的研究. 其 1. 血液ノ載物硝子塗抹標本ニ於ケル白血球分布ノ誤差. 特ニ標本全般ニ就テノ觀察. [十全醫誌] 38,7. 昭8(1933). [家免].

4. 研究用器具
(「ミクロトーム」ヲ含ム)

178. 遠山權吉: 新持鼠子. [顯微鏡] 3. 明28(1895). [解剖用具].

179. 丘淺次郎: 「ミクロトーム」 = 就テ. [動物誌] 11, 126. 明32(1899).

180. —: 「ミクロトーム」使用法. [動物誌] 11,127. 明32(1899).

181. 石川喜直: 自家考案ノ注射器(防滴注射用) = 就テ. [第3回日醫會誌] 明44(1911).

182. 井上康治: 自家考案解卵器 = 就テ. [日微生物誌] 2. 大1(1915).

183. 工藤得安: 洗滌及ビ脫水装置 = 就テ(綜). [北越醫會誌] 34,1. 大8(1919).

184. 吉村真雄, 大橋員惠: 予等ノ考案セル最モ正確ナル電熱調節器 = 就テ. [日微生物誌] 17,12. 大12(1923).

185. Ogushi, Kikutaro: Ein neuer Kraniostat. [Fol. anat. jap.] 4,6. 大15(1926).

186. 杉山繁輝: 新案顯微鏡用電氣加温裝置竝ニ調節器付冷蔵庫 = 就テ. [十全醫誌] 33,9. 昭3(1928).

187. 藤田武夫: 傾斜式描字法 = 就テ(會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928).

188. 土田清忠: 新考案ノ「ロータリー, ミクロトーム」 = 就テ(會). [動物誌] 44,19. 昭7(1932).

5. 測定器

- 189. 田中苗太郎: 義肢測尺法. 【軍醫會】71, 明28(1895).
- 190. 津野慶太郎: 馬體測量器ノ發明其ノ使用法及ビ應用ニ就テ. 【中央獸醫誌】14, 10, 明34(1901).
- 191. 井上達二: 新案頭蓋標計ニ就テ. 【軍醫會】156, 明39(1906).
- 192. 玉置修治: 津田式體格計ノ價值ニ就テ(綜). 【軍醫會】99, 大10(1921).
- 193. 向山孝之: 新案解剖用頭蓋骨固定保持器ニ就テ. 【愛知醫會誌】29, 1, 大11(1922).
- 194. 名倉英二: 自家考案脊柱彎曲測定器及ビ其ノ測定法ニ就テ. 【日外會誌】25, 大14-15(1925-26).
- 195. 服部大作: 余ノ考案セル直視描寫器及ビ其應用(會). 【東北醫誌】10(特), 明2(1927).
- 196. 久保猪之吉: 久保式耳翼描寫器. 【耳鼻】1, 10, 明3(1928).
- 197. 服部大作: 余ノ考案セル直視描寫器及ビ其應用. 【解剖誌】2, 1, 明4(1929). (腹腔器描寫).
- 198. 高山久三郎: 余ノ考案セル下顎測定器ニ就テ(會). 【日齒口會誌】50, 明8(1933).
- 199. —: 余ノ考案セル下顎骨測定器ニ就テ. 【口腔會誌】5, 7, 明8(1933).

6. 顯微鏡トソノ操作 (顯微鏡寫眞ヲ含ム)

- 200. 古代顯微鏡之圖. 【顯微鏡】14, 明30(1900). (巻頭口繪)
- 201. 上阪熊勝: 分極顯微鏡ニ就テ(會). 【醫公論】14, 大1(1912).
- 202. 生沼實六: ツアイス會社主催顯微鏡用法講習會ノ概況(會). 【顯微鏡】107, 明45(1912).
- 203. 上阪熊勝: 顯微鏡對物「レンズ」ニ就テ. 【醫海時報】1071-74, 大4(1915).
- 204. 石黒軍醫: ツアイス製最新式顯微鏡明暗視野裝置及ビ垂直式顯微鏡式寫眞裝置供覽. 【海軍醫誌】35, 大11(1922).
- 205. 尾河順太郎: 「ミクロマニプラトール」(顯微操作器)ノ應用ニ就テ. 【醫中央誌】29, 明4(1929).
- 206. 石澤政男: 顯微鏡使用上必要ナル知識. 【顯微鏡】36, 明4(1929).
- 207. —: 顯微鏡使用上必要ナル知識(綜).

- 【東京顯微鏡會誌】36, 2, 明4(1929).
- 208. —: 顯微鏡の暗視野照明法ニ就テ(綜). 【東京顯微鏡會誌】36, 2, 明4(1929).
- 209. 中島壽: 「ミクルルジー」及ビ其應用ニ依ル研究ノ梗概(綜). 【實驗醫誌】14, 12, 明5(1930).
- 210. —: Micromanipulative Technique. 【實驗醫誌】14, 1, 明5(1930).
- 211. 石澤政男: 顯微鏡ノ解像力ト紫外線顯微鏡(綜). 【東京顯微鏡會誌】37, 2, 明5(1930).
- 212. 渡邊謙吾: 余ノ考案セル鏡筒移動顯微鏡ニ就テ. 【鹿鹿醫學】11, 11, 明6(1931).
- 213. 石神順三: 皮膚科領域ニ於ケル鈴木式萬能顯微印畫法(簡易組織觀察法)ノ應用ニ就テ. 【皮膚紀要】19, 3, 明7(1932).

7. 組織研究法

- 214. 飯森谷太郎: 精蟲検査法ニ就テ(綜). 【金澤醫會誌】3, 19, 明24(1891). (人).
- 215. 東次郎: 組織學實習ノ際一ニノ實驗. 【研考誌】4, 明20(1893). (犬, 猫, 猪, 牛).
- 216. 大澤岳太郎: 軟組織ヲ毀損セズシテ灰分ヲ脱出セシムル法. 【東京醫會誌】7, 24, 明26(1893).
- 217. 高倉卯三郎: 顯微鏡の實驗諸法. 【動物誌】(8=續キテ) 9, 99, 明30(1897).
- 218. 新井春次郎: 顯微鏡の解剖學ノ學習法ニ就テ. 【顯微鏡】21, 22合卷, 明31(1898).
- 219. 大澤岳太郎: 神經ノ變性試驗法. 【東京醫誌】1088, 明32(1899).
- 220. 石森國臣: 組織學検査上ニ電流ノ應用. 【愛知醫專同窓誌】14, 明37(1904). (顯, 脊髓).
- 221. 松原三郎: 腦髓内ノ神經纖維ノ經過ヲ研究スル一新法. 【醫新聞】789, 明42(1909).
- 222. 田村春吉: 組織中ニ於ケル砒素化合物ノ顯微鏡的證明法. 【皮膚誌】15, 1, 大4(1915). (家兔).
- 223. 佐口榮: 「ミトコンドリエン」ノ證明法及ビ其化學的性質. 【十全會誌】22, 6, 大0(1917).
- 224. 小野俊一: 特ニ日本ナドデ必要ナ顯微鏡「テクニク」ノ一(1)「プレパラート」ノ完全ナル脫水法ニ就テ(會). 【動物誌】31, 366, 367, 369, 371, 374, 大8(1919).
- 225. 風間七衛: ビールシヨウスキー氏法ニ於ケル「サボン」應用ニ就テ. 【神經誌】19, 1, 大9(1920). (家兔脊髓).
- 226. 馬淵享三郎: ビールシヨウスキー及ビカ

- ハール氏法ニヨル神經細纖維終末及ビ軸索檢出ノ余ノ變法ニ就テ. 【醫中央誌】21, 2, 大12(1923).
- 227. 平川武三郎: 燈用瓦斯吸入ニ因ル聽器病變ニ關スル實驗的研究. 【南滿醫會誌】11, 3, 大12(1923). (海狸ノ聽器固定法).
- 228. 養内收: 氣附イタ「ミクロテクニク」ニツク(抄). 【動物誌】35, 417, 422, 大12(1923).
- 229. 大橋義郁: 「グリコーゲン」檢出法. 「グリコーゲン」脂肪同時檢出法及「パラフィン」標本速製法. 【日醫界】14, 33, 大13(1924).
- 230. 駒屋銀治: 臟器内ニ於ケル蒼鉛ノ吸收, 分佈及ニ排泄ノ顯微化學的證明法ニ就テ. 【皮膚誌】25, 10, 大14(1925). (二十日鼠).
- 231. 黒須周作: 組織中ニ於ケル金ノ證明法(抄). 【北越醫會誌】42, 6, 明2(1927).
- 232. 川村麟也: 「コレステリン」證明ノ一新法及ニ組織屈折性物質ノ光學的性狀ニ就テ. 【日病理會誌】18, 明3(1928). (人).
- 233. 青山文雄: 余ノ案出セルゴルデー氏網狀裝置ノ檢出法ニ就テ(抄). 【北越醫會誌】43, 6, 明3(1928).
- 234. 養内收: 「ミクロテクニク」ニオケル「クレオソート」ノ利用(抄). 【動物誌】40, 471, 明3(1928).
- 235. 永松勝海: 永松式珪瑯質脫灰標本調製法. 【口腔會誌, 朝鮮醫會誌】2, 2, 10, 明3(1928); 明4(1929).
- 236. 逢澤薫: 尿素ノ組織學的研究. (第一報)所謂尿素ノ組織學的證明法及ビソノ比較考察及ニ余ノ方法ニ就テ. 【十全會誌】34, 4, 明4(1929). (白鼠).
- 237. 青山文雄: ゴルデー氏網狀裝置ノ檢出法ニ就テ. (實驗的研究第一報)(會). 【解剖誌】2, 2, 明4(1929). (温, 冷血動物).
- 238. 武田徳晴: 網狀織内被細胞機能検査法. (Adler & Reimann)ニ對スル疑義. 【博研業績】5, 19, 明5(1930). (家兔ノ血行中ヨリ Congorot ノ消失及ニ消失直後ニ於ケルソノ體內分布等).
- 239. 石澤政男: 紫外線ノ顯微鏡學的應用ニ就テ(會). 【東京醫誌】2678, 明5(1930).
- 240. 神林浩: 病理組織標本製作ノ一新法ニ就テ(抄). 【軍醫會】214, 明6(1931).
- 241. 松本一男: 齒牙珪瑯質脫灰標本製調ノ一新法ニ就テ. 【朝鮮醫學】2, 9, 明6(1931).
- 242. 會根源作: 組織間隙測定ノ一考案. 【解剖誌】5, 1, 明7(1932). (家兔, 脾, 腎, 肝, 心筋, 軟骨).

- 243. 工藤得安: 二三組織學的技術ノ示説(會). 【解剖誌】5, 7, 明7(1932).
- 244. 工藤得安: 「クレアチニン」ノ組織標本上ニケ於ル檢出法. 【東京醫誌】2841, 明8(1933). (モルモット, ラツテ, マウス, 犬, 兎, 猫, 人).

8. 固定

- 245. 家坂清次郎: 「フォルモール」ノ組織硬固法ニ就テ. 【日醫週報】21, 明28(1895).
- 246. —: 「フォルモール」ノ組織硬固法ニ就テ. 【北越醫會報】86, 明28(1895). (組織の技術, 視器).
- 247. 金子治郎: 「フォルマリン」固定ニ就テ(綜). 【十全會誌】11, 明33(1900).
- 248. 木内幹: 自家融解ト固定液トヲ定義ス. 【醫中央誌】3, 13, 大5(1916). (細胞, 破壞酵素).
- 249. 塚口利三郎: 組織固定試驗第一法(會). 【十全會誌】22, 3, 大6(1917).
- 250. 花房秀三: 沃度瓦斯ヲ以テスル血液標本迅速固定法ニ就テ. 【軍醫會】79, 大7(1918).
- 251. 田中文男, 吉田千束: 聽器生體固定ト神經染色(會). 【大日耳鼻】26, 3, 大9(1920). (海狸).
- 252. 田所喜久馬, 渡邊淡水: 聽器生體固定法ノ實驗的研究(會). 【大日耳鼻】26, 3, 大9(1920). (海狸).
- 253. 中道吉亮: 聽器生體固定知見(會). 【大日耳鼻】26, 3, 大9(1920). (兎, モルモット).
- 254. 舟岡省五, 望月周三郎: 生物體組織研究法ノ批判的研究. 固定. (第一報)固定液ノ組織ニ及ボス理學的影響. 【京都醫誌】18, 7, 大10(1921). (金線蛙, 白鼠, 家兔).
- 255. 下平軍平: 迷路生體固定法ノ研究. 【東北醫誌】5, 3, 大10(1921). (モルモット, 家兔).
- 256. 養内收: 染色體ノ固定ニツキテ(會). 【動物誌】38, 447, 大15(1926).
- 257. Sannomiya, Nobuhiko: Sulfosalizylsäure als Fixierungsmittel. 【Fol. anat. jap.】4, 5, 大15(1926). (Kaninchen).
- 258. 下條久馬一: 動植物其他一般標本固定ニ關スル一考案ニ就テ(抄). 【動物誌】39, 469, 470, 明2(1927).
- 259. 豐田實: 固定組織ノ電氣的水洗ニ就テ. 【日病理會誌】17, 明2(1927). (神經染色法).
- 260. 安澄權八郎: 固定液ニ就テ(第一報)(會). 【解剖誌】2, 2, 明4(1929). (山羊血球).
- 261. —: 固定液ニ就テ(第二報)(會). 【阪

- 醫會誌 28,12. 昭4(1929).
- 262. —: 固定液=就テ(第一報)(會).【阪醫會誌 28,3. 昭4(1929).
- 263. —: 固定液=就テ(第一報).【解剖誌 2,3. 昭4(1929).
- 264. —: 固定液=就テ(第三報)固定液ノ水素「イオン」濃度=就テ(會).【阪醫會誌 29,3. 昭5(1930).
- 265. —: 固定液=就テ(第三報).【解剖誌 3,4. 昭5(1930).【PIH】.
- 266. 芳賀武雄: 組織「グリコゲン」ノ固定=就テ.【千葉醫會誌 8,7. 昭5(1930).【人, 家兔】.
- 267. Yasuzumi, G.: Über das Fixierungsmittel. 2. Mitt. Diffusionsbeobachtung der Fixierungsmittel in Gelen nach Kohlrusch'scher Widerstandsbeobachtungsmethode.【Fol. anat. jap.】 8, 2. 昭5(1930).
- 268. 安澄權八郎, 外村三義: 固定組織ノ等電位點=就テ.【阪醫會誌 31,11. 昭7(1932).【家兔血球】.
- 269. 外村三義: 組織固定=關スル實驗的並=理論的研究.【阪醫會誌 31,7. 昭7(1932).【蛙血球】.
- 270. 柴田義一: 種々ナル固定液ノ固定作用ノ比較研究(特=神經細胞ノニッスル氏小體=對スル固定液ノ水素「イオン」濃度ヲ考慮シテ續報).【解剖誌 5,5. 昭7(1932).【家兔】.
- 271. 米山高實: 組織内糖原質研索=必要ナル固定液及ビ包埋法=就テ. 附. 余ノ創案セル固定液及ビ包埋法.【解剖誌 5,3. 昭7(1932).
- 272. 安澄權八郎: 固定組織ノ等電位點=就テ(會).【解剖誌 5,7. 昭7(1932).【家兔】.
- 273. 外村三義: 固定液ノ擴散=伴フ原形質ノ變化=就テ.【阪醫會誌 32,1. 昭8(1933).【マウス】.
- 274. 深井實: 「フォルマリン」ノ組織固定作用=關スル研究(第一報).【解剖誌 6,1. 昭8(1933).【家兔, 牛ノ腦】.
- 275. 宮本一男, 岡本喜三, 原田基男: 血球固定=關スル研究(第一報).【阪醫會誌 32,3. 昭8(1933).【青蛙】.
- 276. 安澄權八郎: 固定組織ノ等電位點=就テ(會).【解剖誌 6,4. 昭8(1933).【家兔】.

9. 固定, 染色

- 277. 小野俊一: 細胞ノ「ミトコンドリア」的固定染色法=就テ.【動物誌 34,401. 大11(1922).
- 278. 尾藤大, 上阪熊勝: 二三固定法及ビ染

- 色法ノ比較=就テ(會).【朝鮮醫會誌 49. 大13(1924).
- 279. Kosaka, K. und Bito, F.: Über die vergleichung einiger Fixierungs- und Färbungsmethoden.【Fol. anat. jap.】 2,4. 大13(1924).【Hund】.
- 280. 大橋義郁: 髓鞘檢出固定染色上ノ注意(抄).【北越醫會誌 42,4. 昭2(1927).
- 281. —: 「ミトコンドリア」固定染色上ノ注意(抄).【北越醫會誌 42,3. 昭2(1927).
- 282. —: 「ヘマトキシリン」「エオジン」固定染色上ノ注意(抄).【北越醫會誌 42,3. 昭2(1927).
- 283. —: 固定ト染色. 附. 組織標本供覽.【日病理會誌 17. 昭2(1927).【鳥類, 哺乳類, 胎兒, 冷血類等】.
- 284. —: 固定ト染色(「グリヤ」組織=就テ)(抄).【北越醫會誌 47,13. 昭7(1932).
- 285. 江里口春志: 組織染色=關スル物理化學的觀察, 特=水素「イオン」濃度並=固定液ノ影響ヲ考慮シテ.【熊本醫會誌 9,6. 昭8(1933).
- 286. 大橋義郁: 固定ト染色(抄).【北越醫會誌 48, 14. 昭8(1933).

10. 染色ト色素

- 287. 飯森益太郎: 精蟲染色法.【金澤醫會誌 2,15; 3,17. 明23-24(1890-91).
- 288. 大澤岳太郎: 腐敗セザル「ヘマトキシリン」ノ水溶液(會).【東京醫會誌 7,22. 明26(1893).
- 289. 鈴木文太郎: バル氏染色法=就テ.【東京醫會誌 7,13,14. 明26(1893).
- 290. —: バル氏染色法=就テ(續)(綜).【金澤醫會誌 5,41. 明26(1893).
- 291. 藤田孝貞: 色素=就テ.【廣西醫報 29. 明32(1899).【Carminsäure, 鞣土化合物, Methylblau, Methylenblau】.
- 292. 大澤岳太郎: 神經組織染色法.【東京醫會誌 1083,1084,1086. 明32(1899).
- 293. 藤田孝貞: 色素=就テ(續).【廣西醫報 31. 明32(1899).【Viktoriablau 13, Methylviolett 13, Ogoletin-Yoksanin, Aethylviolett 13. (13), Pararsaminin s.】.
- 294. 榎保三郎: ルイートレン及ビゾルゴ氏神經細胞染色法ノ紹介及ビ其ノ二ノ改良=就テ.【東京醫會誌 14,24. 明33(1900).
- 295. 福原義柄: 染色及ビ着色=就キ(會).【東京醫會誌 1205. 明34(1901).

- 296. 吳秀三: 神經細胞内ノ原纖維ノ「デモンストラチオン」. ベーデー氏染色法(抄).【神經誌 1,2. 明35. (1902).
- 297. 宇都野登: 一般組織の検査=用ユル二三ノ色素=就テ.【千葉醫會誌 25. 明36(1903).
- 298. 大串菊太郎: エールリ. ヒ氏「メチレンブラウ」生體染色法並ビ=其成績.【第二回聯合醫會誌 明40(1907).【蛙, 蛙, 鼠, 兔】.
- 299. 氏原佐藏: 神經細胞核仁小體=對スル余ガ新染色法併=其ノ所見.【醫新聞 789. 明42(1909).
- 300. 加藤尚義: 神經細纖維=就テ, 並=其ノ新染色法.【醫新聞 789. 明42(1909).【猪】.
- 301. 高木繁: 二三ノ切片染色法=就テ.【福岡醫大誌 4,2. 明43-44(1910-11).
- 302. 岡島敬治: 脂肪染色(綜).【京都醫誌 9, 1;【十全會誌 17,6,7. 大1(1912).
- 303. 佐藤四郎: 骨細胞ノ染色法=就テ(會).【東京醫誌 1886. 大3(1914).
- 304. 田村春吉: 肝臟細胞中ノ膽色素證明法. 神經纖維ノ一新染色法及ビヒス氏心筋纖維中ノ一種物質ノ染色法.【皮原誌 15,5. 大4(1915).【二十日鼠, 南京鼠, 兔, 羊】.
- 305. —: 神經軸索及ビ神經鞘ノ新染色法並=アルトマン氏細胞顆粒染色法ノ一變法.【皮原誌 15,2. 大4(1915).
- 306. 内村盛太郎: 神經膠質及ビ膽毛細管ノ新染色法.【日病理會誌 5. 大5(1916).
- 307. 清野謙次: 生體染色用色素液ノ調製及注射=關スル注意事項追加.【日新醫學 6,9. 大6(1917).【リチオンカルミン】.
- 308. 岡嶋敬治: 赤血球ノ特異性染色法.【京都府醫事誌 77. 大6(1917).
- 309. 工藤得安: 日本生植物ノ色料ノ組織學的試用.【北越醫會誌 33,5. 大7(1918).
- 310. 下田光造: 中樞神經組織ノ染色法=就テ(綜).【神經誌 18,10-12. 大8(1919).
- 311. 赤座壽惠吉: ワイゲルト氏鐵「ヘマトキシリン」=ヨル彈力纖維染色=就テ, 並=同染料液ノ性状及ビ染色法.【京都府醫事誌 88. 大9(1920).
- 312. Watanabe, Susumu: Die Färbung der elastischen Fasern mit einer stark verdünnten Orcein-Lösung.【Mitt. med. Akad. Keijo】 4, 1. 大10(1921).
- 313. 澤口清治: ギームザ氏液組織染色法=就テ.【日醫界 11,6. 大10(1921).
- 314. 上條秀介: 極メテ簡單ナル神經髓鞘染色

- ノ一新法=就テ.【神經誌 20,8. 大10(1921).
- 315. 森茂樹: 組織化學的脂肪染色ノ理論=關スル研究. 附. 既知脂肪染色色素ノ染色反應=就テ.【京都醫誌 19,12. 大11(1922).
- 316. —: 脂肪染色=關スル研究. 生體及ビ超生體脂肪染色其他.【日病理會誌 3. 大12(1923).【家兔, マウス, 蛙】.
- 317. 大庭國記, 中井龍彦: 二三ノ核單獨染色法=就テ.【慶應醫學 2,5. 大11(1922).
- 318. 名取博三: 腐敗ノ進行ト組織ノ染色性及ビ疾病證明可能=就テ.【國家醫誌 447. 大13(1924).【家兔, 鼠, 人】.
- 319. 大橋義郁: 余ノ考案セル液=ヨル「グリコゲン」脂肪同時固定染色ノ標本供覽.【北越醫會誌 39,6. 大13(1924).
- 320. 山口左伸: 「インデゴカルミン」ノ生體染色殊=其排泄=就テ.【醫新聞 1139. 大13(1924).【マウス, ラツチ, 家兔, 犬, 馬】.
- 321. Bito, Futosi: Über eine neue Methode der Nisslfärbung.【Fol. anat. jap.】 3,1. 大14(1925).【Kaninchen】.
- 322. Matsuura, Skehiko: Über die Färbung mit Kongorot. Eine neue Färbungsmethode der elastischen Elemente, welche auch andere Fasern und Zellen in verschiedenen Nuancen abhebt.【Fol. anat. jap.】 3,3. 大14(1925).
- 323. 渡邊 謙: 神經軸索ノ染色一新法.【千葉醫會誌 3,3; 5,6. 大14(1925); 昭2(1927).
- 324. 上阪熊勝: 染色法=就テ.【醫公論 658. 大14(1925).
- 325. 上阪熊勝: 染色法=就テ(綜).【日新醫學 15,8. 大15(1926).
- 326. Okajima, Keiji: Über die Färbemethode mit Alizarinmolybdänlack.【Fol. anat. jap.】 4,5. 大15(1926).【Erythrocyten, Blutkristalle, Hornsubstanz u. a.】.
- 327. 横地國一, 前川照王: 神經細胞内ニツスル氏小體ノ一簡便染色法.【愛知醫會誌 33, 5. 大15(1926).
- 328. 淺井鼎二: 日本茶ヲ應用セル格子狀纖維染色法=就テ(格子狀纖維染色ノ一新法=就テ).【京都醫誌 23,7. 大15(1926).
- 329. 尾藤大: Mallory 氏染色法=於ケル結構及ビ滑平筋纖維ノ染色機轉=就テ.【岡山醫會誌 39,444. 昭2(1927).【家兔】.
- 330. 牧野内良: 軟部組織ヲ透明トセル骨髄染色=就テ.【抄】.【北越醫會誌 42,1. 昭2(1927).
- 331. 今川與言: 「テール」色素ノ染色=就テ.

【北越醫會誌】42,2. 昭2(1927). [蛙, 白鼠, モルモット, 家兎, 猫, 人].

332. 田村忠雄: 神經膠質組織ノ一染色法ニ就テ. 【神經誌】27,5. 昭2(1927). [正常及ビ病的人腦, 牛, 豚, 犬, 猫, 山羊, 家兎].

333. Sato, Kunio: On the Staining Capacity of the Nucleolus and its Physiological Significance. 【Fol. anat. jap.】6,6. 昭3(1928). [Egg cells of the Swan-mussel, Cristaria plicata].

334. 友澤昇: 直電流ガ有髓神經纖維ノ神經角質及ビ Mallory 氏染色ニ及ボス影響ニ就テ(第一報). 【岡山醫會誌】40,461. 昭3(1928). [家兎].

335. 佐藤弘, 中島蓬太郎: 赤血球鹽基嗜好顆粒染色法知見補遺. 【兒科誌】341. 昭3(1928). [家兎].

336. 弓倉繁家: 角化齒齦上皮及ビ所謂第二珐瑯上皮 Gottlieb 氏齒齦小皮ニ對スル一新染色法ニ就テ. 【日齒會】93. 昭3(1928).

337. Sato, Kunio: On the Influence of Electric Polarisation upon the Stainability of Nerve. 【Fol. anat. jap.】7,1,2. 昭4(1929). [Frog].

338. Sato, Kunio: On the Real Nature of Vital Staining. 【Fol. anat. jap.】8,1. 昭4(1929). [Rabbit].

339. 三上紀之: 「ヘマトキシリン」成熟ノ物理化學的意義. 【解剖誌】1,4. 昭4(1929).

340. 小延俊雄: 細胞ノ一新染色法. 1. 染色方法ニ就テ. 2. 細胞ノ微細構造(生理的)ニ就テ, 及ビアルトマン氏染色所見トノ比較. 【日微生物誌】23. 昭4(1929).

341. 富田朋介: 染色ニ就テ. 【關西醫事】21. 昭4(1929).

342. 鷺海喬: Nissl 染色ノ一新法ニ就テ. 【岡山醫會誌】41,478. 昭4(1929).

343. 赤沼順四郎: 末梢神經染色方法(第二報). 【日病理會誌】19. 昭4(1929).

344. 堀一雄: マロリー氏染色變法ニ於ケル核及ビ原形質ノ染色機轉ニ就テ(抄). 【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

345. 關正次: 「ヘマトキシリン」「カルミン」「オルチエイン」ノ染色機轉ニ就テ. 【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

346. 今裕, 武田勝男: 組織ノ酸性色素嗜好性ニ關スル研究. 【東京醫會誌】44,9. 昭5(1930).

347. 野手雅信: 色素ノ擴散能ニ就テ. 【十全會

誌】35,12. 昭5(1930). [各種酸性及ビ鹽基性アミン色素].

348. 小山義作: 血液塗抹標本ノ染色法ニ就テ. 【關西醫事】2,4. 昭5(1930). [人].

349. 前田圭三: 「ズダン」染色ノ一新法ニ就テ. 【關西醫事】2,13. 昭5(1930).

350. 向野範次: Korff 氏纖維ノ簡易ナル染色法. 【口腔會誌】3,1. 昭5(1930).

351. Sato, Kunio: Further Study on the Real Nature of Vital Staining. 【Fol. anat. jap.】8,6. 昭5(1930). [Rabbit].

352. 佐藤國男: 生體染色ノ本態ニ就テ(抄). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930). [家兎].

353. 増田芳次: 格子狀纖維染色ニ就テ. 【日病理會誌】21. 昭6(1931).

354. 可兒一郎: 齒牙切片ノ神經纖維染色ニ就テ. 【口腔會誌】5,4. 昭6(1931).

355. Seki, Masaji: Zur physikalischen Chemie der histologischen Färbung. I. Vorl. Mitt. Elektrische Ladung von Farbstoffen und ihre wichtige Rolle bei der Färbung des Siliciumdioxids (SiO₂). 【Fol. anat. jap.】10,6. 昭7(1932).

356. —: Zur physikalischen Chemie der histologischen Färbung. II. Substantive (direkte) Färbung der histologischen fixierten Präparate. 【Fol. anat. jap.】10,6. 昭7(1932).

357. 外村三義: 染色ノ實驗的觀察(特ニ「メタクロマジー」ヲ顧慮シテ(第一報)). 【阪醫會誌】31,10. 昭7(1932).

358. 上村忠雄: 「グリア」染色法ノ比較研究. 【北越醫會誌】47,6. 昭7(1932). [動物及ビ人].

359. 河西澄: 血液塗抹標本ノギムザ液迅速染色法ノ批判及ビ私見. 【臺灣醫會誌】31,322. 昭7(1932).

360. 黒津敏行, 片山勇: ニッスル標本ノ褪色防止法(抄). 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).

361. 田島あや子: 染色ノ實驗的觀察(2). 色素ノ吸着量ニ擴張ニ就テ. 【阪醫會誌】32,7. 昭8(1933). [鹽基性及ビ酸性色素, ゲンチアナ紫, エオジン等].

362. 川村麟也, 矢崎俊明: 脂肪ノ一新染色法ニ就テ, 並ニ「デモンストラチオン」(抄). 【北越醫會誌】48,6. 昭8(1933).

363. 三宅川康平: ホルテガ氏細胞ノ研究. 第一編. 染色法ニ關スル研究. 【京府醫大誌】9,2. 昭8(1933). [中樞神經].

364. 船橋忠一: 血液竝ビニ原蟲染色法. 理想

的「アズール」II「エオジン」染色液トシテノ邦製液ノ完成及ビギムザ液トノ比較. 【日醫新報】567. 昭8(1933).

365. 吉田定男: 「ミトコンドリア」ノ新染色法ニ就テ(抄). 【九大醫報】7,2. 昭8(1933).

366. —: 「ミトコンドリア」ノ改良染色法ニ就テ. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).

367. 大橋義郁: 結締組織染色ノ説明及ビ標本供覽(抄). 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).

368. Seki, Masaji: Zur physikalischen Chemie der histologischen Färbung. III. Über die Carminfärbung. 【Fol. anat. jap.】11,1. 昭8(1933).

369. —: Zur physikalischen Chemie der histologischen Färbung. IV. Über die Hämateinfärbung. 【Fol. anat. jap.】11,1. 昭8(1933).

370. —: Zur physikalischen Chemie der histologischen Färbung. V. Anteilnahme der Dispersität der Farben und der Dichte der zu färbenden Strukturen an histologischen Färbungsvorgängen, besonders an der Elastikafärbung. 【Fol. anat. jap.】11,5. 昭8(1933). [Rind].

371. —: Zur physikalischen Chemie der histologischen Färbung. VI. Untersuchung des Orcein. 【Fol. anat. jap.】11,5. 昭8(1933). [Nackenband d. Rindes; Trachea u. Fingerhaut d. Menschen].

11. 銀 染 法

372. 金子治郎: カハール氏法ニ就テ二ノ注意. 【第3回日醫會誌】明44(1911). [犬].

373. 明城彌三吉: ビールシヨウスキー銀沈降法ノ分解及ビ之ニ由テ得タル改良法. 【東北醫誌】1,2. 大5(1916). [モルモット脊髓].

374. 今裕: 銀法ニヨル細胞内顆粒ノ検査ニ就テ. 【日病理會誌】8. 大8(1919). [人, 猫, 犬, 馬, 牛, 豚, 家兎, モルモット等].

375. 今井金三郎: 日高看護手ノ考案セル鞭毛錠ニ「スピロヘータ」銀染色ノ一新法ニ就テ. 【海軍醫誌】27. 大9(1920).

376. 葛谷貞之, 鷺見謙一, 八名培司: 銀ニ關スル組織學的注意事項. 【東京醫誌】234. 大12(1923).

377. 赤座壽惠吉: ビールシヨウスキー氏結締組織維銀法ニ就テ. 【京府醫大誌】99. 大13(1924).

378. 聖田實: 銀浸潤法ニ依ル神經纖維ノ鑑別的染色ニ就テ(會). 【日齒會誌】昭3(1928).

379. 藤田武夫: 銀令孕法ノ基本問題(其一). 神經細胞ノ切片維銀法ニ就テ. 【解剖誌】1,2. 昭3(1928).

380. Okada, Shinichi: Über eine neue Silberimprägnationsmethode zur Darstellung der Neurofibrillen. 【Fol. anat. jap.】7,4. 昭4(1929).

381. 富田朋介, 藤田武夫: 銀令孕法ノ物理的測定(コールラウシユ氏液體抵抗測定法ニヨル)(會). 【阪醫會誌】28,1. 昭4(1929).

382. 小川俊毅: 分離標本ニ於ケルビールシヨウスキー氏結締組織維銀法ノ應用. 【京府醫大誌】4,3. 昭5(1930). [白鼠].

383. 三上紀之: 余ノ聽器神經終末ニ新銀法錠ニ海狸聽器神經終末ニ就テ(抄). 【耳鼻】3,6. 昭5(1930).

384. 藤田武夫: 組織ノ銀染色ト辨色法ニ就テ. 【解剖誌】3,3. 昭5(1930). [神經組織].

385. 工藤得安: 亞鉛化合物ヲ用ヒテ銀沈降ノ形成法(「ゴルヂ氏内網」ノ二ノ檢出法)(抄). 【北越醫會誌】47,13. 昭7(1932).

386. 半田國胤: 「グリア」維銀ノ新變法. 【北越醫會誌】47,13. 昭7(1932).

387. 出射一郎: 溫度ガ Ramón y Cajal 氏「ウラン」銀法ノ成功上ニ及ボス影響ニ就テ. 【岡山醫會誌】45,6. 昭8(1933). [家兎].

388. 藤田武夫, 柴田義一: 蛙血球維銀法ニ就テ. 【解剖誌】5,11. 昭8(1933).

12. 包埋, 切片, 封鎖

389. 大槻滿次郎: 「ツエロイデイン」包埋組織ノ簡便ナル連續切片法ニ就テ. 【東京醫會誌】21,4. 明40(1907).

390. 村山政之助: 「プレバラート」簡易薄切法. 【日外會誌】8(抄録ノ部). 明40-41(1907-08).

391. 兒島乙和, 藤原教悅郎: 毛髮ノ橫斷標本作成法ニ就テ. 【國家醫誌】308. 明45(1912).

392. 福士政一: 組織ノ「ゲラチン」包埋法. 【十全會誌】20,11. 大4(1915).

393. 藤原均喜: 木蠟組織包埋法(「バラフイーン」ノ代用品). 【醫中央誌】14,4. 大5(1916).

394. 大串菊太郎: 「バラフイーン」切片製作上適當ナル室温. 「バラフイーン」溶融點及ビ切片ノ厚サトノ關係. 【東京醫會誌】30,9. 大5(1916).

395. 木村省三: 自家考案ニ應ル「チエロイデイン」包埋連續切片製作便利箱ニ就テ. 【廣西醫報】187. 大8(1919).

- 396. 大橋義郁: 「パラフィン」標本速成法(抄). 【北越醫誌】39,5. 大13(1924).
- 397. 松南千壽, 磯 義雄: 各種「ツエーデル」油ノ旋光度計ニ其ノ代用品ニ就テ. 【軍醫圖】167. 昭2(1927).
- 398. 舟岡省五: 組織切片ノ灰化法及ビ其ノ應用(抄). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 399. Yoshida, Yoshiyuki: Kolloidharz Patent. Ein neues Einbettungsmittel. 【Fol. anat. jap.】9, 1. 昭5(1930).

13. 組織培養法

- 400. 奏佐八郎: カレー氏ノ組織培養法ニ就テ. 【海軍醫誌】8. 大3(1914).
- 401. 木村 康: 組織體外培養(術式及ビ現況)(綜). 【日新醫學】18,2. 昭4(1929).
- 402. 佐藤友定: 余ノ考案ニ成レル組織培養用容器ニ就テ. 【日微生物誌】23. 昭4(1929).
- 403. 喜多亮牛: 1. 腦質培養基ニ就テ. 2. 牛腦質培養基ニ就テ. 【日微生物誌】24. 昭5(1930). [牛].

14. 血液, 血球検査

- 404. 境野 寛: 兎及ビ豚鼠ノ心穿刺採血法. 【第3回日醫會誌】明44(1911).
- 405. 橋本 喬: ゴームザ氏液代用品ノ比較研究. 【皮膚誌】18,3. 大7(1918).
- 406. 高山正雄: 血液ノ證明法ニ就テ. 【醫海時報】124. 大7(1918).
- 407. 早野 實: 臨床的検査ニ就キ注意ス可キ事項(綜). 【東京顯微鏡會誌】26,5,6. 大8(1919). [血液採取法, 血液標本製作法].
- 408. 小原三吉: 分劃試験管ヲ以テ行フ血球計算法ニ就テ(馬ノ血球數). 【陸軍醫報】120. 大8(1919).
- 409. 本間英史: 血液研究材料トシテノ採血法竝ニ採血時ノ注意及ビ觀察(綜). 【日新醫學】12,4. 大11(1922).
- 410. 越智眞逸: 主要ナル生物學的研究方法ニ就テ. 共一(上)(下). 【日新醫學】14,6,7. 大14(1925). [血壓測定法, 臟器ノ容積變化描寫法, 摘出器官ノ人工榮養法, 精蟲ノ觀察等].
- 411. 佐藤 彰: 計算器内「エオジン」嗜好白血球鑑別ノ二方法. 【東北醫誌】9,2. 大15(1926). [人血液].
- 412. 徳江交次: 計算器内白血球鑑別法(佐藤庄司法)ニ於ケル「エオジン」嗜好細胞ノ鑑別ニ就テ. 【東北醫誌】9,2. 大15(1926). [人血液].

- 413. —: 血球計算器内「ベルオキシダーゼ」反應ニヨル白血球鑑別法(佐藤庄司法)ノ實際的價值. 【東北醫誌】9,2. 大15(1926). [人血液].
- 414. 櫻田 彬: 「ベルオキシダーゼ」反應(佐藤關谷氏法)ヲ利用スル「エオジン」嗜好細胞ノ絕對的鑑別法兼計算器内計算法. 【東北醫誌】9,2. 大15(1926). [家兔].
- 415. 庄司謙二: 簡單ナル試薬ヲ以テスル「オキシダーゼ」反應. 【東北醫誌】9,2. 大15(1926). [人及ビ家兔血液].
- 416. 越智眞逸: 主要ナル生物學的研究方法ニ就キテ(其二)(綜). 【日新醫學】16,5. 昭2(1927). [家兔麻酔法ノ注意; 赤血球, 白血球, 血小板ノ同時計算法等].
- 417. 森喜久男: 白血球食能ノ簡便ナル検査法ニ就テ. 【十全會誌】33,7. 昭3(1928). [家兔].
- 418. 和田 保: 「ベルオキシダーゼ」反應ヲ利用スル馬ノ白血球計算法ノ簡便法. 【陸軍醫報】246. 昭4(1929).
- 419. 野手雅信: 赤血球網織狀物質ノ檢出法ニ就テ. 【十全會誌】35,9. 昭5(1930). [家兔].
- 420. 吉田寛一: 被檢者ノ血液ヲ要セザル血液型検査便法. 【長崎法醫報】2,1. 昭5(1930).
- 421. 野坂勝治: ゴームザ液ニヨル血液標本速染色ノ一變法. 【軍醫圖】209. 昭5(1930).
- 422. 壁島爲造: 明確ニシテ簡易ナル一新血型檢定法ニ就テ. 【醫海時報】1915. 昭6(1931).

15. 描寫, 寫眞

- 423. 飯森益太郎: 顯微鏡模寫術ノ簡法. 【金澤醫會誌】2,7,8. 明25(1896).
- 424. 石川喜直: 自製ノ人體内臟寫眞型ニ就テ. 【第3回日醫會誌】. 明44(1911).
- 425. 赤座壽惠吉: 顯微鏡寫眞ニ就テ. 【京都府醫專誌】65. 大8(1914).
- 426. 田村眞男, 飯野 豊: フルムキン(Frumkin)氏尿道レントゲン寫眞法ニ就テ. 【皮膚紀要】9,2. 昭2(1927). [人].
- 427. 末松甲生子: 喉頭寫眞法(寫眞供覽)(演). 【耳鼻】1,3. 昭3(1928).
- 428. 八木日出雄: 喇叭管透影法ニ就テ. 【近畿婦誌】11,5. 昭3(1928). [人].
- 429. 宮城五山: 蝴蝶標ノ診斷特ニ其透影診斷法ニツキテ. 【産兒島醫誌】5,6. 昭3(1928).
- 430. 藤田武夫: 傾斜式描寫法ニ就テ. 【解剖誌】1,3. 昭3(1928). [「スタボン」大鏡].

- 431. 齋藤大雅: 脊柱撮影ノ要點. 【レントゲン會誌】7,4. 昭4(1929). [人].
- 432. 岡 三友: 脾臟ノ新透影法(「リエノグラフィ」)ニ就テ. 【レントゲン會誌】6,4. 昭4(1929). [家兔, 犬].
- 433. 龜田彪輔: グラハム, コール氏法膽囊透影法追試. 【レントゲン會誌】7,1. 昭4(1929). [人].
- 434. 舟岡省吾: 末梢神經 X 線透影法ニ就テ. 【醫公論】874. 昭4(1929). [家兔].
- 435. 浦谷重治: 氣管枝透影法. 【結核】7,11. 昭4(1929). [人].
- 436. 村田經喜: 撮シ難キ部位ノ撮影法. 【レントゲン會誌】8,2. 昭5(1930).
- 437. 森 衛: 脾臟ノ顯影法(所謂「リエノグラフィ」)ニ就テ. 【レントゲン會誌】8,2. 昭5(1930). [家兔].
- 438. 野島規矩男, 片平年秋, 菅 國孔: 子宮輸卵管透影術ニ就テ. 【近畿婦誌】15,6. 昭7(1932).
- 439. 齋藤 眞: 人體ニ於ケル淋巴管撮影法 Lymphographie (Lymphovasculographie et Lymphadenographie) (演). 【愛知醫會誌】40, 7. 昭8(1933).
- 440. —: 神經撮影法(Neurographie)ニ就テ(演). 【愛知醫會誌】40,7. 昭8(1933).
- 441. 小山義作: 顯微鏡寫眞ノ概要. 【日醫週報】1938. 昭8(1933).

16. 復 構 術

- 442. 井上通夫: 胎兒蠟製模型製作法ニ就テ. 附. 製作器具ノ供覽. 【醫新聞】849. 明45(1912).
- 443. 進藤篤一: 象形復成術ニ要スル基準線製作ノ新考案. 【福岡醫大誌】10,3. 大5-6(1916-17).
- 444. —: 象形復成術ニ要スル基準線製作ノ新考案(演). 【十全會誌】22,3. 大9(1917).
- 445. 河原治作: 象形復成術ノ基準面ノ新作製法(抄). 【福岡醫大誌】15,7. 大11(1922).
- 446. 藤田武夫, 宇津猷彦: 乾板復像法 Photoplattekonstruktion. (會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
- 447. 池田吉人: 「レコンストラクチオン」標本撮影上ノ一新考案(會). 【解剖誌】4,1. 昭6(1931).
- 448. 鈴木重武, 池田修三: 復構術用蠟紙板製作裝置ニ關スル一改良考案. 【解剖誌】5,6. 昭7(1932).

- 449. —: 「レコンストラクチオン」用蠟紙板製作裝置ノ一改良考案(會). 【解剖誌】5, 7. 昭7(1932).
- 450. 岡嶋敬治: 復構術(綜). 【岩波講座「生物學」】昭8(1933).
- 451. 岡田正夫: 新シイ規準面塗料(會). 【解剖誌】6,1. 昭8(1933).

6. 細 胞

1. 細胞一般

- 452. 松岡道治: 細胞ノ特異性. 【醫海時報】759. 明12(1900).
- 453. Osawa, I.: Cytological and experimental Studies in Citrus. 【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】4,2. 大1(1912). [Citrus].
- 454. 林 郁彦: 巨態細胞ノ實驗的研究. 【京都醫誌】12,4. 大4(1915). [家兔, 白鼠, 南京鼠, 鳩].
- 455. 上阪熊勝, 關 正次: 「ガルバナクキジス」ニ就テ. 【岡山醫會誌】30,345. 大7(1916). [眞毛蟲].
- 456. 井岡忠雄: 再ビ Minot 氏巨態細胞ニ就テ(會). 【近畿婦誌】2,4. 大6(1917). [家兔].
- 457. 川村麟也: 人體及ビ動物體ニ於ケル脂肪問題ニ就テ形態學的竝ニ顯微化學的研究成績(綜). 【日新醫學】7,1. 大6(1917). [人體及ビ動物ニ於ケル「コレステリンステアトール」, 「リポイドステアトール」, 「グリセリンステアトール」].
- 458. 上阪熊勝, 關 正次: 「ガルバナクキジス」及ビ「カタホレーゼ」ノ追加研究(豫報). 【岡山醫會誌】31,357. 大8(1917). [眞, 家兔, 海狗, 白鼠, 二十日鼠, 犬及ビ人間ノ白血球].
- 459. —: 「ガルバナクキジス」ノ追加研究. 【岡山醫會誌】31,349. 大8(1917). [眞毛蟲].
- 460. Marui, K.: Further Study on the micro-histochemical Nature of the Nissl Body and the "Nucleoproteidlike Granule" (Marui); A Contribution to the Structure of the Liver Cells. 【Mitt. allg. Pathol. etc.】1,3. 大11(1922). [Man, cat, dog, rabbit].
- 461. 熊谷謙三郎: 形態成分(墨粉, カルミン, 血球粉, 結核菌)ノ吸收機轉ニ就テ. 【醫中央誌】19,23. 大11(1922). [胃及ビ腸管].
- 462. 宮川米次: 生物體内ニテ死滅セル細胞成分ノ生物學的機能ニ就テ. 附. 人體竝ニ生物體ノ生活現象ニ關スル一新考案. 【日新醫學】12,9. 大12(1923). [赤血球成分カ赤血球ニ, 腎臟上皮細胞成分カ腎臟ニ, 肝細胞成分カ肝臟ニ及ビス影響等].

463. 山口正道: 生体内ニ於ケル「コレステリン」新陳代謝ノ研究. 第二. 兩棲類及ビ爬蟲類ニ於ケル「コレステリン」新陳代謝ニ就テ. 【北越醫會誌】38,3. 大12(1923). [Rana esculenta, Bufo vulgaris, Natrix tigrina Boie (Yamakagashi), Natrix vitari Boie (Hibakari), Elaphe quadrivirgata Boie (Shimahebi), Elaphe compeillata Boie (Djimegori), Clemmys japonica, Tachydromus tachydromoides Schl.].
464. Seki, Masaji: Über die Beziehung zwischen der elektrischen Eigenladung von Zellen und ihrer Phagozytose und Färbbarkeit und einige Bemerkungen über die Beziehung zwischen der Eigenladung von Bakterien und ihrer Widerstandsfähigkeit gegen Farbstoff. 【岡山醫會誌】35,406. 大12(1923). [Kaninchen, Meerschweinchen, Ratte, Katze, Hund.].
465. 山口正道: 生体内ニ於ケル「コレステリン」新陳代謝研究 (第三報). 人類及ビ諸種動物ニ於ケル個體發生ニ於ケル類脂肪ニ就テ. 【北越醫會誌】39,3. 大13(1924). [胎兒, 初生兒及ビ幼兒, 鷄卵, 鷄胎兒及ビ鷄雛, 兎, モルモト, 犬, 野鼠胎兒, 蝦蟇, ヤマカガシ].
466. Miyagawa, Yoneji: On the biological function of the constituents of the dead cells. A new theory on the process of the physiological function of living organisms and of man [Jap. med. World] 4,6. 大13(1924).
467. 加藤安吉: 成熟哺乳類細胞ニ於ケル沃度「メチレン」青顆粒ニ就テ (第一報). 【日微生物誌】18. 大13(1924). [人, 家, 兎, 犬].
468. —: 哺乳類ノ胎生組織細胞ニ於ケル沃度「メチレン」青顆粒ニ就テ (第二報). 【日微生物誌】18. 大13(1924). [人, 犬, 兎, 海鼠, 白鼠, 家鷄].
469. —: 巨態細胞ニ於ケル沃度「メチレン」青顆粒ニ就テ (第四報). 【日微生物誌】20. 大15(1926). [哺乳類].
470. 坂田五郎: 巨態細胞ニ就テ. 【日微生物誌】21. 昭2(1927). [家兎, モルモト, 白鼠].
471. Saguchi, Sakae: Untersuchungen über die Wechselbeziehung zwischen Karyo- und Zytoplasma. 1. Zentronephelium und Chondriom, und ihre Beziehung zum Kern, nebst einem Beitrag zur Frage nach der Bedeutung der Nukleolen. Beobachtungen an den explantierten Gewebe des Hühnerembryos. [Zytologische Studien] 1. 昭2(1927).
472. —: Untersuchungen über die Wechselbeziehung zwischen Karyo- und Zytoplasma. 2. Das argentophile Gebilde im Kern und seine Beziehung zum Zytoplasma. [Zytologische Studien] Heft 2. 昭3(1928). [Maus, Ratte, Kaninchen, Meerschweinchen, Hund, Katze, Rana esculenta, Bufo vulgaris, Natrix tigrina Boie Wassermolch, Karpfen, Karausche].
473. 田中丑雄: 細胞膜ノ透過性ニ就テ. 【中央獸醫誌】41,7. 昭3(1928).
474. 野手雅信: 組織球ノ遊走速度ニ就テ. 【十全會誌】33,12. 昭3(1928). [家兎, 家鷄, 二十日鼠, 蛙].
475. —: 組織球ノ遊走速度ニ就テ. 【十全會誌】33,12. 昭3(1928). [家兎, 家鷄, 二十日鼠, 蛙].
476. 杉山繁輝, 森喜久男: 細胞ノ遊走速度ニ關スル研究 (第一報). 家兎白血球ノ遊走速度ニ就テ, 並ニ溫度ノ之ニ及ボス影響. 【十全會誌】33,10. 昭3(1928).
477. —: 細胞ノ遊走速度ニ關スル研究 (第二報). 人尿ヨリ取リタル白血球ノ遊走並ニ食食ニ就テ. 【十全會誌】33,10. 昭3(1928).
478. 小山正道: 生体内「コレステリン」新陳代謝ノ研究 (第七報). 昆蟲脂肪ノ形態學的研究 (抄). 【北越醫會誌】43,4. 昭3(1928).
479. 本多都也: 細胞ト神經(綜). 【日新醫學】18,10. 昭4(1929). [上皮細胞及ビ結締織性細胞ト神經ト關係].
480. 寺尾敏行: 肺脂肪消化 Lipodierese = 及ボス腎臟及ビ副腎ノ影響 (第一報). 【長崎法醫報】2,2. 昭5(1930).
481. 塚本 茂: 細胞ノ諸生命反應吟味. (第一報) 【日病理會誌】20. 昭5(1930). [マウス].
482. Saguchi, Sakae: Das Nukleonephelium und seine Beziehungen zum Zytoplasma in den Nervenzellen. Ein Beitrag zur Frage nach der Wechselbeziehung zwischen Karyo- und Zytoplasma. [Zytologische Studien] Heft 4. 昭5(1930). [Maus, Ratte, Kaninchen, Meerschweinchen, Hund, Katze, Huhn, Taube, Schildkröte, Frosch, Kröte].
483. 塚本 茂: 諸種細胞ニ於ケル生命反應ノ吟味 (第一報). 二十日鼠皮下組織肝腎組織ニ於ケル「オキシダーゼ」反應. 超生體染色, 墨粒食食並ニ「テルリウム」反應. 【十全會誌】35,10. 昭5(1930).
484. —: 諸種細胞ニ於ケル生命反應ノ吟味 (第二報). 家兎及ビ蛙ノ鰓毛細胞ニ於ケル鰓毛運動及ビ超生體染色並ニ家兎皮下組織細胞ニ於ケル超生體染色. 【十全會誌】35,12. 昭5(1930). [家兎, 蛙].

485. Seo, Aisaburo: Studies on the nervous regulation of the ciliary movement. [Jap. J. med. Sci. III. Biophysics.] 2,1. 昭6(1931). [Frog].
486. Kosugi, Torachi: Ist das „Granuloid“ ein Produkt mangelhafter Fixation? (Bemerkungen zu den Anschauungen von Moellendorff und von Ellinger.) [Keijō J. of Med.] 2,3. 昭6(1931).
487. 塚本 茂: 諸種細胞ニ於ケル生命反應ノ吟味 (第三報). 乾燥ト細胞機能トノ關係(皮下組織及腎臟ニ於ケル實驗). 附: 家鷄肉腫ニ於ケル實驗. 【十全會誌】36,1. 昭6(1931). [二十日鼠].
488. —: 諸種細胞ニ於ケル生命反應ノ吟味 (第四報). 滲透壓ト細胞機能トノ關係ニ就テ (食食及ビ色素撮取). 【十全會誌】36,10. 昭6(1931). [二十日鼠].
489. 渡邊四郎: 生體外及ビ生體內組織中ニ於ケル細胞ノ遊走速度ニ就テ (其一). 二十日鼠ノ體外皮下組織中ニ於ケル細胞ノ遊走速度. 【十全會誌】36,10. 昭6(1931). [二十日鼠].
490. 鈴木雄平: 蛙ノ神經細胞及ビ肝細胞ノ季節的變化並ニ此等細胞ノ染色物質ノ生物學的意義ニ就テ. 【小峰紀要】2. 昭6(1931). [アカガヘル].
491. 渡邊四郎: 生體外及ビ生體內ノ結締織中ニ於ケル細胞ノ遊走速度 (其二). 蛙ノ生體內組織(舌)ニ於ケル細胞ノ遊走速度. 【十全會誌】37,4. 昭7(1932). [金線蛙].
492. 塚本 茂: 諸種細胞ニ於ケル生命反應ノ吟味 (第六報). 精蟲ニ於ケル「ヤーマス」綠染色ト運動ニ就テ. 【十全會誌】37,8. 昭7(1932). [人].
493. 石丸茂生: 中性脂肪ノ吸收所見ニ就テ (抄). 【九大醫報】6,6. 7,2. 昭7-8(1932-33).
494. Saguchi, Sakae: Zytoplasmatische Gebilde bei der Dotterbildung im Amphibienei, zugleich ein Beitrag zur Frage nach der Wechselbeziehung zwischen Karyo- und Zytoplasma. [Zytologische Studien] 5. 昭7(1932). [Wassermolch, Frosch].
495. —: Über die Einwanderung der Lymphocyten in das Ei bei einigen Amphibienarten (Diemyctylus pyrrhogaster und Rana nigromaculata). [Zytologische Studien] 6. 昭8(1933).
496. 小金井良精: 細胞構造説 【中外醫事報】163-165. 明20(1887).
497. 大澤岳太郎: 細胞顆粒論ノ一. 【東京醫會誌】7,16. 明26(1893).
498. 足立文太郎: アルトマン氏顆粒説概略. 【東京醫會誌】9,6. 明28(1895).
499. 金子治郎: 「エオジノフィン」顆粒ノ泉源ニ就テ. (醫學研誌) 32. 明29(1896).
500. 塚口利三郎: 最近顆粒研究ノ趨勢(綜). 【醫會誌】12,3. 大2(1913).
501. 勝沼精藏: 「オキシダーゼ」ノ研究 (第五) 【日病理會誌】7. 大7(1918). [二十日鼠].
502. 竹屋男綱: 副核ノ形態ニ就テ. 【京都醫誌】19,3. 大11(1922). [河貝子, 蝸牛].
503. 勝沼精藏: 細胞顆粒ノ標本供費(會). 【日病理會誌】12. 大11(1922).
504. —: 細胞顆粒及ビ白血球ノ食食像. 【日病理會誌】13. 大12(1923). [人].
505. Kamiyama, N.: Über die Altmanschen Granula. [Scient. Reports from the Government Inst.] 4. 大14(1925). [Lymphocyten, Ratte, Kaninchen].
506. 神山能實留: アルトマン顆粒ニ就テ. 【實驗醫誌】9, 5. 大14(1925). [大黑鼠, 家兎].
507. 久保忠夫: 原形質「ヒステレーゼ」ト其ノ法醫學的價値ニ就テ. 【社會醫誌】462. 大14(1925).
508. 塚口利三郎: 我「プラズマ」構造觀 (第2回日本學術協會演説) 【醫公論】743. 大15(1926).
509. 寺田正中: 細胞原形質ノ膠質性ノ二三ニ就テ. 【醫公論】742. 大15(1926).
510. Sannomiya, Nobuhiko: Über eine elektrische Färbung der sogenannten Nebenkerne des Pankreas, nebst einigen Bemerkungen über das Wesen derselben auf Grund dieser spezifischen Färbung. [Fol. anat. jap.] 5,3. 昭2(1927). [Hund].
511. Goda, Tokuske (合田得輔): Cytoplasmic inclusion of Amphibian cells with special reference to Melanin. [J. Fac. Sci., Sect. 4. Zool.] 2,2. 昭3-6(1928-31). [Diemyctylus pyrrhogaster, Rhacophorus schlegelii, Bufo vulgaris formosus].
512. 三田村篤志郎: 細胞原形質ノ微細構造ト其ノ機能. 【東京醫誌】2086. 昭3(1928). [人, 猿等].
513. Suzuki, Kazue (鈴木圭計): On the Influence of Different Metal Salts on the Per

oxidase Reaktion. [Tohoku J. exp. Med.] 12, 2-3. 昭4(1929). [Blood].

514. 竹内清, 渡川孟猷: 細胞顆粒ノ物理學的性狀ニ就テ. [日病理會誌] 20. 昭5(1930).

515. 三田村篤志郎: 細胞原形質ノ微細構造ト其機能ニツイテ. [日學術協會報告] 6. 昭5(1930). [兔, 人其他].

516. —: 細胞原形質ノ微細構造トソノ生理學的及ビ病理學的意義ニ就テ. [傳研業績] 42. 昭5(1930). [一般生物].

517. —: 細胞原形質ノ微細構造トソノ生理學的及ビ病理學的意義ニツイテ(綜). [實驗醫誌] 14, 11. 昭5(1930).

518. —: 細胞原形質ノ微細構造ト其ノ機能. [醫新聞] 1293. 昭5(1930).

519. —: 細胞原形質ノ微細構造ト其機能(會). [日內會誌] 18. 昭5-6(1930-31).

520. 羽里彦左衛門: 細菌ノ食喰ト細胞顆粒トノ關係ニ就テ. [實驗醫誌] 15, 3. 昭6(1931). [海狗, マウス].

521. 八木義一: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究. [日病理會誌] 20. 昭5(1930). [鳥類, 兩棲類, 魚類].

522. 今裕, 武田勝男: 細胞ノ「エオジン」嗜染性ニ就テ. [日病理會誌] 20. 昭5(1930). [人].

523. 渡川孟猷: 細胞顆粒ノ物理的性狀(其等電點ニ就テ). [長崎醫會誌] 9, 6. 昭6(1931). [家兔].

524. 西庵久補: 細胞原形質ノ微細構造ニ關スル實驗的研究(其1). 滲透壓ノPlastosomen及ビGolgi内網裝置ニ及ボス影響ニ就テ. [解剖誌] 4, 4. 昭6(1931). [マウス].

525. —: 細胞原形質ノ微細構造ニ關スル實驗的研究. [レントゲン會誌] 9, 3-5. 昭6(1931). [白鼠].

526. —: 細胞原形質ノ微細構造ニ關スル實驗的研究(其2). 水素「イオン」濃度ノPlastosomen及ビGolgi内網裝置ニ及ボス影響ニ就テ. [解剖誌] 4, 6. 昭6(1931). [マウス].

527. Hazato, H: On the Relation of Cell Granules to Phagocytosis of Bacteria. [Jap. J. of exper. Med.] 9, 1. 昭6(1931).

528. 羽里彦左衛門: 細菌ノ食喰ト細胞顆粒トノ關係ニ就テ. [傳研業績] 12. 昭6(1931). [海狗, マウス].

529. 八木義一: 周核顆粒及ビ周核網(Peri-

nucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究(第一報). 各種動物ノ血液塗抹標本ニ於ケル其ノ證明法及ビ所見ニ就テ. [十全會誌] 36, 3. 昭6(1931). [人, 犬, 猪, 家兔, 海狗, 白鼠, 二十日鼠, 家鴉, 雀, 蛙, 蟻, 蟹, 鱒].

530. —: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究(第二報)家鴉「エムブリオ」ヨリ取りタル幼若血球ノ核顆粒ニ就テ. [十全會誌] 36, 5. 昭6(1931).

531. —: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究(第三報). 其化學的性狀ニ就テ. [十全會誌] 36, 5. 昭6(1931). [家鴉, 家兔, 小牛, 豚].

532. 杉山繁輝: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ノ由來ニ就テ. [十全會誌] 36, 12. 昭6(1931).

533. 西庵久補: 細胞原形質ノ微細構造ニ關スル實驗的研究(其六). Plastosomen及ビGolgi内網裝置ノ致死後ニ於ケル形態變化ニ就テ. [解剖誌] 5, 2. 昭7(1932). [マウス].

534. 八木義一: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究(第四報). 超生體染色ニ由ル易動性周核顆粒(labile Perinucleo-granula)ニ就テ. [十全會誌] 37, 3. 昭7(1932). [二十日鼠].

535. —: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究(第五報). 諸種臟器ノ各種組織細胞ニ於ケル恒久性周核顆粒ノ證明法及ビ所見ニ就テ. [十全會誌] 37, 3. 昭7(1932). [家兔, 二十日鼠].

536. —: 周核顆粒及ビ周核網(Perinucleo-granula et -reticula)ニ關スル研究(第六報). 周核顆粒ト組織ノ死後變化トノ關係ニ就テ. [十全會誌] 37, 3. 昭7(1932). [二十日鼠].

537. 本間二作: 細胞顆粒ニ就テ二ノ實驗的研究(抄). [解剖誌] 6, 4. 昭8(1933). [家兔, 海狗].

538. 藤田秀一: 周核顆粒及ビ周核網ニ關スル研究補遺. 其一. 諸種酸性色素ニヨル血液塗抹標本ノ恒久性周核顆粒ノ檢索. [十全會誌] 38, 10. 昭8(1933). [家鴉, 蛙].

3. ミトコンドリア

539. Ishisawa, Masao: On the Arrangement of the Chondriosomes in the Glandular Cells. (A Contribution to the Origin of the Chondriosomes and their Significance). Prelim. note. [Mitt. med. Fak. Fukuoka] 6, 2. 大11(1922).

540. 塚口利三郎: 「ミトコンドリア」カ「ブ

ラストゾーメン」カ(會). [朝鮮醫會誌] 49. 大13(1924).

541. 塚口利三郎: 「ミトコンドリア」カ「ブラストゾーメン」カ. [醫會誌] 23, 12. 大13(1924).

542. Sinoda, Osamu (篠田 統): Contributions to the knowledge of the intestinal secretion of Insects. 1. Mid-intestinal secretion of Lepidoptera, with an appendix: Behavior of mitochondria in the mid-intestinal epithelium of the Silk-worm, Bombyx mori, L. [Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ.] Series B. 2, 2. 大15(1926).

543. 長松英一: SaprolegniaノChondriosomesニ就テ(會). [解剖誌] 1, 1. 昭3(1928).

544. Takagi, Shunzo: Über die Chondriosomen in den Purkinjeschen Zellen des Reizleitungssystems im Herzen. [Nagoya J. of med. Sci.] 4, 2. 昭4(1929). [牛, 豚].

545. —: Über das Verhalten der Chondriosomen in den verschiedenen Organen der Kröte beim Winterschlaf und Hungerzustand. [Nagoya J. of med. Sci.] 4, 1. 昭4(1929).

546. —: Über die Chondriosomen in dem elektrischen Organe bei Narke japonica. [Nagoya J. med. of Sci.] 4, 2. 昭4(1929).

547. 小川榮四郎: 可移植性家兔肉腫細胞「ミトコンドリア」ノ研究. [新潟病報] 13. 昭5(1930). [家兔. 「ミトコンドリア」ノ形態的變化ニ關スル實驗的研究].

548. 森田秀一: Was sind die Plastosomen?(會). [解剖誌] 4, 4. 昭6(1931).

549. 高木俊藏: 「ミトコンドリア」ノ研究. [動物誌] 44, 519-520. 昭7(1932). [1. 鶏卵黃囊. 2. 鳥類眼球ノ構膜. 3. アメーバ類. 4. 電氣器官及ビ心内刺線傳導系].

550. —: 二胚蟲ノ絲粒體. [動物誌] 44, 527. 昭7(1932). [蝨ノ腎囊ニ寄生スル二胚蟲].

551. —: 頭索類及ビ圓口類ニ於ケル絲粒體ノ研究(會). [動物誌] 45, 532-533. 昭8(1933). [カワヤツメ, ナメタゲウツ].

552. Saito, R.: Study on Mitochondria and Metachondria of Intestinal Epithelial Cells. [Jap. Journ. of exper. Med.] 11, 5. 昭8(1933).

553. Okanishi, J.: Studies on the Mitochondria and Metachondria of the Gastric Gland Cells. I. The Mitochondria and Metachondria of the Fundus Gland Cells. [Jap. J. of exper. Med.] 11, 5. 昭8(1933). [Guinea pig and dog].

554. —: Studies on the Mitochondria and Metachondria of Gastric Gland Cells. II. The Mitochondria and Metachondria of the Pyloric Gland Cells. [Jap. J. of exper. Med.] 11, 5. 昭8(1933). [Guinea pig].

555. —: Studies on the Mitochondria etc. III. Influence of the Cell Constituents of the Gastric Gland etc. [Jap. J. of exper. Med.] 11, 5. 昭8(1933). [Guinea pig].

556. 河西梅太郎: 酸性, 中性及ビ「アルカリ」性固定藥ニヨル「ブラストゾーメン」染色ノ狀況ニ就テ. [熊本醫會誌] 9, 10. 昭8(1933). [海狗ノ肝, 腎; 家兔ノ肝, 腎, 脾].

4. ゴルヂ内網

557. 山崎春雄: ゴルヂ及ビホルムグレン等ニヨリ觀察サレタル細胞内構造ニ就テ. [熊本醫專誌] 18. 大5(1916).

558. 田中隆一: ゴルヂー氏内網裝置及ビ其意義ニ就テ(抄). [北越醫會誌] 42, 6. 昭2(1927). [家兔, モルモット, 猫, 全身組織].

559. —: Golgi氏内網裝置附標本供覽. [日病理會誌] 18. 昭3(1928). [家兔, 海狗, 猫].

560. —: ゴルヂー氏内網裝置ニ就テ. [軍醫圖] 181-182. 昭3(1928). [家兔].

561. Ikeda, Tamotsu: Über die Veränderung des Golgischen Apparates und der Mitochondrien bei den mit Cholesterin oder Lecithin behandelten Tieren. [Arb. med. Fak. Okayama] 1, 2. 昭4(1929). [Hühchen].

562. Shirasaki, Masakichi: Studien über die morphologischen Veränderungen des Golgischen Apparates in den Zellen des Verdauungssystems des Kaninchens infolge der Darreichung von K-, Ca-, und Mg-salzen. [Fol. anat. jap.] 8, 2. 昭5(1930).

563. 青山文雄: ゴルヂ網狀裝置ノ實驗的研究(會). [解剖誌] 3, 3. 昭5(1930). [猫, 兔].

564. 渡邊保: 人幽門腺及ビ十二指腸腺上皮細胞ニ於ケルゴルヂー氏裝置ニ就テ(會). [東京醫誌] 27, 29. 昭6(1931).

565. 吉田定男: 「リポイド」吸收時ニ於ケルゴルヂー氏裝置ノ變化ニ就テ(會). [九大醫報] 6, 6. 昭7(1932).

566. 河合郁二: 白米病家兔ノ肝, 腎細胞内Golgi氏裝置ノ變化ニ就テ. [岡山醫會誌] 45, 8. 昭8(1933).

5. 好銀顆粒, 好「クローム」細胞等

- 567. 緒方知三郎, 緒方 章: 所謂「クローム」親和細胞ノ「クローム」親和作用=就テ. 附「アドレナリン」ノ一新顯微化學的證明法. 【醫新聞】938. 大4(1915).
- 568. —, —: 所謂「クローム」親和細胞ノヘンレー氏「クローム」反應=就テ. 附. 同上細胞=於ケル「アドレナリン」ノ一新顯微化學的證明法. 【日病理會誌】6. 大5(1916). (牛, 馬, 豚, 羊, 犬, 家兔, モルモット等).
- 569. 岩男 督, 小林藤治: 鐵嗜好細胞=關スル實驗的研究(會). 【慶應醫學】3. 9-10. 大12(1923). (家兔).
- 570. —, —: 鐵嗜好細胞=關スル實驗的研究. 【日醫界】14. 7. 大13(1924). (家兔).
- 571. 上床良彦: 血球及唾液腺=於ケル余等ノ銀反應=就テ. 【日病理會誌】16. 大15(1926). (人, 家兔).
- 572. —: 血液細胞及唾液腺=於ケル銀嗜好性顆粒=就テ. 【愛知醫會誌】34. 7. 昭2(1927). (人, 兔, 家兔, 蝦, 蟹).
- 573. 田中隆一: 種々ナル銀法=依ル細胞内顆粒ノ比較研究. 【軍醫圖】169. 昭2(1927). (家兔).
- 574. —: 種々ナル銀法=依ル細胞顆粒ノ比較研究. 【日病理會誌】17. 昭2(1927). (諸種ノ臟器及神經細胞, 但シ材料不明).
- 575. 今 裕: 組織ノ銀反應=就テ. 【日病理會誌】17. 昭2(1927). (人, 犬, 家兔, 諸種ノ組織).
- 576. Yamasaki, M.: Über die Argentophilie der Vitalgranula. [Arb. anat. Inst. Sendai] 15. 昭8(1933). (Weisse Maus. Sternzellen der Leber und Hauptstückzellen der Nierenkanälchen).
- 577. Saguchi, Sakae: Über die argentophilen Gebilde (den sogenannten Golgischen Apparat) in den kultivierten Zellen des Hühnerembryos und des Kaninchens. [Zytologische Studien.] 6. 昭8(1933).

6. 中心小體

- 578. 高橋 堅: 神經細胞内=於ケル中心體=就テ(會). 【東京醫誌】1302. 明30(1903). (イソアツモチ, アカニシ, ナガニシ).
- 579. 石澤政男: 中心體=就テノ二三知見追加(會). 【解剖誌】1. 1. 昭3(1928). (蠅).
- 580. —: 中心放線=關スル新見見=休止細胞核=於ケル染色質構造ノ形態學的極性=就テ(會). 【東京醫誌】2581. 昭3(1928). (蠅).

- 581. —: 中心放射=關スル新見見=休止細胞核=於ケル染色質構造ノ形態學的極性=就テ. 【醫研究】3. 1. 昭4(1929).
- 582. 森田秀一: Idiosom トイフ言葉=就テ. 【千葉醫會誌】9. 3. 昭6(1931).

7. 核 一 般

- 583. 山崎春雄: 細胞核ノ化學. 【熊本醫專誌】13. 大3(1914).
- 584. 田村於兔: 核ノ構造=就テ. 【日病理會誌】9. 大8(1919). (蠅, ザラマンドラマクロウザ, 巨大山椒魚等).
- 585. 石澤政男: 有孔細胞核 Lochkerne =關スル新見見. 【福岡醫大誌】14. 4. 大10(1921).
- 586. —: 人ノ肥大増殖性肝細胞核内=現ル所謂核小體性小胞=就テ. 【福岡醫大誌】14. 3. 大10(1921).
- 587. —: 自著「人ノ肥大増殖性肝細胞核内=現ル所謂核小體性小胞 Vacuoles nucléaires =就テ」ノ正誤. 【福岡醫大誌】14. 4. 大10(1921).
- 588. —: 植物細胞=於ケル「カリオメーレン」構成 Karyomerenbildung =就テ(抄). 【福岡醫大誌】15. 2. 大11(1922).
- 589. —: 「カリオメーレン」構成 (Karyomerenbildung) =就テ. 【福岡醫大誌】15. 3. 大11(1922).
- 590. 進藤篤一, 石澤政男: 細胞核ノ構造=就テ(其三)(抄). 【福岡醫大誌】15. 5. 大11(1922).
- 591. —, —: 細胞核ノ構造=就テ(其一), (其二), (其三), (會). 【東京醫誌】2283, 2288, 2295. 大11(1922). (玉葱).
- 592. 石澤政男: 細胞核ノ形態=關スル研究. 其二. 静止核ノ形態=及ボス中心體ノ作用=就テ(會). 【東京醫誌】2340. 大13(1923). (蠅).
- 593. —: 細胞核ノ形態=關スル研究. 其二. 静止核ノ形態=及ボス中心體ノ作用=就テ. 【國家醫會誌】439. 大12(1923).
- 594. —: 細胞核ノ形態=關スル研究. 其三. 分葉核=就テノ一知見(會). 【東京醫誌】2349. 大13(1923). (蠅).
- 595. —: 細胞核ノ形態=關スル研究. 其三. 分葉核=就テノ一知見. 【福岡醫大誌】16. 5-6. 大12(1923).
- 596. —: 細胞核=於ケル染色質「リニン」(核小體質)トノ相互關係=關スル研究. 第一. 精子頭ノ構造=就テ. 附標本供覽. 【福岡醫大誌】16. 1. 大12(1923).

- 597. 進藤篤一, 石澤政男: 細胞核ノ形態學的構造=關スル研究. 【福岡醫大誌】16. 3-4. 大12(1923).
- 598. 竹屋男綱: 私ノ懐イテ居ル細胞核ノ構造(會). 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924). (カラスガヒ, 植物根細胞).
- 599. 佐口 榮: 胞核内ノ好銀性顆粒=就テ(會). 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924). (蛙, 二十日鼠).
- 600. 田村於兔: 變性セル核小體ノ示ス「エクトカリオプラズマ」ノ實在性(會). 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924). (人).
- 601. 杉山繁輝: 細胞核超生體染色=就テ(超生體染色ノ研究). 【日微生物誌】18. 大13(1924). (二十日鼠, 白鼠).
- 602. 石澤政男: 細胞核ノ染色質性構造=就テ(會). 【東京醫誌】2501. 大15(1926).
- 603. 三宮信彦: 所謂酸性核=關スル實驗的研究=其ノ組織學的本性=就テ. 【岡山醫誌】39. 452. 昭2(1927). (家兔).
- 604. Suzuki, Y.: Über die sogenannte Chromatolyse der Nervenzellen beziehungsweise der Leberzellen. [Mitt. allg. Pathol. etc.] 4. 2. 昭3(1928). (Kaninchen).
- 605. 森 衛: 細胞ノ放射線生物學的研究. 第一編. 高度ノ「レントゲン」傷害時=於ケル細胞核ノ形態學的變化=就テ. 【解剖誌】2. 6. 昭5(1930). (蠅卵).
- 606. 森田淳一: 休止核ノ構造=就テ. 【日本學術協會報告】7. 2. 昭7(1932). (ウニ, 金線鱈, コバネイナゴ).
- 607. 平林 肇: 細胞核=關スル生物學的反應. 【精糖】10. 5. 昭7(1932). (家兔).
- 608. 佐口 榮: 細胞核ノ構造=就テ(演). 【解剖誌】6. 4. 昭8(1933). (春椎動物, 鷄卵仔).
- 609. 伊藤秀五郎: 「トノサマバツタ」(Locusta danica Linnaeus) 發生=於ケル「テトラプロイド」核(抄). 【動物誌】45. 538. 昭8(1933).

8. 染 色 體

- 610. 小原 輝: 蜻蛉ノ染色體=關スル研究. 【動物誌】27. 379. 大4(1915). (蜻蛉).
- 611. —: 蠅ノ特殊染色體 (Idiochromosomes). 【動物誌】30. 361. 大8(1918). (オホカマキリ (Jenodera superstitiona)).
- 612. —: 家鷄ノ染色體ニツイテ. 【動物誌】31. 363-364. 大8(1919). (精巢).
- 613. 竹屋男綱: 染色體崩解成形及ビ静止核=

- 於ケル其狀態=就テ. 【農醫報】187. 大8(1919). (蠅, 蠶豆).
- 614. Oguma, Kan: The Idiochromosomes of the Mantis. [J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.] 10. 大10-12(1921-23).
- 615. 福井謙一: 人ノ蠅=於ケル卵細胞染色體=就テ(抄). 【北越醫會誌】37. 6. 大11(1922).
- 616. —: 人ノ蠅卵細胞=於ケル染色體ノ數的意義=染色體ノ遺傳的價值. 【慶應醫學】2. 10. 大11(1922).
- 617. 小原 輝, 木原 均: 人類ノ染色體=關スル研究(豫報). 【動物誌】34. 401. 大11(1922).
- 618. Oguma, Kan & Kihara, Hitoshi: A Preliminary Report on the Human Chromosomes. 【動物誌】34. 401. 大11(1922).
- 619. Minouchi, Osamu (養内 收): On the Fixation of Chromosomes in Mammals and some other Animals. [Jap. J. of Zool.] 1. 大11-昭3(1922-28). (白鼠, 二十日鼠, 犬, カメ, 蛇, バツタ).
- 620. —: On the Chromosomes of the domestic Mouse (Mus wagneri albula) [Jap. J. of Zool.] 1. 大11-昭3(1922-28).
- 621. 進士織平: 蠅ノ染色體=就テ【動物誌】35. 416. 大12(1923).
- 622. Matsui, Kenkichi: Studies on the hybridization among the Echinoderms, with special reference to the behavior of the chromosomes. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 7. 3. 大13(1924). (Arbacia punctulata, Echinarrhinus parva).
- 623. 鈴木 清: 家鷄ノ染色體研究豫報(抄). 【北越醫會誌】40. 6. 大14(1925).
- 624. —: 「ハンザキ」ノ體細胞染色體=就テ(抄). 【動物誌】38. 456. 大15(1926).
- 625. Oguma, Kan: Studies on the Sauropsid-chromosomes. 1. The sexual difference of chromosomes in the pigeon. [J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.] 16. 大15-昭2(1926-27).
- 626. 養内 收: 哺乳動物ノ染色體=就テ. 【動物誌】39. 469-470. 昭2(1927). (南京鼠).
- 627. 西村源吉: 椿象ノ染色體=就テ(豫報). 【動物誌】39. 460. 昭2(1927). (ナガメ (Eurydemaruga Mots), ウブラカメムシ (Aelia lewisi Scott), アラタカメムシ (Negara antennata Scott)).
- 628. 進士織平: 染色體=基ク蠅屬ノ同定=關シテ(抄). 【動物誌】39. 469-470. 昭2(1927).
- 629. 晴山省吾: 伊吹「ギス」ノ染色體=就テ(抄). 【動物誌】39. 469-470. 昭2(1927).

630. 進士織平: 染色体ト蚪蟲ノ進化トノ關係. 【日本學術協會報告】3, 昭3(1927).
631. Nakamura, Kenji (中村健兒): On the Chromosomes of a snake, *Natrix tigrina*. [Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ.] Series B, 4, 1, 昭3(1928).
632. 岡 徹: 「ハネナガイナゴ」(*Oxya volex*)ノ精蟲發生中ニ於ケル染色体ノ行動ニ就テ. 【動物誌】40, 478, 昭3(1928).
633. Oka, Tohru: Chromosome Behavior in the Spermatogenesis of *Oxya volex* (An Orthopteran). 【動物誌】40, 478, 昭3(1928).
634. 森田淳一: 蠶類科ノ精蟲發生ノ際ニ於ケルX「タロモノム」(會). 【解剖誌】1, 1, 昭3(1928).
635. 伊藤秀五郎: 「ミツモンカハゲラ」(*Acronuria ezziensis* Okamoto)ノ染色体ニツイテ(會). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).
636. 大町文術: 「ミツカドコホロギ」(*Loxoblemmus frontalis*)及ビ「オカメコホロギ」(*Loxoblemmus arictulus*)ノ精蟲成熟ニ際スル染色体ノ行動ニ就テ(會). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).
637. 中村健兒: 青大将ト縞蛇ノ染色体及ビ其ノ比較(會). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).
638. 入來重盛: 「ヒキガヘル」ノ染色体ニ就テ(會). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).
639. 木原 均: 「カナムグラ」ノ染色体. 【遺傳誌】4, 2, 昭4(1929).
640. 養内 收: 所謂性染色体ノ Heteropycnosisニ就テ(會). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).
641. 石澤政男: 染色体ノ構造及ビ有絲細胞核分裂ニ關スル形態學的知見追加(會). 【解剖誌】2, 2, 昭4(1929). [蝶類幼虫, 葱, 豆ノ幼虫].
642. Iriki, Shigemori: Studies on Amphibian Chromosomes. I. On the Chromosomes of *Hyla arborea japonica*. [Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ.] 5, 1, 昭6(1930).
643. 牧野佐二郎: 「カラフトヒキガヘル」(*Bufo sachalinensis* Nikolski)ノ染色体ニ就テ. 【動物誌】42, 501, 昭5(1930).
644. 鈴木 清: 家鷄ノ染色体ニ就テ(會). 【動物誌】44, 503, 昭5(1930).
645. 石川重治郎: 「ミヤマフキバツタ」(*Po-disma mikado* Bolivar)ノ染色体ニツイテ. (豫報抄) 【動物誌】42, 501, 昭5(1930).
646. Oguma, Kan (小熊 樺): A compara-

- tive study of the spermatocyte chromosome in allied species of the Dragonfly. [J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Series VI. Zool.] 1, 1, 昭5(1930). [Dragonfly 16種].
647. Nakamura, Kenji: Studies on Reptilian Chromosomes. II. On the Chromosomes of *Eumeces latiscutatus* (Hallowell), a Lizard. [Cytologia.] 2, 4, 昭6(1931).
648. Sugiyama, Masao (相山正雄): Behavior of the Sex-Chromosomes in the Spermatogenesis of Japanese Earwig, *Anisolabis marginalis*. [J. Fac. Sci., Sect. 4. Zool.] 3, 2, 昭6(1931).
649. Minouchi, O. & Iriki, S.: Studies on Amphibian Chromosomes. 2. On the Chromosomes of *Bufo bufo japonicus* Schlegel. [Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ.] 6, 1, 昭7(1931).
650. 牧野佐二郎: 直翅類ノ一種「マダラカマフウメ」(*Diestrammena japonica* Karny)ノ染色体. 【動物誌】43, 517, 昭6(1931).
651. 伊藤秀五郎: 生殖細胞ニ於ケル染色体異變ノ一例. 【解剖誌】6, 4, 昭8(1931). [ダイヤモンド *Pachytillus danicus* L.].
652. 梶本信明: 染色体ニ於ケル所謂導引小體ニ就テ. 【熊本醫會誌】7, 3, 昭6(1931). [蠶豆].
653. —: 再ビ染色体ニ於ケル導引小體ニ就テ. 【熊本醫會誌】7, 4, 昭6(1931). [孟宗竹].
654. 西山太平: 鷄ノ染色体研究ノ現況(綜). 【日畜産會報】5, 3, 昭6(1931).
655. 梶本信明: 染色体ニ於ケル所謂 Leitkörperchenニ就テ. 【解剖誌】4, 4, 昭6(1931).
656. 小熊 樺, 牧野佐二郎: 脊椎動物染色体數ノ表(抄). 【動物誌】43, 508-510, 昭6(1931).
657. Nakamura, Kenji: Studies on Reptilian Chromosomes. III. Chromosomes of Some Geckos. (會) [Cytologia] 3, 2, 昭7(1932). [*Hemidactylus bowringii* (Gray), *Gekko japonicus* (Duméril and Bibron)].
658. Honda, Hikokuro & Iriki, Shigemori (本田彦九郎, 入來重盛): A short note on the Chromosomes of Crickets. [Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.] 1, 11, 昭7(1932). [*Gryllus mitratus*].
659. Iriki, Shigemori (入來重盛): Studies on the Chromosomes of Pisces. On the Chromosomes of *Aplocheilichthys latipes*. [Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.] 1, 5-10, 昭7(1932).
660. —: Studies on Amphibian Chromosomes. 4. On the Chromosomes of *Rana rugosa* and *Rana nigromaculata*. [Sci. Rep. Tokyo Bu-

- nri. Dai., Sect. B.] 1, 5-10, 昭7(1932).
661. —: Studies on Amphibian Chromosomes. 5. Explanation of the Sex-Chromosomes-type of *Hyla arborea japonica* from the standpoint of spiral structure. [Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.] 1, 5-10, 昭7(1932).
662. —: Studies on Amphibian Chromosomes. 6. On the Chromosomes of *Diemyetulus pyrrhogaster*. [Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.] 1, 5-10, 昭7(1932).
663. —: Studies on Amphibian Chromosomes. 7. On the Chromosomes of *Megalobatrachus japonicus*. [Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.] 1, 5-10, 昭7(1932).
664. —: Studies on Amphibian Chromosomes. 8. On the fixation of the Chromosomes of *Hyla arborea japonica* and some other animals. [Sci. Rep. Tokyo Bunri. Dai., Sect. B.] 1, 5-10, 昭7(1932). [*Hyla arborea japonica*, *Rana rugosa*, *Bufo bufo japonicus* etc.].
665. 養内 收: 「シヨウリヨウバツタ」ノ染色体數ノ變異ニツイテ. 【動物誌】44, 521, 昭7(1932).
666. 入來重盛: 兩棲類及ビ魚類數種ノ染色体ニ就テ(會). 【動物誌】44, 519-520, 昭7(1932). [兩棲類 (*アマガヘル*, *ツチガヘル*, *トノサマガヘル*, *ヒキガヘル*, *ハンザネ*, *イモリ*, 及ビ魚類數種)].
667. 立石新吉: 臺灣産蟋蟀科數種ノ染色体(豫報)(會). 【動物誌】44, 519-520, 昭7(1932).
668. 養内 收, 太田武夫: 猫ノ卵原細胞ノ染色体數(會). 【動物誌】44, 521, 昭7(1932). [猫].
669. —, —: 家兎ノ染色体數(會). 【動物誌】44, 521, 昭7(1932).
670. 晴山省吾: *Locustidae*ニ屬スル二三昆蟲ノ染色体ニツイテ(會). 【動物誌】44, 521, 昭7(1932). [*クサキリ* (*Homocoryphus lineosus* W. K.), *クツワムシ* (*Mecopoda elongata* L.) *クサキリ* (*Xiphidion melanum* D. H.)].
671. Oguma, Kan (小熊 樺) and Asana, J. J.: Additional data to our knowledge on the Dragonfly chromosome, with a note on occurrence of X-Y chromosome in the Ant-lion (Neuroptera) [J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Series VI. Zool.] 1, 4, 昭7(1932). [*Tritemis aurora*, *Tramea chinensis*, *Palpares* sp.].
672. 養内 收, 太田武夫: 人間ノ染色体數. 【動物誌】44, 521, 昭7(1932).
673. 牧野佐二郎: *Rana temporaria* L. (♂)ノ染色体. 特ニ Witschi 氏ノ記載セル性染色体ニツイテノ觀察(豫報). 【遺傳誌】7, 4, 昭7(1932).
674. Makino, Sajiro (牧野佐二郎): The chromosome number in some Salamanders from northern Japan. [J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Series VI. Zool.] 2, 2, 昭7(1932) [*Hynobius* 4種, *Salamandrella keyserlingii*].
675. —: An unequal pair of idiochromosomes in the Tree-cricket, *Oecanthus longicauda* Mats. [J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Series VI. Zool.] 2, 1, 昭7(1932).
676. 伊藤秀五郎: 「クロスヂヘビトンボ」(*Chauliodes japonicus* Maclan)ノ染色体(第一報). 【動物誌】45, 531, 昭8(1933).
677. 川口榮作: 鱗翅目ニ於ケル性染色体ノ Heteropycnose(會). 【動物誌】45, 532-3, 昭8(1933).
678. 伊藤秀五郎: 「シミ」(*Lepisma*)ノ一種ノ染色体(抄). 【動物誌】45, 541, 昭8(1933). [*Lepisma saccharina* Linn.].
679. 利岡静一: 半翅類ノ染色体ニ就テ(第一報). ヤニサシガメ (*Velinus nodipes* Uhler)ノ染色体. 【應用動物誌】5, 5, 昭8(1933).
680. 木原 均, 平吉 功: 「カナムグラ」ノ性染色体. 【日本學術協會報告】8, 3, 昭8(1933).
681. Takagi, Syunzo (高木俊藏): Einige Beobachtungen an den Chondriosomen bei *Zyklotomen*, *Entosphenus japonicus* (Martens) [Annot. zool. jap.] 14, 1, 昭8(1933).
682. 梶本春雄: 蠶ニ於ケル W 染色体ノ性決定ニ對スル役割. 【遺傳誌】8, 4, 昭8(1933).
683. 伊藤秀五郎: 「ヘビトンボ」(*Protohermes grandis* Thunberg)ノ染色体數. 【動物誌】45, 535, 昭8(1933).
684. Itoh, Hidegoro: The Sex-Chromosome of a Stone-Fly, *Acronuria jezoensis* Okamoto (Plecoptera). [Cytologia] 4, 4, 昭8(1933).
685. Kawaguchi, Eisaku: Die Heteropycnose der Geschlechtschromosomen bei Lepidopteren. [Cytologia] 4, 1, 昭8(1933). [*Cryptothela formosicola* Strand, *Lymantria dispar* L., *Melalopha* (*Pyraea*) *autostomosis* L., *Actornis chrysothorax* L., *Deudrolimus spectabilis* Butler., *Bombyx mori* L. (2N), *Cryptothela* (*Clania*) *minuscula* Butler., *Bombyx mori* L. (3N)].
686. 梶本春雄: 蠶ニ於ケル W 染色体ノ性決定ニ對スル役割(會). 【遺傳誌】8, 4, 昭8(1933).
687. Bryden, Wm: The Chromosomes of the Pig. [Cytologia] 5, 1, 昭8(1933).

- 688. 入來重盛: 魚類ノ染色體=關スル研究. 【植物及動物】1,1. 昭8(1933). [メダカ(Aplocheilichthys latipes), レビステス(Labistes reticulatus)].
 - 689. 牧野佐二郎: 「エゾサンモウブ」ノ染色體=就テ. 特=雌雄兩性=於ケル染色體形態上ノ比較(豫報)(會). 【遺傳誌】8,4. 昭8(1933). [Hynobius retardatus].
 - 690. 小熊 輝: 人類染色體=關スル諸家研究ノ考察. 【日本學術協會報告】8,3. 昭8(1933).
9. 核分裂ト細胞分裂
- 691. 山極勝三郎: 癌細胞ノ核分裂像=就テ(會). 【順天堂醫誌】203, 204. 明28(1885).
 - 692. Ishikawa, Chiyoatsu (石川千代松): Studies of reproductive elements. III. Die Entwicklung der Pollenkörper von Allium fistulosum L. Ein Beitrag zur Chromosomenreduktion im Pflanzenreiche. [J. Coll. Sci.] 10. 明29-31(1896-98).
 - 693. —: 減數分裂=就テ. 【動物誌】9,101-106,107. 明30(1897).
 - 694. —: Further observations on the nuclear division of Noctiluca. [J. Coll. Sci.] 12. 明31-33(1898-1900).
 - 695. 谷津直秀: 染色體ノ減數分裂ノ意味. 【動物誌】20,231-232. 明41(1908).
 - 696. Sugiyama, Takesi: Studies of the structure and the nuclear division in a Japanese species of Opalina, O. japonica. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo.] 6,4. 大4-10(1915-1921).
 - 697. 小川政修: Tripanosoma tritonis ノ核及其分裂=就テ. 【東京蟲癩協會誌】23,3. 大5(1916).
 - 698. 駒井 卓: 直接核分裂ノ研究(抄). 【動物誌】31,534. 大8(1919).
 - 699. 押川公介: 別出後=於ケル癌腫細胞殊=其核分裂像ノ變化. 【癌】14,3. 大9(1920).
 - 700. 川上理一: 細胞分裂速度=就テノ理論的考察(會). 【慶應醫學】1,11. 大10(1921).
 - 701. 石澤政男: 有孔細胞核=關スル新発見(會). 【東京醫誌】2239. 大10(1921). [蝶翅].
 - 702. —: 横紋筋纖維核ノ有絲分裂=就テ(會). 【九大醫報】1,5. 昭2(1927).
 - 703. —: 横紋筋纖維核ノ有絲分裂=就テ(會). 【東京醫誌】2544. 昭2(1927). [蝶翅].
 - 704. —: 横紋筋纖維核ノ有絲分裂=就テ. 【醫研究】1,1. 昭2(1927).
 - 705. —: 細胞核ノ有絲分裂=於ケル紡錘軸

- ノ回轉=就テ. 【醫研究】2,4. 昭3(1928).
- 706. —: 細胞核ノ有絲分裂=於ケル紡錘軸ノ回轉=就テ(會). 【東京醫誌】2581. 昭3(1928). [蝶翅].
- 707. —: 滑平筋纖維核ノ有絲分裂=就テ(會). 【東京醫誌】2575. 昭3(1928). [蝶翅].
- 708. —: 滑平筋纖維核ノ有絲分裂=就テ. 【醫研究】2,4. 昭3(1928).
- 709. —: 細胞核ノ有絲分裂=於ケル紡錘軸ノ回轉=就テ. 【醫研究】3,1. 昭4(1929).
- 710. —: 高等動物=於ケル有絲細胞核分裂過程ノ一型=就テ(會). 【九大醫報】3,3. 昭4(1929).
- 711. —: 染色體ノ構造及ビ有絲細胞核分裂=關スル形態學的知見追加(會). 【九大醫報】3,2. 昭4(1929).
- 712. Kiyono, Kenji u. Hattori, Keizo: Über das Verhalten der Fettröpfchen bei der indirekten Kernteilung der Zellen in der Gewebezüchtung. [Cytologia] 1,2. 昭4(1929). [Herge-webe des Hühnerembryos].
- 713. 石澤政男: 高等動物ノ細胞=於ケル有絲核分裂ノ一型=就テ(會). 【九大醫報】4,3. 昭5(1930).
- 714. —: 高等動物ノ細胞=於ケル有絲核分裂ノ一型=就テ(第三報). 【東京醫誌】2706. 昭5(1930). [蝶翅].
- 715. —: 細胞核有絲分裂一形式=就テ(會). 【東京醫誌】2380. 昭5(1930).
- 716. Saguchi, Sakae: Über das Verhalten des Nukleolus bei der Mitose im Kulturgewebe, nebst Bemerkungen über die Chromosomenzahl beim Huhn. [Zytologische Studien] 3. 昭5(1930). [Hühnerembryo].
- 717. 石澤政男: 有絲細胞核分裂=關スル形態學的知見追加(其二)(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930). [蝶翅].
- 718. —: 有絲細胞核分裂=關スル形態學的知見追加(其三). 【解剖誌】4,4. 昭6(1931). [蝶翅].
- 719. —: 高等動物ノ細胞=於ケル有絲核分裂ノ一型=就テ(第六報)(會). 【東京醫誌】2729. 昭6(1931).
- 720. —: 高等動物ノ細胞=於ケル有絲核分裂ノ一型=就テ(會). 【九大醫報】5,1. 昭6(1931).
- 721. —: 高等動物ノ細胞=於ケル有絲核分裂ノ一型=就テ(會). 【九大醫報】5,3. 昭6(1931).

- 722. —: 高等動物ノ細胞=於ケル有絲核分裂ノ一型=就テ(第七報)(會). 【九大醫報】5,4. 昭6(1931).
 - 723. ハー・シュライベル, 中泉正徳: 細胞分裂放射線=就テ. 【レントゲン會誌】10,3. 5, 6. 昭8(1933). [玉葱酵母].
 - 724. 森田秀一, 森 喬: 細胞有絲分裂=際シテノ二三ノ觀察. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933). [蝶翅].
 - 725. 養内 收: 細胞分裂ノ機構(會). 【近畿醫誌】15,3. 昭7(1932).
 - 726. 丸田實喜: 所謂細胞分裂誘起線(Mitogenetische Strahlen)=就テ. 【岡山醫會誌】44,11. 昭7(1932). [玉葱].
7. 組 織
1. 組 織 一 般
- 727. 志立富松: 驅蟲藥トシテ水銀劑ノ體內=於ケル分布状態=就テ. 【皮原誌】7,3-4. 明40(1907). [兔, 人].
 - 728. 池田泰雄: 組織切片内=於ケル「オキシダーゼ」=就テ. 【醫新聞】884. 大2(1912). [人].
 - 729. 茂木知明: 生理的及ビ病的組織=於ケル「カリウム」鹽類ノ組織學的検査. 【日病理會誌】4. 大1(1915). [鳩, 豚].
 - 730. 勝沼精藏: 組織=於ケル「インドフェノールプラウオキシダーゼ」ノ知見補遺. 【日病理會誌】5. 大5(1916). [家兔, 蝦蟇].
 - 731. 舟岡省五: 動植物組織ヲ通過スル光ノ法則=就テ. (第一)進行速度. (第二)振動方向. 【京都醫誌】16,7. 大8(1919).
 - 732. —: 動植物組織内ヲ通過スル光ノ法則=就テ. (第三)同時消光線ノ理論ノ擴充及ビ同強線. 【京都醫誌】17. 大9(1920).
 - 733. 佐藤 清: 澱粉様變性ノ成因=關スル實驗的研究. 【實驗醫誌】6,10. 大11(1922). [二十日鼠].
 - 734. 近森正基: 深部感染組織ノ化學的療法【醫事索引】2,9. 大12(1923). [家兔].
 - 735. 社稜山人: 年齢=ヨル組織ノ物理化學的變化. 【醫海時報】1489. 大12(1923).
 - 736. 林 廣吉: Untersuchungen über Cetacea 29. Über Alkalien und alkalische Erden in verschiedenen Horngeweben. Ein Beitrag zur Frage der Keratinisation. [Jap. J. of med. Sci. II. Biochemie] 1,2. 大14-昭7(1925-32). [Seewal].
 - 737. 松尾 巖: 色素ノ排出及ビ吸收. 【醫海時報】1652. 大15(1926).

- 738. —: 色素ノ排泄ト移行. 【醫海時報】1000. 大15(1926).
- 739. —: 色素ノ胃内排泄. 【醫海時報】1666. 大15(1926).
- 740. Funaoka, Seigo: Untersuchungen über transmikroskopische Struktur des Lebewesenskörpers. 1. Untersuchung über die Anordnung der anorganischen Substanz im Knochen und Zahnbeingewebe mittels X-Strahlen. [Acta Scholae med. Kioto] 9. 大15-昭2(1926-27). [Mensch].
- 741. 福田邦三: 動物膜ノ透過性=就テ. (抄)【動物誌】39,469-70. 昭2(1927). [蛙].
- 742. 舟岡省五: 筋ノ組織中=於ケル「ミチエール」性構造ノ發生=就テ(會). 【東北醫誌】10. (特). 昭2(1927).
- 743. 猪口貞治: 血液及組織ノ水素イオン濃度ノ關係=就テ. 【日病理會誌】17. 昭2(1927). [鳩, 豚, 鼠, 二十日鼠, 家兔].
- 744. 丹後正雄: 組織=於ケル水素「イオン」濃度ノ研究(第一報). 人屍體組織=就テノ研究. 【日病理會誌】17. 昭2(1927).
- 745. 川村鶴也: 生物體=於ケル類脂肪ノ意義(抄). 【北越醫會誌】42,5. 昭2(1927).
- 746. 赤木四郎藏: 高調性溶血ト「イオン」ノ「リオトロープ」列(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 747. 岸本 傳: 吸著恒濕式ノ吟味(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 748. 谷田重三郎: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其一)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 749. 正木 清: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其二)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 750. 日野 要: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其三)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 751. 相澤正男: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其四)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 752. 高橋一二三: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其五)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 753. 中本慶太郎: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其六)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 754. 兒玉邦男, 木下有實: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其七)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 755. 勝 義孝: 膜「ポテンシャル」ノ研究(其八)(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 756. 岡島 壽: 粘膜=對スル直電流ノ陰極及ビ陽極作用ト「カリウム」及「カルシウム」ノ作用=就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [家兔].

757. 平田達三: 酸及ピロ基ノ組織學的作用(會).【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

758. 笹川徳隣: 組織ノ膨化(會).【解剖誌】1,1. 昭3(1928).〔囊ノ筋等〕.

759. Sato, Kaname: Über die pharmakologischen Wirkungen der hydroaromatischen Verbindungen: Cyclohexen, Cyclohexan u. Cyclohexanol. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 3, 1. 昭3(1928). [Knochenmark, Milz, Lymphknoten, Wurmfortsatz, Leber, Niere und Lunge des Kaninchens].

760. 尾河順太郎: 組織ノ反應ニ關スル實驗的研究(第六報).顯微操作器(Mikromanipulator)ヲ以テセル細胞體內水素「イオン」濃度ノ検査方法ニ就テ.【醫中央誌】26. 昭3(1928).〔細胞〕.

761. 富田和二郎: 組織ニ於ケル尿酸ノ證明ニ就テノ研究.【日病理會誌】18. 昭3(1928).

762. 正木清: 二價三元電解質ノ膜電位差ニ對スル態度.【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

763. 杉山金吾, 平田達三, 安丸明正: 生物膜ノ膜電位ニ就テ.【解剖誌】2,2. 昭4(1929).〔鰻, 鰻, 卵殼, 林檎, 竹〕.

764. 兒玉邦男: 硝子電極及ビ「アンチモン」電極ニヨル水素「イオン」濃度測定法(會).【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

765. 日野要, 中本慶太郎: 膜電位差及膜ノ透過性ニ關スル二三ノ實驗(會).【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

766. 富田朋介, 藤田武夫: コールラウシュ氏液體抵抗測定法ニヨル銀ノ膠狀體ニ擴散スル速度測定(會).【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

767. ———: 銀ノ膠狀體ニ擴散スル速度測定. (コールラウシュ氏液體抵抗測定法ニ據ル).【解剖誌】2,2. 昭4(1929).〔硝酸銀溶液〕.

768. Funaoka, Seigo und Shirakawa, Shigekiyo: Pharmako-histologische Untersuchungen. 5. Histologische Untersuchung über die Wirkung von Atropin und Physostigmin auf die Kanincheniris. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,1. 昭4(1929).

769. 藤林賢治: 加果明礬ノ組織滲透作用ニ就テ.【京都醫誌】26,7. 昭4(1929).

770. 舟岡省五: 生物體組織ノ超顯微鏡的構造ニ就テ.【解剖誌】2,3. 昭4(1929).

771. ———: 生物組織ノ超顯微鏡的構造.【解剖誌】2,3. 昭4(1929).

772. 三杉義利, 藤澤義雄: 組織ノ發育ニ及ボ

ス臟器及ビ血漿ノ年齡的關係. 前編. 組織ノ發生ニ及ボス臟器ノ年齡的關係.【日微生物誌】24. 昭5(1930).〔人〕.

773. 上阪熊勝: 「カリウム」及ビ「レチニン」對「カルシウム」及ビ「コレステリン」ノ顯微作用ニ關スル組織學的觀察(會).【解剖誌】3,3. 昭5(1930).〔家兔〕.

774. 平田達三: 電解質溶液中ニ於ケル組織ノ物理的化學的變ニ關スル組織學的變化ニ就テ(會).【解剖誌】4,1. 昭6(1930).

775. Funaoka, Seigo und Yamada, Juichi: Pharmako-histologische Untersuchungen. 6. Die Histologie des Physostigmias-thmas. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,3. 昭5(1930).〔Hurd, Kaninchen〕.

776. 木下夏順, 中村弘, 須賀井正謙, 壁谷壽: 組織呼吸ニ就テノ研究.【日病理會誌】20. 昭5(1930).〔白鼠〕.

777. 舟岡省五: 生理的及ビ病的石灰沈着.【醫公論】923. 昭5(1930).〔家兔〕.

778. ———: 生理的及ビ病的石灰沈着.【關西醫事】2,7. 昭5(1930).〔人〕.

779. ———: 生理的及ビ病的石灰沈着(會).【日醫新報】399. 昭5(1930).

780. 中村弘: 組織呼吸及ビソレト組織ノ形態學的變化「オキシダーゼ」反應及ビ水素「イオン」濃度トノ關係.【日病理會誌】21. 昭6(1931).〔ラット〕.

781. 牧有義: 金線蛙及ビ「ヒキガヘル」ノ諸臟器組織內水素「イオン」濃度ニ關スル研究.【小峰紀要】2. 昭6(1931).

782. Sato, Tutomu (佐藤勉): Studien über die Gewebsquellung. [Tôhoku J. exp. Med.] 18, 3-6. 昭6(1931).〔Rückenmuskel des Kaninchens〕.

783. 佐藤義敏: 「グアニジン」及「カルチウム」ノ顯微作用ニ關スル組織學的觀察.【岡山醫會誌】44. 11. 昭7(1932).〔家兔〕.

784. 勝義孝: 組織ノ物理化學的研究(其一). 組織ノ「クローム」酸「イオン」結合性ニ就テ(會).【解剖誌】6,1. 昭8(1933).

785. 勝義孝, 平田達三: 組織ノ物理化學的研究(其二). 電解質溶液中ニ浸漬セル組織ニ浸出液ノ性状ニ就テ(會).【解剖誌】6,1. 昭8(1933).

786. 勝義孝, 今井好直: 組織ノ物理化學的研究(其三). 膜ノ微細機構ニ關スル研究(會).【解剖誌】6,4. 昭8(1933).

787. 佐藤義敏: 白米病家鷄及ビ同病家兎ノ心

筋竝ニ脊髄神經節ノ變化ニ就テ.【岡山醫會誌】45,5. 昭8(1933).

788. Horii, Isoo: Über den Phosphatasegehalt bei verschiedenen histologischen Veränderungen des Organs. [Arb. III. anat. Inst. Kyoto] Serie C. 4. 昭8(1933).〔Kaninchen〕.

2. 色素組織

789. Kodzuka, Tadaashi (小塚正): Über den Farbstoff des Seeohrs. [Tôhoku J. exp. Med.] 2,2-3. 大10(1921).

790. 李鍾綸: 「ボムピナ」ニ於ケル色素細胞ノ研究(豫報)(會).【朝鮮醫會誌】58. 大11(1925).〔ヤマガリケヘル〕.

791. 高島克己: 所謂「メラニン」色素ニ關スル知見補遺.【千葉醫會誌】5,1-2, 4-7. 昭2(1927).〔兩棲類, 鳥類, 哺乳類, 人〕.

792. 山本武雄: Chromatophorenニ關スル研究. 1. Melanophorenノ體外培養ニ於ケル發育ニ就テ. 2. 體外培養ニ於ケル網膜色素上皮細胞ノ細胞學的研究. 3. 常態ノ鳥骨節ノ色素細胞ニ就テ. 4, 5. 炎症ニ於ケル Melanophorenノ態度ニ就テ.【日微生物誌】24. 昭5(1930).〔鵝〕.

793. Kawamura, Toshihiro (川村智治郎): Über die Pigmentbildung in der Erstlingsfeder von Coturnix coturnix japonica Temminck et Schlegel. [J. Sci. Hiroshima Univ.] Ser. B. Div. 1. 2. 昭8(1933).

3. 生體染色一般

794. 宮島幹之助: 原蟲ノ生體染色.【動物誌】10,113. 明31(1898).

795. 茂木藏之助: 生體染色ニ就テ.【日外會誌】12,1. 明44-5(1911-12).

796. 清野謙次, 菊池武熊: 「インヂオカルミン」ヲ以テセル生體染色ニ就テ.【日病理會誌】2. 大2(1913).〔犬〕.

797. 清野謙次: 「リチオンカルミン」ヲ以テセル生體染色ニ就テ(第二報).【日病理會誌】2. 大2(1913).〔家兔, 鵝等〕.

798. 後藤城四郎: 「リチオンカルミン」生體染色ヲ併用セル「オキシダーゼ」反應ニ就テ.【醫新聞】922. 大1(1915).

799. 清野謙次: 生體色素攝取研究ノ現況(生體染色報告第五).「リチオンカルミン」「トリパン」青,「ピロール」青,「イザミン」青,「トリヂン」青等ノ諸色素ヲ以テセル生體染色研究ノ現況(上).【日新醫學】4,7. 大1(1915).〔諸動物及ビ人〕.

800. 後藤城四郎: 「リチオンカルミン」ノ生體染色ト「オキシダーゼ」反應トノ併用ニ據ル二三ノ所見.【日病理會誌】5. 大5(1916).〔家兔〕.

801. 清野謙次: 肝臟及心臓ノ生體染色ニ關スル知見ノ追加(冷血動物ニ於ケル所見).【京都醫誌】14,7. 大6(1917).〔魚類, 兩棲類, 無脊椎動物(イセエビ)〕.

802. 淺田一: 「カルミン」生體染色ト中酸症.【日病理會誌】8. 大8(1919).〔モルモット〕.

803. 清野謙次, 高祖敏雅: 「カルミン」及ビレト同性質ノ色素ヲ以テセル「エムプリオ」組織ノ生體色素攝取ニ就テ.【京都醫誌】16,10. 大8(1919).〔哺乳類, 鳥類〕.

804. 清野謙次, 星島壽: 生體染色報. 特ニ細胞内ニ現ハル色素顆粒ノ意義ニ就テ.【日醫界】10,15. 大9(1920).

805. 高祖敏雅: 腸結膜及ビ輸卵管結膜上皮細胞ノ生體染色ニ就テ. 特ニ毛髪及ビ羽毛ノ生體染色.【日病理會誌】10. 大9(1920).〔家兔, 鳥類〕.

806. ———: 生體染色知見補遺.【京都醫誌】17. 3. 大9(1920).〔哺乳類, 鳥類〕.

807. 高森時雄: 生體染色ニ就テ.【兵庫醫會誌】154. 大10(1921).〔家兔, 海狸〕.

808. 舟岡省五, 小林春平: 生物體組織研究法ノ批判的研究(第一報). 一. 染色. 酸性色素ヲ使用スル嗜「エオジン」顆粒ノ特異染色法.【京都醫誌】18, 7. 大10(1921).〔家兔〕.

809. Tashiro, Kasanu (田代重): The Dependence of the Nature of Caffeine Diuresis upon the Dose used. (The Vital Staining of the Kidney under Caffeine Diuresis). [Tôhoku J. exp. Med.] 3, 1-2. 大11(1922).〔Rabbit〕.

810. 杉山繁輝: 蛙外胚葉及ビ中胚葉ニ由來セル組織細胞ノ生體染色ト超生體染色ニ就テ. (超生體染色ノ研究其三).【日微生物誌】17. 大12(1923).

811. 松澤松哉: 哺乳動物胎兒ノ生體染色.【日病理會誌】13. 大12(1923).〔海狸〕.

812. 杉山繁輝: 超生體染色ノ研究(第二報). 色素ノ荷電, 擴散能及ニ關スル. 温度及ビ水素「イオン」濃度ト生體染色及ビ超生體染色トノ關係ニ就テ.【日病理會誌】3. 大12(1923).〔蛙, マウス, ラット〕.

813. 杉山繁輝: 超生體染色ノ研究(第三報). 細胞核結締組織維及ビ家鷄粘液肉腫ノ超生體染色及ビ生體染色ニ就テ.【日病理會誌】14. 大12(1924).〔ラット, マウス, 鵝〕.

814. 上與那原朝珍: 試験管内生體染色法ヲ

以テセル人類漿液腔細胞ノ研究。【海軍醫誌】15,1,18,1,大15-昭4(1926-29)。

815. —: 試験管内生體染色法ヲ以テセル人類漿液腔腔滲出液細胞ノ研究。【軍醫週】157,大15(1926)。

816. 岡村由次: 家兎胎兒生體色素攝取。【愛知醫會誌】36,4,昭4(1929)。

817. —: 家兎胎兒直接色素液注入ニ因スル胎兒附屬器生體色素攝取。其一。卵黃囊,胎盤,絨毛膜生體色素攝取。【愛知醫會誌】36,5,昭4(1929)。

818. —: 家兎胎兒直接色素液注入ニ因スル胎兒附屬器生體色素攝取。其二。羊膜生體色素攝取ニ羊水生色ニ關スル知見ニ就テ。【愛知醫會誌】36,6,昭4(1929)。

819. 内藤達男: 特ニ生體染色陽性色素ノ檢索成績ニ就テ(其二)。第二編。生體染色ニ關スル考察。【日微生物誌】23,昭4(1929)。(アメーバ)。

820. —: 特ニ生體染色陽性色素檢索成績ニ就テ(其三)。第三編。色素ノ生體ノ形態及ビ發育ニ及ボス影響並ニ囊胞染色能ニ就テ。【日微生物誌】23,昭4(1929)。(アメーバ)。

821. 野手雅信: 諸種色素ニヨル生體及ビ超生體染色ニ就テ。【日病理會誌】19,昭4(1929)。

822. 山本武雄: 色素細胞ノ生體染色ノ研究ニ於ケル漂白法ノ應用。【日微生物誌】24,昭5(1930)。(生物一般)。

823. 太田壽雄: 蠶ノ生體組織染色ニ就テ。【應用動物】2,2,昭5(1930)。

824. 仁藤隆作: 二十日鼠腹腔内遊走細胞ノ食喰及ビ之ト超生體染色及ビ生體染色トノ關係ニ就テ。同時ニ「セピヤメラニン」ヲ應用セル新實驗ノ報告。【傳研業績】35,昭5(1930)。(二十日鼠)。

825. 梅田虎雄: 角膜,皮膚,頸毛上皮ノ生體染色(第一編),(第二編)。【皮膚紀要】15,1,3,昭5(1930)。(蛙)。

826. 波多野輔久: 「モノアツオ」色素ヲ以テセル超生體核染色ノ研究。【日病理會誌】20,昭5(1930)。(白鼠,二十日鼠)。

827. 齋藤忠雄: 「ノイトラロート」超生體染色ニ於ケル「ノイトラロート」顆粒トギムサ染色ニ於ケル「アズール」顆粒トノ關係。【熊本醫會誌】6,4,昭5(1930)。(人)。

828. 杉山繁輝, 瀧川武雄: 食喰ト生體染色又ハ超生體染色トノ關係。【日病理會誌】20,昭5(1930)。(家兎)。

829. 松村達: 鹽基性色素生體染色ノ研究。

【日病理會誌】20,昭5(1930)。(ラツテ,マウス,家兎)。

830. 則武爲紀: Dis-azo 色素ヲ以テセル生體染色ノ研究。特ニNaphthalinsäureschwarz 4Bノ特異染色性ニ就テ。【日病理會誌】21,昭6(1931)。(ラツテ,マウス,家兎)。

831. 藤田九萬龜: 「デアミン」屬色素ノ生體染色研究。【日病理會誌】21,昭6(1931)。(マウス,蛙)。

832. 清野謙次, 波多野輔久: 「モノ・アツオ」色素ノ生體染色ノ研究。【日病理會誌】21,昭6(1931)。

833. 松村達: 鹽基性色素生體染色ノ研究。
1. 恒溫動物(内胚葉性細胞)。2. 恒溫動物(中胚葉性細胞)。3. 恒溫動物(外胚葉性細胞)。
4. 變溫動物(内胚葉性細胞)。5. 變溫動物(中胚葉性細胞)。6. 變溫動物(外胚葉性細胞)。
【日微生物誌】25,昭6(1931)。(ラツテ,マウス,金線蛙,青蛙)。

834. —: 「ワリスアツオ」色素染色性ノ研究。特ニ恒溫並ニ變溫動物生體染色ニ就テ。【日病理會誌】21,昭6(1931)。(マウス,青蛙)。

835. 橋慶一郎: 生體染色,超生體染色,食喰及ビ死後染色ニ關スル或ル根本問題ニ就テ。其一。酸性色素金屬「コロイド」及墨汁ヲ以テセル是等相互ノ境界域ニ就テノ觀察。【十全會誌】36,11,昭6(1931)。

836. —: 生體染色,超生體染色,食喰及ビ死後染色ニ關スル或ル根本問題ニ就テ。其二。「カルミン」溶液ノ製作ニ使用セル溶媒「アルカリ」又ハ水素「イオン」濃度ト血液細胞ノ超生體染色トノ關係。【十全會誌】37,4,昭7(1932)。(家兎)。

837. 塚本茂: 「ノイトラール」赤ニヨル生體染色及ビ超生體染色顆粒ノ固定法ニ就テ。【十全會誌】37,5,昭7(1932)。

838. 山崎正文: 中性赤ニ依ル生體染色顆粒ノ銀嗜好性ニ就テ(會)。【解剖誌】5,7,昭7(1932)。(マウス)。

839. Yamasaki, M.: Fixierung und Darstellung der vitalen Neutralrotgranula bei Warmblütern. [Arb. anat. Inst. Sendai] Heft 15,昭8(1933) (Maus)。

840. 橋慶一郎: 生體染色,超生體染色,食喰及ビ死後染色ニ關スル或ル根本問題ニ就テ。其三。鹽基性色素及ビ酸性色素ヲ以テセル蛙ノ生體複染色ニ就テ。【十全會誌】38,3,昭8(1933)。(蛙)。

841. 陶守三思郎: 家鷄ニ於テ生體染色ノ所見ヲ顧慮シタル脾臓出ニヨル卵巣ノ組織的變化

殊ニ卵巣細胞ノGolgi氏装置並ニ卵巣脂肪量ニ及ボスノ影響。【岡山醫會誌】45,4,昭8(1933)。(家鷄)。

842. 波多野輔久, 岩田茂: 變性生體染色ノ研究。特ニ「ラクムス」色素ノ生體染色ニ就テ。【滿洲醫誌】19,4,昭8(1933)。

843. 橋慶一郎: 生體染色,超生體染色,食喰及ビ死後染色ニ關スル或ル根本問題ニ就テ。其四。色素濃度ト組織性肥胖細胞ノ超生體染色及ビ死後染色ニ要スル時間トノ關係。【十全會誌】38,5,昭8(1933)。(二十日鼠)。

844. 石丸士郎: 生體染色顆粒ノ嗜銀法ニ就テ(會)。【解剖誌】6,4,昭8(1933)。(家兎,二十日鼠)。

845. 山崎正文: 酸性及ビ鹽基性色素ノ生體攝取關係ニ就テ。【解剖誌】6,4,昭8(1933)。(マウス)。

4. 組織培養一般

846. 角田隆: 動物組織ノ人工培養ニ就テノ進歩。【京都府醫專誌】63,大2(1913)。(脊椎動物)。

847. 連水猛: 組織體外培養(綜)。【日新醫學】4,3,大3(1914)。

848. 緒方知三郎, 石橋松藏: 家鷄組織體外培養。【臨】10,2,大5(1916)。

849. 内藤賢次: 組織體外培養ニ於ケル細胞發育ニ及ボス水溶性「ヴァイタミン」ノ影響ニ就テ。【實驗醫誌】8,4,大13(1924)。(鶏)。

850. Naito, K.: Studien über die intrazellulären Fettgranula in der Gewebekultur. [Scient. Reports from the Gover. Inst.] 4,大14(1925)。

851. 内藤賢治: 組織體外培養ニ於ケル細胞體內ニ形成セラルル脂肪顆粒ニ就テ。【實驗醫誌】9,3,大14(1925)。(鶏胎芽)。

852. 村尾圭介: 組織體外培養ニ依ル數項ノ實驗。【實驗醫誌】9,3,大14(1925)。(鶏)。

853. 石橋松藏: 體外組織培養ニヨル細胞ノ機能的及ビ形態學的研究。特ニ膽色素生成部位ト網狀織内皮細胞トノ關係。【醫公論】819,昭3(1928)。(人,犬,モルモット,家兎,家鷄,ガマ,鯉)。

854. 清野謙次, 服部銈三: 組織體外培養ト生體染色ニヨル細胞ノ間接核分裂時ニ於ケル顆粒ノ態度ニ就テ。【日病理會誌】19,昭4(1929)。(雞胎)。

855. 服部銈三: 組織體外培養ト色素。【日病理會誌】19,昭4(1929)。(雞胎,家兎)。

856. 三杉義利, 藤澤義雄: 組織ノ發育ニ及ボス血漿及ビ臟器ノ年齡的關係(組織體外培養

法ニヨル研究)(演)。【兒科誌】353,昭4(1929)。(家兎)。

857. 石川治: 組織培養法ニ依ル組織ノ寒冷ニ對スル抵抗力ニツキテ。【成醫會誌】49,昭5(1930)。

858. 服部銈三, 小延俊雄: 組織體外培養法ニヨル細胞學的研究。【日病理會誌】20,昭5(1930)。

859. 西部増次郎: 組織培養ノ細胞學の基礎及ビ二三ノ考察(綜)。【北越醫會誌】45,10,昭5(1930)。

860. 柴田經一郎: 組織培養(綜)。【北越醫會誌】45,3,昭5(1930)。

861. 服部銈三: 體外培養組織ニ及ボス色素ノ影響ニ就テ(綜)。1. 家鷄胎兒心臟培養組織ニ及ボス色素ノ影響。2. 家鷄胎兒脾臟培養組織ニ及ボス色素ノ影響。3. 結締織形成細胞ノ純粹培養ニ及ボス影響並ニ全篇ノ總括。【日微生物誌】24,昭5(1930)。

862. —: 組織體外培養法ニ據ル生體染色ノ研究。1. 家鷄胎兒脾臟並ニ心臟組織培養法及ビ酸性色素染色法ニ就テ。2. 鹽基性色素ニ就テ。3. 食喰作用二三ノ知見ニ就テ。【日微生物誌】24,昭5(1930)。

863. 榊原賢三: 組織培養ニヨル硬レ線ノ生物學的作用研究。【日レントゲン會誌】9,5,昭7(1932)。(鶏,二十日鼠)。

864. 佐々木録三郎: 組織體外培養法ニ依ル造骨機轉ニ關スル研究。附軟骨組織ノ體外培養知見補遺。【臨床病理血液學誌】2,9,昭8(1933)。(家鷄胎兒)。

865. 仲田唯造: 酸鹽基平衡ガ組織體外培養ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究(上,中,下)。【日新醫學】22,12; 23,1,2,昭8(1933)。(幼若家兎)。

866. 後藤五郎: 組織培養ニ及ボスレントゲン線作用ニ關スル實驗補遺。【日レントゲン會誌】11,1,昭8(1933)。(鶏)。

5. グリコゲン

867. 大橋義郁: 「グリコゲン」ノ顯微化學的研究綜説(綜)。【北越醫會誌】37,5,大11(1922)。

868. —: 人獸ト無尾類ト「グリコゲン」ノ分佈比較。【日醫學】13,44,大12(1923)。

869. —: 無尾兩棲類ニ於ケル「グリコゲン」ノ分佈所見。【北越醫會誌】38,3,大12(1923)。(水蛙,ヒキ蛙,雨蛙)。

870. 平瀬信太郎: 軟體動物ノ「グリコゲン」ニ就テ(抄)。【動物誌】36,426,大13(1924)。(カラ

スガヒ).

871. Ohhashi, Y.: Comparison of the distributions of glycogen in mammals and anura (*Rana nigromaculata* et *Bufo bufo japonicus*). [Jap. med. World] 4, 3. 大13(1924).

872. 中野 理: 生理的狀態ニ於ケル「グリコゲン」分佈ニ就テ(猿ノ諸臟器ニ於ケル「グリコゲン」分佈). [北越醫會誌] 40, 6. 大14(1925).

873. 阿部脩三郎: 人胎芽ニ於ケル「グリコゲン」顯微化學的研究知見補遺. [愛知醫會誌] 33, 5. 大15(1926).

874. 中野 理: 副腎別出ニヨル諸臟器「グリコゲン」ノ變化ニ就テ. [北越醫會誌] 41, 1. 大15(1926). [白鼠].

875. —: 死後ニ於ケル「グリコゲン」消失現象ノ顯微鏡所見. [北越醫會誌] 42, 1. 昭2(1927). [家兔, 白鼠].

876. —: 爬蟲類(蛇, トカゲ)ニ於ケル「グリコゲン」分佈特ニ冬眠ト「グリコゲン」. [北越醫會誌] 43, 1. 昭3(1928). [Natrix tigrina (Boie), Natrix vilakari (Boie), Elaphe quadrivirgata (Boie), Elaphe climacophora (Boie), Elaphe conspicillata (Boie), Tachydromus tachydromoides Schl.].

877. —: 冬眠哺乳動物(蝙蝠)ニ於ケル「グリコゲン」分佈. [解剖誌] 1, 2. 昭3(1928).

878. 小出貞亮: 諸組織ニ於ケル糖原質ノ分解ニ生成機能ノ組織學的比較研究. [千葉醫會誌] 6, 6, 11, 12. 昭3(1928). [マウス, 白鼠].

879. 今川與書: 「スナヤツメ」發育各階程及ビ季節ノ影響ニヨル「グリコゲン」及ビ脂肪物質ノ分佈消長ニ就テ. 前編. 「グリコゲン」分佈消長ニ就テ. [北越醫會誌] 44, 8. 昭4(1929).

880. 中野 理: 冬眠ト「グリコゲン」(抄). [北越醫會誌] 44, 1. 昭4(1929).

881. 梶村正義: 蝙蝠妊娠時ニ於ケル子宮間膜側部及ビ卵黃囊「グリコゲン」ノ分佈及ビ消長(會). [解剖誌] 3, 3. 昭5(1930).

882. 吉田捷治: 軟體動物有肺類(蛞蝓)ニ於ケル「グリコゲン」分佈及ビ其冬眠ヲ中心トシテノ季節的消長. [北越醫會誌] 45, 2. 昭5(1930).

883. 鄧 一十: 有尾兩棲類ニ於ケル「グリコゲン」ノ分佈及ビ其季節的關係ニ就テ. [朝鮮醫會誌] 21, 1. 昭6(1931). [イモリ].

884. 今川與書: 「スナヤツメ」ノ發育各階程及ビ季節ノ影響ニ依ル「グリコゲン」及ビ脂

肪ノ分佈消長ニ就テ. 後編. 脂肪ノ分佈消長ニ就テ. 續編. 「グリコゲン」及ビ脂肪ノ綜合的觀察及ニソノ相互關係ニ就テ. [北越醫會誌] 48, 7. 昭8(1933).

885. 小林靜夫: 哺乳類ノ幼仔及ニ胎兒ノ口腔器ニ於ケル「グリコゲン」發現狀態. [臺灣醫學月報] 65. 昭8(1933).

6. 結締織一般, 結締織細胞

886. 杉山繁輝: 結締織纖維ノ生體染色及ニ超生體染色ニ就テ(超生體染色ノ研究. 其12). [日微生物誌] 18. 大13(1924). [哺乳類].

887. 梶村正義: 諸臟器ニ於ケル結締織纖維走向ニ就テ. [北越醫會誌] 41, 3. 大15(1926). [成人, 人胎兒, 猿].

888. 山崎春三: 結締織性纖維及ニ其形成細胞ニ就テ. (1) 格子狀纖維第1類α型ト其形成細胞. 附: 鵝胎兒肝臟ニ於ケル格子狀纖維. [日微生物誌] 22. 昭3(1928). [人, 鵝].

889. —: 結締織性纖維及ニ其形成細胞ニ就テ. (2) 格子狀纖維ニ就テ(種類及ニ發生). (格子狀纖維第2類α型ト其形成細胞及ニ膠質纖維ト其形成細胞). [日微生物誌] 22. 昭3(1928). [鵝].

890. —: 結締織性纖維及ニ其形成細胞ニ就テ. (3) 格子狀纖維ニ就テ(種類及ニ發生). 格子狀纖維第2類β型ト其形成細胞及ニ膠質纖維ト其形成細胞. [日微生物誌] 22. 昭3(1928). [鵝].

891. —: 結締織性纖維及ニ其形成細胞ニ就テ. (4) 肺臟間質結締織性纖維ノ發生(網狀纖維及ニ其形成細胞)ニ就テ. [日微生物誌] 22. 昭3(1928). [鵝].

892. —: (7) 結締織性纖維及ニ其形成細胞ニ就テ. [日微生物誌] 22. 昭3(1928). [鵝].

893. —: 結締織性纖維及ニ其形成細胞ニ就テ. 余ガ結締織纖維ノ研究ニ用ヒタル鍍銀切片灰化標本ニ就テ. [日微生物誌] 22. 昭3(1928).

894. 茶谷 真: 生體及ビ死體ヨリ取りタル結締織細胞ノ食食ニ就テ. 其一. 家兔結締織細胞ノ食食期限ニ及ニボス溫度ノ影響. [十全會誌] 33, 10. 昭3(1928).

895. —: 生體及ビ死體ヨリ取りタル結締織細胞ノ食食ニ就テ. 其二. 家兔結締織細胞ノ食食速度ニ及ニボス溫度ノ影響. [十全會誌] 33, 10. 昭3(1928).

896. —: 生體及ビ死體ヨリ取りタル結締織細胞ノ食食ニ就テ. 其三. 人及ビ二十日鼠死體ヨリ取りタル結締織細胞ノ食食及ニ溫度ノ

影響. [十全會誌] 34. 昭4(1929).

897. —: 生體及ビ死體ヨリ取りタル結締織細胞ノ食食ニ就テ. 其四. 蛙結締織細胞ノ食食期限及ニ食食速度ニ及ニボス溫度ノ影響. [十全會誌] 34. 昭4(1929). [金線蛙].

898. Nemoto, Mamoru (根本 衛): Influence of the Temperature upon the Life Duration and the Growth of the Fibroblast Cultivated in Vitro. [Tohoku, J. exp. Med.] 14, 1. 昭4(1929). [Heart muscle of the chicken embryo].

899. Adachi, A.: Über den Einfluss fluoreszierender Stoffe auf Wachstum der Fibroblasten in Vitro. [Cytologia] 1, 3. 昭5(1930). [Embryonales Hühnerherz].

7. 格子狀纖維

(891-898 参照)

900. 吉田坦藏: 淋巴腺「ギョッテルフェーゼン」ニ就テ. [臺灣醫會誌] 9, 90. 明43(1910).

901. 今村準稻: 格子狀纖維ニ就テ(會). [東京醫誌] 1694. 明43(1910).

902. —: 格子狀纖維ニ就テ. [醫新聞] 819. 明43(1910).

903. 松井芳雄: 所謂「ギョッテルフェーゼン」ノ標本供覽(抄). [北越醫會誌] 191. 大2(1913).

904. —: 格子狀纖維ニ關スル現今ノ知識(綜). [日新醫學] 3, 9. 大3(1914).

905. 長谷川知雄: 格子狀纖維鍍銀法ニ就テ. [北越醫會誌] 34, 3. 大8(1919).

906. 齋藤 節: 格子狀纖維ノ性状ニ關スル研究. [北海道醫誌] 1, 3, 4. 大13(1924). [人ノ肝及ビ脾].

907. 上野張武: 格子狀纖維ニ就テ. [日病理會誌] 15. 大15(1926).

908. 山崎春三: 格子狀纖維ニ就テ(其ノ發生ニ就テ). [日病理會誌] 16. 大15(1926). [家鴨及ビ家鴨].

909. —: 格子狀纖維ニ就テ. 其ノ種類及ビ發生. [日病理會誌] 17. 昭2(1927). [雞胎].

8. 彈力纖維

910. 中井元吉: 生物體ニ於ケル彈力纖維ノ發生及ビ其組織機能トノ關係ニ就テ. [醫新聞] 713. 明39(1906). [雞胎].

911. 佐藤 清: 體外培養ニ於ケル彈力纖維ノ新生ニ就テ. [日病理會誌] 20. 昭5(1930). [家兔胎兒].

912. 今川與書: 彈力纖維ノ研究. 第一報. 膜樣組織ノ彈力纖維ニ就テ(抄). [北越醫會誌] 48, 10. 昭8(1933). [人及ビ動物].

913. —: 彈力纖維ノ研究. 第二報. 血管ノ彈力纖維ニ就テ(抄). [北越醫會誌] 48, 13. 昭8(1933). [人].

9. 脂肪組織

914. 柴田長道, 遠藤繁清: 臟器脂肪量ニ關スル組織學的及ニ化學的研究. [日病理會誌] 1. 明44(1911). [人].

915. 山口正道: 鶏雛孵化中及ニ孵化後ニ於ケル脂肪物質代謝. 附: 脂肪組織ノ形成ニ就テ. [北越醫會誌] 32, 4. 大6(1917).

916. 森 茂樹: 超生體脂肪顆粒染色ニ關スル研究. [京都醫誌] 21, 3. 大13(1924). [家兔, 白鼠, 二十日鼠].

917. —: 生體脂肪染色ニ關スル研究(第一報). 一過性生體脂肪染色ニ關スル研究. [京都醫誌] 21, 4. 大13(1924). [家兔, 白鼠, 二十日鼠, 蛙].

918. —: 生體脂肪染色ニ關スル研究(第二報). 持續性生體脂肪染色ニ關スル研究. [京都醫誌] 22, 2. 大14(1925). [家兔, 家鴨].

919. 中瀬隆造, 菊地伊太郎: 正常實驗動物ノ肝臟及ニ心筋ニ於ケル脂肪顆粒ニ就テ. [中外醫學報] 1080. 大14(1925).

920. 村松榮治: 魚類ニ於ケル脂肪ニ就テ. [新潟病報] 1. 昭2(1927).

921. 古賀收藏: 脂肪變性ニ於ケル脂肪顆粒ト「ミトコンドリア」トノ關係ニ就テ(實驗的研究). [福岡醫誌] 20, 7. 昭2(1927).

922. 梶原一雄: 硬レ線作用ニヨル組織内脂肪及ビ類脂肪ノ消長ニ就テ. [日レントゲン會誌] 9, 1. 昭6(1931). [白鼠].

923. —: 硬レ線作用ニヨル生體內脂肪及ビ類脂肪ノ消長ニ就テ. [日レントゲン會誌] 9, 5. 昭7(1932). [ラット].

924. 藤田秀一: 脂肪組織ノ超生體染色及ニ死後染色ニ關スル研究. [十全會誌] 38, 11. 昭8(1933). [家兔].

925. 今川與書: 川村矢崎氏法及ニ通常「ズダン」法ニ於ケル成績ノ比較及ニ「スナヤツメ」全身臟器ニ於ケル脂肪ノ比較研究(抄). [北越醫會誌] 48, 6. 昭8(1933).

926. 井出 弘: 川村染色法ニ依ル扁桃腺及ニ上顎窩粘膜炎脂肪物質ノ檢索. [大日耳鼻] 39, 10. 昭8(1933). [人].

10. 腫

927. 赤岡省五, 望月周三郎: 白鼠尾腫中=存スル一種ノ網絡裝置=就テテ. 【京都醫誌】18, 3, 大10(1921).

11. 肥腫細胞

928. 新井昌平: 腹腔液内ノ肥腫細胞生成=就テ. 附: 組織性肥腫細胞顆粒ノ生成=就テ. 【東北醫誌】8, 3, 大14(1925). 【南京鼠, 豚】.
929. —: 組織性肥腫細胞ノ生成=就テ. 【東北醫誌】8, 3, 大14(1925). 【南京鼠, 豚】.
930. 中條資俊: 組織性肥腫細胞ノ研究補遺. 【日病理會誌】15, 16, 大15(1926). 【犢牛, 豚】.
931. Nakajima, Yoshio: Studien über die Gewebemastzellen. 【Scient. Reports from the Govern.-Inst.】6, 昭2(1927). 【Mensch, Affe, Hund, Katze, Meerschweinchen, Ratte, Maus】.
932. 中島義夫: 組織肥腫細胞ノ研究. 【日病理會誌】17, 昭2(1927). 【白鼠】.
933. 中條資俊: 組織性肥腫細胞=就テ. 【日新醫學】17, 3, 昭2(1927). 【鼠, マウス, ラッタ, 山羊人】.
934. 中島義夫: 組織肥腫細胞ノ研究. 【實驗醫誌】12, 3, 昭3(1928). 【人, 猿, 犬, 猪, 家兔, モルモット, 鼠】.
935. —: 組織肥腫細胞ノ研究. 【傳研業績】11, 昭3(1928). 【人, 猿, 犬, 猪, 家兔, モルモット, ラッタ, マウス】.
936. 佐々木守夫: 組織性肥腫細胞=就テ. 【滿洲醫誌】17, 昭7(1932). 【蟻類】.
937. 三浦信之: 諸種動物=於ケル組織肥腫細胞ノ組織學的比較研究. (第1-3報). 【東北醫誌】14, 昭7(1932). 【人, 犬, 猪, 家兔, 海狗, ラッタ, マウス, 鷄, 雀, 蛇, 石魚, スッポン, 蝦蟇, 赤蛙, 蟾蜍等ノ各種臓器】.

12. 内皮

938. 小金井貞精: トル=エル氏腺内皮細胞ノ籠毛説. 【東京醫誌】457, 458, 明20(1887). 【アキソロットル, サラマンドラ・マクラタ, トリトン・テニアーツス, イダチウス】.
939. 大澤岳太郎: 延張=因ツテ起ル所ノ内皮細胞ノ變化. 【東京醫會誌】7, 10, 明20(1893).
940. 佐藤清: 廣義=於ケル一般内被ノ形態學的研究. 附: 血液中ノ單核細胞=就テ. 【東京醫會誌】33, 18, 19, 大8(1919). 【人, 家兔, 海狗】.

941. 國友鼎, 三井田積: 漿液膜ノ被蓋上皮ノ開孔=就テ(會). 【解剖誌】2, 3, 昭4(1929). 【哺乳動物】.
942. 三井田積: 肋腹膜被蓋細胞(Deckzellen)ノ憲狀缺損=就テ. 【解剖誌】2, 3, 昭4(1929). 【犬, 猪, 家兔】.
943. 西部増治郎: 心臓内被細胞ノ純粹培養=就テ. 【日病理會誌】20, 昭5(1930). 【家雞胎兒】.
944. 永谷鼎: 腹膜内皮細胞ノ年齢的差異. 【兒科誌】308, 昭8(1933). 【山羊】.

13. 組織球, 網狀内皮

945. 清野謙次: 組織球性細胞(網狀内被細胞)ノ機能=就テ(綜). 【京都醫誌】13, 1, 大5(1916).
946. 清野謙次, 中院孝園: 組織球性細胞説. (上, 中, 下). 【日新醫學】8, 4-6, 大7-8(1919-19). 【家兔, 家雞】.
947. Seki, Masaji: Über die Galvanotaxis der Histiozyten und über den Einfluß ihrer elektrischen Eigenladung auf ihr phagozytäres Vermögen. 【岡山醫會誌】35, 402, 大12(1923). 【Kaninchen, Meerschweinchen, Ratte, Maus, Taube】.
948. 南廣憲: 重金属鹽類ト網狀内被細胞系統, 殊ニ結核感染ト免疫=對シテ. 【結核】3, 4, 大14-15(1925-26).
949. 上田春次郎: 網狀内被細胞系統ノ概観. 【實驗醫報】12, 141-144, 大15(1926).
950. 小宮悦造: 網狀内被細胞ト貧血. 【日本學術協會報告】4, 昭3(1928). 【家兔】.
951. 大塚憲治: 生體染色ヲ應用セル組織球(清野)ノ結膜囊内出現=關スル實驗的研究. 【日眼會誌】32, 7, 昭3(1928). 【家兔】.
952. 石島福督: 網狀内被細胞系統ノ機能=關スル研究. 【千葉醫會誌】6, 8, 昭3(1928). 【犬】.
953. 高野安茂: 組織培養法=ヨル網狀内被細胞系統機能ノ研究. 免疫現象ノ研究. 【軍醫醫】187, 昭4(1929). 【鷄胎】.
954. —: 組織培養法=ヨル網狀内被細胞系統機能ノ研究. 「デアスターゼ」及「リパーゼ」=就テ. 【軍醫醫】187, 昭4(1929). 【鷄胎】.
955. 古賀真彦: レ線放射ノ網狀内被細胞ノ色素攝取=及ボス影響=就テ. 【日レントゲン會誌】7, 1, 昭4(1929). 【鼠】.
956. 北岡弘: 網狀内被細胞系統ノ生理的機能=關スル研究. 【日レントゲン會誌】7, 1, 昭4(1929).

957. —: 網狀内被細胞系統特ニ脾臟=關スル研究. 【日レントゲン會誌】8, 1, 昭5(1930). 【家兔】.
958. 勝矢信司: 産科學婦人科學領域ニ於ケル網狀内被細胞系統ノ意義. 【近畿婦誌】13, 4, 昭5(1930). 【家兔】.
959. Katsuya, Sh.: The Reticulo-Endothelial-System in Obstetrics and Gynaecology. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】13, 4, 昭5(1930).
960. 武田徳晴: 網狀内被細胞機能検査法(アドラー, ライマン氏法=對スル疑義). 【結核】8, 5, 昭5(1930). 【家兔】.
961. 於保源作: 網狀内被細胞系統ノ研究(其一). 網狀内被細胞系統「ホルモン」及ビ植物性神経系トノ關係. 【日病理會誌】20, 昭5(1930). 【マウス】.
962. 渡邊金次郎: 組織球性細胞=於ケル銀反應. 【日病理會誌】20, 昭5(1930). 【家兔】.
963. 我部政光: 各種臓器竝ニ組織=對スル組織球ノ親和性=就テ(其五). 「カルミン」細胞眼房内注射=ヨル研究. 【日病理會誌】20, 昭5(1930).
964. 濱崎幸雄, 渡邊野男: 各種臓器竝ニ組織=對スル組織球ノ親和性=就テ(其三). 「カルミン」細胞仔兔血管内注射=ヨル研究. 【日病理會誌】20, 昭5(1930).
965. 濱崎幸雄, 我部政光: 各種臓器竝ニ組織=對スル組織球親和性=就テ(其四). 「カルミン」細胞皮下結締組織内注射=ヨル實驗的研究. 【日病理會誌】20, 昭5(1930).
966. 小池藤太郎: 皮膚組織球ノ研究(其2). 【岡山醫會誌】42, 489-488, 昭5(1930). 【家兔, 白鼠】.
967. 武田徳晴: 家兔靜脈内ニ注入セラレタルCongorot 溶液ノ分布ト消失過程殊ニソノ網狀内被細胞=ヨル顆粒狀攝取要約=就テ(第一, 第二報). 【傳研業績】22, 昭5(1930).
968. 武田徳晴: 網狀内被細胞機能検査法(Adler & Reimann)=對スル疑義. 【實驗醫誌】14, 6, 昭5(1930). 【家兔】.
969. 江本 倩: 網狀内被細胞裝置=就テ(綜). 【應用獸醫學誌】3, 6, 7, 昭5(1930).
970. Oike, M.: Morphological Investigation of the Reticulo-Endothelial-System in the Oestrus, Pregnancy and Puerperium of the Rabbit. 【Jap. of Obst. and Gyn.】14, 5, 昭6(1931).
971. 阪井有隣: 組織球ノ標本供覽(會). 【耳鼻】4, 5, 昭6(1931).

972. 尾池元太郎: 家兔ノ起水期, 妊娠期及ビ分娩後期=於ケル網狀内被細胞系統ノ形態學的研究. 【近畿婦誌】14, 4, 昭6(1931).
973. 原田英實: 長期間ノ異物注射=ヨル網狀内被細胞系ノ反應. 【千葉醫會誌】9, 7; 10, 7, 昭6-7(1931-32). 【家兔】.
974. 古賀真彦: レ線放射=ヨル家兔網狀内被細胞系統ノ色素攝取血液殺菌能及ビ組織無機鹽類含有量ノ變化相互間ノ關係. 【日レントゲン會誌】10, 1, 昭7(1932).
975. 村山五瀬男: 網狀内被細胞系統ト「ザルプルラン」. 【福岡醫大誌】25, 4, 昭7(1932).
976. 田村正一: 諸種ノ化學的物質ガ組織球ノ貪喰機能=及ボス影響=就テ. 其 1. 20種ノ鹽類ガ體外組織球ノ貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 2, 昭8(1933). 【家兔】.
977. —: ———. 其 2. 12種ノ糖類ガ體外組織球ノ貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 3, 昭8(1933). 【家兔】.
978. —: ———. 其 3. 11種ノ金屬「コロイド」ガ體外組織球ノ貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 5, 昭8(1933). 【家兔】.
979. —: ———. 其 4. 17種ノ色素ガ體外組織球貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 8, 昭8(1933). 【家兔】.
980. —: ———. 其 5. 9種ノ内分泌臓器製劑ガ體外組織球ノ貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 9, 昭8(1933). 【家兔】.
981. —: ———. 其 6. 11種ノ強心劑ガ體外組織球ノ貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 10, 昭8(1933). 【家兔】.
982. —: ———. 其 7. 11種ノ鎮痛劑ガ體外組織球ノ貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 11, 昭8(1933). 【家兔】.
983. —: ———. 其 8. 9種ノ局所麻醉藥ガ體外組織球貪喰機能及ビ生存期間=及ボス影響. 【十全會誌】38, 12, 昭8(1933). 【家兔】.
984. 波多野輔久, 岩田 茂: 組織球ノ水素「イオン」濃度=關スル研究(第一編). 腹腔内遊走組織球ノ PH. 【滿洲醫誌】19, 昭8(1933). (指示染色系ノ生體染色=ヨル測定)(二十日鼠, 白鼠).
985. —, —: ———. (第二編). 腹腔内遊走組織球ノ水素「イオン」濃度. 【滿洲醫誌】19, 昭8(1933). (變温動物特ニ金線鼠).

- 986. 渡邊四郎: 皮下組織球ノ體外ニ於ケル墨粒食喰試驗法. 【十全會誌】38,12. 昭8(1933). [家兔].
- 987. 關正次: 組織球及ビ網狀織内皮ニ鹽基性物質ノ多キコトノ染色證明. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933). [家兔].

14. 軟骨組織

- 988. 堀澤治吉, 田澤孝次: 肋軟骨ノ組織の所見ニ就テ. 【日病學會誌】6. 大5(1916). [人].
- 989. 工藤得安: 軟骨ノ「アルキテクトール」ニ就テ(抄). 【北越醫會誌】33,6. 大7(1918). [人, 牛, 豚].
- 990. 長松英一: 硝子様軟骨基質内通液小管 Saftkanälchen = 就テ(會). 【東京醫誌】2293. 大11(1922). [人及ビ動物].
- 991. Uchida, Tohru (内田 亨): On the white markings of some Rhizostome Medusae due to a cartilaginous tissue. 【Jap. J. of Zool.】1. 大11-昭3(1922-28). [Mastigias papua, M. ocellata, Zooxanthellae].
- 992. 長松英一: 硝子様軟骨基質内通液小管 Saftkanälchen = 就テ(抄). 【福岡醫大誌】15. 4. 大11(1922).
- 993. —: 硝子様軟骨基質ニ於ケル通液小管系統ニ就テ. 【愛知醫會誌】31,5. 大13(1924). [人].
- 994. —: 硝子様軟骨基質ノ色調差異Farbendifferenz 發現變遷ニ就テ. 【愛知醫會誌】31,6. 大13(1924). [人].
- 995. —: 硝子様軟骨細胞ノ研究. 【福岡醫大誌】17,9,10. 大13(1924).
- 996. Tsusaki, Takamichi: Zur Morphologie des knorpeligen Accessorius der Chiropterenhand. 【Mitt. med. Akad. Keijo】8,4. 大14(1925). [Miniopterus schreibersi jap., Rhinolophus min., Plecotus aurit., Nyctalus aviator, Nyct. noct., Hipposideros armiger terasensis, Pipistrellus abramus].
- 997. 奥山美雄: 人體軟骨系統ニ於ケル脂肪ニ就テ(抄). 【北越醫會誌】44,2. 昭4(1929).
- 998. 松島伯一: 軟骨細胞化生ニ就テノ疑義(會). 【九大醫報】3,3. 昭4(1929).
- 999. —: 所謂軟骨殘遺ニ關スル知見補遺(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
- 1000. 奥山美雄: 人體軟骨系統ニ於ケル脂肪ノ形態學的研究. 【新潟病報】17. 昭5(1930).
- 1001. 村田祥一郎: 軟骨細胞ニ於ケル Kern-

- Knäuel-Linie = 就テ(會). 【解剖誌】5,7. 昭7(1932).
- 1002. —: 移植セル軟骨細胞ノゴルヂー體ニ就テ(會). 【解剖誌】6, 4. 昭8(1933). [家兔].
- 1003. —: 軟骨細胞ニ於ケルゴルヂー體ニ就テ. 【十全會誌】38,10. 昭8(1933). [家兔, 海狗].
- 1004. —: 軟骨細胞ニ於ケルゴルヂー體ノ實驗的研究. 【十全會誌】38,10. 昭8(1933). [家兔].

15. 骨組織, 骨髓

- 1005. 中山森彦: 銃創骨ノ組織及ビ發生原理ニ就テ. 【濟生學會醫報】90. 明33(1900). [人].
- 1006. 今井 裕, 花澤 鼎: 病的及ビ生理的組織ニ於ケル石灰ニ乏シキ骨層板系統ニ就テ. 【日病學會誌】2. 大2(1913). [人].
- 1007. 町井 剛: 骨組織ノ石灰ニ就テ. 【第四回日醫會誌】大1(1915). [人].
- 1008. —: 骨組織ノ石灰ニ就テ. 【日病學會誌】4. 大1(1915). [人].
- 1009. 名古屋長藏: 骨髓ノ淋巴細胞ニ就テ. 【日病學會誌】6. 大5(1916). [人].
- 1010. 清野謙次, 田中康昌: 骨質ノ生體染色ニ就テ. 【日病學會誌】6. 大5(1916).
- 1011. —, —: 骨質ノ生體染色ニ就テ. 【日外會誌】17. 大5-6(1916-17).
- 1012. Mayeda, Tomosuke: Über die Elastizität und Festigkeit der Knochensubstanz. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】17,3. 大6(1917). [Mensch].
- 1013. Groot, I. G.: Étude sur l'Hématopoïèse dans l'utérus gravide de Tupaja javanica et d'autres Mammifères, et dans la moelle osseuse rouge des Mammifères adultes. 【J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.】大7-8(1918-19).
- 1014. 清野謙次, 田中康昌: 骨髓形成初期ニ於ケル組織球性細胞ノ發生ニ就テ. 【京都醫誌】17,6,7. 大9(1920). [鳥類].
- 1015. 石澤命達: 骨髓ノ組織學的竝ニ細胞學的研究(第一報). 【阪醫會誌】20,8. 大10(1911). [犬, 猫, 家兔, 白鼠, 二十日鼠].
- 1016. 前川 齊, 堀内千保: 骨髓巨大細胞竝ニ同核ノ肺毛細管栓塞ニ關スル實驗的研究. 【京都醫誌】21,2. 大13(1924). [家兔].
- 1017. 熊取成次: 骨髓性巨態細胞ノ再生ニ就テ. 【日微生物誌】18. 大13(1924). [家兔].

- 1018. 志摩次郎: 「ベンツオール」ニ關スル實驗的研究, 特ニ其年齡的差異ニ就テ(第二編), 骨髓ノ組織學的研究. 【日微生物誌】20. 大15(1926). [家兔].
- 1019. 神川一裕: 所謂骨橫梁ニ就テ. 【日整形會誌】3,2. 昭3(1928). [人].
- 1020. —: 所謂骨橫梁ニ就テ(會). 【東京醫誌】2582. 昭3(1928). [人].
- 1021. 熊谷藏之充: 骨組織再生機轉ニ及ボス電流(直流)ノ影響ニ就テ(會). 【解剖誌】1, 1. 昭3(1928).
- 1022. 齋藤明彦: 骨髓諸細胞ノ微細構造ニ關スル實驗的研究(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [家兔].
- 1023. 大野敏夫: 骨髓細胞成立ノ血像竝ニ造血臟器ニ及ボス影響ニ就テ(第三報), 骨髓細胞成分注入ノ際ニ於ケル網狀赤血球ノ態度. 【傳研業績】5. 昭3(1928). [家兔].
- 1024. Ono, Masao: An experimental study on the erythropoietic function of the bone marrow. I. —III. 【Jap. med. World】8,9, 11; 9. 1. 昭3-4(1928-29). [Rabbit].
- 1025. Otuki, Kikuo (大槻菊男): Untersuchungen über den Einfluss des Arsens auf den Regenerationsprozess des Knochengewebes und den enchondralen Ossifikationsprozess an die Epiphysenfuge. 【Jap. J. of med. Sci., IV. Pharm.】4. 1. 昭4-5(1929-30). [Kaninchen].
- 1026. 三宅正雄: 骨質内ニ於ケル血管ノ微細構造ニ就テ. 【解剖誌】2,4. 昭4(1929). [人ノ下顎骨, 大腿骨及ビ椎骨].
- 1027. 西岡時雄: 骨組織ニ存スル結晶性物質ノレントゲン「クリスタログラフ」ニヨル分析. 【レントゲン會誌】7,1. 昭4(1929). [人].
- 1028. 岩本嘉文: 所謂破骨細胞ノ原基及ビ機能ニ就テ(會). 【解剖誌】2,2. 昭4(1929). [人胎].
- 1029. —: 所謂破骨細胞ノ原基, 機能, 出現時及ビ最初ノ骨膜桿ヲ通ズル小孔ノ數ニツキテ. 【解剖誌】3,1. 昭5(1930). [人胎兒].
- 1030. 中留金藏: 骨質竝ニ齒牙ノ生體染色ニ關スル實驗的研究. 【軍醫圖】208. 昭5(1930). [白鼠].
- 1031. 堀井五十雄, 忽那將受: 骨組織重屈折性ノ成因ニ就テ(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
- 1032. Shirakawa, Shigekiyo: Untersuchungen über die transmikroskopische Struktur des Lebewesenkörpers. 5. Das Hauptsalz im Knochengewebe. 【Acta Scholae med. Kioto】13. 昭5-6(1930-31). [Mensch].

- 1033. 勝沼精藏: 日本ニ於ケル石器時代人間及ビ動物ノ骨髓細胞ニ就テ. 「ヒヨンドリオンマ」ニ就テ. 【日病學會誌】20. 昭5(1930).
- 1034. 横川貞夫: 管狀骨緻密質ノ構造ニ就テ. 【北海道醫誌】9,4. 昭6(1931). [牛].
- 1035. 井上 潔: 人骨組織ノ微細構造ニ就テ. 【解剖誌】4,4. 昭6(1931).
- 1036. 田平榮造: ローゼル氏骨改質層ニ關スル實驗的研究. 【福岡醫大誌】25,2. 昭7(1932). [家兔].
- 1037. 坂口幸介: 長骨ニ於ケル Spaltlinie ニ就テ(會). 【九大醫報】6,6. 昭7(1932).
- 1038. 齋藤明彦: 骨髓ノ細胞學的研究. 【解剖誌】4,10. 昭7(1932). [哺乳動物 特ニ家兔].
- 1039. 井上 潔: 骨基質構造ノ研究. 【千葉醫會誌】10,6. 昭7(1932). [人].
- 1040. 坂口幸介: 骨緻密質ノ構築の觀察(會). 【解剖誌】6,4. 昭8(1933). [人, 猿, 犬, 猫, 熊, 鹿, 山羊, 牛].

16. 上 皮

- 1041. 小金井夏精: 麩毛上皮ノ精密ナル構造ニ於ケルフレンツェル氏ノ實驗. 【東京醫誌】464. 明20(1887). [有袋蟲, 蠅蟲, アブリシヤ等].
- 1042. —: —. 【北越醫會報】1. 明20(1887). [有袋蟲, アブリシヤ].
- 1043. 佐口 榮: 麩毛細胞ニ就テ. [單行] 大4(1915). [無脊椎動物, 兩棲類, 爬蟲類, 哺乳類].
- 1044. —: 小皮緣學說ト小桿體學說(會). 【十全會誌】22,3. 大6(1917).
- 1045. —: アンズギー, レノーセック兩氏學說ノ價值(會). 【十全會誌】22,3. 大6(1917).
- 1046. Matsumoto, Shin-ichi & Ishimaru, Hajime: A Contribution to the Study of Epithelial Movements. The Corneal Epithelium of Warm-blooded Animals in Tissue Culture. 【Acta Scholae med. Kioto】5. 大11-12(1922-23).
- 1047. 石川信一, 下村西郎: 上皮細胞ノ貪喰作用竝ニ自動運動ニ就テ. 【皮膚紀要】6,4. 大14(1925). [蛙].
- 1048. 石川信一: 上皮細胞ノ種屬特異性ニ就テ(體外培養試驗). 【皮膚誌】26,5. 大15(1926). [トノサマガヘル, アカガヘル, ヒキガヘル].
- 1049. 石川信一, 淺井岩次: 自家及ビ同種「プラズマ」中ニ於ケル人體皮膚ノ上皮細胞運動ニ就テ. 【皮膚紀要】9,1. 昭2(1927). [人].
- 1050. Mitsuhashi, Hisomu: Formveränderung und Verfettung von Epithelzellen des Frosch-

peritoneums in In-Vitro-Kulturen. 【皮膚紀要】9,4. 昭2(1927). [Rana esculenta, R. fuses].

1051. 野平安藤雄: 體外培養ニ於ケル上皮細胞ノ態度. 【皮膚紀要】12,1. 昭3(1928). [アオガヘル, アカガヘル, ヒキガヘル].

1052. 神田五郎: 絨毛上皮ノ比較組織學的觀察(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [金線蛙].

1053. —: 絨毛上皮ノ再生, 發生及ビ消失(會). 【解剖誌】2,2. 昭4(1929). [トノサマ蛙類].

1054. —: 絨毛細胞ノ「ミトコンドリア」(標本供覽)(會). 【九大醫報】3,5. 昭4(1929).

1055. Adachi, Akira: Einige Bemerkungen über in Vitro gezüchtete Epithelien. 【Cytologia】1,4. 昭5(1930). [Pigmentepithel der Iris].

1056. 神田五郎: 湿度ノ絨毛上皮ニ及ボス影響(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930). [蛙].

1057. —: 再生時ニ見タル上皮細胞ノ赤血球喰作用ニ就テ(會). 【九大醫報】4,4. 昭5(1930). [蛙].

1058. —: 冬眠中及ビ人工低温度ニ於ケル蛙絨毛上皮ノ變化ニ就テ(會). 【東京醫誌】2068. 昭5(1930).

1059. —: 絨毛上皮竝ニ同細胞ニ關スル研究. 【醫研究】5,5. 昭6(1931).

17. 腺

1060. 大澤岳太郎: 杯狀細胞ノ發生ニ就テ. 【醫新聞】819. 【東京醫誌】1697. 明43(1910). [山椒魚, 蛙, ヒノビウス, 蜥蜴, モルゲ].

1061. 田中義彥: 家蠶ノ絹絲腺研究豫報. 【札幌博物會報】3. 明42-43(1909-10).

1062. —: 家蠶ノ絹絲腺研究(豫報). 【動物誌】22,265. 明43(1910).

1063. 大澤岳太郎: 腺ニ就テ(綜). 【日新醫學】3,2. 大2(1913). [腺一般及ビ口腔腺].

1064. —: 腺ニ就テ(綜). 【日新醫學】4,2. 大3(1914). [咽頭腺, 食道腺, 胃腺, 腸腺].

1065. —: 腺ニ就テ(綜). 【日新醫學】5,2. 大4(1915). [肝, 脾, 肺].

1066. 湯爾和: 蠍毒腺ノ組織學的觀察(Die histologische Beobachtung der Giftdrüse des Skorpions). 【十全會誌】24,5. 大8(1919).

1067. 雨宮育作: 「アイゴ」(Teuthis fuscescens)ノ毒腺ノ構造ニ就テ. 【水産學會報】3,3. 大10(1921). [アイゴ(魚)].

1068. Tsukaguchi, R. & Takagi, K.: On the mode of functional changes in the glandular structure. 【Jap. med. World】1,7. 大10(1921).

1069. 山口謙爾: 臺灣産毒蛇ノ毒素ニ就テノ血清學的比較研究. 【臺灣醫會誌】21,223. 大11(1922). [毒腺ノ位置, 形狀, 構造等ノ記事アリ].

1070. 林祐二郎: 二三腺細胞ニ於ケル核ノ行動ニ就テノ細胞學的研究(會). 【動物誌】44, 519-520. 昭7(1932). [マツケムシノ絲腺, エゾ山椒魚ノ胃腺, エゾ山椒魚ノ毒腺].

1071. —: 「マツケムシ」ノ絲腺ニ就テ(會). 【動物誌】45,532-533. 昭8(1933).

18. 筋組織 (心臟筋ハ血管系ニアリ)

1072. 小井良精: 平滑筋纖維各自ノ結合如何ヲ論ズ. 【東京醫誌】514. 明21(1888). [犬].

1073. 前田今太郎: 横紋筋纖維ノ幅徑比例ニ就テ. 【東京醫誌】661. 明23(1890). [人].

1074. 竹内節: 軀幹筋「グリコゲン」ノ組織學的知見補遺. 【醫新聞】992-996. 大7(1918). [人].

1075. 金子治郎: 筋ノ腱ノ關係ニ就テ(會). 【十全會誌】27,8. 大11(1922). [犬, 兎, 鼠, 蛙, ヒノビウス, 蜥].

1076. 吳建: 三度隨意筋緊張ニ就テ. 附: 醗酵時歩行踏躑ト小腸トノ關係. 【神經誌】23,7. 大12(1923).

1077. 岩永幾太郎: 横紋筋二重支配又ハ三重支配ト其ノ組織學的根據ニ就テ. 【神經誌】23,3. 大12(1923). [胎兒, 小兒, 成人].

1078. 波多野重與: 筋核ノ變化ニ關スル知見補遺. 【東京醫會誌】39,2. 大14(1925).

1079. 佐久間武三郎: 筋組織ニ於ケル所謂格子狀纖維ト横紋筋鞘ニ就テ. 【北海道醫誌】3, 1. 大14(1925). [人及ビ動物].

1080. Iwanaga, I.: Beiträge zur Entwicklungsgeschichte der quergestreiften Muskelfasern beim Menschen. 【Mitt. allg. Pathol. etc.】2,2. 大14(1925).

1081. 石澤政男: 染色セル筋纖維ノ分光鏡的觀察. 【醫研究】1,1. 昭2(1927).

1082. —: 組織特ニ筋纖維ノ興味アル一光學的性質ニ就テ(會). 【東京醫誌】2508. 昭2(1927).

1083. 上野一晴: 骨格筋纖維ノ多節性神經主宰ノ有無ニ就テ(綜). 【日新醫學】18,3. 昭3(1928).

1084. 前田毅: 骨格筋纖維ノ脊髄神經節支配ニ關スル實驗的研究. 【醫研究】2,3. 昭3(1928).

1085. 松島茂, 篠崎精一: 横紋筋纖維内ニ於ケル灰分ノ配置ニ就テ. 【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [人, 金線蛙, 鰻, 海馬, カメムシ].

1086. 星野績: 平滑筋ノ臟器特異性ニ就テ. 【日微生物誌】22. 昭3(1928). [人].

1087. 新田義雄: ハイデンハイン氏輪走横紋筋原纖維(Heidenhainsche Ringbinden)ノ標本供覽(會). 【日內會誌】16. 昭3-4(1928-29).

1088. 品川文武: 隨意筋緊張及ビ栄養ノ二重支配ニ關スル形態學的研究補遺. 【醫研究】3, 2. 昭4(1929).

1089. Funaoka, Seigo und Yamaguchi, Osamu: Pharmakohistologische Untersuchungen. 3. Über den Einfluss einiger Muskelgifte auf das mikroskopische Bild der quergestreiften Muskelfaser. 【Jap. J. med. Sci., IV. Pharmacol.】4,1. 昭4(1929). [Frosch].

1090. 森優: 横紋筋纖維ト腱纖維トノ移行ニ關スル組織發生學的觀察(會). 【解剖誌】2,2. 【九大醫報】3,2. 昭4(1929). [鵜胎].

1091. Kato, Yoshio: Über die Einwirkung von K, Ca u. a. auf die Herz- und Skelettmuskelfasern. 【Fol. anat. jap.】7,3. 昭4(1929). [Kaninchen].

1092. 神立金作: 横紋筋ニ對スル「レ」線作用ノ組織學的研究. 【レントゲン會誌】8,1. 昭5(1930). [家兔].

1093. Ri, C. R.: Beiträge zur Kenntnis über die Innervation der roten und weissen Muskeln. 【Keijo J. of Med.】2,4. 昭6(1931).

1094. 梶本信明: 昆蟲ノ横紋筋ニ於ケル内網様装置ニ就テ. 【熊本醫會誌】7,10. 昭6(1931). [蟬].

1095. 佐藤國男: 筋ニ對スル「カリウム」「カルシウム」ノ作用ニ就テ(抄). 【解剖誌】4,1. 昭6(1931). [蛙].

1096. 清原寛一, 越智正一: 筋組織ニ筋力ノ性別. 【長崎醫會誌】10,2. 昭7(1932). [赤蛙, 金線蛙].

1097. 藤本信: 平滑筋纖維分布ノ組織構造的觀察(其二)(會). 【九大醫報】6,6. 昭7(1932).

1098. —: 平滑筋纖維分布ノ組織構造的觀察(會). 【解剖誌】5,7. 昭7(1932). [トノサマガヘル, ヒキガヘル].

1099. 清水忠夫: 基礎筋纖維數ト支配神經纖維數トノ比ニ就テ. 【慶應醫學】12,2. 昭7(1932).

1100. 安部谷人: 「ザルコレンマ」ニ關スル研究(其一)(會). 【解剖誌】5,7. 昭7(1932).

1101. —: 「ザルコレンマ」ノ本態ニ關スル研究(其三)(會). 【九大醫報】6,6. 昭7(1932).

1102. 中臺元治: 筋纖維ト腱纖維トノ連接ニ就テ. 【熊本醫會誌】8,3. 昭7(1932). [蛙, ナメクシウツ, 金線蛙, 鰻, タツノオトシゴ, ツノザメ].

1103. 安部谷人: 「ザルコレンマ」ノ「ヒストゲナーゼ」ニ就テ. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933). [歐椏蛙].

1104. 鎌山榮: 赤筋白筋心筋(家兔)ニ於ケル Oxydasegranula ニ就テ. 【日醫週報】1902. 昭8(1933).

1105. 佐藤秋夫: 運動神經切斷ニヨル後肢筋ノ緊張及ニ其ノ變性ニ及ボス影響ニ就テ. 【岡山醫會誌】45,6. 昭8(1933). [蛙].

19. 神經組織一般

1106. 畑井新喜司: 白鼠ノ神經系統ニ於ケル「ノイロン」ノ微細構造. 【神經誌】2,4. 明36(1903).

1107. 中金一: 神經組織ノ破格. 【神經誌】6, 11. 明40(1907). [人ノ脊髄].

1108. 松原三郎: 神經原纖維(綜). 【神經誌】8, 13. 明42(1909). [無脊椎動物, 脊椎動物, 人].

1109. 青柳登一, 松原五郎, 加藤尚義: 神經原纖維(會). 【中央醫事】28. 明43(1910).

1110. 松原三郎: 神經原纖維. 【第三回日本醫學會誌】明44(1911). [無脊椎動物, 脊椎動物, 人].

1111. 上阪繁勝: 神經一般組織學進歩ノ概況(綜). 【日新醫學】1. 明44-45(1911-12).

1112. 勝沼精藏: 神經系統ニ於ケル「オキシダーゼ」ニ就テ. 【醫新聞】891. 大2(1913).

1113. 鹽谷不二雄: 神經組織ニ於ケル「リポイデー」ノ組織學的研究. 【醫新聞】881. 大2(1913). [犬, 猫].

1114. —: 神經系統ノ類脂肪ニ關スル積報. 【神經誌】17,11. 大7(1918). [1. 神經纖維變性ノ際ニ現ハル神經軸索ノ類脂肪(猫, 犬). 2. ヲイゲルト, パール氏法ニヨリ染色スル類脂肪(人). 3. 透明中隔ノ類脂肪(人胎兒). 4. 所謂胎兒性顆粒細胞ニ就テ(人胎兒)].

1115. Seki, M.: Elektrische Untersuchung der Nervenlipide in Bezug auf die beriberiähnliche Krankheit der Hühner und die Beriberi des Menschen. 【岡山醫會誌】34,393. 大11(1922).

1116. 吳建, 篠崎哲四郎, 岸本道夫, 波多野重與: 隨意筋ノ交感神經性支配ニ對スル組織學的根據及ニ同上神經纖維ノ介在神經細胞ノ位置. 【東京醫會誌】36,7. 大11(1922). [犬].

1117. 加藤義有: 有脊椎動物ニ於ケル神經組



織ノ發生ニ就テ(其一). 神經細胞纖維造成現象(會). 【東京醫誌】2308. 大11(1922). [爬虫類, 鳥類].

1118. 加藤尚義: 有脊椎動物ニ於ケル神經組織ノ發生ノ理由ニ就テ(抄). 【福岡醫大誌】15, 7. 大11(1922).

1119. —: 有脊椎動物ニ於ケル神經組織ノ發生ニ就テ(其三). ランドシュライエルノ構成. 【東京醫誌】2311. 大12(1923).

1120. —: 有脊椎動物ニ於ケル神經組織ノ發生ニ就テ. 【福岡醫大誌】17,5-7. 大13(1924).

1121. 鈴木雄平: 「シナップス」ノ發育ニ就テ(會). 【神誌】25,4. 大14(1925). [註ノ人工孵化卵].

1122. Sumi, Ryogen.: Über die Emigration der Pigmente im Zentralnervensystem während der Entwicklungsverlaufes bei Hynobius. 【Fol. anat. jap.】5,4. 昭2(1927).

1123. 丸井清泰, 土井正徳: 神經細胞「シナップス」ニ關スル實驗的研究(會). 【神誌】27, 9. 昭2(1927). [誌].

1124. 鈴木雄平: 神經細胞「シナップス」ノ發達ニ就テ. 【東北醫誌】12,2. 昭4(1929). [誌].

1125. 土井正徳: 神經細胞「シナップス」(特ニ「ノイロゾーモン」)ニ關スル實驗的研究. 第五報. 軸索突起切斷後起首神經細胞並ニ同細胞「シナップス」ニ於ケル「ノイロゾーモン」ノ變化ニ就テ. 【東北醫誌】13, 3. 昭5(1930). [誌].

1126. 杉本清治: 神經組織ノ脂肪様類化産物ニ關スル實驗的研究補遺. 【東京醫會誌】45,2. 昭6(1931). [家兔].

1127. 登倉達雄: 壓痛點ト産婦人科ノ應用並ニ其ノ支配神經ノ組織學的檢索(會). 【九大醫報】5, 1. 昭6(1931).

1128. Doi, M.: Experimentelle Untersuchungen über die Nernenzellen-Synapse mit besonderer Berücksichtigung der Neurosomen Hells (I-V). 【Mitt. allg. Pathol. etc.】7,1. 昭6(1931). [Pseudobargus nurentiaetus].

1129. 丸井清泰, 土井正徳: 神經細胞「シナップス」ノ變化ニ關スル實驗的研究. 神經細胞「シナップス」ノ要素ヲナス神經纖維ノ切除ニ續發スル當該「シナップス」ノ變化. 【東北醫誌】14,5. 昭7(1932). [誌].

20. 神經細胞

1130. 吳秀三: 腦髓細胞ノ運動ニ就テ. 【中外醫事報】287, 288. 明25(1892).

1131. 鈴木文太郎: 神經細胞ニ於ケル解剖學

的時論ノ概略. 【東京醫會誌】7,10,11. 明26(1893).

1132. 大澤岳太郎: 神經細胞ガ其ノ官能上働作ノ爲メニ受クル形態上ノ變化. 【東京醫會誌】7,7. 明26(1893).

1133. —: 神經細胞. 【東京醫誌】1093. 明32(1899).

1134. 吳秀三: 神經細胞内ノ原纖維ノ「デモンストラチオン」——ベーター氏染色法. 【第一回日本聯合醫學會誌】明35(1902). [人].

1135. 高橋聖: 神經細胞ノ中心體ニ就テ(會). 【神誌】2,2. 明36(1903). [軟體動物, 腹足類等].

1136. 淺井猛郎: 神經細胞ノ構造ニ就テ. 【東京醫會誌】19,19. 明38(1905). [馬].

1137. 谷口吉太郎: ニュースル氏桿狀細胞ノ研究豫報. 【神誌】5,2. 明39(1906). [人, 犬及ビ家兔ノ腦].

1138. 加藤尚義: 神經細胞纖維構造ニ就テノ研究一般. 【福岡醫大誌】3,2. 明42-43(1909-10).

1139. 松原三郎: 神經細胞ノ構造(會). 【中央醫事】29. 明43(1910).

1140. 近藤正俊: ビールシュウスキ氏鍍銀標本ニ現ハレタル神經細胞異性變化ニ就テ. 【東北醫誌】3,2. 大7(1918). [家兔].

1141. Isawa, Y.: Histological Changes of the Nerve Cells which take Place under the Influence of Powerful Electric Currents. 【岡山醫會誌】32. 大9(1920). [誌].

1142. 丸井清泰: ニュースル染色體ト「スクレオプロテイド」様顆粒(抄). 【神誌】19,6. 大9(1920). [人及ビ動物].

1143. 新井昌平: ニュースル染色體ノ生成ニ就テ. 【東北醫誌】6,1. 大11(1922). [家鷄, 家兔, 犬, 南京鼠等ノ胎兒].

1144. —: 小神經細胞トニュースル染色物質並ニニュースル染色體ノ生物學的意義知見補遺. 【東北醫誌】7,1. 大12(1923). [家兔, 犬].

1145. —: 小神經細胞トニュースル染色物質並ニニュースル染色體ノ生物學的意義知見補遺(抄). 【神誌】23,1. 大12(1923). [小腦顆粒層, 眼網膜].

1146. Arai, S.: Über die Genese und Entstehung der Nissl-Schollen in den Nervenzellen; Demonstration der sogenannten Nucleoproteinartigen Granula (Marui) in den Embryonalzellen; zugleich ein Beitrag zur biologischen Bedeutung der Gliazellen und Körnchenzellen im embryonalen Zentralnervensystem. 【Mitt. allg. Pathol. etc.】2,1. 大12(1923). [Hühner-,

Hund-, Kaninchen- und Tanzmausembryo).

1147. Tokura, Raisuke: Über das Vorkommen der Ganglienzellen von pseudounipolarem Typus im Ganglion cervicale superius. 【Fol. anat. jap.】3,4-5. 大14(1925). [Katze].

1148. 加藤安吉: 交感神經細胞ニ就テ. 【日微生物誌】19. 大14(1925). [人, 哺乳類].

1149. 諸岡 存, 池田統治郎: アウエルバ, ハ氏業特ニ其排列並ニ神經細胞ノ微細構造ニ就テ(抄). 【神誌】25,4. 大14(1925). [家兔腸管].

1150. —, —: マイスネル氏業特ニ其排列並ニ神經細胞ノ微細構造ニ就テ(剝離法ニヨル銀染法標本供覽)(抄). 【神誌】25,4. 大14(1925). [家兔].

1151. 鈴木直光: 神經細胞核ノ變性ニ就テ(抄). 【福岡醫大誌】19,4. 大15(1926).

1152. —: 神經細胞内ノ褐色色素ニ就テ. 【福岡醫大誌】19,4. 大15(1926).

1153. 鹽谷 壽: 神經節細胞ノ銀反應. 【日病理會誌】17. 昭2(1927). [家兔, 海狸].

1154. 矢ヶ崎勤七: 高温ニヨル神經細胞ノ變性ニ就テ, 殊ニ頭髓ニ關スル研究. 【北海道醫誌】5,3. 昭2(1927).

1155. 土井正徳: 神經細胞「クロマトリーゼ」ト「ミトコンドリア」ニ就テ(抄). 【神誌】29,7. 昭3(1928). [誌, 家兔].

1156. 田中兵作: 哺乳類中樞神經系統ノ神經細胞ニ現ハル「グリコゲン」ノ調査. 其分布狀態ニ就テ. 【成醫會】47,21. 昭3-4(1928-29).

1157. —: 正常哺乳類ノ神經細胞ニ現ハル「グリコゲン」(Glykogen)ニ就テ. 【日醫週報】1727-28. 昭4(1929). [モルモット, 家兔, 白鼠, 鳩, 鶏].

1158. 千代延敬典: 細胞内神經原纖維ニ關スル實驗的研究(第一報). 【日病理會誌】20. 昭4(1929). [人].

1159. 大沼貞藏: 交感神經系統ノ正常並ニ病理組織學的研究. 【神誌】30,2. 昭4(1929). [人].

1160. 秋山成六: 種々ナル「イオネン」及ビ直電流ノ神經細胞ニ其ニヨル氏小體ニ及ボス影響ニ就テ(會). 【解剖誌】2,2. 昭4(1929). [家兔].

1161. Akiyama, Seiroku: Über den Einfluss des elektrischen Stromes und die Wirkung verschiedener Ionen auf die Nervenzellen insbesondere auf ihre Nissl'schen Schollen. 【Arb. med. Fak. Okayama】1,2. 昭4(1929). [Kaninchen].

1162. —: Histological Study of the Nerve Cells which have been submitted to the action of Cholesterol, Lecithin, Calcium and Potassium respectively. 【Arb. med. Fak. Okayama】1,4. 昭5(1930). [Rabbit].

1163. Okada, Shinichi: Über die Einfluss von Cholesterin und Lecithin auf den Golgischen Apparat der Nervenzellen beim Kaninchen. 【Arb. med. Fak. Okayama】1,4. 昭5(1930).

1164. 本城定男: 陰極線ノ神經細胞ニ及ボス影響並ニX線作用トノ比較研究(第一報). 【岡山醫會誌】42,482. 昭5(1930). [家兔].

1165. 千代延敬典: 神經細胞内神經原纖維ニ關スル研究. 【京府醫大誌】5,2. 昭6(1931). [人].

1166. —: 神經節細胞内神經原纖維ニ關スル研究. 第二編. 正常ナル構造ニ關スル研究. 【京府醫大誌】5,6. 昭6(1931). [脊椎動物].

1167. 松尾久明: 神經細胞ノゴルヂー氏内網ニ關スル研究. 其一. 白鼠及ビ猫ノ坐骨神經切斷後ニ於ケル脊髓神經節細胞内ゴルヂー氏内網ノ變化ニ就テ. 【解剖誌】4,7. 昭6(1931).

1168. 小川文代: 蚯蚓ノ腹髓ニ於ケル神經細胞及ビ神經纖維ノ數量的觀察並ニ蚯蚓ノ神經纖維ノ興奮性ニ關スル生理實驗. 【小峠紀要】2. 昭6(1931).

1169. 大森三彦: 實驗的尿毒症ニヨル神經細胞 Golgi 氏装置ノ變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】43,492. 昭6(1931). [家兔].

1170. 岡田眞一: 膽汁鬱滯ニ因ル神經細胞ノ變化殊ニ其ノ Nissl 氏小體及ビ Golgi 氏装置ノ變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】43,493. 昭6(1931). [家兔].

1171. 鈴木直光: 中樞神經細胞ノ顆粒ニ就テ(會). 【東京醫誌】2754. 昭6(1931).

1172. 岡村長之助: 横紋筋ノ腸壁, 子宮壁及ビ膽囊壁ニ於ケル運動神經節細胞鍍金標本ノ供覽(會). 【解剖誌】4,1. 昭6(1931).

1173. 千代延敬典: 神經節細胞内神經原纖維ニ關スル研究. 【京府醫大誌】6, A. 1-3. 昭7(1932). [家兔].

1174. Shibata, Y.: Vergleichende Beobachtung mit der Fixierungsweise der verschiedenen Fixierungsmittel, besonders unter Berücksichtigung ihrer Wasserstoffionenkonzentration an den Nissl-Körperchen der Ganglienzellen. 【Fol. anat. jap.】11,3. 昭8(1933). [Kaninchen, Hund].

1175. Matsuo, Hisaki: Über den Einfluss der

Vergiftung mit verschiedenen Arzneimitteln auf die Nervenzellen, besonders auf ihre Golgi'schen Binnennetze. [Fol. anat. jap.] 11, 2. 昭8(1933). [Ratte].

1176. —; Studien über das Golgi'sche Binnennetz der Nervenzellen. III. Über die Veränderung der Golgi'schen Binnennetze der Spinalganglienzellen nach der Durchschneidung des N. ischiadicus bei Ratten. [Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.] 3, 3. 昭8(1933).

21. 神経纖維

1177. 氏原佐藏: ラモニカハール氏神経纖維染色標本及ビ「トルイデンブライウ」染色, 小改良標本ノ對照供覽. [醫新聞] 766. 明9(1906). [人].
1178. 鳥淵蓬三: 末梢神経纖維ノ構造ニ就テ. [醫新聞] 761. 明41(1906). [人].
1179. —: 有鞘末梢神経纖維ノ構造ニ就テ. [京都醫誌] 6, 1, 2. 明42(1909). [人, 犬, 家兔, 蛙].
1180. —: 有鞘末梢神経纖維素構造ニ就テ (第二報) (抄). [日外會誌] 明42-43(1909-10).
1181. 上條秀介: 神経髓鞘ノ微細構造並ニ其變性ニ就テ. 附: 神経髓鞘染色法. [東京醫會誌] 36, 7. 大11(1922).
1182. —: 神経髓鞘ノ微細構造並ニ其變性ニ就テ. [日病理會誌] 12. 大11(1922). [人, 馬, 牛, 豚, 犬, 猫, 白鼠].
1183. 松浦篤實: 甲状腺機能障碍ニ因ル末梢神経ノ組織學的變化ニ就テ. [日內會誌] 11. 大12(1923).
1184. Ukai, S.: Beiträge zur Kenntnis der π -Granula in den peripherischen Nervenfasern. [Mitt. allg. Pathol. etc.] 2, 1. 大12(1923). [Mensch].
1185. 波多野重典: 末梢神経中ニ於ケル所謂無髓纖維ニ就テ. [福岡醫大誌] 17, 10. 大13(1924).
1186. Bito, Futoshi: Über eine Substanz, welche die Schmidt-Lantermann'schen Einkerbungen ausfüllt. [Fol. anat. jap.] 4, 3-4. 大15(1926). [Kaninchen, Hund, Maus, Frosch].
1187. Matsui, Yoshio: On the Calibre of the Nerve Fibres of the Anterior Spinal Roots of Man. [Acta Scholae med. Kioto] 9. 大15-昭2(1926-27).
1188. Sannomiya, Nobuhiko: Morphologische Studien über die Schmidt-Lantermann'schen Einkerbungen, nebst Bemerkungen über die

- Quellungsdifferenz zwischen verschiedenen Formen, sowie ihr Zellenverhältnis zwischen den Nervenfasern verschiedener Dicke. [Fol. anat. jap.] 5, 3. 昭2(1927). [Kaninchen].
1189. 佐藤國雄: 神経纖維ノ染色機轉ニ及ボス直流電氣ノ影響(會). [解剖誌] 1, 1. 昭3(1928).
1190. Yuien, Kazue: Über die Veränderung der peripherischen Nervenfasern infolge der Lanolin- oder Lecithininjektion beim Kaninchen. [Arb. med. Fak. Okayama] 1, 1. 昭3(1928).
1191. Ikeda, Tamotsu: Über die Veränderung der Schmidt-Lantermann'schen Einkerbungen beim Regenerations- und Degenerationsprozess der Nerven. [Arb. med. Fak. Okayama] 1, 1. 昭3(1928). [Kaninchen].
1192. Bito, Futoshi: Über die Quellbarkeit der Schmidt-Lantermann'schen Einkerbungen bei der Hakumai-Krankheit, welche durch Fütterung mit glatt gereinigtem geschältem Reis verursacht wird. [岡山醫會誌] 40, 456. 昭3(1928). [Hahn].
1193. Tomozawa, Noboru: Über die durch den konstanten galvanischen Strom verursachten Veränderung der Quellbarkeit der Schmidt-Lantermann'schen Einkerbungen mit Berücksichtigung der Nervenfaserdicke. [岡山醫會誌] 40, 458. 昭3(1928). [Kaninchen].
1194. 野田昌成, 安澄權八郎: 神経軸索中ニ表ハルルフロマン氏線ノ本態ニ就テ. [阪醫會誌] 29, 6. 昭5(1930).
1195. Noda, M. und Yasuzumi, G.: Über die Frommann'schen Linien der Achsenzylinder der Nervenfasern. [Fol. anat. jap.] 8, 6. 昭5(1930). [Kaninchen, Meerschweinchen, Frosch].
1196. 濱邊正彦: 各種ノ横徑(大, 中, 小)有髓神経纖維ト知覺トノ關係ニ就テ(抄). [神經誌] 33, 3. 昭6(1931). [人及ビ動物].
1197. 田内尚民: 「メチレンブライウ」ニヨル神經ノ超生體染色法ニ就テ. [日整形會誌] 7. 昭8(1933).
1198. 鈴木貞一: 神経髓鞘ニ就テ(會). [耳鼻] 6, 3. 昭8(1933).

22. 神経膠組織

1199. 原 十太: 「カラスガヒ」ノ神經表皮細胞ニ就テ. [動物誌] 9, 100. 明30(1897).
1200. 大澤岳太郎: 神経上皮及ビ膠質. [東京醫誌] 1094. 明32(1899).

1201. 中泉行徳: 神経結締組織細胞ニ就テ. [済生學會醫報] 91. 明33(1900).
1202. 田口和美: 「エベンデューム」細胞ニ就テ. [済生學會醫報] 103. 明34(1901).
1203. —: 「エベンデューム」細胞ニ就テ(會). [東京醫誌] 1208. 明34(1901).
1204. —: 「エベンデューム」細胞ニ就テ. [醫新聞] 588. 明34(1901). [人].
1205. 吳 秀三: 神経膠質ト血管トノ關係ニ就テ. [神經誌] 1, 1. 明35(1902). [家兔大腸皮質].
1206. 黒澤真臣: 「ノイログリヤ」細胞ノ構造ニ就テ. [顯微鏡] 92. 明42(1909).
1207. 雨宮保衛: 神経膠質増殖ニ關スル研究. [神經誌] 24, 2. 大13(1924). [家兔腦].
1208. 池田統次郎: ホルテガ氏細胞(抄). [福岡醫大誌] 18, 1. 大14(1925). [海豚, 人].
1209. 齋藤玉男: 神経膠質纖維ニ就テ(抄). [動物誌] 38, 447. 大15(1926).
1210. 大熊泰治: 病的機轉ニ對スル「ミクログリヤ」ノ態度ニ就テ(抄). [神經誌] 26, 7. 大15(1926). [家兔, 人].
1211. 俣野一郎: 神経膠質纖維ニ關スル研究. [日病理會誌] 17. 昭2(1927). [人, 牛, 犬, 家兔].
1212. 石川龜丸: ホルテガ氏細胞ト網狀織内被細胞系(抄). [神經誌] 28, 6. 昭3(1928). [家兔腦].
1213. 古澤好雄: ホルテガ細胞ノ發生(會). [九大醫報] 3, 3. 昭4(1929).
1214. 石川龜丸: ホルテガ氏細胞ノ研究(會). [慶應醫學] 9, 12. 昭4(1929). [家兔].
1215. 宇田俊一: 所謂三種「グリヤ」ノ屍性變化ニ就テ. [神經誌] 32, 1. 昭5(1930). [家兔腦].
1216. —: 膠質細胞ノ「アメーバ」様變化ニ就テ. [神經誌] 32, 4. 昭5(1930). [家兔腦].
1217. 勝沼六郎: ホルテガ氏細胞ノ機能ニ就テ(組織體外培養)(抄). [神經誌] 31, 10. 昭5(1930). [主トシテ家兔胎兒ノ大腸].
1218. 粕村淡水: ホルテガ氏細胞ニ就テ. 附: 色々ノ原染毒ニヨルホルテガ氏細胞ノ態度ニ就テ. [醫研究] 5, 1. 昭6(1931).
1219. 古澤好雄: ホルテガ細胞ノ組織學的的研究. [福岡醫大誌] 24, 3. 昭6(1931). [家兔胎兒, 初生兒, 成人].
1220. Ishikawa, Kamemaru: On the Genesis of Hortega Cells. [Fol. anat. jap.] 10, 2. 昭7(1932). [Rabbit].
1221. 竹内俊一: 哺乳動物胎兒ノ生體染色ニ

ヨルホルテガ氏細胞ノ觀察. [臨床病理學血液學] 2, 5. 昭8(1933). [家兔胎兒].

1222. 上村忠雄: レントゲン線放射ニヨル「グリヤ」細胞ノ變化ニ就テ(抄). [北越醫會誌] 48, 13. 昭8(1933). [家兔].

1223. 三宅川康平: ホルテガ氏細胞ノ研究. 第2篇. 正常ホルテガ氏細胞ノ形態學的的研究. [京府醫大誌] 9, 3. 昭8(1933). [家兔, 猫, 鳩, 魚, 蟻].

23. 神経終末

1224. 三浦守治: 横紋筋ニ終ル運動神経末梢ノ試験. [東京醫誌] 443-4. 明19(1886). [蟻].
1225. 大澤岳太郎: 人體足趾皮中ニ於ケル觸體. 附タリ觸體ニ於ケル神経終末. [東京醫會誌] 8, 10. 明27(1894).
1226. 新井春次郎: 人體中ニ於ケルフェーテルパチュー氏小體ノ所在ニ就テ(會). [顯微鏡] 9. 明29(1896).
1227. 青柳登一: マイスネル氏小體內ニ於ケル神経末梢ノ形狀. [醫新聞] 750. 明41(1906).
1228. 加藤尚義: 所謂ヘルド氏末梢足ニ就テ. [神經誌] 8, 13. 明42(1909). [猫及ビ人ノ脊髓].
1229. 青柳登一: 末梢神経終末及ビ其神經原纖維. [神經誌] 9, 2-4. 明43(1910). [人體意筋ノ運動及ビ知覺神經終末].
1230. 清野謙次: 脚氣症ニ於ケル筋紡錘體ノ變化ニ就テ. 附: 筋紡錘體ノ生理學的意義ニ關スル知見ノ増補. [京都醫誌] 8, 2, 3. 明44(1911). [人].
1231. 青柳登一: 末梢神経終末及ビ其神經原纖維. [第三回日本醫學會誌] 明44(1911). [猫].
1232. 古賀伊一郎: 鳥類ノ筋紡錘體ニ就テ. [臺灣醫會誌] 11, 114. 明45(1912).
1233. 青柳登一: 横隔膜神經及ビ其終末並ニ横隔膜筋ノ組織的研究(豫報)(會). [東京醫誌] 1775. 大1(1912). [人].
1234. —: 運動神経ノ終末ニ就テ. [醫新聞] 868. 大1(1912). [人, 驢馬, 鼠, 家兔].
1235. Aoyagi, T.: Zur Histologie des N. phrenicus, des Zwerchfells und der motorischen Nervenendigung in demselben. [Mitt. med. Fak. Tokyo] 10. 大2(1913). [Mensch].
1236. 木村男也: 人間ニ於ケル各種ノ筋疾患及ビ動物ニテ種々ノ條件ノ下ニ於ケル運動神経終末裝置所見(抄). [神經誌] 19, 5. 大3(1920). [人及ビ動物, 主トシテ海狸].
1237. 高橋 堅: 「ハンザキ」ノ終端神経研究

豫報(抄).【神經誌】20,5.大10(1921).

1238. 岩永幾太郎: 末梢神經終末ノ研究. 第一. 人間, 家兎, 海狸等ニ於ケル運動性終末ノ研究.【東北醫誌】6,3.大11(1922).

1239. ——— 横紋筋ニソノ神經終末ノ發育.【日病學會誌】13.大12(1923).【人胎兒】.

1240. 岩永幾太郎, 木村男也: 運動性神經終末ノ形態學的研究.【日病學會誌】13.大12(1923).【人】.

1241. 星 騰吾: 心臟及ヒ副腎ニ於ケル神經終末裝置ニ就テ.【日病學會誌】14.大13(1924).【人ヲ主トシ其他犬, 猫, 家兎, モルモット, マウス, 鶏, 蛙等】.

1242. 波多野重典: 筋紡錘體ノ研究(其四)(抄).【福岡醫大誌】17,1,2.大13(1924).

1243. Iwanaga, I.: Studien über die motorischen Nervenendigungen. 1. Ihre Histogenese. 2. Die ausgebildeten Endigungen. 3. Die pathologischen Veränderungen und die atypischen Formen.【Mitt. allg. Pathol. etc.】2, 2.大14(1925).【Mensch】.

1244. 中本完二, 倉 尙貞: 骨格筋ニ分布スル神經終末ノ種類.【東京醫誌】2408.大14(1925).【人】.

1245. 波多野重典: 筋紡錘體ノ研究.【東京醫會誌】39,3.大14(1925).【人, 犬】.

1246. ———: 筋紡錘體ノ研究追加.【福岡醫大誌】18,2.大14(1925).

1247. 寺島清七, 木村男也: 末梢神經終末ノ再生.【日病學會誌】16.大15(1926).【高等哺乳動物】.

1248. 中本完二, 倉 尙貞: 末梢神經終末ノ比較解剖學的研究.【日新醫學】15,12.大15(1926).【貝類, 蝦類, 魚類(ハス, 鯉, 鯽, 鱒, 鮎, 鰻, 鰱, 泥鰌等), 兩棲類(蟾蜍, 金線蛙, イモリ, 山椒魚), 爬蟲類(蛇, 蝮蛇, 龜, スッポン), 鳥類(雀, 鵪鶉, 百舌鳥, 鳩, 鶉, 烏, 椋鳥), 哺乳類(二十日鼠, 大黒鼠, 家鼠, モルモット, 家兎, 蝙蝠, 豚, 犬, 猫, 人)].

1249. ———: 末梢神經終末ノ比較解剖學的研究.【日病學會誌】15.大15(1926).【蛇, 車輦, 鱒, 鮎, 山椒魚, スッポン, 蝙蝠, 牛, 豚, 人】.

1250. 中本完二: 女子外陰部ノ神經終末ニ就テ(會).【近畿醫誌】9,4.大15(1926).

1251. 三井修策: 局所麻醉藥ニヨル神經終末變化ノ形態學的研究.【滿洲醫誌】7.昭2(1927).【白鼠ノ舌】.

1252. 濱田稻積: 末梢神經終末ノ死後變化ニ關スル實驗的研究.【日病學會誌】17.昭2(1927).【家兎】.

1253. 倉 尙貞: 骨格筋ノ神經分布ニ關スル形態學的研究. 其一. 普通筋纖維ノ神經分布ニツイテ. 其二. 筋紡錘體內ニ於ケル神經分布ニ就テ.【日病學會誌】17.昭2(1927).【犬, 鳩】.

1254. 山崎直治: 横紋筋ニ於ケル無髓神經纖維ノ分布ニ其終末裝置ニ就テ.【日外資】4,2.昭2(1927).【犬, 家兎, 雀, 蛙】.

1255. 角田 隆: 隨意筋ニ於ケル神經分布ノ形態學的研究.【京府醫大誌】1,1.昭2(1927).【各種動物及ヒ人】.

1256. 福島俊行: 牛及ヒ馬骨格筋ニ分布スル運動神經終末ノ比較病理解剖學的研究.【日病學會誌】17.昭2(1927).【牛, 馬】.

1257. ———: 蠟幹筋ニ分佈スル運動神經終末ノ比較病理解剖學的研究(會).【日獸醫會誌】6,2.昭2(1927).【牛, 家兎, 海狸, 鳩】.

1258. ———: 骨格筋ニ分佈スル運動神經終末ノ比較病理解剖學的研究.【中央獸醫誌】41, 9.昭3(1928).【牛, 馬, 犬, 家兎, 海狸, 鳩】.

1259. 倉 尙貞: 骨格筋ニ於ケル神經分布ノ形態學的研究.【京府醫大誌】2,4.昭3(1928).【家兎, 犬】.

1260. 土井彰一: Vater-Pacini 氏小體ニツイテ.【日病學會誌】18.昭3(1928).【人, 哺乳類, 鳥類】.

1261. Shinozaki, Seiichi: Über die Grösse der motorischen Nervenendapparate an den quergestreiften Muskelfasern.【Acta Scholae Med. Kioto】11.昭3-4(1928-29).【Meerschweinchen】.

1262. 濱田稻積: 末梢神經終末ノ研究. 第一編. 各種隨意筋ニ分佈スル末梢神經終末ノ比較解剖學的研究.【京府醫大誌】3,3.昭4(1929).【人, 白鼠, 海狸, 家兎, 豚, 牛, 鳩, 蛙】.

1263. 柴 豪雄: 食道横紋筋ニ於ケル神經終末ニ就テ(抄).【神經誌】30,7.昭4(1929).【犬】.

1264. 岡村長之助: 横紋筋ニ於ケル運動神經終末ニ就テ.【解剖誌】2,4.昭4(1929).【人, マウス, ラット, 牛, 豚, 馬, 雀, 鶉, ガマ, 鯉, 金魚, 鰻】.

1265. 倉 尙貞: 筋紡錘體分佈神經ニ就テ.【京府醫大誌】3,1.昭4(1929).【人, 犬, マウス, 鳩, 鳥】.

1266. Saijo, Yoshika and Takino, Masuichi: Die Nervenendapparate im leprosen Gewebe.【Acta Scholae Med. Kioto】12.昭4-5(1929-30).

1267. 橋本松之助: 神經終末ノ形態學的研究(第一報). 酸, 「アルカリ」, 寒冷及ヒ温熱ニ

ヨル變化.【滿洲醫誌】12,3.昭5(1930).

1268. ———: 神經終末ノ形態學的研究(第二報). 神經毒ニヨル變化.【日外資】7.昭5(1930).【白鼠ノ舌】.

1269. ———: 神經終末ノ形態學的研究. 酸, 「アルカリ」, 寒冷及ヒ温熱ニヨル變化.【滿洲醫誌】16.昭6(1931).【白鼠】.

1270. 横松 鴻: 角膜神經ニ關スル組織學的研究, 特ニ其ノ神經終末ニ就テ.【解剖誌】4, 9.昭6(1931).【人】.

1271. 兒玉邦男: 板層小體層板ニ關シテ二三ノ供實.【解剖誌】4,4.昭6(1931).

1272. 中西國太郎: 各種溶液ニ對スル Vater-Pacini 氏小體ノ態度(其一). 體積ノ變化ニ就テ.【皮膚誌】31,5.昭6(1931).

1273. ———: 各種溶液ニ對スル Vater-Pacini 氏小體ノ態度(其二). 組織的變化ニ就テ.【皮膚誌】31,6.昭6(1931).

1274. Sakata, Hiroshi: Untersuchung über die Bindegewebskapsel von Endkörperchen mittels Nerveninjektion.【Arb. III anat. Inst. Kyoto】Sarie A,3.昭7(1932).【Ente】.

1275. 沖中重雄: 肋間筋ニ於ケル錐體路外導路性神經終末ニ就テ(抄).【神經誌】36,2.昭8(1933).【犬】.

1276. 笹木武雄: 非電解質溶液ニ對スル Vater-Pacini 氏小體ノ態度.【皮膚誌】34,2.昭8(1933).【鼠】.

24. 發光器 (發光動物)

1277. 石川千代松: 夜光蟲ニ就テ.【動物誌】10,119.明31(1898).

1278. 大島 廣: 魚類ノ發光器(其二).【動物誌】22,257.明43(1910).

1279. ———: 魚類ノ發光器(其三).【動物誌】22,258.明43(1910).

1280. 松野助吉: 再ヒ螢鳥賊ニツイテ.【水産研究誌】9,3.大3(1914).

1281. ———: 富山灣ニ産スル發光鳥賊.【水産研究誌】9,6.大3(1914).

1282. Isikawa, Chiyomatsu (石川千代松): On a new species of Maurolicus, M. japonicus.【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】6,2.大4-10(1915-21).

1283. 神田左京: 生物發光物質ノ理化學的研究. 一. 海螢ノ Luciferine 及 Luciferase ニ就テ.【動物誌】30,361.大8(1918).

1284. ———: 生物發光物質ノ理化學的研究. 二. 海螢ノ發光ハ酸化作用デナイ.【動物誌】31,367.大8(1919).

1285. ———: 生物發光物質ノ理化學的研究. 三. 海螢ノ發光ハ酸化作用デアル.【動物誌】32,375.大9(1920).

1286. ———: 生物發光物質ノ理化學的研究. 四. 海螢 Luciferase ノ理化學的性質ニツイテ.【動物誌】32,379-80; 33,393-4.大9-10(1920-21).

1287. ———: 生物發光物質ノ理化學的研究. 五. 海螢ノ發光期間ニ發生シタ炭酸瓦斯測定.【動物誌】32,382.大9(1920).

1288. ———: 生物發光ノ理化學的研究. 六. 海螢ノ發達ニ及ボス温度, 空氣, 光ノ影響ト所謂共棲説ニツイテ.【動物誌】38,457.大15(1926).

1289. Kishitani, Teijiro: On the luminous organs of Watasenia scintillans.【Ann. zool. japon.】11,4.大15-昭3(1926-28).

1290. Hayashi, Sotou: Studies on the Luminous Organs of Watasenia scintillans (Berry).【Fol. anat. jap.】5,5.昭2(1927).

1291. 生沼言六: 生物ノ發光ニ就テ.【日本學術協會報告】4.昭3(1928).【螢及ヒ海螢ノ發光組織アリ】.

1292. Tozawa, Tomizyu: Experiments on the Development of the Nuptial Coloration and Pearl Organs of the Japanese Bitterling.【Fol. anat. jap.】7,4.昭4(1929).【Acheilognathus intermedius】.

1293. Ebina, Ken-ichi: Nuptial Organ of the Salmoid Fish, Plecoglossus altivelis T. & S.【J. of Imp. Fisheries Inst.】25,2.昭4(1929).

1294. 岩谷貞次郎: 「ホタルイカ」(Watasenia scintillans Berry)ノ發光本態ニ關スル研究補遺. (第一種發光器内桿狀體ノ血清學的研究).【動物誌】41,493-4.昭4(1929).

1295. ———: 「チゴダラ」(Physiculus japonicus Hilgendorf)ニ於ケル發光菌共棲ニ就テ.【日本學術協會報告】6.昭5(1930).

1296. Ebina, Ken-ichi: Occurrence of the Nuptial Organ in the Female of the Salmoid Fish, Plecoglossus altivelis T. & S.【J. of Imp. Fisheries Inst.】26,1.昭5(1930).

8. 性, 性徴

1297. 池田作次郎: 蠶ノ兩性形ニ就テ.【動物

誌] 8,87. 明29(1896).
 1298. 金子治郎: 懷孕ト女性トノ關係(綜). 【十全會誌】6. 明31(1898).
 1299. 永井 潜: 鏡近遺傳學上ヨリ見タル雌雄兩性ノ決定. 【醫海時報】915, 916. 明45(1912).
 1300. 國友 鼎: 男性及女性成立ノ學說. 【研瑤誌】104. 明45(1912).
 1301. 池上五郎: 出生男女ノ統計的觀察(會). 【朝鮮醫會誌】6. 大2(1913).
 1302. 原島 茂: 男女性別ノ發生原因ニ關スル統計的研究. 【保險醫誌】12,2. 大2(1913).
 1303. 徳久三種: 鱸ノ雌雄ト生殖器. 【水産研究誌】12,3. 大6(1917).
 1304. 廣瀬 基: 男女性ノ決定(抄). 【北越醫會誌】32,6. 大6(1917).
 1305. 角田 隆: 雌雄兩性ノ根本的差異ハ如何ナル原因ニヨリテ起ルカ. 【京都府醫專誌】80. 大6(1917).
 1306. 大島 廣: 雌雄ノ別ト遺傳. 【嶺西醫報】185. 大8(1919).
 1307. Iwata, Iwawo: On the determination of the sexes of Carrier-pigeons. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 7,4. 大8-15(1919-26).
 1308. 戸澤富壽: 金魚ノ追星ト生殖器トノ關係. 【動物誌】36,124. 大13(1924).
 1309. 朴澤 進, 中臺元治: 雌雄ノ第二次性徵ニ關スル一新知見. 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924).
 1310. —, —: 雌性蛙ニ見ラルル Kahn 氏ノ新シイ性徵ニ就テ. 【動物誌】37,412. 大14(1925).
 1311. 増井 清, 橋本重郎, 大野 勇: 雄鵝ニ於ケル退化交尾器官, 竝ニ初生鵝ノ雌雄ノ鑑別ニ就テ. 【中央獸醫誌】38,4. 大14(1925).
 1312. 高田義一郎: 胎兒ノ男女別ニ就テ. 【優生學】3,7-8. 大15(1926).
 1313. 佐々木喜一郎: 甲殼十脚類ニ於ケル雌雄形態差異(豫報)(抄). 【動物誌】38,456. 大15(1926). 【イセエビ】.
 1314. 阪本三郎: 鵜族ノ第二次性特徵ト生殖器ノ内分泌. 【日內分泌誌】2,4-5; 3,1. 大15-明2(1926-27).
 1315. 杜陵山人: 男ト女トノ區別. 【醫海時報】1650. 大15(1926).
 1316. 増井 清: 性ノ決定ニ關スル研究ノ概況. 【中央獸醫誌】40. 1. 明2(1927).
 1317. 増井 清, 橋本重郎, 大野 勇: 鵝ニ於

ケル生殖生理ノ研究. 第一. 雄鵝ニ於ケル交尾器官竝ニ初生鵝ノ雌雄鑑別ニ就テ. 【畜産試驗場報告】20. 明2(1927). 【排洩腔ノ解剖的組織的研究アリ】.
 1318. 杉浦 清: 吾國産兒ノ性ニ就テ. 【近業婦誌】11,6. 明3(1928).
 1319. 中臺元治: 蛙ノ第二次雄性徵トシテノ伸展性彈性腱條ニ關スル知見, 特ニ發生學的研究. 【動物誌】40,481. 明3(1928). 【トノサマガヘル, ツチガヘル, ニホンヒキガヘル】.
 1320. Amemiya, Ikusaku (雨宮育作): A preliminary note on the sexuality of a dioecious Oyster, *Ostrea gigas* Thunberg. [Jap. J. of Zool.] 2. 明3-4(1928-29).
 1321. Oka, Tohru (岡 徹): On the process on the finrays of the male of *Oryzias latipes* and other sex characters of this fish. [J. Fac. Sci., Sect. 4. Zool.] 2,3. 明3-6(1928-31).
 1322. Sugiura K.: Sex of Fetus in Japan. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 12,1. 明4(1929).
 1323. 海老名謙一: 鮎ノ追星ニ就テ. 【水産講習所研究報告】25,2. 明4(1929).
 1324. 石丸士郎: 男女ノ性的差異(綜). 【犯罪學會誌】3,2. 明5(1930).
 1325. 芝田清吾, 平林 忠: 初生兎ノ雌雄鑑別(Erkennung des Geschlechts von neugeborenen Kaninchen). 【日本畜産學會報】4,4. 明5(1930).
 1326. 小野嘉明: 「メダカ」ノ雌雄ニ於ケル試行竝ニ錯誤現象. 1. 【動物誌】43,518. 明6(1931).
 1327. 増井 清: 性ノ決定ニ關スル研究(會). 【中央獸醫誌】44,8. 明6(1931).
 1328. 海老名謙一: 鮎ノ雌ニ於ケル追星ニ就テ. 【水産講習所研究報告】26,1. 明6(1931).
 1329. 増井 清, 加藤嘉太郎, 伊藤祐之: 鵝ニ於ケル性ノ決定及分化ニ就テ. 第二報. 鵝ノ人工的「ギナンドロモルフ」ニ就テ. 【中央獸醫誌】44,7. 明6(1931).
 1330. 増井 清: ゴールドシユミトノ性決定學說ニ就テ(綜). 【日本畜産學會報】5,3-4; 6,1. 明6-8(1931-33).
 1331. 保坂孝雄: 勝手ニ胎兒ノ性ヲ決定出來ルカ(綜). 【體性】18,3. 明7(1932).
 1332. Kinoshita, Yoshiharu (木下好治): Influence of castration on the secondary sexual characters of *Rana limncharis*. [J. Sci. Hiroshima Univ.] Ser. B. 2. 明7(1932).

1333. 海老名謙一: 「ウマヅラハギ」ノ雌雄別ニ就テ. 【水産講習所研究報告】27,1. 明7(1932).
 1334. 松井佳一: 鯉, 鮒及ビ金魚ノ第二次性的標徴ト其ノ雜種ノ不胎ニ就テ(豫報). 【日本學術協會報告】7,2. 明7(1932). 【翠丸ノ組織アリ】.
 1335. 箕浦忠愛: Sex ratio ニ關スル考察ト實驗(會). 【動物誌】45,532-3. 明8(1933).
 1336. 内田 亭, 岩佐正夫: 「ヒライソガニ」(*Goetice depressus*, *Platograpsus depressus*)ノ間性型ニツキテ(會). 【動物誌】45,532-3. 明8(1933).
 1337. Miyashita, Yoshinobu (宮下義信): Remarks on the secondary sexual characters of *Brachyura*. [Ann. zool. Jap.] 14,2. 明8(1933). [*Eriocheir japonicus*].
 1338. Toyama, K.: Contributions to the study of Silk-worms. II. On the polygamous habit of the Silk-worm. [Bull. Coll. Agr. Tokyo Imp. Univ.] 7. 明39-41(1909-08).
 1339. 永井 潜: 原生動物(Protozoen)ノ生殖法ニ就テ. 【醫中央誌】4,10. 明40(1907).
 1340. 駒井 卓: 橋水母類ノ「ブラニユラ」ト處女生殖(抄). 【動物誌】33,388. 大10(1921).
 1341. 竹屋男綱: 人工單爲生殖ニ就テ. 【嶺西醫報】196. 大11(1922). 【蠟蟻卵】.
 1342. 大島 廣: 雄性單爲生殖ニテ發育シタル海鞘幼蟲ノ核ノ大キサニ就テ. 【動物誌】35,413. 大12(1923).
 1343. 濱田俊三郎: 「カキ」ノ人工處女生殖ニ就テ(抄). 【動物誌】39,469-470. 明2(1927). 【住ノ江カキ, 岩ガキ】.
 1344. 増井 清, 橋本重郎, 大野 勇: 鵝ニ於ケル生殖生理ノ研究. 第一. 去勢ノ身體發育及ビ各種器官ノ重量ニ及ボス影響ニツイテ. 第二. 翠丸ノ内分泌組織ニ就テ. 【日本畜産學會報】2. 明2(1927).
 1345. 中野 理: 蠅生殖器官ノ季節的變化ニ伴フ「グリコゲン」ノ消長. 【東北醫誌(會)】10. 明2(1927).
 1346. 寺田正周: 性週期ト卵巢及子宮機能ニ關スル實驗的研究. 【實驗醫誌】11,4. 明2(1927). 【白大黒鼠】.
 1347. 松葉重雄: 白鼠「パラビオーゼ」ヲ應用スル發情周期ノ研究(會). 【日獸醫會誌】6,2. 明2(1927).

9. 生殖, 性週期

1348. 伊藤吉孝: 海鼠雌性生殖器ニ於ケル週期的變化(抄). 【解剖誌】1,1. 明3(1928).
 1349. 齋藤公平: 白鼠ノ性周期ニ伴フ生殖器系統ノ組織學的變化. 附: 白鼠子宮粘膜上皮ノ「オキシダーゼ」反應ニ就テ. 【傳研業績】35. 明3(1928).
 1350. —: 白鼠性周期ニ伴フ生殖器系統ノ組織的變化. 【日病理會誌】18. 明3(1928).
 1351. —: 白鼠ノ性周期ニ伴フ生殖器系統ノ組織學的變化. 附: 白鼠子宮粘膜上皮ノ「オキシダーゼ」反應ニ就テ. 【實驗醫誌】12,8. 明3(1928).
 1352. Matsuba, Shigeo: On the biology of the Albino Rat in parabioc union. 1. The oestrous cycle. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 10,3. 明3-5(1928-30).
 1353. 進士織平: 蜆ノ生殖法ニ關スル知見補遺. 【動物誌】40,472. 明3(1928).
 1354. 佐藤繁雄: 鏡近ニ於ケル馬ノ生殖ニ關スル研究ノ狀況(會). 【中央獸醫誌】42,10. 明4(1929). 【體, 卵巢ノ週期的變化等アリ】.
 1355. 中村盛雄, 佐野 彰, 宮尾定信: 健常白鼠ノ性週期ト生殖器ニ出現スル脂肪及ビ「オキシダーゼ」顆粒(會). 【日內分泌誌】5,1. 明4(1929).
 1356. 土屋慶三: 雌性動物生殖器ノ「オキシダーゼ」反應. 第一報. 性週期ニ關聯スル健常白鼠ノ生殖器ノ「オキシダーゼ」反應ニ就テ. 【熊本醫會誌】5,10. 明4(1929).
 1357. 國重隆一: 白大黒鼠ニ於ケル子宮及ビ輸卵管上皮細胞ノ Golgi 氏裝置ノ週期性變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】42,189. 明5(1930).
 1358. 阿原道雄: 雌性白鼠生殖器内ゴルヂー氏内網裝置ト性週期トノ關係ニ就テノ研究. 【日病理會誌】20. 明5(1930).
 1359. 佐藤繁雄, 富田四郎: 牝馬ノ性週期ト子宮粘膜ノ態度(會). 【中央獸醫誌】44,7. 明6(1931).
 1360. 芝田清吾: 家兎ノ發情週期及排卵. 【日本畜産學會報】5,2. 明6(1931).
 1361. Takewaki, Kiyoshi (竹崎 潔): Influence of transplantation of testicular tissues on oestrous cycle of female Albino Rats. [J. Fac. Sci., 4. Zool.] 3,2. 明6(1931). 【翠丸ノ構造アリ】.
 1362. 濱田俊三郎: 「サンセウウニ」(*Temnopterus tornaticus*). 人工處女生殖ニ就テ. (會) 【動物誌】44,519-520. 明7(1932).
 1363. 三浦義儀: 「マウス」ノ性週期ニ及ボス

- 飼養料, 氣候は=気温等ノ影響=就テ.【長崎醫會誌】10,7. 昭7(1932).
1364. —: 「マウス」性週期=於ケル腔壁ノ組織學的變化=關スル知見補遺.【長崎醫會誌】10,7. 昭7(1932).
1365. 片山重理: 「マウス」ノ腔, 子宮粘膜炎=於ケル週期性變化知見補遺.【愛知醫會誌】39,12. 昭7(1932).
1366. 佐藤繁雄: 馬ノ生殖=關スル研究. 第一報.【日獸醫會誌】11,3. 昭7(1932).
1367. 澤崎嘉衛: 腦下垂體線照射ノ性周期=及ボス影響=就テ.【日レントゲン會誌】10,1; 11,1. 昭7-8(1932-33).【モルモット】.
1368. 川口榮作: 蛾類ノ單性生殖ト細胞學.【植物及動物】1,3. 昭8(1933).【蠶】.
1369. 佐藤繁雄, 星 脩三: 馬ノ生殖=關スル研究. 第二報.【日獸醫會誌】12,3. 昭8(1933).
1370. 由井 勝: 海鼠雌性内生殖器ノ週期性變化.【岡山醫會誌】45,6. 昭8(1933).
1371. 川名 晃: 年齢は=性週期=關スル白鼠雌性生殖器ノ肉眼の顯微鏡的研究.【千葉醫會誌】11,3,4. 昭8(1933).
1372. Tsuchimoto, S.: Relation between Endocrine Gland and Oestrus Cycle.【Jap. J. of exper. Med.】11,4. 昭8(1933).【White rat】.

10. 發生學

1. 發生一般

1373. 西川藤吉: 「ヤライカ」ノ發生.【動物誌】10,115. 明31(1898).
1374. Toyama, K.: Contributions to the study of Silk-worms. 1. On the embryology of the Silk-worm.【Bull. Coll. Agr. Tokyo Imp. Univ.】5. 明35-36(1902-1903).
1375. 木下熊雄: 八射珊瑚類ノ系統發生及ビ其ノ分類.【動物誌】21,245. 明42(1909).
1376. —: 八射珊瑚類ノ系統發生及ビ其ノ分類(四).【動物誌】26,303. 大3(1914).
1377. 駒井 卓: 「クラゲムシ」ノ發生ノ大要.【動物誌】30,362. 大8(1918).
1378. 濱田俊三郎: 「アゲマキ」介ノ發生及ビ構造(抄).【動物誌】34,401. 大11(1922).
1379. 工藤得安: 大山椒魚ノ發生(抄).【北越醫會誌】40,6. 大14(1925).
1380. 森於 菟, 小池敬事: 日本産大山椒魚「ハンザキ」ノ發生研究(會).【東京醫誌】2457. 大15(1926).

1381. 工藤得安: 大山椒魚ノ發生=就テ. (第二報, 1, 2, 3)【東京醫誌】2467, 2485, 2494. 大15(1926).
1382. 牧野内真: 有尾, 無尾兩棲類ノ四肢發生(抄).【北越醫會誌】43,4. 昭3(1928).【大山椒魚, 蠶】.
1383. —: 大山椒魚ノ四肢發生.【北越醫會誌】43,6. 昭3(1928).
1384. 稻葉傳三郎: 白海鼠(Caudina chilensis, J. Müller)ノ發生=就テ(會).【動物誌】41, 490-491. 昭4(1929).
1385. 久米又三: 三崎産海膽類ノ發生=就テ(抄).【動物誌】41,484. 昭4(1929).
1386. 池田脩三, 鈴木重武: 無尾兩棲類變態末期=於ケル前肢出現=就テ.【千葉醫會誌】9,10. 昭6(1931).
1387. 淺田豊彦: 邦産「ヤツメ」ノ發生=關スル一ノ「デモンストラチオン」(抄).【北越醫會誌】46,12. 昭6(1931).
1388. Ichikawa, Mamori: On the development of the green frog, *Rhacophorus Schlegelii* var. *arborea*.【Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ.】6,1. 昭7(1931).
1389. 尾崎佳正: 多口吸蟲 *Diploorchis ranae* ノ發育史=就テ(會).【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1390. 元村 勳: 「サンショウヲ」(*Hynobius unnanago* Tago, *H. fuscus* T.)ノ發生ノ際=見ララル細胞ノ移動=就テ(會).【動物誌】44, 519-520. 昭7(1932).
1391. 稻葉傳三郎: 海鼠類ノ幼生=就テ(綜).【植物及動物】1,6. 昭8(1933).

2. 變態

1392. 小山準二: 「キモリ」ノ變態ノ一觀察(抄).【動物誌】35,417-422. 大12(1923).
1393. —: 「ブルフログ」(*Rana catesbiana*)ノ日本デノ變態=就テ(抄).【動物誌】35, 414. 大12(1923).
1394. Sasaki, Madoka: On a Japanese salamander, in Lake Kuttarush, which propagates like *Axolotl*.【J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.】15. 大13-14(1924-1925).【Ecdysis, metamorphosis 並= neoteny アリ】.
1395. 庄司幸八: 「カブトガニ」(*Limulus longispinus* van der Hoeven)ノ幼生及ビツノ變態=ツイテ(抄).【動物誌】41,483. 昭4(1929).
1396. Taniguchi, Teratoshi: Experimentelle

- Studien über die Neotenie bei Amphibien.【Fol. anat. jap.】9,2. 昭6(1931).【*Bufo vulgaris japonicus*, *Rana japonica*, *Hynobius fuscus*】.
1397. Ichikawa, Atsuhiko (市川純彦): Metamorphosis of *Hynobius* larvae following removal of fourth branchial and arterial arches.【J. Fac. Sci. Hokk. Imp. Univ., Series VI. Zool.】1,3. 昭6(1931).【*Hynobius retardatus* Dunn】.
1398. 小野田勝造: 「コシカウニ」ノ幼生ト其ノ變態. 附: 「ウニ」ノ幼生飼育=就テ(會).【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1399. 中澤毅一: 櫻蝦ノ變態=就テ(會).【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1400. 内田惠太郎: 「ハモ」(*Muraenesox cinereus* (Forskål), 「マアナゴ」(*Astroconger myriaster* (Brevoort)) 其他數種ノ本邦産無尾魚類ノ變態=就テ(演).【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).【ハモ, ウミヘビ, ウツボ, マアナゴ】.
1401. —: 本邦産異體魚類ノ變態期前後. 1. 「メイトガレヒ」(*Pleuronichthys cornutus* Temminck & Schlegel).【動物誌】44,524. 昭7(1932).

3. 性細胞一般

1402. Ishikawa, Chiyomatsu (石川千代松): Studies of reproductive elements 1. Spermatogenesis, Oogenesis and Fertilization in *Diaptomus* sp.【J. Coll. Sci.】5. 明26(1893).
1403. Goto, Seitaro (五島清太郎): Die Entwicklung der Gonophoren bei *Physalia maxima*.【J. Coll. Sci.】10. 明29-31(1896-98).
1404. 藤田經信: 牡蠣ノ卵及ビ精蟲ノ活力=就テ.【動物誌】10,120. 明31(1898).
1405. 田中義慶: 生殖細胞式ノ雌雄二型.【札幌博物會報】5,2. 大3(1914).【家蠶】.
1406. 進士織平: 「アリマキ」性細胞ノ起原及ビ分化=就テ.【動物誌】34,404. 大11(1922).
1407. 佐々木松節: 人類生殖細胞ノ形成=就テ(綜).【生理研究】2,6-7. 大11(1925).
1408. 梅谷與七郎: 生殖細胞及ビ胚子=對スル存主ノ影響=就テ(綜).【朝鮮醫會誌】70. 大15(1926).【蠶】.
1409. Terao, Arata and Cheng Tsung-zeu (寺尾新): On the rudiments of the gonad in an isopod *Ligyda exotica* (Roux).【Ann. zool. japon.】11,1. 大15-昭3(1923-28).【「フナムシ」ノ生殖器ノ構造アリ】.
1410. 森田秀一: 精細胞ノ名稱. Benda-Wal-

deyerノ模型圖=就テ.【千葉醫會誌】8,10. 昭5(1930).

1411. 黒澤俊雄: Keimzellenノ發生=關スル知見補遺.【昭解誌】3,4. 昭5(1930).【白鼠】.
1412. 高島律三: 無尾兩棲類=於ケル性細胞ノ起源=關スル一考察.【解剖誌】5,1. 昭7(1932).

4. 精細胞, 精液

(ナホ男性生殖器參照)

1413. Toyama, K.: On the spermatogenesis of the Silk-worm.【Bull. Coll. Agr. Tokyo Imp. Univ.】2. 明27-30(1894-1897).
1414. 大串菊太郎: 蠶蝦ノ射精後ノ再生機構追加(會).【東京醫誌】1010. 明42(1909).
1415. Yatsu, Naohide (谷津直秀): Notes on the spermatogenesis of the wild and the domesticated silk-worms.【Ann. zool. Jap.】8,2. 明45-大3(1912-14).【*Theophila mandriana*, *Bembyx mori*】.
1416. Machida, Jiro: The spermatogenesis of an Orthopteron, *Atractomorpha bedeli* Boliv.【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】6,3. 大4-10. (1915-21)【*Atractomorpha bedeli*】.
1417. 富田朋介: 精絲ノ自動的上行性=就テ(第一報).【阪醫會誌】15,3. 大5(1916).【家兔】.
1418. Sato, Shigeo: On the Life-Duration of the Horse Spermatozoön outside of the Body.【Acta Scholae Med. Kioto】1. 大5-6(1916-17).
1419. 筒木外岐雄: 「プラナリア」(*Planaria vivida*)ノ精蟲養成=就テ(抄).【動物誌】29,346. 大6(1917).
1420. Masui, Kiyoshi: The spermatogenesis of domestic mammals. I. The spermatogenesis of the horse (*Equus caballus*).【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】3,6. 大8(1919).
1421. —: The spermatogenesis of domestic mammals. II. The spermatogenesis of cattle (*Bos taurus*).【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo.】3,6. 大8(1919).
1422. 塚口利三郎: 家蠶精絲ノ標本供覽(會).【阪醫會誌】19,11. 大9(1920).
1423. 竹屋男綱: 精蟲頭部=就テ.【熊本醫會誌】31. 大9(1920).【カラスガイ, イシダタミ, ニナ, ミミズ, スナヤツメ, 金魚, 蝶鱗, 金線鱈, トカゲ, 雀, 鼠】.
1424. 土屋四郎: 「ナメタジ」ノ精蟲(標本供覽)(會).【阪醫會誌】20,6. 大10(1921).
1425. Masui, Kiyoshi: The spermatogenesis

- of domestic mammals. III. The spermatogenesis of the mouse and of the rabbit. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 8,2. 大10-12(1921-23).
1426. 進藤篤一, 石澤政男: 「マウス」及ビ「ラッテ」ノ精子ノ構造ト其ノ發生ニ就テ(會). [東京醫誌] 2259. 大10(1921).
1427. —, —: 「ラッテ」及ビ「マウス」ノ精子ノ發生ニ其ノ構造ニ關スル知見補遺. [福岡醫誌] 15,6. 大11(1922).
1428. 小熊 輝: 雄性生殖細胞ノ染色體ニ就テ. [日病理會誌] 12. 大11(1922). (人).
1429. 塚口利三郎, 黒津敏行: 鱗翅類ノ無核精子ニ就テ. [動物誌] 34,401. 大11(1922).
1430. Minouchi, Osamu (籾内 牧): Spermatogenesis of the Albino Rat (*Mus norvegicus albus*). [Jap. J. of Zool.] 大11-昭3(1922-1928).
1431. Yamane, Jinshin (山根甚信): Über das Vorkommen von zwei eigentümlichen Körperchen als konstante Gebilde im Kopfe der Säugetierspermien. [Jap. J. of Zool.] 1. 大11-昭3(1922-28). [*Lepus cuniculus*, *L. timidus sinu*].
1432. 石澤政男: 精子頭ノ構造ニ就テ. [國家醫會誌] 432. 大12(1923). (人).
1433. Morita, Jun-ichi: A cytological Study on the Sperm-nutritive Cells of *Rana nigromaculata* Hall. [Fol. anat. jap.] 1,6. 大12(1923).
1434. 田中友三: 「ミチコン」ノ生殖細胞中ニ於ケル「ミトコンドリア」ニ就テ(一, 二). [水産研究誌] 18,5-6. 大12(1923).
1435. Takeya, Ozuna: Über die Spermiogenese von *Melania libertina* Gld. [Fol. anat. jap.] 2,3. 大13(1924).
1436. 小熊 輝: 人類ノ精子發育ニ關シ異論アル二三ノ點ニ就テ. [動物誌] 37,444. 大14(1925).
1437. 鷺見夏彦: 人精蟲ニ就テ(綜). [日新醫學] 17,3. 昭2(1927). (形態, 數, 生理, 運動ノ他).
1438. Nozawa, Hiroyuki: On the Influence of the constituents of germ cells parenterally injected on the living organisms. [Scient. Reports from the Gov. Inst.] 6. 昭2(1927). (Albino rat).
1439. 影山藤作: 交尾ニヨリ輸卵管ニ注入サレシ精蟲有能期間ニ就テ(抄). [動物誌] 39. 469-470. 昭2(1927). (雞).
1440. 竹屋男綱: 二形精子ノ意義(會). [東北醫誌] 10. 昭2(1927). [*Paludina vivipara*].
1441. 中野 理: 精絲ノ運命ヲ論ジテ精絲ノ榮養ニ及ブ(抄). [北越醫會誌] 42,4. 昭2(1927). (編者).
1442. 野澤廣行: 精絲形成波紋ニ其七區分ニ就テ. [實驗醫誌] 11,8. [傳研業績] 36. 昭2(1927). (大鼠鼠等).
1443. 新谷二郎: 人類精子ニ關スル實驗的研究. [倉敷病院報] 3. 昭3(1928).
1444. 土屋西郎: 「ナメクジ」(*Limax*) 及ビ「ウミウシ」(*Doris*)ノ精子構造ニ就テ. [解剖誌] 1,3. 昭3(1928). (特ニ原形質性遺傳質ヲ考慮シテ).
1445. 池田嘉平: 有肺類(*Pulmonata*)ノ精子ニ就テ軟體動物ノ雌雄同體性ノ研究. (第一報). [北越醫會誌] 43,1. 昭3(1928). [*Philomycus bilineatus* Benson].
1446. Morita, Jun-ichi: Über die Spermatogenese bei Amphibien. Studien auf *Rana nigromaculata*, mit besonderer Berücksichtigung der Plastosomen. [Fol. anat. jap.] 6,6. 昭3(1928).
1447. Kurihara, Shohei: On the spermatogenesis of *Chilo simplex* Butler, a phylarid moth. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 10,3. 昭3-5 (1928-30).
1448. Kitao, Zyunitiro: Notizen über die Spermatogenese bei *Oxya japonica* Willemsen. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 10,2. 昭3-5 (1928-30).
1449. 町田次郎: 家鼠ノ精蟲ノ數. [應用動物] 1,1. 昭4(1929).
1450. Minouchi, Osamu: On the spermatogenesis of the Raccoon Dog (*Nyctereutes viverrinus*), with special reference to the sex chromosomes. [Cytologia] 1,2. 昭4(1929).
1451. 富家太郎: 精蟲生活持續期間ニ及ボスレントゲン線及ビ「ラヂウム」放射線ノ影響ニ就テ. [近畿醫誌] 13,3. 昭5(1930). (白鼠).
1452. 高木朋茂: 「マウス」ノ精子發生現象(Spermiocytogenese)ニ就テ. [皮尿誌] 30,4. 昭5(1930).
1453. 伊藤秀五郎: 精蟲發生ニ見ラレル細胞異常. 1. 「ミツモンカハゲラ」ニ於ケル巨大精母細胞ト生殖細胞ト退化現象. [札幌博物學會報] 11,3. 昭5(1930).
1454. 梶本信明: 河貝子精子ノ脂肪ニ就テ. (會). [解剖誌] 3,3. 昭5(1930).
1455. 高木朋茂: 「マウス」ノ精子發生現象

- (Spermiocytogenese)ニ就テ. [解剖誌] 3,9. 昭5(1930).
1456. Yamane, Jinshin: The Proteolytic Action of Mammalian Spermatozoa and its Bearing upon the Second Maturation Division of Ova. [Cytologia] 1,4. 昭5(1930). (Rabbit).
1457. Makino, Sajiro (牧野佐二郎): The residual spermatogonia in the adult salamander, *Hynobius lichenatus* Boul., and their behavior during the seasonal cycle of the germ cells. [J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Series VI. Zool.] 1,2. 昭6(1931).
1458. 笹岡徳松: 精蟲ノ生物學的研究. [日醫大誌] 2,1-4-7-8. 昭6(1931). (人, 犬, 鼠, 牛, 馬, 豚).
1459. 森田秀一: 精子構造ノ研究. [千葉醫會誌] 9,10. 昭6(1931). (雞).
1460. 籾内 牧, 岸本 涉: 「シ.ー.ー.ー.バ.タ」ノ精子發生(豫報). [動物誌] 43. 508-510. 昭6(1931).
1461. Sugiyama, Masao (相山正雄): The spermatogenesis of *Asellus nipponensis*. [J. Fac. Sci., Sect. Zool.] 3,2. 昭6(1931).
1462. Sato, Ikio (佐藤井岐雄): Chromosome behavior in the Spermatogenesis of Urodele Amphibia, *Dienyctylus pyrrhogaster* (Boie). [J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1.] 2. 昭7(1932).
1463. Morita, Jun-ichi: Existence of Small and Large Atypical Spermatozoa in Viviparus. [Fol. anat. jap.] 10,1. 昭7(1932).
1464. —: Numerical Ratio of the Typical Spermatozoa in Viviparus and several other Prosobranchiata. [Fol. anat. jap.] 10,1. 昭7(1932). [*Viviparus planaxis*, *Thiara cerithium* Tomma Murex and *Fusinus*].
1465. Yamane, Jinshin and Ito, Toyoji: Über die Geschwindigkeit der Pferdespermatozoen in strömenden und nichtströmenden Flüssigkeiten. [Cytologia] 3,2. 昭7(1932). (Pferd).
1466. Hareyama, Seigo (晴山省吾): On the spermatogenesis of an Orthopteron, *Gampsocleis burgeri* D. H. [J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1.] 1. 昭7(1932).
1467. 竹屋男綱, 梶本信明: 河貝子精子ニ就テ(會). [解剖誌] 5,7. 昭7(1932).
1468. Kajimoto, Nobuaki: Über die Spermien von *Melania libertina* Gld. und *Viviparus mullentus* R. [Fol. anat. jap.] 10,4. 昭7(1932).
1469. Witschi, Emilu: Contribution to the Cytology of Amphibian Germ Cells. I. Chromosomes in the Spermatoocyte Divisions of Five North American Species of Toads. [Cytologia] 4,2. 昭8(1933). [*Bufo caurorus*, *B. Fowleri*, *B. lentiginosus*, *B. americanus*, *B. mercicus*].
1470. 立石新吉: 臺灣産哺乳類ノ細胞學的研究. (第一報)「コキバラネズミ」(*Rattus losea* Swinhoe)ノ精子發生(會). [動物誌] 45. 532-3. 昭8(1933).
1471. White, M. J. D.: Tetraploid Spermatoocytes in a Locust, *Schistocerca gregaria*. [Cytologia] 5,1. 昭8(1933).
1472. Morimune, Yoshitaka: Untersuchungen über die Spermainmunität. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 5,2. 昭6(1931). (Weisse Ratte).
1473. 平野 專: 人精液ヲ以テセル免疫抗體ノ型特異性ニ就テ(1). [犯罪學] 6,2. 昭7(1932). [血液型及ビ精液].
1474. —: 人精液「リポイド」ノ抗原性ニ就テ. [犯罪學] 6,3. 昭7(1932). (人精液ト血液型).

5. 卵細胞

1475. Kitahara, Tasaku (北原多作): Note on *Leucosparion petersi* Hilg. [Ann. zool. jap.] 5. 3. 昭36-39(1933-06).
1476. 西川藤吉: 浮游性「イカ」卵ノ一例(開眼類ノ發生). [動物誌] 18,218. 昭39(1906). (ホタルイカ).
1477. Yatsu, Naohide (谷津直秀): Extravate experiments on the egg of Sea-urchin. [Ann. zool. jap.] 7,4. 昭41-44(1908-11). [*Echinus*, *Arbacia*, *Strongylocentrotus*].
1478. —: A note on the Polarity of the primary ovocyte of *Asterias forbesii*. [Ann. zool. jap.] 7,4. 昭41-44(1908-11).
1479. —: Observations and experiments on the Ctenophore egg. [Ann. zool. jap.] 7,5. 昭41-44(1908-1911). [*Beroë ovata*, *B. forskällii*, *Callianira bialata*].
1480. 國友 鼎: 「ヒノビュース」卵ノ生殖(會). [東京醫誌] 1610. 昭42(1909).
1481. Yatsu, Naohide (谷津直秀): Experiments on germinal localization in the egg of *Cerebratulus*. [J. Coll. Sci.] 27. 昭42-44(1909-11). [*Cerebratulus lacteus*].

1482. —: Observations and experiments on the Ctenophore egg. [J. Coll. Sci.] 32. 明44-大2(1911-13). [Beroë ovata, B. forskälii, Callinira bialata, Eucharis multicornis].

1483. —: Observations and experiments on the Ctenophore egg. [Ann. zool. jap.] 8, 1. 明45-大3(1912-1914). [Beroë ovata].

1484. Inukai, Tetsuo (犬飼哲夫): Experimental studies on the developing eggs. I. Age and environment in Amphibia. [J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.] 10. 大10-12(1921-23). [Hynobius].

1485. 柳原要三: 日本鳥類ノ巢及卵(抄). [動物誌] 34, 404. 大11(1922).

1486. 平岩馨邦: 「モノアラヒガヒ」ノ卵ニ及ボス遠心力ノ影響. [動物誌] 36, 423. 大13(1924).

1487. 桑山 覺: 「クサカゲロフ」ノ卵ニ就テ. [動物誌] 36, 423. 大13(1924).

1488. 小山準二: Hynobius ノ巨大ナル卵囊(抄). [動物誌] 37, 439. 大14(1925).

1489. Terao, Arata and Tsung-zen-cheng: On the Rudiments of Gonad of *Ligyda exotica* (Roux). [J. of Imp. Fisheries Inst.] 21, 4. 大15(1926).

1490. 妹尾秀實: 海魚卵ノ發生ト水温比重トノ關係ニ就テ. 適温装置供養(會). [動物誌] 38, 447. 大15(1926). [Calotomus japonicus].

1491. Ikeda, T.: Über die genetische Veränderung der Zellorganellen, besonders der Golgischen Apparate in Vogeleizellen. [Fol. anat. jap.] 6, 4. 昭3(1928). [Hühnerei].

1492. 池田 保: 鳥類卵細胞ニ於ケル卵黄形成ニ關係アル細胞小機關 Zellorganellen 殊ニ Golgi 氏装置ノ發育的變化ニ就テ(會). [解剖誌] 1, 1. 昭3(1928). [家鷄, 鳩, 鴨, 七面鳥].

1493. 岡本達三郎: 卵細胞細胞ノ起原ニ就テ(會). [解剖誌] 1, 1. 昭3(1928). [大].

1494. 鷺見夏彦: 人卵ニ就テ(綜). [日新醫學] 17, 10. 昭3(1928).

1495. 古屋 清: 人類卵子ノ運命ニ就テ(綜). [日新醫學] 17, 12. 昭3(1928).

1496. 垣山六二: 「ア・フオ, ヤボニカ」ノ卵ノ極細胞ニ就テ. [解剖誌] 2, 2. 昭4(1929).

1497. 高梨亮次郎: 家蠶蛾ノ未産卵數. [應用動物誌] 1, 1. 昭4(1929).

1498. 栗原章平: 二化螟蛾ノ卵數ニ就テ. [應用動物誌] 1, 3-4. 昭4(1929).

1499. 横山桂馬: 家蠶卵殼面ニ現ハレタル一

畸形. [應用動物誌] 2, 1. 昭5(1930).

1500. 松久健市: 蝦夷富士産「エゾサンセウウオ」ノ卵ノ異常ニ就テ. [札幌博物會報] 11, 3. 昭5(1930).

1501. 千島喜久男: 鳥卵ニ比較シテ「シヤウガタバウ」(*Chelonia japonica* Thumb) ノ卵ノ構造(抄). [動物誌] 42, 502. 昭5(1930).

1502. 陶守三思郎: 卵細胞内 Golgi 氏装置ニ及ボス「クロールカリウム」, 「クロールカルチウム」ノ作用ニ就テ. [岡山醫會誌] 43, 495. 昭6(1931). [家雞].

1503. —: 卵細胞内 Golgi 氏装置ニ及ボス鹽化「アドレナリン」, 「ビロカルビン」ノ作用ニ就テ. [岡山醫會誌] 43, 500. 昭6(1931). [家雞].

1504. 佐々木林治郎, 原澤久夫: 鶏卵ノ貯藏中ニ於ケル變化ニ就テ (第二報). [日本畜産學會報] 5, 1. 昭6(1931).

1505. 堺田博雄: 海冥ニ於ケル雌性生殖腺ノ發生特ニ Ovogenesis ニ就テ. [解剖誌] 4, 1. 昭6(1931).

1506. 千島喜久男: 鳥卵及ビ檢卵管ノ螺旋性特ニ Chalaza ノ形成機構ニ就テ. [應用動物誌] 3, 3. 昭6(1931).

1507. —: 鶏卵ノ産出方向ト卵形及ビ卵重トノ關係 (1). [應用動物誌] 3, 3-4. 昭6(1931).

1508. 垣山六二: 蝶螺ノ卵ノ極細胞及ビ受精現象ニ就テ. [解剖誌] 3, 11. 昭6(1931).

1509. 岩崎行高: 家蠶卵卵黄細胞並ニ血球ニ於ケル顆粒ニ就テ. [應用動物誌] 3, 2. 昭6(1931).

1510. —: 家蠶卵ニ於ケル胚盤細胞並ニ卵黄細胞ノ生成及ビ卵黄細胞ノ性質. [應用動物誌] 3, 5. 昭6(1931).

1511. 堺田博雄: 海冥卵巣ノ組織發生學的研究特ニ卵子發生現象 (Oogenesis) ニ就テ. [日婦會誌] 27, 9-11. 昭7(1932).

1512. 垣山六二: 蝶螺卵ノ極細胞ニ就テ. [解剖誌] 5, 2. 昭7(1932).

1513. —: 「カスミサンセウウヲ」卵ノ極細胞ニ就テ(會). [解剖誌] 5, 7. 昭7(1932).

1514. 岩崎行高: 家蠶卵ニ於ケル血球ノ性質生成並ニ分布ニ就テ. [應用動物誌] 4, 1. 昭7(1932).

1515. 中村廣司: 「マセフカチキ」*Istiophorus orientalis* (Temminck & Schlegel) ノ熟卵(抄). [動物誌] 44, 524. 昭7(1932).

1516. 垣山六二: 蛙卵ノ極細胞ニ就テ. [解剖

誌] 6, 4. 昭8(1933). [*Rana rugosa*, *R. nigromaculata*].

1517. 内田惠太郎: 「アカザ」(*Liobagrus*) ノ卵及ビ仔魚(抄). [動物誌] 45, 536. 昭8(1933).

1518. 山本時男: 日本「バコロ」蟲ノ卵ノ光化學的變化(豫報)(會). [動物誌] 45, 531. 昭8(1933). [*Ceratocephale Osawai*].

1519. 伊東俊夫: 一硬魚卵細胞發育期ニ於ケル核小體ニ就テ. [解剖誌] 6, 4. 昭8(1933). [*Leiognathus argenteum* Lacépède].

1520. 竹内貢一郎: 家兔ノ卵細胞ノ卵巣内並ニ排卵後ニ於ケル初期發育ニ關スル發生學的研究. [解剖誌] 6, 1. 昭8(1933).

6. 排卵, 受精(交尾)

1521. 佐々木忠二郎: 「ヤンマ」ノ交尾ニツキテ. [動物誌] 6, 71. 明27(1894).

1522. 寺崎留吉: 蜻蛉ノ卵ノ分裂ニ就テ. [動物誌] 8, 89. 明29(1896).

1523. 藤田經信: 卵子受精ニ關スル近來ノ學說ト Fol 氏ノ Quadrille of Cuters ニ就キ. [動物誌] 8, 91. 明29(1896).

1524. 岸上謙吉: 「クルマエビ」類ノ交尾ニ用ユル奇妙ナル附器. [動物誌] 8, 96. 明29(1896).

1525. Ikeda, Sakujiro (池田作次郎): Notes on the breeding habit and development of *Racophorus schlegeli* Günther. [Ann. zool. jap.] 1, 3. 明30(1897).

1526. 窪田五郎, 砂山左門之助: 人工受精ニヨル受胎ノ實驗. [中央獸醫誌] 14, 7. 明34(1901). [馬].

1527. 須藤求馬: 本邦中古婦人ノ懷孕力. [人類誌] 16, 180. 明34(1902).

1528. 伊庭秀榮: 卵ハ何時受胎スルヤ. [産科婦誌] 84. 明39(1906).

1529. 谷津直秀: 紐蟲ノ受精ニテ精中心體ノ起リ. [動物誌] 19, 222. 明40(1907). [*Cerebratulus lacteus*].

1530. 國友 鼎: 「ヒノビウス」卵ノ受精ニ就テ. [研殖誌] 92-93. 明43(1910). [Hynobius nebulosus].

1531. 永井元吉: 「クウナス」ノ卵子ノ受精並ニ其ノ分割ニ就テ. [動物誌] 22, 256. 明43(1910).

1532. 赤座壽惠吉: 鞍馬山雨蛙ノ卵及ビ卵分割ヲ研究シテ其本性ニ及ビ. 並ニ卵分割ニ關スル學者ノ知見ニ就テ二三ノ注意. [第三回日本醫學會誌] 明44(1911). [*Racophorus Kurama*].

1533. 伊庭秀榮: 受胎ノ時期. [産婆學誌] 142. 明45(1912).

1534. 赤座壽惠吉: 卵分割ニ關スル「デモンストラチオン」(會). [醫公論] 14. 大1(1912). [鞍馬産青蛙].

1535. —: 一種ノ本邦生青蛤及ビ其ノ卵分割 (Furchungsprozess) 並ニ一般卵分割ニ關スル二三ノ知見. [東京醫會誌] 27, 14. 大2(1913).

1536. 平瀬信太郎: モノアラヒガヒ (*Lymnaea*) ノ自己受精ニ就テ(抄). [動物誌] 31, 364. 大8(1919).

1537. 荻野久作: 排卵ト月經トノ時間的關係(抄). [北越醫會誌] 37, 6. 大11(1922).

1538. 大島 廣: 海膽ノ皮膚分泌液ガ其ノ卵ノ受精ニ及ボス抑止作用ニ就テ. [動物誌] 34, 400. 大11(1922).

1539. Aschoff: 排卵ト月經(會). [醫公論] 644-647. 大13(1924).

1540. 藤田經信: 「カレイ」類ノ人工孵化. [動物誌] 36, 432. 大13(1924).

1541. 大島 廣: 海鼠類ノ卵ノ成熟及ビ受精ニ就テ. [九帝大農學部學藝誌] 1, 2. 大14(1925). [*Thyone briareus*, *Cucumaria saxicola*, *C. echinata*].

1542. 佐々木松節: 人類ニ於ケル受精並ニ受精卵ノ發生(綜). [生理研究] 2, 8-12. 大14(1925).

1543. 山根甚信, 江藤常藏: 人工授精術ヨリ觀タル家兔ノ排卵ト交尾關係ニ就テ. [日獸醫會誌] 4, 2. 大14(1925).

1544. 寺尾 新: 「コケゴロモ」, 「イハガキ」ノ受精素ニ就テ(會). [動物誌] 38, 447. 大15(1926).

1545. Togari, Chikataro: On the ovulation of the mouse. [Nagoya J. med. Sci.] 2, 1. 昭2(1927).

1546. 青木文一郎, 立石新吉: 蝶螺ノ交尾動作トソノ中樞ノ所在ニ就テ(豫報). [動物誌] 39, 461. 昭2(1927). [*Jenodera aridifolia* Stoll].

1547. 林續二郎: 「ウニ」ノ受精ニ及ボス水素「イオン」濃度ノ影響(豫報)(抄). [動物誌] 39, 469-470. 昭2(1927). [*Strongylocentrotus nudus*].

1548. 宮崎展亮: 受胎ニ關スル統計的觀察. [備本醫會誌] 5, 3. 昭4(1929). [人].

1549. 久米又三: 「キモリ」(*Diemyctylus pyrrhogaster*) ノ人工受精(抄). [動物誌] 41, 492. 昭4(1929).

1550. 妹尾秀實, 堀 重藏: 「マガキ」(*Ostrea*

- gigas), 「ケガキ」(O. spinosa), 「イワガキ」(O. circumpieta) ノ相互受精ニ關スル研究(會). 【動物誌】41,490-491. 昭4(1929).
1551. 西尾夏實: 受精現象中ノ一項. 【産婆誌】15,2. 昭5(1930).
1552. 竹内貫一郎: 家兎卵ノ受精ニ就テ(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
1553. 垣山六二: 蟻卵ノ極細胞及ビ受精現象ニ就テ(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
1554. 梅津元昌, 島村虎猪: 馬ノ人工授精術ニ關スル研究(第三報). 精液ノ體外保存中ニ於ケル水素「イオン」濃度ノ變化ニツイテ. 【中央獸醫誌】43,9. 昭5(1930).
1555. 林續二郎: 海水ノ變化ノ海産動物ニ及ボス影響ニ就テ. (3)「ウ」ノ卵及ビ其ノ受精ニ及ボス水素イオン濃度ノ影響. 【動物誌】42,497. 昭5(1930). (Strongylocentrotus radus, S. intermedius).
1556. 池田嘉平: 有肺類ニ於ケル自家受精ト他家受精トノ相互關係(會). 【動物誌】44,503. 昭5(1930).
1557. —: 蝸牛卵ノ受精突起ニツイテ(抄). 【北越醫會誌】45,9. 昭5(1930). (Eulota similis stimpsoni).
1558. —: 蝸牛卵ノ受精突起ニツイテ(會). 【東京醫誌】2691. 昭5(1930). (オナシマイマイ).
1559. Ikeda, Kahei: The fertilization cones of the land snail, Eulota (Eulotella) similis stimpsoni Pfeiffer. 【Jap. J. of Zool.】3. 昭5-6(1930-31).
1560. 井上繁: 排卵機構(會). 【日醫新聞】2,8. 昭6(1931). (家兎).
1561. 芝田清吾: 鶏ニ於ケル排卵ノ研究(Über die Ovulation beim Haushuhn). 【日本畜産學會報】4,5. 昭6(1931).
1562. 渡邊達三郎: 哺乳動物不受精卵ノ運命. 「ラ」ニ就テ(會). 【解剖誌】4,4. 昭6(1931).
1563. 安田龍夫: 排卵期ト受精期. 【衛生學】9,7-8. 昭7(1932). (人).
1564. 山本正: 受精ト遺傳. 【産婆誌】17,3. 昭7(1932).
1565. 牧野佐二郎: 「エゾサンセウウヲ」ノ卵ノ成熟ト受精(豫報)(抄). 【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1566. 國友鼎: 山椒魚卵分割ノ時間的研究. (會)【解剖誌】5,7. 昭7(1932). (ハンザキ, 飛騨斑點山椒魚, ヒノビウス, キモリ).
1567. —: 大山椒魚「ハンザキ」卵ノ受精及

ビ分割. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).

1568. 山根甚信: 家兎卵ニ於ケル精子侵入ノ機構ニ就テ(會). 【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1569. 中村定八: 人工受精ニ依ル Hynobius 卵ノ Monospermie ト Polyspermie トニ就テ(會). 【動物誌】45,532-3. 昭8(1933). (H. nebulosus).

7. 初期發生

1570. Mitsukuri, Kakichi (箕作佳吉): On the formation of the germinal layers in Chelonia. 【J. Coll. Sci.】1. 明20(1887).
1571. 八田三郎: Carl Rabl ノ中胚葉説. 【動物誌】5,57. 明20(1893).
1572. Mitsukuri, Kakichi (箕作佳吉): Further studies on the formation of the germinal layers in Chelonia. 【J. Coll. Sci.】5. 明26(1893). (Clemys japonica, Trionyx japonicus).
1573. —: 高等脊椎動物ノ「ガストルラ」ニナル模様ニツイテ. 【動物誌】5,54. 明20(1893).
1574. Hatta, Saburo (八田三郎): On the formation of the germinal layers in Petromyzon. 【J. Coll. Sci.】5. 明20(1893). (P. planeri).
1575. Mitsukuri, Kakichi (箕作佳吉): On the process of gastrulation in Chelonia. (Contributions to the embryology of Reptilia. IV). 【J. Coll. Sci.】6. 明27(1894). (Chelonia caotana).
1576. —: On the fate of the blastopore, the relations of the primitive streak, and the formation of the posterior end of the embryo in Chelonia, together with remarks on the nature of meroblastic ova in Vertebrates. (Contributions to the embryology of Reptilia. V). 【J. Coll. Sci.】10. 明29-31(1896-98). (Chelonia caotana).
1577. —: On the fate of the blastopore and the formation of the posterior end of the embryo in Chelonia. 【Ann. zool. jap.】1,1-2. 明30(1897).
1578. 大澤岳太郎: 胚葉ノ特性ニ就テ. 【産婆誌】1,3. 明32(1899).
1579. Ikeda, Sakujiro (池田作次郎): Contributions to the embryology of Amphibia: The mode of blastopore closure and the position of the embryonic body. 【J. Coll. Sci.】17. 明34-36(1901-03). (Rhacophorus, Rana, Bufo).
1580. Dean, Bashford: Reminiscence of holo-

- blastie cleavage in the egg of the shark, Heterodontus (Cestracion) japonicus Macleay. 【Ann. zool. jap.】4,1. 明34-36(1901-03).
1581. Fujita, Tsunenobu (藤田經信): On the formation of the germinal layers in Gastro-poda. 【J. Coll. Sci.】20. 明37-38(1904-05). (Aplysia sp., Siphonaria lepida).
1582. 石川千代松: 「ハンザキ」ノ「ガストルレーション」. 【動物誌】17,200. 明38(1905).
1583. Hatta, Saburo (八田三郎): On the gastrulation in Petromyzon. 【J. Coll. Sci.】21. 明39-40(1906-07).
1584. Yatsu, Naohide (谷津直秀): Some experiments on cell-division in the eggs of Cerebratulus lacteus. 【Ann. zool. jap.】6,4. 明39-41(1906-08).
1585. 中澤敏一: 「ザリガニ」(Cambarus affinis) ノ幼蟲時期ニ就テノ研究(抄). 【動物誌】21,247. 明42(1909).
1586. Yatsu, Naohide (谷津直秀): Experiments on cleavage in the egg of Cerebratulus. 【J. Coll. Sci.】27. 明42-44(1909-11). (C. lacteus, C. marginatus).
1587. 寺崎留吉: 鶏胚ノ「プリミチーブ・ストリーク」ニ就テノ研究. 【動物誌】22,256. 明43(1910).
1588. 森田齊次: 體腔起リヲ現シタル蛙卵ノ再生ニ就テ. 【十全會誌】21,9. 大5(1916). (Rana esculenta).
1589. 細谷雄太: 原脊索ニ就テ. 【大日耳鼻】28,2. 大11(1922). (無尾兩棲類).
1590. Inukai, Tetsuo: Beiträge zur Entwicklungsgeschichte der Reptilien. I. Die frühesten Entwicklungsvorgänge bei der Wald-eidechse. 【J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.】16. 大15-昭2(1926-27). (Lacerta vivipara Jacq).
1591. Kamito, Akira: Early development of the Japanese killifish (Oryzias latipes), with notes on its habits. 【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】10,1. 昭3-5(1928-30).
1592. Fujita, Tsunenobu (藤田經信): On the early development of the common Japanese Oyster. 【Jap. J. of Zool.】2. 昭3-4(1928-29). (Ostrea gigas Thunberg).
1593. 小山準二: 「ブチサンシウウオ」(Hynobius naevius Schlegel) ノ孵化マデ(抄). 【動物誌】41,485. 昭4(1929).
1594. 高木俊藏: 家鶏卵黃囊ニ於ケル造血. (「コンドリオソーマン」研究報告第二)(會).

【動物誌】44,503. 昭5(1930).

1595. 高島律三: 莖「ヒボコルダ」發生模型供覽要旨(會). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
1596. 元村勳: 「モリアツガヘル」(Rhacophorus schlegelii var. arborea (Okada et Kawano)) 卵ニ於ケル神經板ノ先見ノ位置ニツイテ(會). 【動物誌】44,503. 昭5(1930).
1597. 藤田經信: 「マガキ」ノ胚葉分化ニ就テ. 【動物誌】43,513. 昭6(1931). (Ostrea gigas).
1598. 海野仁造, 藥師寺忠志: 鳥類ノ卵黃囊ト腸管トノ關係ニ就テ. 【岡山醫會誌】44,7. 昭7(1932). (家鳩).
1599. 安達鳥次: 穿山甲胎兒ノ初期發生ニ就テ. 【解剖誌】5,7. 昭7(1932).
1600. 佐藤準夫, 田中正夫: 「キムシ」(Urechis uncinatus von Drasche) ノ初期發生ニ就テ(會). 【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1601. 竹居勇: 「スツボン」ノ Vorderkopf-mesoderm. 【千葉醫會誌】11,12. 昭8(1933).
1602. 岡田要: 發生ニ於ケル胚表分化ノ一過程(綜). 【植物及動物】1,1-2. 昭8(1933). (兩棲類).
1603. Takaya, Hiroshi (高谷博): A note on the abnormal nuclear division of the normally fertilized eggs of the Echinoid (Anthocidaris crassispina) in acid media. 【Ann. zool. jap.】14,1. 昭8(1933).
1604. 正木十二郎: 「アキボタル」(Pyrocoelia rufa, Ern. Olivier) ノ幼蟲ノ形態ニ就テ. 【動物誌】45,531. 昭8(1933).

8. 胎盤, 胎膜(卵膜)

1605. Mitsukuri, Kakichi (箕作佳吉): On the foetal membranes of Chelonia. 【J. Coll. Sci.】4. 明24(1891). (Clemmys, Trionyx).
1606. Hirota, S.: On the sero-amniotic connection and the foetal membranes in the chick. 【J. Coll. Sci.】6. 明27(1894).
1607. 大槻滿次郎: 胎盤及ビ卵膜ノ離脱線ニ就テ. 【産婆誌】7,6. 明38(1905). (人).
1608. —: 胎盤「ジニチウム」細胞及ビ所謂「ラングハンス氏層」細胞ノ發生ニ就テ. 【産科婦誌】84-85. 明37-39(1906-07). (人).
1609. 飯塚正平: 胎盤組織中ニ於ケル「グリコゲン」並ニ標本供覽(會). 【阪醫會誌】7,10. 明41(1908). (人, 家兎).
1610. —: 胎盤組織中筋纖維ノ存在ニ就テ. 【阪醫會誌】9,5. 明43(1910). (人).

1611. 河合うた: 妊娠八ヶ月=於ケル前置胎盤=テ横位ナリシ困難ナル分娩ノ一例。【おとづれ】2,9. 明43(1910).

1612. 武井武男, 河内亦七郎: 多胎動物ノ各胎兒及ビ胎盤ノ重量ト其占位部トノ關係。【第四回日本醫學會誌】大4(1915). [家兔].

1613. 井岡忠雄: 胎盤ノ生體染色=就テ(會)。【近畿婦誌】1,3. 大5(1916). [家兔].

1614. 渡邊純一郎: 家兎子宮=於ケル胎盤形成殊ニ該絨毛間血管腔「ジンチチウム」ノ發生=關スル知見増補。【東京醫會誌】32,12. 大7(1918).

1615. 藤村元張: 人體胎盤及ビ脱落膜ノ内分泌機能=關スル細胞學的研究。【東京醫會誌】33, 15. 大8(1919).

1616. Ohashi, Yosika. (大橋義郁): Die Studien zur histogenetischen und histophysiologischen Untersuchung der Plazenta (I. Bei der Maus). 【愛知醫學同窓誌】59. 大8(1919).

1617. 村尾信彦: 胎盤「ジンチチウム」問題。第1報。家兎胎盤=於ケル「ジンチチウム」細胞ノ發生。第2報。二十日鼠胎盤=於ケル「ジンチチウム」細胞ノ發生(會)。第3報。「モルモット」胎盤=於ケル「ジンチチウム」細胞ノ發生。【近畿婦誌】5,10; 6,1-2. 大10-12(1921-23).

1618. 大橋義郁: 胎盤=於ケル巨大細胞ノ發現竝ニソノ運命=就テ(抄)。【北越醫會誌】37, 6. 大11(1922). [マウス].

1619. 清水由隆: 胎盤ノ透過性=就テ。【醫海時報】1499. 大12(1923).

1620. 德橋豊信: 日本人胎盤ノ統計的觀察。【愛知醫會誌】31,3. 大13(1924).

1621. 松澤松哉: 妊娠末期=於ケル海綿絨毛膜血管系統=就テ。【日微生物誌】18. 大13(1924).

1622. 玉川和: 人及ビ數種哺乳動物臍帶=於ケル糖原質發現=就テ。附: 其ノ生物學的意義。【十全會誌】30,4. 大14(1925). [人, 牛, 犬, 豚, 家兔, 海狸].

1623. 鈴木清: Untersuchungen über Cetacea. 23. Über das Fruchtwasser des Pottwals. 【Jap. J. of med. Sci., II. Biochemie】1,1. 大14-昭7(1925-32).

1624. 杜陵山人: 關所トシテノ胎盤ノ役目。【醫海時報】1648. 大15(1926).

1625. 山口正道, 小山正道: 胎盤脂肪ノ形態學的研究(第一報)。野鼠及ビ家兎胎盤脂肪=就テ。【日病理會誌】16. 大15(1926).

1626. 梶村正義: 蝙蝠胎盤=於ケル「グリコゲン」ノ生物學的意義(抄)。【北越醫會誌】41, 4-6. 大15(1926).

1627. —: 蝙蝠胎盤=於ケル「グリコゲン」ノ分佈及ビ消長(第二報)(抄)。【北越醫會誌】41,2. 大15(1926).

1628. —: 蝙蝠胎盤=於ケル脂肪分佈及ビ消長竝ニ是ト「グリコゲン」トノ比較研究(會)。【東北醫誌】10. 昭2(1927).

1629. 山口正道: 胎盤脂肪ノ形態學的研究(第二報)。人類胎盤脂肪=就テ。【日病理會誌】17. 昭2(1927).

1630. 塚口利三郎, 加藤喜久男: 家兎胎盤「ジンチチウム」ノ形成=就テ。【阪醫會誌】26, 10. 昭2(1927).

1631. 朝岡稻太郎: 人胎盤ノ研究(第一報)。胎盤ノ統計的竝ニ形態學的觀察。【日新醫學】17, 3. 昭2(1927). [成熟胎盤 337例, 早産胎盤 109例].

1632. —: 日本人胎盤ノ研究(第一報)。胎盤, 胎兒及ビ母體相互間=於ケル關係ノ統計的觀察。【日病理會誌】17. 昭2(1927).

1633. —: 人胎盤ノ研究(第二報)。人胎盤ノ脂肪=就テ。【日新醫學】17,6-7. 昭3(1928). [早産胎盤 63例, 成熟胎盤 190例, 過熟胎盤 21例].

1634. —: 人胎盤ノ研究(第三報)。人胎盤組織=於ケル所謂硝子樣物質=就テ。【日新醫學】17,10. 昭3(1928). [早産胎盤 63例, 成熟胎盤 190例, 過熟胎盤 18例].

1635. —: 人胎盤組織=於ケル所謂硝子樣物質=ツイテ。【日病理會誌】18. 昭3(1928).

1636. 末廣要: 胎兒附屬物ノ組織學的研究(第一報)。羊膜(會)。【朝鮮醫會誌】94. 昭3(1928).

1637. 畑秀雄: 成熟胎盤ノ統計的, 組織的觀察。【成醫會】48. 昭4(1929).

1638. 三井田積: 胎兒羊膜上皮ノ窓狀開孔=就テ。【長崎醫會誌】7,5. 昭4(1929). [犬, 猫, 豚].

1639. 梶村正義: 蝙蝠胎盤=於ケル「グリコゲン」ノ分佈及ビ消長=生物學的意義=就テ。【朝鮮醫會誌】19,6. 昭4(1929). [Vespertilio abranus].

1640. 吉川砥直: 稀有ナル胎盤異常ノ一例。【北越醫會誌】45,6. 昭5(1930).

1641. 小松崎孝: 人胎盤ノゴルチー氏網狀裝置=就テ。【解剖誌】4,4. 昭6(1931).

1642. 溝口堅固: 色素ノ胎盤透過=關スル實驗的研究。【解剖誌】4,8. 昭6(1931). [マウス].

1643. 山岡秀民: 胎盤生物學=關スル綜説。

【關西醫事】3,20-33; 4,1-8. 昭6-7(1931-32).

1644. 上坂敏雄: 胎盤ト胎兒子宮内發育關係(會)。【近畿婦誌】15,3. 昭7(1932).

1645. 上田清: 人胎盤ノ所謂解毒機能=關スル實驗的研究(第二報)。網狀織内被細胞系統トノ關係=就テ。【近畿婦誌】15, (昭7(1932)).

1646. 加藤茂: 日本人胎盤動脈=就テ。【東京醫會誌】46,11. 昭7(1932).

1647. 前田洲, 永山在廣: 胎盤人工培養法=就テ(第一報)(會)。【近畿婦誌】15,3. 昭7(1932). [人, 家兔].

1648. Katsuya, Sh.: The Placenta and the Reticulo-endothelial System. Especially on the Roentgenography of Placenta. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】15,1. 昭7(1932). [Guinea pig, rabbit, mouse].

1649. 勝矢信司: 胎盤ト網狀織内被細胞系統, 特ニ其レントゲン撮影=就テ。【近畿婦誌】15,3. 昭7(1932). [海狸, 家兔, マウス].

1650. 上坂敏雄: 妊娠=及ボス出血ノ影響=關スル研究。第三編。胎盤ノ組織學的變化=就テ。第五編。母體實驗的出血ノ胎兒子宮内發育=及ボス影響。【近畿婦誌】15,3; 16,1. 昭7-8(1932-33). [家兔].

1651. 富井虎吉, 下村宏: 有窓胎盤分娩例。【近畿婦誌】16,1. 昭8(1933).

1652. 小松崎孝: 人胎盤微細構造ノ研究。【千葉醫會誌】11,11. 昭8(1933).

1653. 猪原修二: 九個ノ分葉ヨリ成レル多葉性胎盤=就テ。【臨床産婦人科】8. 昭8(1933). [人].

1654. 杜陵山人: 胎盤細胞毒素。【醫海時報】2045-2048. 昭8(1933).

1655. 池田長太郎: 食餌ノ流早産=及ボス影響=ツキテ。【日新醫學】23,2. 昭8(1933). [家兔, 胎盤及ビ黃體ノ組織的檢索アリ].

1656. —: 家兎羊膜上皮ノ微細構造=就テ。【日新醫學】22,11. 昭8(1933). [妊娠末期羊膜].

1657. —: 食餌性血液「アチドービス」ノ妊娠家兎羊水竝ニ羊膜上皮=及ボス影響=就テ。【日新醫學】22,11. 昭8(1933).

9. 臍, 臍帶

1660. 中村秀子: 臍帶異常ノ二例。【産婆誌】41. 明36(1903).

1661. 米山サヅ子: 臍帶ノ長サ=就テ。【産婆誌】139. 大1(1912).

1662. 神津善重郎: 臍帶ノ卵膜附着=就テ。【順天堂醫誌】505. 大4(1915). [人].

1663. 山田一夫: 臍帶ノ統計的觀察(第一報)(會)。【近畿婦誌】2,5. 大9(1917). [人].

1664. 田谷誠: 種々時期ヲ異ニシテ行ヘル臍帶切斷ガ新生兒ノ發育=及ボス影響=就テ。【近畿婦誌】3,6. 大7(1918).

1665. 庭瀬信太郎: 臍位=就テ。【國家醫會誌】387. 大8(1919). [人].

1666. 山田一夫: 臍帶ノ組織學的檢索補遺。附: 彈力纖維竝ニ格子狀纖維=就テ(會)。【近畿婦誌】5,10. 大10(1921). [人].

1667. Mabuchi, Kozaburo: Morphologische Studien über das Verhalten der Nerven in den weiblichen Geschlechtsorganen des Menschen mit besonderer Berücksichtigung der Veränderungen ihres Verhaltens während der Gravidität und Menstruation und im zunehmenden Alter. Anhang: Die Nerven in der Nabelschnur und Plazenta. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】31,3. 大13(1924).

1668. 濱田稻積, 木村嘉一: 臍帶=於ケル神經=就テ(組織學的研究)(會)。【近畿婦誌】10,6. 昭2(1927). [人].

1669. 中島精: 臍帶缺損, 過短及ビ過長臍帶=就テ。【臨床産婦人科】2. 昭2(1927). [人].

1670. 庄司新: 過長及ビ五回纏絡臍帶ノ一例。【臨床産婦人科】3. 昭3(1928). [人].

1671. 小野寺直助, 劉先登: 臍形ト左利。【東京醫誌】2706. 昭3(1928). [人].

1672. 近藤: 人胎兒胎生各月=於ケル臍帶ノ組織學的檢索。【軍醫副】201. 昭5(1930).

1673. 近藤決: 人胎臍帶ノ組織學的研究。【近畿婦誌】13,1. 昭5(1930). [胎生ニケ月ヨリ十ヶ月迄].

1674. Kondo, K.: Histological Investigation of the Umbilical Cord of Human Fetus. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】13,2. 昭5(1930).

1675. 橋爪一男: 人臍帶ノ發生的研究(會)。【日醫新聞】2,8. 昭6(1931).

1676. 福井達雄: 臍帶ノ異常捻轉。【解剖誌】4, 4. 昭6(1931).

1677. 波々伯部重隆: 本邦正常成熟婦人ノ臍位=就テ。【十全會誌】38,10. 昭8(1933).

- 1678. 橋爪一男: 邦人胎兒臍帶及ビ其ノ内容物殊ニ尿管及ビ卵黃囊ノ發生學的研究。【解剖誌】6,7. 昭8(1933).
- 1679. 橋爪一男: 邦人胎兒臍帶及ビ其ノ内容物殊ニ尿管及ビ卵黃囊ノ發生學的研究(二)。【解剖誌】6,8. 昭8(1933).

10. 胎 兒

- 1680. Nishikawa, Tokichi (西川): Notes on some embryos of Chlamydoselachus anguineus Garmani. [Ann. zool. jap.] 2,4. 明31(1898). [ラバカノ embryo ノ構造及ビ形態アリ].
- 1681. 大澤岳太郎: 人ノ胎兒ノ發生。【産婦誌】1,2. 明32(1899).
- 1682. 早川萬一: 牛胎兒ノ計測實例。【中央獣醫誌】16, 9. 明36(1903).
- 1683. 佐伯理一郎: 分娩中ニ死セル「フオルモール」凝屍ノ剖見(會)。【おとづれ】2,10-12. 明44-大1-3(1911-13). [人].
- 1684. 和田千藏: 青森縣産「カモシカ」(Neomarhaedus crispus) ノ胎兒(抄)。【動物誌】35, 417-422. 大12(1923).
- 1685. 國友 鼎: 日本人胎兒ノ月經年齢ト其ノ大サ(會)。【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924).
- 1686. 小坂成信: レントゲン線ノ胎兒ニ及ボス影響。【レントゲン會誌】5,4. 昭3(1928). [家兎].
- 1687. 池田吉人: 人間胎兒ニ於ケル二三ノ發生學的新所見ニ就テ(會)。【解剖誌】4,4. 昭6(1931).
- 1688. 北野伊八郎: 日本人胎兒ノ胎生期組織學的研究(抄)。【耳鼻】4,6. 昭6(1931).
- 1689. 橋本 清: 所謂生活兒浸軟現象ノ一例【臨床産婦人科】8. 昭8(1933).
- 1690. 本多 操, 倉橋幸夫, 川野邊三郎: 本邦胎兒ノ解剖學的研究補遺(第二報), (第三報)(會)。【近畿婦誌】16,1-3. 昭8(1933).

11. 多 胎

- 1691. 柏原長弘: 多胎妊娠ノ學理(綜)。【助産看護友】4,7. 昭6(1931). [人].
- 1692. 合田得輔: 人間ノ多生兒出産ニ就テ。【動物誌】42,501. 昭5(1930).

12. 雙 胎

- 1693. 太宰惠輔: 奇怪ナル雙胎ノ略記。【東京醫誌】293. 明16(1883). [人].

- 1694. 石川千代松: 雙兒ニ就テ。【動物誌】5,53-59. 明26(1893).
- 1695. 勝木澤吉: 畸雙胎兒ノ實驗。【福井會誌】10. 明26(1893). [人].
- 1696. 窪田五郎: 牛馬ノ雙兒發育實驗記事。【中央獣醫會誌】6,4. 明26(1893).
- 1697. 千葉勝景: 嗚呼眞理以外ノ並胎。【醫海時報】44-45. 明28(1895). [人].
- 1698. 岩井續三: 複胎ト副乳ノ關係ニ就テ。【東京醫誌】1212. 明34(1901). [人].
- 1699. 森田文齋: 羊膜水腫ニ腹水ノ一畸形兒ヲ兼タル雙胎。【産科誌】3,9. 明34(1901).
- 1700. 石阪英仙: 雙胎ノ胸腹處着。【産科誌】3,4. 明34(1901).
- 1701. 藤村こう: 雙胎兒ノ一兒木乃伊化セル分娩ノ實驗(會)。【おとづれ】2,3. 明35(1902). [日本人].
- 1702. 山浦貞三: 雙胎分娩ノ一奇例。【東京醫誌】1281. 明35(1902). [人].
- 1703. 林 鹿野: 雙胎ノ一例。【産婦誌】51. 明37(1904).
- 1704. 村田龜太郎, 山川幾世野: 雙胎(講)。【産婦誌】50. 明37(1904).
- 1705. 無名: 雙胎畸形兒ノ實驗。【臺灣醫會誌】6,62. 明40(1907). [人].
- 1706. 原田安之助: 雙胎ニ就テ。【産科婦誌】93. 明40(1907). [人].
- 1707. 稻生鑑次郎: 退化性雙胎ノ一實驗。【産科婦誌】99. 明41(1908).
- 1708. 南川親義: 雙胎數例。【産科婦誌】115. 明42(1909).
- 1709. 藏光長次郎: 雙胎ニ關スル統計。【日婦會誌】4,2. 明42(1909). [人].
- 1710. 小幡龜壽: 雙生ニ關スル研究(會)。【東京醫誌】1640. 明42(1909). [兎, 鼠].
- 1711. 高谷いま: 雙胎ノ一例。【おとづれ】2, 10. 明44(1911). [人].
- 1712. 出月たかを: 雙胎ノ一例。【産婦誌】128. 明44(1911).
- 1713. 百崎欽一: 一卵性雙胎ニ發シ急慢性羊膜水腫ノ一例。【研瑛誌】106. 明45(1912). [人].
- 1714. 樋村龜作: 重複畸形兒ノ一例。【産婦誌】167. 大3(1914).
- 1715. 大野タツ子: 雙胎畸形兒ノ一例(會)。【助産友】3,1. 大3(1914). [人].
- 1716. 三田谷啓: 雙生兒ニ就テ。【兒童研究】20. 大5-6(1916-1917). [人].
- 1717. 國友 鼎: 一卵性雙胎兒ノ外貌及ビ内

- 臟ノ比較研究。【東京醫誌】37,10. 大12(1923). [人].
- 1718. 大西てる: 一卵性男雙胎發育良好ナル二例(會)。【助産友】3,9. 大12(1923). [人].
- 1719. 大西, 谷川, 藤井, 平井: 一卵性雙胎分娩ノ二例(會)。【助産友】3,10. 大13(1924). [人].
- 1720. 加藤 幸: 雙胎分娩ノ二例(會)。【助産看護友】4,2. 大15(1926). [人].
- 1721. 岸 孝義: 一卵性雙胎ト二卵性雙胎トノ鑑別(第一報)。雙胎兒ノ血液型ニ就テ。【十全會誌】32,6. 昭2(1927). [人].
- 1722. —: 一卵性雙胎ト二卵性雙胎トノ鑑別(第二報)。雙胎兒ノ人身測定。【十全會誌】32,8. 昭2(1927). [人].
- 1723. 内田 亨: 蛙ノ人工雙兒ノ性轉換(會)。【動物誌】39,463. 昭2(1927).
- 1724. 柴田 至: 雙胎兒ト轉位症トノ關係(會)。【東北醫誌】10(特). 昭2(1927). [人].
- 1725. 古河千代美: 戸籍上ニ現ハレタル雙胎ノ統計的觀察。【北越醫會誌】43,6. 昭3(1928).
- 1726. Abe, M.: A case of monoamniotic twins. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 12,2. 昭4(1929).
- 1727. 濱田宗之助: 雙胎兒ニ關スル二三ノ觀察。【兒科誌】350. 昭4(1929).
- 1728. 吉原 敬: 單對稱腸骨劍狀處着雙胎畸形兒ノ脈管系ニ就テ(會)。【九大醫報】3, 5. 昭4(1929).
- 1729. —: 單對稱腸骨劍狀處着雙胎畸形兒供養(會)。【九大醫報】3,5. 昭4(1929).
- 1730. —: 單對稱腸骨劍狀處着雙胎畸形兒ノ一例(會)。【東京醫誌】2945. 昭4(1929).
- 1731. 徳岡力夫: 雙胎兒分娩經過中ニ偶發セル完全子宮破裂ノ一例。【臨床産婦人科】5. 昭5(1930).
- 1732. 村田文二: 日本人雙胎兒指掌紋理ノ研究。【日鐵道醫會誌】17,10. 昭6(1931). [雙胎兒82組指紋ノ統計的觀察].
- 1733. —: 日本人雙胎兒指紋組合ニ就テ。【日鐵道醫會誌】17,10. 昭6(1931).
- 1734. —: 雙胎兒ノ身長及ビ體重。【日鐵道醫會誌】17,5,8. 昭6(1931).
- 1735. —: 雙胎兒ノ身長及ビ體重ニ就テ。【解剖誌】4,4. 昭6(1931). [就學兒童].
- 1736. 飯尾秀平, 青木三千雄: 一卵性雙胎ノ興味アル二症例ノ比較觀察及ビニシヤツツ氏ノ急性羊膜水腫成因ニ對スル疑義。【臨床産婦人科】6. 昭6(1931).

- 1737. —: 一卵性雙胎兒ノ稀有ナル妊娠經過ニ就テノ一例(會)。【日醫新聞】2,13. 昭6(1931).
- 1738. 村山豊一: 興味アル一卵雙胎ニ於ケル急性羊膜水腫ノ一例。【臨床産婦人科】3. 昭3(1931).
- 1739. 佐伯理一郎: 複胎ノ原因ガ女ノ側ニナクシテ男ノ側ニノミアリシ一例(會)。【助産看護友】4,7. 昭6(1931).
- 1740. 藤田市郎: 雙胎兒ニ關スル小統計。【犯罪學】5,3. 昭7(1932). [人].
- 1741. 國友 鼎: 雙胎兒ニ現ルル遺傳形質ノ研究。【關西醫事】4,30. 昭7(1932).
- 1742. —: 雙胎兒ヨリ見タル體質ノ研究。【海軍醫誌】21. 昭7(1932).
- 1743. 駒井 卓, 福岡五郎: 雙胎兒ニ關スル二三ノ問題。【日本學術協會報告】7,2. 昭7(1932). [人].
- 1744. —, —: 人類雙生兒ニ於ケル相稱ノ問題。【動物誌】45,532-533. 昭8(1933).
- 1745. 中村 力, 二階堂政秀: 雙胎兒ノ發育狀態ニ就テ。【臨床兒誌】7,5. 昭8(1933). [胎兒及ビ小兒].
- 1746. 奥源之助: 雙胎ノ生物學的知見増補. 其二. 日本ノ雙胎ニ就テ。【近畿婦誌】16,6. 昭8(1933).
- 1747. 荒木文吾: 日本人雙胎兒ノ統計的研究。【長崎醫會誌】11,6-7. 昭8(1933).

13. 品 胎

- 1748. 楠田謙藏: 三胎妊娠ノ數例。【産科誌】3,8-9. 明34(1901).
- 1749. 山田小松: 三胎ノ一例。【産婦誌】55. 明37(1904).
- 1750. 荒木文夫: 三胎分娩ノ一例。【研瑛誌】69. 明38(1905).
- 1751. 松坂英庵: 三胎分娩ノ實驗。【助産誌(産婦誌改題)】64. 明38(1905).
- 1752. 吉田三治: 三胎ノ一例。【産科婦誌】109. 明42(1909).
- 1753. 佐々木豊三: 品胎ノ一例(會)。【近畿婦誌】3,7. 大8(1919).
- 1754. 朝田 和: 品胎分娩ノ一例(會)。【助産友】3,6. 大8(1919).
- 1755. 佐伯理一郎: 品胎分娩一例(會)。【助産友】3,9. 大12(1923).
- 1756. 島崎義明: 品胎ノ一例. 附. 我國ニ於

ケル複産ノ頻度ニ就テ。【近産婦誌】12,3. 昭4 (1929).
1757. 竹ノ内善次郎: 稀有ノ羊水過多ヲ伴ヘル品胎ノ一誤診例ニ就テ。【臨床産婦人科】6. 昭6(1931).

14. 四胎以上

1758. 佐藤元貞: 五子分娩ノ實驗。【産科誌】3,12. 明34(1901).
1759. 磯山昇之助: 四胎兒分娩ノ一例。【産科誌】44. 明36(1903).
1760. 勝馬監藏: 要胎分娩ノ一例(會)。【近産婦誌】3,7. 大8(1919).
1761. 岡村鼎二: 要胎分娩ノ一例。【近産婦誌】12,6. 昭4(1929).

15. 妊娠, 分娩, 産卵

1762. 松原新之助: 鰻鱺産卵ノ説。【大日本水産會報告】2. 明15(1882).
1763. 北原多作: 鯛ノ産卵及ビ發生。【動物誌】10,120. 明31(1898).
1764. 楠田謙藏: 日本婦人ノ妊娠持續日數ノ統計。【産科誌】4,5. 明35(1902).
1765. 佐伯理一郎, 杉原六郎: 子宮外妊娠ノ二例(會)。【おとづれ】2,5. 明37(1904).
1766. 加島政基: 妊娠及ビ泌乳山羊ニ於ケル沃度加里ノ試験。【中央獸醫誌】19,10. 明39(1906).
1767. 荒木直作: 妊娠馬ニ就テ。【陸軍獸醫報】29. 明44(1911).
1768. 宮地生: 子宮外妊娠ノ一例(會)。【おとづれ】2,10. 明44(1911). [人].
1769. 有馬才三: 晩産ノ一例。【産科誌】132. 明44(1911).
1770. 橋爪哲造: 妊娠持續日數ト初生兒ノ體重, 頭周, 身長及ビ胎盤トノ統計的關係。【第三回日本醫學會誌】. 明44(1911).
1771. 赤産壽惠吉: 鞍馬山青蛙ノ産卵状態ノ「デモンストラチオン」(會)。【醫公論】13. 大1 (1912).
1772. 出月たかを: 一ケ年中ノ月ニ分娩ガ多イカ。【産科誌】150. 大2(1913).
1773. 山縣六郎: 驚異ノ經過ヲ取リシ子宮外妊娠胎兒(會)。【近産婦誌】1,1. 大4(1915).
1774. 寺澤しん: 子宮外妊娠ノ一例(會)。【助産友】3,3. 大4(1915).

1775. 佐野順吉: 腹腔妊娠ニ就テ(會)。【近産婦誌】1,3. 大5(1916).
1776. 富田ふさ子: 子宮外妊娠ノ二例(會)。【助産友】3,4. 大5(1916).
1777. 酒井正吾: 子宮外妊娠統計。【近産婦誌】2,4. 大6(1917).
1778. 古屋清: 妊娠ノ形態的研究。【日婦會誌】18,6. 大12(1923).
1779. 岡田彌一郎: 「ニホンアマガヘル」(Hyla arborea japonica Günther)ノ産卵(會)。【動物誌】36,433. 大13(1924).
1780. 岡崎常太郎: 「ヒキガヘル」ノ産卵時期ニ於ケル諸觀察(會)。【動物誌】36,424. 大13(1924).
1781. 赤枝守一, 伊藤哲二: 妊娠前半期ニ於ケル形態學的研究(其一)(會)。【近産婦誌】7,4. 大13(1924).
1782. 秋葉隆: 内分泌腺ノ妊娠ニ及ボス影響ニ就テ實驗的研究補遺。【單行】大14(1925). 新潟-東京。[犬, 家兔, 海鼠, 白鼠].
1783. 松葉繁雄: 犬ノ避妊手術(會)。【日獸醫會誌】4,2. 大14(1925).
1784. —: 犬ニ於ケル避妊手術ニ關スル研究。【日獸醫會誌】4,3. 大14(1925).
1785. 久保不二太郎: 家兔ノ原發性腹腔妊娠ニ就テ。【動物誌】38,455. 大15(1926).
1786. 芝田清吾: 單子宮家兔ノ産仔數ヲ支配スル單卵巣ト複卵巣トノ意義。【中央獸醫誌】40,4. 昭2(1927).
1787. —: 渡部徳二: 白色「レグホーン」鶏ノ産卵時間問題(會)。【中央獸醫誌】40,4. 昭2 (1927).
1788. 大城眞郷: 特異ナル喇叭管妊娠ノ追加2例。【臨床産婦人科】2. 昭2(1927).
1789. 宮田大喜男, 保科甚一郎: 妊娠ノレントゲン撮影法ト其應用ニ就テ。【滿洲醫誌】7. 昭2(1927). [胎兒].
1790. 芝田清吾: 妊娠「モルモット」ニ關スル諸觀察。【中央獸醫誌】40,4. 昭2(1927).
1791. Mizuhara, Sh. and Fukui, S.: Striae gravidarum of Japanese Women. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 11,4. 昭3(1928).
1792. Kumagai, Kuranoske: Eine neue Diagnostik der Schwangerschaft auf Grund der sero-elektrischen Reaktion. [岡山醫會誌] 40, 456. 昭3(1928). [Mensch].
1793. 飯島麟太郎: 妊娠持續日數ニ關スル統計的觀察。【臨床産婦人科】3. 昭3(1928).

1794. Tominaga, K.: Two cases of abdominal pregnancy. Can a primary abdominal pregnancy exist?. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 12, 2. 昭4(1929).
1795. 佐伯信男: 腹腔妊娠ノ一例(會)。【助産看護友】4,6. 昭5(1930).
1796. 瀧 庸: 「ユスリカ」Chironomus dorsalis Meienノ構造並ニ産卵ニ就イテ(會)。【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
1797. 小熊 悌, 林續二郎: 鳩ノ抱卵及ビ育雛期ニ於ケル唾腺粘膜ノ變化ト其組織學的竝ビニ細胞學的研究。【日本學術協會報告】7,2. 昭7(1932).
1798. 竹田末吉: 分娩ト孵化ノ「メカニクス」ニ就テ。【九大醫報】6,6. 昭7(1932).
1799. 川上 博: 動物ノお産ト人間ノお産。【産科誌】17,3; 18,1. 昭7-8(1932-33).
1800. 荒川保雄: 衣虱ノ發育並ビニ産卵ニ及ボス温度及ビ給血量ノ影響(會)。【動物誌】45, 532-3. 昭8(1933).
1801. 河野松夫: 卵巣妊娠ニ就テ。【臨床産婦人科】8. 昭8(1933). [人].

11. 實驗形態學

1. 機械發生 (發生生理學)

1802. 藤田經信: 「アマフラシ」ノ實驗的發生。【動物誌】8,93. 明29(1896).
1803. た う: 試驗的發生學。【動物誌】8, 89. 明29(1896).
1804. 金子治郎: 鎌狀縁及ビ腱弓ノ人工形成。【十全會誌】40. 明39(1906). [家兔].
1805. 長雄勝馬: 血中ニ注入シタル墨汁ノ運命。【醫新聞】879. 大2(1913). [家兔].
1806. 森田齊次: 椎骨突起ノ方向及ビ形狀ヲ定ムル發生因子ニ就テ(會)。【東京醫誌】1885. 大3(1914). [家兔].
1807. 森田齊次: 蛙卵ノ發生機械學上ノ研究(會)。【東京醫誌】1899. 大3(1914).
1808. 長雄勝馬: 血中ニ注入セラレタル墨汁ノ運命(第二報)。【日內會誌】3. 大4(1915). [家兔].
1809. 谷津直秀: 動物發生生理學(會)。【動物誌】27,315,317,318,320. 大4(1915).
1810. 森田齊次: 鶏卵ニ就テノ發生機械的研究。【成醫月報】427. 大6(1917).
1811. 稻熊信正: 鰻鱺 (Ozobranchus jantseanus Oka)ニ施シタル小試験。【動物誌】34, 399. 大11(1922).

1812. Tokura, R.: Zur Frage der Hörbläscheninversion. [Fol. anat. jap.] 2,2. 大13(1924). [Rana nigromaculata].
1813. 桂應祥: 體皮切開後ニ於ケル蠶兒及ビ蠶蛾ノ器官ノ運動ニ就テ。【九大農學雜誌】1,5. 大14(1925).
1814. Tokura, R.: Entwicklungsmechanische Untersuchungen über das Hörbläschen und das akustische, sowie faciale Ganglien bei den Anuren. [Fol. anat. jap.] 3,4-5. 大14(1925). [Rana nigromaculata].
1815. Ogawa, Chikanosuke: Einige Experimente zur Entwicklungsmechanik der Amphibienhörbläschen. [Fol. anat. jap.] 4,6. 大15(1926). [Bufo japonicus, Rana nigromaculata, Dismictylus pyrrhogaster].
1816. 若月館一, 石黒芳雄: 水上飛行機ヨリ水上ニ投下セル動物ノ内臟變化ニ就テ。【海軍醫誌】15. 大15(1926).
1817. Ogawa, Chikanosuke: Eliminationsversuch der Nase bei den Amphibienlarven. [Fol. anat. jap.] 6,6. 昭3(1928). [Bufo vulgaris].
1818. 鈴木重武: 有尾兩棲類ノGastrula, Randzone, prospektive Bedeutungニ就テ(會)【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
1819. 三浦久松: 蝌蚪排泄器ノ實驗發生學的研究(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [蟾蜍, 金線蛙].
1820. 戸塚環海: 軟部組織ニ於ケル彈片創ノ解剖的記事。【海軍醫誌】18,3. 昭4(1929). [人].
1821. 鈴木重武: 有尾兩棲類發生初期ニ於ケル二三ノ發生生理學的考察。【千葉醫會誌】7,5. 昭4(1929).
1822. —: 兩棲類發生初期ニ於ケル發生生理學的研究。【解剖誌】2,1,2,5. 昭4(1929).
1823. 小川睦之輔: 胚胎ニ於ケル局所的發育促進ニ就テ。【解剖誌】2,2. 昭4(1929).
1824. 平澤有路: 氣管内ニ侵入セル異物ノ肺組織内吸收ニ關スル研究。【結核】8,5. 昭5(1930).
1825. 花田清: 實驗的頭蓋底骨折ニ於ケル聽器ノ病理組織學的觀察。【耳鼻】3,6. 昭5(1930).
1826. Noka, Hirozo: Umkehrungsversuch der Leberanlage an der Amphibienlarve. [Jap. J. med. Sci., 1. Anat.] 2,3. 昭5(1930).
1827. Shimasaki, Yoshiaki: Entwicklungsmechanische Untersuchung über die Urnier,

des Bufo. [Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.] 2,3. 昭5(1930).

1828. 森田齊次: 發生機械學ノ進歩(綜). [日醫週報] 1982-1985, 昭5(1930).

1829. Shimizu, Shigeru: The effect of respiratory injury on the silk gland and sexual organ in the silk-worm, Bombyx mori L. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 11,1. 昭5-7(1930-32).

1830. 崔明鶴: Synchronism of development in parabiatic Amphibian larvae. (會). [解剖誌] 4, 4. 昭6(1931). [Rana nigrom., R. tempor.].

1831. Choi, M. H.: Synchronism of development in parabiatic Amphibian larvae. [Fol. anat. jap.] 9,5. 昭6(1931). [Rana tempor., Rana nigrom.].

1832. —: Determination of the ear and side-specificity of the ear region ectoderm in Amphibian embryos. [Fol. anat. jap.] 9,5. 昭6(1931). [Bufo japonicus].

1833. Yatabe, Teikai: Zur Morphologie des Skleralknorpels. II. Über den Einfluss operativer Eingriffe auf die Entwicklung des Skleralknorpels bei Hynobius leechii. [Keijo J. of Med.] 2,1. 昭6(1931).

1834. 濱崎信太郎: 傷害ニ依ル蠶兒斑紋消失ノ組織學的知見. [應用動物誌] 3,1. 昭6(1931).

1835. Kishitani, Teijiro: Studien über Leucht-symbiose von japanischen Sepien. [Fol. anat. jap.] 10,3. 昭7(1932).

1836. Yatabe, Teikai: Zur Morphologie des Skleralknorpels. VI. Versuch über den Einfluss von Wasserdruck auf den Skleralknorpel bei Hynobius leechii. [Keijo J. of Med.] 3,3. 昭7(1932).

1837. 鈴木重武: 兩棲類四肢原基ニ關スル二三ノ發生理學的問題ニツイテ. [千葉醫會誌] 10,1. 昭7(1932).

1838. 福井、定: 家兎長骨發育ニ就テノ實驗的研究. [成醫會] 520. 昭7(1932).

1839. 田中義慶, 川口榮作: 人為的ニ獲タル triploid ノ蠶(會). [遺傳誌] 7,4. 昭7(1932).

1840. 小川睦之輔: 著合(「パラビオーゼ」) 蛸科ニ於ケル實驗發生學的研究. [解剖誌] 6,4. 昭8(1933). [蛸科].

1841. 鈴木重武: 蠶絲ノ囊胚胚片ノ同種胚腹腔内ニ於ケル培養實驗. [解剖誌] 6,4. 昭8(1933).

1842. Yamada, Hachiro: Über die Herzlimi-

nation bei den parabiatischen Bufolarven. [Fol. anat. jap.] 11,2. 昭8(1933).

1843. Shimasaki, Y. u. Yamada, Hachiro: Über die doppelseitige Pronephrektomie bei den parabiatischen Froschlerven. [Fol. anat. jap.] 11,2. 昭8(1933). [Rana temporaria, Bufo vulgaris].

1844. Yamada, Hachiro: Über die Elimination des Magens bei den parabiatischen Bufolarven. [Fol. anat. jap.] 11,2. 昭8(1933).

1845. —: Einschnidungsversuch an der Leberanlage der Bufolarven. [Fol. anat. jap.] 11,3. 昭8(1933).

1846. —: Über die Elimination der Leber bei den parabiatischen Bufolarven. [Fol. anat. jap.] 11,3. 昭8(1933).

1847. 關承五: 胸壁上ヨリ加ヘタル温熱及ビ寒冷刺激ガ胸壁肋膜肺組織ノ生體色素攝取並ニ食喰機能ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究. [十全會誌] 38,5. 昭8(1933). [家兎].

1848. 鈴木重武: 兩棲類胚ノ尾ニ關スル一實驗. [千葉醫會誌] 11,12. 昭8(1933).

1849. —, 池田脩三: 無尾兩棲類變態末期ニ於ケル前肢出現ニ就テ(其2). 再ビ前肢出現ノ一側的優先性ニ就テ, 並ビニ正常發生ニ於ケル前肢出現ニ就テ. [解剖誌] 5,10. 昭8(1933).

2. 光線, 放射線, 電氣ノ影響

1850. 藤田政勝: 感傳電氣ノ魚類ニボス反應實驗(雜). [動物誌] 18,211. 昭9(1906).

1851. 土肥慶藏, 牧五郎: 「ラヂウム」放射線ニ因ル健康及ビ病的組織ノ變化ニ就テ. [皮膚誌] 13,3-4. 大2(1913).

1852. 種村 式: レントゲン及ビ「ラヂウム」放射線ノ蛙蝌蚪並ニ蠶絲科科及ボス生理學的作用ニ關スル實驗的研究. [中央醫會誌] 28, 2. 大10(1921).

1853. Ikeno, Seiitiro (池野成一郎): Studies on the genetics of flower-colours in Portulaca grandiflora. [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 8,1. 大10-12(1921-23).

1854. 杉田 勇: 日光照射ニ依ル組織學的變化ニ關スル實驗的研究. [海軍醫誌] 35. 大11(1922). [家兎].

1855. 小室英夫: 「ソラマメ」ノ根端組織ニ作ラレタX線腫瘍. [癌] 18,3. 22,1. 大13(1924).

1856. 瀨木嘉一: レントゲン線ノ腦下垂體又ハ生殖腺放射後爾餘ノ内分泌諸臟器又ハ生殖腺ノ受クル二次的影響. [日レントゲン會誌] 3,1. 大14(1925).

1857. 塚本亮太郎: 「メゾトリウム」及ビレントゲン放射線ノ單細胞體「ゴウムベクトラール」ニ對スル作用ニ就テ. [癌] 20,4. 大15(1926). [動物].

1858. 瀨木嘉一: 放射線並ニ紫外線ノ蠶種ニ及ボス生理學的作用ニ就テノ實驗的研究. [實驗醫誌] 5,2. 大10(1921).

1859. Yamamoto, T.: Effects of Roentgen rays on the development of embryo of the hen. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 10,3. 昭2(1927).

1860. Kosaka, Sh.: Effects of Roentgen rays upon the Fetus. I. Investigation of the influence and effect of Roentgen rays upon the Mouse fetus. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 10,3. 昭2(1927).

1861. 小坂成信: レントゲン照射胎兒ノ母體外發育及ビ其生殖機能. [日レントゲン會誌] 6,3. 昭3(1928). [鼠].

1862. 佐藤龜一, 佐々木素直: レントゲン硬線ニ由ル蠶絲科科ノ變化ニ就テ(會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928).

1863. 石澤政男: 紫外線ニヨル細胞及ビ組織ノ形態學的並ビニ生理學的性質ノ解析. 1. 腸上皮ニ於ケル油脂ノ吸收ニ關スル知見(第一報)(會). [九大醫報] 3,5. 昭4(1929).

1864. —: 紫外線ニ依ル生物細胞及ビ組織ノ形態學的並ビニ生理學的性質ノ解析. (紫外線特ニ長波長紫外線ノ顯微鏡學的應用ニツイテ)(會). [九大醫報] 4,3-4. 昭5(1930).

1865. —: 各種放射線ニ依ル生物細胞及ビ組織ノ形態學的並ビニ生理學的性質ノ解析. 五. 赤外線顯微鏡寫眞ニ就テ. [九大醫報] 4,6. 昭5(1930).

1866. 本城定男: 陰極線ノ神經細胞ニ及ボス影響並ニX線作用トノ比較研究(第二報). [岡山醫會誌] 42,484. 昭5(1930). [家兎].

1867. 木村正路: 物質ニ對スル光ノ作用. [結核] 8,11. 昭5(1930). [生物ノ物理學的現象].

1868. 本城定男: 陰極線放射ノ研究(會). [解剖誌] 3,3. 昭5(1930). [家兎].

1869. 國友 鼎, 森 衛: 發生期器官並ニ組織ノ放射線傷害ニ就テ(會). [解剖誌] 3,3. 昭5(1930). [蠶絲幼生].

1870. 神立金作: 横紋筋ニ對スル硬レ線作用

ノ組織學的研究. [海軍醫誌] 19,3,5. 昭5(1930).

1871. 馬尾原茂, 町野碩夫: 硬レ線ノ人卵巣ニ對スル作用ニ就テ. [日レントゲン會誌] 8, 1. 昭5(1930).

1872. 森 衛: 發生期動物ノレントゲン放射死ノ際ニ於ケル發生學並ニ細胞學的知見補遺. [解剖誌] 3,8. 昭5(1930). [幼蠶].

1873. 馬尾原茂: 人卵巣ニ對スル硬レントゲン線作用ノ組織學的及ビ臨床的研究. [日レントゲン會誌] 9,1-2. 昭6(1931).

1874. 佐々木素直: レントゲン硬線ニ依ル蠶絲科科皮膚ニ於ケル變化. [解剖誌] 4,9. 昭6(1931).

1875. 蘇 記之: 婦人科の硬レ線照射ノ臨床的並ニ動物實驗的研究. [日レントゲン會誌] 9,1-2, 10,1,4. 昭6-7(1931-32). [家兎].

1876. 花村信之: 口腔粘膜炎ニ對スル紫外線ノ生物學的作用ニ關スル實驗的研究. [日レントゲン會誌] 10,1. 昭7(1932). [家兎].

1877. 鏡木外岐雄: 二化螟蛾ノ交尾ニ及ボス光ノ影響(會). [動物誌] 44,519-520. 昭7(1932).

1878. 寺尾 新: 日本産及ビ米國産ノ「カキ」卵割初期ニ及ボス「ウラニウム」放射ノ影響(會). [動物誌] 44,519-520. 昭7(1932).

1879. 山口定次郎: X線透視ニ依ル昆蟲ノ消化器官ノ生體的研究(豫報). [應用動物誌] 4,5. 昭7(1932). [家蠶幼生].

1880. 藤野守一, 廣田左門: 幼若犬甲狀腺部レ線放射ニヨル齒牙並ニ骨系統ノ發育變化ニ就テ. [日レントゲン會誌] 10,1. 昭7(1932).

1881. 鈴木二郎, 倉井三郎: レ線ノ去勢家雞鼻腔組織ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究. [大日耳鼻] 38,10. 昭7(1932).

1882. 鹽谷不二雄: レントゲン線ノ神經系ニ及ボス解剖學的並ニ治療的作用(會). [神經誌] 34,7. 昭7(1932). [動物, 人].

1883. 佐野潤郷: 放射線ノ細胞發育ニ及ボス影響ニ就テ. [日レントゲン會誌] 11,2. 昭8(1933). [酵母].

1884. 佐藤 昇: 魚類ノ鱗ヲ透過スル光ニ就テ. [結核] 11,5. 昭8(1933). [鮭, 鰻].

1885. 澤崎嘉衛: 腦下垂體レ線照射ノ女性生殖腺ニ對スル形態學的及ビ機能的研究. [日レントゲン會誌] 10,5-6. 昭8(1933). [海狸].

1886. 富田貞治: X線及ビ手術的去勢ノ比較研究. 第五編. 去勢ノ體重並ニ内分泌諸臟器特ニ副腎ニ及ボス組織學的比較研究. [近畿醫誌] 16,6. 昭8(1933). [家兎].

1887. 森脇大五郎: X線=依テ生ジク鼠★蠅ノ致死因子=就テ(會). [遺傳誌] 8,4. 昭8(1933).

1888. Takita, S.: Influence of X-rays Irradiation upon Uropoietic System. I-IV. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 16,2,4,5. 昭8(1933). [Rabbits].

1889. 關誠一郎: 軟骨ノ線照射法. [レントゲン會誌] 11,1. 昭8(1933).

1890. 宮坂大雄: 腺下垂體ノ線照射=ヨル生殖器官ノ組織化學的變化. [レントゲン會誌] 11,1. 昭8(1933).

1891. 鈴木甚二郎: 家鷄雄性第二性特徵ノ發育=及ボス X線放射ノ影響=就テ實驗的研究. [東北醫誌] 16,1. 昭8(1933). [睾丸, 組織學的所見アリ].

3. 化學的物質ノ影響

1892. 佐藤清: 生體ノ金屬「コロイド」攝取=關スル組織學的研究. [醫新聞] 1068. 大10(1921). [兔].

1893. Otsuki, Kikuo: Experimentelle Studien über den Einfluss des gelben Phosphors auf die Knochenregeneration und auf den endochondralen Ossifikationsprozess an der Epiphysenfuge. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 1,1. 大15(1926). [Kaninchen].

1894. —: Untersuchungen über den Einfluss des Arsens auf den Regenerationsprozess des Knochengewebes und den endochondralen Ossifikationsprozess an der Epiphysenfuge. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,1. 昭4(1929). [Kaninchen].

1895. Funooka, Seigo und Uenae, Fukujiro: Pharmako-histologische Untersuchungen. 4. Über die Strychninwirkung auf den Uterus, die Milz und die Leber. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,1. 昭4(1929). [Kaninchen].

1896. 藤田慎三郎, 堀井五十雄, 舟岡省五, 森田源平: Über den Mechanismus der Beförderung der Verkalkung in tuberkulösen Herden durch die Phosphorsäureestersalz. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,3. 昭4-5(1929-30) [Kaninchen].

1897. 舟岡省五, 山田重一: Die Histologie des Physostigminasthmas. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,3. 昭4-5(1929-30). [Hund, Kaninchen].

1898. —, 尾形弘: Die intraneurale Applikation einigen Pharmaca, bes. der Narkotica

am Wamrblüteren. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,2. 昭4-5(1929-30). [Frosch, Ratte].

1899. —, 藤林賢治: Über die Pharmako-Verwertung den Intraneuralinjektion am Frosch. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,2. 昭4-5(1929-30).

1900. —, 白川繁清: Histologische Untersuchungen über die Wirkung von Atropin und Physostigmin auf die Kanincheniris. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,1. 昭4-5(1929-30).

1901. —, 山口治: Pharmako-histologische Untersuchungen. Über den Einfluss einiger Muskelgifte auf das mikroskopische Bild der quergestreiften Muskelfaser. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 4,1. 昭4-5(1929-30). [Frosch].

1902. 宇野善一: Lanolin及ビ Lezithinノ家兎腎臟ニラ氏鳥細胞内 Golgi氏装置=及ス影響=就テ. [岡山醫會誌] 44,5. 昭7(1932).

1903. 舟岡省五: Vorschlag zu einer Histotherapie. Ein Versuch zur Erklärung unserer Tuberkulose- und Trachomtherapie. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 6,3. 昭7(1932).

1904. 宮本義大, 富岡諒一: K及ビ Caノ兩接類特=蛙類ノ蝌蚪=及ス影響=就テ. [岡山醫會誌] 44,12. 昭7(1932).

1905. 小森誠一: TubulariaノPolarityトPHノ關係(會). [動物誌] 44,519-520. 昭7(1932).

1906. 佐藤義敏: 「フロリヂン」糖尿=於ケル肝, 腎細胞内ゴルヂー氏装置ノ變化=就テ. [岡山醫會誌] 45,2. 昭8(1933). [家兎].

1907. 新妻浩: 妊婦尿注射ノ家兎子宮ノ脂肪及ビ藥物感受性竝ニ妊娠持續=及ボス影響. 腺下垂體「ホルモン」=就テ知見補遺. (第一報) [北越醫會誌] 48,3. 昭8(1933).

1908. Shotsu, M.: Histological Study on the Liver and Spleen after Injection of the Solution of Haemolyzed Red Blood Cells &c. [Jap. J. exper. Med.] 11,2. 昭8(1933). [Dog].

1909. 巳斐言: 「フロリヂン」及ビ「インシュリン」ノ注射=由テ起ル肝及ビ腎ノ組織學的變化=就テ. [岡山醫會誌] 45,10. 昭8(1933). [家兎].

1910. Furuta, Kosuke: Über den Angriffspunkt des Pilocarpins, der am isolierten, künstlich gespeisten Herz-Nervenpräparate der Kröte untersucht wurde. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 7,2. 昭8(1933).

4. 食餌ノ影響

1911. 今裕: 含脂肪及ビ脂肪様物質ヲ以テ飼養セラレタル動物ノ解剖學的研究知見(綜). [日新醫學] 4,9. 大4(1915). [家兎, 鼠].

1912. 今裕: 家兎, 白鼠及ビ南京鼠ノ肝粉及ビ卵黃飼養試驗. [第四回日本醫學會誌] 大4(1915).

1913. 淺井猛郎, 山内俊一, 佐々木宗一, 長松英一, 小田切秀夫: 種々ナル飼養ノ蝌蚪(蟾蜍)成育=及ボス影響=就テ(「ホルモン」作用ノ知見補遺). [中央醫會誌] 25,1-2. 大7(1918).

1914. 赤松信隆: 鳥類=於ケル諸種脂肪質試食試驗成績報告. [醫] 14,4; 16,3. 大9(1920). [鵪鶉].

1915. 八嶽徹七郎, 飯田吉英, 小林駿一郎: 牛ノ肥育=關スル試驗(第一報). [畜産試験場報告] 1,3. 大11(1922).

1916. 八嶽徹七郎, 飯田吉英: 牛ノ肥育=關スル試驗(第二報). [畜産試験場報告] 1,3. 大11(1922).

1917. 寺尾新, 若森直喜: 甲狀腺飼育ノ「カヒコ」=及ボス影響. [動物誌] 35,417-422. 大12(1923).

1918. 蓮見喜一郎: 甲狀腺「アドレナリ」ノ混同飼育=於ケル蛙蝌蚪ノ變化=就テ. [千葉醫會誌] 2,5. 大13(1924).

1919. 川上三男, 山下隆人: 豚ノ飼料=關スル試驗. (第一回. 飼料單用價値比較試驗). [畜産試験場報告] 2,14. 大13(1924).

1920. —, —: 豚ノ飼料=關スル試驗. (第二回. 麩米種併用試驗). [畜産試験場報告] 2,4. 大13(1924).

1921. 小山準二: 「キモリ」ノ甲狀腺飼養ソノ他(會). [動物誌] 36,431. 大13(1924).

1922. Terao, Arata and Wakamori, Naoki: Preliminary note on effects of thyroid feeding on the silk-worms, Bombyx Mori L. [Jap. med. World] 4,3. 大13(1924).

1923. Miyagawa, Yoneji: Influences of the constituents of thymus gland cells on the growth of young organism (A new theory concerning the regulation of the biological function) [Jap. med. World] 5,10. 大14(1925). [Dog, Rat].

1924. Miyagawa, Y. and Wada, K.: An experimental study on feeding tadpole of frog (Bufo vulgaris japonicus Schleg. and Rana ni-

gromaculata Hall.) [Scient. Reports from Gov. Inst.] 4. 大14(1925).

1925. Esaki, Shiro: Zur Frage der Ernährung von Amphibienlarven durch im Wasser gelöste Nährstoffe und andere Lösungen. [Fol. anat. jap.] 4,1. 大15(1926). [Hyla arborea japonica].

1926. 西村俊一: 甲狀腺試食竝ニ剔出ガ幼若動物ノ骨發育特ニ骨端線=及ボス影響=就テ. [日内分誌] 2,6. 昭2(1927). [ラツテ].

1927. Nakajima, Akira: Über die Ernährung von Urodelen und Anurenlarven durch im Wasser gelöste Nährstoffe und andere Lösungen. [Fol. anat. jap.] 5,3. 昭2(1927). [Rana japonica, Hynobius nebulosus].

1928. 木村哲二: 「ラツテ」ノ首ノ發育及ビ特殊食餌飼育=ヨル變化=就テ(會). [日獸醫會誌] 7,2. 昭3(1928).

1929. 山下隆人: 豚ノ飼料=關スル試驗. [畜産試験場報告] 3. 昭3(1928). [全身, 内臟脂肪ノ厚サ, 大腸ノ重量等].

1930. Taniguchi, Toratoshi: Fütterungsversuche durch die Organe des ordnungsgleichen Tieres an Kaulquappen. [Fol. anat. jap.] 6,5. 昭3(1928). [Bufo vulgaris japonicus].

1931. 戸部近太郎: 諸内分器飼養蟾蜍蝌蚪=於ケル前肢ノ發現(會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928).

1932. 勝又藤夫: 家鷄ノ甲狀腺飼養=就テ. [動物誌] 40,471. 昭3(1928). [シヤム種多化性鷄].

1933. 櫻井明治朗: 種々ナル食餌飼養=依テ「ラツテ」ノ骨變化ノ研究. [成醫會] 48. 昭4(1929).

1934. 羽部義孝: 養豚飼料=關スル研究(第一報). [畜産試験場報告] 24. 昭4(1929). [各種飼料=ヨル幼豚發育].

1935. Taniguchi, Toratoshi: Über die Ernährung der mit verschiedenen Nahrungsmitteln gefütterten Amphibienlarven. [Fol. anat. jap.] 7,1-2. 昭4(1929). [Hynobius fuscus, Rhacophorus Schlegelii].

1936. —: Über die Wirkung des Jodnatriums und Schilddrüsen-Präparates auf die Froschbryonen. [Fol. anat. jap.] 8,5. 昭5(1930). [Rana japonica].

1937. —: Vitamin-B-Versuche an Amphibienlarven. [Fol. anat. jap.] 8,5. 昭5(1930). [Bufo vulgaris japonicus, Rana japonica, Hynobius fuscus].

1938. 西村源吉: 鳩ノ絶食ト體重トノ關係ニ就テ. 【動物誌】42,504. 昭5(1930).

1939. 目下仙次, 丸野保: 溶脂性「ビタミン」過剰供給家兎ニ於ケル解剖組織學的變化ニ就テ. 【實驗消化病】6,11. 昭6(1931).

1940. 井口賢三, 三田村健太郎: 肝油ノ發育ニ及ボス影響ニ就テ(會). 【中央獸醫誌】44,7. 昭6(1931).

1941. Hara, Morizo: Ernährung von Amphibienlarven durch Polytamin, ein Aminosäurepräparat. 【Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.】2,4. 昭6(1931).

1942. 西村源吉: 鳩ノ絶食ト諸臟器ノ重量消失ニ就テ. 【動物誌】43,514. 昭6(1931).

1943. Yatabe, Teikai: Zur Morphologie des Skleralkorpels. V. Über den Einfluss in Wasser gelöster Nährstoffe und den Entwicklung des Skleralkorpels bei Hynobius leechii. 【Keijo J. of Med.】3,3. 昭7(1932).

1944. 羽部義孝: 飼料採食量ト其ノ給與期トガ豚ノ發育ニ及ボス影響. 【畜産試験場彙報】9. 昭7(1932).

1945. 三浦義儀: 「マウス」ノ性週期ニ及ボス飼料ノ影響ニ就テ(會). 【解剖誌】5,7. 昭7(1932).

1946. 戸近太郎, 山田和麻呂: 前肢ト鰓蓋. 1. 甲状腺飼養蟾蜍蝌蚪ニ於ケル前肢ノ出現. 【解剖誌】6,3. 昭8(1933).

5. 剔出, 切除, 切斷, 結紮, 等

1947. 五島清太郎: 原蟲ノ切斷試驗. 【動物誌】4,41. 昭25(1892).

1948. D. T. S.: 犬ニ於ケル副腎剔出. 【東京醫會誌】9,13. 昭28(1895).

1949. 遠藤義雄: 腦動脈結紮後ノ腦(特ニ皮質)ノ變化(附: ウイリス氏動脈環 Circulus arteriosus Willisii ノ存在意義ニ就テ). 【千葉醫會誌】1,3-4; 2,6. 大12-13(1923-24). (家兎).

1950. Yamaoka, Hiroteru: Extirpation of the Parathyroid Gland in the Domestic Fowl (綜). 【Acta Scholae med. Kyoto】7,8. 大13-15(1924-26).

1951. Ikuta, Nobuyasu: Über Veränderungen der Entwicklungen der Zähne nach der Epithelkörperchenextirpation. 【Mitt. med. Akad. Keijo】8,3. 大14(1925). (Ratte, Hund).

1952. 林 辯: 脾臟剔出動物ニ於ケル假骨形成ニ就テ. 【千葉醫會誌】4,1. 大15(1925). (家兎).

1953. 矢野健次: 兩棲類眼内容抽出ノ鞏膜軟骨ノ發生竝ニ消失ニ及ボス影響ニ就テ(會). 【東北醫誌】10, (特). 昭2(1927). (蝦蟇, 蟾蜍ノ幼蟲).

1954. 塚安左衛門: 肝動脈結紮ノ實驗的研究(第一報, 第二報). (日外實) 4,1-2. 昭2(1927). (家兎).

1955. 谷口善之: 蟾蛙ニ於ケル脊索ノ切除實驗ニ就テ(會). 【東北醫誌】10, (特). 昭2(1927).

1956. —: 蟾蛙幼弱蝌蚪ニ於ケル脊索ノ部分的剔出實驗(抄). 【北越醫會誌】43,4. 昭3(1928).

1957. 山下秀之助: 頸部交感神經節剔出ノ甲状腺竝ニ身體水分量ニ及ボス影響. 【北海道醫誌】6,6. 昭3(1928). (白鼠, 家兎, 海狸).

1958. 西村俊一: 脾臟剔出ガ骨發育ニ及ボス影響ニ就テ. 【日內分泌誌】4,7. 昭3(1928). (白鼠).

1959. 内村省三: 唾液腺剔出ノ諸臟器殊ニ內分泌腺ニ及ボス影響ニ就テ. 【醫論】856. 昭3(1928). (犬).

1960. 大植登志夫: 脾臟剔出ガ家雞ノ血液, 骨髓及ビ肝臟ニ及ボス影響ニ就テ. 【動物誌】41,492. 昭4(1929). (白色レグホン).

1961. 鈴木重武: 無尾兩棲類背原口骨部缺損試驗(會). 【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

1962. 谷口善之: 無尾兩棲類ノ幼若蝌蚪ニ於ケル脊索ノ部分的切除實驗(會). 【解剖誌】2, 2. 昭4(1929). (蟾, 金線蛙).

1963. Miura, Kyumatsu: Über die Einflüsse der totalen Exstirpation des äusseren Glomerulus auf die Vorniere bei Froschlarven. 【Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.】2,2. 昭5(1930).

1964. Shimasaki, Yoshiaki: Über den Einfluss der bilateralen Elimination der Vorniere auf den Gesamtorganismus der Rana-nigromaculata-Larve. 【Jap. J. med. Sci., 1. Anat.】2,3. 昭5(1930).

1965. —: Über die Resektion des Nephrostomalkanälchens der Vorniere bei Bufolarven. 【Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.】2,3. 昭5(1930).

1966. 牧野内真: 蟾ノ後肢ノ切斷ガ股關節發生ニ及ボス影響. 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).

1967. 勝又正, 鈴木重武: 無尾兩棲類囊胚初期ニ於ケル推定體材料缺損實驗(會). 【解剖誌】4,4. 昭6(1931). (Bufo vulgaris japonicus).

1968. 渡邊祐一郎: 實驗的大腦垂體抽出蛙ニ就テ. 【日醫週報】1883. 昭7(1932). (皮膚ノ色素及ビ毛細管ニ及ボス影響).

1969. 池田脩三: 無尾兩棲類ノ發生初期ニ於ケル原節切除實驗(抄). 【解剖誌】5,7. 昭7(1933).

2). (Bufo vulgaris japonicus).

9170. 建 義郎: 耳下腺或ハ顎下腺ノ全剔出後ニ於ケル肝細胞 Golgi 氏装置ノ變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】44,9. 昭7(1932). (家兎).

1971. 苗加寛三: 兩棲類肝原基ニ於ケル抽出竝ニ攪亂實驗. 【解剖誌】4,12. 昭7(1932).

1972. 濱崎信太郎: 蠶兒ニ於ケル生殖巣剔出ガ蠶蛾ノ内部生殖器官ニ及ボス影響. 【應用動物】4,1. 昭7(1932).

1973. 河合部二: 兩側內臟神經切除後ノ肝臟ニ於ケル組織學的變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】45,10. 昭8(1933). (家兎).

1974. —: 上頸神經節剔出ガ家兎鼻粘膜ニ及ボス影響ニ就テ. 【解剖誌】6,4. 【岡山醫會誌】45,9. 昭8(1933).

1975. 前田幹照: 脾臟部分的剔出後ノ殘餘脾臟竝ニ腸下垂體前葉ノ變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】45,6. 昭8(1933). (家兎).

1976. 出射一郎: 耳下腺或ハ顎下腺ノ全剔出後ニ於ケル甲状腺ノ變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】45,8. 昭8(1933). (家兎).

1977. 麻生亮一: 腸間膜血管結紮ノ實驗的研究(第一報). 腸間膜内血管結紮ニ際シテノ腸管ノ營養ニ就テ. 【日外實】10,1. 昭8(1933). (犬).

6. 移 植

1978. 佐藤 達: 鶏皮フ肉芽腫ニ植接シタル實驗. 【東京醫誌】594-595. 昭22(1889).

1979. 池田廉一郎: 移植術ノ極致. 【醫海時報】759. 昭42(1909).

1980. 片瀬 淡: 胎生組織ノ移植試驗(第一報). 【東京醫會誌】26,5. 昭45(1912). (家雞).

1981. 東條經治: 骨遊離移植ニ關スル實驗追加, 特ニ其骨端線關係ニ就テ. 【福岡醫誌】8,2. 大3-4(1914-15).

1982. 石橋松藏: 「アメリカ」種家鶏肉腫ノ本邦産家鶏ニ於ケル移植成績竝ニ日本種家鶏肉腫移植成績トノ比較. 【瘡】10,3. 大5(1916).

1983. 松山陸郎: 胎兒組織移植試驗(人工的皮膚様囊腫及ビ「テラトーム」様腫瘍發生. 【瘡】10,3. 大5(1916). (白鼠).

1984. —: 胎兒組織移植試驗(人工的皮膚様囊腫及ビ「テラトーム」). 【瘡】10,3. 大5(1916). (鼠).

1985. —: 胎兒組織ノ移植試驗. 【醫新聞】958. 大5(1916). (鼠).

1986. 清野謙次, 末安吉雄: 諸種動物ノ「エムブリオ」組織ヲ鳥類「エムブリオ」ニ移植セシ實驗的研究(移植ニ對スル種族ノ分化論追加第一報). 【瘡】11,2. 大6(1916). (家雞, 家鴨, 吐蟻鳥, 大黑鼠, 二十日鼠, 家兎, 海狸).

1987. —, —: 諸種動物ノ「エムブリオ」組織ヲ鳥類「エムブリオ」ニ移植セシ實驗的研究. 【瘡】11,2. 大6(1917). (鼠).

1988. —, —: 胎兒組織ノ成熟動物移植ニ就テ(綜). 【京都醫誌】14,1. 大6(1917). (哺乳類, 鳥類).

1989. —, —: 諸種動物「エムブリオ」組織ヲ鳥類「エムブリオ」ニ移植セシ實驗的研究(移植ニ對スル種族特異性ノ分化論追加第一). 【京都醫誌】14,4. 大6(1917). (鳥類, 哺乳類).

1990. Doi, Tomonosuke: Über die direkte Einpflanzung des Nerven in den Muskel. 【Acta Scholae med. Kioto】. 2. 大6-7(1917-18). (Kaninchen).

1991. 角田 隆: 生殖腺ノ移植ニ依ル動物體ノ反應ニ就テ(綜). 【日新醫學】8,2. 大7(1918).

1992. 黒岩賢三: 骨移植外科ニ就テ. 【海軍醫誌】20. 大7(1918).

1993. 中山茂樹: 甲状腺移植ニ關スル實驗的研究補遺. 【順天堂醫誌】553. 大8(1919). (犬).

1994. 松山陸郎: 「バラビオーゼ」ヲ應用セル實驗的研究. 其一. 「バラビオーゼ」状態ノ相互動物ニ及ボス影響及ビ腎臟剔出試驗. 【日新醫學】8,7. 大8(1919). (大黑鼠).

1995. —: 「バラビオーゼ」ヲ應用セル實驗的研究. 其二. 生殖腺ノ變化ヲ中心トシテ觀察セル各臟器殊ニ內分泌臟器ノ態度ニ就テ. 【日新醫學】8,12. 大8(1919). (大黑鼠).

1996. 高森時雄: 可移植性家鶏軟骨腫細胞ノ溫熱ニ對スル抵抗力ニ就テ. 【瘡】14,3. 大9(1920).

1997. 長田勝芳: 大網組織ノ肝臟及ビ脾臟内移植ニ就テ. 【京都醫誌】17,12. 大9(1920). (家兎).

1998. 植村俊二: 神經ノ筋肉内移植ニ關スル實驗的研究(第一報)(抄). 【朝鮮醫會誌】30-31. 大9(1920). (家兎).

1999. 齋藤正意: 骨移植. 【醫海時報】1407. 大12(1923).

2000. Ogawa, Bisho: Über Knochen transplantation unter Berücksichtigung der Vitalfarbungslehre. 【Acta Scholae med. Kioto】6. 大12-13(1923-24). (Kaninchen).

2001. 鈴木五郎: 骨折治療用諸種移植組織ノ運命竝ニ其レガ移植床組織ニ及ボス影響ニ就テ. 【千葉醫會誌】3,3. 大14(1925). (家兎).

2002. Kurokawa, Kiyoyuki: An experimental

study on hyperfunction of parathyroid glands by transplantation into homologous animals. [Jap. med. Word] 5,7. 大14(1925). [Rat].

2003. 梅谷與七郎: 家鼠ニ於ケル卵巣移植及ビ血液移注實驗特ニ化性ノ變化ニ就テ. [遺傳誌] 3,4. 大14(1925).

2004. 香村俊二: 洞角類 (Cavicornia) = 於ケル角ノ移植及ビ最モ簡單ナル除角術. [日獸醫會誌] 5. 大15(1926).

2005. 藤田信經: 移植ニ依ル「ワカサギ」ノ體格ニ及ボス變異(抄). [動物誌] 38,453. 大15(1926).

2006. 松井基: 家鷄纖維肉腫内ノ骨移植. [日農生物誌] 21. 昭2(1927).

2007. 平野賢: 家兎副鼻腔ニ移植セル腫瘍ノ發育ニ就テ(會). [耳鼻] 1,2. 昭3(1928).

2008. 武内勉二: 中耳内ニ於ケル惡性腫瘍移植實驗(第三報). 標本供覽(會). [耳鼻] 1,2. 昭3(1928).

2009. 芝田清香: 家兎ノ生殖生理ニ關スル研究(第四報). 肝臟移植, 睾丸ノ卵巣ニ及ボス影響. [中央獸醫誌] 41. 昭3(1928).

2010. Takewaki, Kiyoshi (竹脇 潔): Influence of male or female gonadectomized parabiont on pregnant Albino Rat and its fetuses. [J. Fac. Sci., Sect. 4, Zool.] 2,4. 昭3-6(1928-31).

2011. —: Note on the ovary of female rat in parabiotic union with gonadectomized male or female. [J. Fac. Sci., Sect. 4, Zool.] 2,4. 昭3-6(1928-31). [Albino rat].

2012. 長町誠一: 游離筋膜片移植ニ關スル實驗的研究. [千葉醫會誌] 7,6,7,9. 昭4(1929). [犬].

2013. Umeda, S.: Versuche über Transplantation der Uterusgewebe. [Mitt. allg. Pathol. etc.] 5,3. 昭4(1929). [Kaninchen].

2014. 増田六之助: 皮下ニ陥没セル表皮ノ運命. [皮膚誌] 29,3. 昭4(1929). [人, 家兎].

2015. —: 皮下ニ封入セル毛髮及ビ皮膚片ノ運命. 附: 巨大細胞發生ノ轉機ニ就テ. [皮膚誌] 29,4. 昭4(1929). [人, 家兎].

2016. 鈴木重武: 兩棲有尾類間ニ於ケル前肢原基移植試驗(會). [解剖誌] 3,3. 昭5(1930).

2017. 有馬一雄: 甲狀腺移植ニ關スル實驗的研究. [京都醫誌] 27,10. 昭5(1930). [モルモット].

2018. 谷口善之: 脊索ノ移植ニヨツテ誘發セ

ラレタル軟骨性脊椎標本供覽(抄). [北越醫誌] 45,8. 昭5(1930). [藪].

2019. —: 藪ノ幼若蝌蚪ニ於ケル脊索ノ移植(抄). [北越醫會誌] 44,9. 昭4(1929).

2020. Hiraiwa, Yoshikuni.: Studies on Grafts of Embryonic Tissues of the Rat on the Chorio-Allantoic Membrane of the Chick. II. Differentiation of Meso- and Entodermal Derivatives. [Fol. anat. jap.] 8,2. 昭5(1930). [Chick, Rat].

2021. 櫻根好之助: 皮膚ノ移植ニ於ケル胚質ノ生物學的意義ニ就テ. [皮膚誌] 30,3,5. 昭5(1930). [家兎].

2022. 岩男 督: 内分泌腺器片ノ骨髓内移植. [日病理會誌] 20. 昭5(1930). [家兎].

2023. 可知猛男: 蝌蚪ニ於ケル肺原基ノ移植ニ就テ. [解剖誌] 2,6. 昭5(1930).

2024. 富田常三, 近藤喜久雄: 腎臟ノ移植及ビ體外培養並ニ人工的血行障礙試驗. [日病理會誌] 20. 昭5(1930). [家兎].

2025. 栗山輝雄: 藪幼仔脾臟ノ移植. [解剖誌] 3,9. 昭5(1930).

2026. 養内照子: 鶏胎兒ニ於ケル諸種内分泌腺器ノ移植ニ就テ(第一報). 白鼠副腎皮質ノ移植(會). [日内分泌誌] 6,1. 昭5(1930).

2027. Bando, Kunio: Untersuchungen über die Entstehung des Hörbläschens aus einem in die Haut gesteckten Ektodermstück bei der Amphibienlarve. [Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.] 2,2. 昭5(1930).

2028. Shimasaki, Yoshiaki: Transplantation der Vorniere von Larven der anuren Amphibien. [Jap. J. med. Sci., 1. Anat.] 2,3. 昭5(1930).

2029. 有馬一雄: 睾丸移植ニ關スル實驗的研究. [京都醫誌] 27,12; 28,1. 昭5-6(1930-31). [家兎].

2030. 用木温知: 卵巣移植ノ實驗的研究(會). [日醫新聞] 2,8. 昭6(1931). [家兎].

2031. Akimoto, T.: Transplantationsversuch des Ovarialgewebes. [Mitt. allg. Pathol. etc.] 6,3. 昭6(1931). [Kaninchen].

2032. 今津 茂: 子宮粘膜炎ノ異所増殖性ニ關スル實驗的研究. 其一. 子宮片ノ皮下組織内移植. [慶應醫學] 11,8. 昭6(1931). [海狗].

2033. —: 子宮粘膜炎ノ異所増殖性ニ關スル實驗的研究. 其二. 子宮異常部ヘノ轉位. 其三. 子宮片ノ雄性動物ヘノ移植. [慶應醫學] 11,9. 昭6(1931). [海狗].

2034. 小林平吉: 睾丸ノ移植或ハ其ノ乳劑注

入ニヨル卵巣殊ニ卵細胞内 Golgi 氏装置ノ變化ニ就テ. [岡山醫會誌] 43,503. 昭6(1931). [家兎].

2035. 鈴木重武: 無尾兩棲類囊胚初期ニ於ケル胚片移植實驗. [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

2036. 谷口善之: 兩棲類幼若蝌蚪ニ於ケル脊索ノ移植(會). [解剖誌] 4,4. 昭6(1931). [藪].

2037. 森 優: 蛙蝌蚪ニ於ケル後肢移植實驗補遺(會). [解剖誌] 4,4. 昭6(1931). [トノサマガエル, ヒキガヘル].

2038. Takewaki, Kiyoshi (竹脇 潔): Comparison of the ovarian grafts in normal, castrated and unilaterally or bilaterally cryptorchidized male albino rat. [J. Fac. Sci., Sect. 4, Zool.] 3,2. 昭6(1931).

2039. 杉野久雄: Planaria ノ移植小片ニ於ケル Polarity ニ就テ(會). [動物誌] 44,519-520. 昭7(1932). [Pl. gonocephala].

2040. 丘 英通: Hynobius ニ於ケル前肢ノ變位移植ニ就テ(會). [動物誌] 44,519-520. 昭7(1932).

2041. Choi, M. H.: Production of a limb by grafting of a nose anlage. [Fol. anat. jap.] 10,1. 昭7(1932). [Dienictylus pyrrhogaster].

2042. 苗加寛三: 蟾蜍仔蟲ニ於ケル肝原基ノ移植實驗. [解剖誌] 4,11. 昭7(1932).

2043. 笹野 榮: 齒芽ノ移植ニ關スル研究. 同體異所移植ノ實驗. [口腔會誌] 6,2. 昭7(1932).

2044. 今津 茂: 子宮粘膜炎ノ異所増殖性ニ關スル實驗的研究(追加). 卵巣過剰移植ト該性狀トノ關係. [慶應醫學] 12,9. 昭7(1932). [海狗].

2045. 今津 茂: 子宮粘膜炎ノ異所増殖性ニ關スル實驗的研究(四一六). [慶應醫學] 12,8. 昭7(1932). [海狗].

2046. 山脇圭吉, 谷奥 與: 「マウス」移植甲狀腺ノ代償機能ニ就テ(會). [中央獸醫誌] 45,8. 昭7(1932).

2047. 岩男 督: 諸腺器ノ骨髓内移植. [醫公論] 1016. 昭7(1932). [家兎].

2048. 村瀬武雄: 海狗ノ管組織ノ同種動物ヘノ移植ニ就テ. 特ニ其ノ際ニ於ケル夫々粘膜炎ノ上皮細胞ノ生物學的態度. [慶應醫學] 12,9. 昭7(1932). [膽管, 尿管, 卵管, 精管, 氣管, 氣管支].

2049. 鈴木重武: 無尾兩棲類ノ囊胚片ノ移植實驗(會). [解剖誌] 5,7. 昭7(1932). [Bufo vulgaris, Rana japonica].

2050. 勝又 正: 無尾兩棲類四肢原基ノ移植實驗(會). [解剖誌] 5,7. 昭7(1932).

2051. Yamada, Hachiro: Über die Transplantation des Herzrohrs. [Fol. anat. jap.] 11,2. 昭8(1933). [Bufolarven].

2052. 小山田豊: 管狀骨全移植ニ關スル實驗的研究. [日新醫學] 22,10. 昭8(1933). [家兎ノ腓骨].

2053. 島崎義明, 山田八郎: 蟾蜍仔蟲ニ於ケル原腎ノ移植ニ就テ. [解剖誌] 6,6. 昭8(1933).

2054. 内田 享: 「エゾアカガヘル」ニ於ケル睾丸移植實驗. [植物及ビ動物] 1,3. 昭8(1933). [Rana temporaria].

2055. Suzuki, Shigetake: Transplantationsversuche der Vorderbeinanlage der Urodelenlarve (Hynobius nebulosus) an Anurenlarven (Bufo vulgaris japonicus, Rana japonica Günther). [Jap. J. of med. Sci., 1. Anat.] 4,1. 昭8(1933).

2056. 松本梅楠: 末梢神經ノ骨髓内移植. [東北醫誌] 16. 昭8(1933). [家兎].

2057. 崖 明鶴: Determination of the posture of transplanted ear region ectoderm in amphibian embryo(會). [解剖誌] 6,4. 昭8(1933). [Rana temporaria].

2058. 中村讓兵衛: 家兎齒牙原基ノ移植ニ關スル實驗的研究. [口腔會誌] 7,1-2; 8,2-3. 昭8-9(1933-34).

7. 再生, 變性

2059. 小金井良精: スチルリング及ビヒツツネルニ氏平滑筋再生恢復ノ説. [東京醫誌] 471-472. 明20(1887). [蟾蜍].

2060. 横井 濟: 末梢神經軸索ノ再生機轉ニ及ボス甲狀腺ノ影響ニ就テ. [好生館醫誌] 23. 4-5. 大5(1916). [家兎].

2061. 長松英一: 蛙蝌蚪「オクマシヤタン」尾部ニ於ケル再生ノ經過並ニ組織學補遺. [中央醫會誌] 24,3. 大6(1917).

2062. —: 蛙蝌蚪尾部再生並ニ上皮細胞内線維装置ニ及ボス給與甲狀腺ノ影響. [愛知醫專校友誌] 45-46. 大7(1918).

2063. 谷津直秀: 「アンドククラゲ」ノ横斷後ノ再生. [動物誌] 34,401. 大11(1922).

2064. Mackawa, Shigeichi: Über der Einfluss der Präparate aus den innersekretorischen Organen auf die Regeneration der peripheren Nerven. [Acta. Scholae med. Kyoto] 5. 大11-12(1922-23). [Kaninchen].

2065. 齋藤正意: 組織分解産物ト組織再生機

轉。【醫海時報】1506. 大12(1923).
 2066. 平岩馨邦: 「カニ」ノ缺ノ再生(抄). 【動物誌】36,434. 大13(1924). [Asearna haemetechein].
 2067. 熊取成次: 骨髄再生時ニ於ケル組織性細胞ノ態度. 【日微生物誌】18. 大13(1924). [家兔].
 2068. 三輪太郎: 山椒魚ノ四肢再生現象ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924). [Hynobius leechii].
 2069. 小林春平: 異種性再生水晶蛋白ノ特異性ニ就テ. 【京都醫誌】23,9. 大15(1926). [Diemictylus pyrrhogaster, Rana nigromaculata].
 2070. —: 水晶體物質ト水晶體再生トノ關係ニ就テ. 【京都醫誌】23,12. 大15(1926). [蝶魚].
 2071. 遠藤初男: 氣管軟骨再生機轉ニ關スル實驗的研究(會). 【醫公論】748. 大15(1926).
 2072. Umeya, Yositiro: On the degeneration of the male-copulatory organs of the Silk-worm (Bombyx mori L.) [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo] 9,1. 大15(1926).
 2073. 坂田五郎: 横紋筋再生ニ關スル知見補遺. 【日微生物誌】20. 大15(1926). [哺乳類].
 2074. 今吉政吉: 腿ノ再生ニ關スル實驗的研究. 【海軍醫誌】15,5. 大15(1926).
 2075. —: 腿ノ再生ニ關スル實驗的研究. 【軍醫團】157. 大15(1926).
 2076. Emori, Yajiro: The influence of fat-soluble H on the regeneration of the bone-tissues in rats. [Jap. J. of med. Sci., IV. Pharmacol.] 2,1. 昭2(1927).
 2077. 後藤 翠: 輸精路ニ於ケル成形手術ニ關スル實驗的研究(第一報). 輸精管ノ再生力ニ就テ. 【日外實】4,5. 昭2(1927). [犬].
 2078. 遠藤初男: 氣管軟骨再生機轉ニ關スル實驗的研究. 【千葉醫會誌】5,1,8. 昭2(1927). [家兔].
 2079. Kumagai, Kuranosuke: Über den Einfluss des elektrischen Stromes auf den Regenerationsprozess des Knochengewebes. 【岡山醫會誌】40,458. 昭3(1928). [Huhn, Taube].
 2080. 鈴木五郎: 骨組織再生ニ關スル研究(會). 【東京醫誌】2522. 昭2(1927). [兔, 犬].
 2081. —: 骨組織再生ニ關スル研究. 實驗的研究(第二報). 【日整形會誌】2,1. 昭2(1927). [家兔].
 2082. —: 骨組織再生ニ關スル研究. 【千葉

醫會誌】5,2,3; 6,9; 11,8. 昭2,3,8(1927-28-33). [人, 家兔].
 2083. —: 骨組織再生ニ關スル研究(一). 實驗的研究(第四報). 【日整形會誌】3,2. 昭3(1928). [家兔].
 2084. —: 骨組織再生ニ關スル研究(一). 實驗的研究(第四報)(會). 【東京醫誌】258. 昭3(1928). [家兔].
 2085. Yoshii, Naruo (吉井橋雄): Note on a Japanese spiny Lobster with an antennule regenerated in place of the eye. [J. Fac. Sci. Sect. 4. Zool.] 2,4. 昭3-6(1928-31). [Panulirus japonicus].
 2086. Mori, Yasumasa (森 安正): On the regeneration of the Lateral-line Scales and Lateral-line Organs in the Goldfish. [J. Fac. Sci., Sect. 4. Zool.] 2,3. 昭3-6(1928-31).
 2087. 堀内正重, 伊藤 尹: 骨髄組織再生機轉ニ關スル實驗的研究. 【滿洲醫誌】10. 昭4(1929). [家兔, 家鼠].
 2088. 植松義勝: 山椒魚ニ於ケル四肢再生現象ニ就テ. 【醫公論】902. 昭4(1929).
 2089. 鈴木五郎: 骨組織再生ニ關スル研究(二). 人體骨組織再生ニ關スル研究(第一報). 組織學的研究(會). 【東京醫誌】2621. 昭4(1929).
 2090. 植松義勝: 山椒魚ニ於ケル四肢再生現象ニ就テ(會). 【朝鮮醫會誌】19,11. 昭4(1929). [Hynobius leechii].
 2091. 神田五郎: 纖毛上皮ノ再生並ビニ發生及ビ消失(會). 【九大醫報】3,2. 昭4(1929).
 2092. Kitao, Zunichiro: Über die Regeneration der Antennen bei den Seidenraupen. 【應用動物】1,3-4. 昭4(1929).
 2093. Okada, Yo (岡田 要): Les possibilités de la régénération de la tête chez le Polychète, Myxicola aesthetica (Clap.). [Ann. zool. jap.] 13,5. 昭5-7(1930-32). [Myxicola aesthetica].
 2094. Komori, Seiichi (小森誠一): Origin of the eolidian nematocysts from the standpoint of regeneration. [Ann. zool. jap.] 13,4. 昭5-7(1930-1932).
 2095. 牧野内夏: 蛸科ノ肢再生及ビ畸形發生. 【北越醫會誌】45,7. 昭5(1930). [蛸].
 2096. 可知猛男: 蛸科ノ再生尾ニ於ケル血管ノ態度ニ就テ. 【解剖誌】2,6. 昭5(1930).
 2097. Sakata, Hiroshi: Die Regeneration der Lymphbahn. [Arb. III. anat. Inst. Kyoto] Serie D. 1. 昭5(1930). [Kaninchen].

2098. 高橋信美: 骨組織再生ニ關スル研究. (綜). 【日新醫學】10,11. 昭6(1931). [人, 家兔].
 2099. 原田雄吉: 喉頭回轉神經吻合ニ關スル實驗的研究(會). 【耳鼻】4,5. 昭6(1931).
 2100. 豊増勝夫, 岡田 要: 「キモリ」再生ニ於ケル形態形成要因ニツイテ(會). 【動物誌】44. 519-520. 昭7(1932).
 2101. 田中秀雄: —: Coeloplana ノ切斷再生片ニ於ケル Axis ノ決定ニ就テ(會). 【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
 2102. Kikuchi, S.: Experimentelle Beiträge zur Regeneration der quergestreiften Muskelfasern. [Mitt. allg. Pathol. etc.] 7,2. 昭7(1932). [Kaninchen].
 2103. 田中 保: 結締織性神經被膜再生ノ實驗的組織學的研究. 【京都醫誌】29,10. 昭7(1932). [家兔, 白鼠].
 2104. Takabatake, Yoshiteru: Die Erfolge der Lymphdrüsennaht, besonders über die Regeneration des Lymphdrüsen sinus. [Arb. III. anat. Inst. Kyoto] Serie D 2. 昭7(1932). [Kaninchen].
 2105. Wasu, Akira: Eine mikroskopische Untersuchung der Regeneration des Lymphweges, der nach Exstirpation der Lymphdrüse entsteht. [Arb. III. anat. Inst. Kyoto] Serie D, 2. 昭7(1932). [Kaninchen].
 2106. Yamada, Hachiro: Über die Regeneration des Herzens bei den parabiotischen Bufolarven. [Fol. anat. jap.] 11,2. 昭8(1933).
 8. 去 勢
 2107. 高澤甚作: 男性犯罪ト去勢術. 【日醫界】61. 大2(1913).
 2108. 松葉重雄: 白鼠ニ於ケル去勢ノ甲状腺, 腦下垂體, 胸腺及ビ副腎ニ對スル影響ニ就テ. 【日獸醫會誌】3,3. 大13(1924).
 2109. 島村虎猪, 松葉重雄: 白鼠ニ於ケル去勢ノ各器官ノ發育ニ及ボス影響ニ就テ. 【日獸醫會誌】3,4. 大13(1924).
 2110. 佐藤繁雄: 黄牛ニ於ケル去勢ノ體型ニ及ボス影響. 【中央獸醫誌】37,11. 大13(1924).
 2111. —: 黄牛ニ於ケル去勢ノ體型ニ及ボス影響. 【日本畜産學會報】1,1. 大13(1924).
 2112. 増井 清, 田村泰成: 「マウス」ニ於ケル生殖腺除去ノ副腎ノ構造ニ及ボス影響並ニソノ細胞學的研究(特ニ副腎ト生殖腺トノ機能の關係ニ就テ). 【日本畜産學會報】1,2. 大13

(1924).
 2113. 戸澤富壽: 金魚ノ追星ト去勢實驗ニ依ルニ考察. 【日本學術協會報告】3. 昭2(1927).
 2114. 増井 清, 橋本重郎: 雞ニ於ケル生殖生理ノ研究. 第二. 去勢ノ生長及ビ各種器官ノ重量ニ及ボス影響ニ就テ. 【畜産試験場報告】21. 昭2(1927).
 2115. 山下秀之助: 去勢動物ニ於ケル甲状腺細胞内ゴルヂ氏装置ノ態度. 【北海道醫誌】6. 5. 昭3(1928). [白鼠, 家兔].
 2116. 増井 清, 田村泰成: 生殖腺除去ノ腎臟腫脹及ビ胸腺ニ及ボス影響ニ就テ. 【日獸醫會誌】9,5. 昭5(1930).
 2117. —: 去勢ニ於ケル副腎ノ變化並ニ其細胞學的研究(會). 【日獸醫會誌】9,2. 昭5(1930).
 2118. 芝田清吾: 家兔ニ於ケル卵巣剔除後ノ發情週期. 【日本畜産學會報】4,4. 昭5(1930).
 2119. 井田瑞春: 去勢後ノ「コレステリン」新陳代謝ニ關スル實驗的研究. 【新潟理報】24. 昭6(1931). [家兔].
 2120. 池田高平: 絲魚(Gasterosteus cataphractus)ノ去勢ニツイテ(會). 【動物誌】44,519-520. 昭7(1932).
 2121. 鈴木甚三郎: 去勢ノ家雞上氣道ニ及ボス影響ニ就テ實驗的研究. 【大日耳鼻】38,7. 昭7(1932).
 2122. 鈴木二郎, 倉井三郎: 去勢ノ家雞鼻腔組織ニ及ボス影響ニ就テ實驗的研究. 【大日耳鼻】38,10. 昭7(1932).
 2123. 河野成助, 小倉正男: 鷺ニ於ケル生殖腺除去, 特ニ「ベニス」ノ發達並ニ雌鷺ノ生殖隆起ノ痕跡ニ及ボス影響ニツイテ(會). 【中央獸醫會誌】46,4. 昭8(1933).
 2124. 木下好治: 「ヌマガヘル」(Rana limnocharis)ノ去勢ガ雄雌第二次特質ニ及ボス影響(會). 【動物誌】45,532-3. 昭8(1933).

12. 遺 傳

1. 遺傳一般

2125. 稻葉昌丸: Spencer 氏ノ遺傳說(其一). 【動物誌】8,90. 明29(1896).
 2126. 山浦貞三: 指趾過剩ノ遺傳. 【醫新聞】625. 明35(1902). [人].
 2127. 金子治郎: 遺傳. 【十全會誌】38. 明38(1905).
 2128. 岩手縣種馬所: 毛色遺傳ノ研究. 【中央獸醫誌】18,8. 明38(1905). [馬].

2129. 川井清: 身幹ト遺傳トノ關係. 【産科婦誌】74. 明39(1906).
2130. 石川千代松: 遺傳ト生殖細胞ノ研究. 【醫海時報】707. 明41(1908).
2131. 金子治郎: 直達遺傳(會). 【十全會誌】51. 明41(1908).
2132. 外山龜太郎: 實驗遺傳學ト人生トノ關係. 【醫海時報】759-760. 明42(1909).
2133. 齋藤玉男: 實驗遺傳學ニ就テ(綜). 【神經誌】13.3. 大3(1914).
2134. 佐多愛彦: メンデル氏遺傳(會). 【醫學會誌】13.6. 大3(1914). [人].
2135. 丘淺次郎: 雜種ノ研究. 【産婆誌】165. 大3(1914).
2136. 大串菊太郎: 生殖細胞ノ價值並ニ同種遺傳分子ノ減退. 【醫海時報】1071-1075. 大4(1915).
2137. 石原誠: 「メダカ」ノ體色ノ遺傳ニ就テ. 【福岡醫大誌】9.3. 大4-5(1915-16).
2138. Ishihara, Makoto: On the Inheritance of Body-Color in *Oryzias latipes*. 【Mitt. med. Fak. Fukuoka】4.1. 大6(1917).
2139. 谷津直秀: 染色體ノ交叉ト遺傳性ノ入替(會). 【動物誌】33.388. 大10(1921).
2140. 宮澤文吾, 伊藤孝三郎: 「ヒメカメノコテントウ」ト「カタボシテントウ」トノ雜種ニ就テ. 【遺傳誌】1.1. 大10(1921).
2141. 會田龍雄: 「メダカ」ノ體色ノ遺傳現象. 【遺傳誌】1.3. 大11(1922).
2142. 荒木久米吉: 遺傳失調症ノ一例(會). 【同門會】23. 大11(1922).
2143. 森潤三郎: 「メンデルズム」ニ關スル二三ノ簡單ナル計算上ノ問題. 【動物誌】34.101. 大11(1922).
2144. 羽部義孝: 畜牛ニ於ケル無角性ノ遺傳ニ就テ. 【遺傳誌】2.2. 大12(1923).
2145. 山根甚信, 江頭常藏: 家兎ト野兎トノ間ノ雜種ガ可能ナリヤ否ヤニ關スル實驗的研究. 【動物誌】36.130. 大13(1924).
2146. 安達誠太郎: 馬ノ毛色(栗毛, 青毛, 鹿毛)ノ遺傳ニツイテ. 【日本畜産學會報】1.1. 大13(1924).
2147. 津田好文: 遺傳ニ關スル統計的觀察. 【東洋醫誌】2. 大13(1924). [精核, 喘息, 花柳病, 精神病, 血液結婚, 飲酒, Polymactilität, 腸膜炎].
2148. 安達誠太郎: 馬ノ毛色(栗毛, 青毛, 鹿毛)ノ遺傳ニ就テ. 【陸軍醫報】186. 大14(1925).
2149. —: 馬ノ毛色(栗毛, 青毛, 鹿毛)ノ遺傳ニ就テ. 【中央醫報誌】38.1. 大14(1925).
2150. 進藤萬一: 疾病ノ遺傳的觀察. 【優生學】2.2. 大14(1925). [人].
2151. 舟岡省五: 疾病ノ遺傳. 【優生學】2.6-7. 大14(1925). [人].
2152. 田中義盛: 遺傳ノ新四原則(遺傳學カラ觀タ蠅ト蠶). 【優生學】2.3. 大14(1925).
2153. 見波定治: 遺傳學ノ概要. 【優生學】2.8. 大14(1925).
2154. 増井清, 安達誠太郎: 「マウス」ニ於ケル大キサノ遺傳ニ就テ(會). 【中央醫報誌】38. 4. 大14(1925).
2155. —, —: 「マウス」ニ於ケル大キサノ遺傳ニ就テ(會). 【日獸醫會誌】4.2. 大14(1925).
2156. 宗正雄, 今井喜孝: 「ハツカネズミ」ノ葡萄色眼ノ遺傳ニ就テ. 【遺傳誌】4.1. 大15(1926).
2157. 川上理一: 遺傳學ト眼疾患. 【日醫新報】225-226. 大15(1926).
2158. —: 遺傳學並ニ眼遺傳ニ就テ. 【優生學】3.5-9. 大15(1926). [人].
2159. —: 遺傳學ト統計學トノ關係. 【優生學】3.11. 大15(1926).
2160. 岩間義夫: 著明ナル兎唇遺傳ノ一例. 【日外報】3.6. 大15(1926).
2161. 岸孝義: 人血液遺傳ニ關スル家族の調査成績(603家族)(會). 【十全會誌】32.7. 昭2(1927).
2162. 古畑種基: 血液型ノ遺傳法則(會). 【十全會誌】32.7. 昭2(1927). [人].
2163. 市田賢吉: 人血液型ノ遺傳ニ關スル研究(第一報). 理論及ビ實際的調査成績. 【十全會誌】32.8. 昭2(1927).
2164. —: 人血液型ノ遺傳ニ關スル研究(第二報). 統計學的觀察. 【十全會誌】32.9. 昭2(1927).
2165. —: 人血液型ノ遺傳ニ關スル研究(第三報). 總括的考察. 【十全會誌】32.9. 昭2(1927).
2166. 増井清, 安達誠太郎: 「マウス」ニ於ケル大キサノ遺傳ニ就テ. 【日本畜産學會報】2. 昭2(1927).
2167. —, —: 「マウス」ニ於ケル大キサノ遺傳ニ就テ. 【陸軍醫報】215. 昭2(1927).
2168. 香村岱二: 綿羊ニ於ケル耳形ノ遺傳ニ就テ. 【日本畜産學會報】2. 昭2(1927).

2169. 柴田保: 體質ト遺傳(綜). 【實驗醫報】14.162. 昭3(1928).
2170. 進藤萬一: 細胞ト遺傳(論說). 【九大醫報】2.1-4. 昭3(1928).
2171. —: 細胞ト遺傳. 【優生學】5.9-12; 6. 1-5. 昭3-4(1928-29).
2172. 石原誠, 操坦道: 鯉, 鮒及ビ金魚間ノ雜種ニ於ケル血清學的研究. 【遺傳誌】4.3. 昭4(1929).
2173. 川上理一: 人類遺傳學ニ於ケル數理統計學ノ應用ニ就テ. 【醫新聞】1245. 昭4(1929).
2174. 岡徹: 遺傳質ノ量ト班入ノ問題(會). 【遺傳誌】6.3-4. 昭5(1930). [メダカ].
2175. 古畑種基: 人血液型ノ遺傳ニ就テ(會). 【遺傳誌】5.3-4. 昭5(1930).
2176. —: 人血液型遺傳ノ研究補遺(會). 【遺傳誌】5.3-4. 昭5(1930).
2177. 駒井卓: 日本人ニ於ケル疾病及ビ畸形ノ遺傳ニ關スル研究. 【遺傳誌】6.3-4. 昭5(1930).
2178. 増井清: 親近ニ於ケル遺傳學ニ於ケル諸問題トソノ解説(綜). 【應用醫報誌】3.8-10-12. 昭5(1930).
2179. 池田嘉平: 有肺類ニ於ケル自家授精ノ遺傳學的研究. 【遺傳誌】6.3-4. 昭5(1930). [新編].
2180. 淺井健吉: 遺傳生物學上ノ嚙啞(綜). 【耳鼻】3.7. 昭5(1930).
2181. Hiraiwa, Yoshikuni: Pedigree of a Hemophilic Japanese Family(會). 【遺傳誌】6. 3-4. 昭5(1930).
2182. 羽部義孝: 豚ノ顔面型ノ遺傳ニ就テ. 【遺傳誌】6.3-4. 昭5(1930).
2183. 松井佳一: 淡水魚ノ遺傳並ニ品種改良ニ關スル研究(第二報). 鯉ト鮒トノ交雜種ニ就テ. 【水産試驗場報告】2. 昭6(1931). [鯉, 鮒ノ咽喉嚢ノ形態アリ].
2184. 吉川秀男: 乘遺現象ニ於ケル Synapsis theory ノ概略(綜). 【遺傳誌】7.3. 昭6(1931).
2185. 平野專, 加藤利雄: Kolbendaumen ノ遺傳トソノ出現率ニ就テ. 【兎卵學】5.1. 昭6(1931).
2186. 大島廣: 魚類ニ於ケル單爲生殖ト雜種形成(抄). 【動物誌】44.522. 昭7(1932). [Acerina arnua].
2187. 羽部義孝: 豚ノ雜種ニ關スル研究(第一報). 發育比較, 特ニ一代雜種ノ利用ニツイテ. 【畜産試驗場報告】30. 昭7(1932).
2188. 八嶽儀太郎, 釘本昌二, 村岡岩見, 工藤重信, 羽部義孝, 平尾一次, 進藤武男: 「ホルスタイン」種ト和牛トノ雜種ニ關スル研究. 【畜産試驗場報告】7. 昭7(1932).
2189. 丹下正治: 褐色「ジユズカケ」鳩ヨリ「アルビ」ノ個體ノ偶發例. 【遺傳誌】8.1. 昭7(1932). [Streptopelia risoria].
2190. 光藤介: 近視眼ノ遺傳關係ニ就テ. 【醫海時報】1961. 昭7(1932).
2191. 増井清: 親近ニ於ケル遺傳ニ於ケル諸問題トソノ解説(綜). 【應用醫報誌】5.1-6. 昭7(1932).
2192. 八木千五百: 口腔ニ現ハレタル興味アル遺傳ノ一例. 【齒海公論】243. 昭7(1932).
2193. 小熊輝: 全腹科(Ploccidae)ニ屬スル小禽類ノ雜種及ビ三色ト姉妹ニ於ケル生殖器官ノ發育狀態. 【遺傳誌】8.1. 昭8(1933). [Munia maja, Uroloncha domestica, Estrilda rhonopyga, Estrilda estrilda, Oryzornis oryzivora, Taeniophgia castanota, Aidemosyne modesta].
2194. 丹下正治: 「ジユズカケ」鳩ニ於ケル羽裝ノ褐色性ノ遺傳的組成ニ關スル一新知見(會). 【中央醫報誌】46.4. 昭8(1933).
2195. 中島實: 學校近視ト其豫防(上, 下). 【學校衛生】7.1-2. 昭8(1933). [眼屈折體ノ遺傳相關關係等].
2196. 松井佳一: 淡水魚ノ遺傳並ニ品種改良ニ關スル研究(第三報). 鯉, 鮒又ハ金魚ノ雜種ノ雄ノ不胎ニ就テ. 【水産試驗場報告】3. 昭8(1933).
2197. Bryden, Wm.: The Effect of Sex on the Frequency of Chiasma Formation and its Relation to Crossing-over in the Wistar Rat. 【Cytologia】4.3. 昭8(1933).
2198. 増井清: 鳥類ニ於ケル雌雄嵌合体(Gynandromorphism)ニ就テ(綜). 【植物及ビ動物】1.7. 昭8(1933).
2199. 菊池三通男: 嚙啞ノ遺傳ト人血液型遺傳トノ關係(會). 【耳鼻】6.10. 昭8(1933).
2200. Jennings, H. S.: Genetics of the Protozoa, in relation to some of the greater problems of Genetics(綜). 【遺傳誌】8.2-3. 昭8(1933).

2. 猩猩蠅

2201. Komai, Taku (駒井卓): Genetic studies on crippled, a mutant character of *Drosophila melanogaster*. 【Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ.】2.5. 大15-昭2(1926-27).
2202. 千野光茂: 日本産猩猩蠅ノ遺傳學的研

- 究(會).【動物誌】39,469-470. 昭2(1927).
2203. —: 黒猩々蠶ノ遺傳研究(第一報)(會).【遺傳誌】4,3. 昭4(1929).
2204. 合田得輔: X光線ニヨル *Drosophila*ノ突然變異ニ際シテノ染色體ノ破損(會).【動物誌】42,501. 昭5(1930).
2205. —: 獲得遺傳ノ實例(會).【動物誌】42,501. 昭5(1930). [*Drosophila*].
2206. 千野光茂: 黒猩々蠶ノ遺傳研究(第二報).【遺傳誌】5,3-4. 昭5(1930).
2207. —: 野生ノ黒猩々蠶ニ含マレタ劣性形質ノ檢出(豫報)(會).【遺傳誌】6,3-4. 昭5(1930).
2208. 新井美二: X線ノ放射ニ依リテ生ジタル黒猩々蠶ノ Non-disjunctionニ就テ(會).【遺傳誌】6,3-4. 昭5(1930).
2209. Kikkawa, Hideo: Studies in the mechanism of crossing-over in *Drosophila*, with special reference to the phenomenon of interference. [*Cytologia*] 3,3. 昭7(1932).
2210. —: Contribution to the knowledge of non-disjunction of the sex-chromosomes in *Drosophila virilis*. I. General problems. [*Cytologia*] 3,4. 昭7(1932).
2211. 森脇大五郎: X線ニ依テ生ジタ猩々蠶ノ致死因ニ就テ.【遺傳誌】8,4. 昭8(1933).
2212. Chino, M. and Kikkawa, H.: Cytological demonstration of crossing-over in the autosomes of *Drosophila virilis*. [*Cytologia*] 4,4. 昭8(1933).
2213. Kikkawa, Hideo: Theoretical research on the mechanism of crossing-over in *Drosophila*.【遺傳誌】9,1. 昭8(1933).
2214. —: A case of small translocation found in *Drosophila virilis*.【遺傳誌】8,2-3. 昭8(1933).
2215. 藤井祐一: 「クロシウジ」ヤウバヘノ作性諸形質ノ乘違ニ及ボスX線ノ影響.【遺傳誌】8,2-3. 昭8(1933).
3. 蠶
2216. Toyama, K.: Studies on the hybridology of insects. I. On some silk-worm crosses, with special reference to Mendel's law of heredity. [*Bull. Coll. Agr. Tokyo Imp. Univ.*] 7. 明39-41(1906-08).
2217. —: Studies on the hybridology of insects. II. A sport of the silk-worm, *Bombyx*

- mori*, L., and its hereditary behavior. [*J. coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo*] 2,1. 明42-44(1900-11).
2218. Tanaka, Yoshimaro (田中義慶): Gametic coupling and repulsion in the silk-worm, *Bombyx mori*. [*J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.*] 5. 大2-3(1913-14).
2219. —: A Study of Mendelian factors in the silk-worm, *Bombyx mori*. [*J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.*] 5. 大2-3(1913-14).
2220. Yamane, Jinshin: On the inheritance of an aural abnormality in the Ayrshire cattle. [*J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.*] 6. 大3-4(1914-15).
2221. Tanaka, Yoshimaro: Genetic studies on the silk-worms. [*J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.*] 7. 大5-6(1916-17).
2222. 小倉三郎: 家蠶ノ「ゼブラ」ノ因子ト他ノ因子トノ連鎖關係ニ就テ.【遺傳誌】1,3. 大11(1922).
2223. 川口榮作: 家蠶ト野蠶トノ雜種ニ於ケル細胞學的研究(豫報).【動物誌】35,417-422. 大12(1923).
2224. 田中義慶: 蠶ニ於ケル第二ノ伴性遺傳並ニ表面的不分割現象(豫報).【遺傳誌】2,2. 大12(1923).
2225. 寺尾博: 自家不稔性ノ遺傳現象ニ就テ.【遺傳誌】2,3. 大12(1923). [*Petunia violacea*].
2226. Tanaka, Yoshimaro (田中義慶): A new sex-linked mutation in the silk-worm, *Bombyx mori* L. [*J. Dep. Agr. Kyushu Imp. Univ.*] 1. 2. 大13(1924).
2227. Machida, Jiro: Crossing experiments with Gipsy Mtsol (*Lymantria dispar* L.). [*J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo*] 7,3. 大13(1924).
2228. 田中義慶: 無半月紋蠶ノ遺傳ト致死因子.【九大農學誌】1,4. 大14(1925).
2229. 木暮楨太: 蠶ノ黒縞, 黄血兩因子交叉價ノ變異ニ關スル研究.【九大農學誌】2,1. 大15(1926).
2230. Tanaka, Yoshimaro (田中義慶): A sex-linked translucent gene which occurred independently in three different strains of the silk-worm. [*J. Dep. Agr. Kyushu Imp. Univ.*] 1,8. 昭2(1927).
2231. —, Matsuno, Seiichi "Stick" and "Multilunar," a fourth linkage groups in

- the silk-worm. [*J. Dep. Agr. Kyushu Imp. Univ.*] 1,8. 昭2(1927).
2232. —: Some remarks on symbols, multiple allelomorphism, crossing-over and linkage groups in the silk-worm. [*J. Dep. Agr. Kyushu Imp. Univ.*] 1,8. 昭2(1927).
2233. —: 「モザイク」動物及ビ「ジナンドルモルフ」.【日本學術協會報告】3. 昭2(1927). (家蠶).
2234. Shen, Jun Hui: On the inheritance of some quantitative characters in *Bombyx mori* L. [*J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo*] 10,1. 昭3-5(1928-30).
2235. 鈴木簡一郎: 家蠶重「い形」斑ノ遺傳(會).【遺傳誌】4,3. 昭4(1929).
2236. 勝本喜董: 家蠶ノ體性「モザイク」構成ノ一例.【遺傳誌】1,1. 昭4(1929).
2237. 松村季美: 家蠶胃液「アミラーゼ」作用ノ遺傳(會).【遺傳誌】4,3. 昭4(1929).
2238. 木暮楨太: 過剰被蠶ノ特徴及ビ其遺傳(會).【遺傳誌】4,3. 昭4(1929).
2239. 橋本善雄: 家蠶ニ於ケル「モザイク」ノ實驗的形成(會).【遺傳誌】4,3. 昭4(1929).
2240. 鈴木簡一郎, 太田慎一郎: 重「い」形蠶ノ遺傳.【遺傳誌】6,1. 昭5(1930).
2241. 橋本善雄: 家蠶ニ於ケル過剰腹肢ノ遺傳.【遺傳誌】6,2. 昭5(1930).
2242. 田中義慶: 人為的突然變異トソノ解釋(會).【遺傳誌】6,3-4. 昭5(1930).
2243. 梅谷與七郎, 唐澤清衛: 發育抑制因子ヲ有スル家蠶ニ就テ(會).【遺傳誌】6,3-4. 昭5(1930).
2244. 宇田一: 家蠶蛾ノ眼色ニ關スル遺傳學的研究.【遺傳誌】6,3-4. 昭5(1930).
2245. 梅谷與七郎: 家蠶ニ於ケル異常交尾器ノ遺傳學的研究(會).【遺傳誌】7,4. 昭7(1932).
2246. 川口榮作: 蠶ニ於ケル優性突然變異黒色斑.【遺傳誌】8,2-3. 昭8(1933).
2247. —: 天蠶 (*Antheraea yamamai* Guer.) 及ビ柞蠶 (*A. pernyi* Guer.) 並ニ其ノ雜種ニ於ケル細胞學の觀察(會).【動物誌】4. 5,532-3. 昭8(1933).
4. 植物
2248. 加藤茂苞, 石川潤一: 赤米色素ノ遺傳ニ就テ.【遺傳誌】1,1. 大10(1921).
2249. 竹崎嘉徳: 紫稻ノ葉色遺傳ニ就テ.【遺傳誌】1,1. 大10(1921).
2250. 寺尾博: 稻ニ於ケル半稔性ノ突然變異及ビ其遺傳現象.【遺傳誌】1,1. 大10(1921).
2251. 宮澤文吾: 大麥ニ於ケル葉色ノ遺傳.【遺傳誌】1,1. 大10(1921).
2252. 宗正雄: 大麥斑葉性ノ遺傳ニ就テ.【遺傳誌】1,1. 大10(1921).
2253. 寺澤保房: 咲分「ケイトウ」ノ遺傳ニ就テ.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2254. 永井成三郎: 「ヤマシソ」ト「オホヤマシソ」ノ雜種ニ就テ.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2255. 萬長春: 種子ニ依リテ鑑別シ得ル朝顔品種ノ特性ニ就テ.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2256. 榎本中衛, 柿崎洋一: 梨及ビ桃ニ於ケル芽條變異.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2257. 寺尾博: 大粒稻ニ於ケル因子突然變異殊ニ「アロモルフ」ノ轉化率ニ就テ.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2258. 佐々木林太郎: 稻熱病ニ對スル抵抗力ノ遺傳ニ就テ.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2259. 柿崎洋一: 小豆ニ於ケル相關遺傳.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2260. Ikeno, Seiichiro: Oobako no Iden.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2261. 宮澤文吾: 「キシマツツジ」ニ就テ.【遺傳誌】1,2. 大11(1922).
2262. —: 「アサガハ」ニ於ケル種子ノ色ノ遺傳研究.【遺傳誌】2,1. 大12(1923).
2263. 寺澤保房: 「ギバウシ」ノ遺傳ニ就テ.【遺傳誌】2,1. 大12(1923).
2264. 波多腰武: 馬鈴薯品種ノ結實性變異ニ就テ.【遺傳誌】2,3. 大12(1923).
2265. 和田歌吉: 甘藷ノ育種及ビ遺傳ニ關スル實驗(豫報).【遺傳誌】2,3. 大12(1923).
2266. 榎本中衛: 「マツバボタン」ニ於ケル固定不能型ノ一種ニ就テ.【遺傳誌】2,3. 大12(1923).
2267. 塚田秀男, 寺尾博, 岡田清澄: 多葉型標草ノ突然發生並ニ其育種ニ就テ.【遺傳誌】2,3. 大12(1923).
2268. 齋藤周一: 粟ノ遺傳ニ就テ.【遺傳誌】2,2. 大12(1923).
2269. 野原茂六: 「ハウレンソウ」ノ遺傳研究.【遺傳誌】2,2. 大12(1923).
2270. 高橋昇: 稻ニ於ケル「リンケージ」ノ一例(豫報).【遺傳誌】2,1. 大12(1923).

- 2271. 中富貞夫： 稻ノ品種及ビ突然變種ノ於ケル染色體差異ニ就テ。【遺傳誌】2,3. 大12(1923).
- 2272. 杉本重雄： 稻ニ於ケル畸形種發生ノ實例。【遺傳誌】2,2. 大12(1923).
- 2273. 竹崎嘉徳： 紫稻ノ葉色遺傳ニ就テ(續報)。【遺傳誌】2,3. 大12(1923).
- 2274. 山崎守正： 稻ニ於ケル畸形ノ發現ニ就テ。【遺傳誌】2,1. 大12(1923).

13. 體格, 體型, 體質, 發育

1. 一般

- 2275. 樞田龜一郎： 本邦人ノ發育ニ對スル頭蓋及ビ胸廓「インデックス」ノ變化ニ就テ(會)。【東京醫誌】156,3. 明41(1908).
- 2276. 松本亦太郎： 人生ノ時期。【兒童研究】14,1. 明43(1910).
- 2277. 三井武三郎： 未成年者體格ノ發育ニ就テ管見。【保險醫誌】11,47. 大1(1912).
- 2278. 竹岡友三： 發育年齡ニ於ケル日本男子ノ中等體力(綜)。【軍醫圖】29. 明45(1912).
- 2279. 松原三郎： 體質ト後天性疾患トノ關係。【日內會誌】1. 大3(1913).
- 2280. 倉林香三： 遺傳, 土地及ビ職業ト體格トノ關係。附：體格改良策(會)。【朝鮮醫會誌】6. 大2(1913).
- 2281. 高木兼寛： 日本人ノ體力減退ニツイテ。【日醫學】85. 大3(1914).
- 2282. 秋山妙治： 脂肪體質ト生命保險。【保險醫誌】13,2. 大3(1914).
- 2283. 吉田章信： 日本人ノ體型ニ就テ。【軍醫圖】70. 大6(1917).
- 2284. 長谷川卯三郎： 體格等位ノ判定ニ關スル意見。【兒童研究】21. 大6-7(1917-18).
- 2285. 大串菊太郎： 體質論。【保險醫誌】89. 大3(1919).
- 2286. 高橋辰五郎： 日本婦人ノ體格ニ就テ(會)。【北越醫會誌】35,1. 大9(1920).
- 2287. —： 腦力ノ發達ト身體發育トノ關係(會)。【北越醫會誌】35,2. 大9(1920).
- 2288. 丹治善造： 日本人ノ體格及ビ體格ノ分類ニ就テ。【保險醫誌】20,3. 大10(1921).
- 2289. 三田谷啓： 邦人ノ體型ト機能ニ就テノ觀察及ビ研究。【醫會誌】20,4. 大10(1921).
- 2290. —： 邦人ノ體型ト機能ニ就テノ觀察及ビ研究。【醫會誌】20,7. 大10(1921).

- 2291. —： 邦人ノ體型ト機能ニ就テノ觀察及ビ研究(體格ト脳智ニ關スル研究)。【兒童研究】24,9. 大10(1921).【兒童】.
- 2292. 石井軍醫： 日本人成年男子體格標準(會)。【海軍醫誌】38. 大11(1922).
- 2293. 長與又郎： 淋巴性體質(上, 下)。【日醫新報】51-52. 大11(1922).
- 2294. 野村禎一： 日本人ノ體格ト其ノ作業能率ニ關スル研究。1, 2.【日醫新報】83-84. 大12(1923).
- 2295. 石井 正： 日本人成年男子ノ體格標準。【日醫週報】1463-1538. 大12(1923).【身長, 體重, 胸圍, 肺活量, 握力】.
- 2296. 大山稻三郎： 生産年齢ニ於ケル日本人ノ標準體格ニ就テ(第一)。【愛知醫會誌】30. 1-4-6. 大12(1923).
- 2297. 中村八太郎： 體質ニ就テ(綜)。【十全會誌】28,2. 大12(1923).
- 2298. 野村禎一： 日本人ノ體格ト其作業能率ニ關スル研究。【國民衛生】1. 大12-13(1923-4).【身長, 坐高】.
- 2299. 田原 盛： 日本人ノ健體發育ニ就テ。【福岡醫誌】17,1-5. 大13(1924).
- 2300. 荒木豊吉： 職業的疾患ニ關スル知見補遺(其一)。職業的疾患トシテノ(紡織女工手ノ)扁平足。【國家醫誌】44,4. 大13(1924).
- 2301. 蓮見喜一郎, 森 忠男： 盲人ノ體育效ニ衛生狀態ニ就テ。【醫新聞】1178. 大14(1925).【生體計測】.
- 2302. 中橋幸吉： 民族衛生ニ關スル研究。【滿洲醫誌】3. 大14(1925).【在滿日支歐人ノ身體各部發育ノ比較研究】.
- 2303. 淺野成俊： 學業ト體質トノ相關研究。【優生學】3,5. 大15(1926).
- 2304. 大山稻三郎： 生産年齢ニ於ケル日本人ノ體格特ニ其ノ變化ノ範圍ニ就テ。【保險醫誌】25,131. 大15(1926).
- 2305. —： 生産年齢ニ於ケル日本人ノ標準體格ニ就テ(第四, 變化ノ範圍)。【愛知醫會誌】33,4. 大15(1926).
- 2306. Matsuoka, Fuyuki and Ishii, Shintaro: The constitutional and nutritive states of the Japanese and the "Miyagawa Index." [Scient. Reports from the Gov. Inst.] 5. 大15-昭1(1926).
- 2307. 土屋榮吉： 體格氣質及ビ結婚(綜)。【生理研究】3,7. 大15(1926).
- 2308. 羽田利也： 體質ノ研究(1-4)。【臨床產婦人科】1. 大15-昭2(1926-27).【人】.

- 2309. 大淵三雄, 藤生儀一： 臟器製劑ノ效果ト體質トノ關係ニ就テ。【臨床產婦人科】2. 昭2(1927).【女子】.
- 2310. 南崎雄七： 農村住民ノ體格ニ就テ。【日公保健誌】3. 昭2(1927).
- 2311. 吉田章信： 日本人ノ身體發育。【優生學】4,5. 昭2(1927).
- 2312. 南 俊治： 坑夫ノ體格ニ關スル醫學的觀察。【社會醫誌】490. 昭2(1927).
- 2313. 横森賢治郎： 脂肪過多症, 内分泌疾患編(1)。【臨醫研究】. 昭2-9(1927-34).
- 2314. —： 胸腺淋巴性體質, 内分泌疾患編(1)。【臨醫研究】. 昭2-9(1927-34).
- 2315. 小川惟禎： 婦人勞働者ノ發育ニ關スル研究(其一)。【勞働研究】5,3. 昭3(1928).
- 2316. 平光吾一： 九州人體質ノ研究(其一)。【東京醫誌】2633. 昭3(1928).
- 2317. 中村八太郎： 内分泌ト體質及ビ疾病(綜)。【北越醫會誌】43,1. 昭3(1928).
- 2318. 足立文太郎： 日本人ノ體質。【優生學】6,1. 昭4(1929).
- 2319. 西 成甫： 解剖學ト個性及ビ職業。【學校衛生】9. 昭4(1929).【個性解剖學, 體型及ビ體質】.
- 2320. 永井 潜： 生理學ト個性及ビ職業。【學校衛生】9. 昭4(1929).【體質】.
- 2321. 小川惟禎： 婦人勞働者ノ發育ニ關スル研究(其二)。紡織婦人勞働者ト海女トノ比較。【勞働研究】6,1. 昭4(1929).
- 2322. 河邊正男： 身體ノ充實度ニ就テ。【日鐵道醫會誌】15,3. 昭4(1929).
- 2323. 杉原滿次郎： 體型ト精神トノ關係。【醫】4,6-10. 昭5(1930).
- 2324. 清野謙次： 日本古代住民ノ生活ト疾病及ビ醫術。【日醫新報】480. 昭6(1931).
- 2325. 磯野正登： 被保險體格ノ統計的研究【生命保險會社協會會報】19,4. 昭6(1931).
- 2326. 西山伊織： 沖繩婦人發育ニ關スル研究(第一報)。【關西醫事】3,32-33; 4,1-2. 昭6(1931-32).
- 2327. 片瀬 淡： 體質病理ノ實驗的研究。【日醫新報】503-505. 昭7(1932).
- 2328. 松林錦三： 女子身體發育ニ關スル研究。【民族衛生】2,1. 昭7(1932).【788名ノ計測】.
- 2329. 大山稻三郎： 再ビ生産年齢ニ於ケル日本人ノ標準體格ニ就テ。【保險醫誌】31,1. 昭7(1932).
- 2330. —： 發育完了セル日本男子ノ體格。【民族衛生】2,3. 昭7(1932).【約7萬名ノ身長, 體重, 胸圍, 腹圍等ノ統計】.

- 2331. 中條銳一： 體格判定標準ニ就テ。【保險醫誌】31,5. 昭7(1932).
- 2332. 吉田章信： 日本人ノ體質特ニ身體的作業能力ノ研究ニソノ向上ニ關スル教育衛生的考察。【醫海時報】1965. 昭7(1932).
- 2333. —： 日本人ノ體質特ニ身體的作業能力ノ研究ニ其ノ向上ニ關スル教育衛生的考察。【日醫新報】506. 昭7(1932).
- 2334. 坂口豊治： 所謂標準體格ノ直線的「グラフ」ニ就テ。【保險醫誌】31,2. 昭7(1932).
- 2335. 原田謙太郎： 保險醫學ヨリ見タル日本人ノ體格。【保險醫誌】31,3. 昭7(1932).
- 2336. 日置陸奥夫, 親部之道： 體質ニ關スル研究(第一報)。北陸地方成人ノ體格殊ニ身體各部ノ實測成績。【日內會誌】20. 昭7-8(1932-33).
- 2337. —, —： 體質ニ關スル研究, 第一編, 成人體格ニ就テ。【十全會誌】38,12. 昭8(1933).
- 2338. —： 體質ニ關スル研究, 第二編, 成人體型ニ就テ。【十全會誌】38,12. 昭8(1933).
- 2339. 竹内茂代： 日本女子ノ體質ニ關スル研究。【民族衛生】2,5. 昭8(1933).【14種職業ニ従事セル12-86歳ノ女子9630名ノ計測】.
- 2340. 箕田 貢： 異常體質及ビ異常體質ト小兒期ノ疾患(綜)。【同門會】46-48. 昭8(1933).
- 2341. 岩隈博義, 戸早貞一, 上野靜雄, 坂本春雄, 蓬尾博司： 寄生蟲寄生兒ニ於ケル統計的觀察。【同門會】48. 昭8(1933).

2. 身體外形, 身體測定, 測定方法

- 2342. 菊池大體： 人身測定ノ話。【人類誌】1, 4. 明19(1886).
- 2343. 箕作元八： 人身測定ノ成績, 第一編。【人類誌】1,5. 明19(1886).
- 2344. 澤井 廉： 人身測定ノ成績, 第二編, 第三編。【人類誌】1,8; 2,14. 明19-20(1886-87).
- 2345. 坪井正五郎： 伊豆諸島ニテ行ヒタル人身測定成績ノーツ。【人類誌】2,16. 明20(1887).
- 2346. 羽柴雄輔： 身體測定成績表。【人類誌】3,26. 明21(1888).【小學兒童】.
- 2347. 三輪徳寛： 生體測定。【人類誌】5,33. 明21(1888).
- 2348. —： 力士身體測定ノ成績。【人類誌】4,35. 明22(1889).
- 2349. 金田樹太郎： 肥後五ヶ莊人民身體測定。

【人類誌】5,44. 明22(1889).
 2350. 田中正雄: 上肢ト下肢ノ對照論(會). 【金澤醫會誌】2,7-8. 明23(1890).
 2351. —: 乳ト手ノ關係. 【全譯醫會誌】2,15. 明23(1890).
 2352. 無名: 身長十八驗. 【醫海時報】65. 明28(1895).
 2353. 岡田忠英: 「ミクロセハリ」ノ一例. 【東京醫誌】927. 明29(1896).
 2354. 大澤岳太郎: 四肢同價問題. 【東京醫誌】1015. 明30(1897). 【ハツチリヤ】.
 2355. 山田謙次: 美人論. 【鐵道醫報】9. 明30(1897).
 2356. 足立文太郎: 人類學上生體或ハ骨格調査ニ向ツテノ注意. 【人類誌】14. 明32(1899).
 2357. 矢野恒太: 小顔保險ノ體格診査ニ就テ. 【保險醫誌】6. 明37(1904).
 2358. 松崎故一郎: 體格検査ノ效果ニ就テ. 【保險醫誌】10. 明38(1905).
 2359. 佐藤恒丸: 體位ノ測定及ビ其ノ消長ニ就テ. 【醫新聞】705. 明39(1906).
 2360. 坪井正五郎: 人種研究材料トシテノ測面輪廓圖. 【人類誌】22,250. 明40(1907).
 2361. 北豐吉: 小學校教員其他ノ身體検査成績. 【日衛生會誌】5,2. 明42(1909). 【男1805名, 女610名ノ身長, 體重, 胸圍, 肺活量】.
 2362. 石原修: 某紡績會社某工場工女健康成績調査. 【日衛生會誌】7,1-2. 明44(1911). 【夜業後, 毎朝100人づツ検査. 身長, 胸圍, 體重, 聽視器, 四肢, 體格, 榮養等】.
 2363. 富澤鍾: 小顔症ニ就テ. 【神經誌】13, 3. 大3(1914). 【女子二例】.
 2364. 生沼曹六: 生理學上ヨリ見タル男性美(綜). 【十全會誌】19,2. 大3(1914).
 2365. 穂積榮次郎: 巨大發育症ニ就テ. 【福岡醫大誌】8,3. 大3-4(1914-15).
 2366. 土橋秀彦: 日本青年ニ於ケル眼裂長徑其他ノ年齡竝ニ身長ニ關スル調査報告. 附: 中華民國留學生ニ於ケル其ノ調査ニ就テ. 【醫新聞】921. 大4(1915).
 2367. 津金巨摩雄: 日本人ニ於ケル解剖的竝ビニ生理的計數表. 【成醫月報】. 404-433. 大4(1915).
 2368. 今井潔: 新津地方ニ於ケル鐵道院就職志願者ノ身體検査ノ小統計ニ就テ. 【日鐵協會誌】2,10. 大5(1916).
 2369. 三枝惠作: 骨發育異常ニ關スル侏儒ノ一種「ヒヨンドロヂストロフィア」. フォーター

リス」ニ就テ. 【海軍醫誌】29. 大9(1920).
 2370. 田中利雄: 侏儒患者供覽(會). 【同門會】23. 大11(1922).
 2371. 大串菊太郎: 身長胸圍體重ノ關係(會). 【阪醫會誌】21,4. 大11(1922).
 2372. 小出軍醫: 腦下錐體性侏儒ノ一例ニ就テ(會). 【海軍醫誌】35. 大11(1922).
 2373. 田代義徳: 姿勢ニ就イテ.(1, 2, 3). 【日醫新報】82-84. 大12(1923).
 2374. 進藤篤一, 田代規矩雄: 本邦巨人ノ一例ニ就テ. 【國家醫誌】445. 大13(1924).
 2375. 高折茂: 本邦正常成人人體ニ於ケル軀幹計測. 【日鐵道醫會誌】11,9. 大14(1925).
 2376. Hasegawa, Usaburo: Studies on the morphology of neck of the Japanese, and a contribution to knowledge of shape of chest (Prelim. report). 【Jap. med. World】5,8. 大14(1925).
 2377. 長谷川卯三郎: 日本人ノ頭部形態學的研究及ビ胸廓ノ體型的知見補遺. 【東京醫會誌】39,8. 大14(1925).
 2378. 延川靖: 發育概評丙ニ相當スル者ノ原因別調査. 【學校衛生】6,2. 大15(1926). 【長野縣下約1000名】.
 2379. 中橋幸吉: 在滿邦人ト日本人トノ發育比較. 【優生學】3,5-10. 大15(1926).
 2380. 土肥原三平太: 身長肌面係數, 身長座面係數, 身長座高係數ニ就テ(上,中,下). 【學校衛生】6,12; 7,1-2. 大15-昭2(1926-27).
 2381. 秋田善雄: 邦人ノ重心ニ關スル研究. 【醫公論】752. 大15(1927).
 2382. —: 邦人ノ重心ニ關スル研究. 【千葉醫會誌】5,1. 昭2(1927).
 2383. 植松七九郎: 侏儒症. 【臨醫研究】內分泌疾患編(1) 昭2-9(1927-34).
 2384. 東京市教育局學校衛生掛: 東京市小學校員身體検査成績. 昭和二年度. 【學校衛生】8. 昭3(1928). 【男3155, 女1657名】.
 2385. 田中寛一: 日本人ノ身體測定法ニツイテ. 【日本學術協會報告】4. 昭3(1928).
 2386. 秋田善雄: 日本人體ノ質量比例ニ就テ. 【東京醫會誌】43,2. 昭4(1929).
 2387. 井口哲宗: 身體検査竝ニ體格検査ニ關スル統計的考察. 【日鐵道醫會誌】15,9. 昭4(1929).
 2388. 中溝清明: 考案セル力量計及ビ隊兵ノ力量價竝ニ隊兵體力標準ニ就テ. 【軍醫圖】138. 昭4(1929).

2389. 西脇得三: 體格及ビ營養度ノ判定方法ニ就テ. 【學校衛生】10,5. 昭5(1930). 【體格區分法ト發育概表, 榮養判定法ト其計算表, 比胸圍計算表】.
 2390. 奥山美佐男: 生體ノ重心ニ關スル研究. 其一. 生體重心測定ノ新法. 【勞働研究】7, 3. 昭5(1930).
 2391. 宮原信吾: 人體體形竝ニ筋力ノ局部的測定ニ就テ(會). 【日醫新聞】2,2. 昭6(1931).
 2392. 一丸恕吉: 身體測定成績ニ就テ. 【學校衛生】11. 昭6(1931). 【小學兒童】.
 2393. 進藤篤一, 森優, 佐藤忍: 朝鮮人巨人ノ一例(其ノ「ソマトロギー」ニ就テ). 【醫研究】5,10. 昭6(1931).
 2394. 及川周: 身體検査ニ就テ. 【學校衛生】12,4. 昭7(1932).
 3. 胎兒, 初生兒, 乳兒
 2395. 高山正雄: 我邦ニ於ケル成熟初生兒ノ微證ニ就テ. 【醫新聞】501. 明34(1901). 【初生兒計測】.
 2396. —: 我邦ニ於ケル成熟初生兒ノ微證ニ就テ. 【國家醫誌】167. 明34(1901).
 2397. 長濱宗信: 日本初生兒ノ發育論. 【兒科誌】40. 明36(1903).
 2398. 橋爪哲造: 本邦初生兒體重調査. 【日婦會誌】4, 1. 明42(1909).
 2399. 梅田弘之: 日本小兒ニ於ケル大顛門及ビ頭, 胸圍測定. 【福岡醫大誌】3,2. 明43(1910).
 2400. 渡邊英吉造: 本邦初生兒ノ成熟徵候. 【日婦會誌】6,3. 明44(1911).
 2401. —: 本邦初生兒身體ノ計測數. 【兒童研究】15,9. 明45(1912). 【146例】.
 2402. 田中隆吉: 本邦ノ初生兒(第一報). 【近畿醫誌】3,6. 大6(1917).
 2403. 西田謙一: 余ノ測定セル日支初生兒ノ體重ニ就テ(會). 【南滿醫會誌】6,4. 大8(1919).
 2404. 廣瀬豐一, 志賀費: 新生兒ノ哺乳量及ビ體重. 【日婦會誌】18,6. 大12(1923).
 2405. Akiba, Takashi: Über die Körperproportionen der japanischen Feten. 【Fol. anat. jap.】2,4. 大13(1924).
 2406. 秋葉隆: 胎兒ニ於テ日本人下肢長ハ歐州人ニ劣ラズ. 【東京醫誌】2352. 大13(1924).
 2407. 愛甲文雄, 杉藤光治: 初生兒ノ統計學的觀察(第二報)(會). 【近畿醫誌】9,4. 大15(1926). 【日本人300例】.
 2408. 近藤梅二: 初生兒ノ發育ニ伴フ哺乳量

ト排泄量. 【臨床兒誌】1,2. 昭2(1927).
 2409. 小林貞: 本邦健康母乳營養兒ノ身體各部ニ於ケル部分的發育ニ就テ(會). 【兒科誌】330. 昭2(1927).
 2410. 豐田順爾: 乳兒, 幼兒及ビ小學兒童ノ坐高ニ就テ(第二報). 【兒科誌】320. 昭2(1927).
 2411. 谷信一: 初生兒ノ體重ニ就テ(第一報)(會). 【近畿醫誌】11,6. 昭3(1928).
 2412. 愛甲文雄: 本邦初生兒ノ統計學的觀察(第一, 二, 三, 四報). 【近畿醫誌】11,1,3. 昭3(1928).
 2413. Aiko, F.: Statistical Research of Newly Born Infants. I, II. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】11,1-3. 昭3(1928).
 2414. 淺田一: 乳兒法醫學. 【臨床兒誌】2,11-12; 3,1-3. 昭3-4(1928-29).
 2415. 井上繁: 內鮮初生兒ノ統計的觀察(會). 【醫公論】902. 昭4(1929).
 2416. 吉永すみゑ: 本邦乳幼時發育標準值(會). 【兒科誌】352. 昭4(1929).
 2417. 古家一成: 本邦初生兒體重ノ生理的減少竝ニ増加ニ關スル臨床的觀察. 【臨床產婦人科】5. 昭5(1930).
 2418. 松田文夫: 健康乳幼兒ノ坐高ニ就テ. 【兒科誌】359. 昭5(1930).
 2419. 弘好文: 新生兒生理竝ビニ病理. 【臨床兒誌】4,7-12; 5,1-6. 昭5-6(1930-31). 【解剖ツケム】.
 2420. 小林貞: 本邦健康母乳兒身體ノ部分的發育ニ就テ. 第一編. 頭部及ビ顔面計測. 第二編. 軀幹計測. 第三編. 上肢及ビ下肢計測. 第四編. 體格ノ月齡的差異. 【乳兒誌】7,1,10,1. 昭5-6(1930-31).
 2421. 平山健康: 本邦初生兒體重ト所謂妊娠持續日數トノ相關關係ニ就テ(會). 【日醫新聞】2,13. 昭6(1931).
 2422. Fujimori, H.: Statistical Observation of the Ear Length and the Ear Width of the Mature Japanese New-Born, and an Instance of Microtia. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】14,1. 昭6(1931).
 2423. 前山彦人, 井上一郎: 乳兒ノ頭形ニ就テ(會). 【同門會】41. 昭6(1931).
 2424. 濱田宗之助: 乳兒ノ發育ニ就テ(會). 【兒科誌】370. 昭6(1931).
 2425. 永山在應: 死胎兒ノ「レントゲン」像ニ就テ(會). 【近畿醫誌】15,1. 昭7(1932).
 2426. 本多操, 倉橋幸夫, 川野邊三郎: 本邦胎兒ノ形態學的研究(第一報). 【産科院報】7,2. 昭7(1932).



2427. 平山健康: 本邦初生兒身長ト臍帶ノ長サトノ相關關係ニ就テ。附: 本邦初生兒身長竝ニ臍帶ノ長サノ度數分布ニ就テ。【日婦會誌】27, 4, 昭7(1932)。〔1416例〕。

2428. 岡田啓吾: 本邦初生兒身長ト體重トノ相關關係。【近世婦誌】15, 5, 昭7(1932)。

2429. 氏家俊介, 本田清吉: 妊娠各週ニ於ケル胎兒足趾ノ長サニ就テ。【東北醫誌】15, 4, 昭8(1933)。

2430. 棧石敏夫: 胎兒身長ト頂尾長, 脊柱長, 肩幅, 腰幅, 兒頭經線及ビ周圍トノ關係。【東京醫會誌】47, 1, 昭8(1933)。

2431. —: 胎兒體重及ビ身長ト共ノ長管狀骨ノ重量及ビ長サトノ關係。【東京醫會誌】47, 2, 昭8(1933)。

2432. —: 胎兒內臟重量ノ統計學的研究。【東京醫會誌】47, 10, 昭8(1933)。

2433. 琥珀間里芳: 在臺內地人及ビ本島人新生兒ニ關スル二三ノ統計的觀察(會)。【臺灣醫會誌】32, 昭8(1933)。

2434. Okada, K.: Mutual Relation between Height and Weight of the Japanese New-Born. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 16, 3, 昭8(1933)。〔11968 newborns〕。

2435. 池崎生喜: 本邦初生兒ニ關スル二三ノ統計的觀察。【臨床產婦人科】8, 昭8(1933)。

2436. 徳山富雄, 野須新一, 巽稔: 健康乳幼兒前胸長及ビ前腹長竝ニ其ノ相互關係ニ就テ。【兒科誌】399, 昭8(1933)。

4. 兒 童

2443. 羽柴雄輔: 鼠ケ關小學生徒身體測定表。【人類誌】4, 35, 明22(1889)。

2438. 泉澤恒藏: 陸中國柴内尋常小學校生徒身體測定表。【人類誌】4, 38, 明22(1889)。

2439. 蘆原信之: 地方幼年學校ニ召集スベキ生徒ノ身長。【研瑛誌】29, 明30(1897)。

2440. 北原貞三: 兒童身長及ビ體重ニ就テ。【醫新聞】592, 明34(1901)。

2441. 林道平: 學齡兒童ノ身長及ビ體重ニ就テ。【北越醫會誌】128, 明35(1902)。

2442. 唐澤光徳: 小兒ノ身長ト腸管ノ長サノ比較ニ就テ。【兒科誌】46, 明37(1904)。

2443. 杉本利善: 發育不全ナル少女ノ一例。【研瑛誌】78-79, 明40(1907)。

2444. 藤原 薫: 小兒ノ身長ト胸圍ノ關係ニ就テ。【第三回日本醫學會誌】。明44(1911)。

2445. 安西茂太郎: 下關市學童身體ノ發育狀態ニ就テ。【日衛生會誌】7, 3, 明44(1911)。〔着衣量, 體重, 身長, 胸圍, 乳房〕。

2446. 田中武助: 既往六ケ年間ニ於ケル芝浦尋常小學校兒童ノ體格検査成績ノ概要。【嶺南鏡】109, 大1(1912)。

2447. 本間辰藏, 富士川游: 本邦兒童ノ身長ニ就テ。【兒童研究】16, 6, 大2(1913)。

2448. 岩内誠一: 一年間ニ於ケル兒童體重發達ノ調査報告。【兒童研究】16, 7, 大2(1913)。〔五年生男兒童〕。

2449. 古瀬安俊: 數量上ニ現レタル兒童發育ト貧富トノ關係。【兒童研究】16, 8, 大2(1913)。

2450. 越智末一郎: 都市ニ於ケル兒童ノ胸圍發育ノ不良ニ就テ。【兒童研究】16, 11, 大2(1913)。

2451. 安西茂太郎: 小學新入兒童ノ身體狀況。【日衛生會誌】9, 大2(1913)。〔847名ノ身長, 體重, 胸圍〕。

2452. 矢野 雄: 本邦小兒ノ身長竝ニ體重ノ算式(會)。【同門會】10, 大3(1914)。

2453. 塚原政次: 兒童ノ身長及ビ體重ト學業成績トノ關係。【兒童研究】21, 大9-7(1917-18)。

2454. 長谷部言人: 仙臺市尋常小學校兒童趾皮隆線ノ調査。【東北醫誌】3, 2, 大7(1918)。

2455. 島村育人: 兒童ノ胸積。【兒童研究】23, 7, 大9(1920)。

2456. 榊保三郎: 身體及ビ腦發育ト精神發育トノ比較竝ニ精神發育總括論。【神經誌】19, 9, 大9(1920)。〔7歳ヨリ2)歳マデ〕。

2457. 稻葉逸好: 學齡兒童ノ體量測定ニ就テ。【南滿醫會誌】8, 2, 大10(1921)。〔體量, 身長, 胸圍〕。

2458. 吉田章信, 小窪利三郎, 井上庸三: 小學校劣等兒童ノ身體概況。【學校衛生】1, 2, 大10(1921)。〔48名〕。

2459. 三田谷啓: 兒童ノ指力ニ關スル調査。【兒童研究】24, 8, 大10(1921)。

2460. —: 邦人ノ體型ト機能ニ就テノ觀察及ビ研究(胸圍ニ關スル研究)。【兒童研究】24, 10, 大10(1921)。〔兒童〕。

2461. —: 邦人ノ體型ト機能ニ就テノ觀察及ビ研究(足形ニ關スル觀察)。【兒童研究】24, 11, 大10(1921)。〔兒童〕。

2462. 板澤政治: 15歳未満男子被保險人體格ニ關スル統計的觀察。【保險醫誌】21, 3, 大11(1922)。

2463. 本間周敏: 我兒兒童發育狀態ノ統計的

觀察。【學校衛生】3, 1, 大12(1923)。〔新潟縣佐渡郡真野〕。

2464. 豐田順爾: 小學校兒童ノ坐高ニ就テ(第一報)及ビ豐田式坐高上腿下腿測定器ノ詳細。【兒科誌】251, 大12(1923)。

2465. 關 興一: 本邦小兒ノ坐高ニ就テ。【兒科誌】293, 大13(1924)。

2466. 岡村増太郎: 兒童ノ頭圍検査(綜)。【生理研究】1, 5, 大13(1924)。

2467. 原 實: 小兒ノ頭形ニ就テ(會)。【同門會】20, 大13(1924)。

2468. 林能昭: 自六歳至十六歳兒童ノ發育型ニ就テ。【兒科誌】292-294, 大13(1924)。

2469. 井手敏男, 足立公雄: 學齡兒童ノ營養狀態ニ就テ。附: 營養狀態ハ指數ニテ表ハシ得ベキヤ(會)。【兒科誌】286, 大13(1924)。

2470. 吉田貫一: 思春前期ニ於ケル本邦小學校兒童身體的人類學的觀察(1-6)。【兒童研究】29, 1-6, 大14(1925)。

2471. 東京市教育局學校衛生課: 就學兒童豫備身體検査ニ關スル調査。【學校衛生】6, 7, 大15(1926)。〔明治43年ヨリ大正13年マデ〕。

2472. —: 東京都市計畫區域内兒童ノ健康狀態ニ關スル調査。【學校衛生】6, 8, 大15(1926)。

2473. 渡邊 實: 補助學級兒童ノ健康狀態ニ就テ。【學校衛生】6, 9, 大15(1926)。〔東京市兒童男129名, 女219名, 計438名ノ環境ト榮養, 等ヨリ身體計測〕。

2474. 鳥根縣學務課: 就學兒童入學前身體検査成績(大正十四年度)。【學校衛生】6, 1, 大15(1926)。〔縣下兒童14201名〕。

2475. 篠崎健關: 農村兒童ノ發育ニ關スル調査。附: 學校給食ノ提唱。【學校衛生】6, 8, 大15(1926)。〔大正10年ヨリ大正14年マデ〕。

2476. 飯田三郎: 小兒胸廓測定成績。【兒童研究】30, 7, 大15(1926)。

2477. —: 兒童身長ノ計測ニ就テ。附: 一日中ニ於ケル身長ノ時間的動搖。【學校衛生】5, 3, 大15(1926)。〔福岡縣下ノ小學兒童140名〕。

2478. 皆吉 質: 都鄙兒童ノ體型研究。【阪醫會誌】25, 9, 大15(1926)。

2479. 進藤篤一: 日本兒童及ビ成人ノ身體。【單行】大15(1926)。〔琴平町都村有爲堂〕。

2480. 中橋幸吉: 日支學童ノ形態ト體質トノ關係比較。【衛生學】4, 1, 昭2(1927)。

2481. 渡邊弘: 乳房ノ發育調査及ビ骨盤計測ヨリ見タル小學校兒童ノ性別分化ニ就テ。【兒科誌】328, 昭2(1927)。

2482. 鮫島正彦: 中等學校入學試驗身體検査概況(大正十五年度)。【學校衛生】7, 昭2(1927)。

2483. 輕部榮治郎: 補助學級兒童ノ健康狀態ニ就テ。【學校衛生】7, 昭2(1927)。〔東京市25校476名ノ身長, 胸圍, 榮養〕。

2484. 一丸愨吉: 兒童身體發育諸統計及ビ其ノ考察(上, 中, 下)。【學校衛生】7, 昭2(1927)。〔長崎市教育課ノ發表セルモノヲ檢討〕。

2485. 武田守人: 關東州學生生徒兒童ノ發育ニ就テ。【學校衛生】7, 昭2(1927)。〔大正10年ヨリ同14年マデ身體検査統計日支人總計88,739名〕。

2486. 村上賢三: 幼稚園兒童身體検査成績。【十全會誌】33, 1, 昭3(1928)。

2487. 滿鐵地方部衛生課: 滿鐵小學校兒童身體検査成績。【學校衛生】8, 昭3(1928)。〔昭和元年度, 男女11037名; 昭和二年度, 11769名〕。

2488. 壁島金司: 兒童身體ニ關スル調査報告。【學校衛生】8, 昭3(1928)。〔1. 扁平足ト發育, 運動, 學業トノ關係(23校200人); 2. 頭蓋ト發育, 學業トノ關係。3. 腸管生蟲驅除成績〕。

2489. 高橋 勉: 特殊兒童調査ニ就テ。【學校衛生】8, 昭3(1928)。〔山形縣下202校約10萬6千名ノ學業成績, 健康程度, 遺傳的疾癩體ノ部位ニヨル分類〕。

2490. 原 正: 小學校及ビ感化院兒童頭部長幅率ト年齡及ビ學業トノ關係ニ就テ(會)。【解剖誌】1, 1, 昭3(1928)。

2491. 一丸愨吉: 就學前兒童ノ性能検査ニ就テ。【學校衛生】8, 昭3(1928)。〔身長計測長方形ヲ使用〕。

2492. —: 兒童ノ體格及ビ其發達ノ傾向ニ就テ。【學校衛生】8, 昭3(1928)。〔八幡小學校兒童1959名; 大市氏體格榮養判定法使用〕。

2493. —: 發育概評丙ノ原因及ビ其ノ考察。【學校衛生】9, 昭4(1929)。〔身長, 體重, 胸圍ノ三因子ヲ用ヒタル大市氏法ト對照比較, 佐世保市13校中, 丙ニ屬スルモノ2975名〕。

2494. 秋田善雄: 學齡兒童ノ身體各部發育ニ關スル研究(第一報)。身長, 體重, 極體重, 體格指數及ビ身體充實指數ニ就テ(會)。【解剖誌】2, 2, 昭4(1929)。

2495. 天谷 愨: 小兒期ニ於ケル足趾印影ノ年齡的差異。【兒童誌】350, 昭4(1929)。

2496. 淺田 一: 學齡前兒童法醫學(講座)。【臨床兒誌】3, 5, 6, 10, 昭4(1929)。

2497. 栗山重信: 小兒ノ生物學的性狀ノ年齡的差異(日本小兒科學宿題)。【醫海時報】1808, 昭4(1929)。

2498. 前島治吉: 體力ト學力トノ關係ニ就テ。【學校衛生】9, 昭4(1929)。〔代々橋町立西原小學校

第5學年兒童男 58 名ノ肺活量, 皮下脂肪, 胸圍, 身長, 背筋等].

2499. **東京市教育局學校衛生掛:** 補助學級兒童ニ關スル調査. 【學校衛生】9, 昭4(1929). [8-16歳; 身長, 體重, 胸部發育ノ概評].

2500. **小原小太郎:** 學齡兒童ノ身體計數的觀察. 【北越醫會誌】44, 1, 昭4(1929). [長岡市區之上尋常小學校兒童男 588 名, 女 580 名, 計 1168 名].

2501. **高橋 勉:** 學校ニ於ケル特種兒童ノ研究. 【學校衛生】10, 4, 昭5(1930). [學業, 健康丙以下ノ者ノ遺傳, 疾病, 頭蓋形狀].

2502. **椎名龜之助:** 夏季棄落ノ實施ニツイテ. 【學校衛生】10, 6, 昭5(1930). [體重及ビ胸圍增加率アリ].

2503. **村山午朔:** 生徒兒童身體檢查取扱上ノ注意(上, 下). 【學校衛生】10, 7, 昭5(1930).

2504. **壁島金司:** 學令兒童ノ上膊圍及ビ腹壁皮下脂肪ノ發育調査(一). 特ニ其ノ營養判定上ノ價值ニ就テ. 【學校衛生】10, 12, 昭5(1930).

2505. **濱野松太郎, 窪 盛:** 腕骨ノ發育及ビ齒牙ノ發生ト智能ノ發達トノ關係(會). 【神經誌】31, 9, 昭5(1930).

2506. **吉田章信:** 日本兒童年齡及ビ身長別標準體重表ノ作製及ビソノ活用ニ就テ. 【醫海時報】1890, 1892, 昭5(1930).

2507. **鳥 誠郎:** 兒童胸廓ノ測定. 【十全會誌】36, 1, 昭6(1931).

2508. —: 兒童胸廓ニ關スル研究(會). 【日醫新聞】2, 2, 昭6(1931).

2509. **東京市教育局學務課:** 小學兒童體格ノ變遷ニ就テ. 【學校衛生】11, 昭6(1931). [明治 33 年以後 30 年間ニ於ケル兒童ノ 身長, 體重, 胸圍ノ變遷].

2510. **吉田章信:** 日本兒童年齡及ビ身長別標準體重表ノ作製及ビソノ活用ニ就テ. 【學校衛生】11, 昭6(1931). [東京市外ノ兒童 4073 名].

2511. **岡本規矩男:** 兒童ノ身體的發育ニ就テ. (上, 下). 【學校衛生】11, 昭6(1931). [1. 時期的區分. 2. 發育ノ內的要約. 3. 外的要約. 4. 發育曲線. 5. 北陸兒童ノ發育].

2512. **弘 好文:** 本邦小兒ノ體重及ビ身長標準値ノ概算法. 【 】17, 197, 昭6(1931).

2513. **高橋 勉:** 體育及ビ學校衛生ニ關スル基本的研究. 【民族衛生】1, 1-4, 昭6(1931). [山形縣下ノ兒童生徒約 13 萬名, 被教育者約 1 萬 6 千名].

2514. **佐々木鶴二:** 小兒身體發育係數ノ批判(綜). 【愛知醫會誌】38, 9, 昭6(1931).

2515. **吉田章信:** 日本人兒童年齡身長體重相

關表作製ニ就テ(會). 【日醫新聞】2, 2, 昭6(1931).

2516. **吉田貫一:** 初生兒ヨリ發情期ニ至ル日本兒童ノ身體各部ノ發育ニ關スル研究殊ニ其相關性發育及ビ近似發育曲線ニ就テ. 【慶應醫學】11, 1; 12, 12, 昭6-7(1931-32).

2517. **須々木榮:** 米國生レ日本人系兒童ノ體格調査(第一報). 【東京顯微鏡會誌】39, 1, 昭7(1932).

2518. **鳥 太郎:** 學齡兒童ノ各月ローレル氏身體充實指數ニ關スル知見. 【學校衛生】12, 9, 昭7(1932). [札幌市小學兒童 2512 名ノ季節的及ビ月的變化].

2519. **小川原亮:** 小學校虛弱兒ニ關スル調査. 【學校衛生】12, 11, 昭7(1932). [虛弱兒童 138 名ノ態所見].

2520. **東京市學校衛生掛:** 小學校兒童體格ノ變遷ニ關スル調査. 【學校衛生】12, 10, 昭7(1932). [明治 33 年以後ノ兒童體格ノ變遷].

2521. **神部泰英:** 虛弱兒童ニ關スル觀察(其二). 【學校衛生】12, 8, 昭7(1932). [六甲郊外學園兒童ノ血液型及ビビルケ氏反應].

2522. **秋富金藏:** 所謂健康優良兒童ニ就テ. 【學校衛生】12, 3, 昭7(1932). [第二回日本一健康優良兒童愛媛縣下 52 名ノ生育狀況及ビ家族關係].

2523. **延川 靖:** 本邦最高山岳地帯ニ於ケル兒童身體發育ノ特徵. 海拔 1,000 m. 以上ノ高地ニ就テ. 【慶應醫學】12, 6, 昭7(1932).

2524. **淺井 昇:** 本邦小兒標準體重概算式ニ關スル一考案. 【兒科誌】39, 昭7(1932).

2525. **吉田章信:** 日本人ノ體質特ニ身體的作業能力ノ研究及ビソノ向上ニ關スル體育的考察(1-5). 【學校衛生】12, 7-11, 昭7(1932). [總計 13 687: 生徒兒童 12778, 運動家 717, 一般人 87, 特別虛弱者 105 人; 7 年間].

2526. **須々木榮:** 米國生レ日本人系兒童體格調査(第二報). 【東京顯微鏡會誌】40, 2, 昭8(1933).

2527. **高橋 勉:** 山形縣生徒兒童ノ體型及ビ其ノ體型ト成績トノ關係(會). 【民族衛生】2, 4, 昭8(1933). [男女 16356 人ノ榮養, 身長, 體重, 胸圍, 皮下脂肪, 肺圍, 大腸圍, 比胸圍, 比大腸圍, ローレル氏充實指數].

2528. **近藤 榮, 田口清市郎:** 小學兒童ニ於ケル口蓋扁桃腺ヲ中心トシテソレト所謂體質ト發育ト並ニコレガ學業ニ及ボス影響トニ就テノ調査報告. 【日醫新報】548, 昭8(1933).

2529. **石黒 寛:** 北陸地方ニ於ケル聾啞兒ノ研究(第三報). 發育狀態及ビ聽能ニ就テ(會). 【耳鼻】6, 1, 昭8(1933).

2530. **河村榮太郎:** 北陸小兒ノ比胸圍ニ就テ(一, 二). 【金澤解剖業績】11, 昭8(1933).

2531. —: 北陸小兒ノ「ビンネー」氏體質示數ニ就テ(一, 二). 【金澤解剖業績】11, 昭8(1933).

2532. —: 北陸小兒ノ發育ニ就テ(一, 二). 【金澤解剖業績】11, 昭8(1933).

2533. —: 北陸小兒ノ人類學的研究(其一). 頭長徑及ビ頭幅徑. 【金澤解剖業績】12, 昭8(1933).

2534. —: 北陸小兒ノ人類學的研究(其二). 耳計測. 【金澤解剖業績】13, 昭8(1933).

2535. —: 幼兒ノ發育相關關係ノ研究. 【十全會誌】38, 8, 昭8(1933).

2536. —: 小兒ノ發育相關關係ノ研究. 【十全會誌】38, 8, 昭8(1933).

2537. **喜多浦哲太郎:** 發育體型ト學科成績トノ關係. 【學校衛生】13, 7-12, 昭8(1933). [千葉縣下 27 校 7217 名].

2538. **中橋幸吉:** 身體發育ト氣候風土其他環境トノ關係. 【學校衛生】2, 6, 大11(1922). [在滿邦人學童, 支那人學童等 18 ケ年間約 1 萬名].

2539. **三輪太郎:** 鮮人少年受刑者ノ足長ト身長トノ關係ニツキテ. 【朝鮮醫會誌】63, 大15(1926).

2540. **金子甚藏:** 滿洲兒童養護問題(其一). 滿洲ニ於ケル健康乳兒ノ發育狀態及ビ胸廓ニ就テ. 【滿洲醫誌】8, 昭3(1928). [452 名].

2541. —: 滿洲兒童養護問題(其二). 滿洲ニ於ケル小兒胸廓異常ノ統計的觀察. 附: 小兒胸廓異常ト特種疾病トノ關係. 【滿洲醫誌】8, 昭3(1928). [外來 3971 名中異常ヲ認メザル 520 名].

2542. **田中玄英:** 京城府學校兒童身體發育ノ統計的觀察ニ就テ(一, 二, 三). 【滿鮮醫界】120-122, 昭6(1931). [日, 鮮, 支兒童].

2543. **梶村正義:** 朝鮮兒童ノ身體發育ニ就テ(其一). 殊ニ軀幹及ビ四肢ニ關シテ. 【解剖誌】4, 3, 昭6(1931).

2544. —: 朝鮮兒童ノ身體發育ニ就テ(其二). 頭部指數(軀幹, 四肢及ビ頭部). 【解剖誌】4, 6, 昭6(1931).

2545. **李仁圭:** 朝鮮人兒童ノ身長, 體重及ビ胸圍ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】23, 8, 昭8(1933).

2546. —, **鄒冕錫:** 朝鮮幼稚園兒童ノ身長體重及ビ胸圍ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】23, 12, 昭8(1933).

2547. **三輪太郎:** 鮮人少年受刑者ノ扁平足ニツキテ. 【京城醫專校紀要】3, 8, 昭8(1933).

2548. **鄒冕錫, 李仁圭:** 朝鮮人兒童ノ發育型ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】23, 2, 5, 昭8(1933).

5. 學生, 生徒

2549. **尖戸俊治:** 學生ノ體格ニ就テ. 【醫新聞】676, 明38(1905).

2550. **桂 秀三:** 整形外科ヨリ見ケル中學生脊柱ノ彎曲及ビ年齡ト身長トノ關係及ビ身長ト下肢ノ長サトノ關係ニ就テ. 【學校衛生】2, 2, 大11(1922). [東京府立中學校生徒 1551 名].

2551. **山崎祐久:** 入學試驗ノ體重及ビボス影響ニ就テ. 【學校衛生】2, 2, 大11(1922). [230 名].

2552. **皆吉 質:** 中等學校運動選手ノ胸圍及ビ胸廓ニツイテ(1-9). 【學校衛生】3, 1-3, 大12(1923). [大阪中等學校運動選手 345 名, 普通生徒 250 名].

2553. **文部大臣官房學校衛生課:** 學生生徒兒童身體發育統計. 【學校衛生】5, 8, 大14(1925). [明治 33 年ヨリ大正 11 年マデノ全國學生生徒].

2554. **林能昭:** 自十二歳至十八歳身體發育型(發育ノ個人差)ニ就テ. 【兒科誌】309, 大15(1926).

2555. **皆吉 質:** 中學生ノ體育ニ關スル調査. 【學校衛生】6, 5, 大15(1926). [大阪府, 奈良縣中學校生徒約 4000 名; 柔道道修練者ノ統計ヲ主體トス].

2556. **鮫島正彦:** 中等學校入學身體檢查成績(大正十四年度). 【學校衛生】6, 3, 大15(1926). [長野縣入學試驗受驗者 2504 名].

2557. **文部大臣官房學校衛生課:** 學生, 生徒, 兒童每五ケ年身長發育比較. 【學校衛生】6, 6, 大15(1926). [明治 33 年ヨリ大正 9 年ニ至ル 21 ケ年間ニ於ケル 5 ケ年限ノ發育比較表].

2558. —: 學生, 生徒, 兒童身長, 胸圍, 體重二十三ケ年平均表. 【學校衛生】6, 7, 大15(1926). [明治 33 年ヨリ大正 12 年ニ至ル].

2559. —: 全國學生, 生徒, 兒童發育ニ關スル調査大正十三年度. 【學校衛生】7, 昭2(1927). [身長, 體重, 胸圍等ノ年齡別統計].

2560. **皆吉 質:** 運動能力ニ關スル研究. 【學校衛生】8, 昭3(1928). [茨城中學生徒, 市岡中學, 高津中學, 市岡高女生徒, 身長下肢長, 指長, 牽引力].

2561. **武田義昌:** 中學校生徒ノ體力「テスト」ニ就テ. 【學校衛生】9, 昭4(1929). [中學生徒約 130 名, 3 回調査].

2562. 金鳴善, 李永春: 朝鮮人中等學校生徒ノ肺活量及身長, 體表=關スル肺活量係數=就テ(會).【朝鮮醫會誌】19,11. 昭4(1929).

2563. 島 誠都: 兒童生徒ノ身長發育型ノ分類=就テ.【十全會誌】36,6. 昭6(1931).【中等學校男女生徒】.

2564. 文部大臣官房體育課: 學生, 生徒, 兒童發育=關スル調査. 自明治 33 年至昭和 4 年毎 5 ケ年.【學校衛生】11. 昭6(1931).【身長, 體重, 胸圍】.

2565. 岩原 拓: ローレル氏身體充實度=關スル知見.【學校衛生】12,1. 昭6(1931).【(1)東京府下大井町日本體育會體操學校第一學年 375 名. (2)文部省全國在學者男女子平均體重, 胸圍, 身長】.

2566. —: 木邦在學者ノ體格ノ變遷=就テ.【學校衛生】12,1. 昭7(1932).【既往體格トシテ明治 33-37 年ノ平均ト現今體格トシテ大正12-14 年ノ平均トノ比較】.

2567. 岡村正幸: 女學校新入生ノ握力=就テ.【學校衛生】12,8. 昭7(1932).【新潟高女生徒 233 名ノ握力, 前膊圍, 上膊圍】.

2568. 東京市學校衛生掛: 特殊學校生徒ノ身體檢查=關スル比較調査.【學校衛生】13. 昭8(1933).【東京市立中等學校, 實業補習學校生徒 8956 名ノ身長, 胸圍等】.

2569. 吉田章信: 日本人ノ體質特=體力ノ標準=關スル研究.【民族衛生】2,4-5. 昭8(1933).【兒童生徒等 12778 名; ソノ内運動選手 443 名, 體操教員 274 名, 特別虛弱者 105 名等アリ】.

6. 壯 丁

2570. 赤嶺豐熊: 新兵ノ體格=就テ.【軍醫會誌】57. 明26(1893).

2571. 碎報生板: 第六師團=於ケル陸軍軍醫採用試驗ノ體格檢查=就テ一言ス.【醫海時報】40. 明27(1894).

2572. 西井康作: 內臟股關節ノ例.【軍醫會誌】152. 明39(1906).

2573. 橋本監次郎: 壯丁身長ト體重トノ關係=就テ.【軍醫會誌】12. 明43(1910).

2574. 渡邊正永: 兵ノ體重増減(綜).【軍醫會誌】43. 大2(1913).

2575. 山浦房次郎: 健康人ノ體溫尿量及膀胱容積=就テ.【好生館醫誌】21,2. 大3(1914).【兵士】.

2576. 小塚一郎: 身長ノ伸縮=就テ.【臺灣醫會誌】15,163-164. 大5(1916).【兵士】.

2577. 長谷部言人: 壯丁ノ身長ヨリ見タル日本人ノ分佈.【東北醫誌】2,1. 大6(1917).

2578. 黒川知勝, 四方 林: 第六師管壯丁ノ體格=就テ.【軍醫會誌】172. 大8(1917).

2579. 古庄乙彦: 利手及握力ノ統計的觀察.【廣西醫報】177. 大7(1918).【入營兵】.

2580. 横山章太郎: 徵兵身體檢查實施要領(綜).【軍醫會誌】103. 大10(1921).

2581. 白玖壽雄: 乘馬兵適任體格選定ノ目標=就テ上肢, 股下其ノ他ノ小統計.【軍醫會誌】141. 大14(1925).

2582. 東京市役所統計課: 徵兵檢查=現レタル東京市青年ノ體格(綜).【東京顯微鏡會誌】33,2. 大15(1926).

2583. 吉田章信: 日本壯丁ノ體格=關スル統計的研究(第一報).【社會醫誌】478. 大15(1926).【東京市及比隣接町部】.

2584. 深田貫一: 兵員胸廓橫断面=關スル研究.【軍醫會誌】157. 大15(1926).

2585. 小崎逸郎: 標準=違セザル體格者ノ入隊後=於ケル運命=就テ.【軍醫會誌】159. 大15(1926).【現役兵】.

2586. —: 扁平胸ノ數字的概念.【海軍醫誌】15. 大15(1926).【兵士】.

2587. 嘉悦三毅夫: 胸圍不足者=就テ(綜).【軍醫會誌】165. 昭2(1927).【現役兵】.

2588. —: 現役兵ノ職業ト體格(綜).【軍醫會誌】168. 昭2(1927).

2589. 小崎逸郎: 健康度ト其ノ胸廓=就テ(綜).【軍醫會誌】183. 昭3(1928).【現役兵】.

2590. 瀧田俊吾: 徵兵檢查=現レタル壯丁ノ胸徑=就テ.【軍醫會誌】190. 昭4(1929).

2591. 大杉保枝: 徵兵身體檢查=關スル研究(綜).【軍醫會誌】190. 昭4(1929).

2592. 杉山龜之助: 在營兵ノ扁平足=就テ.【軍醫會誌】194. 昭4(1929).

2593. 上道清一: 昭和元年度日本壯丁身長分佈圖(會).【社會醫誌】505. 昭4(1929).

2594. 中溝清明: 兵員體力標準=就テ(第二報).【軍醫會誌】197. 昭4(1929).

2595. 角田眞一: 壯丁體格及=體型=就テ.【軍醫會誌】197. 昭4(1929).

2596. 鈴木淳三: 扁平足=就テ.【軍醫會誌】199. 昭5(1930).

2597. 中川善松: 扁平足=就テ.【軍醫會誌】200. 昭5(1930).

2598. 角田眞一: 所謂筋骨薄弱壯丁ノ體格=就テ.【軍醫會誌】202-210. 昭5(1930).

2599. —: 壯丁ノ體質型=就テ.【軍醫會誌】205. 昭5(1930).

2600. 小林賢語: X 線寫眞ヨリ見タル新兵ノ胸部所見.【軍醫會誌】205. 昭5(1930).

2601. 山本幹雄: 在營二ケ年間=於ケル胸部レントゲン放線所見ノ變遷及其ノ意義=就テ.【軍醫會誌】205. 昭5(1930).

2602. 新垣敏松: 歩兵 11 聯隊在營兵ノ足關節運動領域ノ統計的觀察及=足關節捻挫, 扁平足ト足關節運動領域=就テ.【海軍醫誌】19. 4. 昭5(1930).

2603. 津田三男吉: 壯丁及ビ隊兵ノ脚長=關スル統計的觀察.【軍醫會誌】209. 昭5(1930).

2604. 杉山龜之助: 在營兵ノ坐高=關スル統計的觀察.【海軍醫誌】19.4. 昭5(1930).

2605. —: 在營兵ノ坐高=關スル統計的觀察.【軍醫會誌】205. 昭5(1930).

2606. 植村秀一: 大阪地方男子ノ發育=關スル統計的觀察. 附: 壯丁ノ筋骨薄弱及ビ主要疾病=就テ.【軍醫會誌】214. 昭6(1931).

2607. 松村 桓: 滿期退營後=於ケル體格體力及ビ智能ノ推移=關スル研究.【軍醫會誌】216. 昭6(1931).

2608. 奥山正雄: 初年兵ノ體格ト運動能力トノ統計的觀察.【軍醫會誌】220 號外. 昭6(1931).

2609. 陸軍省醫務局衛生課: 帝國壯丁ノ身長ノ移動=就テ(綜).【軍醫會誌】219. 昭6(1931).

2610. 角田眞一: 壯丁=於ケル體格及ビ體質型=就テ.【十全會誌】36,1. 昭6(1931).

2611. —: 身長ノ日差及ビ兵員ノ足窩窩=就テ.【軍醫會誌】219. 昭6(1931).

2612. 吉田章信: 日本壯丁ノ體格=關スル統計的研究(第二報). 壯丁身長統計=基ク日本人種ノ二主元及=大都市郊外ノ衛生的意義【民族衛生】1. 昭7(1932).【東京市郊外ノ壯丁】.

2613. 西脇得三: 隊兵ノ體格營養判定=關スル健康簿圖表ノ考案.【軍醫會誌】225. 昭7(1932).

2614. 榎谷鐵雄: 壯丁ノ胸圍=就テ. 附: 青少年ノ年齡別, 身長別, 體重胸圍標準(綜).【軍醫會誌】228. 昭8(1933).

7. 競技者, 體育

2615. 三輪德寛: 競争的運動=於ケル身體上變化=就テ.【人類誌】8,81. 明25(1892).

2616. 吉田章信, 秋田善雄: 世界の走者ノ身體狀況.【學校衛生】5,7. 大14(1925).【被檢者ハ

ドック・マーチン氏】.

2617. 吉田章信: 體育=關スル統計的研究.【社會醫誌】466-467. 大14(1925).

2618. 河本積助: 體育ノ醫學的考察.【病理治療】1. 昭2(1927).

2619. 大倉安次: 「スポーツマン」ノ健康狀態及ビ生命ノ豫後(綜).【病理治療】1. 昭2(1927).

2620. 木下東作: 醫學ト體育(綜).【病理治療】2. 昭3(1928).

2621. 大槻嘉男: 運動競技者ノ體格=就テ.【十全會誌】33,4. 昭3(1928).【男子中等學校生徒】.

2622. 齋藤一男: 走「ランニング」跳「ジャンピング」選手ハ如何ナル足ヲ有ルカ(會).【東京醫誌】2616. 昭4(1929).

2623. 岡 正: 長距離競走選手ノ血液學的研究.【傳研業績】4. 昭7(1932).

2624. 小島三郎, 新免 勝, 平山輝夫, 小林不二夫, 小穴正徳, 岡 正, 三上富太, 宮地甲子男: 運動選手ノ競技ヨリ受クル生理學的影響=就テ.【傳研業績】5. 昭7(1932).【血液検査表アリ】.

2625. 中込 亘, 平山輝夫, 岡 正, 白杵 仁, 木村政長: 長距離競走選手ノ人體計測=就テ.【傳研業績】6. 昭7(1932).

2626. 吉田章信: 運動ノ身體=及ボス影響(會).【民族衛生】2,4. 昭8(1933).【發育促進の影響, 生理の本態, 健康増進の影響】.

8. 鮮, 支, 滿, 臺人其他

2627. 谷口 謙: 臺灣人體格檢查報告.【軍醫會誌】77. 明29(1896).

2628. 鳥居龍藏: 蕃薯葉萬斗生蕃ノ身體測定.【人類誌】13,146. 明31(1898).

2629. —: 臺灣基隆ノ平埔蕃ノ體格.【人類誌】14,153. 明31(1898).

2630. 渡邊英之: 臺灣南部生蕃體格一斑.【軍醫會誌】96. 明31(1898).

2631. 櫻井 滿: 生蕃人ノ體格.【軍醫會誌】110. 明33(1900).

2632. 鳥居龍藏: 紅頭嶼土人ノ身長ト指極.【人類誌】17,189. 明34(1901).

2633. 飯島 茂: 朝鮮人ノ體格=就テ.【軍醫會誌】124. 明34(1901).

2634. 鳥居龍藏: 黠而蕃女子ノ頭形.【人類誌】16,184. 明34(1902).

2635. 伊能嘉矩: 臺灣ノ生蕃=於ケル一種ノ官能神經病.【人類誌】16,183. 明34(1902).

2636. 木村謹吾: 阿片癮者體格檢查(第一報).

【臺灣醫會誌】2,15, 明30(1903). (臺灣人100名).

2637. Koganei, Y.: Messungen an chinesischen Soldaten. [Mitt. med. Fak. Tokyo] 6, 明30-33 (1903-05). (Zahl 968, Alter 19-66 Jahre).

2638. 鳥居龍藏: 朝鮮人ノ體質. 【人類誌】20, 225, 明37(1904).

2639. 森方正: 生蕃人體格ニ就テ. 【臺灣醫會誌】3,19, 明37(1904). (ツアリセン, セブタン, ムンガウ三蕃族ノ調査).

2640. 前田保十頁: 支那人ノ體格檢査成績. 【軍醫會】154, 明39(1906).

2641. 伊能嘉矩: 臺灣ノ土蕃ノ齒ヲ缺ク風. 【人類誌】22,258, 明40(1907).

2642. —: 臺灣土蕃ノ表情. 【人類誌】23,261, 明40(1907).

2643. Y. I.: 臺灣土蕃ノ鬚髯ヲ拔ク風. 【人類誌】22,257, 明40(1907).

2644. 鳥居龍藏: 猯種族ノ體質. 【人類誌】22,257; 23,261, 明40-41(1907-08).

2645. —: 臺灣各蕃族ノ頭形論. 【人類誌】24,287; 25,283-285, 明42(1909).

2646. 長谷部言人: 臺灣蕃人生體測定. 【人類誌】26,295, 明43(1910).

2647. 森丑之助: 「ガオガン」蕃人ノ體質. 【人類誌】26,298, 明45(1912).

2648. 鄧承奎: 本島婦人生體ノ骨盤徑線ニ就テ. 【臺灣醫會誌】11,114, 明45(1912). (纏足婦人100名).

2649. Kubo, T.: Beiträge zur physischen Anthropologie der Koreaner. [Mitt.med. Fak. Tokyo] 12, 大2(1913).

2650. 田中徳次郎: 朝鮮婦人生體骨盤測定成績(會). 【朝鮮醫會誌】3, 大2(1913).

2651. 宇野功一: 朝鮮京城ニ於ケル三年. 【醫新聞】887, 大2(1913). (瞳孔距離測定成績アリ).

2652. 西田謹一: 内地及ビ滿洲ニ於ケル婦人科患者ニ就キ統計ノ比較觀察(會). 【南滿醫會誌】3,3, 大4(1915). (支那婦人ノ骨盤外計測, 月經初潮及ビ閉止年齡, 並ニ其日本婦人トノ比較).

2653. 久保武: 朝鮮人ノ體質ノ人類學補遺. 【人類誌】30,4, 大4(1916).

2654. 河崎謙也: 臺灣生蕃人ノ一般ノ觀察. 【軍醫會】67, 大5(1916).

2655. —: 「パロン」山附近生蕃人ノ體格及ビ營養ノ概況ニ就テ. 【軍醫會】63, 大5(1916).

2656. —: 「パロン」附近生蕃人ノ體格及ビ營養狀態ニ就テ. (會). 【臺灣醫會誌】15,163-164, 大5(1916).

2657. 久保武: 道別ヨリ見タル朝鮮人ノ體格(會). 【朝鮮醫會誌】20, 大6(1917).

2658. Kubo, Takeshi: Beiträge zur physischen Anthropologie der Koreaner (Deskriptiver Teil.) [Mitt. med. Akad. Keijo.] 1, 大6(1917).

2659. 工藤貞雄: 南洋「ヤ、ブ」島島民生體計測. 【國家醫會誌】363, 大6(1917).

2660. 荒井惠: 再ビ臺灣人ノ體格ニ就テ(會). 【東京顯微鏡會誌】25,4, 大7(1918).

2661. 久保武: 朝鮮人ノ人類解剖學的研究. 【十全會誌】24,2, 大8(1919).

2662. 阮振鏞: 支那人ノ體格ニ就テ. 【南滿醫會誌】8,2, 大10(1921).

2663. 荒井惠: 臺灣人男子教員身體測定成績. 【臺灣醫會誌】20,215, 大10(1921).

2664. Kubo, Takeshi: Anatomisch-anthropologische Untersuchungen an Koreanern. [Mitt. med. Akad. Keijo.] 6, 大12(1923).

2665. 小川春, 朴昌薰: 宦官ノ研究(第一報). 【朝鮮醫會誌】48, 大13(1924).

2666. 八木金之丞: 臺灣人ニ見タル東洋流肝絞窄ノ二例. 附: 内地人ノ東洋流肝絞窄トノ比較. 【臺灣醫會誌】24,244, 大14(1925).

2667. 塚原義夫: 臺灣人及ビ臺灣在住内地人ノ頭顱竇ニ眼驗部測定成績. 【臺灣醫會誌】27, 281-283; 82,296; 29, 298, 301, 305, 307-309, 昭3-5 (1928-30).

2668. 張俊發: 高砂民族活體ノ鼻竇ニ口唇ノ形態學的研究. 【臺灣醫會誌】29,301,303; 32,335-336, 昭5-8(1930-33).

2669. 張俊發, 丸山一男: 高砂民族活體ノ耳鼻竇ニ口唇ノ形態學的研究及ビ人類學的研究(第二報). 【臺灣醫會誌】29, 昭5(1930).

2670. 小濱基次, 田邊秀久: 朝鮮平安南北道住民身體計測結果(會). 【解剖誌】4,4, 昭6(1931).

2671. 荒瀬進, 高半禮功: 朝鮮咸鏡南北道住民身體計測結果(會). 【解剖誌】4,4, 昭6(1931).

2672. 庄司忠, 竹尾宇平: 臺灣蕃族(「タイヤル」族)生體ノ骨盤計測. 【臺灣醫會誌】32,339, 昭8(1933).

2673. 丸山一男: 高砂民族ノ活體耳翼ニ就テノ人類學的及ビ形態學的研究(第二報). 【臺灣醫會誌】32,336-37, 昭8(1933).

2674. 末永保次: 朝鮮婦人ノ骨盤ニ就テ(第二報). 【臨床產婦人科】8, 昭8(1933).

2675. 清野謙次: 滿洲ノ古代住民ノ體質ト疾病及ビ風習ニ就テ(會). 【滿洲醫誌】19,2, 昭8

2676. 高半禮功: 支那人身體各部ノ相關關係ニ就テ. 【解剖誌】6,4, 昭8(1933).

9. 身長, 體重其他

2677. T. I.: 古今人ノ身長及ビ命數. 【北越醫會報】6, 明20(1887).

2678. 三輪徳寛: 衣服ノ重量. 【人類誌】3,28, 明21(1888). (體重ト衣服重量).

2679. —: 日本人ノ身長ト體重ニ差アルハ生活法如何ニ由ル説. 【人類誌】6,60, 明24(1891).

2680. —: 日本人各年齢體重ニ就テ. 【濟生學會醫報】4, 明26(1893).

2681. —: 年齢鑑定ノ一助トシテノ身長及ビ頭圍ニ就テ. 【國家醫誌】172, 明34(1901).

2682. 山田太頁: 身長ニ就テ. 【軍醫會】127, 明35(1902).

2683. 田上荒太郎: 體重ノ測定ニ就テ. 【嶺西醫報】76, 明36(1903).

2684. 鈴木孝之助: 體重ト身長トノ關係. 【保險醫誌】27, 明42(1909).

2685. 渡邊正永: 身長ト脚長トノ關係. 【軍醫會】7,10, 明42-43(1909-10).

2686. 田中徳次郎: 一日中ニ於ケル身長ノ増減ト選兵トノ關係. 【中央醫事】29, 明43(1910).

2687. 光武貞經: 一日間ニ於ケル體重ノ増減ニ就テ(綜). 【軍醫會】45, 大2(1913). (現役兵).

2688. 大浦俊男, 古川利三, 橋本敏文: 我教室屍體身長及ビ體重統計. 【福岡醫大誌】11,1, 大7(1918).

2689. 無名: 身長體重胸圍ノ對照. 附: レーンホフ氏係數ニ就テ. 【海軍醫誌】15, 大8-10(1919-21).

2690. 田原盛: 身長動搖ノ原因ニ就テ(會). 【同門會】23, 大11(1922).

2691. 庭瀬信太郎: 足長ト身長トノ關係. 【國家醫會誌】440, 大12(1923).

2692. 板澤政治: 推定體重算定法ニ就テ. 【保險醫誌】22, 大12(1923).

2693. 八木高次: 女工身體重ノ研究カラ得タ二三重要事項ニツキテ. 【勞働研究】1,3, 大13-14(1924-25).

2694. 合屋武城: 體重ニ關スル研究. 【學校衛生】5,11, 大14(1925).

2695. —: 身長ニ關スル研究. 【學校衛生】5, 12, 大14(1925).

2696. Yoshida, Yukinobu: On the develop-

ment of the body length, weight and circumference of head of the Japanese. [Jap. med. World] 6,10, 大15(1920).

2697. 吉田章信: 身長, 體重及ビ頭圍測定成績ノ綜合的觀察ニ基ク日本人身體發育ノ民族的固有性ニ就テ. 【醫公論】780,799, 昭2(1917).

2698. —: 日本人ノ身長, 體重及ビ頭蓋ノ發育ニ就テ. 【人類誌】42,12, 昭2(1927).

2699. 板澤政治: 日本人健康男子ノ體重ニ就テ. 【保險醫誌】26,132, 昭2(1927).

2700. 八木高次: 坐高ノ測定ト其ノ意義. 【勞働科學研究】5,3, 昭3(1928).

2701. 石橋無事: 受刑者ノ身長特ニ刑事探設學上ヨリ見タル兩者ノ關係ニ就テ. 【社會醫誌】495, 昭3(1928). (男子).

2702. 濱田俊三郎: 日本人ノ脈搏ト身長及ビ體重トノ關係(會). 【動物誌】44,503, 昭5(1930).

2703. Kanaseki, Takeo und Tabata, Takeo: Über die Körpergröße des Tsukumo-Steinzeitmenschen Japans. [Fol. anat. jap.] 8,3-4, 昭5(1930).

10. 體表面積

2704. 大谷國吉: 日本小兒ノ體表面積測定. 【東京醫會誌】21, 明40(1907).

2705. 渡邊正永: 人體ノ面積ニ就テ. 【中央醫事】29, 明43(1910).

2706. —: 人體ノ面積ニ就テ. 【第三回日醫會誌】明44(1911). (陸軍兵).

2707. —: 人體ノ面積ニ就テ. 【第三回日醫會誌】明44(1911).

2708. 高比良英雄: 日本人新陳代謝論(其二). 日本人體表面積ノ測定並ニ之ヲ表ス式ニ就テ. 【榮養研究所報告】1,1, 大14(1925). (成年男子).

2709. 武谷喜三次: 表面積率ノ批判. 【福岡醫大誌】22,6, 昭4(1929). (人).

2710. 新谷二郎: 本邦人ノ體表面積ニ就テ. 第一編. 體表面積ノ測定方法, 同算出式並ニ全體表面積ノ測定ト之ガ身長ニ對スル諸關係. 【國民衛生】8,3, 昭6(1931).

2711. —: 本邦人ノ體表面積ニ就テ. 第二編. 體表面積ノ左右ノ相違. 第三編. 身體各部ノ皮膚面積及ビ其ノ割合ト之ガ體性年齡別相違ニ就テ. 【國民衛生】8,4, 昭6(1931).

2712. —: 邦人ト白人トノ體表面積ヨリ觀タル體型ノ比較. 【國民衛生】8,4, 昭6(1931).

2713. 神保勝雄: 體表面積, 體重, 身長ノ實驗

的相關法式。【第4回體育研究會々誌】昭3(1933)。

11. 頭部, 頸部

- 2714. 前田不二三: 日本女子ノ唇ニ於ケル表出。【人類誌】17,195, 明35(1902)。
- 2715. 石田收藏, 松村 謙: 東京人類學會會員ノ頭蓋廣狹指示。【人類誌】22, 247, 明39(1906)。
- 2716. 鈴木文太郎: 我古代彫刻ニ於ケル希臘式側面線ニ就テ(會)。【京都醫誌】4, 明40(1907)。【佛像】。
- 2717. 井上通夫: 顔面破裂ノ本體ニ就テ(會)。【東京醫誌】1792, 大1(1912)。【人】。
- 2718. 久保 武: 鼻ノ人類學(綜)。【南洋醫會誌】1, 1, 大2(1913)。【朝鮮人】。
- 2719. 石川信男: 日本人ノ上眼窩眼瞼溝ニ就テ。【人類誌】32, 5, 大9(1918)。
- 2720. 大杉 清: 本邦人ノ口唇徑並ニ裂裂幅。附: 此ノ兩者ノ鼻徑ニ對スル一二ノ關係。【大日耳鼻】28, 1, 大11(1922)。
- 2721. 岡村 進: 頸圍ニ就テ。【保險醫誌】21, 5, 大11(1922)。
- 2722. 原 勇三: 斜頸。【臨醫研究】1, 昭2-9(1927-34)。
- 2723. 原 正: 日本人頭部長幅率ト年齡トノ關係ニ就テ(會)。【解剖誌】1, 1, 昭3(1928)。【犯罪者, 非犯罪者】。
- 2724. 石丸士郎: 表情(綜)。【金澤犯罪學】1, 1, 昭3(1928)。【表情ニツキ解剖學の説明】。
- 2725. 西成甫, 西謙一郎: 頤形成ニ關スル知見補遺。【解剖誌】1, 1, 昭3(1928)。
- 2726. 岩田惣七: Präauricularanhänge。【十全會誌】35, 2, 昭5(1930)。
- 2727. 平光吾一: 死刑囚ノ「トーンマスク」其腦及ビ體構ノ觀察。【犯罪學】5, 2, 昭9(1931)。
- 2728. 濱田宗之助: 尖塔頭ニ就テ。【臨床兒誌】6, 3, 昭7(1932)。【小兒】。
- 2729. 窪田圭一: 外鼻ノ計測的研究特ニ鼻中隔異形ト顔面骨格トノ關係ニ就テ。【耳鼻】5, 6, 昭7(1932)。
- 2730. 矢崎正方, 大谷軍一: 前齒前突ノ補綴學的矯正法ト顔面ノ變化。【齒學報】37, 6-7, 昭7(1932)。【顔貌無面觀ノ測定分類】。
- 2731. 平光吾一: 死刑囚ノ「トーンマスク」其腦及ビ體構ノ觀察。其二: 著大ナル頭部痕痕ヲ有スル死刑囚ノ「トーンマスク」其頭蓋骨及ビ其腦髓ニ就テ。【犯罪學】5, 4, 昭7(1932)。
- 2732. —: 左座金藏: 死刑囚ノ「トーンマ

スク」其腦及ビ體構ノ觀察。其四: 死刑囚犯罪ノ體構學的研究。【犯罪學】6, 1, 昭7(1932)。

2733. 左座金藏: 死刑囚ノ「トーンマスク」其腦及ビ體構ノ觀察。其四: 死刑囚犯罪ノ體構學的研究(二)。【犯罪學】7, 1, 昭8(1933)。

2734. —: 死刑囚ノ「トーンマスク」其腦及ビ體構ノ觀察。其四: 死刑囚犯罪ノ體構學的研究(三)。【犯罪學】7, 2, 昭8(1933)。

2735. —: 死刑囚ノ「トーンマスク」其腦及ビ體構ノ觀察。其四: 死刑囚犯罪ノ體構學的研究(四)。【犯罪學】7, 3, 昭8(1933)。

12. 胸圍, 胸廓, 胸部, 腹部, 腎部

- 2736. 林 五策: 尾骶部ニ突起アル人。【人類誌】17, 188, 明34(1901)。
- 2737. 野中完一: 人類尾骶骨部突出ノ一例。【人類誌】18, 200, 明35(1902)。
- 2738. 久保富次郎: 胸圍ノ増加ニ就テ。【兒童研究】9, 大4-5(19-1516)。【大連市小學生】。
- 2739. 三田谷啓: 胸廓ノ測定(裝置供電)(會)。【阪醫會誌】17, 10, 大7(1918)。
- 2740. —: 胸廓ニ關スル調査報告。【醫中央誌】17, 12, 大8(1919)。
- 2741. —, 島村育人: 胸廓ニ關スル調査。【阪醫會誌】19, 12, 大9(1920)。【大阪醫科大學生】。
- 2742. Hasegawa, Usaburo: On the special features of the shape of the chest of tubercular and healthy Japanese. 【Jap. med. World】5, 5, 大14(1925)。
- 2743. 合屋武城: 胸圍ニ關スル研究。【學校衛生】5, 10, 大14(1925)。
- 2744. 杉崎 浩: 航空勤務者選定上ヨリ觀タル肺活量ト體格ノ關係ニ就テ(會)。【軍醫測】157, 大15(1926)。
- 2745. 福井信立: 二千名ノ健康男子ニ就テ行ヒタル心窩搏動ノ統計的研究。【軍醫測】157, 大15(1926)。
- 2746. 山本幹雄: 骨盤計ヲ以テスル胸廓ノ測定ニ就テ(綜)。【軍醫測】159, 大15(1926)。
- 2747. 大串菊太郎: 胸圍殊ニ女子ノ胸圍。【保險醫誌】26, 135, 昭2(1927)。
- 2748. 村松秀雄: 胸圍測定ニ就テノ一ノ注意。【保險醫誌】26, 135, 昭2(1927)。
- 2749. 嘉悦三毅夫: 胸圍不足者ニ就テ。【軍醫測】165, 昭2(1927)。
- 2750. 小崎逸郎: 健康度トソノ胸廓ニ就テ。【軍醫測】183, 昭3(1928)。

2751. 岩崎衛二: 未成男子ノ胸圍分布ニ就テ。【日鐵道醫會誌】15, 4, 昭4(1929)。

2752. 河野通成: 臀部三角形。【日泌尿會誌】18, 9, 昭4(1929)。【人屍】。

2753. 大山稻三郎: 日本人ノ比胸圍ニ就テ。【保險醫誌】30, 155, 昭6(1931)。

2754. 溝淵岩夫: 本邦成人腹圍及ビ頭圍ノ測定ニ就テ。【保險醫誌】31, 5, 昭7(1932)。

2755. 竹内茂代: 胸圍不足者ノ體質ニ就テ(會)。【民族衛生】2, 4, 昭8(1923)。【302名】。

13. 上 肢

- 2756. 桑原下學, 足立一讓: 日本人ノ手及ビ前膊ノ長サニ就テ(第一報)。【中央醫事】20, 明43(1910)。
- 2757. 南 正夫: 生理的肘外彎ノ研究(第一報)。其ノ統計的觀察。【北越醫會誌】42, 5, 昭2(1927)。
- 2758. —: 生理的肘外彎ノ研究(第二報)。肘關節ヲ形成スル各骨骨端線ノ發現期並ビニ化骨期ニ就テノ線ノ檢索。【日整形會誌】3, 4, 昭4(1929)。
- 2759. 井伊義男: 「手」ノ解剖學的研究(綜)。【犯罪學】3, 3, 昭5(1930)。【手相】。
- 2760. 八木高次: 榮養標尺トシテノ上膊圍ノ意義並ニ其ノ規準ニツキテ(其一)。榮養尺トシテノ上膊圍ノ價值ニツキテ。【勞働研究】7, 2, 昭5(1930)。
- 2761. —: 榮養標尺トシテノ上膊圍ノ意義並ニ其ノ規準ニツキテ(其二)。日本人ニ於ケル皮下脂肪ノ發育ニツキテ日本人ニ對スル Oeder 氏脂肪法ノ批判。【勞働研究】7, 4, 昭5(1930)。
- 2762. —: 榮養標準尺トシテノ上膊圍ノ意義並ニ其ノ規準ニツキテ(其三)。上膊圍ガ榮養評價測定トシテ優レタル因由。【勞働研究】8, 4, 昭6(1931)。
- 2763. 森 優, 佐藤 忽: 本邦人(北九州)指長ニ就テ。【醫研究】6, 2, 昭7(1932)。

14. 生體骨盤

- 2764. 佐藤勳也: 日本婦人骨盤外徑測報告。【中央婦會誌】1, 3, 明36(1903)。
- 2765. —, 日本婦人貳百名ニ就テノ骨盤外徑測及ビ之ニ附隨シテ得タル一二ノ要領。【中央婦會誌】2, 1, 明37(1904)。
- 2766. 桐山實隆: 生體ニ於ケル骨盤出口ノ計測(會)。【近畿醫誌】1, 3, 大5(1916)。【女子】。
- 2767. 佐藤友定: 日支婦人ノ生體ニ於ケル骨

盤外計測ノ比較。【滿洲醫誌】5, 大15(1926)。【支那婦人 162名, 日本婦人 100名】。

2768. 柏原長弘: 初産婦ニ於ケル狹窄骨盤ノ意義(會)。【近畿醫誌】16, 1, 昭8(1933)。

15. 下 肢

- 2769. 鯉沼卯吉: 紡績及ビ紡績女工ノ扁平足。【醫海時報】1359, 大9(1920)。
- 2770. 庭瀬信太郎: 足長ト坐高。【國家醫誌】44, 大13(1924)。【10-35歳ノ女子】。
- 2771. 金井夏太郎: 本邦成人ノ足前方穹窿ニ關スルレントゲン學的研究。【日整形會誌】1, 1, 大15(1926)。
- 2772. 片山國幸, 秋田正洋, 野崎開知, 花岡堅吉: 日本人ノ足型(第一報)(會)。【日整形會誌】1, 1-2, 大15(1926)。
- 2773. 横倉誠次郎: 本邦成人内外兩長軸足穹窿ノ基準ヲ定メ扁平足ノ分類ニ及ブ。【日整形會誌】3, 昭3-4(1928-29)。
- 2774. 木村虎次郎: 扁平足ニ就テ。【海軍醫誌】19, 4, 昭5(1930)。
- 2775. —: 扁平足ニ就テ。【軍醫測】205, 昭5(1930)。
- 2776. 後藤壽作: 足蹠ノ大サヨリ其身長ヲ算出スル方法ニ就テ。【臺灣醫會誌】29, 昭5(1930)。【支那人417名, 日本人339名】。
- 2777. —: 足蹠ノ大サヨリ其身長ヲ計算スル方法(會)。【東京醫誌】2700, 昭5(1930)。
- 2778. 石原房雄: 内地及ビ米國ニ生育セシ日本種族ノ脚長ニ就テ。【東京顯微鏡會誌】38, 3, 昭6(1931)。
- 2779. —: 米國ニ生育セシ日本民族ノ壯丁體格(特ニ脚長ト坐高ニ就テ)。【民族衛生】1, 昭6(1931)。【ロシア人310名, ハワイ108名, シヤトル41名, 合計531名】。
- 2780. 後藤壽作: 足蹠ノ長サヨリ身長ヲ算出スル方法ニ就テ。【臺灣醫會誌】30, 313-314, 昭6(1931)。【日本人, 支那人】。
- 2781. 角田眞一: 足穹窿計測ニ就テ。【金澤解剖業績】2, 昭6(1931)。
- 2782. 石原房雄: 米國ニ生育セシ日本種族ノ終局體格(殊ニ坐居ガ脚長ニ及ボス影響)。【醫海時報】1917, 昭6(1931)。
- 2783. —: 内地及ビ米國ニ生育セシ日本種族ノ脚長ニ就テ(殊ニ坐居ガ脚長ノ發育ニ及ボス影響)。【顯微鏡】38, 昭6(1931)。
- 2784. —: 脚線美ト環境トノ關係。(綜)。【體性】18, 3, 昭7(1932)。【脚長ノ計測アリ】。

2785. 鈴木明: 足型ノ研究. 【軍醫報】242, 昭8 (1933). 【社丁】.

16. 動物ノ體質, 體重, 體長, 發育

2786. 伴仲藏: 生理的外貌ノ研究. 【陸軍獸醫報】46, 大2(1913). 【馬】.

2887. —: 馬體ノ對稱. 【陸軍獸醫報】53, 大2 (1913).

2788. 大串菊太郎, 富田明介: 家兎雌雄兩性ノ生物學的體質差異(會). 【阪醫會誌】16, 12, 大(1917).

2789. —, —: 「アドレナリン」糖尿ニ對スル家兎ノ雌雄兩性ニ於ケル體質ノ差異. 【阪醫會誌】16, 1, 大6(1917).

2790. —, —: 家兎ノ雌雄兩性ニ於ケル體質差異(第三報). 【阪醫會誌】17, 2, 大7(1918).

2791. —, —: 雌雄家兎ノ體質ノ差異(第四報)(會). 【阪醫會誌】17, 4, 大7(1918).

2792. 阿部留太郎: 健馬ノ胸腔打診界ニ就テ. 【陸軍獸醫報】130, 大9(1929).

2793. 富田明介: 生殖腺ノ體質トノ關係ニ就テ. 【阪醫會誌】23, 2-4, 大13(1924). 【家兎】.

2794. 高島廣: 軍馬ノ外貌ト能力トノ關係. 【陸軍獸醫報】291, 昭8(1933).

2795. 金谷復五郎: 朝鮮牛ノ體型ニ關スル生物測定學的研究(會). 【中央獸醫誌】46, 4, 昭8(1933).

2796. Tokuda, Mitosi (徳田御稔): On some Rats and Mice from the South Sea Islands. (1. Rattus concolor group.) 【Annot. zool. jap.】14, 1, 昭8(1933). 【Rattus exulans】.

2797. 宮城縣種馬所: 馬體重ト運動トノ關係. 【中央獸醫誌】18, 34, 昭8(1933).

2798. 九州種馬牧場: 種牝馬體重増減試驗(分娩前後ノ牝馬ノ體重ノ増減, 仔馬體重排泄物量等). 【中央獸醫誌】18, 8, 昭8(1933).

2799. 磯山謙太郎: 馬ノ體重ハ一日ノ間如何ニ變化スルカ. 【陸軍獸醫報】62, 大2(1913).

2800. 仁部富之助: 「スズメ」ノ體重ト心臓重(體). 【動物誌】29, 348, 大6(1917).

2801. 下田治郎: 我が騎兵隊馬ノ體長ニ就テ. 【陸軍獸醫報】177, 大13(1924).

2802. 杉山一郎: 我が隊馬ノ體重ニ就テ. 【陸軍獸醫報】186, 大14(1925).

2803. 小杉伊三郎: 雞ノ孵化中ニ於ケル重量ノ變化ニ就テ. 【中央獸醫誌】41, 昭3(1928).

2804. 杉浦義信: 氣象及ビ季節ガ幼若「ラツテ」ノ發育體重ニ及ボス影響ニ就テ. 【病理學紀要】9, 1, 昭8(1933).

2805. 妹尾秀實: 「クルマエビ」ノ生長度【動物誌】22, 256, 昭4(1910).

2806. 塚口利三郎: 家兎早期發育ニ關スル一二ノ知見(會). 【醫公論】14, 大1(1912).

2807. 楢洞眞澄: 昆蟲ノ發育ニ伴フ體温ノ變化ニ就テ(抄). 【動物誌】38, 457, 大15(1926). 【家蠶】.

2808. 徳永雅明: 家蠶(Bombyx Mori L.) 幼蟲期ニ於ケル頭部成長ニ關スル考察. 【動物誌】40, 476, 昭3(1928). 【國產支那種第107號】.

2809. 千田嘉八: 家鷄發育ニ伴フ「コレステリン」量ノ變化(會). 【解剖誌】1, 1, 昭3(1928).

2810. 小泉清明: 昆蟲ノ發育ニ及ボス大氣濕度ノ影響ニ關スル研究. 【動物誌】41, 488, 昭4(1929). 【豆象蟲】.

2811. 木暮橋太: 家鷄幼蟲ノ成長曲線ニ就テ【動物誌】41, 487, 昭4(1929).

2812. Koizumi, Kiyooki: Insect development as a hyperbolic function of atmospheric humidity. 【動物誌】41, 488, 昭4(1929). 【Bruchus obtectus (Say)】.

2813. 瀧巖: 「モノアラガヒ」(Lymanea(Radix) japonica Jay.) ノ成長ニ及ボス養水量ノ影響(會). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).

2814. Hiraiwa, Yoshikuni: A record of the growth of the Albino Rat reared in Japan. 【Fol. anat. jap.】7, 3, 昭4(1929).

2815. 八木誠政: 生長式ニ就テノ一例(抄). 【動物誌】41, 490-491, 昭4(1929).

2816. 箕浦忠愛: 珠數掛鳩ノ成長ニ關スル研究(抄). 【動物誌】44, 503, 昭5(1930).

2817. 大橋登志夫: 「カハニナ」(Thiala liberata) ノ成長曲線ニ就テ. 【動物誌】43, 515, 昭6(1931).

2818. 羽部義孝: 牛體發育ニ關スル函數研究. 【畜産試験場彙報】28, 昭7(1932).

II. 系統解剖學

1. 骨

1. 骨一般

2819. 福家梅太郎: 人骨研究. 【人類誌】1, 5, 昭19(1889).

2820. 細矢權吉: 所謂訓練骨ニ就テ. 【軍醫會】106, 昭32(1899).

2821. 久保武: 死體繼續骨格ニ就テ. 【醫新聞】711, 昭39(1906).

2822. —: 日本人ノ骨格調査(豫報)(會). 【中央醫會誌】71, 昭39(1906).

2823. 藤木廣: 稀有ナル骨硬化現象及ビ其X線像ニ就テ. 【福醫誌】8, 1, 大3-4(1914-15).

2824. Asada, Tameyoshi: Über die Entstehung und pathologische Bedeutung der im Röntgenbild des Röhrenknochens am Diaphysenende zum Vorschein kommenden "parallelen Querlinienbildung." 【Mitt. med. Fak. Fukuoka】9, 1, 大13(1924).

2825. 森田齊次: 骨格ノ變異ニ就テ. 【成醫會】44, 大14(1925). 【人】.

2826. 岡本規矩男: 骨格及ビ骨ノ性的差異(會). 【社會醫誌】491, 昭2(1927).

2827. 松島伯一: 男性日本人骨格ノ重量ニ就テ. 【醫研究】2, 4, 昭3(1928).

2828. 岡本規矩男: 骨格及ビ骨ノ性的差異(綜). 【兒學】2, 1, 昭4(1929). 【人】.

2829. 因幡丈夫, 岡本辰之輔, 關政則: 現代日本人ノ骨ノ身體各部ノ比例ニ就テ. 【人類誌】44, 9, 10, 昭4(1929).

2830. 金高勳次: 琉球國頭郡運天ニ於テ得タル現代沖繩人ノ骨ノ人類學的研究. 【人類誌】44, 8, 昭4(1929).

2831. 北條春光: 人骨鑑定例. 【兒學】4, 4, 昭6(1931).

2832. 松丸寛: 骨癒合ニ就イテ. 【愛知醫會誌】39, 3, 昭7(1932). 【人】.

2833. 小金井長精: 「アイヌ」ノ骨器標品ノ説明. 【人類誌】7, 7, 2, 昭25(1892).

2834. 三宅秀夫: 支那人骨格ノ人類學的研究(其一). 【南滿醫會誌】10, 5, 大11(1922).

2835. 西謙一郎: 薦前脊椎ト下肢骨トノ關係. 【解剖誌】1, 4, 昭4(1929). 【日本人其他】.

2836. 金高勳次: 濠洲人女性ノ一全身骨格ニ就テ. 【京都醫誌】26, 昭4(1929).

2837. 石澤命達, 關政則: 「ツングース」人男子全身骨格ノ一例ニ就テ. 1-3. 【人類誌】46, 4-6, 昭6(1931).

2838. 横尾安夫: Dajak 骨格ノ研究(第一報)(會). 【解剖誌】3, 3, 昭5(1930).

2839. —: Dajak 骨格ノ人類學的研究. 【人類誌】46, 10, 昭6(1931).

2840. 金關丈夫, 中野由巳: 完全ナル紅頭嶼男子全身骨格ノ一例ニ就テ. 【人類誌】45, 3-6, 昭5(1930).

2. 骨發育一般, 化骨一般

2841. 浮田友樹: 化骨時期ニ就テ(會). 【兒科誌】167, 大3(1914). 【生後5日乃至15年】.

2842. —: 化骨時期ニ就テ. 【第四回日本醫學會誌】大4(1915).

2843. Fujiki, Hiroshi: Über eine eigenartige Störung des Längenwachstums von Knochen und ihre seltenen Röntgenbilder. 【Mitt. med. Fak. Fukuoka】3, 2, 大6(1917).

2844. 高田義一郎: 月齡鑑別資料トシテノ胎兒ノ骨. 【京都醫誌】14, 5, 大6(1917).

2845. Takata, Giichiro: On the value of bones as diagnostic material of fetal age. 【Fol. anat. jap.】1, 1, 大11(1922).

2846. 西塚泰順: 胎兒及ビ初生兒ノ長管狀骨ノ容積並ニ重量ノ計測時ニ其ノ月齡鑑識上ノ價值. 【國家醫誌】44, 大13(1924).

2847. 鈴木諒爾: 種々ノ年齡ニ於ケル人體管狀骨ノ端部骨長徑成長. 【日外科會誌】25, 6-12, 大13-14(1924-25).

2848. 連水寅一: 化骨核ノ法醫學的觀察(會). 【社會醫誌】51, 昭4(1929). 【四肢化骨核ノレントゲン像】.

2849. —: 化骨核ノ法醫學的觀察(第一報). 化骨核ノ大サト年齡及ビ身長トノ關係ニ就テ. 【京都醫誌】27, 3-4, 昭5(1930). 【人】.

2850. 和田彌三郎: 先天性化骨不全症ニ就テ. 【日レントゲン會誌】8, 2, 昭5(1930). 【人】.

2851. 連水寅一: 化骨核ノ法醫學的觀察(會).

【社會醫誌】518, 昭5(1930).

2852. 粕川堅次: 掌指骨化骨核發育=關スルレ學的研究. 【實踐醫學叢書】15, 昭7(1932).

2853. 小川菊麿: 胎兒及ビ初生兒ノ身長ト長管狀骨トノ相關係數=就テ(會). 【社會醫誌】541, 昭7(1932).

2854. 服部彌二郎: 化骨ノ本態=就テ(會). 【日醫新報】535, 昭7(1932).

2855. 金子太郎: 先天性骨形成不全症ノ一例. 【日婦會誌】27,4, 昭7(1932). 【早產女兒】.

2856. 星直利: 朝鮮人ノ化骨期=就テ. 【實踐醫學】3,3, 昭8(1933).

3. 頭骨一般

2857. 小金井良精: 頭骨年齡鑑定. 【國政醫學誌】25, 明22(1889).

2858. 大澤岳太郎: 人工ノ頭蓋畸形. 【東京醫誌】667, 明24(1891).

2859. 鈴木文太郎: 頭骨=於ケル男女ノ特徵(會). 【國家醫誌】64, 明25(1892).

2860. 桑野禮治: タレネツキ教授ノ蝦夷頭蓋考. 【人類誌】14,161, 明32(1899).

2861. 足立文太郎: 本邦中國頭蓋(岡山頭蓋). 【人類誌】14,162, 明32(1899).

2862. 中野鑄太郎: 金澤醫學專門學校解剖學教室頭蓋標品測量報告(第一). 附: 異常頭蓋ノ一例(二分額頂骨). 【十全會誌】49, 明41(1908).

2863. —: 異常頭蓋ノ一例=就テ. 【十全會誌】52, 明41(1908).

2864. 富士川游: 頭蓋ト賢愚. 【人性】5, 1-5, 明42(1909).

2865. 小金井良精: 「クリブラ, クラニ」(會). 【東京醫誌】1714, 明44(1911).

2866. 中野鑄太郎: 日本人頭蓋計測(第一報). 【十全會誌】18,3-4, 大2(1913).

2867. —: 日本人頭蓋計測(第二報). 【十全會誌】18,9, 大2(1913).

2868. Koganei, Y.: Cribra cranii und Cribra orbitalia. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】10, 大2(1913).

2869. 小金井良精: 先史人類頭骨模型ノ「デモンストラチオン」. 【東京醫會誌】30,7, 大5(1916).

2870. 長谷部言人: 日本人頭蓋ノ地方的差異. 【人類誌】32,10, 大6(1918).

2871. 大西克知: 頭顱計測ノ成績. 【日眼會誌】23,10; 24,1,2,5, 大8-9(1919-20). 【1500名】.

2872. 三田谷啓: 兒童ノ頭顱測定成績. 【神經

誌】18,6, 大8(1919). 【5-12歳】.

2873. 原正: 犯罪者頭骨ノ長幅率及ビ地平周長=就テ. 【研瑛誌】149, 大9(1920).

2874. —: 死刑囚ノ頭骨及ビ腦=就テ(頭骨ノ部). 【國家醫會誌】398-402, 大9(1920).

2875. —: 犯罪者ノ頭骨=就テ. 【研瑛誌】151-153, 大9-10(1920-21).

2876. —: 犯罪者頭骨ト累犯數及ビ罪名. 【國家醫會誌】426-427, 大11(1922).

2877. 莊鳳四郎: 頭蓋底部レントゲン映像. 【醫中央誌】20,14, 大11(1922).

2878. 所敏一: 頭骨及ビ齒牙ノ肉眼的檢索法. 【齒新報】17, 大13(1924).

2879. 宮本博人: 現代日本人骨ノ人類學的研究. 第一部: 頭蓋骨ノ研究. 【人類誌】39, 10-12, 大13(1924).

2880. 岡島癸巳郎: 小兒頭蓋レントゲン像=就テ. 第一編: 正常小兒頭蓋レントゲン像ノ計測的研究. 【乳兒誌】1,1, 大15(1926). 【1-15歳迄 68人】.

2881. —: 小兒頭蓋レントゲン像=就テ. 第二編: 各種疾患小兒頭蓋レントゲン像ノ計測的研究. 【滿洲醫誌】4, 大14-15(1925-26). 【57例 61回ノ計測】.

2882. 大野六郎: 頭蓋骨計測成績. 【日眼會誌】30,7, 大15(1926).

2883. 安田正親: 健康ナル成年男子ノ頭徑並ニ其レントゲン寫眞ニ顯ルル土耳其鞍ノ形態. 【日レントゲン會誌】3,3, 大15(1926).

2884. 新川一二: 日本人頭蓋ノ重量=就テ. 【十全會誌】32,11, 昭2(1927).

2885. —: 日本人頭蓋重量=就テ追加. 【十全會誌】32,12, 昭2(1927).

2886. 清野謙次, 平井隆: 日本石器時代ノ穿顱頭蓋=就テ. 【人類誌】42,10, 昭2(1927).

2887. Hara, Sei: Über den Schädel eines Mikrokephalen. 【Fol. anat. jap.】5,1-2, 昭2(1927).

2888. 茂木藏之助: 頭蓋骨陷凹(Impression)=就テ. 【實驗醫報】14,163, 昭3(1928). 【小兒】.

2889. 古城九州男: 頭蓋骨一部缺損症(項談). 【耳鼻】1,10, 昭3(1928).

2890. 長谷部言人: 頭蓋頂部ノ起伏形成. 【解剖誌】2,2, 昭4(1929).

2891. 大槻嘉男: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其一). 頭蓋容積及ビ重量計測, 頭蓋長幅徑計測. 【十全會誌】35,1, 昭5(1930).

2892. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其二). 周徑及ビ弧長計測, 弦長計測.

【十全會誌】35,3, 昭5(1930).

2893. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其三). 腦頭蓋高徑及ビ角度=就テ. 【十全會誌】35,4, 昭5(1930).

2894. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其四). 腦頭蓋示數=就テ. 【十全會誌】35,9, 昭5(1930).

2895. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其五). 額面頭蓋長, 幅, 高徑=就テ. 眼窩, 眼窩間部計測. 【十全會誌】35,10, 昭5(1930).

2896. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其六). 鼻部計測, 上顎骨及ビ口蓋計測. 【十全會誌】35,12, 昭5(1930).

2897. —: 北陸日本人=於ケル腦頭蓋示數=就テ. 【解剖誌】3,3, 昭5(1930).

2898. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其七). 下顎骨計測, 齒牙=就テ. 【十全會誌】36,1, 昭6(1931).

2899. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其八). 額面頭蓋角度計測. 【金澤解剖業績】2, 昭6(1931).

2900. —: 北陸日本人ノ頭蓋=於ケル額面示數=就テ(會). 【解剖誌】4,4, 昭6(1931).

2901. 八田綱: 邦人頭蓋骨ノ研究(其一)(會). 【九大醫報】5,5, 昭6(1931).

2902. 小山菊麿: 胎兒及ビ初生兒ノ頭蓋骨計測. 附: 共ノ身長月齡認識上ノ價值. 【京都醫誌】29,2, 昭7(1932).

2903. 本田盛正: 北陸頭蓋ノ形狀(kranioskopische Typen)=就テ. 【金澤解剖業績】7, 昭7(1932).

2904. 椎名順二: 死刑囚骨格ノ觀察(額面頭蓋骨及ビ下顎骨)(會). 【九大醫報】6,6, 昭7(1932).

2905. —: 死刑囚骨格ノ觀察(腦頭蓋骨)(會). 【九大醫報】6,3, 昭7(1932).

2906. 原正: 額面頭蓋指數=就テ(會). 【解剖誌】5,7, 昭7(1932).

2907. —: 頭骨上面觀ノ左右不同=就テ(會). 【解剖誌】6,4, 昭8(1933). 【死刑囚ト非犯罪者】.

2908. 山崎清: 頭蓋, 下顎ノ重量並ニ下顎骨=於ケル齒部, 骨部ノ比較研究. 【日齒會誌】26,11, 昭8(1933).

2909. 河村榮太郎: 北陸小兒ノ人類學的研究(其三). 額面角度及ビ頭周徑. 【金澤解剖業績】14, 昭8(1933).

2910. Akabori, Eizo: Crania nipponica recentia. I. Analytical inquiries into the non-metric variations in the Japanese skull accor-

ding to age and sex. 【Jap. J. of med. Sci., I. Anat.】4,1, 昭8(1933).

2911. —: Additional notes on the cranial variations. 【Jap. J. of med. Sci., I. Anat.】4,1, 昭8(1933).

2912. 大槻嘉男: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其九). 額面頭蓋示數=就テ. 【金澤解剖業績】14, 昭8(1933).

2913. —: 北陸日本人頭蓋骨ノ人類學的研究(其十). 【金澤解剖業績】13, 昭8(1933).

顱門

2914. 尾方立實: 日本小兒ノ大顱門ハ生後幾ヶ月ニシテ閉鎖スベキカ. 【東京醫誌】1175, 明33(1900).

2915. Okamoto, Kikuo: Über den Rest der Fontanella metopica. Befunde bei Japanern. 【Fol. anat. jap.】5,3, 昭2(1927).

2916. 高階經世: 顱門ノ大サ=就テ. 【醫醫會誌】27,2, 昭3(1928).

2917. 横尾安夫: 腦頭蓋=見ラルル異常骨ノ二三=就テ(附顱門閉鎖期). 【解剖誌】1,3, 昭3(1928). 【日本人其他ノ成人及ビ小兒頭蓋】.

2918. 前山彦人, 井上一郎: 顱門ノ研究(會). 【同門會】40, 昭6(1931).

2919. 篠田秀男: 成熟兒ノ諸統計=關スル正常值特ニ顱門ノ大少=就テ(上,下). 【臨床產婦人科】6, 昭6(1931).

2920. 井上一郎, 前山彦人: 乳兒ノ大顱門並ニ頭型=就テ【同門會】44, 昭7(1932).

眼窩

2921. 足立文太郎, 藤澤宇源太: 本邦人眼窩調査. 【東京醫會誌】13,17-23, 明32(1899).

2922. 越智貞見: 眼窩ノ比較解剖. 【日眼會誌】21,11, 大6(1917). 【人】.

2923. 横松鴻: 稀有ナル眼窩骨壁缺損ノ一例. 【眼臨】20,4, 大14(1925). 【人】.

2924. 佐竹秀一: 胎兒及初生兒眼窩=就テ(會). 【朝鮮醫會誌】52, 大13(1924).

2925. Satake, Shuichi: Untersuchungen über die Orbita. I. Mitt. Über die Orbita des männlichen Koreaners. 【Mitt. med. Akad. Keijo】9,1-2, 大14(1926).

2926. —: Untersuchungen über die Orbita. II. Mitt. Beiträge zur Untersuchung über die Orbita der Japaner. 【Mitt. med. Akad. Keijo】10,1, 昭2(1927).

2927. Ono, Rokuro: Untersuchungen über die Orbita von Japanern. 【Jap. J. of med. Sci. I.

Anat.] 1,4. 昭2(1927).

鼻腔, 鼻部

- 2928. 細谷雄太: 胎兒及ビ初生兒ニ於ケル鼻腔並ニ副鼻腔ノ發生學乃至形態學ノ關係. 【第四回日本醫學會誌】大4(1915).
- 2929. 小金井真精: 鼻前窩ト鼻下窩 (Fossa praenasalis und Fossa subnasalis)(會). 【東北醫誌】10, (特), 昭2(1927). 【マレイ人, 朝鮮人, 日本人】.
- 2933. 二井一馬: 邦人頭蓋鼻上部ニツキテ. (會). 【東北醫誌】10 (別冊), 昭2(1927).
- 2931. 中村爲男: 軟骨性鼻中隔楔狀突起ニ就テ(會). 【東北醫誌】10, (別冊), 昭2(1927). 【人】.
- 2932. —: 日本人頭蓋鼻上部ニ就テ. 【金澤解剖業績】1, 昭3(1928).
- 2933. 宮城五山: 日本人ノ蝶竇開口及ビ上顎竇開口ニ就テ(會). 【耳鼻】1,9. 昭3(1928).
- 2934. 岡部常輔: 日本人鼻梨子狀孔下緣ニ就テ(會). 【九大醫報】3,5. 昭4(1929).
- 2935. 二井一馬: 梨子狀孔下緣ノ形態ニ就テ(會). 【解剖誌】2,2. 昭4(1929). 【人】.
- 2936. Nakamura, Tameo (中村爲男): Über den Processus sphenoidalis septi cartilaginei und die Cartilago vomeris (Zuckerkanndl). 【成醫會】昭5(1930).
- 2937. —: 日本人鼻ノ研究補遺(其二). 梨子狀孔ノ形狀ニ就テ. 【十全會誌】35,1. 昭5(1930).
- 2938. —: 日本人鼻ノ研究補遺(其三). 梨子狀孔ノ計測. 【十全會誌】35,2. 昭5(1930).
- 2939. —: 日本人鼻ノ研究補遺(其四). 梨子狀孔ノ下緣ニ就テ. 【十全會誌】35,4. 昭5(1930).
- 2940. —: 日本人鼻ノ研究補遺(其八). 鼻骨ノ隣接骨ニ對スル關係ニ就テ. 【金澤解剖業績】2. 昭6(1931).
- 2941. 山本 肇: 人類胎生期ニ於ケル上顎竇並ニ篩骨蜂巢ノ組織學ノ所見. 【大日耳鼻】37, 6. 昭6(1931).
- 2942. 岩松 喬, 相川春雄, 會木時夫: 鼻前頭管ノ形態學ノ研究. 【大日耳鼻】39,7. 昭8(1933). 【人】.
- 2943. 岩松 喬, 相川春雄, 愛甲時夫: 鼻前頭管ノ形態學ノ研究(會). 【耳鼻】6,4. 昭8(1933).

口蓋

- 2944. 小金井真精: 硬口蓋ノ解剖ニ就テ. 【東京醫會誌】7,11. 昭3(1893). 【人】.
- 2945. 足立文太郎: 硬口蓋ノ脈管溝(就中日本

人及ビ「アイノ」人)ニ就テノ略報. 【東京醫會誌】8,23-24. 昭27(1894).

- 2946. —: 硬口蓋ノ破格ニ就テ. 【東京醫會誌】9,17. 昭3(1895). 【人】.
- 2947. 加藤 享: 口蓋穹窿及ビ顔面頭蓋ノ骨計測. 【醫新聞】790. 昭42(1909). 【人】.
- 2948. 村上幸次: 本邦人硬口蓋ノ研究. 【大日耳鼻】31,3. 大14(1925).
- 2949. —: 口蓋隆線(會). 【東北醫誌】10, (特), 昭2(1927). 【人】.
- 2950. Murakami, K.: Die knöchernen Gaumen der Japaner. 【Arb. anat. Inst. Sendai】13. 昭3(1928).
- 2951. 大槻嘉男, 板橋秀太郎: 邦人口蓋縫合ニ就テ. 【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

縫合

- 2952. 小金井真精: 額骨縫合ニ就テ. 【東京醫會誌】4,13-14. 昭3(1896). 【人】.
- 2953. 佐藤敏夫: 各種ノ人種及ビ男女兩性ニ於テ遺殘物トシテ現ハルル乳頭鱗狀破裂及ビ前頭ノ縫合ニ就テ. 【大日耳鼻】9,1. 昭36(1930).
- 2954. 長谷部言人: 日本人頭蓋縫合調査(其一): 癒着ノ順序並ニ時期. 【京都醫誌】5,1. 昭41(1908).
- 2955. 井上通夫: 中間骨ト顔面破裂トノ關係(會). 【醫公論】14. 大1(1912).
- 2956. 坂口格太郎: Krönlein 氏手術式ニ據ル本邦人額骨前頭突起並ニ前頭骨額骨突起ノ解剖學的小調査. 【日眼會誌】17,6. 大2(1913). 【成人】.
- 2957. 井上通夫: 顔面ノ畸形(破裂)ノ本態ニ就テ(會). 【北越醫會誌】29,2. 大3(1914).
- 2958. —: 口脣額骨破裂及ビ斜走顔面破裂ノ本態ニ就テ. 【日新醫學】4,5. 大1(1915). 【人胎兒】.
- 2959. 宮村秀雄: 邦人前頭縫合ニ就テ. 【十全會誌】32,11. 昭2(1927).
- 2960. 問田亮次: 小兒期ニ於ケル額骨ノ急性化膿性炎. 【九大醫報】1,5. 昭2(1927). 【額骨及ビ齒牙ノ記載アリ】.
- 2961. 劉 曜 曠: 日本人ノ靜脈竇溝ニ就テ. 【滿洲醫誌】6,3. 昭2(1927).
- 2962. 村上幸次: 鼓上骨ニ就テ(會). 【耳鼻】1, 8. 昭3(1928).
- 2963. 横尾安夫: 頭蓋縫合ニ就テ. (解剖誌) 1,2. 昭3(1928). 【日本人, アイノ, 支那人】.
- 2964. 有馬純一: 耳鼻科領域ニ於ケル(副鼻腔

及ビ岩様部)レントゲン寫眞攝影法ト其ノ影像所見. 【レントゲン誌】1,1. 昭3(1928).

- 2965. 高木憲次: 畸形治癒兎骨ノ修正手術ヨリ見タル兎骨手術術式ニ就テ(綜). 【 Grenzgeb.】4,4. 昭5(1930).
- 2966. 松田長身: 下眼窩孔及ビ下顎孔ノ人種學的及ビ解剖學的研究. 【日齒會誌】23,1. 昭5(1930).
- 2967. 八田 綱: 邦人頭蓋骨ノ研究(中硬腦膜動脈溝ニ就テノ觀察)(會). 【九大醫報】6,6. 昭7(1932).

4. 人種頭骨

- 2968. 小金井真精: 「アイノ」人頭骨ノ毀傷痕. 【北越醫會報】8. 昭21(1888).
- 2969. 松本彦七郎: 「アイヌ」ノ鼻孔及ビ口蓋. 【動物誌】30,354. 大8(1919).
- 2970. 沈浩燮: 朝鮮人頭蓋測定ノ統計的觀察(第一報)(會). 【朝鮮醫會誌】13. 大3(1914).
- 2971. 壺岐幸藏: 朝鮮人頭蓋ノ耳鼻科領域ニ於ケル形態學的研究(一). 鼻骨, 口蓋骨, 篩骨. 【朝鮮醫會誌】39. 大15(1929).
- 2972. 壺岐幸藏, 南谷廣佛: 朝鮮人頭蓋ノ耳鼻科領域ニ於ケル形態學的研究(二). 額骨. 【朝鮮醫會誌】61. 大15(1929).
- 2973. 上田常吉: 朝鮮人頭骨ノ計測ニ就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 2974. Yatabe, Teikai: Ein konstantes Band, Ligamentum sphenopetrosum, bei den Koreanern. 【Keijō J. of Med.】3,2. 昭7(1932).
- 2975. 三枝正孝: 日本人頭蓋穹窿ノ支柱ニ就テ. 【東京醫會誌】47,3. 昭8(1933).
- 2976. 平井 隆: 滿洲海城々外ニテ發掘セル一滿洲人頭蓋骨ノ人類學的研究. 【十全會誌】33, 6. 昭3(1928).
- 2977. 鳥五 郎: 撫順郊外ニテ得タル頭蓋骨ノ人類學的研究(第一報). 【人類誌】48,8. 昭8(1933).
- 2978. 中野鑄太郎: 北京及ビ庫倫ニテ得タル頭蓋骨ノ統計. 【十全會誌】25,11. 大9(1929).
- 2979. 宋振東: 支那人頭蓋骨ニ於ケル導血管ニ就テ. 【滿洲醫誌】15. 昭5(1930).
- 2980. —: 支那人頭蓋骨ニ於ケル導血管ニ就テ. 【滿洲醫誌】15,3. 昭6(1931).
- 2981. 足立文太郎: 臺灣蕃人頭蓋. 【人類誌】22,252-255. 昭40(1907).
- 2982. Tsusaki, Takamichi: Some abnormalities in the skull of a Formosan aborigine. 【Fol.

anat. jap.】1,5. 大12(1923).

- 2983. —: Über das Nasenskelet bei den eingeborenen Formosanern (Seiban). 【Mitt. med. Akad. Keijo】7,2. 大13(1924).
- 2984. 塚原義夫: 臺灣人及ビ臺灣在住内地人ノ頭蓋並ニ眼瞼部測定成績(會). 【臺灣醫會誌】29,299. 昭5(1930).
- 2985. 小金井真精: 一個ノ「オロツコ」人頭骨ニ就テ. 【人類誌】7,75. 昭25(1892).
- 2986. 田島應親: 佛領新加列士尼島ニ於テ拾收シタル頭骨ニ關スル説明. 【人類誌】14,156. 昭32(1899).
- 2987. 青木純造: 「バプアン」人ノ頭蓋骨. 【人類誌】15,174. 昭33(1900).
- 2988. 鳥居龍藏: コエツエ氏著「フィリッピン」頭蓋圖譜. 【人類誌】20,231. 昭38(1905).
- 2989. 久保 武: 露人ノ頭骨ニ就テ(會). 【中央醫會誌】71. 昭39(1906).
- 2990. 松本彦七郎: 濠洲「タルガイ」ノ化石人頭骨. 【人類誌】33,5. 大7(1918).
- 2991. 田幡丈夫: 「イゴロツト」族頭蓋骨ノ一例. 【人類誌】44. (附錄), 昭4(1929).
- 2992. 進藤篤一: インマニエル・カントノ頭蓋ノ話(會). 【九大醫報】4,6. 昭5(1930).
- 2993. 清野謙次, 喜々津泰胤: 「ウイグル」人ト稱スル頭蓋骨ノ人種的觀察. 【人類誌】46,8. 昭6(1931).
- 2994. Ueda, Tsunekichi: Physisch-anthropologische Untersuchung über den Schädel der ostasiatischen Völker. I. Mitt. 【Keijō J. of Med.】2,1. 昭6(1931). 【Koreaner: 5158, 9140, Formosa-chinesen: 549, 920】.

5. 頭骨各論

後頭骨

- 2995. 小金井真精: 「アイノ」人頭蓋骨後頭孔損傷ノ說. 【北越醫會報】12. 昭21(1888).
- 2996. —: 「アイノ」人頭骨後頭孔損傷ノ說追加. 【中外醫事報】243. 昭23(1890).
- 2997. 鈴木文太郎: 「アイヌ」人種後頭孔ノ切痕ハ又日本人種ノ頭骨ニ見ルヲ得ルカ. 【東京醫會誌】7,24. 昭3(1893).
- 2998. 大澤岳太郎: 後頭骨項線ニ就テ. 【東京醫會誌】7,1. 昭26(1893).
- 2999. —: 後頭骨項線. 【濟生學會醫報】2. 昭26(1893).
- 3000. —: 後頭骨基礎部ニ就テ. 【東京醫會誌】8,14. 昭27(1894).

- 3001. 堀 泰二: 後頭骨=於ケル異常=就テ. 【十全會誌】29,8-11. 大13(1924).
 - 3002. —: 後頭骨=於ケル種々ナル異常=就テ(會). 【十全會誌】29,7. 大13(1924).
 - 3003. Hori, T.: Über die Anomalien des Hinterhauptbeines. 【Fol. anat. jap.】3,6. 大14(1925).
 - 3004. 堀 泰二: Waldeyer 氏ノ乳頭後突起=就テ. 【十全會誌】32,10. 昭2(1927).
 - 3005. —: 邦人ノ大後頭孔=就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
 - 3006. Oku, M.: Obstetrical significance of abnormal occipital squama in fetus. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】12,3, 13,3. 昭4(1929-30).
 - 3007. 金關丈夫: 朝鮮人頭蓋骨=於ケル著大ナル傍乳頭突起 (Processus paramastoideus) ノ一例. 附: 日本人頭蓋骨=於ケル傍乳頭突起=就テ. 【解剖誌】3,1. 昭5(1930).
 - 3008. 忽那將愛, 榎本秀雄: 日本人ノ裸狀管並=舌下神経管=就テ. 【京府醫大誌】4,6. 昭5(1930).
- 楔 状 骨
- 3009. 大澤岳太郎: チキニニ, 氏孔. 【東京醫會誌】8,7. 明27(1894).
 - 3010. 鈴木文太郎: 頭蓋咽頭管. 【東京醫會誌】8,19. 明27(1894).
 - 3011. 田口和美: 人類ノ楔状骨=於ケル古來未說ノ一孔=就テ. 【中外醫事報】423. 明30(1897).
 - 3012. —: 人類ノ楔状骨=於ケル古來未說ノ一孔=就テ. 【東京醫誌】1023-23. 明30(1897).
 - 3013. —: 牀狀眼動脈孔(人類ノ楔状骨=於ケル古來未說一孔)ト眼動脈ノ關係=就テ. 【東京醫誌】1637-39. 明30(1898).
 - 3014. —: 牀狀眼動脈孔(人類ノ楔状骨=於ケル古來未說ノ一孔)ト眼動脈ノ關係=就テ. 【東京醫會誌】12,3. 明31(1893).
 - 3015. —: 牀狀眼動脈孔(人類ノ楔状骨=於ケル古來未說ノ一孔)ト眼動脈ノ關係=就テ. 【中外醫事報】430-31. 明31(1893).
 - 3016. 足立文太郎: 田口博士ノ人類楔状骨=於ケル古來未說ノ孔. 【東京醫會誌】11,24. 明30(1897).
 - 3017. 福井剛之助: 蝶骨竇ノ外科的解剖(會). 【京都醫誌】5,2. 明41(1908).
 - 3018. 吉永虎雄: 副鼻腔ノ研究. 日本人=於ケル蝶骨竇ノ解剖學的研究. 【東京醫會誌】29,6. 大4(1915).
 - 3019. —: 副鼻腔ノ研究. 日本人=於ケル蝶

- 骨ノ解剖學的研究. 【廣西醫報】159. 大4(1915).
 - 3020. 種村 式: 「トルコ」鞍X線影像ノ研究. 【中央醫會誌】28,3. 大10(1921).
 - 3021. Takagi, Kenji: Über die Deutung und Messung röntgenologischen Schattens des Türkensattels und der in seiner Nähe sich zeigenden Schatten. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】32, 2. 大14(1925).
 - 3022. 中村 康: 視神経管及び其周圍ノ解剖學的研究並=視神経管レントゲン線寫眞撮影法=就テ. 【日眼會誌】31,11. 昭2(1927).
 - 3023. 宇田川與三郎, 高梨貞夫: 土耳其鞍ノ發育並=蝶骨後頭骨癒合期=關スルレントゲンの觀察(論). 【耳鼻喉】1,3. 昭3(1928).
 - 3024. 佐々木秀實, 島崎敏雄: 頭部卵圓孔ノレントゲン考察. 【レントゲン會誌】5,4. 昭3(1928).
 - 3025. 岩田惣七: 翼棘孔 (Foramen pterygospinosum, Civinini) 並=翼狀孔 (Foramen crotaphiticobuccinatorium, Hyrtl) (Canaliculi sphenoidales) =就テ. 【十全會誌】35,8. 昭5(1930).
 - 3026. —: 楔状骨小管 (Canaliculi sphenoidales) =就テ. 【十全會誌】35,8. 昭5(1930).
 - 3027. 木下政市: 尋常少年及ビ保護少年=於ケル土耳其鞍ノ比較的研究. 【日醫大誌】3,10. 昭7(1932).
 - 3028. 岩佐健次, 勝屋弘弼, 藤野守次: パセドウ氏病患者=於ケル土耳其鞍ノ統計的觀察. 【日分内泌誌】8,2. 昭7(1932). (トルコ鞍ノ撮影法及ビ測定法アリ).
 - 3029. 三枝正孝: 日本人頭蓋骨=於ケル三叉神經壓痕, 卵圓孔及ビ正圓孔ノ外科的解剖學的研究補遺. 【東京醫會誌】47,11. 昭8(1933).
 - 3030. 原 正: チキニニ, 氏孔=就テ. 【解剖誌】6,4. 昭8(1921). (死刑囚, 非犯罪者, 猿).
- 側 頭 骨
- 3031. 岡田和一郎: 顳骨ノ外科學的耳科學解剖=就テ. 【東京醫誌】1113-24. 明32(1899).
 - 3032. 菊池循一, 吉永虎雄: 本邦人顳骨ノ耳科外科的解剖. 附: 中耳周壁=於ケル特發的骨質=就テ. 【大日耳鼻】13,4-5. 明40(1907).
 - 3033. 金杉英五郎: 乳嘴部ノ普通解剖並=解剖的畸形. 【成醫月報】322. 明41(1908). (人).
 - 3034. 佐藤敏夫: 日本人ノ乳嘴破裂遺殘=就テ. 【醫新聞】790. 明42(1909).

- 3035. 高橋研二: 顳骨ノ標本供覽. 【醫新聞】867. 大1(1912).
- 3036. 岩田 一: 危險性顳骨=就テ. 【大日耳鼻】19,1. 大2(1913).
- 3037. 佐藤敏夫: 日本人及ビ「アイヌ」ノ顳骨乳嘴部. 【大日耳鼻】29,2. 大12(1923).
- 3038. 山口 競: 金屬鑄型=依ル日本人乳嘴竇及ビ迷路ノ形態的研究. 【大日耳鼻】29,6. 大13.
- 3039. Inumaru, Harumi: Über das Foramen mastoideum. 【Fol. anat. jap.】3,4-5. 大14(1925). (60 Schädel).
- 3040. 沈相尺: 鮮人顳骨=就テ(會). 【朝鮮醫會誌】58. 大14(1925).
- 3041. 森川政二: 副乳嘴突起=就テ. 【大日耳鼻】31,3. 大14(1925). (哺乳類).
- 3042. —: 顳骨乳嘴部ノ形態學的研究. 【大日耳鼻】31,3. 大14(1925). (支那人).
- 3043. —: 急性乳嘴蜂窠炎ノ成立=關スル解剖學的研究. 【大日耳鼻】32,2. 大15(1926). (支那人).
- 3044. 加藤繁三: 異常室狀突起ノ二例=就テ. 【大日耳鼻】33,11. 昭3(1928). (人).
- 3045. 葛目玄吉: 顳骨X線寫眞撮影法(會). 【耳鼻喉】1,9. 昭3(1928).
- 3046. 義江義雄: 顳骨岩様部就中迷路ノレントゲン立體寫眞撮影法(會). 【耳鼻喉】1,9. 昭3(1928).
- 3047. 下田伯一: 顳骨ノ組織解剖學的研究(其一). 顳骨岩様部ノ組織解剖學的研究. 【大日耳鼻】35,3. 昭4(1929). (人).
- 3048. 岩田惣七: 邦人顳骨ノ研究(第一報). 顳骨鱗=就テ. 【十全會誌】34,3. 昭4(1929).
- 3049. —: 邦人顳骨ノ研究. 顳骨乳嘴部=就テ. 【十全會誌】34,5. 昭4(1929).
- 3050. —: 邦人顳骨ノ研究. 顳骨鱗狀部膜面=於ケル中硬腦膜動脈溝=就テ. 【十全會誌】34,10. 昭4(1929).
- 3051. —: 邦人顳骨ノ研究. 顴弓 (Arcus zygomaticus) ノ形態學的並=人類學的研究. 【十全會誌】35,3. 昭5(1930).
- 3052. —: 邦人顳骨ノ研究. 邦人外聽孔ノ人類學的研究. 【十全會誌】35,10. 昭5(1930).
- 3053. —: 邦人顳骨ノ研究. 顳骨鱗ノ人種解剖學的研究. 【十全會誌】35,10. 昭5(1930).
- 3054. Yamashita, Kenji: Über die Schläfenbeinzellen. I. Die Porosität des mazerierten Schläfenbeins. 【Fol. anat. jap.】9,3-4. 昭6(1931).

- 3055. 大川 環: 乳嘴突起ノ一異型. 【大日耳鼻】37,5. 昭6(1931). (人).
- 3056. 岩田惣七: 邦人顳骨ノ研究. 顳骨錐體部=就テ. 【金澤解剖雜誌】2. 昭6(1931).
- 3057. —: 岩様櫛 (Crista petrosa) =就テ. 【金澤解剖雜誌】3. 昭6(1931). (人).
- 3058. —: 邦人下顎關節窩=就テ. 【金澤解剖雜誌】3. 昭6(1931).
- 3059. —: 邦人顳骨破裂ノ解剖學的知見. 【金澤解剖雜誌】3. 昭6(1931).
- 3060. —: 鼓骨鐮窩=就テ. 【金澤解剖雜誌】3. 昭6(1931). (人).
- 3061. 義江義雄: 聽器ノレントゲン學的研究. 【大日耳鼻】37,12. 昭7(1932). (人).
- 3062. Yamashita, Kenji: Die Schläfenbeinzellen. 【Arb. III. anat. Inst. Kyoto】Ausserserielle Monographie 1. 昭7(1932).
- 3063. 山下憲治: 顳骨蜂窠ノ研究(會). 【耳鼻喉】5,6. 昭7(1932).
- 3064. 下田伯一: 顳骨ノ組織解剖研究(第二篇). 顳骨含氣蜂窠ノ被覆組織及ビ被覆組織ト含氣蜂窠發育狀態トノ關係=就テ. 【大日耳鼻】38,1. 昭7(1932). (人).
- 3065. —: 顳骨ノ組織解剖學的研究(第三篇). 顳骨錐體尖端部ノ微細構造殊=錐體尖端部=於ケル骨鐮窩=就テ. 【大日耳鼻】39, 12. 昭8(1933).
- 3066. 義江義雄: 顳骨錐體部ノレントゲン寫眞供覽(會). 【耳鼻喉】6,6. 昭8(1933).
- 3067. 西村市次郎: 本邦人=於ケル顳骨含氣蜂窠ノ發現及ビソノ解剖學的研究. 【レントゲン會誌】11,1. 昭8(1933).
- 3068. 足立文太郎: 顳骨ノ前頭線=於ケル突起=就テ. 【東京醫會誌】10,20. 明29(1896). (人).
- 3069. 大槻嘉男: 邦人ノ Foramen parietale =就テ. 【十全會誌】38,8. 昭8(1933).
- 3070. 足立文太郎: 滑車棘=就テ. 【東京醫會誌】9,5. 明28(1896). (人).
- 3071. 國友 鼎: 前頭竇=就テ. 【東京醫會誌】21,15. 明40(1907). (人).
- 3072. —: 前頭竇=就テ. 【研瑛誌】81. 明40(1907). (人).
- 3073. 本多 稔: 本邦人ノ前額竇ノレントゲン線の考察(雜). 【レントゲン會誌】6,3. 昭3(1928).

3074. 戸井田登：支那人ノ前頭竇ニ就テ。【滿洲醫誌】19,4. 昭5(1933)。〔X線的研究。支那人391名〕。

3075. 大槻嘉男：邦人滑車棘ニ就テ。【人類誌】48,10. 昭8(1933)。〔主トシテ北陸人〕。

3076. 大澤岳太郎：人體ノ篩骨甲介。【東京醫會誌】7,1. 明2(1893)。

3077. 吉田義治：篩狀板後境界ノ形態ニ就テ。【中央眼報】20,5. 昭3(1928)。〔人〕。

3078. 廣瀬金之助：篩狀板ノ形態並ニ其左右ノ差異(會)。【解剖誌】2,2. 昭4(1929)。〔人〕。

3079. Tsusaki, Takamichi: Über das Tränenbein der eingeborenen Formosaner. [Fol. anat. jap.] 2,3. 大13(1924)。

3080. 田邊秀久：朝鮮人涙骨ニ就テ。【解剖誌】3,3. 昭5(1930)。

3081. 劉曜蟻：鼻骨ノ人類學的研究。【滿洲醫誌】3,3. 大14(1925)。〔支那人〕。

3082. 二井一馬：日本人鼻ノ研究補遺(其五)。鼻骨計測ニ就テ。【十全會誌】35,7. 昭5(1930)。

3083. —：日本人鼻ノ研究補遺(其六)。鼻骨彎曲(Nasenbeinkrümmung)。【十全會誌】35,10. 昭5(1930)。

3084. 菊地循一郎：上顎竇解剖的研究。(會)。【醫新聞】661. 明37(1904)。〔人〕。

3085. —：上顎竇解剖學的研究(會)。【東京醫誌】1356. 明37(1904)。〔人〕。

3086. 吉永虎雄：日本人ニ於ケル上顎竇ノ解剖的研究。【東京醫會誌】23,11. 明41(1909)。

3087. —：日本人ニ於ケル上顎竇ノ解剖的研究。【東西醫報】123. 明42(1909)。

3088. 金杉英五郎：上顎骨竇瘰裂ニ就テ。【醫新聞】790. 明42(1909)。〔人〕。

3089. 鈴木督：中隔ヲ有スル上顎竇著膿症ノ一例。【醫新聞】774. 明42(1909)。〔上顎竇瘰裂例〕。

3090. 新井春治郎：上顎竇ト齒根トノ關係(會)。【東京醫誌】1709. 大1(1912)。〔人〕。

3091. 吉永虎雄：副鼻腔ノ研究。再ビ日本人ニ於ケル上顎竇ノ解剖的研究。【東西醫報】168. 大5(1916)。

3092. —：副鼻腔ノ研究。再ビ日本人ニ於ケル上顎竇ノ解剖的研究。【東京醫會誌】30,16. 大5(1916)。

3093. 久保雅之吉：透影法ニヨル上顎竇ノX光線検査法(會)。【九大醫報】1,4. 昭2(1927)。

3094. 林 禮：門齒槽局所解剖所見(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928)。〔人〕。

3095. 松田夏身：大口蓋孔ノ人類學の並ニ解剖學的研究。【日齒會誌】23,9. 昭5(1930)。

3096. 西才藏：日本人胎兒ニ於ケル上顎竇ノ形態。【熊本醫會誌】9,12. 昭5(1933)。

3097. 山川強四郎：人體上顎透明標本供覽(會)。【耳鼻】6,7. 昭8(1933)。

3098. 大槻嘉男：邦人下眼窩孔ニ就テ。【十全會誌】38,8. 昭8(1933)。

3099. 長谷部言人：分裂顎骨ノ一異型。附：Arcus maxillotemporalis infrajugularis, Gruber. =就テ。【京都醫誌】5,4. 明41(1908)。〔人〕。

3100. 三宅秀夫：支那人ノ分裂顎骨。【南滿醫會誌】9. 大10(1921)。

3101. Tsusaki, Takamichi: Über das Jochbein der eingeborenen Formosaner (Seiban). [Fol. anat. jap.] 1,4. 大11(1922)。

3102. 鈴村小三郎：分裂顎骨ニ就テ。【十全會誌】27,11. 大11(1922)。〔人〕。

3103. 二井一馬：分裂鼻骨(Os nasale bipartitum)ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931)。〔人〕。

3104. 實島源一：東洋人種下顎骨形狀ニ就テ。【日齒會誌】大6(1917)。

3105. 宮田 進：先天性下顎及ビ下唇正中破裂兼舌繫帶過短症。【日整形會誌】1,1-2. 大15(1926)。

3106. 堀 泰二：頰孔ニ就テ。【十全會誌】32,11. 昭2(1927)。〔人〕。

3107. 西謙一郎：下顎骨體ノ外形ニ就テ。【東北醫會誌】10. 昭2(1927)〔日本人, アイノ, 支那人, 朝鮮人, ダヤーク其他〕。

3108. 松田夏身：頰孔位置ノ齒牙ニ對スル人類學的研究。【日齒會誌】22,8. 昭4(1929)。

3109. 山田越二：邦人ノ Torus mandibulae (下顎隆起)ニ就テ。【醫新報】22,2. 昭4(1929)。

3110. 松田夏身：日本人小兒頰孔ノ形態學の並ニ解剖學的研究(會)。【日齒口會誌】38. 昭5(1930)。

3111. —：頰孔注射問題ノ人類學の並ニ解剖學的研究。【日齒會誌】24,1. 昭6(1931)。

3112. 本田秀實：本邦人下顎縫合機轉ニ關スルニ線解剖學的研究。【レントゲン會誌】9,1.

11,3. 昭6-8(1931-33)。

3113. 島 五郎：朝鮮人墳墓骨ノ頰形成ニ就テ。【解剖誌】4,7. 昭6(1931)。

3114. —：現代朝鮮人下顎骨計測。【人類誌】47,1. 昭7(1932)。

3115. 照内 昇：下顎レントゲン像ノ分析。【齒月報】12,3. 昭7(1932)。

3116. 赤堀英三：複頰孔。【人類誌】48,2. 昭8(1933)。

3117. 向野範次, 高山久三郎：下顎骨ノ形態學的研究(第一報)。顎舌骨溝ノ形態學的研究(會)。【東京醫誌】2816. 昭8(1933)。

3118. 高山久三郎：下顎骨ノ形態學的研究。顎舌骨溝ノ形態學的研究。【口整會誌】5,7. 昭8(1933)。

3119. —：人類下顎骨ノ形態學的研究。顎舌骨溝ノ形態ニ就テ(會)。【日齒口會誌】50. 昭8(1933)。

3120. 宮下公平：支那人下顎骨ノ研究(其一)。頰孔ニ就テ。【滿洲醫誌】19,2. 昭8(1933)。

6. 胸 骨

3121. 奥田是一郎：脊柱ノ破格一肋骨ノ増刺。【愛知醫專同窓誌】14. 明37(1904)。

3122. 久保武, 松井保彦：脊柱ノ破格一肋骨ノ減殺。【愛知醫專同窓誌】15. 明38(1905)。

3123. —, 松岡保彦：脊柱ノ破格一肋骨ノ減殺一肋骨ノ分岐。【愛知醫專同窓誌】16, 18. 明38-40(1905-07)。

3124. —：肋骨及ビ胸骨ノ異常。【愛知醫專同窓誌】19. 明40(1907)。

3125. —：脊柱, 肋骨ノ數ノ異常及ビ身體諸臟器測定成績。【第二回聯合醫學會誌】明40(1907)。

3126. 新井春次郎：二三ノ破格(胸骨ニ連接スル肋骨, 肋骨間ノ關節)(會)。【東京醫誌】1694. 明43(1910)。

3127. —：胸廓ニ就テ。【成醫月報】466. 大13(1924)。

3128. 深田實一：兵員胸廓横断面ニ關スル研究。【海軍醫誌】47. 大14(1925)。

3129. 清川安彦：乳幼兒ノ肋骨下弓, 腸骨構距離。【兒童研究】36,7. 昭7(1922)。(480例)。

3130. 田口和美：胸椎ノ増刺ニ依ル肋骨ノ破格ニ就テ。【濟生學會醫報】7. 明26(1893)。

3131. —：胸椎ノ増刺ニ起因セル肋骨ノ破

格ニ就テ。【東京醫誌】796, 797, 801. 明26(1893)。

3132. 森田滋賀彦：口蓋扁桃腺内ニ延長セル第一頸椎横突起ノ畸形ノ一例。【朝鮮醫會誌】4. 大2(1913)。

3133. 森田齊次：椎骨棘狀突起ノ方向及ビ形狀ヲ定ムル因子ニ就テ。【第四回日本醫會誌】大4(1915)。(家兔)。

3134. 神戸正一：第五腰椎ノレントゲン像ニ就テ。【醫新聞】929. 大4(1915)。

3135. 熊谷用藏：鹿骨最終棘狀突起ト尾骶骨尖端トノ距離小統計。【軍醫副】66. 大5(1916)。

3136. Jinnaka, Seiichi: On the fifth lumbar vertebra of adult in radiograph. [Mit. med. Fak. Tokyo] 15,2. 大5(1916)。

3137. 森田滋賀彦：截肢畸形ノ一例。【山田誌】16. 大6(1917)。

3138. 福本軍醫：ヤコビー線上ニ於ケル日本人腰椎ノ高サニ就テ(抄)。【海軍醫誌】38. 大11(1922)。

3139. 中村復一郎：所謂リチャード氏病。【慶應醫學】3,4. 大12(1923)。(第五腰椎横突起)。

3140. 伊藤久治：日本人及ビ歐洲人間ニ於ケル椎體ノ高サト彎曲度トノ關係(抄)。【日外會誌】24. 大12-13(1923-24)。

3141. —：脊柱軟骨部ニ於ケル合成的彈性係數ニ就テ其ノ實驗的研究。【福岡醫大誌】17,12. 大13(1924)。

3142. Tsusaki, Takamichi: Über den Atlas und Epistropheus bei den eingeborenen Formosanern. [Fol. anat. jap.] 2,4. 大13(1924)。

3143. 西謙一郎：脊椎骨ノ形態學的及ビ量的相互關係ニ就テノ研究。【千葉醫會誌】3,1. 大14(1925)。

3144. 林 禮：頸椎ノ破格ノ一例ニ就テ(會)。【東北醫誌】10. 昭2(1927)。

3145. 早野常雄：胸腰境界部ニ於ケル椎骨ノ形態の並ニ臨床的考察。【レントゲン會誌】5,4. 昭3(1928)。

3146. 小室吉郎：先天性薦骨缺損症。【病理治療】3. 昭4(1929)。

3147. 堀田慎之：腰薦部疼痛患者ノ腰薦椎骨レ線立體的觀察。【レントゲン會誌】7,1. 昭4(1929)。

3148. 柳澤信賢：胸椎「カリエス」ヲ疑惑セル先天性脊柱側彎症ノ一例。【臨床兒誌】3,2. 昭4(1929)。(小兒)。

3149. 林 辯：腰薦部レントゲン解剖學的研究補遺特ニ第五腰椎ニ就テ。【千葉醫會誌】

7,12. 昭4(1929). [人].

3150. —: 腰薦部椎骨異常ニ對スル二三ノ考察. [日レントゲン會誌] 8,1. 昭5(1930). [人].

3151. 岡本規矩男: 第七頸椎ニ於ケル尖端孔 Foramen apicale = 就テ. [十全會誌] 35,10. 昭5(1930). [人].

3152. 神中正一, 孟憲蓋, 王延綱: 載域及ビ樞軸レ線像ノ研究. [日整形會誌] 5. 昭5(1930). [人].

3153. —, —: 載域樞軸捻轉角度ノレ線判定=就テ. [日整形會誌] 5. 昭5(1930). [人].

3154. 杉下秀一: 脊椎骨異常ノ二三例=就テ. [螢光] 5,5. 昭6(1931).

3155. 日比正志: 現代北陸日本人ノ椎骨=就テ. [金澤解剖業績] 6. 昭6(1931).

3156. 福元登: レ線像ニ現ハレタル腰薦部骨格異型ト其臨床的意義ニ關スル統計的研究. [日レントゲン會誌] 8,5. 昭6(1931).

3157. 堀田慎之: 健康者腰薦椎骨ノレ線立體觀察知見(續). [日レントゲン會誌] 9,1. 昭6(1931).

3158. 渡邊太郎: 腰椎橫突起ノ異常. [順天堂醫誌] 558. 昭7(1932). [人].

3159. 日比正志: 北陸日本人薦骨ノ Sulcus praenauricularis = 就テ. [金澤解剖業績] 9. 昭7(1932).

3160. —: 北陸日本人ノ薦骨截痕(Incisura sacralis, sacral notch) = 就テ. [金澤解剖業績] 9. 昭7(1932).

3161. —: 北陸日本人薦骨ノ梨子狀窩(Fovea piriformis) = 就テ. [金澤解剖業績] 9. 昭7(1932).

3162. —: 第六頸椎ニ於ケル尖端孔=就テ. [金澤解剖業績] 9. 昭7(1932). [北陸人].

3163. —: 北陸日本人ノ薦骨關節面以外ニヨル薦骨ト腸骨トノ關節面=就テ. [金澤解剖業績] 9. 昭7(1932).

3164. 現代北陸日本人ノ椎骨=就テ(續報). 其五: 全椎骨ノ數=就テ. [金澤解剖業績] 10. 昭7(1932).

3165. 堤直温: ラグビー選手ノ頸椎=就テ. [日整形會誌] 7. 昭7(1932).

3166. 福崎恒忠: 支那人ノ薦骨及ビ薦骨後窩=就テ. [滿洲醫誌] 18,3. 昭8(1933).

3167. 長谷部言人: 湖南發見ノ所謂原始人類薦骨=就テ. [人類誌] 30,12. 大4(1916).

3168. 松本彦七郎: 河南薦骨ニ對スル長谷部

博士ノ評論=就テ正誤ス. [人類誌] 31,3. 大5(1917).

3169. 長谷部言人: 河南薦骨=就テ松本理學士ノ注意ニ答フ. [人類誌] 31,5. 大5(1917).

3170. 松本彦七郎: 河南薦骨ニ對スル長谷部博士ノ所説ヲ論難ス. [人類誌] 31,6. 大5(1917).

3171. 長谷部言人: 三タビ河南薦骨=就テ. [人類誌] 31,8. 大5(1917).

3172. 坂本武司: 鮮人薦骨ノ計測(會). [朝鮮醫會誌] 47. 大13(1924).

3173. 西謙一郎: 日本人「アイヌ」其他二三民族ノ第七頸椎橫突起ノ前結節=就テ. [人類誌] 41,5. 大15(1926).

3174. 柴田至: 朝鮮人ノ薦骨=就テ(會). [臺灣醫會誌] 29. 昭5(1930).

3175. —: 朝鮮人薦骨骨盤面ノ一小窩=就テ(會). [解剖誌] 3,3. 昭5(1930).

3176. 新藤省三: 「アイヌ」人體質ノ研究(其六). [人類誌] 45,10. 昭5(1930). [棘狀突起ノ形態及ビ其ノ傾斜].

3177. —: 「アイヌ」人頸椎棘狀突起ノ形態=就テ(抄). [九大醫報] 4,5. 昭5(1930).

3178. 柴田至: 現代朝鮮人薦骨ノ人類學的研究. [京城醫事紀要] 1,4. 昭6(1931).

3179. —: 朝鮮人薦骨彎曲=就テ(會). [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

3180. 福崎恒忠: 支那人薦骨及ビ薦骨後窩=就テ. [滿洲醫誌] 18. 昭8(1933). [231例].

3181. 川口利次: 朝鮮人尾閶骨研究. [解剖誌] 6,9. 昭8(1933). [生體及ビ屍體].

3182. 安西茂太郎: 學童脊柱ノ彎屈=就テ. [國家醫誌] 282. 明43(1910).

3183. 長谷部言人: 日本人ノ脊柱=就テ(會). [東京醫誌] 1714. 明44(1911).

3184. —: 日本人脊柱=就テ補遺(會). [北越醫會誌] 29,6. 大3(1914).

3185. 佐野武男: 脊椎彎曲及ビ運動. [醫新聞] 938. 大4(1915). [人].

3186. 伊藤久治: 脊柱生理的彎曲ノ成立=就テ(第一報)(會). [東京醫誌] 2231. 大10(1921). [人].

3187. Iijima, H.: Deformity of the vertebral column, and its treatment, and a new corset made of bamboo. [Jap. med. World] 2,3. 大11(1922). [脊柱ニ關スル記載アリ].

3188. 三好益來: 頸椎後彎ハ果シテ病的ナリヤ. [日整形會誌] 3. 昭3(1928).

3189. 齋藤一男: 先天性脊椎側彎症 17 例. [日整形會誌] 3. 昭3(1928).

3190. 新井春次郎: 脊柱ノ側彎=就テ(會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928).

3191. 神中正一: 脊椎變形. [東京醫誌] 2616. 昭3(1928). [人].

3192. —: 脊椎畸形. [日整形會誌] 4,1. 昭4(1929). [人].

3193. 東陽一: 幼若者脊柱ノレ線側面像ニ現ハレル椎體高溝像=就テ. [日整形會誌] 4,3. 昭4(1929). [人].

3194. 名倉重雄: 脊柱彎曲ノ正常及ビ病的限界(上,下)(會). [學校衛生] 10,10-11. 昭5(1930). [日整形會誌參照].

3195. 水町四郎: 所謂 seitliche Deviation d. Wirbelsäule. = 就テ(報). [日レントゲン會誌] 9,1. 昭6(1931). [人].

3196. Toyoda, Junji: Über den sakrokokzygealen Übergangswirbel bei den Japanern. [Fol. anat. jap.] 4,1. 大15(1926).

3197. Nisi, Ken'ichiro: Pri la spondilolizo de la 5-a lumbovertebro de Ajnoj. [Fol. anat. jap.] 4,2. 大15(1926).

3198. Toyoda, Junji: Über den lumbosakralen Übergangswirbel bei den Japanern. [Fol. anat. jap.] 5,1-2. 昭2(1927).

3199. Nishi, Kenichiro: Beiträge zum Studium der Präsakralwirbel bei verschiedenen Menschenrassen. [Fol. anat. jap.] 6,1-2. 昭3(1928).

3200. Buto, Tomotaro: Die Formverhältnisse der 6-wirbeligen Kreuzbeine bei den Japanern. [Fol. anat. jap.] 10,2. 昭7(1932).

3201. —: Über einige Formverhältnisse bei den Sakralisationsvorgängen im Japaner-Kreuzbein. [Fol. anat. jap.] 10,2. 昭7(1932).

3202. 戸野京造: 脊椎破裂症實驗. [東京醫誌] 579. 明23(1889). [人].

3203. 住田正雄: 稀有ナル脊椎破裂症ノ一例. [神誌] 3,5. 明37(1904). [女兒].

3204. 中山茂樹: 薦腰部脊椎破裂ノ二例特ニ脊體重複構成及ビ畸形腫ノ混合=就テ. [順天堂醫誌] 481,490. 大2(1913). [人].

3205. 本山仲久: 「スボンデロリジス」ノ成因=就テ(抄). [九大醫報] 4,2. 昭5(1930). [人胎兒100例].

3206. —: 胎生學的研究ニ因ル脊椎分離發

生論. [日整形會誌] 5. 昭5(1930). [人].

3207. —: 脊椎分離ノ組織學的檢查所見. [日整形會誌] 6,2. 昭6(1931). [人].

3208. —: 腰椎分離ノ生體レ線攝影法並ニ組織標本供覽(會). [東京醫誌] 2713. 昭6(1931). [人].

3209. 泉源吉: レントゲン像ニ依リテ見タル日本人胎兒脊柱骨骨核=就テ(會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928).

3210. —: 本邦人胎兒ノ脊柱化骨ニ關スルレントゲン解剖學的研究. [解剖誌] 2,5. 昭4(1929).

3211. 本山仲久: 胎兒脊柱ノレントゲン像供覽(抄). [九大醫報] 3,5. 昭4(1929).

3212. 浪越康夫: 椎體發育層ニ於ケル化骨間隙ノ研究. [福岡醫大誌] 23,5. 昭5(1930).

3213. —: 脊椎椎體骨端發育ニ關スル研究. [福岡醫大誌] 23,5. 昭5(1930).

3214. 奥山美雄: 本邦人肋骨及ビ胸骨ノ生長並ニ化骨ト諸種疾患トノ相互的關係. [新潟病理解報] 20. 昭6(1931).

3215. 金澤哲郎: 脊椎骨梁ト化骨間隙トノ關係(會). [東京醫誌] 2813. 昭8(1933).

3216. 加藤俊男: 脊椎及ビ椎間軟骨ノ發育=就テ(抄). [慶應醫學] 13,12. 昭8(1933). [人].

3217. 池龜祐藏: 頸肋骨ノ實驗. [金澤醫會誌] 3,22. 明24(1891). [人].

3218. 大澤岳太郎: 第一肋骨ノ破格. [東京醫會誌] 7,18. 明26(1893). [人].

3219. 村田醇: 頸肋骨ノ一例. [軍醫雜] 19. 明43(1910). [人].

3220. 齋藤勝壽: 內乳動脈ノ結紮部位並ニ過剩肋軟骨=就テ(第二報)(會). [東京醫誌] 1714. 明44(1911). [人].

3221. —: 內乳動脈結紮ニ於ケル二ノ注意及ビ過剩肋軟骨ノ一例. [第三日本醫會誌] 明44(1911). [人].

3222. 阿部實夫: 頸肋骨ノ一例(會). [臺灣醫會誌] 12,131. 大2(1913). [人].

3223. 新井春次郎: 胸骨性肋骨及ビ肋軟骨間關節. [成醫月報] 391. 大3(1914). [人].

3224. 三田吉藏: 頸肋骨供覽(抄). [北越醫會誌] 30,1. 大4(1915). [人].

3225. 木村茂太郎: 肋骨異常(肉叉狀分岐)患者供覽(抄). [北越醫會誌] 31,3. 大5(1916). [人].

3226. 村松篤治: 頸肋骨ノ二例. [實驗醫報] 3,

36. 大6(1917). [人].

3227. 瀨木嘉一: 頸肋骨ノ二例(抄). [醫新聞] 990. 大7(1918). [人].

3228. 工藤得安: 肋骨及ヒ肋軟骨ノ分岐ニ就テ. [北越醫會誌] 33.4. 大7(1918). [人].

3229. 桑原準治: 頸肋骨ノ一例. [研基誌] 145. 大8(1919). [人].

3230. —: 頸肋骨ノ一例. [海軍醫誌] 25. 大8(1919). [人].

3231. 新井春次郎: 肋骨, 胸骨端ノ分裂ニ就テ. [成醫會] 44. 大14(1925). [人].

3232. 池田三千敏: 肋骨畸形ニ就テレントゲン研究. [醫新聞] 1194. 大15(1926). [人].

3233. 小林 滋: 肋軟骨化骨状態ノレントゲン學的觀察. [十全會誌] 32.3. 昭2(1927). [人].

3234. 池田三千敏: 肋骨畸形ノレントゲン的研究(第二報). 附: 其ノ分類ニ就テ. [醫新聞] 1239. 昭3(1928). [人].

3235. 佐野 好: 「アイヌ」人體質ノ研究(其五). [人類誌] 45.7. 昭5(1930). [肋骨分岐ノ一例].

3236. 杉山九一: 過剩胸骨性肋骨ノ成立ニ就テ(抄). [解剖誌] 4.4. 昭6(1931). [人].

3237. 宮崎松記: 肋軟骨外科ノ解剖學的病理學的及ヒ臨床學的研究. [日外資] 9.3. 昭7(1932).

3238. 池田武雄: 人體肋骨肋軟骨接合部ノ年齡的, 組織學的變化ニ就テ. [成醫會] 304. 昭7(1932).

3239. 日比正志: 現代北陸日本人ノ肋骨ニ就テ. [金澤解剖業績] 8. 昭7(1932).

3240. 堀 泰二: 邦人胸骨ニ就テ. [金澤解剖業績] 1. 昭3(1928).

3241. 杉山九一: 本邦人及ヒ臺灣人ノ胸骨ニ就テ(抄). [解剖誌] 2.2. 昭4(1929).

3242. 岩藤夏秋: 先天性胸骨破裂症ノ一例. [Grenzgeb.] 4.9. 昭5(1930). [人].

3243. 宮崎松記: 胸骨化骨ノレントゲン學的研究. [日外資] 7. 昭5(1930). [年齡生後1ヶ月10日ヨリ62年マデ].

3244. —: 先天性胸骨破裂症ノ一例. [Grenzgeb.] 5.5. 昭6(1931). [朝鮮人].

3245. 柴田 至, 麻生公一: 現代朝鮮人胸骨ノ人類學的研究. [京城醫專紀要] 2.4. 昭7(1932).

7. 四肢骨

3246. 小金井夏精: 「アイノ」ノ四肢骨ニ就テ. [東京醫會誌] 4.17. 明23(1890).

3247. —: 「アイノ」人四肢骨ニ就テ. [人類誌] 5.53. 明23(1890).

3248. 福岡 章: 四肢骨營養孔ノ位置. [人類誌] 15.165. 明32(1899). [人].

3249. 小金井夏精: 四肢長骨中部横斷形(會). [東京醫誌] 1714. 明44(1911). [アイヌ].

3250. 金子魁一: 肢骨缺損. [醫新聞] 906. 大3(1913).

3251. 北村義雄: 乳兒長管骨ノレントゲン像ニ就テ(會). [兒科誌] 378. 昭6(1917).

3252. 安藤守元: 日本人(成年)四肢骨ノ計測ニ就テ. [國家醫會誌] 434-435. 大12(1923).

3253. 浮田友樹: 再ビ手根足根骨化骨期ニ就テ. [レントゲン會誌] 1.1. 大12(1923). [人].

3254. 西塚泰順: 胎兒初生兒骨格ノ形態學的研究. 特ニ胎兒初生兒四肢骨人類學的研究. [近畿醫誌] 6.2. 大12(1923). [胎兒, 初生兒, 小兒8歳迄].

3255. 淺田爲義: 四肢管狀骨骨幹端ニX線像ニ現ハルル並行横線ノ發生並ニ其ノ意義. [福岡醫大誌] 18.4. 大14(1925).

3256. 深堀清彦: 邦人四肢管狀骨々端化骨期ニ就テ. [成醫會] 44. 大14(1925).

3257. 野崎公義: レントゲン像ニ依リテ見タル日本人胎兒並ニ初生兒ノ上下兩肢骨端化骨核並ニ手根及ヒ足根骨化骨核ノ出現狀態ニ就テ. [醫研究] 1.1. 昭2(1927).

3258. 古家一成: 本邦人胎兒四肢骨ノ發生並ニ發育ニ就テレントゲン解剖學的研究. [熊本醫會誌] 7.6. 昭6(1931).

3259. 藤澤剛一: 小兒四肢骨ノレントゲン研究. [臨床兒誌] 5.7. 昭6(1931).

3260. 横尾安夫: Daijak 骨格ノ研究(第二報). 四肢骨(抄). [解剖誌] 4.4. 昭6(1931). [男女26體].

3261. 名倉省三: 四肢長骨ノ重量ノ比例ニ就テ(抄). [解剖誌] 4.4. 昭6(1931). [日本人, 支那人, 朝鮮人, アイヌ及ヒ類人猿].

3262. —: 日本人四肢長骨ノ長經ニ對スル中央周經指數ニ就テ. [東京醫會誌] 47.1. 昭8(1933).

8. 上肢骨

3263. 深堀清彦, 鈴木拓三: 日本人小兒ノ肘關節ヲ組立タル骨ノ化骨期並ニ發育狀態ニ就テレントゲン研究. [中外醫事報] 1060-106

1. 大13(1924).

3264. Miyamoto, Hirondo: Morphologische Untersuchung über die Querschnitte der Röhrenknochen der rezenten Japaner. I. Morphologische Untersuchung über die Querschnitte der Knochen der oberen Extremität. [Acta Scholae med. Kioto] 7. 大13-14(1924-25).

3265. 宮本博人: 現代日本人骨ノ人類學的研究. 第二部: 上肢骨ノ研究. [人類誌] 40. 6-8. 大14(1925).

3266. 高橋善雄: 現代朝鮮人上肢骨ノ人類學的研究. [解剖誌] 4.2. 昭6(1931).

3267. 岩本嘉文: 上肢長骨ニ於ケル原始髓腔ノ形成ニ就テ. [解剖誌] 4.3. 昭6(1931). [胎兒].

3268. Hasebe, K.: Ein Beitrag zum Rassenunterschied der Scapula (mit Rücksicht auf die Scapula der Steinzeitmenschen Japans). [Arb. anat. Inst. Sendai] 6. 大10(1921). [Steinzeitmenschen, Aino, Formosaner, Koreaner, Chinese, Japaner, Europäer usw.]

3269. 池田三千敏: 鎖骨ノ一畸形ニ就テ. [醫新聞] 1193. 大15(1926). [人].

3270. 葛谷信夫: 日本人肩胛骨窩縁ノ人種解剖學的所見. 附: 肩胛骨計測. [十全會誌] 32.11. 昭2(1927).

3271. 長谷部言人: 肩胛骨ノ人類學的研究(會). [東北醫誌] 10. 昭2(1927).

3272. 椎野輝太郎, 中山雄一: 支那人骨格ノ人類學的研究. 其四: 肩胛骨及ヒ鎖骨. [滿洲醫誌] 8.1. 昭3(1928). [男性, 骨格228體].

3273. 菊山貞一: 鎖骨發育及ヒ其結核性疾患. [千葉醫會誌] 7.12. 昭4(1929). [人].

3274. 西郷一恵: 本邦人肩峰突起化骨機轉ニ就テレントゲンの檢索. [日外資] 8.5. 昭6(1931). [年齡最低生後3月, 最高24年].

3275. 高橋善雄: 現代朝鮮人上肢骨ノ人類學的研究. 其二: 肩胛骨. [京城醫專紀要] 1.7. 昭6(1931).

3276. 齋藤義直: 北陸日本人上肢骨ノ人種解剖學的研究. (其一). 鎖骨ニ就テ. [金澤解剖業績] 2. 昭6(1931).

3277. —: 肩胛骨截痕ニ就テ(北陸日本人ニ於ケル所見). [金澤解剖業績] 14. 昭8(1933).

3278. —: 肩胛骨脊椎緣ノ形狀特ニ所謂 Scapuloide Form ニ就テ. [金澤解剖業績] 15. 昭8(1933). [人].

3279. 小金井夏精: 上肢骨ノ捻轉. [濟生學會醫報] 2. 明26(1893). [日本人, アイヌ].

3280. —: 上肢骨ノ捻轉ニ就テ. [北越醫會報] 58. 明26(1893). [アイヌ, 日本人].

3281. —: 上肢骨ノ捻轉ニ就テ. [東京醫會誌] 7.1. 明26(1893). [人].

3282. 金子治郎: 上肢骨上腕突起ノ「デモンストラチオン」. [十全會誌] 3. 明30(1897). [人].

3283. 吉永虎雄: 上腕滑車上孔ニ就テノ一小報告. [俱西醫報] 128. 明43(1910). [人].

3284. 小金井夏精: 滑車上孔ニ就テ. [東京醫會誌] 29.4. 大4(1915). [人].

3285. Aguila, P.: On the appearance of the Processus supracondyloideus among the Japanese. [Arb. anat. Inst. Sendai] 10. 大13(1924).

3286. 長澤 剛: 上肢ノ種々ナル位置ニ於テ肩胛關節部ノレントゲン像ニ現ハルル上肢骨ノ解剖的關係. [レントゲン會誌] 1.2. 大13(1924). [人].

3287. 忽那將愛: 上肢骨頭ノ形態. [解剖誌] 2.3. 昭4(1929). [人].

3288. 宮村正治: 日本人ノ上肢骨ニ就テ. [解剖誌] 1.4. 昭4(1929).

3289. 柴田 至, 高橋善雄: 朝鮮人ノ滑車上孔ニ就テ. [解剖誌] 2.6. 昭5(1930).

3290. 齋藤義直: 北陸日本人上肢骨ノ人種解剖學的研究. 其二: 上肢骨ニ就テ. [金澤解剖業績] 5. 昭6(1931).

3291. 金川顯雄: 成人ニ於ケル上肢骨ノ獨立遊離骨核ニ就テ. [北越醫會誌] 47.15. 昭7(1932).

3292. 中臺元治: 日本人ニ於ケル上肢骨上腕突起ニ就テ. [熊本醫會誌] 8.2. 昭7(1932).

3293. 高橋善雄: 現代朝鮮人上肢骨ノ人類學的研究. 其三: 上肢骨. [京城醫專紀要] 2.5. 昭7(1932).

3294. 高田 壽: 先天性左右橈骨缺損ノ一例. [東京醫誌] 1079. 明31(1898). [人].

3295. 近藤次繁: 橈骨ノ先天性缺損. [醫新聞] 588. 明34(1901). [人].

3296. 三宅秀夫: 支那人骨格ノ人類學的研究(其二). 前腕骨. [滿洲醫會誌] 12.9. 大13(1924).

3297. 高橋善雄: 現代朝鮮人上肢骨ノ人類學的研究. 其四: 橈骨. [京城醫專紀要] 2.7. 昭7(1932).

3298. 齋藤義直: 北陸日本人上肢骨ノ人種解剖學的研究. 其三: 橈骨ニ就テ. [金澤解剖業績]

3299. 織] 7. 昭7(1932).

3300. —: 北陸日本人上肢骨ノ人種解剖學的研究. 其四: 尺骨ニ就テ. 【金澤解剖業績】 10. 昭7(1932).

3301. —: 橈骨結節ノ發育程度ト其ノ位置. 【金澤解剖業績】 15. 昭8(1933). [人].

3302. 松浦和一郎, 檜物一三, 人見太郎: 剣道専門家ニ見タル鷹嘴突起棘 (Olecranon-sporn) ノレ線像ニ就テ. 【日整形會誌】 8, 1. 昭8 (1933).

3303. 朝長乾造: 先天性食指缺損ノ稀有ナル一例. 【研球誌】 43. 昭4(1901). [人].

3304. Adachi, Buntaro u. Adachi, Yaso: Die Handknochen der Japaner. (Anatomische Untersuchungen an Japanern. VII) 【Mitt. med. Fak. Tokyo】 6. 昭30-38(1903-05). [25 erwachsene Japaner, 10 erwachsene Europäer].

3305. 藤原剛一: 手根骨ノ化骨ニ就テレントゲン學ニヨレル研究. 【中外醫事報】 779. 大1(1912).

3306. 深堀清彦: 日本人小兒ノ手根骨化骨期並ニ發育狀態ニ就テレントゲン研究. 【成醫月報】 478. 大13(1924).

3307. 小田正晴: 手根骨, 掌骨, 指骨ノ化骨ニ就テ. 【兒科誌】 318. 大15(1926). [生後15日ヨリ14歳ノ健康兒].

3308. 中山雄一: 支那人骨格ノ人種學的研究. 其三: 手骨. 【滿洲醫誌】 7. 昭2(1927). [117體234手ノ掌骨及ビ指骨].

3309. 藤本澄: 小指中節形成不全症ニ就テ. 【滿洲醫誌】 8. 昭3(1928). [50餘例ノX線検査; 遺傳的關係].

3310. 浮田友樹, 幡井軒二: 支那人小兒ノ手根骨化骨期ニ就テ. 【滿洲醫誌】 10, 2. 昭4(1929). [生體 X 線検査].

3311. 藤本澄: 支那人小兒ノ指骨及ビ掌骨ノ骨端核化骨期ニ就テ. 【滿洲醫誌】 10, 2. 昭4(1929). [生體 X 線検査].

3312. 浮田友樹, 幡井軒二: 支那人小兒ノ手根骨化骨期ニ就テ. 【滿洲醫誌】 10. 昭4(1929). [生後19日ヨリ14年6ヶ月マデ; 200例 X 線検査].

3313. 新妻錦: 拇指伸筋附着部ノ異常型. 【九大醫報】 4, 4. 昭5(1930).

3314. 連水實一: 化骨核ノ法醫學的觀察(第二報). 化骨核ノ大サト性別トノ關係並ニ學齡兒童手部諸骨核ノ發育狀態ニ就テ. 【京都醫誌】 27, 8. 昭5(1930).

3315. 里見義一: 成人人體手関節部レ線像研究. 【日整形會誌】 6. 昭6(1931).

3316. —: 手腕部位骨像ノ特異變化ニ就テ. 【日整形會誌】 6. 昭6(1931). [人].

3317. 木下政市: 尋常少年及ビ保護少年ノ手部化骨核發育狀態ノ比較的研究. 【日醫大誌】 3, 12. 昭7(1932).

3318. 連水實一, 木下政市: 學齡兒童掌指骨端化骨核ノ左右的發育關係ニ就テ. 【京都醫誌】 29, 12. 昭7(1932).

3319. 里見義一: 成人人體手関節部レ線影響ノ研究. 【日整形會誌】 7, 1. 昭7(1932).

3320. 鳥五郎: 朝鮮人手骨ノ研究(手根骨ヲ除ク). 【人類誌】 47, 9. 昭7(1932).

3321. 星直利: 朝鮮人小兒ノ化骨ニ就テ(第一報). 1. 手根骨ノ化骨期並ニ手根部 X 線像ヨリ見タル小兒癩毒及ビ佝僂病ニ就テ. 【臨床兒科誌】 6, 3. 昭7(1932).

3322. —: 朝鮮人小兒ノ化骨期ニ就テ. (其二). 朝鮮人小兒ノ指骨及ビ掌骨々端核ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】 23, 3. 昭8(1933).

3323. 横倉誠次郎: 三指骨ヨリ成レル拇指ノ一例. 【海軍醫誌】 22, 1. 昭8(1933). [人].

3324. 齋藤義直: 北陸日本人上肢骨ノ人種解剖學的研究(其五). 腕骨ニ就テ. 【金澤解剖業績】 13. 昭8(1933).

3325. —: 北陸日本人上肢骨ノ人種解剖學的研究(其六). 掌骨及ビ手指骨ニ就テ. 【金澤解剖業績】 14. 昭8(1933).

9. 下肢骨

3326. Shiino, Kotaro: Über das Unterextremitätenskelett. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】 15, 2. 大5(1916). [48 europäische, 93 japanische Extremitätenskelette. u. a.].

3327. 推野鐸太郎: 下肢諸骨ノ靜力學的研究. (會). 【臺灣醫會誌】 17, 182-183. 大7(1918). [歐西人, 日本人].

3328. 深堀清彦: レントゲン影像上ニ於ケル股關節構成骨ノ化骨發現期並ニ融合期. 【レントゲン會誌】 1, 1. 大12(1923). [人].

3329. Miyamoto, Hirono: Morphologische Untersuchung über die Querschnitte der rezenten Japaner. III. Morphologische Untersuchung über die Querschnitte der Tibia, der Fibula und der Ossa metatarsalia. 【Acta Scholae med. Kioto】 8. 大14-15(1925-26).

3330. 和田國友: 本邦成人下肢レ線影像ノ研究. 【日整形會誌】 3, 1. 昭3(1928).

3331. —: 本邦成人ノ下肢レ線像ノ研究. (續). 【日整形會誌】 3, 1. 昭3(1928).

3332. 平井隆, 田幡丈夫: 現代日本人々骨ノ人類學的研究. 第四部. 下肢骨ノ研究. 其一: 大腿骨, 膝蓋骨, 脛骨及ビ腓骨ニ就テ. 【人類誌】 43. (第一附錄). 昭3(1928).

3333. —: 現代日本人々骨ノ人類學的研究. 第四部. 下肢骨ノ研究. 其二: 足趾骨. 【人類誌】 43. (第二附錄). 昭3(1928).

3334. 清水武文: 日本ノ婦人ニ於ケル骨盤測定. 【東京醫誌】 114. 明13(1880).

3335. 楠田謙藏: 日本婦人ノ生體骨盤ニ關スル第一報. 【產科誌】 2, 3, 16. 明22-23(1889-90).

3336. 緒方正清: 再ニ日本婦人ノ生體骨盤ヲ論ズ. 【東京醫會誌】 15, 16. 明34(1901).

3337. 榑順三郎: 日本婦人ノ骨盤及ビ他ノ固有ナル狀態ト分岐期トノ關係ニ就テ. 【醫新聞】 616. 明35(1902).

3338. 佐藤勤也: 日本婦人貳百名ニ就テノ骨盤外計測及ビ之レニ附隨シテ得タル一二ノ要項ニ就テ. 【好生館醫誌】 11, 3. 明37(1904).

3339. 桑原雄平: 骨盤外計測ニ就テ. 【日婦會誌】 3, 4. 明41(1904).

3340. 木下正中: 狹窄骨盤ニ就テ. 【產科誌】 114-116. 明40(1907).

3341. 佐藤松介: 日本婦人ノ眞結合線ニ就テ. 【日婦會誌】 3, 2. 明41(1908).

3342. 楠本周三: 狹窄骨盤ノ一例. 【成醫月報】 325. 明42(1909).

3343. 木下正中: 狹窄骨盤ニ就テ. 【成醫月報】 334. 明42(1909).

3344. 北島英夫: 生體ニ於ケル骨盤入口部ノ經線ニ就テ. 【研球誌】 94. 明43(1910).

3345. 小林八十七: 狹窄骨盤ニ就テ. 【日婦會誌】 5, 1. 明43(1910).

3346. 藤原和美: 婦人生體骨盤外検査並ニ眞結合線ニ就テ. 【產婆誌】 151. 大2(1913).

3347. 小畑惟清: スバルテホルツ氏透明標本ニヨル骨盤化骨研究. 【醫新聞】 884. 大2(1913). [ドイツ人胎兒].

3348. 鎌田清太郎, 島海信三: 生體ノ骨盤及ビ外陰部計測成績. 【成醫月報】 371. 大2(1913). [人].

3349. 方瑞璧: 本島婦人ニ於ケル骨盤傾斜ノ調査報告(會). 【臺灣醫會誌】 13, 138-139. 大3(1914). [支那籍婦人 100名].

3350. 推野鐸太郎: 髌臼ニ就テ. 【第四回日醫會誌】 大4(1915). [人].

3351. 水口耕治: ヘーガルノ骨盤研究及ビ分娩機轉. 【醫海時報】 1094, 1098. 大4(1915).

3352. Shiino, Kotaro: Über die Hüftpfanne. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】 18, 1. 大6(1917). [119 Becken].

3353. 工藤得安: 日本人ノ靭帶骨盤ノ計測ニ就テ. 【京都醫誌】 14, 5. 大6(1917).

3354. 佐藤友定: 日支婦人ノ生體ニ於ケル骨盤外計測ノ比較. 【滿洲醫誌】 5, 3. 大15(1926).

3355. 宮本博人: 現代日本人骨ノ人類學的研究. 第三部: 骨盤ノ研究. 【人類誌】 42, 6, 7. 昭2(1927).

3356. 牧野内真: 坐骨ノ破格ニ就テ(抄). 【北越醫會誌】 43, 6. 昭3(1928).

3357. 新井正治: 日本人骨盤ニ就テ(會). 【解剖誌】 1, 1. 昭3(1928).

3358. —: 日本人骨盤ノ研究. 其一: 腸骨ニ就テ(抄). 【解剖誌】 2, 2. 昭4(1929).

3359. 牧野内真: 日本人坐骨結節ニ就テ及ビ其ノ破格標本供覽(抄). 【解剖誌】 2, 2. 昭4(1929).

3360. 池本五月: 邦人腸骨ノ人種解剖學の考察. 【解剖誌】 1, 4. 昭4(1929).

3361. —: 日本人腸骨ノ人種解剖學的觀察補遺. 【解剖誌】 2, 1. 昭4(1929). [北陸人].

3362. —: 日本人腸骨ノ人種解剖學的考察(第二報)(抄). 【解剖誌】 2, 2. 昭4(1929).

3363. 村上正雄: 日本人胎兒及ビ初生兒骨盤研究補遺. 【十全會誌】 34, 2. 昭4(1929).

3364. —: 日本人腕骨ノ人種解剖學的觀察. 【解剖誌】 3, 1. 昭5(1930). [日, 支, 鮮人等].

3365. 新井正治: 日本人骨盤ノ研究(靭帶性骨盤ノ年齡的變化)(抄). 【解剖誌】 3, 3. 昭5(1930).

3366. 小濱基次: 朝鮮人腸骨ニ就テ(抄). 【解剖誌】 3, 3. 昭5(1930).

3367. 牧野内真: 日本人ノ坐骨結節ニ就テ. 附: 坐骨結節ノ稀有ノ破格ノ一例. 【北越醫會誌】 45, 10. 昭5(1930). [80歳ノ男屍].

3368. 池本五月: 日本人胎兒及ビ初生兒腸骨ニ就テ. 【解剖誌】 3, 9. 昭5(1930).

3369. 榑原賢三: 本邦成熟女屍骨盤計測成績ニ就テ. 【日婦會誌】 25, 7. 昭5(1930).

3370. Sawatari, Yutaka: Über die Röntgenbilder des Beckens der Kinder in der Praxis. 【日整形會誌】 6. 昭6(1931).

3371. 池本五月: 日本人腕骨閉鎖孔ノ形態ニ

就テ。【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

3371. —: 腕骨弧形線=就テ。日本人骨盤境界線=就テ(會)。【解剖誌】4.4. 昭6(1931).

3372. 新井正治: 日本人骨盤ノ傾斜角=就テ。(抄)。【解剖誌】4.4. 昭6(1931).

3373. 久原健三: 老齡者ニ於ケル骨盤立體レ線像ノ研究。【レントゲン會誌】10.1. 昭7(1932).

3374. 新井正治: 日本人骨盤ノ研究(其五). 新鮮帶骨盤ノ計測成績。【解剖誌】5.7. 昭7(1932).

3375. 池内眞澄: レ線ニヨル骨盤計測成績。【レントゲン會誌】10.1.5.6. 昭7-8(1932-33).

3376. —: レ線ニヨル骨盤計測成績(第一報)。【東京醫誌】28.10. 昭8(1933). [人].

3377. 新井正治: 日本人骨盤ノ研究。【人類誌】48.1-9. 昭8(1933).

3378. 小金井眞精: 日本人及ビ「アイノ」人ノ骨盤。【濟生學會報】89. 明33(1900).

3379. 角田秀雄: 臺灣婦人ノ骨盤=就テ。並ニ生體計測。【產科誌】7.2. 明38(1905).

3380. —: 臺灣婦人ノ骨盤=就テ。並ニ生體計測。【臺灣醫會誌】4.29. 明38(1905). [臺灣在住支那。經足婦人43人。自然足婦人13人。日本及ビ、アイノ婦人其他].

3381. 鄭承奎: 臺灣婦人生體ノ骨盤徑線=就テ。【產婆誌】14.2. 大1(1912).

3382. 中島本治郎: 朝鮮婦人ノ骨盤外徑計測數=就テ(第一報)。(會)。【朝鮮醫會誌】3. 大2(1913).

3383. 小島眞三: 朝鮮婦人ノ骨盤=就テ。【第四回日醫會誌】。大4(1915).

3384. 栗本春吉: 繩足シタル支那婦人ノ生體骨盤計測(會)。【順天堂醫事誌】565. 大10(1921).

3385. 劉曜曦: 支那人ノ骨盤=就テ。【南洋醫會誌】12.2. 大12(1923).

3386. 末永保次: 朝鮮婦人ノ骨盤=就テ。【海軍醫誌】19. 昭5(1930).

3387. —: 朝鮮婦人ノ骨盤=就テ(第一報)。【臨床產婦科】6. 昭6(1931).

3388. 小濱基次: 朝鮮人骨盤ノ研究。其一: 朝鮮人腸骨=就テ。【解剖誌】4.5. 昭6(1931).

3389. —: 朝鮮人骨盤ノ研究。【人類誌】46. 12. 昭6(1931).

3390. 小金井眞精: On the third Trochanter

of Femur. 【或醫月報】110. 明24(1891). [日本人, アイノ].

3391. 酒井保: 囊外大腿骨頸骨折ノ「デモンストラチオン」。【第一回日醫會誌】。明35(1902). [人].

3392. 連水昇: 大腿骨長徑ノ數學的算出。【軍醫會誌】169. 明41(1908).

3393. 林 辯, 中澤美志郎: 本邦人大腿骨傾斜角度ノレントゲンの測定=就テ。【千葉醫會誌】3.1. 大14(1925).

3394. Miyamoto, Hirondo: Morphologische Untersuchung über die Querschnitte der Röhrenknochen der rezenten Japaner. II. Morphologische Untersuchung über die Querschnitte des Femur. 【Acta. Scholae med. Kioto】8. 大14-15(1925-26).

3395. 松島伯一: 大腿骨對膝蓋面ニ關スル觀察。【醫研究】1.1. 昭2(1927).

3396. 大井敏雄: 大腿骨外側面腓腸筋種子骨關節面=就テ。附: 腓腸筋種子骨ノ解剖補遺。【十全會誌】35.1. 昭5(1930). [人].

3397. 砂田外治: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其一: 大腿骨ノ長徑並ニ周徑=就テ。【金澤解剖業績】2. 昭6(1931).

3398. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其二: 大腿骨骨幹ノ幅徑並ニ示數及ビ相關=就テ。【金澤解剖業績】3. 昭6(1931).

3399. —: 北陸日本人ノ下肢骨ノ人類學的研究。其三: 大腿骨近側端遠側端=就テ。【金澤解剖業績】3. 昭6(1931).

3400. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其四: 大腿骨諸角骨幹彎曲示數及ビ形態=就テ。【金澤解剖業績】3. 昭6(1931).

3401. 荒瀬進: 現代朝鮮人ノ大腿骨第三轉子=就テ。【解剖誌】3.10. 昭6(1931).

3402. 砂田外治: 北陸日本人ノ大腿骨第三轉子=就テ。【金澤解剖業績】8. 昭7(1932).

3403. 小金井眞精: 大腿骨脛間窩ノ人種的差異=就テ。【解剖誌】6.2. 昭8(1933). [石時代人, アイノ及ビ日本人].

3404. —: 大腿骨脛間窩ノ人種的差異=就テ(抄)。【解剖誌】6.4. 昭8(1933).

3405. 寺田圓成: 胎生各期ニ於ケル人胎兒大腿骨下端軟骨組織學的研究。【近畿醫誌】16.6. 昭8(1933). [胎兒第2-10ヶ月].

3406. 木村順吉: Fracture of the Patella. (膝蓋骨斷面=就テ)。【或醫月報】112. 明24(1891). [人].

3407. 藤濱剛一, 深堀清彦: 膝蓋ヲ形成セル骨ノ發生ニ關スルレントゲン研究(會)。【東京醫誌】2062. 大7(1918).

3408. —, —: 膝蓋ヲ構成セル骨ノ發育ニ關スルレントゲン研究ノ成績。【中外醫事報】938. 大8(1919).

3409. 砂田外治: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其五: 膝蓋骨=就テ。【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

3410. 山本 順, 井上太郎: 膝蓋骨分裂 (Patella partita) =就テ。【Grenzgeb.】6.11. 昭7(1932). [人].

3411. 荒瀬進: 現代朝鮮人膝蓋骨ノ人類學的研究。【人類誌】47.7. 昭7(1932).

3412. 小金井眞精: 腓骨ト脛骨トノ關係ニ就テ。【第四回日醫會誌】。大4(1915). [日本人及ビアイノ].

3413. 鈴木元晴: 脛骨結節ノ發育=就テ(會)。【朝鮮醫會誌】46. 大12(1923). [朝鮮人, 日本人].

3414. —: 脛骨結節發育內鮮人ノ差異並ニ異常發育所見=就テ(會)。【朝鮮醫會誌】52. 大13(1924). [日本人, 朝鮮人].

3415. —: 生理的見地ヨリ觀察シタル脛骨結節ノレントゲン線像並ニオスグード・シュラツテル氏病ノ疑義。【醫中央誌】22. 大14(1925).

3416. —: 生理的見地ヨリ觀察セル脛骨結節ノレントゲン線像並ニオスグード・シュラツテル氏病ノ疑義=就テ(第三報)。【醫新聞】1171. 大14(1925).

3417. 荒瀬進: 現代朝鮮人脛骨ノ人類學的研究。【人類誌】46.11. 昭6(1931).

3418. 砂田外治: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其六: 脛骨ノ長徑, 周徑, 幅徑並ニ示數=就テ。【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

3419. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其七: 脛骨ノ彎曲示數, 諸角並ニ形態=就テ。【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

3420. 橋本廣次: 脛骨結節ノ發生學的研究。其1: 胎生兒ニ於ケル脛骨結節ノ發育=就テ(抄)。【解剖誌】4.4. 昭6(1931).

3421. —: 脛骨結節ノ發生學的研究。其二: 胎生期ニ於ケル脛骨結節ノ發育=就テ。【解剖誌】4.8. 昭6(1931).

3422. 砂田外治: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其八: 腓骨=就テ。【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

3423. —: 脛骨上滑車突起=就テ。【金澤解剖

業績】9. 昭7(1932). [人].

3424. 荒瀬進: 現代朝鮮人腓骨ノ人類學的研究。【人類誌】47.3. 昭7(1932).

3425. Adachi, Buntaro u. Adachi, Yaso: Die Fussknochen der Japaner. (Anatomische Untersuchungen an Japanern. VII.) 【Mitt. med. Fak. Tokyo】6. 明36-38(1903-05) [25 Japaner, 10 Europäer].

3426. 足立文太郎, 足立ヤツ: 日本人ノ足骨。【人類誌】20.223. 明37(1904).

3427. Hasebe, Kotondo: Gewichtsproportionen der Fussknochen bei verschiedenen Rassen. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】16.1. 大6(1917). [1 Orang, 10 Japaner, 10 Karoliner, 7 Chinesen, 5 Europäer].

3428. 藤濱剛一, 深堀清彦: 足根骨ノ發育=就テ(會)。【東京醫誌】2076. 大7(1918). [人].

3429. 相馬第二: 壯年男子跟骨ニ就テレントゲン像ニ依リ得タル一二ノ觀察。(會)。【朝鮮醫會誌】35. 大10(1921).

3430. 河合一郎: 足舟狀骨ニ於ケルケラー氏病ノ三例。【慶應醫學】2.4. 大11(1922).

3431. 植平正男: 朝鮮人趾骨ノ癒合=就テ(會)。【朝鮮醫會誌】69. 大15(1926).

3432. 中村男也: 足ノ過剩骨(副跗骨)=就テ。【日維道醫會誌】12.2. 大15(1926).

3433. 松田心一: 邦人跟骨滑車突起及ビ滑車後隆起=就テ。【十全會誌】31.12. 大15(1926).

3434. 倉重外機雄: 邦人距骨ノ所謂 Hocker-facette =就テ。【十全會誌】31.12. 大15(1926).

3435. 齋藤一男: 跟骨ノ構成。所謂跗狀骨棘等ヲ論ジテ本邦走跳選手ノ足型ニ及ブ。【日整形會誌】5. 昭5(1930).

3436. 砂田外治: 距骨骨體ニ於ケル異常關節面=就テ。【金澤解剖業績】5. 昭6(1931). [北陸日本人].

3437. —: 邦人距骨上關節面ノ所謂 Hocker-facette ノ計測的觀察。【金澤解剖業績】5. 昭6(1931). [北陸日本人].

3438. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其九: 距骨體, 滑車及ビ外踝關節面=就テ。【金澤解剖業績】4. 昭6(1931).

3439. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其十: 距骨。【金澤解剖業績】6. 昭6(1931).

3440. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其十一: 跟骨(A)。其十二: 跟骨(B)。【金澤解剖業績】7. 昭7(1932).

3441. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究。其十三: 舟狀骨。【金澤解剖業績】8. 昭7(1932).

3442. —: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究. 其十四: 楔狀骨. 【金澤解剖雜誌】9. 昭7(1932).
 3443. 北原孝慶: 中國人小兒ノ足根骨化骨期ニ就テ. 【滿洲醫學】16,3. 昭7(1932). 【支那人125例】. (生體X線検査).
 3444. 砂田外治: 北陸日本人下肢骨ノ人類學的研究. 其十六: 趾骨ニ就テ. 【金澤解剖雜誌】10. 昭7(1932).
 3445. 中山雄一: 支那人ノ足骨(距骨). (其一). 【滿洲醫學】18. 昭8(1933). [192頁, 384骨].
 3446. 星直利: 朝鮮人小兒ノ化骨期ニ就テ. 其三: 朝鮮人小兒ノ足根骨化骨期. 【朝鮮醫學會誌】23,1. 昭8(1933).
 3447. 神田丙午郎: 足舟狀骨ノ過剩骨ニ因スル足痛ノ二例. 【東北醫學】16. 昭8(1933).

10. 骨 (動物)

3448. Okada, Yaichiro (岡田彌一郎): Notes on Japanese frogs. [Annot. zool. japon.] 11,4. 大15-昭3(1926-1928).
 3449. 塚本恒夫: 正常家兎ノ發育研究, 就中骨系統ニ就テ. 【新潟病報】2. 昭2(1927).
 3450. 横川貞夫: 幼若管狀骨ノ特殊構造ニ就テ(會). 【東北醫學】10. 昭2(1927). [牛].
 3451. 岩田久吉: 「ヒメヒミズ」(Dymecolon pillirostris True) 骨學短見(抄). 【動物誌】41, 490-491. 昭4(1929).
 3452. 松原茂平: 幼駒ノ化骨點ニ關スル研究. 【陸軍獸醫學】269. 昭6(1931).
 3453. —: 幼駒ノ化骨點ニ關スル研究. 【中央獸醫學】45,1. 昭7(1932).
 3454. 福井、定, 森田齋次: 長骨ノ發育ニ就テ(會). 【解剖誌】5,7. 昭7(1932). [生後1日乃至3ヶ月ノ家兎].

頭骨

3455. Sasaki, C.: A new Field-mouse in Japan. [Bull. Coll. Agr. Tokyo Imp. Univ.] 6. 明37-38 (1904-1905). [頭骨並ニ齒ノ形態アリ].
 3456. Iguchi, K.: Untersuchungen über die Schädel der Chosen-, Tsushima- und Tottori-Rinder. [J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.] 5. 大2-3(1913-1914).
 3457. Iguchi, Kenzo: Untersuchungen über die Schädel der Okayama-, Yamagata- und Riukiū-Insel-Rinder. [J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.] 7. 大5-6(1916-1917).
 3458. 岡田耕三: 家兎ノ軟骨頭蓋ニ就テ(豫

報). 【阪醫會誌】15,8. 大5(1916).
 3459. —: 家兎ノ軟骨頭蓋模型供覽(會). 【十全會誌】22,3. 大6(1917).
 3460. Iguchi, Kenzo: Untersuchungen über die japanischen Boviden. [J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.] 9. 大9-10(1920-1921).
 3461. 長谷部言人: 「ゴリラ」ノ長頭種. 【人類誌】40,10. 大14(1925).
 3462. 西村義太郎: 「マウス」上顎骨ノ發生學的研究(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
 3463. 望月龍三: Bos namadicus Falconer et Cautley ノ種屬ニ就テ. 【日本學報報告】5. 昭4(1929). [頭蓋ノ形態アリ].
 3464. 近野壽男: 家兎頭蓋ノ統計的觀察並ニ頭蓋腔内注射ニ必要ナル一二ノ解剖的知見. 【軍醫團】194. 昭4(1929).
 3465. Abe, Yoshio (阿部余四男): On the Korean and Japanese Wolves. [J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 1] 1. 昭5(1930). [頭骨ノ形態アリ].
 3466. — (—): A synopsis of the Leporine Mammals of Japan. [J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. B, Div. 1.] 1. 昭6(1931). [日本産兎ノ頭骨ノ形態アリ].
 3467. 池田長太郎: 妊娠時ニ於ケル母體ノ營養ガ胎兒ノ頭蓋骨ニ及ボス影響ニ就テ. 【日新醫學】23,3. 昭8(1933). [家兎].
 3468. 岡部常輔: 雀胎兒ノ原始頭蓋模型標本ノ供覽(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
 3469. —: 雀ノ軟骨性頭蓋ニ就テ(抄). 【九大醫報】3,5. 昭4(1929).
 3470. 進藤篤一: 鳥類頭蓋ノ Cavum suprasicirculare ニ就テ(抄). 【九大醫報】3,5. 昭4(1929).
 3471. —: 鳥類ノ Cavum suprasicirculare ニ就テ. 【醫研究】4,7. 昭5(1929).
 3472. 岡部常輔: 雀頭蓋ノ發生學的研究. 【醫研究】4,5. 昭5(1930).
 3473. 津崎孝道: 臺灣産宮守ノ頭骨ニ就テ(抄). 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
 3474. 堤丈夫: Trionyx japonicus ノ頭骨ノ發生ニ就テ. 【千葉醫會誌】8,4. 昭5(1930).
 3475. —: Trionyx japonicus (japanische dreikrallige Lippenschildkröte) ノ頭骨並ニ Hyobranchialskelett ノ發生學的研究. 【解剖誌】3,11. 昭6(1931).

3476. 安達昌平: Agkistrodon Blomhoffi (Boie) ノ Chondrocranium 並ニ Deckknochen ノ發生學的研究. 【千葉醫會誌】11,12. 昭8(1933).
 3477. 青山文雄: 大山椒魚ノ頭骨ノ發生ニ就テ(第一報)(抄). 【北越醫會誌】42,4. 昭2(1927).
 3478. —: 「ハンザキ」ノ頭骨發生(抄). 【北越醫會誌】42,6. 昭2(1927).
 3479. 黒津敏行: 邦産有尾類ノ軟骨頭蓋蠟模型供覽(會). 【解剖誌】4,4. 昭6(1931).
 3480. 鈴木藤十: 邦産有尾兩棲類ノ下顎ニ於ケル新知見(抄). 【北越醫會誌】47,14. 昭7(1932).
 3481. Inukai, Tetsuo (犬飼哲男): Urodelenarten aus Nordjapan mit besonderer Berücksichtigung der Morphologie des Schädels. [J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ., Series VI. Zool.] 1,4. 昭7(1932). [Hynobius retardatus, H. lichenatus, H. nigrescens, Salamandrella keyserlingii].
 3482. 鈴木藤十: 兩棲類ノ腦神經及ビ頭骨ノ發生ニ就テ. 第一報: 箱根山椒魚(Onychodactylus japonicus) ノ頭骨ノ發生ニ就テ. 【解剖誌】5,6. 昭7(1932).
 3483. —: 兩棲類ノ腦神經及ビ頭骨ノ發生ニ就テ. 第二報: 邦産有尾兩棲類ノ下顎骨及ビ其神經ノ研究. 【解剖誌】5,11. 昭8(1933).

舌骨, 鰓骨

3484. 森於菟: Lepidosteus ossens ノ頭骨發生ニ就テ. 【動物誌】39,465. 昭2(1927).
 3485. Tomiyama, Ichiro (富山一郎): Comparative studies on the opisthotic bone of Sparidae. [J. Fac. Sci., Sect. 4. Zool.] 2,4. 昭3-6(1928-1931).
 3486. Tsusaki, Takamichi: Zur Morphologie und Entwicklungsgeschichte des Hyobranchialskelettes von Hynobius. [Fol. anat. jap.] 1,1. 大11(1922). [H. nebulosus].
 3487. 津崎孝道: 日光山椒魚ノ舌骨鰓骨ノ形態並ニ發生. 【慶應醫學】1,8. 大10(1921).
 3488. Okajima, Keiji: Zur Anatomie des Hyobranchialskelettes bei den Onychodactyluslarven. [Fol. anat. jap.] 1,4. 大11(1922).
 3489. Fukuda, Yoshinobu: Zur Morphologie und Entwicklungsgeschichte des Hyobranchialskelettes von Megalobatrachus japonicus. [Fol. anat. jap.] 6,4. 昭3(1928).

3490. —: Die Veränderungen des Hyobranchialskelettes vom Onychodactylus japonicus bei der Metamorphose. [Fol. anat. jap.] 9,1. 昭5(1930).
 3491. Matsumoto, Kiyoshi: Beitrag zur Morphologie und Entwicklung des Hyobranchialskeletts bei Hynobius leechii. [Keijō J. of Med.] 3,1. 昭7(1932).
 3492. 下山丈夫: 兩棲類ノ Hyobranchialskelett ノ發生ニ就テ(第一報). 【岡山醫會誌】45, 10. 昭8(1933). [鰓骨].
 3493. 松本清: 「デモグリ」蛙ノ舌骨鰓骨格ニ就テ(抄). 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).
 3494. —: 「デモグリ」蛙ノ舌骨鰓骨格ノ形態並ニ發生. 【朝鮮醫會誌】23,9. 昭8(1933).

胸骨

3495. 川田信平: 「モルモット」耻坐聯合ノ分娩時變化ニ就テ(會). 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924).
 3496. 櫻井明治期: 正常「ラツテ」ノ肋骨軟骨連合部及ビ二三ノ四肢主要長管骨ノ端ノ運輸的組織的變化ニ就テ. 【成醫會】47. 昭3(1928).
 3497. 影山藤作: 鶴ノ尾骨ノ研究(抄). 【動物誌】41,490-491. 昭4(1929).
 3498. 北村末造: 雜胎兒骨盤ノ象形複製標本供覽(抄). 【九大醫報】3,3. 昭4(1929).
 3499. —: 家鷄骨盤ノ發生學的研究. 【醫研究】3,12. 昭4(1929).
 3500. 本山仲久: ハーン氏椎體窩溝像ノ胎生學的研究. 【日整形會誌】6. 昭6(1931). [宮守, 蛙, 雀, 蝙蝠, 家鼠, 白鼠, 豚, 犬].
 3501. 池田脩三: 無尾兩棲類ニ於ケル脊柱ノ發生學的研究. 【解剖誌】6,1. 昭8(1933). [Bufo vulgaris japonicus].
 3502. 小野直治: 長尾猫及ビ短尾猫ニ於ケル脊柱ト脊體ノ長サ並ニ位置的關係ニ就テ. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).
 3503. 金澤哲郎: 脊椎椎體發育層ニ關スル實驗的研究(第一, 第二). 【福岡醫大誌】26,7. 昭8(1933).

四肢骨

3504. 大串菊太郎: 本邦産鼈ノ甲及ビ肩胛帶ノ形態學的意義. 【中央醫事】20. 明43(1910).
 3505. 岩男督: 四肢大管狀骨骨髓ノ血管裝置ニ就テ. 【東京醫會誌】40,6. 大15(1926). [家兎].
 3506. 牧野内頁: 大山椒魚ノ四肢骨格ノ發生ニ就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

- 3507. 脇坂賢吉: 飛節ノ構造ト飛節肉腫ノ原因ノ關係ニ就テ. 【陸軍獸醫報】263. 昭6(1931). [馬].
- 3508. 福井定: 家兎下腿骨ノ上下端成長ノ速度ニ就テ. 【日醫週報】1882-1883. 昭7(1932).
- 3509. 田村重慶: 障害馬ノ具備スベキ肢骨其他ノ長さ及ビ角度ニ就テ. 【中央獸醫誌】46.2. 昭8(1933).

2. 關節

- 3510. 新井春次郎: 滑液膜ノ血管ニ就テ. 【顯微鏡】76. 明40(1907). [人].
- 3511. 祐源八郎: 關節ノ角度ニ就テ(綜). 【軍醫團】49. 大3(1914). [現役兵].
- 3512. —: 關節ノ角度ニ就テ. 【軍醫團】49. 大3(1914). [人].
- 3513. 瀧川仁太郎: 關節滑液膜細胞ノ本態ニ關スル組織學的研究(第四, 五報). 【日微生物誌】20. 大15(1926). [人, 哺乳類].
- 3514. 菊山貞一: 關節結核千五百七例ニ就テ. 關節ニ於ケル骨端化骨核融合. 【千葉醫會誌】7.12. 昭4(1929).
- 3515. 橋本廣次: 人胎關節發育標本及ビ臘板模型供覽(抄). 【解剖誌】3.3. 昭5(1930).
- 3516. —: 人胎兒關節腔ノ發生學的研究. 【解剖誌】4.3. 昭6(1931).
- 3517. 矢崎正方: 下顎運動ノ解剖學的研究. 特ニ前齒ノ咀嚼能率ニ及ボス關係. 【齒學報】34.2.6-8. 昭4(1929).
- 3518. 新井春治郎: 肋軟骨關節及ビ分割肋骨ノ示説(會). 【東京醫誌】1885. 大3(1914). [人].
- 3519. 早野常雄: 日本人ニ於ケル第一肋軟骨關節形成ニ關スルレントゲン線の檢索. 【レントゲン會誌】5.2. 昭2(1927).
- 3520. 佐々木宗一: 近著四篇. 1: 肩胛關節腔ト周圍粘液囊トノ交通ニ關スル人種別. 【東西醫報】198. 大12(1923). [人].
- 3521. 板原潤: 日本人肩胛關節及ビ附屬粘液囊ニ就テ(抄). 【慶應醫學】9.12. 昭4(1929).
- 3522. —: 日本人肩胛骨固有靭帶ニ就テ. 附: 肩胛骨鎖骨聯接ニ就テ. 【解剖誌】3.12. 昭6(1931).
- 3523. 西郷一憲: 本邦人肩胛關節レントゲン解剖學トソノ臨床的意義. 【日外資】8.5. 昭6

- (1931). [生後3日-24年11ヶ月].
- 3524. 板原潤: 日本人成人及ビ胎兒ノ肩關節及ビ附屬粘液囊ニ就テ. 【解剖誌】6.2. 昭8(1933).
- 3525. 新井正治: 肘關節ノ畸形. 【東北醫誌】10. 昭2(1927). [74歳女].
- 3526. 和田國友: 肘前彎症ノ統計的觀察(會). 【日整形會誌】1.1. 昭2(1927).
- 3527. 南正夫: 生理的肘外彎ノ研究(第二報). 【日整形會誌】3. 昭3(1928).
- 3528. 原撰: 肘關節ニ關スル研究. 【醫研究】2.4. 昭3(1928).
- 3529. 西郷一憲: 肘關節外傷ニ關スル研究. 其一: 本邦人肘關節レントゲン解剖學. 【日外資】6.4. 昭4(1929). [生後19日-19年11ヶ月].
- 3530. 忽那將受: 肘關節部ノ骨形態竝ビニ上膊骨滑車上孔ノ成因ニ就テ. 【解剖誌】3.8. 昭5(1930). [人].
- 3531. 中村也伊司: 人胎關節腔形態ノ發生學的研究(抄). 【解剖誌】4.4. 昭6(1931).
- 3532. 岩切實: 健康人肘關節ノ發育ニ關スルX線學的研究. 【鹿兒島醫誌】9.110-112. 昭7(1932).
- 3533. 板津三頁: 競技者肘關節レントゲン線學的研究ニ就テ. 【實踐醫理】3.2-5. 昭8(1933).
- 3534. 中村也伊司: 人胎兒肘關節腔ニ關スル發生ニ就テ. 【解剖誌】5.12. 昭8(1933).
- 3535. 佐々木宗一, 忽那將受: 手根部ニ於ケル諸關節腔トノ交通ニ就テ(會). 【東北醫誌】10. 昭2(1927). [人].
- 3536. 村尾千之: X光線寫眞上ニ表ハレタル掌指及ビ趾趾關節ノ種子骨ニ就テ. 【千葉醫會誌】7.11. 昭4(1929). [人].
- 3537. Kusuna, Masachika: Über die Kommunikation der Gelenkhöhlen in der Handwurzelgegend. 【Jap. J. of med. Sci., I. Anat.】2.3. 昭5(1930).
- 3538. 西郷一憲: 本邦人手腕關節レントゲン解剖學ト其ノ臨床的意義. 【日外資】7. 昭5(1930). [生後18日-24年11ヶ月].
- 3539. 里見義一: 成人死體空氣注入手腕關節部位レントゲン線像ニ關スル研究. 【日整形會誌】6.1. 昭6(1931).
- 3540. 佐々木宗一: 恥骨聯合ノ形態學的研究. 【京都醫誌】19.5.7-11. 大11(1922). [日本人, 歐洲人, 溱洲人, 朝鮮人, 支那人].

- 3541. 栗山輝雄: 薦腸關節面ノ形態學的研究. 第一編: 芻淨骨ニ於ケル薦腸關節ニ就テ. 【解剖誌】4.1. 昭6(1931). [成人及ビ成童].
- 3542. 臼井宏: 股關節游體ニ就テ. 【或醫月報】266. 明37(1904). [人].
- 3543. 藤本廣: 大腿骨股關節部ニ於ケル關節膜ノ附着狀態ニ就テ. 附: 種々ノ年齡ニ於ケル骨端線ト關節膜附着部トノ關係(會). 【東京醫誌】2231. 大10(1921). [人].
- 3544. 深堀清彦: レントゲン影像上ニ於ケル股關節構成骨化骨核發現期並ニ骨端融合期. 【レントゲン會誌】1.1. 大12(1923). [人].
- 3545. 佐々木宗一: 近著四篇. 2: 腸趾粘液囊ト股關節腔トノ交通ニ關シテ. 【東西醫報】198. 大12(1923). [人].
- 3546. 林喜作: 先天性股關節脫臼ノ移行型ニ就テ. 【日整形會誌】1.1-2. 大15(1926).
- 3547. 松浦和一郎: 特發性先天性股關節脫臼(抄). 【日整形會誌】1.1-2. 大15(1926).
- 3548. 本山仲久: 人胎兒股關節ノ解剖學的知見. 【日整形會誌】5. 昭5(1930).
- 3549. —: 人胎兒股關節ノ解剖學的所見(抄). 【九大醫報】4.3. 昭5(1930).
- 3550. —: 人胎兒股關節脫臼ノ二例(抄). 【九大醫報】4.4. 昭5(1930).
- 3551. —: 人胎兒股關節ノ異常型ニ就テ(抄). 【九大醫報】4.5. 昭5(1930).
- 3552. 松村忍: 先天性股關節脫臼ノ統計的觀察. 【東北醫誌】16.1. 昭8(1933).
- 3553. 足立文太郎: 本邦人膝關節腔ト股下粘液囊及ビ脛腓關節トノ交通. 【中外醫報】471. 明32(1899).
- 3554. 佐々木宗一: 近著四篇. 3: 膝關節殊ニ大腿骨遠位端ニ於ケル人種別並ビニ年齡差. 【東西醫報】198. 大12(1923).
- 3555. 石藤文七: 膝關節「メニスクス」及ビ關節軟骨ノ組織及ビ病理ノ補遺. 【顯微鏡】17.9. 大13(1924).
- 3556. 大井敏雄: 日本人膝關節ノ研究. 【軍醫團】168. 昭2(1927).
- 3557. —: 日本人膝關節ノ研究. 其一: 脛骨髁間隆起就中髁間結節ニ就テ. 【十全會誌】32. 1. 昭2(1927).
- 3558. —: 日本人膝關節ノ研究. 其二: 膝關節半月板ニ就テ. 【十全會誌】32.3. 昭2(1927).

- 3559. —: 日本人膝關節ノ研究. 其三: 大腿骨下端關節面ニ就テ. 【金澤解剖雜誌】1. 昭3(1928).
- 3560. Yano Kenji: Über die Schleimbeutel und Nebenhöhlen des Kniegelenkes bei den Japanern. 【Fol. anat. jap.】6.3. 昭3(1928).
- 3561. 大井敏雄: 邦人膝關節軟骨ニ就テ(會). 【解剖誌】1.1. 昭3(1928).
- 3562. 山内吉雄: 日本人膝關節粘液囊研究補遺. 深膝蓋下粘液囊ニ就テ(抄). 【慶應醫學】9.12. 昭4(1929).
- 3563. 大井敏雄: 日本人膝關節ノ研究. 其五: 膝關節軟骨ノ厚サニ就テ. 【十全會誌】34.10. 昭4(1929).
- 3564. —: 日本人膝關節ノ研究. 其四: 膝關節面軟骨線線線ニ就テ. 【十全會誌】35.1. 昭5(1930).
- 3565. 鳥居環: 畸形性膝關節炎ノ發生原因ニ關スル知見補遺. 附: 正常脛骨顆間結節ノ形態ニ關スル研究. 【十全會誌】35.5. 昭5(1930).
- 3566. 椎名順三: 「アイヌ」人體質ノ研究. 其七: 【人類誌】45.11. 昭5(1930). [アイヌ人膝關節ニ就テノ觀察].
- 3567. —: 「アイヌ」人膝關節ニ就テノ二三ノ觀察(抄). 【九大醫報】4.4. 昭5(1930).
- 3568. 山内吉雄: 本邦成人ニ於ケル膝關節半月板ノ形態學的觀察(抄). 【解剖誌】4.4. 昭6(1931).
- 3569. —: 日本人膝關節囊研究補遺. 深膝蓋下粘液囊(Bursa infrapatellaris profunda)ニ就テ. 【解剖誌】4.8. 昭6(1931).
- 3570. 天引忠定: 人胎兒膝關節ノ發生ニ關スル研究. 【解剖誌】5.11. 昭8(1933).
- 3571. 田村豊: 膝關節軟骨レントゲン像ニ就テ. 【レントゲン會誌】10.5.6. 昭8(1933). [人].
- 3572. 山内吉雄: 本邦人膝關節半月板並ニ附屬靭帶ノ統計的研究(成人編, 胎兒編). 【解剖誌】6.3. 昭8(1933).
- 3573. 新垣敏松: 歩兵聯隊在營兵ノ足關節運動領域ノ統計的觀察並ニ其ノ他. 【軍醫團】205. 昭5(1930).
- 3574. 宮寺龍吾: 邦人ノ足關節及ビ是ニ隣接スル關節靭帶ニ就テ(抄). 【解剖誌】4.4. 昭6(1931).
- 3575. —: 日本人足部ノ靭帶ニ就テ. 【解剖誌】6.3. 昭8(1933).

5. 關節ト靭帯 (動物)

3576. **Mayeda, Tomosuke**: Experimentelle histologische Studie über die Synovialmembran. [Mitt. med. Fak. Tokyo] 23,3. 大9(1920). [Mensch, Meerschweinchen, Kaninchen, Hund, Pferd].

3577. **藤森舜吉**: 關節滑液膜ノ形態學的研究. [京都醫誌] 17,11. 大9(1920). [兩棲類, 爬蟲類, 鳥類, 哺乳類, 人類].

3578. **Kawata, Shimpei**: On the morphological change of the symphysis puboischadica in the Guinea-pig during pregnancy. [Mitt. med. Akad. Keijo] 8,4. 大14(1925).

3579. **竹村清雄**: Untersuchungen über Cetacea. 31. Weiteres über die Gelenkflüssigkeit. [Jap. J. of med. Sci., II. Biochem.] 1,2. 大14-昭7(1925-32).

3580. **及川周**: Untersuchungen über Cetacea. 22. Vorläufige Untersuchung über den Gelenknorpel des Wals. [Jap. J. of med. Sci., II. Biochem.] 1,2. 大14-昭7(1925-32).

3581. **牧野内 真**: 關節面ノ發生ニ就テ(抄). [北越醫會誌] 42,6. 昭2(1927). [ハンザキノ肩關節及ヒ股關節].

3582. —: 股關節ノ實驗發生學的研究. [北越醫會誌] 45,11. 昭5(1930). [鯉魚].

3583. **久合田 勉**: 關節角度ト側靭帯(馬體)ニ就テ(會). [中央獸醫誌] 44,7. 昭6(1931).

3584. **渡邊雅男**: 上皮様組織球ニ關スル研究(第二編). 關節滑液膜ノ組織學的研究(其一, 其二). [日新醫學] 22,7-8. 昭8(1933). [家兔, 其他魚, 蛙, 鼠, 海狸, 人].

3585. **山根定吉, 黒川三治郎, 佐藤雄壽**: 繫以下腿靭帯ノ解剖的研究. [陸軍獸醫報] 290. 昭8(1933). [馬].

3. 筋

3586. **足立文太郎, 藤澤宇源太**: 本邦人筋破格調査(第一報). [人類誌] 15,106. 明33(1900).

3587. **小金井良精, 新井春次郎, 敷波重次郎**: 筋破格ノ統計. [東京醫會誌] 17,3. 明36(1903).

3588. **加門桂太郎**: 稀有ナル筋破格ノ一例. [第三回日醫會誌] 明44(1911).

3589. **中野謙太郎**: 實習室ニ於テ最近實驗セル著明ナル一二ノ異常(筋破格). [十全會誌] 18,5. 大2(1913). [1. 縫匠筋ノ異常1例; 2. 上膊異常筋ノ1例].

3590. **西成甫**: 東北醫科大學解剖實習報告

1: 筋ノ破格ニ就テ. [東北醫誌] 1,1. 大5(1916).

3591. —: 東北醫科大學解剖實習報告. 2: 筋系統ノ異常. [東北醫誌] 1,3. 大6(1917).

3592. **久保 武**: 朝鮮人ノ人種解剖學的研究(筋). [朝鮮醫會誌] 17-39. 大6-11(1917-22).

3593. **工藤藩三**: 筋破格ノ二三(綜). [南滿醫會誌] 6,1. 大7(1918). [支那人].

3594. **西成甫**: 日本人ノ筋學知見. 背筋ノ統計的研究(其一). [東北醫誌] 4,2. 大8(1919).

3595. —: 日本人ノ筋學知見背筋ノ統計的研究(其二). [東北醫誌] 5,1. 大10(1921).

3596. **Nakano, Totaro**: Beiträge zur Anatomie der Chinesen. Die Statistik der Muskelvarietäten. [Fol. anat. jap.] 1,5. 大12(1923). [Chinesen Europäer, Neger, Japaner].

3597. **劉 曜曦**: 二三ノ筋肉破格. [南滿醫會誌] 12,8. 大13(1924). [支那人].

3598. **坂本武司**: 筋肉破格ノ三例(會). [朝鮮醫會誌] 52. 大13(1924). [朝鮮人].

3599. **西成甫**: 軀幹筋ノ一般の分化(會). [朝鮮醫會誌] 49. 大13(1924).

3600. —: 軀幹筋ノ宗族發生ニ就テ(抄). [北越醫會誌] 40,3. 大14(1925).

3601. **上田常吉**: 筋ノ作用研究ノ一方法(會). [朝鮮醫會誌] 69. 大15(1926).

3602. **松島伯一**: 日本人ニ於ケル各骨節筋ノ重量ニ就テ. [醫研究] 1,1. 昭2(1927).

3603. **足立 徹**: 先天性筋弛緩症ノ一例. [臨床兒誌] 3,9. 昭4(1929). [小兒].

3604. **金關丈夫**: 人體筋肉作用一覽(綜). [生理研究] 6,1. 昭4(1929).

3605. **西成甫**: 筋ト神經. [醫新聞] 1266. 昭5(1930).

3606. —: 筋系統ノ系統發生(會). [解剖誌] 6,4. 昭8(1933). [人].

3607. —: 筋系統ノ系統發生. [東京醫誌] 2820. 昭8(1933). [人].

3608. —: 筋系統ノ一般の系統分化. [解剖誌] 6,4. 昭8(1933). [人].

1. 背 筋

3609. **西成甫**: 人ニ發見セル背側助間筋束ニ就テ. [東北醫誌] 1,1. 大5(1916).

3610. —: 人ノ固有背筋ニ關スル形態學的知見補遺(綜). [東北醫誌] 1,1. 大5(1916).

3611. —: 固有背筋ノ比較解剖學. [東京醫會誌] 30,4. 大5(1916). [人].

3612. **Nishi, S.**: Ein Beitrag zur Anatomie des M. ilcoecostalis: Fasciculi intercostales dorsales beim Menschen. [Arb. anat. Inst. Sendai] 1. 大7(1918).

3613. —: Zur Kenntnis über die Morphologie der eigentlichen Rückenmuskeln des Menschen. [Arb. anat. Inst. Sendai] 1. 大7(1918).

3614. **新藤省三**: 「アイヌ」ノ背筋ニ就テ(抄). [九大醫報] 3,3. 昭4(1929).

3615. **三浦義儀**: 一卵性雙胎兒背筋ノ比較研究(會). [解剖誌] 3,3. 昭5(1930).

3616. —: 一卵性雙胎兒背筋ノ比較研究. 第一報: 表層背筋ノ比較研究. [解剖誌] 4,6. 昭6(1931).

3617. —: 一卵性雙胎兒背筋ノ比較研究. 第二報: 深層背筋ノ比較研究. [解剖誌] 4,10. 昭7(1932).

3618. **黒津敏行**: 後肋上筋ニ就テ. [解剖誌] 5,4. 昭7(1932).

3619. **内藤勝利**: 腰部三角形ニ就テ. [日婦會誌] 28. 昭8(1933). [人].

3620. **山田和麻呂**: 肩胛骨筋破格ノ一例(兩個肩胛骨筋ニ於ケル所謂背側迷束). [愛知醫會誌] 40,8. 昭8(1933). [人].

2. 頭 筋

3621. **大澤岳太郎**: 顔面筋ニ就テ. [東京醫會誌] 13,8. 明32(1899).

3622. **足立文太郎**: 日本人及ビ支那人ノ顔筋(豫報). [人類誌] 20,234. 明38(1905).

3623. **二村領次郎**: 顔面神經筋ノ發育ニ就テ. [東京醫會誌] 20,14-15. 明39(1906). [人].

3624. —: 顔面神經筋發育ニ就テ. [第二回日醫會誌] 明40(1907). [人].

3625. —: 人間ノ顔面神經筋發育ニ就テ(綜). [顯微鏡] 85. 明41(1908).

3626. **井上通夫**: 顔筋ト顔面神經麻痺トノ關係(會). [東京醫誌] 1897. 大3(1914). [人].

3627. —: 顔面神經麻痺ト顔筋トノ關係ニ就テ(豫報完結)(會). [東京醫誌] 1912. 大4(1915). [人].

3628. —: 顔筋ノ神經分佈並ニ顔筋ト顔面神經麻痺トノ關係ニ就テ. [東京醫會誌] 29. 大4(1915). [人].

3629. **工藤得安**: 日本人ノ顔面筋ニ就テ. [北越醫會誌] 31,4. 大5(1916).

3630. **鈴木文太郎**: 談話(會). [十全會誌] 22,3.

大6(1917). [顔面筋及ビ前頭蓋ノ記事アリ].

3631. **安達鳥次**: 顔面筋ノ皮膚ニ於ケル起終及ビ分布情況ノ顯微鏡的研究ニ就テ. [京都醫誌] 15,2. 大7(1918). [人].

3632. —: 耳下筋ニ就テ(會). [臺灣醫會誌] 22. 大12(1923). [臺灣番人].

3633. —: 臺灣番人ノ顔面筋ニ就テ. [臺灣醫會誌] 24,241. 大14(1925).

3634. **池田吉人**: 人間ノ單眼畸形胎兒ノ顔面筋ニ就テ(會). [東北醫誌] 10. 昭2(1927).

3635. **柴田 至**: 一卵性雙胎兒並ニ二卵性胎兒ノ顔面筋ノ比較研究. [單行]. 昭2(1927).

3636. **Yamaguchi, Osamu**: Die motorischen Nervenendapparate im Ohrmuschelmuskel des Menschen. [Acta Scholae med. Kioto] 12. 昭4-5(1929-30).

3637. **山口 治**: 人類耳殼筋運動神經終末(會). [耳鼻] 3,6. 昭5(1930).

3638. **平光吾一**: 1. 「アイヌ」人下顎諸筋ノ附着狀態供覽. 2. 所謂古代文字研究資料供覽. (會). [九大醫報] 4,6. 昭5(1930).

3639. **廣瀬金之助**: 人眼輪匝筋ノ形態ニ關スル肉眼的觀察(會). [九大醫報] 5,5. 昭6(1931).

3640. **池田一二**: M. styloauricularisニ就テ(會). [九大醫報] 6,6. 昭7(1932).

3641. —: 人間並ビニ二三動物ニ於ケル下耳殼筋ニ就テ(豫報). [解剖誌] 4,12. 昭7(1932). [人, 犬, 猪, 家兔].

3642. **廣瀬金之助**: 眼輪匝筋淚囊部ノ形態ニ就テ(會). [九大醫報] 6,6. 昭7(1932).

3643. **池田一二**: 日本人並ビニ二三動物ニ於ケル下耳殼筋ノ比較形態學的觀察(會). [耳鼻] 5,3. 昭7(1932).

3644. —: 死刑囚ノ「トーチンマスク」其腦及ビ體構觀察. 其三: 死刑囚ニ於ケル耳筋ノ觀察. [犯罪學] 6,2. 昭7(1932).

3645. **中山雄一**: 支那人ノ咀嚼筋. [滿洲醫誌] 17,1. 昭7(1932). [50屍].

3646. **森 優**: 大及ビ小後頭直筋ノ觀察(會). [解剖誌] 6,4. 昭8(1933). [112例].

3. 頭 筋

3647. **岩田惣七**: 小斜角筋(M. scalenus minimus)ニ就テ. [十全會誌] 35,12. 昭5(1930). [人].

3648. **新藤省三**: 深部頭筋ト側部軀幹筋トノ關係ニ就テ(會). [九大醫報] 4,2. 昭5(1930).

- 3649. 平光吾一: 「アイヌ」人頸部諸筋ニ關スル知見(抄).【九大醫報】4,4. 昭5(1930).
- 3650. 進藤篤一: 邦人二腹頸筋ノ觀察(抄).【九大醫報】6,6. 昭7(1932).
- 3651. 森優: 胸骨舌骨筋, 胸骨甲狀筋, 肩胛舌骨筋ニ於ケル異常例.【醫研究】6,2. 昭7(1932).
- 3652. 平光吾一: 「アイヌ」人體質ノ研究(其十四).【人類誌】47,7. 昭7(1932).【アイヌ人二腹頸筋ノ破格ニ就テ】.
- 3653. 山田進: 日本人胎兒及ビ初生兒ニ於ケル二腹頸筋ニ就テ.【慶應醫學】13,12. 昭8(1933).

4. 胸筋

- 3654. 後藤武彦: 小胸筋及ビ大胸筋胸骨部缺如.【醫新聞】382. 明25(1892).
- 3655. 足立文太郎: 生體ニ於テ胸骨筋(M. sternalis)ヲ検査スルコトニ就テ.【東京醫會誌】11,2. 明30(1897).【人】.
- 3656. 武谷廣吉: 片側ニ於ケル大, 小胸筋ノ先天性全部缺損症ノ三例. 附: 右手利左手利ノ由來ニ就テノ一小追加.【福岡醫大誌】3,1. 明42-43(1909-10).
- 3657. 猪飼勘三郎: 先天性大胸筋缺損ノ一例(繪).【軍醫圖】48. 大2(1913).【壯丁】.
- 3658. 飯島茂: 大胸筋先天性缺損ノ一例.【軍醫圖】40. 大2(1913).【現役兵】.
- 3659. 宇野規矩治: 胸筋缺損症ノ一例.【東兒島醫誌】2,4. 大14(1925).
- 3660. 村上鼎: 先天性大胸筋缺損ノ二例.【東京醫誌】2486. 大15(1926).
- 3661. 二井一馬: 生體ニ於ケル胸骨筋ニツキテ(會).【十全會誌】32,7. 昭2(1927).
- 3662. 田村豊: 先天性大胸筋缺損症ノ一例(會).【東京醫誌】2560. 昭3(1928).
- 3663. Taniguchi, Toratoshi: Zur Kenntnis des M. sternalis bei den Japanern nebst Bemerkungen über dessen häufigeres Vorkommen bei den Anenkephalen.【Fol. anat. jap.】9,1. 昭5(1930).
- 3664. 二井一馬: 生體ニ於ケル胸骨筋(Musculus sternalis)ニ就テ.【十全會誌】35,1. 昭6(1931).
- 3665. —: 胸骨筋(Musculus sternalis)ニ就テ.【十全會誌】36,2. 昭6(1931).
- 3666. 谷口虎年, 板原潤: 日本人胎兒ニ於ケル胸骨筋ニ就テ(會).【解剖誌】5,7. 昭7(1932).

- 3667. 崎間敏子: 支那人ノ胸骨筋ニ就テ.【滿洲醫誌】17,3. 昭7(1932).【男子34屍】.
- 3668. 八田稠: a. 筋性大胸筋腋弓ノ一例. b. 所謂「翠丸結石」ノ一例.【九大醫報】6,1. 昭7(1932).
- 3669. 森田信: 胸骨筋ノ觀察(會).【解剖誌】6,4. 昭8(1933).
- 3670. 谷口虎年, 望月大太郎: 無腦兒ニ於ケル胸骨筋(M. sternalis)ニ就テ.【臨床産婦人科】8. 昭8(1933).【18例】.
- 3671. 谷口虎年, 板原潤: 日本人ニ於ケル胸骨筋(M. sternalis)ノ研究. 第二報: 日本人胎兒及ビ無腦兒ニ就テ.【解剖誌】5,12. 昭8(1933).

5. 腹筋

- 3672. 佐野好, 久木田重雄: 日本人(九州地方)ノ腹直筋ニ就テ(抄).【九大醫報】5,1. 昭6(1931).
- 3673. 喜多豪: 日本人ノ腹直筋.【解剖誌】3,12. 昭6(1931).
- 3674. 日比正志: 北陸日本人ノ腹直筋ニ就テ.【金澤解剖業績】9. 昭7(1932).
- 3675. 森田信: 雜體筋ノ形態ニ就テ(其一)(抄).【九大醫報】7,2. 昭8(1933).

6. 横膈膜

- 3676. 澤田敬義: 偏側ノ横膈膜高位(Eventratio diaphragmatica)ノ一例.【北越醫會誌】29,1. 大3(1914).【人】.
- 3677. 松田茂: 先天性横膈膜一部缺損. 附: 假性横膈膜「ヘルニア」.【十全會誌】22,4. 大6(1917).
- 3678. 山本伊勢男: 先天性横膈膜「ヘルニア」二例ニ就テ.【福岡醫大誌】12,3. 大8(1919).
- 3679. 新保十寸穂: 横膈膜筋榮養ト神經支配ニ就テ.【福岡醫大誌】15,1. 大11(1922).
- 3680. 工藤得安: 横膈膜缺損症「デモンストラチオン」(抄).【北越醫會誌】39,1. 大13(1924).【男性及ビ女性胎兒各1例】.
- 3681. 原實: 小兒ニ於ケル横膈膜位ニ就テ(會).【國門會】29. 大15(1926).
- 3682. 宇田川與三郎: 横膈膜「ヘルニア」ノ一例.【兒科誌】314. 大15(1926).【女兒】.
- 3683. 天野利隆: 日本人ノ呼吸時ニ於ケル横膈膜穹窿ノ移動.【繪報】5,1. 昭2(1927).
- 3684. 柳澤信賢: 右側横膈膜下腔内ニ消化器系統ノ一部嵌ルニ就テ(會).【日レントゲン會誌】5,3. 昭2(1927).

- 3685. 佐藤達二: 小兒横膈膜ノ位置穹窿及ビ運動ニ關スル研究. 附: 横膈膜高位症ノ數例(抄).【兒科誌】342. 昭3(1928).【小兒】.
- 3686. 林信雄: 横膈膜形態ノ年齢的差異.【日レントゲン會誌】8,2. 昭5(1930).
- 3687. 森衛: 横膈膜「ヘルニア」ノレントゲン所見ニ就テ.【 Grenzgeb.】4,8. 昭5(1930).
- 3688. 林信雄: 横膈膜像ノ形態的觀察(レントゲン研究).【日レントゲン會誌】8,3,5. 昭5-6(1930-31).【人】.
- 3689. 池本五月: 横膈膜ニ於ケル食道裂孔及ビ大動脈裂孔ノ位置ニ就テ.【金澤解剖業績】5. 昭6(1931).【人】.
- 3690. 黒津敏行: 邦人ラルレイ氏間隙ニ就テ.【解剖誌】4,2. 昭6(1931).【成人屍】.
- 3691. 三谷茂: 初生兒ノ横膈膜「ヘルニア」四例.【日醫新報】478. 昭6(1931).
- 3692. 山田銀男: 成人ニ於ケル左側横膈膜缺損ノ一例.【解剖誌】5,12. 昭8(1933).
- 3693. 井上數雄: 横膈膜皺襞(Zwerchfellfalte)ニ就テノ考察.【日レントゲン會誌】11,1. 昭8(1933).
- 3694. 小池上春芳: トンドルフ氏食道性横膈膜「ヘルニア」(Hernia diaphragmatica vera oesophagea von Tonndorf)ニ就テ.【解剖誌】6,4. 昭8(1933).【男性屍】.

7. 上肢筋

- 3695. 金子治郎: 腋窩弓及ビ上膊弓ニ關スル筋束.【阪醫研誌】27. 明23(1895).【人】.
- 3696. 北島經夫, 齋藤精作: 腋窩弓内ニ現ハレタル兩側性筋束ノ一例.【研瑤誌】81. 明40(1907).【人】.
- 3697. 佐野好: 「アイヌ」人體質ノ研究(其九).【人類誌】45,12. 昭5(1930).【アイヌ人及ビ日本人ノ深指屈筋束ニ就テ】.
- 3698. —: 「アイヌ」人及ビ日本人ノ長拇外轉筋(M. abductor pollicis longus)ニ就テ(抄).【九大醫報】4,3. 昭5(1930).
- 3699. —: 「アイヌ」及ビ日本人ノ深指屈筋副束ニ就テ(抄).【九大醫報】4,4. 昭5(1930).
- 3700. —: 「アイヌ」人ノ上肢筋ニ就テ.【福岡醫大誌】24,1. 昭6(1931).

8. 下肢筋

- 3701. 河内監次郎, 安宅治六: 副長總趾屈筋ニ就テ.【十全會誌】4. 明30(1897).【人】.

- 3702. 中島實三, 中西致太郎: 腓腸筋ノ異常.【十全會誌】5. 明31(1898).【人】.
- 3703. 杉山九一: 日本人ニ於ケル腓腸筋種子骨ノ調査.【北越醫會誌】29,3. 大3(1914).
- 3704. 工藤得安: 日本人ノ踵腱膜ニ就テ.【北越醫會誌】31,2. 大5(1916).
- 3705. 大串菊太郎: 小腰筋, 腸腰筋及ビ方形腰筋ノ比較解剖學的知見補遺. 並ニ人ニ於ケル同名筋ノ一二ノ畸型ニ就テ(會).【十全會誌】22,3. 大3(1917).【人, 猿猴類, 猴類, 狐, 犬】.
- 3706. Yano, Kenji: Das Os sesamoideum musculi gastrocnemii lateralis bei den Japanern.【Fol. anat. jap.】6,3. 昭3(1927).
- 3707. 椎名順二: 方形腱筋ノ異常ニ就テ(抄).【九大醫報】3,3. 昭4(1929).
- 3708. 森優: 直股筋ニ於ケル神經進入ノ部位ニ就テ(抄).【九大醫報】3,3. 昭4(1929).
- 3709. 河野通成: 梨子狀筋ニ就テ.【解剖誌】2,6. 昭5(1930).【成人屍】.
- 3710. 椎名順二: 上仔筋ト尾閥筋トノ結合セル二例(抄).【九大醫報】4,2. 昭5(1930).
- 3711. —: 「アイヌ」人ノ下肢筋ニ就テ.【福岡醫大誌】24,4. 昭6(1931).
- 3712. 板原潤, 小野澤武男: 日本人ニ於ケル第三腓腸筋(M. gastrocnemius tertius)ニ就テ.【解剖誌】5,5. 昭7(1932).
- 3713. 劉曜曦: 支那人ノ足背筋ニ就テ.【滿洲醫誌】17. 昭7(1933).【50屍, 100足】.
- 3714. 三浦義儀: 一卵性雙胎兒髀部筋ノ比較研究. 第一報: 外腕筋ノ比較研究.【解剖誌】5,3. 昭7(1932).
- 3715. —: 一卵性雙胎兒髀部筋ノ比較研究. 第二報: 内腕筋ノ比較研究.【解剖誌】5,3. 昭7(1932).
- 3716. 鄧一千: 朝鮮人腓腸筋ノ種子骨ニ就テ.【解剖誌】6,4. 昭8(1933).【朝鮮人】.
- 3717. 山田和麻呂: 大腿後側ニ於ケル一筋ニ就テ.【解剖誌】6,8. 昭8(1933).

9. 腿ト踵筋

- 3718. 新井春次郎: 腿ノ血管.【東京醫會誌】22. 1. 明41(1908).
- 3719. 横室彦四郎: 本邦人ノ踵筋ニ就テ(會).【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 3720. —: 邦人手ノ踵筋ニ就テ(1-5).【日醫大誌】4,2-6. 昭8(1933).

10. 筋ト腱(動物)

3721. 池田作次郎: 蠶兒軀幹ノ筋肉系(續). 【動物誌】5,54. 明26(1893).

3722. 石渡繁胤: 蠶兒ノ胸部ト腹部ヲ連接スル筋肉. 【動物誌】8,95. 明29(1896).

3723. 大澤岳太郎: 顔面筋ニ就テ. 【東京醫誌】1100. 明32(1899). [犬, 馬, 猿, 牛, 猪, 等].

3724. 吳建, 平松壽平, 内藤八郎: 横膈膜神經ノ支配ト其ノ緊張及ビ横膈膜緊張ト交感神經ノ分枝. 【醫新聞】897. 大3(1914). [家兔].

3725. Takahashi, Nisuke: On the homology of the median longitudinal muscles-Supracarinalis and Infracarinalis-with the fin-muscles of the dorsal and anal fins, and their functions. 【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】6,3. 大4-10 (1915-21). [Cyprinus carpio, Pagrosomus major, Scomber japonicus etc.].

3726. 西成甫: 骨盤出口諸筋ノ發生分化. 【東北醫誌】2,2. 大9(1917). [魚類, 兩棲類, 爬蟲類].

3727. —: 骨盤出口諸筋ノ發生分化(補遺). (東北醫誌) 3,2. 大7(1918). [鳥類, 哺乳類].

3728. Nishi, S.: Zur vergleichenden Anatomie der Muskeln des Beckenausganges, Musculi exitus pelvis. 【Arb. anat. Inst. Sendai】3. 大8(1919). [Fische, Amphibien, Reptilien, Vögel].

3729. 小山準二: 圓口類軀幹筋ノ比較解剖. 【動物誌】31,370-372. 大3(1919). [五屬五種].

3730. —: 「圓口類軀幹筋ノ比較解剖」追加及ビ補遺. 【動物誌】32,378. 大9(1920). [1. ムラサキメダウナギ(Eptatretus okinoseanus (Dean)). 2 大スナヤツメ(Lamipetra paneri (Bloeh))].

3731. Nishi, S.: Die Muskeln des Schultergürtels der Chimären und ihre vergleichende Anatomie. 【Arb. anat. Inst. Sendai】5. 大9(1920). [Chimaera phantasma].

3732. 安部遠藏: 馬ニ於ケル淺指(趾)屈筋ノ作用ニ就テ. 1. 【中央醫誌】33,8. 大9(1920).

3733. —: 馬ニ於ケル淺指(趾)屈筋ノ作用ニ就テ. 2. 【中央醫誌】34,12. 大10(1921).

3734. Nishi, S.: Ein Beitrag zur Anatomie des Muskelsystems der Monotremen. Vergleichende Anatomie der Mm. costonuchalis, dorsonuchalis und dorsofascialis (Mm. trapezii dorsocutanei). 【Arb. anat. Inst. Sendai】6. 大10(1921).

3735. 西成甫: 僧帽筋ノ神經支配ニ就テ. 【日醫界】10,42. 大10(1921). [兩棲類, 魚類].

3736. Nishi, Seiho: Über die Innervation der segmentierten Muskeln. 【Fol. anat. jap.】1,2. 大11(1922) [Macacus rhesus].

3737. —: Beiträge zur vergleichenden Anatomie der Augenmuskulatur. 【Arb. anat. Inst. Sendai】7. 大11(1922). [Chlamydoselachus aguineus, Entosphenus jap.].

3738. 寺田 要: 蹄前屈筋ノ停止部ト同筋断裂ノ關係ニツイテ. 【陸軍獸醫報】150. 大11(1922). [馬].

3739. Nishi, Seiho: Zur Morphologie des M. trapezius. 【Fol. anat. jap.】1,4. 大11(1922). [Sclachier, Chimären].

3740. —: Über die allgemeine Differenzierung der Stammuskulatur. I. Phylogenetische Differenzierung der Stammuskulatur bei Fischen. 【Fol. anat. jap.】1,6. 大12(1923).

3741. 黒田源次: 日本産鰻ノ上肢諸筋ノ神經支配ニ就テ. 【京都醫誌】20,5. 大12(1923).

3742. Nishi, Seiho: Pri la ĝenerala diferencigo del trunkomuskolaro. II. Diferencigo de l'trunkomuskolaro ĉe amfibioj, reptilioj kaj mamuloj. 【Fol. anat. jap.】3,1. 大14(1925).

3743. 及川 周: Untersuchungen über Cetacea 19. Über die Zusammensetzung von Sehne und Sklera. Darstellung von d-Aminobuttersäure aus Sklera. 【Jap. J. of med. Sci., II. Bio. chem.】1,1. 大14-昭7(1925-32).

3744. 小寺隆太郎: 「スツボン」及ビ「ヤマガメ」ニ於ケル背甲後頭基底筋及ビ肋腹膜張筋ニ就テ. 【醫研究】3,2. 昭4(1929).

3745. 池田一二: 家兎耳朶筋ニ關スル知見(抄). 【九大醫報】5,5. 昭6(1931).

3746. 森田 信: 熊ノ前肢筋ニ就テ(抄). 【九大醫報】6,6. 昭7(1932).

3747. 田崎貞夫: 大山椒魚ノ Kopinesoderm 特ニ其筋發生. 【千葉醫會誌】11,12. 昭8(1933).

3748. 森田 信: 熊ノ上肢筋ニ就テ(其二)(抄). 【九大醫報】7,2. 昭8(1933).

3749. 山根定吉, 佐藤雄壽: 蹄前屈筋裂ノ發生部位ニ關スル實驗的研究. 【陸軍獸醫報】289. 昭8(1933).

11. 發電器

3750. 小池巖雄: 本邦産電氣鰻ニ就テ. 【醫新聞】711. 明39(1906). [人].

3751. —: 本邦産電氣鰻(Astrape japonica)ノ生理學的研究ニ關スル第一報. 【京都醫誌】3,1. 明39(1906).

3752. 石森國臣: 「アストラベ」(電魚)ノ電氣機關ノ精構及ビ其ノ反復放電後ニ於ケル形態

的變化. 【東京醫會誌】21,24. 明40(1907).

3753. —: 本邦産發電鰻(Astrape japonica)ニ於ケル形態上ノ特徴ニ就テ. 【愛知醫事同窓誌】18. 明40(1907).

3754. — (Ishimori, Kuniomi): Die feinere Struktur des elektrischen Organes von Astrape und seine morphologischen Veränderungen nach wiederholten Entladungen. 【愛知醫事同窓誌】21-25. 明41-42(1908-09).

4. 内 臟

1. 内臟一般

3755. 大澤岳太郎: 有刺「ハツテリア」ノ内臟學追加. 【東京醫誌】1049. 明30(1897).

3756. 吉永虎雄: 大蛇ノ内臟. 【東京醫誌】14,3. 明33(1900).

3757. 大澤岳太郎: 「ハツテリヤ」内臟論. 【東京醫誌】1135,1136,1147,1155,1188,1214,1216. 明33-34(1900-01).

3758. 河野徹志: 胃ト子宮ニ分布スル神經ノ相互的關係ヲ論ジテ其臨床的觀察ニ及ブ. 【日消化會誌】2. 明36(1903). [人].

3759. 土屋岩保: 山梨地方病所謂肝脾肥大病ノ研究報告【日消化會誌】3,3. 明37(1904). (Schistosomium japonicumノ動物學的記載).

3760. 唐澤光徳: 日本人小兒ノ脾臟, 肝臟, 腎臟ノ大サ測定. 【兒科誌】73. 明39(1906).

3761. 菅井竹吉: 生前及ビ死後ニ於ケル内臟ノ位置ノ變化. 【阪醫會誌】6,1. 明40(1907). [人].

3762. 根守秀夫: 日本人小兒ノ肝臟, 脾臟下緣ノ測定. 【兒科誌】83. 明40(1907).

3763. 大澤岳太郎: 鯉魚ノ内臟器研究豫報. 【第二回日醫會誌】. 明40(1907).

3764. —: 鯉魚ノ内臟ニ就テ. 【醫海時報】710. 明41(1908).

3765. Osawa, Gakutaro: Beiträge zur Lehre von den Eingeweideorganen des japanischen Riesensalamanders. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】8. 明42(1909).

3766. 村田宮吉: 鯉魚内臟器血管分布状態ニ就テ. 【醫新聞】778. 明42(1909).

3767. Murata, M.: Über die Verbreitungsweise der Blutcapillaren in den inneren Organen von Cryptobranchus japonicus. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】9. 明44 (1911).

3768. 松尾 巖: 肝臟ト肺臟. 【醫海時報】1719. 大2(1913).

3769. Oka, Asajiro (丘淺次郎): Ein neuer Fall von der Ausstossung der Eingeweide bei den Ascidien. 【Annot. zool. jap.】9,4. 大4-9 (1915-20). [Styela clavata].

3770. 工藤得安: 邦人ノ二三ノ臟器ニ就テ知見補遺. 【北越醫會誌】32,1. 大6(1917). [1. 心臟. 2. 大腸, 腹膜, 腹膜. 3. 腸. 4. 脾, 肝].

3771. 田口碩臣: 北米産鰻魚ノ内臟顯微鏡的検査ニ就テ. 【東京醫會誌】31,15. 大6(1917).

3772. Taguchi, Hiroto: Beiträge zur Kenntnis über die feinere Struktur der Eingeweideorgane der Krokodile. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】25,1. 大10(1921).

3773. Kubo, Takeshi: Anatomisch-anthropologische Untersuchungen an Koreanern. A. Allgemeiner Teil: Gewichtsverhältnisse der einzelnen Organsysteme der Koreaner im Vergleich mit Japanern. 【Mitt. med. Akad. Keijo】5. 大11(1922).

3774. Tokumitsu, Yoshitomi: Studies in the metamorphosis of the Liver and Spleen; the effect upon the hepatic function of a metamorphosis of the Liver and Spleen caused by an abnormal circulation in the Liver. 【Mitt. med. Akad. Keijo】6. 大12(1923).

3775. 小林藤治: 家兎ノ骨髄肝臟及ビ脾臟ニ於ケル鐵嗜好細胞並ニ「カルミン」嗜好細胞ニ就テ. 【東京醫會誌】38,12. 大13(1924).

3776. 社稜山人: 再ビ肝腎ノ相似性ニ就テ. 【醫海時報】1649. 大15(1926).

3777. 淺井四郎: 内臟知覺ノ二重神經支配法則. 第一報: 腹腔内臟ニ就テ. 第二報: 胸腔内臟ニ就テ. 【京都醫誌】23,5-7. 大15(1926). [家兔].

3778. 佐野 繁: 健康ナル本邦人屍内臟重量ノ統計的觀察. 【北越醫會誌】41,4-6. 大15(1926).

3779. 服部大作: 邦人腹腔諸臟器ノ位置及ビ形態ニ就テ. 【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [成人, 小兒, 初生兒, 胎兒].

3780. 佐々木哲丸: 生長經過中ニ於ケル臟器ノ重量的變化, 殊ニ腸管各部ノ發育ニ就テ. 【兒科誌】332. 昭3(1928). [家兎ノ肝, 腎, 心, 脾, 副腎, 睾丸, 卵巢, 胃, 小腸, 大腸, 盲腸, 蟲様突起].

3781. —: 饑餓時ニ於ケル臟器ノ重量的變化ノ年齡的差異ニ就テ. 【兒科誌】343. 昭3(1928). [家兎臟器].

3782. 工藤得安: 副腺 = 就テ(會).【解剖誌】1, 1, 昭3(1928).

3783. Sato, Hiroshi (佐藤 照): The relative weight of the organs of Dogs.【Tohoku J. exp. Med.】16,5-6, 昭5(1930).

3784. 高橋清夫: 肝脾造影.【レントゲン會誌】10,2, 昭7(1932).

3785. 中野 輝: 「アイヌ」人體質ノ研究.「アイヌ」人内臓ノ肉眼の精査.第一篇, 第二篇.【北海道醫誌】10,3,11,1, 昭7(1932).

3786. 横石敏夫: 胎兒内臓重量ノ統計的研究.【東京醫會誌】47,10, 昭8(1933).

3787. 水田信夫: 肝臟機能ト腎臟機能トノ關係.【日內會誌】21, 昭8-9(1933-34).【肝, 腎, 組織 = 關シ記載アリ】.

2. 消化器

消化器一般

3788. 久保 武: 日本人消化管調査(第一報).【東京醫會誌】20,8-10, 明39(1906).

3789. —: 日本人ノ消化管調査.【愛知醫專同窓誌】17, 明39(1906).

3790. 澤村榮美: 腸管及ビ腸間膜 = 疼痛ノ有無如何(生理學的及ビ組織學的研究)(會).【醫新聞】879, 大2(1913).【人, 家兔, 犬, 豚】.

3791. —: 腸管及ビ腸間膜ノ知覺問題ノ生理學的及ビ組織學的研究.【東京醫會誌】27,11, 大2(1913).【犬, 豚, 家兔, 人】.

3792. Osawa, Gakutaro: Beiträge zur vergleichenden mikroskopischen Anatomie der Wirbeltiere. I. Mitt.: Verdauungsorgane der Anuren.【Mitt. med. Fak. Tokyo】13, 大4(1915).

3793. 長濱宗信: 初生兒及ビ哺乳兒ノ胃ノ容量ト腸管ノ長さ(抄).【兒科誌】176, 大4(1915).

3794. 工藤得安: 猿ノ腸及ビ腸間膜ノ知覺 = 關スル人類學的觀察(抄).【北越醫會誌】30,3, 大4(1915).

3795. Osawa, Gakutaro: Beiträge zur vergleichenden mikroskopischen Anatomie der Wirbeltiere. II. Mitt.: Verdauungsorgane der Urodelen und Gymnophionien.【Mitt. med. Fak. Tokyo】18,4, 大6(1917).

3796. 須田謙一郎: 胃腸上皮 = 於ケル「クローム」親和性細胞 = 就テ.【京都醫誌】15,6, 大7(1918).【人, 犬, 豚, 家兔, モルモット, マウス】.

3807. 久保 武: 朝鮮人ノ人種解剖學的研究(第四報).【朝鮮醫會誌】30-31, 大9(1920).【口腔, 歯牙, 舌, 唾液腺, 食道, 胃, 小腸, 大腸, 肝, 脾】.

3808. 大庭國紀: 「フ, ロゲニ」(種族的)ノ範圍 = 於ケル消化器管粘膜 = 出現スル細胞群ノ檢索, 特ニパネート氏細胞(Panethsche Zellen) = 對スル疑義.【日消化會誌】23,6, 大13(1924).【シマヘビ其ノ他】.

3809. —: Elaphe quadrivirgata (「シマヘビ」)ノ消化管 = 出現スル細胞群 = 就テ.【東北醫誌】7,3, 大13(1924).

3800. 松尾 巖: 胃ト十二指腸トノ境界ノ問題.【醫海時報】1598, 大14(1925).

3801. 平野啓司: 脊椎動物ノ胃腸粘膜固有層 = 於ケル白血球 = 就テ.【日微生物誌】20, 大15(1926).

3802. 岡林秀一: 妊娠ト消化管トノ關係.【實驗消化病】2,6-8, 昭2(1927).【人】.

3803. 進 文雄: 脊椎動物ノ消化管 = 於ケル神經系統ノ比較解剖學的研究.【醫研究】4,7, 昭5(1929).【家兔】.

3804. 橋 冬雪: 胎兒ノ生物學(一). 消化器系統 = 就テ.【近畿醫誌】12,5, 昭4(1929).【人胎兒】.

3805. 赤染種章: 胃並ニ十二指腸ノ神經支配 = 關スル實驗的研究.【醫研究】3,1, 昭4(1929).

3806. 藤田義信: 哺乳動物 = 於ケル腸間膜終緣部及ビ腸管 = 分布スル血管系ノ比較解剖學的觀察.【醫研究】3,4, 昭4(1929).

3807. 藤本竹平: 消化管及ビ肺臟 = 於ケル「カルミン」顆粒細胞並ニ鐵顆粒細胞ノ分布 = 就テ.【東京醫會誌】43,5, 昭4(1929).【家兔】.

3808. Uta, Kiyoshi: Über die Entwicklung der Zungenbälgrüsen und Mandeln beim Menschen.【Fol. anat. jap.】7,1-2, 昭4(1929).

3809. 吳 建: 胃腸神經支配 = 關スル新見.【日消化會誌】29,4, 昭5(1930).【犬, 脊椎副交感神經系ノ解剖學的記載】.

3810. —: 胃腸神經支配 = 關スル新見.【醫海時報】1861, 昭5(1930).

3811. 野村恒一: 胃及ビ腸管 = 於ケル神經分布 = 就テノ組織學的研究.【日病理會誌】20, 昭4(1930).【人, 犬, 兔, 海狸, 雞, 鳩, 龜, サンセウウオ】.

3812. —: 消化管 = 於ケル神經分布ノ組織學的研究. 第一編: 消化管 = 於ケル神經分布ノ正常組織學的研究 = 就テ.【京府醫大誌】4,6, 昭5(1930).【犬, 家兔, 海狸, 白鼠, 鳩, 雞, 「サンセウウオ」】.

3813. 笹川久吾: 消化系統.【生理研究】7,1, 昭5(1930).【解剖學講義アリ】.

3814. 細屋 研, 工藤得安: 兩棲類ノ肝及ビ脾ノ發生 = 就テ.【解剖誌】4,4, 昭6(1931).

3815. 田川重三郎: 胃及ビ十二指腸粘膜皺襞像 = 就テ.【東京顯微鏡會誌】38,4, 昭6(1931).【人】.

3816. 張乃廣: 人胎兒消化管ノ生理的檢索. 第一編: 胃ノ發生 = 關スル組織學的研究補遺. 第二編: 小腸ノ發生 = 關スル組織學的研究補遺.【近畿醫會誌】14,3, 昭6(1931).【胎兒, 初生兒】.

3817. —: 人胎兒消化管ノ生理的檢索. 第三編: 大腸及ビ直腸突起ノ發生 = 關スル組織學的研究補遺. 第四編: 胎生期 = 於ケル胃神經分布ノ組織學的研究. 第五編: 胎生期 = 於ケル小腸神經分布ノ組織學的研究. 第六編: 胎生期 = 於ケル大腸神經分布ノ組織學的研究. 第七編: 人胎胃內容 = 就テ.【近畿醫誌】15,5, 昭7(1932).【胎兒, 初生兒】.

3818. Cho, D.: Histological investigation of the digestive tract of the Human Fetus. 4. Histological investigation of nerves in the stomach, small and large intestines of the Human Fetus.【Jap. J. of Obst. and Gyn.】15,6, 昭7(1932).【9 fetuses】.

3819. 本多 稔: 消化器管ノ形態及ビ運動機能 = 關スル研究(3).【岡山醫會誌】45,12, 昭8(1933).【人】.

3820. 渡邊 保: 人腸粘膜上皮細胞, 人胃幽門部粘膜上皮細胞, 人幽門腺上皮細胞並ニ人十二指腸腺上皮細胞 = 於ケル「ミトコンドリア」ノ室温放置 = ヨル時間的變化 = 就テ.【福岡醫大誌】26,1, 昭8(1933).

口腔一般, 口唇

3821. 原 正: 鯉及ビ鮒ノ口蓋粘膜 = 於ケル上皮層 = 就テ(抄).【北越醫會誌】29,6, 大3(1914).

3822. —: 圓口類及ビ魚類ノ口腔粘膜 = 就テ(會).【東京醫誌】1908,大5(1916).【カハヤツメ, ウナギ, フグ, ウメヅラハギ, キス, 鯉, 鮒】.

3823. 峯 正意: 日本人 = 於ケル口腔粘膜ノ色素沈着 = 就テ.【皮膚誌】28,4, 昭3(1928).

3824. 福島尙純: 赤ソ坊ノ口.【日齒界】105, 昭4(1929).

3825. 兼重 孜: 日本人ノ唇縁 = 於ケル獨立皮脂腺 = 就テ.【解剖誌】4,4, 昭9(1931).【出生ヨリ老年 = 至ル健康人 2604名】.

3826. —: 日本人ノ口唇色彩ノ研究.【解剖誌】4,10, 昭7(1932).

3827. Nishiyama, Yukio: Beiträge zur Kenntnis der Morphologie und Entwicklung des

Ackerknecht'schen Organs.【Keijō J. of Med.】4,4, 昭8(1933).【Säugetiere, Mensch】.

唾腺(口腔腺)

3828. 赤座壽憲吉: 邊緣細胞集團(Randzellen-complexe)ヲ論ジ口腔腺ノ本性 = 及フ.【東京醫會誌】24,17-19, 明43(1910).【犬, 猫, 豚, 猿, 人】.

3829. 小川陸之輔: 耳下腺ノ形態 = 就テ.【京都醫誌】15,3, 大7(1918).【人】.

3830. 土屋直義: 耳下腺ノ機能 = 關スル研究. (上下).【日新醫學】14,8-9, 大14(1925).【家兔, 耳下腺及ビ生組織ノ解剖アリ】.

3831. 安達鳥次: 臺灣蕃人ノ耳下腺 = 就テ(會).【臺灣醫會誌】25, 大15(1926).

3832. 松尾 巖: 耳下腺ト顎下腺.【醫海時報】1608, 大15(1926).

3833. 秋吉真文: 胎生初生兒及ビ小兒 = 於ケル耳下腺ノ組織學的變化特ニソノ粘液細胞ノ出現 = 就テ.【解剖誌】2,2,【長崎醫會誌】7,1, 昭4(1929).

3834. Honda, Rikita: The Golgi apparatus in the glandular cells of the submaxillary gland of the adult Albino Rat.【Fol. anat. jap.】7,3, 昭4(1929).

3835. 比企能達, 伴 俊男, 赤崎兼義, 瀧澤延次郎: 唾液腺ノ實驗的研究.【日病理會誌】20, 昭5(1930).【家兔, 犬】.

3836. 内村省三: Einflüsse der Exstirpation der Speicheldrüsen auf verschiedene Organe, insbesondere auf die endokrinen Drüsen.【日本醫學報】1, 昭5(1930).【Hund】.

3837. Nishioka, Kan'ichi (西岡勘一): Some histological observations on the submandibular gland of the Rabbit.【Annot. zool. jap.】13,4, 昭5-7(1930-32).【Rabbit】.

3838. 石田俊孝: 唾液腺ノ内分泌機能 = 就テ.【實驗醫報】17,193, 昭5-6(1930-31).【人及ビ家兔唾液腺ノ胎生學的, 系統及ビ比較解剖學的の知見アリ】.

3839. 福武敏重: 生體染色ノ所見ヲ顯慮シタル Cholesterin 及ビ Lecithin ノ口蓋扁桃腺細胞 = 及ボス拮抗作用 = 就テノ研究.【岡山醫會誌】43,495, 昭6(1931).【家兔】.

3840. —: KCl 及ビ CaCl₂ ノ口蓋扁桃腺 = 及ボス拮抗作用 = 關シ生體染色ノ成績ヲ顯慮シタル組織學的研究.【岡山醫會誌】43,496, 昭6(1931).【家兔】.

3841. 安達鳥次: 臺灣蕃人耳下腺ノ形態 = 就

テ。【臺灣醫會誌】30,310. 昭6(1931).

3842. 遠藤壽太: 家兎顎下腺★細胞ニ關スル實驗的研究。【岡山醫會誌】44,9. 昭7(1932).

3843. Nishiyama, Yukio: Beitrag zur Kenntnis der Entwicklung der Glandula submaxillaris beim Kaninchen, nebst Bemerkungen über die Entstehung der sogenannten Bergmannschen Drüsen. 【Keijō J. of Med.】3,4. 昭7(1932).

3844. 遠藤壽太: CaCl₂ 及ビ KCl ノ家兎顎下腺★細胞ニ及ス作用ニ就テ。【岡山醫會誌】44,9. 昭7(1932).

3845. 平光吾一: 下顎齒列後端ニアル口腔腺ノ取扱ニツイテ。【九大醫報】6,3. 昭7(1932).

3846. 梅津元昌: 血液分析ト對照セル牛唾液ノ成分ニ就テ。【日獸醫會誌】11,4. 昭7(1932).

3847. 久木田重雄: Glandula retromolaris ノ本態ニ就テ。【解剖誌】6,4. 昭8(1933). [人].

3848. 西村慎次郎, 他六氏: 唾液腺ノ内分泌ニ就テ(第四編)。【東京醫會誌】47,7. 昭8(1933). [犬].

3849. 比企能達, 赤崎兼義, 宮崎吉夫, 瀧澤延次郎, 伴俊男: 唾液腺ノ内分泌ニ就テ(1)。【東京醫會誌】47,5-6. 昭8(1933). [犬].

3850. 宮崎吉夫: 唾液腺ノ内分泌ニ就テ(2)。【東京醫會誌】47,9. 昭8(1933). [犬].

3851. 瀧澤延次郎: 唾液腺ノ内分泌ニ就テ(3)。【東京醫會誌】47,11. 昭8(1933). [犬].

3852. 伴俊男: 唾液腺ノ内分泌ニ就テ(4)。【東京醫會誌】47,12. 昭8(1933). [犬].

3853. 出射一郎: 家兎顎下腺ノ分泌機轉ニ關スル組織學的研究。(第1-3報)。【岡山醫會誌】45,5,9,10. 昭8(1933). [家兎].

3854. 赤崎兼義: 唾液腺ノ内分泌ニ就テ(5)。【東京醫會誌】47,8. 昭8(1933). [犬].

舌

3855. 國友 鼎: 日本人ノ舌輪廓様乳頭ニ就テ(會)。【東京醫誌】1714. 明44(1911).

3856. 尾關才吉: 本邦人舌合厭窩。【東京醫會誌】25,17. 明44(1911).

3857. 赤松純一: 本邦人ニ於ケル甲狀舌管殘胎ノ研究。附: 之ヨリ發生スル腫瘍乃至瘻管ニ就テ。【廣西醫報】176-177. 大7(1918).

3858. 執行作彌: 日本人舌ノ形態學的研究。【福岡醫大誌】15,7. 大11(1922).

3859. 西謙一郎: 日本人舌ノ輪廓様乳頭ニ就テ。附: 日本人舌ノ大サニ就テ。【千葉醫會誌】5,2. 昭2(1927).

3860. 岡田清之輔: 「マウス」ノ葉狀乳頭ノ發生ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

3861. 佐山光章: 支那人ノ舌合厭窩ニ就テ。【滿洲醫誌】13,5. 昭5(1930).

3862. 稻生 凌: 家兎舌ニ於ケル神經分佈経路並ニ神經終末ニ關スル研究。【日齒學會誌】昭6(1931).

3863. 阪井有隣: 舌並ニ口腔粘膜ノ「レチクロエンドテールシステム」ニ就テ。【大日耳鼻】36,12. 昭6(1931). [海猿, 家兎].

3864. 岡田清之輔: 「マウス」葉狀乳頭ニ就テ。【大日耳鼻】37,7. 昭6(1931).

3865. —: 「ラツテ」葉狀乳頭ニ就テ。【愛知醫會誌】39,4. 昭7(1932).

3866. 細屋 研: 大山椒魚ノ舌城ノ發生ニ就テ。【解剖誌】4,11-12. 昭7(1932).

3867. 久木田重雄: 「アイヌ」人舌ノ輪廓乳頭ニ就テ。【福岡醫大誌】25,12. 昭7(1932).

3868. —: 「アイヌ」輪廓乳頭ニ就テ(會)。【解剖誌】5,7. 昭7(1932).

3869. 稻生 凌: 家兎舌ニ於ケル神經分佈並ニ神經末梢ニ關スル研究。【日齒界】157-160. 昭8(1933).

3870. 土岐哲夫: 先天性舌繫帶短縮症ノ二例(會)。【口腔會誌】5,6. 昭8(1933).

齒

(1) 齒牙一般

3871. 井上鐵英: 鯨齒之說。【東京醫誌】81. 男12(1879). [人].

3872. 宮原 虎: 乳齒カ永久齒カ。【人性】11,3. 大4(1915). [人].

3873. —: 顎及ビ齒牙ノ人類學的研究(第一報)(會)。【東京醫誌】1939. 大4(1915).

3874. 加藤清治: 齒相論。人類齒牙ノ齒冠ト齒根トノ調和的關係。【日齒學會誌】大6(1917).

3875. 豐田 實: 齒牙ノ知覺。【日齒學會誌】大11(1922).

3876. 柴田 信: 鱗ト齒牙。【齒新報】17,3. 大13(1924).

3877. —: 齒牙連合隆線及ビ發育溝ノ成因ニ關スル余ノ波動說ニ就テ。【齒新報】17,12. 大13(1924).

3878. 柴田 信, 片山武夫: 人類齒牙齒冠發育溝ノ形狀(會)。【日齒學會誌】大15-昭1(1926).

3879. 本永七三郎: 若年期ニ於ケル齒牙。【京府醫大誌】102. 大15(1926). [人].

3880. 柴田 信: 日本學者ニ依リテナチレタル齒牙形態學ノ最近ニ於ケル進歩。【齒新報】19, 6. 大15(1926).

3881. 鈴木住三: 抜去セル乳齒永久齒ノ年齡部位ヲ基調トセル統計的觀察並ニ年齡及ビ性別ニヨル上下無齒顎ノ統計的觀察。【日齒學會誌】昭3(1928).

3882. 大山篤次郎: 年齡及ビ諸種内身疾患ヲ基調トセル齒周組織ノ狀態。【口腔科學會誌】2,1-2. 昭3-4(1928-1929). [人].

3883. 武重春己: 口腔。齒牙ヲ中心トセル顔面ノ美學的研究。【齒學報】35,9-12; 36,1-3. 昭5-6(1930-1931).

3884. 檜垣麟三: 所謂 Gottlieb 氏上皮附着部平滑剝離ニ關スル研究補遺。【口腔會誌】5,3. 昭6(1931).

3885. 花澤 鼎, 正木 正: 齒牙表面ニ於ケル成長増育線ノ觀察, 特ニ齒根發育線及ハ白暈質線條ノ存在ニ就テ。【齒學報】36,4. 昭6(1931).

3886. 山田越二: 日本人齒牙ノ人種解剖學的研究。【十全會誌】36,2. 昭6(1931).

3887. 白須賀輝雄: Anatomical relation between the mandibular canal and teeth. 【齒學報】37,1. 昭7(1932).

3888. 白江龍治: 上顎竇ト上顎齒牙トノ關係。【齒海公論】230. 昭7(1932).

3889. 三村勝彦: 屍體個人識別法トシテノ齒科ノ一考察。【海軍醫誌】21. 昭7(1932).

3890. 白藪美輝雄: 下齒槽管ト齒牙トノ關係ニ就テ。【齒醫學】3,1; 4,1. 昭7-8(1932-33).

3891. 村山信衛: 日本人齒牙ニ就テ。【熊本醫會誌】9,4. 昭8(1933).

3892. 内山有三: 邦人齒牙ノ咀嚼歴(會)。【日齒口會誌】50. 昭8(1933).

3893. 中村正雄: 金冠問題ニ關聯アル齒牙ノ形態學的諸事項ノ研究。【日齒口會誌】50. 昭8(1933).

3894. 惠 平治: 「ハブ」ニ關スル研究。毒牙及ビ毒腺ニ就テ。【口腔會誌】5,7. 昭8(1933).

(2) 技 術

3895. 今澤靜夫: 齒牙透明標本ニ就テ。【口腔學會誌】1,1. 昭2(1927).

3896. 永松壽海: 永松式齒牙透明標本ニ就テ。【日齒界】82. 昭2(1927).

3897. 山口秀雄: 自家考案臨牀陶齒ノ創製ニ關スル研究。特ニ日本人齒牙ノ生理的咬耗狀態ニ就テ。【齒新報】21,9. 昭3(1928).

3898. 齋藤 久: 基準齒形再現法ノ基礎及ビ術式。【齒學報】34,11-12; 35,4. 昭4-5(1929-30).

(3) 口腔検査ト齒牙検査

3899. 中川大介: 南滿洲ニ於ケル小學兒童齒牙検査成績。【齒學報】22,1. 大8(1917).

3900. 玉村澤吉: 北滿洲ニ於ケル日本小學兒童ノ齒牙検査成績。【齒學報】22,6. 大8(1917).

3901. 八百枝正泉: 歩兵第三十聯隊ニ於ケル陸軍下士兵卒ノ齒牙検査成績報告。【齒學報】23,12. 大7(1918).

3902. 矢野 貞, 榎塚隆二: 壯丁年齡ニ於ケル齶齒分佈並ニ智齒發生ノ狀況。附: 齒牙發生異常ニ就テ。【軍醫團】82. 大8(1919).

3903. 川上爲次郎, 遠藤至六郎: 中學生ノ齒牙検査成績。【齒學報】24,8. 大8(1919).

3904. 岩佐次男: 北九州ニ於ケル小學校學童ノ口腔検査成績。【齒學報】25,1. 大9(1920).

3905. 鈴木富雄: 青島及ビ附近支那村落ニ於ケル日支人ノ齒牙検査成績。【齒學報】25,5. 大9(1920).

3906. 柳樂達見: 鮮人兒童齒牙検査成績。【朝鮮醫會誌】30-31. 大9(1920).

3907. 石田 柱: 小學兒童齒牙検査成績。【齒學報】26,2. 大10(1921).

3908. 江川直武: 高田師範學校附屬小學校兒童齒牙發生及ビ齶齒検査成績。【齒學報】26,5. 大10(1921).

3909. 松澤輝雄: 南九州ニ於ケル小學兒童齒牙検査成績。【齒學報】27,1. 大11(1922).

3910. 宮崎雅雄: 濟南島ニ於ケル朝鮮人學童齒牙検査成績。【朝鮮醫會誌】44. 大12(1923).

3911. 柳樂達見: 朝鮮人學童齒牙調査成績。【朝鮮醫會誌】47. 大13(1924).

3912. —: 朝鮮人學童齒牙調査成績。【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924).

3913. 柳樂達見, 村澤 暁: 朝鮮人學童齒牙調査成績。【朝鮮醫會誌】1. 大14(1925).

3914. 濱野松太郎: 雙生兒ノ口腔所見。【日齒學會誌】大15-昭1(1926).

3915. 濱野松太郎, 須田松兵衛: 多摩少年院ニ收容セル不良少年ノ口腔所見。【日齒學會誌】昭3(1928).

3916. 濱野松太郎, 藤田順藏: 浪速少年院ニ於ケル不良少年ノ口腔診査ノ統計的觀察。【日齒學會誌】昭3(1928).

3917. 板原義人: 紡績工場ニ於ケル工女ノ口腔検査成績。【日齒口會誌】2,1. 昭3(1928).

- 3918. —: 東京帝國大學々生口腔検査成績. 【日歯口會誌】3,2. 昭4(1929).
- 3919. 山崎幹雄, 高橋修一郎: 本邦老人(六十歳以上)ノ口腔検査成績. 【日歯口會誌】3,1. 昭4(1929).
- 3920. 千田 恒: 大正十四年度福島縣隊區壯丁齒牙ニ就テ. 【日歯口會誌】2,4. 昭3(1928).
- 3921. —: 大正八年九島縣隊區壯丁齒牙ニ就テ. 【日歯口會誌】2,4. 昭3(1928).
- 3922. —: 壯丁齒牙ノ觀察. 【軍醫圖】206. 昭5(1930).
- 3923. 板原義人: 環境ヲ異ニスル九州五家莊住民ニ就テナセル口腔検査成績. 【大日齒會誌】57. 昭5(1930).
- 3924. 大橋正輔, 松岡吾郎, 舟生秀夫: 本邦老人齒牙ニ關スル統計的觀察(會). 【日齒口會誌】41. 昭6(1931).
- 3925. 小野重喜: 赤ん坊會ニ於ケル齒科的觀察. 【口腔學會誌】5,6. 昭8(1933).
- 3926. —: 赤ん坊會ニ於ケル齒科的觀察(會). 【日齒口會誌】46. 昭7(1932). [北九州地方].
- 3927. 大橋正輔: 本邦老人齒牙ニ關スル統計的觀察(會). 【日齒口會誌】46. 昭7(1932).
- 3928. 永峰雄介: 高齢者ニ於ケル齒牙ノ統計的觀察. 【日齒會誌】25,4. 昭7(1932).
- 3929. 福岡縣齒科醫師會: 高齢者口腔調査. 昭7(1932).
- 3930. 町口貴夫: 娼妓齒牙診査所見. 【齒海公論】253. 昭8(1933). [智齒萌出率].
- 3931. 松尾忠夫: 聾者ノ口腔所見(會). 【日齒誌】5,6. 昭8(1933).
- 3932. 板倉貞壽: 臺灣人福建系浮浪者ノ口腔所見. 【臺灣齒月報】65【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).
- 3933. 平岡心輝: 學童ノ齒牙ニ關スル調査成績. 【齒學報】38,9. 昭8(1933).
- 3934. 道野次郎, 板倉貞壽: 成德學院學童ノ口腔所見. 【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).
- 3935. 松原豐章: 臺灣州立第二高等女學校口腔診査成績. 【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).

(4) 古代人齒

- 3936. Koganei, Yoshiakiyo: Über die künstliche Deformation des Gebisses bei den Steinzeitmenschen Japans. 【Mit. med. Fak. Tokyo】28,3. 大11(1922).
- 3937. 大串菊太郎: 津雲貝塚及比國府石器時代民族ノ拔齒並ニ齧齒ノ關係. 【Japan Dental

- Sci.】1,1. 【民族ト歴史】3,4. 大14(1925).
- 3938. Hasebe, K.: Über die Zahnverstümmelungsformen bei den Steinzeitmenschen Japans. 【Arb. anat. Inst. Sendai】11. 大14(1925).
- 3939. 豊田 實: Homo mousteriensis Hauseriノ齒牙殊ニ其硬組織内ノ異常物質ニ就テ. 【齒新報】21,11. 昭3(1928).
- 3940. 高橋秀夫: 人類學的先史學的研究方法トシテノ顎骨及ビ齒牙ノ地位並ニ吾石器時代人ノ齒牙ニ關スル考察. 【臨林齒】3,2. 昭6(1931).

(5) 人種齒

- 3941. 宮地真雄: 「アイヌ」壯丁ノ齒牙ニ就テ. 【軍醫會】40. 大2(1913).
- 3942. 中島秀造: 支那人頭蓋ニ就テ調査シタル齒牙並ニ齒列. 【南滿醫會誌】6,3. 大7(1918).
- 3943. 尾形一郎: 支那人齒牙ニ關スル知見補遺. 【東京醫誌】2091. 大7(1918).
- 3944. 宮原 虎: 齒牙ノ人類學的研究ニ就テ. 34,3. 大8(1919).
- 3945. 尾形一郎, 三宅秀夫: 支那人ノ齒牙ニ關スル知見補遺(第二報). 【南滿醫會誌】9. 大10(1921).
- 3946. 三宅秀夫: 在滿鮮人ノ齒牙ニ關シテ. 【南滿醫會誌】11,5. 大12(1923).
- 3947. 津崎孝道: 臺灣蕃人ノ齒牙ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】55. 大14(1925).
- 3948. 酒井 肇: 支那人ノ齒牙ニ就テノ研究. 【齒學報】31,10. 大15-昭1(1929).
- 3949. 大橋平治郎: 高砂族ノ缺齒. 【齒新報】19,2. 大15-昭1(1926).
- 3950. 鳥峯 徹, 金森虎男: 純粹生體「アイヌ人」ノ口腔器關特ニ齒牙ノ研究. 【單行】(大同山書店). 大15(1926).
- 3951. 野谷昌俊: 臺灣蕃人「ツォウ」族ノ齒科的所見. 【日齒界】97. 昭3(1925).
- 3952. 青木森吾郎: 臺灣人犯罪者ノ齒牙並ニ口腔ニ就テ. 【臺灣醫會誌】29. 昭5(1930).
- 3953. 松村 晋: 「タイヤル」族ノ齧齒齒牙罹患頻度ニ就テ. 【臺灣醫會誌】30,344. 昭6(1931). [他人種トノ比較アリ].
- 3954. —: 臺灣蕃人ノ齒弓及ビ口蓋ノ測定成績. 【臺灣齒月報】35. 昭6(1931).
- 3955. —: 臺灣蕃人ノ齧齒罹患頻度並ニ齒弓及ビ口蓋ノ測定成績. 【臺灣齒月報】40-41. 昭6(1931).
- 3956. 西塚忠義: 「ビルマ」人ト歐洲人トノ混

- 血人種ノ齒牙ニ就テ. 【日齒會誌】24,11. 昭6(1931).
- 3957. 黒河内敏三, 向山寛計: 「ビルマ」人永久齒大サノ統計的觀察. 【日齒會誌】25,8. 昭7(1939).
- 3958. 西塚忠義: 印度人齒牙ニ見タル Bolk氏假性白齒結節. 【日齒會誌】25,3. 昭7(1932).
- 3959. 板倉貞壽: 臺灣人永久齒ノ大サニ就テ. 【臨林齒】5,9. 昭8(1933).
- 3960. 西山幸男: Über die Apophysis lemurica bei den eingeborenen Formosanern. 【J. Keijo Dental Ass.】2,2. 昭8(1933).
- 3961. 大橋平治郎: 臺灣ニ於ケル檳榔子嗜好習性者ノ齒牙ノ研究, 特ニ其臨牀的觀察並ニ齒牙ニ着染スル色素ノ本態及ビ其實驗的研究. 【日齒會誌】26,1. 昭8(1933). [咬合狀態, 齒弓及口蓋形狀, 智齒萌出狀況].
- 3962. 大橋平治郎, 松村 晋: 臺灣ニ於テ發掘セル石器時代人Aノ第三頭蓋骨ノ齒科的考察. 【日齒會誌】26,5. 昭8(1933).
- 3963. 丸山芳郎: 臺灣人(福建系支那人)ノ咬合型ニ就テ. 【臺灣醫會誌】32,341. 昭8(1933). [他人種トノ比較アリ].
- 3964. —: 臺灣人(福建系支那人)齒牙 Tuberculum anomalum Carabelliニ關スル研究, 特ニ上顎M₂並ニ上顎M₁ニ於ケル出現頻度ニ就テ. 【臺灣醫會誌】32,343. 昭8(1933). [他人種トノ比較ヲモ述ブ].
- 3965. 矢尾太郎: 齒牙ノ人類學的考察特ニ朝鮮人ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】4. 年號不明.
- 3966. 伊東準治, 中村平藏: 現代「アイヌ」土人ノ生體齒牙研究, 並ニ「アイヌ」土人ノ營養品調査. 【日齒口會誌】2. 年號不明.
- 3967. 白井忠治: 臺灣生蕃「タイヤル」族ノ齒科學的所見. 【日齒口會誌】3,3. 年號不明.

(6) 齒形態, 畸形, 大小, 量, 位置, 位置異常

- 3968. 金杉英五郎: 鼻腔内齒牙發生ノ一例(齒牙過費)並ニ「デモンストラチオン」. 【大日耳鼻】7,2. 昭34(1901).
- 3969. 上野策也: 鼻腔内ヨリ排出セル畸形齒牙ニ就テ. 【徇西醫報】80. 昭36(1903).
- 3970. 中原市五郎: 第一大臼齒ニ就テ. 【醫新報】708. 昭39(1906).
- 3971. —: 第一大臼齒ニ就テ. 【第二回聯合醫會誌】明40(1907). [人, 齒].
- 3972. 森 理記: 解剖學上男女ノ差異(門齒及

- ビ犬齒ノ幅徑ニ就テ). 【中央醫事】29. 明43(1910).
- 3973. 奥村鶴吉, 渡邊 定: 日本人ノ齒牙ノ大サニ就テ. 【齒學報】19,5. 大3(1914).
- 3974. 柳 義雄: 鼻腔内齒牙發生ノ一例. 【福岡醫大誌】9,2. 大4-5(1915-16).
- 3975. 大橋 毅: 上顎齶ニ遺生セル齒牙ニ就テ. 【東北醫誌】1,2. 大5(1916). [21歳女子].
- 3976. 梅原成美: 逆生齒牙ヲ有スル珍奇ナル頭蓋骨. 【齒學報】24,6. 大7(1919).
- 3977. 加池八郎: 鼻腔内逆生齒牙ニ就テ. 【福岡醫大誌】16,2. 大13(1923).
- 3978. 陳文苗: 異常齒列ヲ有スル家兎ノ一例. 【醫新報】1122. 大12(1927).
- 3979. 矢尾太郎: 下顎大白齒特種形態ニ就テ(會). 【朝鮮醫會誌】49. 大13(1924). [朝鮮人].
- 3980. 廣瀬為義, 河野卯四男, 片山武夫: 日本人齒牙大サノ統計的觀察. 【齒新報】17,11-12. 大13(1924).
- 3981. 柴田 信: 齒軸ニ就テノ一考察. 【齒新報】18,8. 大14(1925).
- 3982. 河野卯四男, 廣瀬為義, 片山武夫: 日本人健康永久齒ノ重サニ就テ. 【齒新報】18,3. 大14(1925).
- 3983. 所 敏一: 邦人白齒ノ齒冠式(會). 【日齒學會誌】大15(1926).
- 3984. 柴田 信: 齒牙咀嚼面ノ地形學的觀察. 【日齒醫事學生會誌「富士見」】昭2(1927).
- 3985. 中川大介: 齒牙ノ形態的異常ニ就テ. 【齒月報】8,11. 昭3(1928).
- 3986. 福島萬壽雄: 形態異常齒牙ノ一例. 【齒新報】21,12. 昭3(1928).
- 3987. 山上甚三郎: 下顎切齒巨大發育ノ一例. 【日齒界】97. 昭3(1928).
- 3988. 岩田惣七: 齒牙位置異常症例. 【齒新報】22,7. 昭4(1929).
- 3989. 正木 正: 年齢ニヨル齒牙ノ形態的變化. 【齒學報】34,5. 昭4(1929).
- 3990. 酒井 肇: 稀有ナル轉位齒ノ一例ニ就テ. 【南滿醫會誌】3,1. 昭4(1929).
- 3991. 淺井 伸: 上顎中切齒ノ測計成績ニ就テ. 【臨林齒】2,9. 昭5(1930).
- 3992. 平田隆一: 顎骨突起下縁ニ轉位セル犬齒ニ就テ(會). 【日齒口會誌】38. 昭5(1930).
- 3993. 茅野柳次: 人齒ノ重量ト容積. 【臨林齒】2,4. 昭5(1930).
- 3994. 佐藤 潔: 本邦人永久齒根ノ大サノ異常. 【日齒會誌】24,10. 昭6(1931).

- 3995. 森 忠男: 本邦人第三臼歯ノ大サ, 重サ及ビ容積ニ就テ. 【日齒會誌】24,11. 昭6(1931).
- 3996. 片山武夫: 本邦人齒牙ノ比重ニ就テ. 【日齒會誌】24,11. 昭6(1931).
- 3997. 佐藤 潔: 邦人永久齒ノ容積ニ就テ. 【日齒會誌】24,8. 昭6(1931).
- 3998. 山田越二: 異常齒牙ヲ有スル一頭蓋骨ニ就テ. 【日齒會誌】24,12. 昭6(1931).
- 3999. 濱野松太郎, 菅沼宣一, 清水 晋: 第一大臼齒ニ關スル研究. 【日齒會誌】24,5. 昭6(1931).
- 4000. 横山韓一郎: 犬齒位置異常ノ一例. 【朝鮮之齒界】2,7. 昭6(1931).
- 4001. 山田公一: 稀有ナル鼻腔ノ齒牙發生ノ一例. 【臨牀齒】4,12. 昭7(1932).
- 4002. 永峰雄介: 齒牙形態各部ノ比例的關係ニ就テ. 【日齒會誌】26,2. 昭7(1932).
- 4003. 松尾兼次: 上顎中切齒ノ一畸形例. 【臨牀齒】5,3. 昭8(1933).
- 4004. 吉永喜久雄: 形態異常齒牙ノ一例. 【齒海公論】25,6. 昭8(1933).
- 4005. 奥山 廣: 齒牙排列狀態ノ左右不均齊ニ就テ. 【臨牀齒】5,1. 昭8(1933).
- 4006. 二宮智雄: 上顎齶內齒牙連生ニ就テ. 【臨牀齒】5,4. 昭8(1933).
- 4007. 大橋平治郎, 唐仁原景秀: 稀有ナル第二大臼齒ノ優小三例. 【臺灣齒月報】6,9. 昭8(1933).

(7) 齒髓腔, 齒根, 齒根管

- 4008. 奥村鶴吉: 小白齒根ノ駁微. 【齒學報】19,9. 大3(1914).
- 4009. 小野實之助: 髓腔殊ニ根管ノ解剖學的研究, 並ニ髓腔ノ內積及ビ形狀ニ變化ヲ及ボス諸原因ニ就テ. 【齒學報】22,4. 大3(1917).
- 4010. 奥村鶴吉: 根管問題ニ關スル第二報告. 【齒學報】23,1. 大7(1918).
- 4011. 花澤 鼎: 根管ノ解剖. 【大日齒會誌】36. 大13(1924).
- 4012. 奥村鶴吉: 白齒ノ根管. 【大日齒會誌】40. 大14(1925).
- 4013. 矢尾太郎: Paramolar, Paramolar rootニ就テ. 【朝鮮齒醫會誌】1. 大14(1925).
- 4014. 齋藤 久: 前齒ノ根管. 【大日齒會誌】40. 大14(1925).
- 4015. 柴田 信, 福島萬壽雄: 人類齒牙根部ノ形態學の觀察. 【齒新報】19,9. 大15-昭1(1926).

- 4016. ———: 人類齒牙齒根裂溝ノ形態學的研究. 【日齒會誌】大15-昭1(1926).
- 4017. ———: 人類齒牙齒根裂溝ノ進化學の觀察(會). 【日齒會誌】大15-昭1(1926).
- 4018. 小野實之助: 根管治療失敗ノ諸因子ニ就テ. 【臨牀齒】1,9. 昭4(1929). 【根管検査法】.
- 4019. 川上政雄, 金子勝男: 四根管ヲ有スル上顎大白齒ニ就テ. 【口腔會誌】3,4. 昭4(1929).
- 4020. 堀 武: 邦人下顎第一大臼齒ノ齒根並ニ根管ニ就テ. 【口腔會誌】4,3. 昭5(1930).
- 4021. 小野實之助: 根管問題(會). 【日齒口會誌】38. 昭5(1930). 【根管ノ形状】.
- 4022. 淺野 昇: 根管測徑成績. 【臨牀齒】2,8. 昭5(1930).
- 4023. 安田康輔: 齒髓腔ノ位置の關係ニ就テ. 【日齒口會誌】38. 昭5(1930).
- 4024. 白敷美輝雄: 上顎大白齒ノ根管狀況. 【大日齒會誌】61. 昭6(1931).
- 4025. 松尾兼次, 田中 潔: 日本人齒根管形態ノ研究補遺. 【大日齒會誌】昭6(1931).
- 4026. 中川大介: A study of the anatomical change of the pulp cavity of permanent teeth, accompanying age. 【日本大學齒紀要】1. 昭6(1931).
- 4027. 須田松柳, 増井恒次, 三澤捨雄: 日本人永久臼齒ニ於ケル齒髓管ノ數. 【日齒會誌】25. 12. 昭7(1932).
- 4028. 中山森太: 過剰根管ヲ有スル齒牙ニ就テ. 【口腔會誌】6,4. 昭7(1932).
- 4029. 中川大介: 永久齒根管形態ノ年齡的形態變化. 【齒月報】12,2. 昭7(1932).
- 4030. 澤口清治: 齒牙髓腔形態ノ研究. 【日齒界】14,9. 昭7(1932).
- 4031. 田原源太郎, 緒方俊雄: 齒根畸形ノ一例. 【口腔會誌】6,4. 昭7(1932).
- 4032. 佐藤 潔: 墨汁注入透視法ニ依ル本邦人齒牙髓管ノ形状ニ關スル研究補遺. 【日齒會誌】25,12; 26,3. 昭7-8(1932-33).
- 4033. 堀 武: 邦人下顎第一大臼齒ノ齒根並ニ根管ニ就テ. 【口腔會誌】4,3. 昭8(1933).
- 4034. 小野實之助: 根管レントゲン像ノ考察(會). 【日齒口會誌】50. 昭8(1933).
- 4035. 緒方俊雄, 田原源太郎: 齒根畸形齒ノ一例. 【九州齒會誌】1. 昭8(1933).
- 4036. 板原義人: 對側性ニ現ハレタル上顎側切齒複根齒例. 【口腔會誌】5,7. 昭8(1933).
- 4037. 村上豐秋: 癒合齒ノ根管狀態ニ就テ.

- 【九州齒會誌】1. 昭8(1933).
- 4038. 淺野清一: 下顎犬齒ノ根分歧ノ知見ニ就テ. 【朝鮮齒醫會誌】12. 年號不明.
- (8) 齒數(過剩, 不足, 缺如, 融合等)
- 4039. 松村 謙: 上顎ノ第二門齒ヲ關ルニ就テ一例. 【人類誌】27,3. 明44(1912).
- 4040. 羽生長一郎: 齒牙數ノ異常. 【齒學報】17,9. 明45-大1(1912).
- 4041. 柴田 信: 齒數異常. 【齒新報】17,1. 大13(1924).
- 4042. 生田信保: 人類齒牙ノ過剩(所謂過剩齒)ニ就テ. 【朝鮮齒醫會誌】55. 大14(1925).
- 4043. 横山正人: 稀有ナル過剩齒ノ標本供覽, 並ニソノ臨牀の知見. 【大日齒會誌】39. 大14(1925).
- 4044. 濱野松太郎: 日本人ニ於ケル齒牙ノ先天性缺如(會). 【日齒會誌】大15(1926).
- 4045. 所 敏一: 人類ニ於ケル齒數過剩ニ就テノ知見補遺. 【日齒會誌】大15(1926).
- 4046. 今村 汎: 人類下顎過剩齒ニ就テ. 【朝鮮齒醫會誌】2. 大15(1926).
- 4047. 杉本潤三, 横山正人: 一人ノ下顎過剩齒並ニ上顎臼齒過剩齒ノ所見. 【大日齒會誌】46. 昭2(1927).
- 4048. 石井 正: 齒牙ノ過剩ト減數トニ就テ. 【日齒界】95. 昭3(1928).
- 4049. 酒井 肇: 白齒部過剩齒ニ就テ. 【市齒醫會誌】3,1. 昭4(1929).
- 4050. 青木貞亮: 遺傳的齒牙缺如並ニ齒列不正ノ實驗例ニ就テ. 【日齒會誌】22,11. 昭4(1929).
- 4051. 濱野松太郎: 日本人ノ齒牙ノ數ニ就テ. 【中山文化研究所紀要】1. 【日本齒界】125. 昭4-5(1929-30).
- 4052. 所 敏一, 片山武夫: 珍ラシキ過剩齒. 【齒醫報】150. 昭4(1929).
- 4053. 森 忠男, 長根 龍: 人類ノ下顎小白齒部ニ發見セラレタル過剩齒ノ四例ニ就テ. 【日齒會誌】23,8. 昭5(1930).
- 4054. 楠 國雄: 人類下顎過剩齒ノ二例ニ就テ. 【朝鮮之齒界】2,6. 昭6(1931).
- 4055. 濱野松太郎, 關田勉助: 大白齒部ノ過剩齒ニ就テ. 【解剖誌】3,10. 昭6(1931).
- 4056. 大橋俊次郎: 第四大白齒ノ二例. 【齒月報】11,6. 昭6(1931).
- 4057. 山田越二: 下顎兩側第二門齒ヲ缺ク頭蓋ニ就テ. 【日齒會誌】24,12. 昭6(1931).

- 4058. 佐藤 潔: 邦人永久切齒, 犬齒根ノ過剩例. 【日齒會誌】24,8. 昭6(1931).
- 4059. 松本一男: 下顎小白齒部ニ於ケル過剩齒ノ一例. 【朝鮮之齒界】3,6. 昭7(1932).
- 4060. 平岡心輝: 過剩齒殊ニ白齒部過剩齒ノ知見補遺. 【齒海公論】24,5. 昭7(1932).
- 4061. 沖野節二, 三苦傳三郎: 興味アル對側性ニ萌出セル過剩齒二例. 【口腔會誌】6,1. 昭7(1932).
- 4062. 野田輝一: 興味アル過剩齒ノ一例. 【齒月報】12,1. 昭7(1932).
- 4063. 藤 林平: 興味アル癒合齒ノ一例. 【口腔會誌】6,4. 昭7(1932).
- 4064. 五井道夫: 上顎第一, 第二切齒ノ先天的融合ノ一例. 【日齒會誌】25,2. 昭7(1932).
- 4065. 大橋平治郎: 人類ニ於ケル齒數過剩ノ知見補遺. 【臺灣齒月報】50. 昭7(1932).
- 4066. 小林靜夫, 松村 晋: 下顎兩側第一切齒缺如ノ一例. 【臺灣齒月報】53. 昭7(1932).
- 4067. 福島萬壽雄: 下顎乳齒切齒部ニ於ケル三齒融合ノ一例. 【日齒會誌】25,9. 昭7(1932).
- 4068. 日置清雄: 上顎第一切齒間ニ過剩齒ノ發見セル兄弟ノ一例. 【日齒】1,3. 昭8(1933).
- 4069. 唐仁原景秀: 稀有ナル下顎過剩小白齒ノ一例. 【臨牀齒】5,2. 昭8(1933).
- 4070. ———: 上顎第二小白齒ト癒合セル二個ノ過剩齒ノ一例. 【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).
- 4071. ———: 小白齒ト癒合セル二個ノ過剩齒ノ一例. 【臨牀齒】5,9. 昭8(1933).
- 4072. 板原義人: 第四大白齒知見補遺. 【日齒界】156. 昭8(1933).
- 4073. 吉岡玄一: 過剩齒ト永久齒トノ癒合二例. 【日齒界】159. 昭8(1933).
- 4074. 杉山久夫: 癒着過剩齒ノ一例. 【日齒會誌】26,11. 昭8(1933).
- 4075. 江西甚良: 成人ノ上下顎小白齒部ニ相對的ニ發見セル過剩齒ノ一例. 【齒月報】13,7. 昭8(1933).
- 4076. 大島新平: 犯罪人ノ過剩齒發生ニ就テ. 【市齒醫會誌】7,1. 昭8(1933).
- 4077. 大橋平治郎, 唐仁原景秀: 先天性齒牙缺如ノ實驗例94齒, 並ニ血液型ヨリ觀タル本症ノ考察. 【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).
- 4078. 松尾雅夫: 健康保險ヨリ觀タル日本人ノ齒牙缺損型ニ就テ. 【日齒界】165. 昭8(1933).
- 4079. 松本一男: 人類ノ過剩齒ニ就テ. 【朝鮮齒醫會誌】9,2. 年號不明.

4080. 杉山二郎: 稀有ナル過剰犬齒(過剰性歯牙囊腫)ヲ有スル一例。【朝鮮齒醫會誌】10,1. 年號不明。

(9) 齒弓, 咬合

- 4081. 中島秀造: 支那人頭蓋ニ存スル齒牙並ニ齒列ノ調査ニ就テ。【日齒醫會誌】25, 大7(1918)。
- 4082. 岡田 滿: 矯正齒科學上ノ齒弓形態測定法ト形態豫測決定法。【Jap. dental Sci.】1, 3. 大14(1925)。
- 4083. 片山武夫, 河野卯四男, 廣瀬爲義: 男性本邦人齒弓及ピロ蓋ノ大サノ統計的觀察。【齒新報】18,10. 大14(1925)。
- 4084. 岩垣 宏: 小兒齒弓ノ推移變化ニ對スル形態學的觀察。【齒學報】31, 大15-昭1(1926)。
- 4085. 清水靜雄: 余ノ咬合中心轉換說及ビ齒牙移動說, 並ニ齒牙缺如型ノ分類ニ就テ(會)。【日齒學會誌】大15(1926)。
- 4086. 濱野松太郎: 邦人ニ於ケル齒弓並ニ咬合ニ關スル研究。【日齒學會誌】昭3(1928)。
- 4087. 岡田 滿: 双生兒ノ顎型, 齒弓形態並ニ齒牙形態ノ類似程度ノ比較研究。【齒學報】33, 6, 9. 昭3(1928)。
- 4088. 濱野松太郎: 邦人ニ於ケル齒弓並ニ咬合ニ關スル研究。【日齒會誌】22,12. 昭4(1929)。
- 4089. 小金井真精: 齒列ノ咬合形式(會)。【解剖誌】3,3. 昭5(1930)。
- 4090. —: 咬合ノ形式ノ種類。【口腔會誌】4,4. 昭5(1930)。
- 4091. 山田越二: 邦人齒弓ノ形狀ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931)。
- 4092. —: 邦人齒牙ノ咬合型ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931)。
- 4093. 片山武夫: 稀有ナル上顎重複齒弓ノ一例。【日齒會誌】25,7. 昭7(1932)。
- 4094. 大島新平: 重罪犯人ノ口蓋並ニ齒弓ニ就テ。【齒林會】4,11. 昭7(1932)。
- 4095. 大橋平治郎, 松村 晉: 血液型ト齒弓形態ニ就テ。【日齒會誌】25,11. 昭7(1932)。【日本人, 臺灣人】。
- 4096. 岩垣 宏: 小兒齒列ノ推移變化ニ對スル形態學的研究。【齒月報】13,7. 昭8(1933)。
- 4097. 丸山芳郎: 血液型ヨリ觀察セル齒弓形態ニ就テ。【臺灣齒月報】56. 昭8(1933)。
- 4098. 大島新平: 血液型ト齒弓形態ニ就テ。【滿洲醫誌】18,2. 昭8(1933)【日, 支, 鮮, 露, 米人】。

(10) 結節, 咬頭

- 4099. 大島新平, 吉見 勇: 民族的齒弓考察。日本人, 支那人, 朝鮮人齒弓ニ就テ。【滿洲醫會誌】7,1. 昭8(1933)。
- 4100. 木俣保一: 日本人ノ咬頭連合ニ就テ。【齒學報】17,2. 昭15-大1(1912)。
- 4101. 渡邊 定: 咬頭連合ニ就テ。【齒學報】19, 7, 23, 6. 大3(1914), 大7(1918)。
- 4102. 賀川哲夫: 遺傳梅毒ニ於ケルカラベリ氏結節ニ就テ。【皮膚誌】20,4. 大9(1920)。
- 4103. 所 敏一: 男性邦人ノ咬頭ノ數ニ就テ。【齒新報】16,8. 大12(1923)。
- 4104. 柴田 信: 齒冠過剰結節ト珐瑯瘤トノ境界。【齒新報】17,12. 大13(1924)。
- 4105. —: 齒冠結節及ビ齒冠結節間溝ノ生理學的及ビ老人性變化ノ考察。【齒新報】18,9. 大14(1925)。
- 4106. 柴田 信, 福島萬壽雄, 横田 孝: 本邦人ニ於ケル齒冠結節三角及ビ齒根三角ニ就テ。【齒新報】18,9. 大14(1925)。
- 4107. 柴田 信: 人類下顎臼齒近心頰側小窩ハCarabelli 氏結節ト考フベキモノナリヤ(會)。【日齒學會誌】大14(1925)。
- 4108. 菅沼宣一, 片山武夫: 人類臼齒咬合面發育溝ノ形態學的研究。【日齒學會誌】大15-昭1(1926)。
- 4109. 矢澤恭一: 上顎第二及ビ第三大白齒舌面ニ發現スルカラベリ氏結節ニ就テ。【朝鮮齒醫會誌】2. 大15-昭1(1926)。
- 4110. —: 上顎第二第三大白齒ニ發現スルCarabelli 氏結節ニ就テ。【齒學報】31, 大15-昭1(1926)。
- 4111. 山田越二: 邦人齒牙ニ現レタルカラベリ氏結節ニ就テ。【解剖誌】2,2. 昭4(1929)。
- 4112. 城島 轉: 小白齒咬合面ニ發現セル異常結節ニ就テ。【日齒界】109. 昭4(1929)。
- 4113. 山田越二: 日本人齒牙ノボルク氏假性臼齒結節ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931)。
- 4114. —: 邦人頭蓋ノ牙齒ニ現レタルカラベリ氏結節ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931)。
- 4115. —: 日本人齒牙ノ咬頭組列ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931)。
- 4116. 森 忠男: 本邦人齒牙ニ於ケルCarabelli 氏結節ニ關スル知見補遺。【日齒會誌】25,1-2. 昭7(1932)。
- 4117. —: 本邦人ニ於ケルParamolar 及ビ

Paramolar tubercle = 關スル知見補遺。【口腔】1,1. 昭8(1933)。

(11) 乳 齒

- 4118. 酒井萬吉, 百合野實松: 初生兒門齒ニ就テ。【齒生學會報】108. 昭4(1901)。
- 4119. 林 修三: 乳齒ノ吸收ニ伴フ齒根ノ變化。【齒學報】20,3. 大4(1915)。
- 4120. 田川八郎: 乳齒ノ統計的觀察。【兒科誌】27,2. 大12(1923)。
- 4121. 水間盛三郎: 乳齒ノ解剖。【齒月報】8,9. 昭3(1928)。
- 4122. 御園政三: 乳齒ノ齒牙檢查成績。【大日齒會誌】54. 昭4(1929)。
- 4123. 森 忠男: 成人ニ於ケル乳齒ノ殘留ニ就テ。【日齒會誌】23,6-7. 昭5(1930)。
- 4124. 中出捨次郎: 乳齒ノ進生ニ就テ。【Grenzgeb.】4,10. 昭5(1930)。【人體】。
- 4125. 濱野松太郎: 六歳臼齒ニ關スル研究補遺。【日齒界】123. 昭5(1930)。
- 4126. 新畑小一郎, 加藤 博: 四根ヲ有スル上顎第二乳臼齒ノ一例。【口腔會誌】6,3. 昭7(1932)。
- 4127. 安東 猛: 第二乳臼齒ノ晚期存在ノ二例。【齒學報】37,3. 昭7(1932)。
- 4128. 楠 國雄: 乳齒列ニ於ケル過剰齒ノ一例。【日齒界】144. 昭7(1932)。
- 4129. 福島萬壽雄: 双生ノ兩兒ニ見タル正中過剰齒ノ一例。【日齒會誌】25,8. 昭7(1932)。
- 4130. 上村フミ子: 乳齒及ビ乳幼兒ノ顎圍ニ就テ。【東京女醫會誌】2,2. 昭7(1932)。
- 4131. 大橋平治郎, 唐仁原景秀: 乳齒殘留ニ關スル臨牀的考察。【臺灣齒月報】55. 昭8(1933)。
- 4132. 羽田宣男: 下顎乳臼齒晚期殘存, 第二小白齒先天の缺除ヲ併發セル一顎骨ニ就テ。【日齒會誌】26,8. 昭8(1933)。
- 4133. 豐田 進: 乳齒列ニ發現セル過剰齒ニ就テ。【口腔會誌】7,4. 昭8(1933)。
- 4134. 石野憲庸: 男女性乳兒ニ於ケル乳齒ノ統計的觀察。【齒海公論】26, 昭8(1933)。

(12) 先天齒, 齒ノ發生, 萌生, 埋伏

- 4135. 今田 東: 齒牙發生及ビ交換ノ說。【東京醫誌】50, 昭20(1887)。【人】。
- 4136. 富安 晉: 胎生齒牙組織標本ノ「デモンストラチオン」。【第二回日聯合醫會誌】明10(1907)。【人?】。

- 4137. 入野賢次, 松井基一: 永久齒發生ニ關スル調査報告。【日齒醫會誌】75. 昭11(1908)。
- 4138. 三宅俊之助: 異常生齒ニ就テ。【兒科誌】16,2. 大2(1913)。【初生兒】。
- 4139. 照内 昇: 上顎前齒部ニ於ケル埋伏齒ノX線診査。【齒學報】20,7. 大4(1915)。
- 4140. 南方熊楠: 一枚齒一齒ガ生ヘタ産レ兒。【人類誌】30,11. 大4(1916)。
- 4141. 北村宗一: 乳齒發生ノ時期及ビ順序ニ關スル研究。【齒學報】22,9. 大6(1917)。
- 4142. 中鉢不二郎: 乳齒發生異常ノ一例。【兒科誌】300. 大14(1925)。【女兒】。
- 4143. 川上爲次郎: 乳齒發生ノ時期及ビ順序ニ關スル調査(第一報)。【兒童研究】30,2. 大15(1926)。
- 4144. 佐野亨三: 早生齒ノ數例ニ就テ。【口腔會誌】1,1. 昭3(1927)。
- 4145. 中川大介: 第三大白齒不萌出ニ關スル一ニノ考察。【齒月報】7,3. 昭2(1927)。
- 4146. 生田信保: 内分泌腺ト齒牙發育トノ關係ニツイテ。【朝鮮齒醫會誌】74. 昭2(1927)。【ラット】。
- 4147. 柴田 信: 齒牙ノ發育並ニ萌出速度ニ關スル一考察。【日齒學會誌】昭3(1928)。
- 4148. 金森虎男: 興味アル埋伏齒ノ一例。【口腔會誌】2,3. 昭3(1928)。
- 4149. Ikuta, N.: On the relation between endocrine organs and the development of teeth. [Acta med. in Keijo] 11. 昭3(1928)。【Rat, white rat, rabbit, Guinea pig】。
- 4150. 山田平太: 初生齒期ニ關スル一統計。【齒月報】9,1. 昭4(1929)。
- 4151. 青木貞亮: 齒牙形成機轉ノレントゲン線解剖學的研究。【レントゲン會誌】7,4; 8,1-2. 昭4-5(1929-1930)。【人】。
- 4152. 松尾兼次: 最近五ヶ年間ニ蒐集シ得タル先天の異常發育齒ニ就テ。【日齒會誌】23,8. 昭5(1930)。
- 4153. 青木貞亮: 齒牙發育機轉ノレントゲン線解剖學的研究。【日齒會誌】23,10-12. 昭5(1930)。
- 4154. 濱野松太郎: 齒牙發生ニヨル年齢ノ判定(會)。【社會醫誌】518. 昭5(1930)。
- 4155. —: 日本人ノ齒牙萌出時期ニ就テ。【日齒界】126. 昭5(1930)。
- 4156. —: 日本人齒牙萌出時期ノ統計的觀察。【日齒會誌】23,3. 昭5(1930)。
- 4157. —: 日本人齒牙萌出時期ノ統計的觀察

察。【日齒會誌】23,6. 昭5(1930).

4158. 道野次郎, 青木森吾郎, 松浦辰子: 內臺人學童年齡七歳ヲ基調トセル永久齒萌出ノ比較觀察(會)。【臺灣醫會誌】29. 昭5(1930)。〔支那人, 日本人〕。

4159. ——: 人類齒牙發生ノ研究。【解剖誌】3,3. 昭5(1930).

4160. 國分史捷: 齒牙原器細胞ノ異所増殖ニ關スル研究。【齒月報】11,11. 昭6(1931).

4161. 福島萬壽雄: 出銀順序ノ家系の觀察(會)。【日齒口會誌】41. 昭6(1931).

4162. 牛窪武男: 本邦人乳齒ノ出銀期ノ統計的觀察(會)。【日齒口會誌】41,44. 昭6(1931).

4163. 酒井 肇: 在德邦人學童ニ於ケル各永久齒ノ萌出時期ニ就テ。【南洋齒會誌】5,1. 昭6(1931).

4164. 福島萬壽雄: 齒牙萌出ノ遺傳學的觀察。【日齒學會誌】昭6(1931).

4165. 柴田 信: 人間ノ第一大白齒ハ何故永久齒群中最初ニ萌出シ來ルカ。【齒醫報】163. 昭6(1931).

4166. 福島萬壽雄: 珐瑯器細胞ノ運命。【日齒學會誌】昭6(1931).

4167. ——: 珐瑯器細胞ノ運命ニ關スル研究補遺。殊ニ出銀期ニ於ケル珐瑯器細胞ノ態度。【日齒學會誌】24,6. 昭6(1931).

4168. 山村新之助: 人類ニ於ケル胎生學的齒牙發生特ニ其發生轉機ニ就テ(會)。【日齒會誌】61. 昭6(1931).

4169. 森 忠男: 齒牙組織發生器械學ノ研究。特ニ乳齒殘留ノ成因ニ就テ。【兒童齒科研究所紀要】1. 昭7(1932).

4170. 牛窪武男: 本邦人乳齒出銀ニ關スル統計的觀察(會)。【日齒會誌】46. 昭7(1932).

4171. 橫山鶴一郎: 下顎埋伏犬齒ノ一例。【朝鮮之齒界】3,6. 昭7(1932).

4172. 向野範次: 乳齒出銀相ニ就テ。【日齒會誌】4,5. 昭7(1932).

4173. 笹野 榮: 齒牙發育中 Hertwig 氏上皮精ニ見ラルル小乳頭狀上皮増殖ニ就テ。【日齒會誌】6,2. 昭7(1932).

4174. 永峯雄介: 邦人齒牙萌出脱落及ビ身體各部發育トノ比例的研究(會)。【解剖誌】5,7. 昭7(1932).

4175. 向野範次: 乳齒出銀相ニ就テ(會)。【日齒口會誌】46. 昭7(1932).

4176. 齋藤 貴: 埋伏齒及ビ硬性齒牙腫ノ臨牀例。【臨牀齒】5,8. 昭8(1933).

4177. 中村讓兵衛: 初生兒先天齒, 特ニ齒髓內上皮ニ就テ。【日齒會誌】7,1. 昭8(1933).

4178. 枋原義人, 井手 彊: 乳白齒ヲ第一齒トセシ所謂先天性齒ノ一例。【日齒會誌】5,6. 昭8.

4179. 高橋武雄: 珐瑯原器ノ晚期運命, 特ニ齒髓內緣上皮ノ形成機ニ就テ(會)。【日齒口會誌】50. 昭8(1933).

4180. 山村新之助: 人類齒牙發生ノ胎生學的研究, 特ニ珐瑯器生成ニ關スル上皮所見ニ就テ。【東北醫誌】16. 昭9(1933).

4181. 山村四郎: 上顎犬齒埋伏ノ一例。【臨牀齒】5,1. 昭8(1933).

4182. 大橋平治郎, 松村 晋: 智齒以外ノ正常齒牙ノ埋伏(發生困難)ニ就テ。【臨牀齒】5,8. 【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).

4183. ——, ——: 血液型ヨリ觀タル智齒發生率並ニ其ノ發生態度ニ就テ。【日齒會誌】26, 6. 昭8(1933).

4184. 永峯雄介: 邦人齒牙ノ萌出, 脱落並ニ身體各部發育トノ比例的研究。【日齒會誌】26,12. 昭8(1933).

4185. ——: 本邦人ニ於ケル永久齒萌出ト乳齒脱落トノ比較研究(會)。【日齒會誌】5,6. 昭8(1933)。〔人〕。

4186. 牛窪武男: 本邦人乳齒出銀ニ關スル統計的觀察(會)。【日齒會誌】5,6. 昭8(1933).

4187. 枋原義人: 所謂先天性齒ニ就テ。【熊本齒新聞】1,2.

(13) 智 齒

4188. 三輪德寬, 西田貫三: 第三大白齒(智齒)ノ發生ニ就テ。【醫新聞】461. 明28(1896).

4189. 三輪德寬: 第三大白齒(智齒)ノ發生ニ就テ。【東京醫誌】927. 明29(1896)。〔人〕。

4190. 水谷秀一: 智齒發生困難ニ就テ。【軍醫會】166. 明40(1907).

4191. 藤代典藏: 七十三歳ニシテ智齒ノ發生シタル一例。【東京醫誌】1572. 明41(1908).

4192. 遠藤至六郎: 所謂下顎智齒難生ノ解剖的臨牀的研究。【齒學報】22,11. 大6(1917).

4193. 酒井 肇: 長春在住ノ日本人ニ於ケル智齒發生狀態並ニ其退化傾向ニ就テ。【齒學報】27,2. 大11(1922).

4194. ——: 智齒ノ退化の傾向ニ就テ。【齒學報】28,3. 大12(1923).

4195. 柴田 信: 倭小智齒ノ一例。【齒新報】17, 6. 大13(1924).

4196. 酒井 肇: 智齒ノ退化の傾向ニ就テ。【齒

學報】29,3. 大13(1924).

4197. 森 忠男: 智齒ノ形態ニ關スル研究。【大日齒會誌】48. 昭3(1928).

4198. 中留金藏: 壯丁ニ於ケル智齒發生並ニ齲齒ノ狀況。【軍醫團】207. 昭5(1930).

4199. 森 忠雄: 邦人齒牙ノ一退化現象トシテノ倭小乃至圓錐智齒ノ發生狀態ニ就テ。【日齒界】119. 昭5(1930).

4200. 山崎 清: 下顎骨ニ於ケル非對稱性ト下顎智齒ノ發育上ノ非對稱性並ニ兩者ノ相互關係。【日齒學會誌】昭6(1931).

4201. 森 忠男: 本邦人ニ於ケル第三大白齒ノ發生狀態及ビ該齒根ノ化完了時期ニ就テ。【日齒會誌】24,2. 昭6(1931).

4202. ——: 本邦人下顎第三白齒ノ形態。【日齒會誌】25,5-6. 昭7(1932).

4203. ——: 齒科外科ニ必要ナル下顎智齒ノ解剖殊ニ齒根ノ形態ニ就テ。【臨牀齒】5,8. 昭8(1933).

4204. 黃坤喜, 相宮文子: 下顎智齒難生ノ統計的觀察。【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).

(14) 齒 齲

4205. 花澤 鼎: 齒齲囊ニ關スル研究補遺。【齒學報】25,3. 大9(1920).

4206. 福島萬壽雄: 邦人齒牙齒齲圓錐ノ測定ニ就テ。【日齒會誌】24,4. 昭6(1931).

4207. 檜垣麟三: 齒根膜腔外齒槽骨中ニ存在スル「エピテリネステル」ニ就テ。【日齒會誌】6,4. 昭7(1932).

4208. 正木 正, 近藤三郎: 齒根膜腔外ニ存在セルマラツセ氏上皮細胞群ノ分布。【大日齒會誌】68. 昭8(1933).

(15) 齒ノ構造

4209. 佐藤運雄: 乳齒根吸收ノ組織學的研究(第一報)。【中央醫事】29. 明43(1910).

4210. 豐田 實: 齒牙生體染色ニ關スル知見補遺。【日齒學會誌】大10(1921).

4211. ——: 齒牙及ビ支持組織ノ生體染色ニ就テ。【齒新報】11,6,7,9,12. 12,2,3,5. 大10-11(1921-22).

4212. ——: 齒牙生體染色ニ關スル研究補遺。【齒新報】12,5. 大11(1922).

4213. 中村平藏: 健康ナル永久齒內脂肪ノ形態學的研究。【北越醫會誌】39,1. 大13(1924).

4214. 荻野重男: 日本人健康齒牙硬組織ノ硬度ニ就テ。【齒新報】18,8. 大14(1925).

4215. 中村平藏: 齒牙脂肪ノ形態學的研究。【北越醫會誌】40,1. 大14(1925)。〔胎兒ヨリ老人ニ至ル正常齒牙60例〕。

4216. 柴田 信, 伊藤七郎: 齒牙硬組織ノ化學的組織ニ關スル實驗的研究。【齒新報】19,1. 大15(1926)。〔人永久齒〕。

4217. 菅沼宣一: 人類齒牙頸部ニ於ケル珐瑯質ト白質質トノ形態學的關係。【齒新報】19, 4. 大15(1926).

4218. 金井 茂: 人類齒牙構造ノ物理學的所見(會)。【日齒學會誌】大15(1926).

4219. 永松勝海: 齒牙ニ於ケル彈力纖維ノ研究。【日齒界】81. 昭2(1927).

4220. 國分史捷, 橋 嘉七: 齒牙組織ノ銀反應。【日齒界】84. 昭2(1927).

4221. 柴田 信: 齒牙組織ニ於ケル彈力纖維分布ニ關スル疑義。【日齒界】85. 昭2(1927).

4222. 角田 傳, 早川堅太郎: 齒牙ノ含石灰成分ノ屈折率ニヨル研究。【齒月報】8,1. 昭3(1928).

4223. 角田 傳: 成人齒牙ニ於ケル銀顆粒ノ研究。【東京醫誌】2597. 昭3(1928).

4224. 伊藤七郎: 齒牙及ビ骨組織ノ無機化合物殊ニ Ca, P₂O₅(P), Mg 及ビ含水量ノ分離定量分析法。【齒新報】21,8. 昭3(1928).

4225. 橫峰哲四郎: 永松勝海氏ノ齒牙彈力纖維ニ就テ。【日齒界】95. 昭3(1928).

4226. 五井道夫: 透明齒根ノ組織學的所見。【齒新報】22,6. 昭4(1929).

4227. 稻生 澄: 齒牙硬組織中ニ於ケル「カルシウム」ノ定量分析。【日齒口會誌】38. 昭5(1930).

4228. 高橋新次郎: 多根齒分岐部ニ於ケル構造異狀ニ就テ。【日齒會誌】4,7. 昭5(1930).

4229. 酒井修一: 齒牙及ビ齒石ノ螢光並ニ其ノ中ニ含有スル重金屬元素ニ就テ。【新齒醫報】185. 昭7(1932).

4230. 榎澤 操: 人齒牙ノ微細構造ニ就テ(會)。【解剖誌】5,7. 昭7(1932)。〔健康永久齒, 脱落乳齒〕。

4231. 正木 正: 乳齒ノ脱落ニ關スル組織學的研究。【齒學報】37,4. 昭7(1932).

4232. 片山武夫: Sump 法ニ依ル齒牙硬組織ノ組織學的研究。【日齒會誌】25,8. 昭7(1932).

4233. ——: 「スンプ」法ニヨル齒牙硬組織ノ組織學的所見。【日齒會誌】26,8. 昭8(1933).

4234. 野田 穰: 所謂齒根吸收ニ就テ。【日齒會誌】7,2. 昭8(1933).

4235. 岡田一誠: 多根齒根分岐部ニ於ケル組

- 機學的所見並ニ發育經過。【九州齒會誌】1, 昭8(1933).
 - 4236. 角田 傳, 山田 茂: 人體乳齒ニ於ケル齒根吸收ノ形態學的研究。【日誌】1,1, 昭8(1933).
 - 4237. —, —: 人類乳齒ニ於ケル脂肪ノ形態學的研究補遺。【齒月報】13,1-6, 昭8(1933).
 - 4238. 武内隆園: 齒牙組織中ノ有機成分ニ關スル研究。昭8(1933).
 - 4239. 岡田一誠: 多根齒根分岐部ニ於ケル組織學的所見並ニ發育經過。【九州齒會誌】1, 昭8(1933).
 - 4240. 檜垣麟三: 齒牙附近組織中ニ存在セル上皮群ノ種々ナル石灰化形態ノ成因ニ就テ。【日誌會誌】7,3, 昭8(1933).
 - 4241. 福島萬壽雄: 邦人乳齒ノ化學的組成。【日齒會誌】26,9, 昭8(1933).
 - 4242. 野口三郎: 朝鮮人齒牙硬組織ノ化學的成分。【臨齒會誌】5,2, 昭8(1933).
- (16) 珐瑯質
- 4243. 本間修二: 所謂ナスミス氏膜(珐瑯上皮)ニ就テ。【北越醫會誌】39,1, 大13(1924).
 - 4244. 山村新之助: 人類珐瑯質ノ發育ニ關スル組織學的研究。【大日齒會誌】31, 2, 大13(1924).
 - 4245. 加藤清治: 人類珐瑯質ノ組織學的研究。【齒新報】20,10, 昭2(1927).
 - 4246. —: 人類珐瑯質ノ組織學的研究補遺。【齒新報】21,4, 昭3(1928).
 - 4247. 檜垣麟三: 所謂 Orban 氏第二次珐瑯質薄膜ノ研究補遺。【日誌會誌】4,1, 昭5(1930).
 - 4248. —: 第二次珐瑯質表面薄膜ノ脫灰標本上ニ於ケル消失及ビ變化ニ就テ。【日誌會誌】4,4, 昭5(1930).
 - 4249. 加藤清治: 珐瑯質ノ稜柱橫線, Schreger 氏線及ビ Retzius 氏線ノ成因。【日齒會誌】24, 2, 昭6(1931).
 - 4250. —: 珐瑯質象牙ノ波狀境界線ノ成因及ビソノ年齢的差異。【日齒會誌】24,2, 昭6(1931).
 - 4251. 佐藤 潔: 本邦人永久白齒ニ於ケル珐瑯質ノ附着部位ニ關スル知見補遺。【日齒會誌】24,11, 昭6(1931).
 - 4252. 檜垣麟三: 齒牙發育中ニ見タル珐瑯質ノ吸收ニ就テ。【日誌會誌】5,3, 昭6(1931).
 - 4253. —: 巨大ナル珐瑯質瘤ヲ有セシ齒牙ノ所見ニ就テ。【日誌會誌】5,3, 昭6(1931).

- 4254. —: 珐瑯質表面薄膜ノ比較組織學的研究。【日誌會誌】5,1-3, 昭6(1931).
- 4255. —: Beitrag zum Studium der einfachen Schmelztropfen。【日誌會誌】6,1, 昭7(1932).
- 4256. 山村新之助: 人類珐瑯質ノ發育ニ關スル組織學的研究。【大日齒會誌】7,0, 昭8(1933).
- 4257. 西山幸男: 所謂 Nasmyth 氏膜ニ關スル二三ノ考察。【京城齒醫會誌】2,3,4, 昭8(1933).
- 4258. 矢尾太郎: ナスミス氏膜ニ就テ。【大阪齒醫專學友誌】1.

(17) 象牙質

- 4259. 花澤 鼎: 人類象牙質ノ微細構造, 殊ニ齒細管ト齒纖維トノ關係ニ就テ。【齒學報】20, 11-12, 大4(1915).
- 4260. 小野英之助: 象牙質知覺溫度ニ就テ。【齒新報, 日本齒會誌】10,1,大9(1920), 大6(1917). 【齒牙ノ大サアリ】.
- 4261. 豊田 實: 象牙質生體染色ノ研究。【日齒學會誌】大6(1917).
- 4262. 安井作太郎: 象牙質ノ化學的成分。【日齒會誌】25, 大7(1918).
- 4263. Naito, Saburo: Klinische und histologische Untersuchungen der Zahngewebe bei Osteogenesis imperfecta, nebst Studien über die sog. Korff'schen Fasern und einem Beitrag zur Dentinbildung。【Mitt. med. Fak. Fukuoka】9,1, 大13(1924).
- 4264. 安澤 要: 齒纖維ノ研究(會)。【日齒學會誌】大15(1926).
- 4265. 豊田 實: Beiträge zur Kenntnis der Dentinverkalkung。【齒新報】21,2,3, 昭3(1928).
- 4266. —: 象牙質石灰化ノ知見補遺。【齒新報】20,11, 昭2(1927).
- 4267. —: 人類象牙質ノ神經主宰ニ關スル研究, 並ニ之ガ新研究方法ナル電氣滲透水洗法ニ就テ(會)。【日齒學會誌】昭2(1927).
- 4268. 片山武夫: 人類齒牙ニ於ケル球間空洞ノ組織學的知見補遺。【齒新報】21,10, 昭3(1928).
- 4269. 西山幸男: 朝鮮人齒牙ニ於ケル球間空洞ノ發現ニ就テ。【南滿洲齒會誌】3,1, 昭4(1929).
- 4270. 向野範次: 不正象牙質形成ニ於ケル Korff 氏纖維ノ態度。【日誌會誌】4,5, 昭5(1930).
- 4271. 片山武夫: 齒細管ノ走行狀態ニ就テ。

- (會)。【日誌會誌】5,6, 昭8(1933).
- 4272. 豊田 實: Die Innervation des menschlichen Zahnbeins。【Transact. Nippon Dental Ass.】昭8(1933).
- 4273. 西山幸男: 朝鮮人齒牙ニ於ケル球間空洞ノ發現ニ就テ。【朝鮮齒醫會誌, 南滿齒醫會誌】3,1, 12, 年號不明。

(18) 白堊質

- 4274. 日野邦夫: 第二白堊質ノ形成機轉ニ就テ。【東洋齒月報】5,12, 大14(1925).
- 4275. 菅沼宣一: 人類齒牙齒頸部白堊質ノ形狀。【齒新報】19,4, 大15(1926).

(19) 齒髓組織

- 4276. 小野實之助: 齒髓ノ脂肪變化ニ關スル研究補遺。【齒學報】21,6, 大4(1915).
- 4277. 柴田 信: 齒髓組織ニ關スル造齒細胞ノ細胞學的研究。【齒新報】18,12, 大14(1925).
- 4278. —: 齒髓組織内ニ於ケル格子狀纖維ニ就テ, 並ニソノ象牙質生成ニ關スル意義。【齒新報】18,11, 19,3; 【實驗醫學誌】11,6, 大14-昭1(1925-26).
- 4279. —: 齒髓ノ細胞學的研究(會)。【日齒學會誌】大15(1926).
- 4280. —: 齒髓組織内ニ於ケル糖原質ノ分佈(會)。【日齒學會誌】大15(1926).
- 4281. —: 齒髓組織内ニ於ケル格子狀纖維(會)。【日齒學會誌】大15(1926).
- 4282. —: 齒牙細胞ノ Altmann 氏顆粒ニ就テ(會)。【日齒學會誌】6,11,10, 大15(1926).
- 4283. —: 齒牙細胞ニ於ケル Altmann 氏顆粒ニ就テ。【齒新報】20,3-4, 昭2(1927).
- 4284. —: 齒髓組織内ニ於ケル格子狀纖維ノ組織學的研究, 並ニ其象牙質生成ニ關スル意義。【齒新報】29, 昭2(1927). 【豚, 犬, 家兔, 海狗, 白鼠, 猫】.
- 4285. —: 齒牙細胞ノ銀還元顆粒ニ就テ(會)。【日齒學會誌】昭2(1927).
- 4286. 角田 傳: 成人齒牙齒髓ニ於ケル「ミトコンドリア」ニ就テ。【日齒口會誌】34, 昭3(1928).
- 4287. 柴田 信: 齒牙細胞ニ於ケル銀還元顆粒ニ就テ。【齒新報】22,6, 昭4(1929).
- 4288. —: 齒牙細胞ニ於ケル沃度「メチレン」青顆粒。【日齒會誌】23,1, 昭5(1930).
- 4289. 富田朋介, 可兒一郎, 能登宗四郎: 造齒

- 細胞及ビ齒細胞管内神經纖維。【解剖誌】4,4, 昭6(1931). 【人ノ小白齒, 鼠ノ門齒】.
- 4290. 澤口清治: 造齒細胞ノ形態ニ就テ。【齒月報】11,3, 昭6(1931).
- 4291. 柴田 信: 齒牙細胞ノ嗜鹽基性蛋白成分ニ就テ。【日齒會誌】24,10, 昭6(1931).
- 4292. —: 齒牙細胞ニ於ケル Golgi 氏内網裝置ニ就テ。【日齒會誌】24,7, 昭6(1931).
- 4293. 能登宗四郎: 余ガ染色法ニヨル造齒細胞ノ微細構造ニ關スル考察。【齒醫學】2,2, 昭6(1931).
- 4294. 澤口清治: 齒髓内毛細血管末梢ノ比較研究。【日齒會誌】24,5, 昭6(1931).
- 4295. —: 齒髓血管ノ分岐狀態並ニ齒髓腔形態ノ研究。【日齒界】143, 昭7(1932).
- 4296. 檜垣麟三: 齒髓中ニ遊離存在セル眞性「デンチケル」ノ原始的形成ノ研究。【日誌會誌】6,2, 昭7(1932).
- 4297. 向野範次: 齒髓組織内ニ於ケル硬性新生物ニ關スル形態學的研究, 特ニソノ「ヒステオゲネーゼ」ニ就テ(會)。【日齒口會誌】50, 昭8(1933).
- 4298. 菅沼宣一: 齒髓ノ組織學的研究。【日齒學會報】昭8(1933).
- 4299. 白敷美輝雄: 未完成齒牙ニ於ケル齒髓齒根膜狀體ノ所見ニ就テ(會)。【日齒口會誌】50, 昭8(1933).

(20) 齶蝕, 咬耗

- 4300. 小野實之助: 發育溝ト齶蝕トノ關係ニ就テ。【日齒醫會誌】26; 【齒學報】23,9, 大8(1919).
- 4301. 矢野 貞, 梶塚隆二: 壯丁年齢ニ於ケル齶蝕分布並ニ智齒發生ノ狀況, 附: 齒牙發生異常ニ就テ。【齒學報】24,1; 【軍醫圖】82,大8(1919).
- 4302. 西村豊治: 人類ノ珐瑯質齶蝕ニ關スル組織學的研究補遺。【齒學報】33,2-3, 昭3(1928).
- 4303. 五井道夫: 齶蝕好發部位トシテノ齒冠高溝, 形狀ニ關スル知見補遺。【齒新報】22,7, 昭4(1929).
- 4304. 山口秀雄: 日本人齒牙ノ生理的咬耗狀態ニ就テ。【日齒會誌】22,12, 昭4(1929).
- 4305. 菅沼宣一: 齶蝕好發部位ニ關スル研究。【日齒會誌】23,6, 昭5(1930). 【咀嚼面ノ形狀アリ】.
- 4306. 山田越二: 日本人齒牙ノ磨滅ト年齢的關係ニ就テ。【十全會誌】36,2, 昭6(1931).
- 4307. 岡田一誠: 齶蝕罹患性裂溝ノ組織學的觀察(會)。【日齒口會誌】46, 昭7(1932).

4308. —: 齶蝕性裂溝ノ組織學的觀察(會).【日齒會誌】5,6. 昭8(1933).

(21) 齒ノ病理

- 4309. 小野寅之助: 卵巣皮膚様囊腫中ノ齒牙ニ就テ.【齒學報】19,11. 大3(1914).
- 4310. 遠藤至六郎: 上顎骨々直ヲ併發セル相對性埋伏犬齒ノ一例.【齒學報】20,1. 大4(1915).
- 4311. —: 先天梅毒ノ齒牙ニ於ケル Hutchinson 氏症候.【日齒醫會誌】26. 大8(1919).
- 4312. 三内多喜治: 卵巣皮膚様囊腫内ニ於ケル齒牙ニ就テ. 附: 其病理組織學的知見補遺.【日齒口會誌】21. 大14(1926).
- 4313. 森忠男, 懸田初男: 盲人ノ口腔ニ於ケル齒牙發育不全ニ就テ, 並ニ之レガ先天梅毒下ノ關係.【齒新報】19,8. 大15(1926).
- 4314. 中村平藏: 年齢の變化ニ基調セル齒牙ノ病理及ビ療法.【日齒口會誌】28. 大15(1926).
- 4315. 遠藤至六郎: 慢性根端性齒牙附近組織炎.【齒學報】33,12. 昭3(1928). [正常構造アリ].
- 4316. 向野範次: 結核菌ニ於ケル齒牙並ニ齒周組織ノ脂肪知見.【日齒會誌】2,2. 昭4(1929).
- 4317. 金森虎男: 卵巣皮膚様囊腫中ノ齒牙ニ就テ.【日齒會誌】3,3,4; 4,1. 昭4-5(1929-30). [偶造人].
- 4318. 大橋正輔: 濾胞性齒牙囊腫ニ關スル研究.【日齒口會誌】37,40. 昭5-6(1930-1931).
- 4319. 板倉貞壽: 癩患者ノ齒科學的研究, 特ニ齶蝕齒, 缺如齒, 智齒發生狀態ノ統計的觀察.【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).
- 4320. 多田利美, 唐仁原景秀: 濾胞性齒牙囊腫ノ一例.【臺灣齒醫會誌】2,1. 昭8(1933).
- 4321. 森田貞雄: 卵巣皮膚様囊腫内齒牙ノ交換現象ノ症例補遺.【日齒會誌】7,2. 昭8(1933).
- 4322. 向野範次: 齒髓組織内ニ於ケル硬性新生物ニ關スル形態學的研究, 殊ニ其ノ Histogenesisニ就テ.【日齒會誌; 齒醫大誌】5,7. 26,7. 昭8(1933).
- 4323. 菅實: 「オドントーム」ノ二例(會).【日齒會誌】5,7. 昭8(1933).
- 4324. 野澤鈞: 定型の形態ノ異常ヲ呈セル先天梅毒齒牙ニ就テ.【齒林會誌】5,5. 昭8(1933).

(22) 動物ノ齒

- 4325. 堀田勇次: 馬齒ノ成長ト磨滅ノ關係ニ就テ.【陸軍獸醫報】11. 明43(1910).
- 4326. 阿部余四男: 哺乳類ノ齒式ニ就テ.【齒

- 物誌】31,368. 大8(1919).
- 4327. 柴田信: 蝙蝠ノ齒牙ニ就テ.【齒新報】13,6. 大12(1923).
- 4328. —: 齒牙ノ相似器官トシテノ巨嘴鳥ノ嘴.【齒新報】17,8. 大13(1924).
- 4329. —: 本邦產魚類齒牙ノ形態學的研究.【齒新報】17,9. 大13(1924).
- 4330. 所敏一: 家鼠ノ齒牙ニ就テ.【齒新報】17,12. 大13(1924).
- 4331. —: 犬ニ於ケル後臼齒ノ一例.【齒新報】17. 大13(1924).
- 4332. 望月滿三: 牛屬ノ上臼齒ニ就テ.【日畜會誌】1,3. 大14(1925).
- 4333. 小山巖: 本邦產翼手目齒牙ノ研究.【日齒口會誌】大15(1926).
- 4334. —: 齒牙ヲ中心トスル本邦產食蟲目ノ研究.【日齒口會誌】20. 大15(1926).
- 4335. —: 本邦產鼠科齒牙ノ研究.【日齒口會誌】大15(1926).
- 4336. 所敏一: 鼠ノ臼齒ニ於ケル齒冠結節及ビ齒根ノ變遷ニ就テ.【齒新報】19,6-7. 大15(1926).
- 4337. 小山巖: 食物ニ基因シテ移動スル齒牙咬合面ノ變化狀態並ニ全齒列長ト臼齒列長トノ理學的相關.【日齒口會誌】29. 大15(1926).
- 4338. 所敏一: 犬屬ニ於ケル齒數異常.【齒新報】19. 大15(1926).
- 4339. 今村汎: 家兎切齒ノ萌出機轉.【大日齒會誌】46. 昭2(1927).
- 4340. 横田熊五郎: 動物ノ齒型及ビ齒式ニ就テ.【陸軍獸醫報】211. 昭2(1927).
- 4341. 佐山作次郎: 七戸派出部育成馬ニ於ケル齒牙ノ狀況並ニ整理法ト諸種ノ關係.【陸軍獸醫報】218. 昭2(1927).
- 4342. 所敏一: 白鼠及ビ家兎ノ切齒過度發育ニ就テ.【日齒會誌】昭3(1928).
- 4343. —: 龍ノ齒.【齒新報】21,1. 昭3(1928).
- 4344. 倉橋彌太郎: 家兎下顎第一大臼齒ノ重複一例.【齒學報】33,1. 昭3(1928).
- 4345. 所敏一: 家鼠ニ於ケル齒數異常ノ一例.【日齒會誌】97. 昭3(1928).
- 4346. —: 家鼠切齒重複ノ一例.【日齒會誌】昭3(1928).
- 4347. —: 哺乳動物ノ過剩齒ニ就テ.【齒醫專學會誌】昭4(1929).
- 4348. 柳生嘉雄: 家兎齒牙ノ異常發育ニ就テ.【日齒口會誌】36. 昭4(1929).

- 4349. 松田夏身: 死ノ轉歸ヲトリシ白鼠齒牙ノ異常發育ニ就テ.【齒新報】22,7. 昭4(1929).
- 4350. 所敏一: 家兎過剩齒ノ一例.【日齒會誌】23,2. 昭5(1930).
- 4351. 三浦榮三郎, 葛城篤太郎: 齒溝ニ依ル年齢鑑定ニ就テ.【陸軍獸醫報】249. 昭5(1930).
- 4352. 角田傳: 白鼠齒牙異常發育ノ一例.【齒月報】10,7. 昭5(1930).
- 4353. 森忠男: 本邦產雜種犬ニ於ケル齒牙形態及ビ其ノ二生齒列發生ノ時期ニ就テ.【日齒會誌】23,5. 昭5(1930).
- 4354. —: 犬ノ下顎齒重複ノ一例ニ就テ.【日齒會誌】23,8. 昭5(1930).
- 4355. 菅沼宣一, 清水晋: 家兎ノ齒數異常ニ關スル知見補遺.【日齒會誌】24,8. 昭6(1931).
- 4356. 正木正, 矢島好定: 「ラツテ」ノ切齒ニ認メラレタル珍ラシキ畸形ニ就テ.【齒學報】36,3. 昭6(1931).
- 4357. 森忠男: 犬ノ齒牙形態ニ關スル知見補遺(會).【日齒口會誌】41. 昭6(1931).
- 4358. —: 犬ノ上顎第三前臼齒及ビ下顎第四前臼齒ノ舌側齒冠結節ノ變異ニ就テ.【日齒會誌】24,8. 昭6(1931).
- 4359. 佐藤潔: 東京近郊雜種犬ニ於ケル齒牙缺如並ニ過剩ノ知見補遺.【日齒會誌】24,10. 昭6(1931).
- 4360. 森忠男: 家兎ニ於ケル齒數異常ニ關スル知見補遺.【日齒會誌】25,4. 昭7(1932).
- 4361. 津崎孝通: 家兎痕跡齒ニ關スル知見補遺(會).【齒林會誌】5,7. 昭7(1932).
- 4362. 柄原義人: 「ドブ」鼠ノ齒牙ノ形態學的研究.【大日齒會誌】69. 昭8(1933).
- 4363. 森忠男: 犬ノ上顎右側第二切齒ト過剩齒トノ適合ト認ムベキ一例.【日齒會誌】25,7. 昭7(1932).
- 4364. —: 犬ノ下顎右側第二切齒ト過剩齒トノ適合ト思ハルル一例(會).【日齒會誌】5,6. 昭8(1933).
- 4365. 高森時雄: 齒牙ノ生體染色ニ就テ.【京都醫誌】15,5. 大7(1918). [家兎].
- 4366. 福士政一, 豐田實: 交尾期ニ於ケル齒牙ノ生體染色.【日理會誌】9. 大8(1919). [犬].
- 4367. 生田信保: 家兎齒牙ノ生體染色.【齒學報】27,3. 大11(1922).
- 4368. Ikuta, Nobuyasu: Über Veränderungen der Zahnentwicklungen bei den C-Avitaminose

- (sogen. Skorbut).【Mitt. med. Akad.Keijo】9,3-4. 大14(1925). [Meerschweinchen].
- 4369. 森涼: 家兎齒牙組織ノ構造ニ生體染色知見補遺.【日微生物誌】19. 大14(1925).
- 4370. Shibata, M.: Physical and biological observations on the origin of the mammalian molar tooth, the so-called "wave theory".【Sci. Reports Gov. Inst.】4. 大14(1925). [Man, pig, rat, dog, cat].
- 4371. Funaoka, Seigo: Untersuchungen über transmikroskopische Struktur des Lebewesenskörpers. II. Die Anordnung der Mikrokristalle im Zahnschmelz.【Acta Scholae med. Kioto】9. 大15-昭2(1926-27). [Säugetiere].
- 4372. 柴田信: 齒牙細胞成分ノ非經口的投與ガ齒牙ノ構造及ビ發育ニ及ボス影響並ニ其組織學的所見.【實驗醫誌】10,8; 12,11. 大15-昭3(1926-1928). [白鼠, 犬].
- 4373. 中村平藏: 齶齒類造齒細胞ノ特殊性ニ就テ.【千葉醫會誌】4,1. 大15(1926).
- 4374. 中村平藏, 吉野芳郎: 齒牙生體染色ノ實驗的研究(會).【醫公論】748. 大15(1926). [猿, 犬, 家兎, 鼠, 蛇, 蛙, 魚].
- 4375. —, —: 齒牙生體染色ノ實驗的研究.【東洋齒月報】6,6. 大15(1926).
- 4376. 松田夏身: 白鼠齒牙中ニ含有スル水, organic matter, phosphorus, calcium 及ビ magnesium ノ化學的分析.【齒月報】7,11. 昭2(1927).
- 4377. 所敏一: 齶齒目動物切齒玻璃質ニ於ケル色素物質ニ就テ(會).【日齒會誌】昭2(1927).
- 4378. 小山巖: 本邦產食肉目齒牙ノ組織的所見.【日齒口會誌】31. 昭2(1927).
- 4379. 柴田信: 齒牙細胞ノアルトマン氏顆粒ニ就テ.【日病理會誌】17. 昭2(1927). [犬, 兎, 鼠].
- 4380. Shibata, Makoto: On Altmann's Granules in the Tooth-Cell.【Sci. Reports Governm. Inst.】6. 昭2(1927). [Mammals].
- 4381. —: The histological explanation about the effect of parenteral injection of tooth cell-ingredients upon the construction and development of teeth.【Jap. med. World】7,7. 昭2(1927). [Rat, dog].
- 4382. 柴田信: 齒牙細胞ノ細胞學的研究. 第一編: 齒牙細胞ニ於ケルアルトマン氏顆粒ニ就テ. 第二編: 齒牙細胞ニ於ケル銀還元顆粒ニ就テ.【實驗醫誌】11,10; 13,1. 昭2-4(1927-192

9). [鼠, 海狸, 家兔, 栗鼠, 豚, 犬, 猫等].

4383. 中村平藏, 吉野芳郎: 齒牙生體染色ノ實驗的研究. [千葉醫會誌] 5, 1, 昭2(1927). [哺乳類, 兩棲類, 爬蟲類, 魚類].

4384. 長尾 優: 家兔臼齒並ニ其ノ支持組織ノ組織學的構造. [口腔會誌] 2, 2, 昭3(1928).

4385. 片山武夫: 白鼠下顎切齒ノ根膜内ニ於ケル上皮細胞集團ニ就テ. [齒新報] 21, 8, 昭3(1928). [白鼠].

4386. 松田夏身: 齒牙發育ノ生化學的研究. [齒月報] 8, 1, 昭3(1928).

4387. 柳生嘉雄: レントゲン放射線ノ齒牙ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究. 齒牙發育速度ニ及ボス影響. [日齒會誌] 22, 11, 昭4(1929).

4388. 角田 傳: 健康白鼠齒牙ニ於ケル mitochondriaニ就テ. [齒月報] 9, 8, 昭4(1929).

4389. 所 敏一: 白鼠切齒珐瑯器細胞内ニ於ケル顯微化學的可檢性鐵ニ就テ. [日齒學會誌] 昭4(1929).

4390. 豐田 實: 「ヤモリ」(Gekko japonicus)ノ齒牙並ニ齒髓ノ神經分布ニ就テ(會). [日齒學會誌] 昭4(1929).

4391. 柴田 信: 齒牙細胞ノ細胞學的研究. 第二編: 齒牙細胞ニ於ケル銀還元顆粒ニ就テ. [傳研業績] 15, 昭4(1929). [白鼠, 家鼠, 海狸, 家兔, 犬, 豚, 豚].

4392. —: 「ビタミン」缺乏ノ齒牙發育ニ及ボス影響ニ就テ. 第一編: 「ビタミン」A缺乏飼育白鼠ニ於ケル齒牙發育ノ變化ニ就テ. [傳研業績] 20, 昭4(1929). [白鼠上顎齧齒發育度アリ].

4393. 弓倉繁家: 家兔切齒ノ體外培養ニ就テ. [齒海公論] 191-92, 昭4(1929).

4394. Kuwano, Hisato (桑野久任): Note on the eruption and replacement of the teeth of Japanese Deer, Cervus sika. [Annot. zool. jap.] 12, 1, 昭4-5(1929-30).

4395. 豐田 實: 哺乳動物齒牙ノ神經主宰ニ就テ. [日病學會誌] 20, 昭5(1930). [白鼠, 大編輯, 犬, 牛].

4396. Sato, Hirokichi (佐藤廣吉): A study on the anatomical and histological structure of the teeth of the Albino Rat and their associated parts. [成醫會] 昭5-8(1930-1933).

4397. 柳生嘉雄: レントゲン放射線ノ齒牙ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究. 齒牙硬組織成分ニ及ボス影響. [日齒會誌] 24, 12, 昭6(1931).

4398. 角田 傳: 齒牙細胞ニ於ケル mitochon-

oria 並ニ甲狀腺, 上皮小體機能ノ齒牙ニ及ボス影響. [齒月報] 11, 4, 昭6(1931).

4399. Nishiyama, Yukio: Über den Einfluss des N. alveolaris inferior auf den Durchbruch der Unterkieferschneidezähne beim Kaninchen. [Keijō J. of Med.] 2, 2, 昭6(1931).

4400. 笹野 榮: 外傷ガ齒牙發育ニ及ボス影響ノ實驗. [口腔會誌] 6, 4, 昭7(1932).

4401. Nishiyama, Yukio: Beiträge zur Kenntnis der Morphologie, Bedeutung und Entwicklungsgeschichte des Rudimentärzähne beim Kaninchen. [Keijō J. of Med.] 3, 1, 昭7(1932).

4402. 西塚忠義: 疾病經齒傳播ニ關スル實驗的研究. 第一: 結核. 第二: 片山病ノ經齒傳播. [日齒會誌] 26, 3, 7, 昭8(1933).

4403. 藤野幸太郎: 妊娠海狸ノ饑餓試驗ニ於ケル齒牙生長速度ニ就テ. [十全會誌] 38, 7, 昭8(1933).

口蓋ト口蓋垂

4404. 界外仙史: 病床餘談. 其二: 懸壜垂破裂. [金澤醫會誌] 4, 27, 明25(1892). [外來患者ニ懸壜垂破裂ヲ有スルモノノ比較的多キヲ記セリ].

4405. 小金井夏精: 硬口蓋ノ解剖ニ就テ. [北越醫會報] 63, 明26(1893). [人].

4406. 關場不二彦: 口蓋隆起ノ說. [北海醫報] 3, 2, 明36(1903). [アイヌ].

4407. —: 口蓋隆起ノ說. [人類誌] 19, 220, 明37(1904).

4408. 加納景成: 本邦ニ於ケル口蓋並ニ懸壜垂破裂ニ就テ. [醫新聞] 661, 明37(1904).

4409. 新井春治郎: 咽頭蓋下垂體ニ就テ(會). [東京醫誌] 1502, 明40(1907). [人].

4410. 原 正: 鯉及ビ鯔ノ口蓋粘膜炎ニ於ケル味蕾ニ就テ. [東京醫會誌] 28, 21, 大3(1914).

4411. 井上通夫: 口蓋ノ發生ニ就テ. [第四回日本醫學會誌] 大4(1915). [人].

4412. —: 口蓋形成ノ原理及ビ之ニ關スル甚タ珍稀ナル標本ト平板模型製作法ニヨル其臘製模型トノ供覽. [東京醫會誌] 30, 9, 大5(1916).

4413. —: 口蓋形式ニ關スル臘製模型ノ供覽. [十全會誌] 22, 3, 大6(1917).

4414. —: 軟口蓋ノ運動神經(第二報)及ビ軟口蓋ト顔面神經麻痺ノ關係ニ就テ(會). [東京醫誌] 2120, 大8(1919). [人].

4415. 村上幸次: 本邦人口蓋隆起ニ就テ. [大

日耳曼] 31, 3, 大14(1925).

4416. 井上通夫: 口蓋ノ發生ニ就テ. 附: 顔面破裂本態ノ現象ニ就テ. [東京醫誌] 2452, 大15(1926). [人].

4417. —: 口蓋形成ノ成因及ビ片側口蓋破裂本態ニ就テ. 附: 顔面破裂模型ノ供覽. [解剖誌] 1, 1, 昭3(1928). [人及ビ哺乳動物].

4418. —: 口蓋形成ノ成因及ビ片側口蓋破裂ノ本態ニ就テ(會). [醫公論] 824, 昭3(1928).

4419. 菅沼宜一: 本邦青年ニ於ケル口蓋皺裂形態ノ統計的觀察(會). [日齒學會誌] 昭3(1928). [齒新報] 21, 2.

4420. 向野範次: 哺乳兒口蓋ノ形態學的知見補遺. 特ニ傍齒槽提 palatalveolar wallノ出現ニ就テ. [口腔誌] 3, 1, [日齒口會誌] 38, 昭5(1930).

4421. 濱野松太郎: 口蓋皺裂ノ法醫學的價值(會). [社會醫誌] 518, 昭5(1930).

4422. —: 同人ニ於ケル口蓋皺裂ノ變化. [昭和齒評論] 2, 2, 昭5(1930).

4423. 喜多見行正: 口蓋ノ形態ト其法醫學的價值. [臨牀齒] 2, 8, 昭5(1930).

4424. 安田鐵次郎: 懸壜垂破裂ノ統計的觀察. [病理解學] 7, 3, 昭5(1930). [人].

4425. —: 懸壜垂ノ研究. 第一: 懸壜垂ノ形態學的的研究. [病理解學] 7, 4, 昭6(1931).

4426. —: 懸壜垂ノ形態學的的研究. [日本病理會誌] 21, 昭6(1931). [人].

4427. 原田雄吉: 「アイヌ」人及ビ北海道函館市學齡兒童ニ行ヒタル懸壜垂破裂症ニ就テノ統計的觀察(會). [耳鼻] 4, 1, 昭6(1931).

4428. Murakami, K.: Die Gaumenleisten der Japaner. [Arb. anat. Inst. Sendai] 14, 昭6(1931).

4429. 西山諭義: 懸壜垂破裂ニ關スル統計的觀察(會). [耳鼻] 5, 1, 昭7(1932).

4430. 廣田耕作: 日本人ノ横口蓋皺裂ノ形態的並ニ統計的研究. [人類誌] 48, 10, 昭8(1933).

4431. 和田要一: 兎唇及ビ口蓋破裂ノ統計的觀察(會). [口腔會誌] 5, 6, [日齒口會誌] 46, 昭8(1933).

扁桃腺

4432. 高橋研三: 口蓋扁桃腺ノ局所解剖, 組織, 生理「トングレクトミー」ノ適應症, 禁忌及ビ Status lymphaticus等ニ就テ. [大日耳鼻] 20, 3, 大3(1914).

4433. 松本五郎: 口蓋扁桃腺組織内ノ軟骨及ビ骨生成ニ就テ. [大日耳鼻] 23, 4, 大9(1917). [人].

4434. 東海林重信: 口蓋扁桃腺内ノ異組織ニ就テ. [醫海時報] 1330, 大8(1919).

4435. 八木澤文吉: 人類口蓋扁桃腺ノ生體染色ニ就テ. [大日耳鼻] 26, 3, 大9(1920).

4436. 松井太郎: 間質性口蓋扁桃腺肥大ニ就テ及ビ所謂振子様扁桃腺並ニ扁桃腺骨様組織形成ニ就テ. [大日耳鼻] 26, 4-6, 大10(1921). [人].

4437. 和田成章: 口蓋扁桃腺ニ現ハルル骨或ハ軟骨ニ關スル知見補遺. [東京醫誌] 2771, 昭7(1923). [人].

4438. 金子治郎: 扁桃腺内骨質ノ供覽. [十全會誌] 27, 3, 大11(1922). [人].

4439. 松本本松: 扁桃腺ノ疾患, 扁桃腺ノ解剖並ビニ組織學. [日醫新報] 97, 100, 大12(1923).

4440. 富田治郎: 扁桃腺間質ニ就テ. [日病理會誌] 13, 大12(1923). [人].

4441. 緒方周一: 口蓋扁桃腺ヨリ發生セル乳嘴腫及ビ振子様扁桃腺ニ就テ. [嶺西醫報] 201, 大13(1924). [人].

4442. 景山安治郎: 扁桃腺濾胞ニ就テ. [大日耳鼻] 30, 1, 大13(1924). [人].

4443. 遠城寺宗徳: 幼兒扁桃腺ノ大サニ就テ. [福岡醫大誌] 19, 11, 大15(1926).

4444. 宮島 靖: 口蓋扁桃腺發育過程(會). [臺灣醫會誌] 25, 大15(1926). [胎兒30體].

4445. —: 口蓋扁桃腺ノ發育學的研究補遺. [臺灣醫會誌] 26, 27, 昭2(1927). [人胎兒].

4446. 笹本 實: 扁桃腺上窩ノ意義. [日醫新報] 522, 昭2(1927).

4447. 加地八郎: 振子様扁桃腺ニ就テ. [九大醫報] 1, 1, 昭2(1927).

4448. 栗下靜雄: 振子様扁桃腺ノ一例. [鹿兒島醫誌] 4, 38, 昭2(1927). [人].

4449. 鶴木秀二: 口蓋扁桃腺ノ病理組織學的的研究. 殊ニ人類扁桃腺ニ現ハルル脂肪及ビ類脂肪ニ就テ. [大日耳鼻] 33, 7-8, 昭2(1927).

4450. —: 口蓋扁桃腺ニ現ルル脂肪及ビ類脂肪殊ニ其ノ消長ニ就テ. [大日耳鼻] 33, 9, 昭2(1927). [人].

4451. —: 口蓋扁桃腺ニ現ルル脂肪及ビ類脂肪殊ニ其ノ意義ヲ論ジ扁桃腺生理ニ及ブ【大日耳鼻】33, 11, 昭3(1928). [人].

4452. —: 口蓋扁桃腺ニ現ルル骨或ハ軟骨

形成ニ關スル補遺。【大日耳鼻】33,10, 昭3(1928)。〔人〕。

4453. 衣川 穰: 角化性扁桃腺炎ノ二例。附: 本症ニ於ケル骨及ヒ軟骨形成ニ就テ。【大日耳鼻】33,10, 昭3(1928)〔人〕。

4454. 小田大吉: 口蓋扁桃腺内ニ於ケル腺組織ニ就テ。【大日耳鼻】34,11, 昭4(1929)〔人〕。

4455. 河内專二: 口蓋扁桃腺被囊組織ニ就テ。【京府醫大誌】4,6, 昭5(1930)〔人〕。

4456. 笹木 實: 扁桃腺上窩問題。【耳鼻】5,4, 昭7(1932)。

4457. 須江空二郎: 扁桃腺ト肺門淋巴腺トニ就テ。【大日耳鼻】37,10, 昭7(1932)〔人〕。

4458. 大澤瀨平: 人體口蓋扁桃腺ノ發生ニ就テ。【成醫會】168, 昭8(1933)。

咽 頭

4459. 新井春次郎: 頭咽頭管ノ内容。【東京醫會誌】22,4, 明41(1908)〔人〕。

4460. 内田貞吉: 歐氏管扁桃腺。【醫新聞】790, 明42(1909)〔人, 牛〕。

4461. Kreidewolf, Wilhelm: Bemerkungen über die Pharynxwand in anatomischer und klinischer Beziehung. 【Mitt. med. Fak. Fukuoka】8,1 大12(1923)。

4462. 西村義太郎: 歐氏管咽頭開口部ニ對スル計測的觀察。【愛知醫會誌】38,1, 昭6(1931)。(8歳ヨリ77歳マデ1791名)。

4463. 増田芳次: 咽頭扁桃腺ノ病理組織學的研究。【慶應醫學】12,8, 昭7(1932)。

食 道

4464. 尾城八十吉: 食道筋織膜ノ組織的比較研究。【軍醫會】16, 明13(1910)〔人〕。

4465. 横山有五: 日本人ノ食道ノ長サニ就テ。【中外醫事報】759, 明44(1911)。

4466. ——: 日本人食道ノ長サニ就テ(抄)。【日外會誌】12, 明44-45(1911-12)。

4467. Yoshida, Shin: Über den Kropf der Taube während der Brutzeit. 【J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.】6, 大3-4(1914-15)。

4468. 河原治作: 食道筋肉ノ研究。【大日耳鼻】30,1, 大13(1924)〔兔, 鶏, 牛, 犬, 豚, 人〕。

4469. ——: 脊椎動物ノ食道筋ノ走り方ニ就テ(會)。【朝鮮醫會誌】49, 大13(1924)〔家鶏, 家兔, 豚, 犬, 馬, 牛, 人〕。

4470. 松井基一: 本邦産二三兩棲類及ヒ爬蟲類ノ食道後部及ヒ胃壁殊ニ是等ノ部ニ包藏セ

ル諸腺ノ微細構造知見追補。【千葉醫會】2,5, 大13(1924)。

4471. 江浦重成: 諸動物食道筋ノ研究。【福岡醫大誌】18,12, 大14(1925)。

4472. 岡 三友: 犬ニ於ケル實驗的食道通過障礙並ニ其レニ對スル諸種藥物ノ影響ニ就テレントゲン學的研究。第一報: 正常犬ニ於ケル觀察。【日消化會誌】26,5, 昭2(1927)。(食道筋層及神經分布ノ解剖學的記載アリ)。

4473. 田宮知耻夫, 佐野 繁: 食道ノ實驗的研究。【レントゲン會誌】4,3, 昭2(1927)〔犬〕。

4474. 谷口健康: 日本人ノ食道ノ長サ及ヒ位置ニ就テ。【日外會誌】28, 昭2-3(1927-28)。

4475. 笹木 實: 食道腐蝕ノ實驗的研究。【耳鼻】1,8, 昭3(1928)。

4476. 谷口健康: 日本人ノ食道ノ長サ及ヒ位置ニ就テ。【耳鼻】1,3, 昭3(1928)。

4477. 國友 鼎, 笹浦三郎: 人類ノ食道ニ於ケル類噴門腺ノ發生ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1, 昭3(1928)〔胎兒〕。

4478. 笹浦三郎: 食道ノ顔毛上皮ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1, 昭3(1928)〔胎兒〕。

4479. 笹木 實: 食道腐蝕ノ實驗的研究(會)。【耳鼻】1,9, 昭3(1928)。

4480. 笹浦三郎: 人體胎兒食道ノ發生學的研究(特ニ食道ノ上皮及ヒ腺ニ就テ)。【解剖誌】2,1, 昭4(1929)。

4481. 菅野正雄: 食道ノ生理的狭窄部位ノ構造並ニ其年齡的差違ニ就テ。【大日耳鼻】35,7, 昭4(1929)〔人〕。

4482. 笹木 實: 食道腐蝕ノ實驗的研究(2)。【耳鼻】2,6, 昭4(1929)。

4483. 岡田鍋雄: 食道憩室ノ一例。【耳鼻】2,9, 昭4(1929)。

4484. 佐藤隆二: 先天性深在性食道憩室ノ症例。【臨床兒誌】4,9, 昭5(1930)〔小兒〕。

4485. 神田五郎: 食道食道瘻孔ノ一例。【九大醫報】4,3, 昭5(1930)。

4486. 江浦重成: Studien über die Muskulatur des Oesophagus verschiedener Tiere. 【Jap. J. of med Sci. III. Physiol.】1,1, 昭5(1930)。(Katze, Hund Kaninchen, Meerschweinchen, Haushuhn, Frosch, Kröte)。

4487. 神田五郎: 猫胎兒食道ニ於ケル纖毛細胞ノ存在。【九大醫報】4,2, 昭5(1930)。

4488. Kuriyama, Tenuo: Die Blutgefäße im Epithel des Oesophagus und des Kropfes bei den Vögeln. 【Fol. anat. jap.】9,6, 昭6(1931)。

【Columbae.】。

4489. ——: Regeneration des Kropfes. 【Fol. anat. jap.】9,6, 昭6(1931)。(Huhn, Taube)。

4490. 田宮知耻夫: 食道ノ生理及ヒ病理。【日消化會誌】30,8, 昭6(1931)。(解剖學的記載)。

4491. 栗山輝雄: 鳥類ノ食道及ヒ噴囊特ニ其ノ血管ニ就テ。【解剖誌】4,1, 昭6(1931)。(雉類, 鳩類, 雀類)。

4492. 都谷枝萬次郎: 食道ノ血管分布ニ就テ。第一報: 家兔ノ食道ニ就テ。【日外資】9,4, 昭7(1932)。

4493. ——: 食道ノ血管分布ニ就テ。第二報: 犬ノ食道ニ就テ。【日外資】9,5, 昭7(1932)。

4494. 田川重三郎, 遠山 實: 食道「ブルブス」形成不能ト嚥下困難トノ關係ニ就テ。【レントゲン會誌】11,1, 昭8(1933)〔人〕。

胃

4495. 田口和美: 人體ノ横斷及ヒ縱斷面ニ於ケル胃ノ位置ノ「デモンストラチオン」。【醫新聞】610, 明36(1902)。

4496. 高田耕安: 垂胃ト大胃ニ就テ。【日消化會誌】2, 明36(1903)〔人〕。

4497. 廣瀬佐太郎: 胃病患者ニ於ケル胃ノ上界ニ就テ。【日消化會誌】3,2, 明37(1904)。

4498. 淺井猛郎: 「ザンド ウールマーゲン」ニ就テ。【東京醫會誌】22,23, 明41(1908)〔人〕。

4499. 横山三等軍醫正: 健康兵ニ於ケル胃ノ大サ及ヒ體格トノ關係。【中央醫事】29, 明43(1910)。

4500. 菊地武敏: 胃壁ニ於ケル副腺ニ就テ。附: 腫瘍發生ニ關スル知見補遺。【熊本醫專誌】6, 明44(1911)〔人〕。

4501. 中村助八郎: 胃ノ病理解剖變化(會)。【兵庫醫會誌】136, 明45(1912)〔人〕。

4502. 長又二郎: 胃動脈ノ分布狀態並ヒ胃潰瘍ノ發生ニ關スル知見追補。【日消化會誌】14, 3, 大4(1915)〔人; 解剖學的記載アリ〕。

4503. 吉光寺 錦, 友石市太郎: 本邦人ノ健胃及ヒ病的胃ノレントゲン所見。【日消化會誌】14,3, 大4(1915)。(牛角胃及ヒ鉤狀胃ノ所有者ノ體格ニ就テ生物學的記載アリ)。

4504. Kato, Yoshio; u. Nakamura, Jun-ichi: Zur Kenntnis der röntgenologischen Untersuchung des gesunden Magens bei Japanern. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】16,1, 大6(1917)。

4505. 岡本規矩男: 魚類胃形態學補遺。其一: 肉眼的研究。【京都醫誌】15,2-3, 大7(1918)。

4506. ——: 魚類胃ノ解剖。【十全會誌】23,7, 大7(1918)。

4507. 大鹿 潔, 友石市太郎: X線検査ニヨル本邦人健胃ノ幽門位置ニ就テ。【日消化會誌】17,6, 大7(1918)。

4508. 岡本規矩男: 邦人ノ胃三角ニ就テ。【慶應醫學】1,4, 大10(1921)。(胎兒, 小兒, 成人)。

4509. 浦野多門治: 胃形態並ニ運動ニ關スレントゲン研究。【日新醫學】10,5,11,8, 大10-11(1921-22)〔家兔, 人〕。

4510. Okamoto, Kikuo: On the gastric triangle of the Japanese. 【Fol. anat. jap.】1,1, 大11(1922)。

4511. 岡本規矩男: 日本人胃ノ形態學的研究。【慶應醫學】2,4, 大11(1922)。

4512. Okamoto, Kikuo: Beiträge zur Anatomie des fetalen Magens der Japaner. 【Fol. anat. jap.】1,5, 大12(1923)。

4513. 松尾巖: 胃底部ト幽門部。【醫海時報】1567, 大13(1924)。

4514. ——: Magenstrasse (胃道)ニ就テ。【醫海時報】1588, 大14(1925)。

4515. 上野益三: 「タカアシガニ」(Macrocheira kaempferi Dehaan)ノ胃。【動物誌】37,436, 大14(1925)。

4516. 石橋長英: 胃ト皮膚。【醫海時報】1674, 大15(1926)。

4517. 瀨木嘉一: レントゲン検査ニヨリテ確定セル胃ノ憩室。【日消化會誌】25,3, 大15(1930, 6)。(一例報告)。

4518. 河合一郎, 程 紹伊: 最近四年間我ガ教室ニ於テ検査セル胃型ノ統計學的觀察。【醫新聞】1220, 昭2(1927)。(レントゲン線觀察アリ)。

4519. 柳澤信賢: 哺乳兒胃ノレントゲン學的研究。【レントゲン會誌】5,1, 昭2(1927)。

4520. 愛川東平: 温血動物胃ノ神經支配ニ就テ。【九大醫報】1,1, 昭2(1927)。

4521. 多米時彦: 臨床的見地ニ於ケル胃壁動脈管ノ分布ニ就テ。第一報: 家兔ニ就テノ研究。【日外資】5,1, 昭3(1928)。

4522. 川井銀之助: 胃痛ノ病理及ヒ臨床。【日消化會誌】27,1, 昭3(1928)。(疼痛傳導路ノ解剖學的記載アリ)。

4523. 村田太郎: 胃ノ形態及ヒ筋層ニ關スル研究。【東京醫會誌】42,7, 昭3(1928)〔人〕。

4524. 平田篤次: 特殊食餌飼養ニ依ル「マウス」前胃ノ變化ニ就テ。【成醫會】49, 昭5(1930)。

4525. 多米時彦: 臨床の見地=於ケル胃壁動脈管ノ分布=就テ. 第二報: 家兔ノ胃粘膜ノ血管系統=就テ. 第三報: 犬=就テノ研究. 【日外資】7, (附録), 昭5(1930).
4526. 河合忠義: 胃粘膜皺襞像=就テ. 【レントゲン會誌】8, 2, 昭5(1930).
4527. 井田博: 臨床上=於ケル胃ノ境界=關スル知見補遺. 【臺灣醫會誌】29, 303, 昭5(1930).
4528. 宮田太喜男: 胃壁竈 50 例ノ觀察. 【レントゲン會誌】8, 1, 昭5(1930). [人].
4529. 吳建: 胃腸神經支配=關スル新見. (會) 【日醫新報】208, 昭5(1930).
4530. 田邊優, 後藤顯三郎: レ線胃粘膜像=就テ. 【レントゲン會誌】8, 1, 昭5(1930). [人].
4531. 田邊優: レ線胃粘膜像=就テ. 【海軍醫會誌】19, 1; 【レントゲン會誌】8, 1, 2, 昭5(1930). [人].
4532. Sekita, Bensuske: Sphincter antri pylori des Froschmagens. 【Arb. III anat. Inst. Kyoto Serie C, 2, 昭6(1931).
4533. Hara, Morizo: Über "Diverticulum ventriculi fundi" 【Jap. J. of med. Sci. I. Anat.】2, 4, 昭6(1931). (Säugetiere u. Mensch).
4534. —: Form und Lagerung des Magens bei Säugetieren. 【Jap. J. of med. Sci. I. Anat.】2, 4, 昭6(1931).
4535. 松本博治: 犬及ビ猫胃壁動脈管分布ノレントゲン寫眞供覽. 【九大醫報】6, 6, 昭7(1932).
4536. Sekita, Bensuske: Vergleichende Untersuchung über die Mageninnervation I. Pisces. 【Arb. III anat. Inst. Kyoto Serie A, 3, 昭7(1932).
4537. —: Vergleichende Untersuchungen über die Innervation des Magens. II. Mitt. Wirbellose Tiere. 【Arb. III anat. Inst. Kyoto Serie A, 3, 昭7(1932). (Mollusca, Echinodermata, Arthropoda).
4538. 香川卓二: 本邦人ノ胃ノ容積=就テ. 【岡山醫會誌】44, 6, 昭7(1932).
4539. 鈴木元精, 山中英一, 河野經夫: 胃粘膜ノ起伏影像=就テ. 【レントゲン會誌】10, 1, 昭7(1932).
4540. 平田胤春: 胃下垂症ノ病理解剖學的研究知見補遺. 【醫研究】6, 10, 昭7(1932). [正常胃ノ位置ノ記載アリ].
4541. 石川久三郎: 胃ノ神經支配=關スル研究. 【東京醫會誌】46, 3, 昭7(1932).
4542. 岡部昇: 胃粘膜撮影法ノ一法. 【レント

- ゲン會誌】9, 6, 昭7(1932). [人].
4543. 塚田三史: 噴門ノ神經支配=就テノ知見補遺. 【東京醫會誌】47, 10, 昭8(1933). [犬].
4544. 菊池正三: 先天性幽門狹窄症. 【東醫會誌】16, 昭8(1933). [人].
4545. 佐久間嘉一, 中澤美志郎: 胃憩室及ビ十二指腸憩室各切除例. 【Grenzgel.】7, 3, 昭8(1933). [人].
4546. 小田豊治: 胃粘膜「レリーフ」像問題. 【レントゲン會誌】11, 1, 昭8(1933).
4547. 小坂政一: 胃ノ神經支配及ビ司配障礙=關スル實驗的研究並ニ其臨床的意義. 【十全會誌】38, 5, 昭8(1933). [家兔, 人].
4548. 野村俊一郎: 胃排出機能ノ實驗的並ニ臨床的研究. 【日消化會誌】32, 6, 昭8(1933).
4549. 齋藤眞: 胃壁ノレ線撮影法 (Pneumogastroparietographie). 【愛知醫會誌】40, 7, 昭8(1933).
4550. 小久保恵作: 胃粘膜ノ常態及ビ病態組織學補遺. 【順天醫會誌】305-306, 昭8(1933). [人].
4551. 遠藤繁清: 胃粘膜=於ケル脂肪斑 Fettfleck =就テ (病理組織學的檢索). 【日消化會誌】9, 6, 昭4(1910). [人].
4552. Yoshida, Shin: On the stomach glands of the rat and rabbit. 【J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.】6, 大3-4(1914-1915).
4553. 藤藤信介: 鶏ノ胃及ビ腸骨動脈ノ發生及ビ比較解剖. 【福岡醫大誌】12, 2, 大8(1919).
4554. Taguchi, Hiroto: Beiträge zur Kenntnis über die feinere Struktur des Magens der Embryonen. 【Fol. anat. jap.】1, 1, 大11(1922). (Menschenembryo).
4555. 岡本規矩男: 胃ノ微細構造. 【慶應醫學】2, 6, 大11(1922).
4556. 湯川靖洋: 白鼠胃腺細胞ノ組織學的構造ト機能トノ關係. 【慶應醫學】3, 2, 大12(1923).
4557. 八代春雄: 胃及ビ十二指腸潰瘍=於ケル末梢神經 (特ニ迷走神經) 並ニ胃血管ノ組織學的所見=就テ. 【日內會誌】12, 大13(1924).
4558. 古森龜衛: 各種消化腺分泌=關スル組織化學的研究特ニ胃腺「ペプシン」及ビ鹽酸分泌=就テ. 【實驗醫誌】10, 5, 大15(1926). [犬等].
4559. 平野啓司: 脊椎動物ノ胃腸粘膜=於ケルアルトマン氏顆粒ノ意義及ビ本態=就テ. 【日微生物誌】20, 大15(1926). [人, 哺乳類].

4560. —: 胃腺=就テノ研究. 【日微生物誌】21, 昭2(1927). [脊椎動物].
4561. 安齋眞篤, 須賀井正謙: 胃腺細胞ノ銀反應. 【日病理會誌】17, 昭2(1927). [脊椎動物].
4562. 大庭眞咲: 胃ノ形態=關スル宗族發生學的研究. 【東北醫誌】10, 昭2(1927). [哺乳動物11種].
4563. 平野啓司: 胃腸粘膜=於ケルアルトマン氏顆粒=就テ (續). 【日消化會誌】26, 5, 昭2(1927).
4564. 走尾一三: 繁殖環上=於ケル鳩及ビ鶏ノ味囊壁ノ組織學的解剖學的研究. 【中央醫會誌】41, 昭3(1928).
4565. 中條實俊: 鼠族ノ胃壁=於ケル組織性肥伴細胞=就テ. 【日病理會誌】18, 昭3(1928).
4566. 春田操: 家兔ノ胃ノ知覺求心性纖維所屬脊髓斷區=就テ. 【生理研究】5, 12, 昭3(1928).
4567. 密田常三, 近藤喜久雄: 移植並ニ組織培養=ヨル胃腺細胞研究補遺. 【日病理會誌】18, 昭3(1928). [家兔].
4568. 黒津敏行: 「ラッテ」胃粘膜上皮=就テ (續) (會). 【解剖誌】2, 2, 昭4(1929).
4569. 白坂正吉: 胃底腺被覆細胞内=於ケルGolgi氏網装置ノ有無=就テ. 【日消化會誌】28, 6, 昭4(1929). [家兔].
4570. 藤卷真知: 特殊食餌飼養=依ル「ラッテ」前胃ノ腫瘍狀變化=就テ. 【癌】23, 1, 昭4(1929).
4571. Murayama, Takashi: Über die Morphogenese der Magenanlage von Columba. 【Arb. med. Fak. Okayama】11, 2, 昭5(1930).
4572. 原俊一: 人胎兒粘膜炎標本及ビ臘模型供覽 (會). 【解剖誌】3, 3, 昭5(1930).
4573. Cho, D.: Histological investigation of the Digestive tracts of the human fetus I. development of stomach. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】14, 4, 昭6(1931).
4574. 渡邊保: 人幽門上皮細胞=於ケルゴルヂー氏裝置=就テ. 人腸上皮細胞=於ケルゴルヂー氏裝置=就テ. 【九大醫報】5, 4, 昭6(1931).
4575. —: 人胃體部上皮細胞=於ケルゴルヂー氏裝置=就テ. 【九大醫報】5, 5, 昭6(1931).
4576. 原俊一: 人胎兒消化管ノ發生學的研究第一篇: 胃粘膜ノ發生=就テ. 【解剖誌】4, 1, 昭6(1931).
4577. 走尾一三: 繁殖環上=於ケル鳩及ビ鶏

- ノ味囊壁ノ組織細胞學的研究. 【日畜會報】4, 8, 昭6(1931).
4578. 黒津敏行: 「ラッテ」胃粘膜上皮=就テ. 第三報. 【解剖誌】4, 4, 昭6(1931).
4579. 林 續二郎: 山椒魚胃中ノ分泌細胞ノ研究特ニ其ノ核=就テ. 【札幌醫學會報】11, 4, 昭6(1931).
4580. 渡邊保: 人胃幽門部粘膜上皮細胞=於ケル「ミトコンドリア」=就テ. 【福岡醫大誌】25, 12, 昭7(1932).
4581. —: 人胃幽門部粘膜上皮細胞=於ケル「ミトコンドリア」=就テ. 【福岡醫大誌】25, 12, 昭7(1932).
4582. Kodama, Makoto, Kono, Michico and Takahashi, Kensaburo: Demonstration of Rickettsia manchuriana appearing in the stomach epithelial cells of Rat fleas and Rat lice infected with so-called Manchurian Typhus. 【Kitasato Arch. of exp. Med.】9, 2, 昭7(1932).
4583. 岡西順二郎: 胃腺細胞ノ絲粒體及ビ變粒體=關スル研究. 第一報: 海狸ノ胃底腺細胞ノ絲粒體並ニ變粒體=關スル研究. 【傳研業績】38, 昭7(1932).
4584. —: 胃腺細胞ノ絲粒體及ビ變粒體=關スル研究. 第二報: 食餌性刺戟=對スル犬ノ胃底腺細胞内絲粒體並ニ變粒體ノ時間的變化. 【傳研業績】39, 昭7(1932).
4585. 黒津敏行: 「ラッテ」胃表上皮=就テ. 第一編: 胃表上皮ノ微細構造=就テ. 【解剖誌】4, 11, 昭7(1932).
4586. —: 「ラッテ」胃表上皮=就テ. 第二編: 胃表上皮ノ「グリコゲン」=就テ. 【解剖誌】4, 11, 昭7(1932).
4587. —: 「ラッテ」胃表上皮=就テ. 第三編: 胃表上皮ノ脂肪=就テ. 【解剖誌】4, 11, 昭7(1932).
4588. 吉田定男: 「マウス」ノ噴門腺ト其ノ「ミトコンドリア」ノ變化=就テ. 【九大醫報】6, 1, 昭7(1932).
4589. 井上留雄: 「ムスカリン」及ビ「アトロピン」ノ胃粘膜細胞ノGolgi氏裝置=及ボス影響=就テ. 【岡山醫會誌】44, 3, 昭7(1932). [家兔].
4590. 宮本義太: Hynobius =於ケル胃原基ノ發生=就テ. 【岡山醫會誌】44, 12, 昭7(1932).
4591. 岡西順二郎: 胃腺細胞ノ絲粒體及ビ變粒體=關スル研究. 【實驗醫誌】16, 9, 17, 5-6, 昭

7-8(1932-33). [海鏡, 犬].

4592. 渡邊保: 人胃幽門腺上皮細胞 = 於ケル Golgi 氏装置 = 就テ. [福岡醫大誌] 26,1. 昭8(1933).

4593. —: 人胃粘膜上皮細胞 = 於ケル Golgi 氏装置 = 就テ. [福岡醫大誌] 26,1. 昭8(1933).

4594. 宮本義木: 邦人胎兒ノ胃原基ノ形態學的發生 = 就テ. [解剖誌] 6,4. 昭8(1933).

4595. 出射一郎: 耳下腺或ハ顎下腺ノ全副出後 = 於ケル胃底腺ノ變化 = 就テ. [岡山醫會誌] 45,7. 昭8(1933). [家兔].

4596. 岡西順二郎: 胃腺細胞ノ絲粒體及ビ變粒體 = 關スル研究. 第三報: 諸種藥物ノ胃底腺細胞内絲粒體並ニ變粒體ニ及ボス影響. [傳研業績] 23. 昭8(1933). [海鏡, 犬].

4597. —: 胃腺細胞ノ絲粒體及ビ變粒體 = 關スル研究. 第四報: 幽門腺細胞ノ絲粒體並ニ變粒體 = 就テ. [傳研業績] 24. 昭8(1933). [海鏡, 犬].

4598. 加藤信治: 胃酸分泌ト胃腺細胞. 第一報: 色素ノ胃腺細胞ニ對スル態度. [北越醫會誌] 48,2. 昭8(1933). [家兔, マウス, 犬].

4599. —: 胃酸分泌ト胃腺細胞. 第二報: 胃液特ニ鹽酸分泌ト胃腺細胞ノ形態學的研究. [北越醫會誌] 48,2. 昭8(1933). [家兔, マウス, ラツテ].

4600. 淺田豐慶: 二三ノ組織的標本供覽. A. 胃表面上皮細胞ノゴルヂー氏體及ビ銀顆粒(仔猫). B. 胃噴門腺ノゴルヂー氏體標本(猫). [北越醫會誌] 48,13. 昭8(1933).

腸一般

4601. 久保武: 日本人ノ消化管調査. 第一報第一: 腸管ノ長サ. [中央醫會誌] 66-73. 明39-40(1906-07).

4602. 重村正彬: 日本人ノ腸ノ長サ. 附: バイエル氏腺ノ位置. [中央醫事] 25. 明43(1910).

4603. 長谷部言人: 日本人ノ腸管ノ長サ = 就テ追記. [東北醫誌] 2,3. 大7(1918).

4604. 岡本規矩男: 邦人腸管ノ長サ = 就テ. [京都醫誌] 17,12. 大9(1920).

4605. —: 邦人腸管ノ長サ = 就テ. [東京醫誌] 2220. 大10(1921).

4606. 中本完二: 稀有ナル先天性腸管閉塞症 = 就テ. [日消化會誌] 22,4. 大12(1923). [人].

4607. 東條長太郎, 吉村盛夫, 近藤尚夫, 大草明, 八星英治: 日本人ノ腸ノ解剖(第一報). [病理治療] 3. 昭4(1929).

4608. 外山新八郎: 日本人ノ腸管ノ長サ及ビ幅 = 就テ. [成醫會] 49,35. 昭5(1930).

4609. 河石九二夫: 生體日本人 = 於ケル腸ノ走行及ビ長サ = 就テ. [Grenzgeb.] 5,1. 昭6(1931).

4610. 田章吾: 先天性腸狹窄 = 就テ. [臨床兒誌] 5,3. 昭6(1931). [新生兒].

4611. 香川卓二: 本邦人ノ腸管ノ大サ = 就テ. [岡山醫會誌] 44,5. 昭7(1932).

4612. 大澤岳太郎: 腸上皮 = 就テ. [日消化會誌] 11,1. 明45(1912).

4613. Arima, Jun: Die zytologischen Untersuchungen der Baucheingeweide bei den Embryonen. II. Mitt. Die Studien über den Darm. [Pol.anat.jap.] 5,5. 昭2(1927). [Mensch, Tanzmaus].

4614. 中野 暉: 腸管遊走細胞 = 及ボス神經ノ作用 = 就テ. [東京醫誌] 2950. 昭4(1929). [海鏡].

4615. 渡邊保: 人腸上皮細胞ノ「ミトコンドリア」 = 就テ. [九大醫報] 4,4. 昭5(1930).

4616. —: 人腸上皮細胞「ミトコンドリア」ノ時間的變化 = ツイテ. [九大醫報] 4,5. 昭5(1930).

4617. —: 人腸上皮ノ細胞學的研究(其1). 中心體 = 就テ. [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

4618. —: 人腸上皮細胞ノ中心體 = 就テ(第一報)(會). [東京醫誌] 2713. 昭6(1931).

4619. —: 人腸上皮細胞ノ中心體 = 就テ. [九大醫報] 5,1,3. 昭6(1931).

4620. 鄭一千: 黃色細胞 = 就テ(會). [解剖誌] 5,7. 昭7(1932). [人, 哺乳類, 鳥類, 爬虫類, 兩棲類, 魚類].

4621. 渡邊保: 人間腸粘膜上皮 = 見ル一種ノ纖毛細胞. [九大醫報] 6,1. 昭7(1932).

4622. —: 人腸粘膜上皮細胞 = 於ケル「ミトコンドリア」 = 就テ. [福岡醫大誌] 25,12. 昭7(1932).

4623. —: 人腸粘膜上皮細胞 = 於ケル中心體 = 就テ. [福岡醫大誌] 26,1. 昭8(1933).

4624. —: 人腸粘膜上皮細胞 = 於ケル Golgi 氏装置 = 就テ. [福岡醫大誌] 26,1. 昭8(1933).

小腸

(十二指腸, 空腸, 回腸)

4625. 敷波重次郎: 「アホロートル」Axolotl ノ

腸 = 就テ. [東京醫會誌] 13,9. 明32(1899).

4626. —: 「アホロートル」ノ腸 = 就テ. [東京醫誌] 1106-1107. 明32(1899).

4627. 野口勇三郎: 小腸閉塞ノ供覽. [東京醫誌] 1610. 明42(1909). [人].

4628. 佐分利夏民: 「メツケル」氏腸「ヂベルチケル」 = 就テ(會). [朝鮮醫會誌] 6. 大2(1913). [人].

4629. 佐藤清: 成人 = 於ケル十二指腸乳嘴部ト幽門瓣トノ距離 = 就テ. [日消化會誌] 11,6. 大6(1917).

4630. 三宅 連: 廣汎ナル小腸切除術並ニ生體日本人ノ小腸ノ長サ = 就テ. [日新醫學] 7,1. 大6(1917).

4631. Maeda, Wasaburo: Zur topographischen Anatomie des Duodenum der Japaner. [Acta Scholae med. Kioto] 7. 大13-14(1924-25).

4632. 澤井爲三: 本邦人小腸ノ走向 = 就テ. 第一報, 第二報. [日外會誌] 25. 大13-14(1924-25).

4633. 原 邦明: 「ガザミ」ノ腸 = 就テ. [水産研究誌] 21,8. 大14(1925).

4634. 中川三郎, 結城利克: 十二指腸ノ孤立的X線像 = 就テ. [日外資] 3,4. 大15(1926). [人].

4635. 樋渡吉治: 家雞腸管ノ憩室 = 就テ. 附: 家雞腸管ノ長サ. [産兒島醫誌] 3,20. 大15(1926).

4636. —: 家雞腸管ノ憩室 = 就テ. 附: 家雞腸管ノ長. [動物誌] 38,455. 大15(1926).

4637. 西岡辰藏: 小腸絨毛ノ血管網ノ比較解剖學的研究(會). [朝鮮醫會誌] 69. 大15(1926). [各階級ノ脊椎動物].

4638. 廣田耕作: 十二指腸空腸「ヘルニア」ノ一例. 同時ニ十二指腸擴張, 十二指腸支腔ヲ併有スルモノ. [日外資] 4,4. 昭2(1927). [人].

4639. 鈴木啓治: 日本人胎生ノ諸期 = 於ケル小腸ノ位置及ビ走行 = 就テ(會). [東北醫誌] 10. 昭2(1927).

4640. 西岡辰藏: 哺乳動物ノ小腸絨毛血管ノ比較解剖學的研究補遺. 第一報: 肉食類. [朝鮮醫會誌] 81. 昭2(1927). [犬, 狐, 猪, 兔, 鼠].

4641. 中野由巳: 鳥類腸管絨毛並ニ皺襞ノ血管 = 就テ. [東北醫誌] 10. 昭2(1927).

4642. 西岡辰藏: 小腸絨毛 = 於ケル血管ノ比較解剖學的研究. [東北醫誌] 10. 昭2(1927). [犬, 猪, 兔, 海鏡].

4643. 鈴木啓治: 日本人小腸ノ位置走行 = 就テ(第二報)(會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928). [胎兒, 初生兒, 小兒, 成人].

4644. 星野 績: 小腸粘膜ノ織器特異性 = 就テ. [日微生物誌] 22. 昭3(1928). [人].

4645. 西岡辰藏: 鳥類腸絨毛ノ血管 = 就テ. (會). [解剖誌] 1,1. 昭3(1928). [鶴, 鳩, 家鴨, 鶯鳥, ワシ, ミ、ズク].

4646. —: 哺乳動物ノ小腸絨毛血管ノ比較解剖學的研究補遺. 第二報: 齧齒類. [朝鮮醫會誌] 86. 昭3(1928). [家兔, 豚鼠, ダイコクネズミ, シマリス].

4647. 篠原 順: メツケル氏憩室ノ炎症 = 因リテ惹起セラレタル腸管塞症ノ一例. [臨床兒誌] 3,12. 昭4(1929). [小兒].

4648. 脇坂常次郎: 十二指腸憩室 = 就テ. [食療病院報] 4. 昭4(1929). [老人].

4649. 西岡辰藏: 冷血動物腸皺襞ノ血管ニツキテ. [解剖誌] 2,2. 昭4(1929). [ハンサキ, ヒキガヘル, イシガメ, スツボン].

4650. 梅田 薫: 腸管機能ノ形態學的研究. [日病理會誌] 19. 昭4(1929). [家兔].

4651. 松藤宗次, 野村俊一郎: 十二指腸液ノ胃内逆流機轉 = 就テ. [日消化誌] 28,5. 昭4(1929). [犬ノ幽門部ノ皺襞構造 = 就テ記載アリ].

4652. Okuda, Mizuho: Beiträge zur Kenntnis der Dünndarmbewegung. [Jap. med. World]. 9,5. 昭4(1929). [鳥ノPlexus myentericusノ發生ノ記載アリ].

4653. 脇坂常治郎, 本多 稔: 十二指腸憩室 = 就テ. [Grenzgeb.] 4,5. 昭5(1930). [人].

4654. 古賀良彦: 十二指腸憩室 = 就テ. [日レントゲン會誌] 8,1. 昭5(1930). [人].

4655. 櫻井 正: 蛙及ビ蟾小腸ノ神經支配. [東京醫誌] 2656. 昭5(1930).

4656. 澤 純三: レントゲン放射ニヨル家兔腸管ノ組織學的並ニ機能的變化 = 就テ. [日レントゲン會誌] 8,1; 10,2. 昭5-7(1930-32).

4657. 福原 武: 小腸ノ運動(腹憲法及ビ活動寫眞ニヨル). [日新醫學] 20,4. 昭5(1930). [兔, モルモット, 猪, 犬].

4658. 伊藤辰治: 先天性十二指腸閉塞(完全離斷)症ノ一例. [北越醫會誌] 46,7. 昭6(1931). [女兒].

4659. 森 優: 十二指腸憩室ノ一例. [九大醫報] 5,3. 昭6(1931).

4660. 木村三郎: 邦人ノ屍體 = 於ケル小腸ノ腹腔内分布狀態 = 就テ. [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

4661. 鈴木啓治: 日本人小腸ノ腹腔内ニ於ケル

ル位置及走行ニ關スル胎生學の解剖學的研究。【解剖誌】4,2. 昭6(1931)。〔成人, 小兒, 初生兒, 胎兒〕。

4662. 高橋源二: ノ氏憩室ニ生ゼル肉腫様筋腫ニヨリテ稀有ナル發生機轉ヲ示セル「イレウス」ノ一治驗例。【Grenzgeb.】5,7. 昭6(1931)。

4663. 張方慶: 小腸絨毛形態ノ年齡的及ビ局所的差異ニ就テ。【解剖誌】4,4. 昭6(1931)。〔老人, 初生兒〕。

4664. 福原武: 小腸ノ神經支配(腹窓法及ビ活動寫眞ニヨル)。【日新醫學】21,2. 昭6(1931)。〔兔, 猪, 犬〕。

4665. 久木田重雄: 海狸腸管ノ血管ニ就テ(其一)。小腸腺層ニ於ケル小動脈ノ分岐ニ就テ。【九大醫報】5,5. 昭6(1931)。

4666. 福井潤: 器質的非病的十二指腸球部變形。【日レントゲン會誌】10,2. 昭7(1932)。〔人〕。

4667. Yamao, Osamu: Über das Vorkommen des Meckel'schen Divertikels bei den Japanern. 【Fol. anat. jap.】10,4. 昭7(1932)。

4668. 廣岡治: 牛盲腸ニ於ケル筋束ノ走行ニ就テ。【九大醫報】9,6. 昭7(1932)。

4669. 窪田忍: 大腸上半部ニ於ケル神經支配及ビ神經支配異常ニ關スル實驗的研究並ニ其臨床的意義。【十全會誌】37,11. 昭7(1932)。〔犬, 家兔〕。

4670. 中野由巳: 鳥類腸管壁ノ血管ニ就テ。【解剖誌】5,3. 昭7(1932)。

4671. 久木田重雄: 海狸腸管ノ血管ニ就テ。【九大醫報】6,1. 昭7(1932)。

4672. 中野由巳: 鳥類腸絨毛並ニ其血管ニ就テ(第一報)。【解剖誌】5,3. 昭7(1932)。

4673. 河合部二, 金津晴亮: 十二指腸粘膜炎下脂肪腫ノ一例。【岡山醫會誌】45,7. 昭8(1933)。〔人〕。

4674. 栗原輝信: 十二指腸憩室ノ統計的及ビ形態學的研究。【東北醫誌】16. 昭8(1933)。〔人〕。

4675. 山下久雄: 十二指腸憩室ニ就テ。【東京醫誌】2317. 昭8(1933)。〔人〕。

4676. 藤澤秀園: Meckel氏憩室ニ因スル嵌頓「ヘルニヤ」ノ一治驗例ニ就テ。【Grenzgeb.】7,7. 昭8(1933)。

4677. 木谷長信: 無羊膜類胎仔ニ於ケル正統的ニ來ル腸管閉塞ニ就テ。【北越醫會誌】48,13. 昭8(1933)。〔大山椒魚, ヒノビウス, 青蛙, ヒキ蛙, 鱒, 鱒, ネコザメ, ヤマメ〕。

4678. Osawa, Gakutaro: Über Darmepitheli-

en. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】9. 明4(1911)。〔Anuren, Urodelen, Saurier, Chelonier〕。

4679. 大澤岳太郎: 腸ノ上皮ニ就テ「デモンストラチオン」。【第三回日本醫會誌】明4(1911)。〔魚類, 兩棲類, 爬蟲類, 鳥類, 哺乳類〕。

4680. 齋藤精一郎: 粘液痙攣ニ就テ。【日消化會誌】11,3. 明45(1912)。〔犬〕。

4681. 澤村榮美: 腸管及ビ腸間腸ニ疼痛ノ有無如何(生理的及ビ組織學的研究)。【日外會誌】14,大2-3(1913-14)。

4682. 堀澤治吉: 十二指腸腺内「エオジン」嗜好性腺細胞ニ就テ。附: 日本製食料紅ノ組織染色法。【日病理會誌】3. 大3(1914)。〔人, 牛, 豚, 尾長猿, 家兔, 馬, モルモット, 犬, 猪, 家鼠〕。

4683. 竹内清: バイエル氏板ノ構造ニ就テ。【福岡醫大誌】14,1. 大10(1921)。

4684. 福田亮三: 蟹ノ腸ノ組織的研究。一, 二。【水産研究誌】17,12. 18,1. 大11-12(1922-23)。

4685. 佐竹清: 腸管粘膜炎ニ於ケル淋巴球ニ就テ(第一報)。【大日病理會誌】13. 大12(1923)。〔家兔, 海狸〕。

4686. 大串利一郎: 脂肪ノ腸管吸收機轉ニ就テ。【結核】1,2. 大12(1923)。〔犬, 白鼠, 猪〕。

4687. 須田謙一郎: 二三哺乳動物ノ腸腺ニ存スル顆粒細胞ニ就テ。【京都醫誌】21,10. 大13(1924)。〔モルモット, 豚〕。

4688. Abe, Shuzaburo: Zur Kenntnis der Entwicklung des Darmepithel der Larve von Bufo vulgaris. 【Aichi J. of exper. Med.】1,3. 大13(1924)。

4689. 大庭國紀: 「フ、ロゲニ」ノ範圍ニ於ケル消化管粘膜炎ニ出現スル細胞群ノ檢索。殊ニパネート氏細胞ニ對スル疑義。【日消化會誌】23,6. 24,1. 大13-14(1924-25)。

4690. 篠田統: 鱗翅目中腸表皮細胞ニ於ケル消化液ノ分泌機轉。【動物誌】38,447. 大15(1926)。

4691. —: 直翅目中腸表皮細胞ニ於ケル消化液ノ分泌機轉並ニ附屬盲腸ニ就テ。【動物誌】38,456. 大15(1926)。

4692. 北村勇三: 家兔十二指腸腺ニ就テ(標本及ビ模型供覽)(會)。【東北醫誌】10. 昭2(1927)。

4693. 苗加寛三: 人胎兒及ビ哺乳動物ノ腸絨毛血管ノ比較解剖學的研究。【解剖誌】1,1. 昭3(1928)。

4694. 大森參里: 日本人ニ於ケル十二指腸絨毛ノ胎生組織學的研究(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928)。

4695. 北村勇三: 家兔腸上皮ノ微細構造ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928)。

4696. 中野 暉: 腸上皮細胞間ノ遊走細胞ノ數的觀察(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928)。

4697. 北村勇三: 家兔絨毛上皮ノ吸收作用ニ伴フ微細構造ノ變化ニ就テ。【解剖誌】1,1. 昭3(1928)。

4698. 中野 暉: 腸上皮細胞間ノ遊走細胞ノ數的觀察並ニ遊走細胞ト腸管壁淋巴裝置特ニ集團結節トノ關係。【北海道醫誌】7,5. 昭4(1929)。

4699. —: 腸上皮細胞間遊走細胞ノ數的觀察ニ於ケル植物性神經ノ影響ニ就テ。【北海道醫誌】7,9. 昭4(1929)。

4700. 高木耕三, 村上來藏: 「ラテ」パネート氏細胞ノ微細構造ニ就テ。【解剖誌】1,4. 昭4(1929)。

4701. 大森參里: 日本人十二指腸ノ胎生期ニ於ケル形態並ニ組織學的研究。【解剖誌】3,6. 昭5(1930)。

4702. 渡邊保: 人十二指腸腸管上皮細胞ノ「ミトコンドリア」ニ就テ。【東京醫誌】2702. 昭5(1930)。

4703. —: 人十二指腸腸管上皮細胞「ミトコンドリア」ノ時間的變化ニ就テ。【東京醫誌】2706. 昭5(1930)。

4704. 清水貞夫: 乳糜管起始ノ比較解剖學的研究。【解剖誌】3,3. 昭5(1930)。

4705. 川口榮作: 蠶ノ消化管ノ組織學的研究。特ニ中腸被膜細胞ノ二型ニ就テ。【動物誌】44. 503. 昭5(1930)。

4706. 齋藤三郎: 杓蠶ノ中腸噴門部ノ構造。【札幌博物會々報】11,2. 昭5(1930)。

4707. 植苗福次郎: 「アドレナリン」及ビ鹽化「バリウム」ガ腸管壁ノ顯微鏡像ニ及ボス影響ニ就テ。【解剖誌】2,6. 昭5(1930)。

4708. Cho, D: Histological investigation of the digestive tracts of the Human fetus. II. Development of small intestines. 【Jap. J. of Ob. & Gyn.】14,4. 昭6(1931)。

4709. 原 俊一: 人胎兒消化管ノ發生學的研究第二篇: 十二指腸粘膜炎ノ發生ニ就テ。【解剖誌】4,4. 昭6(1931)。

4710. —: 人胎兒消化管ノ發生學的研究。第三篇: 空腸及ビ回腸粘膜炎ノ發生ニ就テ。【解剖誌】4,6. 昭6(1931)。

4711. —: 人胎兒十二指腸粘膜炎ノ發生學的研究(會)。【解剖誌】4,4. 昭6(1931)。

4712. 石丸士郎: 腸上皮細胞ニ於ケル「ゴルヂー」體。【十全會誌】36,3. 昭6(1931)。

4713. 中野 暉: 腸上皮細胞間遊走細胞ニ對スル二三藥物ノ作用ニ就テ。【北海道醫誌】9,1. 昭6(1931)。

4714. —: 腸上皮細胞間遊走細胞ノ數的觀察ニ於ケル胎兒海狸及ビ幼弱海狸ニ就テノ研究。【北海道醫誌】9,1. 昭6(1931)。

4715. —: 腸上皮細胞間遊走細胞ニ對スル神經作用ノ實驗的綜説。【北海道醫誌】9,5. 昭6(1931)。

4716. 石丸茂生: 「マウス」腸上皮細胞ノ「ミトコンドリア」ノ標本供覽。【九大醫報】5,5. 昭6(1931)。

4717. 宮澤國丸: 腸管上皮ノ吸收時ニ於ケル細胞原形質微細構造ノ態度ニ就テ。【日病理會誌】21. 昭6(1931)。

4718. 濱崎元: 腸上皮細胞ノFettspeicherungニ就テ。【解剖誌】4,4. 昭6(1931)。

4719. Kawaguchi, Eisaku: Über den Dimorphismus der Epithelzellen im Mitteldarm der Seidenraupe (Bombyx mori L.) 【J. Dep. Agr. Kyushu Imp. Univ.】3,3. 昭6(1931)。

4720. 渡邊保: 人十二指腸腸管上皮細胞ニ於ケル「ミトコンドリア」ニ就テ。【福岡醫大誌】25,12. 昭7(1932)。

4721. 濱崎元: 脂肪吸收ニ伴フ腸上皮細胞ノ細胞學的變化ニ就テ。【解剖誌】5,4. 昭7(1932)。

4722. 吉田定男: 白鼠腸ニ於ケル類脂肪吸收所見ニ就テ。【九大醫報】6,3. 昭7(1932)。

4723. 吉田定雄: 「リポイド」ノ吸收ニ關スル知見補遺。【解剖誌】5,7. 昭7(1932)。

4724. 石丸士郎: 小腸濾胞被覆上皮細胞ノ「トリパン」青攝取(會)。【解剖誌】5,7. 昭7(1932)。

4725. 篠田統: 昆蟲中腸ノ組織學の所見。【動物誌】44,519-520. 昭7(1932)。

4726. 苗加寛三: 豚鼠ニ於ケル腸絨毛血管ノ發育ニ就テ。【臺灣醫會誌】31,324. 昭7(1932)。

4727. 渡邊保: 人十二指腸腸管上皮細胞ニ於ケル中心體ニ就テ。【福岡醫大誌】26,1. 昭8(1933)。

4728. 花澤久榮: 正常家兔及ビ猫腸管上皮ノ「グリコゲン」所見。【北越醫會誌】48,1. 昭8(1933)。

4729. 齋藤龍三: 腸被覆細胞ノ絲粒體及ビ變

粒體 = 關スル研究。【實驗醫誌】17,6-8, 昭8(1933)。【白鼠】。

4730. 花澤久榮: 腸管粘膜上皮ノ微細構造並ニ吸收及ビ分泌トノ關係ニ就テ。【新潟病報】35, 昭8(1933)。【家兔, 猪】。

4731. —: 慢性及ビ急性飢餓時家兔腸管上皮ノ糖原質及ビ鐵顆粒並ニ正常時及ビ飢餓時ニ於ケル「ピロン」顆粒(抄)。【北越醫會誌】48,14, 昭8(1933)。

4732. 齋藤龍三: 腸被覆細胞ノ絲粒體及ビ變粒體ニ關スル研究。第一報: 生理狀態ニ於ケル白鼠中腸圓柱上皮細胞ノ絲粒體並ニ變粒體ニ就テ。【傳研雜誌】28, 昭8(1933)。

4733. —: 腸被覆細胞ノ絲粒體及ビ變粒體ニ關スル研究。第二報: 饑餓狀態ニ於ケル白鼠中腸圓柱上皮細胞ノ絲粒體並ニ變粒體ニ就テ。【傳研雜誌】29, 昭8(1933)。

4734. 町田次郎: 羆兒中腸ノ皮膜組織ニ就テ。【動物誌】45,632-3, 昭8(1933)。

4735. 渡邊保: 人十二指腸腺上皮細胞ニ於ケル Golgi 氏裝置ニ就テ。【福岡醫大誌】26,1, 昭8(1933)。

4736. 落合國太郎, 安藤清, 舟木茂治: 組織體外培養法ニヨル雞胎兒小腸組織ノ「グリコゲン」合成ニ關スル研究。【臨床病理學血液學】2,12, 昭8(1933)。

大腸

蟲樣突起, 結腸, 直腸

4737. 相野田銀司, 原亮: 家兔盲腸部ノ發生ニ就テ。【醫公論】13, 大1(1912)。

4738. 茂木知明: 蟲樣垂米粒狀粘液小體ニ就テ。【成醫月報】362, 明45(1912)。【人】。

4739. 相野田銀司, 原亮: 家兔迴盲部ノ發生ニ就テ。【東京醫會誌】27,21, 大2(1913)。

4740. 内野捨一: 蟲樣垂ノ統計的研究。【日消化會誌】15,3, 【日病理會誌】大5(1916)。【人】。

4741. Yamane, Jinshin: Über eine Missbildung des Dickdarmes, Dysgenesis coli beim Pferde. 【J. Coll. Hokk. Imp. Univ.】9, 大9-10(1920-21)。

4742. 石川昇: 大腸ニ於ケル所謂腸系統ト自律神經系統トノ關係ニ就テ。【東京醫會誌】2235, 大10(1921)。【犬, 人】。

4743. —: 大腸下部(下行及ビS字結腸)ノ神經支配ニ關スル實驗的研究。【東京醫會誌】36,1, 大11(1922)。【犬】。

4744. 今吉政吉: 蟲樣突起ノレントゲン検査

ニ就テ。【海軍醫誌】35, 大11(1922)。【人】。

4745. Ishikawa, Noboru: Experimentelle Untersuchungen über die Dickdarminnervation, insbesondere des Colon descendens et sigmoideum. Tafel II-VI. 【Mitt. med. Fak. Fukuoka】7, 大12(1923)。

4746. 石川昇: 大腸下部(下行及ビS字結腸)ノ神經支配ニ關スル實驗的研究。【福岡醫大誌】16,4, 大12(1923)。

4747. 岡田清三郎, 岡本陽七, 角尾晋, 田宮知耻夫, 伊藤正義: 「マクロシグマ」ニ就テ。【日消化會誌】22,3, 大12(1923)。【人】。

4748. 吉川精一: 邦人蟲樣突起ノ解剖學的並ニ組織學的統計研究。【京都醫誌】20,2, 大12(1923)。

4749. 山根甚信: 北海道産「ベルシエロン」種系馬匹ニ見出サルル遺傳性大腸閉塞症ニ就テ。【中央獸醫誌】37, 3, 大13(1924)。

4750. 小池才一: 大腸ノ位置の運動ニ及ボス胃内容及ビ腹部陥入ノ影響ニ關スルレントゲン線の研究。【日醫會報】1485, 大13(1924)。【人】。

4751. 松原真一, 八木忠亮: 下行結腸異常屈曲症。【Grenzgeb.】1,9, 昭2(1927)。【人活體】。

4752. 原勇三: 先天性結腸巨大症。【瘻瘻研究】昭2-9(1927-34)。【消化器疾患編 4】。

4753. 大庭眞突: 結腸ノ形態ニ關スル宗族發生學的研究。【東京醫會誌】42,4, 昭3(1928)。【哺乳類】。

4754. —: 結腸ノ形態ニ關スル宗族發生學的研究(會)。【解剖誌】1,1, 昭3(1928)。【哺乳類 18種】。

4755. 牧野内真: 日本人ノS字狀結腸部ニ就テ(會)。【東京醫誌】2582, 昭3(1928)。

4756. 本多稔: 本邦婦人結腸ノ形態的研究。第一篇: S字狀結腸ニ就テ。【倉敷病院報】3, 昭3(1928)。

4757. 稲田宣男: 大腸運動ト其ノ神經支配トニ就テ。【福岡醫大誌】21,3, 昭3(1928)。【犬】。

4758. 進文雄: 哺乳類直腸ノ神經ニ就テ。【九大醫報】3,5, 昭4(1929)。

4759. 秋武勝雄: 蟲樣突起ニ關スル研究。【醫研究】3,8, 昭4(1929)。

4760. 泉伍朗: 異常位置ヲ取レル蟲樣突起ノ數例。【Grenzgeb.】3,1, 昭4(1929)。【人活體】。

4761. 牧野内真: 日本人ノS字狀結腸部ニ就テ(其一)。【北越醫會誌】44,1, 昭4(1929)。

4762. 窪田忍: 盲腸ノ神經支配ニ關スル實驗

的研究。【東京醫誌】2624, 昭5(1930)。【犬】。

4763. 塚本登: 日本人蟲樣突起ノ長サ, 形状, 所在, 走向並ビニ蟲樣突起動脈トノ關係。【解剖誌】3,7, 昭5(1930)。

4764. 富原敏也: 蟲樣突起ノレントゲン像ニ就テ。【レントゲン會誌】8,1, 昭5(1930)。

4765. —: 蟲樣突起ノレントゲン像ニ就テ。【レントゲン會誌】8,2, 昭5(1930)。

4766. 牧野内真: 日本人ノS字結腸ニ就テ(其二)。【解剖誌】4,4, 昭6(1931)。

4767. 木村三郎: 邦人ノ屍體ニ於ケル大腸ノ位置形態ニ就テ。【解剖誌】4,4, 昭6(1931)。

4768. 樋口助弘, 石神等: 蟲樣突起ノ組織學的研究。【レントゲン會誌】9,1,6, 昭6-7(1931-32)。

4769. 久木田重雄: 海猴腸管ノ血管(盲腸粘膜ノ血管ニ就テ)。【九大醫報】6,6, 昭7(1932)。

4770. Yamano, Osamu: Eine seltene Lageanomalie des Dickdarms. 【Fol. anat. jap.】10,4, 昭7(1932)。【Mensch】。

4771. 花澤久榮: 本邦人蟲樣突起ノ解剖的並ニ組織學的統計觀察。【北越醫會誌】47,10, 48,9, 昭7-8(1932-33)。

4772. 廣岡治: 大腸ノ筋層ニ就テ。【解剖誌】6,4, 昭8(1933)。【犬, 牛】。

4773. 相羽昭: 大腸ノ運動。【日新醫學】22,12, 昭8(1933)。【猪, 犬, 鼠, 兔, モルモット】。

4774. 高原篤律: 移動性盲腸及ビ横行結腸下垂ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究。【醫研究】7,4, 昭8(1933)。【正常解剖學的記載アリ】。

4775. 高安俊雄: 人ノ大腸壁輪狀筋層内ニ於ケル神經叢ノ確認。【東京醫誌】2849, 昭8(1933)。

4776. 脇田誠一: 人體蟲樣突起ノ形態學的研究。【病理學紀要】9,1, 昭8(1933)。

4777. 岩井孝義: 大腸異常係蹄症ニ就テ。【日醫新報】553, 昭8(1933)。

4778. 花澤久榮: 腸管殊ニ蟲樣突起粘膜ノ形態學的研究。第一報: 正常動物蟲樣突起並ニ他ノ腸管粘膜ニ於ケル「ミトコンドリア」ニ就テ。【日病理會誌】21, 昭8(1931)。【家兔, 犬, 海猴, 猪, ラツテ, マウス】。

4779. Nishio, Omoshi: Über die Histologie und den Schmerz der Fissura ani. 【Acta Scholae med. Kioto】5, 大11-12(1922-23)。【Japaner】。

4780. 花澤久榮: 蟲樣突起ニ於ケル脂肪ニ就テ。【北越醫會誌】45,6, 昭5(1930)。【人, 牛, 家兔, 犬, 猪, 雞, 豚, 白鼠, 海猴】。

4781. 渡邊保: 人大腸上皮ニ見タル纖毛細胞(γ)ニ就テ(豫報)。【東京醫誌】2680, 昭5(1930)。

4782. —: 人大腸上皮ニ於ケル纖毛細胞標本供覽。【九大醫報】4,3, 昭5(1930)。

4783. 石丸士郎: 家兔蟲樣突起濾胞被覆上皮細胞ノGolgi體。【十全會誌】36,8, 昭6(1931)。

4784. 高原篤作: 大腸ニ於ケル彈力纖維ニ就テ。【東京醫誌】2762, 昭7(1932)。【人】。

4785. 宇野善一: Cholesterin 及ビ Lecithin ノ家兔蟲樣突起粘膜諸細胞ノGolgi氏裝置ニ及ボス影響ニ就テ。【岡山醫會誌】44,2, 昭7(1932)。

4786. 渡邊保: 人大腸粘膜上皮ニ見ル纖毛細胞例。【福岡醫大誌】25,12, 昭7(1932)。

4787. Cho, D.: Histological investigation of the digestive tract of the human fetus. III. Development of rectum and vermiform process. 【Jap. J. of Obst. and Gyn.】15,2, 昭7(1932)。

4788. 渡邊保: 人大腸粘膜上皮ニ見タル一種ノ纖毛細胞ニ就テ。【福岡醫大誌】26,1, 昭8(1933)。

4789. 中井川四郎: 蟲樣突起ニ於ケル Kultschitzky 氏細胞ニ就テ。【東北醫誌】15, 昭8(1933)。【人】。

4790. 花澤久榮: 蟲樣突起粘膜脂肪ノ形態學的研究。【北越醫會誌】48,6, 昭8(1933)。【人, 家兔, 牛, 海猴, 豚, 犬, 猪, ラツテ, マウス】。

4791. 藤村茂: 蟲樣突起粘膜ニ於ケル銀視和細胞ニ就テ。【北越醫會誌】48,1, 昭8(1933)。【人】。

4792. 小野崎悌介, 北川龍藏: 大腸ニ於ケル中性脂肪ノ吸收。【日消化會誌】32,5, 昭8(1933)。【犬】。

肛門, 肛門腺

4793. 大澤岳太郎: 鯨魚ノ肛門腺ニ就テ。【東京醫誌】1500, 明40(1907)。

4794. 田口碩臣: 鳥ノ「フョブリチ」ス氏囊ニ就テ。【東京醫誌】1622, 明42(1909)。

4795. —: 鳥ノ「フョブリチ」ス氏囊(Bursa Fabricii)。【醫新聞】786, 明42(1909)。

4796. 大澤岳太郎: 「フョブリチ」ス氏囊ニ就テ(會)。【東京醫誌】1610, 明42(1909)。

4797. —: 鳥ノ「ブルザ, フョブリチ」標本ノ「デモンストラチオン」。【東京醫誌】1661, 明43(1910)。

4798. Osawa, Gakutaro: Über die Bursa Fa-

bricii der Vögel. [Mitt. med. Fak. Tokyo] 9. 明41(1911).

4799. Noka, Hirozo: Beiträge zur Kenntnis der Gefäße der Bursa Fabricii. [Jap. J. of med. Sci. I Anat.] 2,1. 昭4(1929).

4800. —: Über die feineren Gefäße der Bursa Fabricii. [Jap. J. of med. Sci. I Anat.] 2,3. 昭5(1930). [Haushuhn, Hausente, Taube].

4801. 伊藤祐之, 増井清: 鶏ニ於ケル「ブルザ, フォブリシイ」ノ發生並ニ細胞學的研究(會). [中央醫學誌] 44,7. 昭6(1931).

4802. 河野成助, 橋本重郎, 井上壽次: 鶏體ノ「フォブリシウス」氏囊除去ニ就テ(會). [中央醫學誌] 44,7. 昭6(1931).

4803. 栗山輝雄: 家鷄「フォブリシウス」氏囊ノ實驗形態學的研究. [解剖誌] 4,9. 昭6(1931).

4804. 香川卓二: 本邦産鶏ノ肛門ノ發生學的研究. [岡山醫會誌] 44,9. 昭7(1932).

4805. 河野成助: 鶏體ノ Bursa Fabricii 除去ニ就テ. [日畜會報] 6,2. 昭8(1933).

脾

4806. 山極勝三郎: 副脾ノ一例. [東京醫會誌] 9,13. 明28(1895). [人].

4807. 桂田富士郎: 副脾ニ就テ. [東京醫會誌] 1049. 明31(1898). [人].

4808. 金森辰次郎: 一副脾ニ就テ. [東京醫會誌] 1031. 明31(1898). [人].

4809. 菊池武敏: 胃壁ニ於ケル副脾ニ就テ. [兵庫醫會誌] 136. 明45(1912). [人].

4810. 奈良林保行: 副脾ニ就テ. [日病理會誌] 6. 大5(1916). [人].

4811. 渡邊邊: 胃壁ニ於ケル最小ナル副脾ノ一例. [熊本醫專誌] 23. 大6(1917). [人].

4812. 衣川 穰: 副脾ニ就テ. [十全會誌] 28,3. 大12(1923). [人].

4813. 薄田七郎: 環狀脾ノ一例. [東京醫會誌] 2396. 大13(1924). [人].

4814. 柴田 至: 環狀脾ノ一例ニ就テ. [東京醫會誌] 2368. 大13(1924). [人].

4815. Sugawara, Kanshiro u. Shibata, Itaru: Ein Fall von Pancreas annulare. [Fol. anat. jap.] 3,4-5. 大14(1925). [Menschembryo].

4816. 薄田七郎: 完全環狀脾ノ一例ニ就テ. [醫新聞] 1175. 大14(1925). [女兒].

4817. 倉上由一: 犬ノ脾臟重量ニ就テ. [長崎醫會誌] 3,2. 大14(1925).

4818. Ukai, S.: Morphologisch-biologische Pa-

ncreasstudien. [Mitt. allg. Pathol. etc.] 3,1. 昭1(1921). [Kaninchen, Katze, Haushuhn, Taube].

4819. 橋本庄太郎, 西城正之, 加藤多右衛門: 馬ノ副脾ニ就テ. [陸軍醫學報] 281. 昭7(1932).

4820. 清原寛一: 猫ニ於ケル脾液排泄管ノ解剖學的知見補遺. [解剖誌] 5,1. 昭7(1932).

4821. 大澤岳太郎: 鯉魚ノ脾ニ就テ. [醫新聞] 716. [東京醫會誌] 20,7. 明39(1906).

4822. —: 脾竝ニ肝脾「ヘパトパンクレアス」ノ顯微鏡標本「デモンストラチオン」. [醫新聞] 861. 大1(1912). [人].

4823. —: 脾切片標本「デモンストラチオン」. [醫新聞] 884. 大2(1913). [魚類].

4824. 數波重治郎: 鳥類ニ於ケル脾臟原基ノ發生ニ就テ. 附: 標本供覽. [第四回日本醫會誌] 大4(1915). [Meleagris gallopavo].

4825. 岡田清三郎: 脾液分泌ノ機制ニ就テ. [醫海時報] 1676. 大15(1920).

4826. Arima, Jun: Die zytologischen Untersuchungen der Baueingeweide bei den Embryonen. I. Mitt. Die Studien über das Pankreas. [Fol. anat. jap.] 4,3-4. 大15(1920). [Mensch, Tanzmaus].

4827. 鶴岡 哲: 魚類ノ脾構造ニ就テ. [東北醫會誌] 9,1. 大15(1920). [主トシテ東北地方ノ淡水及ビ海産硬骨魚類].

4828. Hoshi, Togo & Ukai, Satoru: On the fluctuation of the blood sugar and the histological changes of the pancreas of Fowls fed on a deficient diet. [Tohoku J. exp. Med.] 7,2. 大15(1920).

4829. 明比竹馬: 脾靜脈及ビ輸脾管結紮ニヨル脾臟ノ組織學的研究. [近畿醫誌] 12,2. 昭4(1929). [犬].

4830. Akchi, T.: Histological investigation of the pancreas by mean of ligature of the Vena pancreatic and the Ductus pancreaticus. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 12,2. 昭4(1929). [Healthy mice and non-pregnant female dogs].

4831. 關 守男: 脾臟細胞ノGolgi氏内網裝置ニ就テ. [日病理會誌] 19. 昭4(1929). [犬].

4832. 村山 高: 脾臟原基ノ發生ニ關スル研究. [岡山醫會誌] 42,490. 昭5(1930). [家兔].

4833. 四ツ柳正造: 人間脾臟ノ研究(第一報). 再生現象. [日病理會誌] 20. 昭4(1929).

4834. —: 人間脾臟ノ研究(第二報). 脾管上皮ノ多層性. [日病理會誌] 21. 昭6(1931).

4835. 有馬宗雄, 久保田重孝: 硬骨魚類ニ於ケル脾臟組織ノ分布狀態ニ就テ. 脾臟組織ノ肝臟及ビ脾臟内分布ニ就テノ意義. [慶應醫學] 11,6. 昭6(1931).

4836. Murayama, Takashi: Zur Morphologie und Entwicklungsgeschichte der Pankreasanlage Uroloncha domestica Flower. [Arb. med. Fak. Okayama] 11,3. 昭6(1931).

4837. 村山 高: 脾臟原基ノ發生ニ關スル研究其 2. [岡山醫會誌] 43,494. 昭6(1931). [豚].

4838. —: 豚胎兒ニ於ケル脾臟原基ノ發生ニ就テ. [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

4839. 建 義郎: 膽汁鬱滯ニ依ル脾臟ノ組織學的變化ニ就テ. [岡山醫會誌] 44,10-11. 昭7(1932). [家兔].

4840. —: 「アドレナリン」「ピロカルピン」竝ニ「インシュリン」ノ脾臟細胞内 Golgi 氏裝置ニ及ボス影響ニ就テ. [解剖誌] 5,7. 昭7(1932). [家兔].

4841. 數波重治郎, 村山 高: 人胎兒ノ脾臟原基ノ發生ニ就テ(會). [解剖誌] 5,7. 昭7(1932). [人胎兒, 哺乳類, 鳥類].

4842. 村田祥一郎: 脾臟細胞ニ於ケル「ゴルヂー」體. [十全會誌] 37,8. 昭7(1932). [蛙, 鯉魚, 蛭, 龜, 十姉妹, 鳩, 二十日鼠, 白鼠, 海狸, 家兔, 牛, 豚, 猪, 犬, 猫].

4843. 濱崎 元: 蟻蟻脾細胞ノ構造竝ニ分泌ニ關スル知見補遺. [解剖誌] 6,5. 昭8(1933).

4844. 福澤不二雄: 鳥類脾臟ノ「アチヌス」形成ニ就テ. [千葉醫會誌] 11,12. 昭8(1933).

4845. 鈴木市郎: 脾細胞ノ絲粒體及ビ變粒體ニ關スル研究. 第一篇: 食餌刺戟竝ニ饑餓時ニ於ケル脾臟細胞内絲粒體竝ニ變粒體ニ關スル研究. [傳業雜誌] 64. 昭8(1933). [海狸].

4846. 八木新作, 久我憲文: 脾管結紮ニ因ル脾臟ノ構造變化. 特ニラ氏島細胞Golgi裝置ノ形態ニ就テ. [解剖誌] 6,6. 昭8(1933). [家兔].

4847. 友澤辰治郎: 脾臟體部結紮後ノ同臟器變化ノ組織學的研究. [岡山醫會誌] 45,9. 昭8(1933). [犬, 家兔, 家鷄].

4848. —: 耳下腺或ハ顎下腺ノ全剔出後ニ於ケル脾細胞 Golgi 氏裝置ノ變化ニ就テ. [岡山醫會誌] 45,9. 昭8(1933). [家兔].

肝

4849. 弘田 長: 健全小兒ノ肝臟ニ就テ. [東京醫會誌] 639. 明23(1890).

4850. 山極勝三郎: 肝臟ノ東洋流紋持溝一前後縱溝ニ就テ. [東京醫會誌] 21,23. 明40(1907). [人].

4851. 内藤八郎, 高橋 盈: 膽囊底ノ副肝ニ就テ. [醫] 7,2. 大3(1913). [人].

4852. 長谷部言人: 手簿抄録. 一: 日本人肝臟ノ外形ニ就テ. [北越醫會誌] 29,1. 大3(1914).

4853. 下田 勉, 加藤守吉: 副肝ノ一例. [研成誌] 116. 大3(1914). [人].

4854. 横森賢治郎: 肝臟下垂症ニ就テ. [日內會誌] 3. 大4(1915).

4855. 工藤得安: 肝臟ノ稜角及ビ面ノ測定. [北越醫會誌] 30,4. 大4(1915). [人].

4856. —: 大ナル方形葉小葉ト右葉前縁ニ葉形成ヲ有スル肝ノ一例. [北越醫會誌] 32,4. 大6(1917). [人].

4857. Kudo, Tokuyasu: Die Leber der Japaner. [Acta Scholae med. Kioto] 2. 大6-7(1917-18).

4858. 鈴木文太郎: 肝臟ノ計測ニ就テ. [京都醫會誌] 16,3. 大8(1919). [人].

4859. 中瀬眞亮, 吉田清敏: 胃擴張ヲ主訴トセル患者ニ現レタル腸管ノ稀薄ナル走行異常並ビニ肝臟轉位ニ就テ. [十全會誌] 29,9. 大13(1924).

4860. 中林重實: 哺乳動物肝表面ノ血管ニ就テ. [東北醫會誌] 10. 昭2(1927). [嚙齒類].

4861. —: 肝臟ノ門脈單位ニ就テ. [北海道醫會誌] 6,8. 昭3(1928).

4862. 大城盛方: 肝臟觸知部分ノ臨床的測定法ニ就テ. [臺灣醫會誌] 27,278. 昭3(1928).

4863. 大脇範雄: 副肝. [病理治療] 2. 昭3(1928). [人].

4864. 宮田斷流: 肝臟橫膜面ニ大ナル結腸壓痕ヲ有スル一例. [九大醫報] 4,5. 昭5(1930).

4865. —: 日本人肝臟(九州地方)ノ形態學的觀察. [解剖誌] 4,4. 昭6(1931).

4866. —: 九州人體質ノ研究(其三). 肝臟橫膜面ニ横行結腸壓痕ヲ有スル一例. [解剖誌] 4,1. 昭6(1931).

4867. 後藤覺平: 肝臟裂溝ノ發現頻度ト或ル種ノ疾患ニ對スルノ關係ニ就テ. [成醫會] 50. 昭6(1931).

4868. 神田五郎: 正常並ニ鬱血肝臟圓綫帶ノ標本供覽. [九大醫報] 5,2. 昭6(1931).

4869. 入江義一: 「トロトラスト」ニヨル肝脾撮影法ノ經驗. [滿洲醫誌] 17. 昭7(1932).

4870. 伊藤謙介: 肝臓ノ門脈單位ニ就テ. 【九大醫報】7,2. 昭8(1933).

4871. 井上 硬: 肝臓ノ病態生理. 【日内會誌】21. 昭8-9(1933-34).

4872. 三浦守治: 肝臓組織學一斑. 【中外醫事報】109-110. 明17(1884).

4873. —: 膽毛細管論. 【中外醫事報】115-117. 明18(1885).

4874. 宮永學而: 死後ニ於ケル肝臓ノ「グリコーゲン」ニ就テ. 【醫新聞】713. 明30(1906). [大].

4875. 菊池 健: 鮮肝油探製試驗報告(2). 【水産講試報告】6,1. 明43(1910). [肝臓ノ形態アリ].

4876. 田口碩臣: 北米産鱈魚ノ内臓顯微鏡的検査ニ就テ. 第一報: 肝臓及ヒ膵臓. 【東京醫會誌】29,18. 大4(1915).

4877. 岡本寛雄: 蝦蟹ノ肝臓内色素ニ就テ. 【廣西醫報】184. 大8(1919).

4878. 宮川正雄: 鬱血肝ニ於ケル格子狀纖維. 【海軍醫誌】21. 大8-10(1919-21). [人].

4879. 雲英元孝: 肝臓「グリコーゲン」ノ分解ニ就テ(第一報). 【日内會誌】8. 大9(1920). [ガマ, 鰻, 白鼠].

4880. 草野宏次郎: 種々ノ榮養素ノ超生理量ガ肝臓ノ組織ニ及ボス影響. 【慶應醫學】2,9. 大11(1922). [家兔].

4881. 鈴木雄平: 冬ト夏期ニ於ケル蛙ノ腦脊髓及ヒ肝臓組織學的差異. 【神經誌】23,1. 大12(1923). [赤蛙].

4882. 堺 純雄: 孵化ノ進行ト「エムブリヲ」心臓及ヒ肝臓ノ重量上ノ關係. 【國家醫誌】447. 大13(1921). [鶏胚].

4883. 小津 孟: 家鷄ノ胎生時肝臓ノ色素攝取ニ就テ. 【南滿醫會誌】12,12. 大13(1921).

4884. 江崎四郎: 肝細胞ノ機能的構造ニ就テ. (1) 饑餓並ニ諸種ノ飼養法ニ因スル魚類(ヒメダカ)肝細胞ノ變化. 【慶應醫學】4,12. 大13(1921).

4885. 百枝 茂: 健康肝ノ組織學的構造ニ就テ. 【日病理會誌】16. 大15(1926). [人].

4886. 日野一郎: 肝臓「グリコーゲン」ノ化學的並ニ組織學的比較研究. 【臺灣醫會誌】25,253. 大15(1926). [人, 家兔].

4887. 齋藤 節: 多核肝細胞ノ意義. 【北海道醫誌】4,3. 大15(1926).

4888. 山極三郎: 家鷄腎臟並ニ肝臓ノ組織發生ト脂肪物質トノ關係ニ就テ. 【日微生物誌】20. 大15(1926).

4889. 松岡冬樹: 生體ニ非經口的ニ注入セル肝臓細胞成分ノ肝臓並ニ他諸臟器ニ及ボス組織學的變化ニ就テ. 【實驗醫誌】10,11. 大15(1926). [白鼠, 家兔].

4890. 松井慶事: 饑餓時ニ於ケル「アドレナリン」注射ノ家兔肝糖原量ニ及ボス影響ニ就テ【日内會誌】14. 大15-昭2(1926-27).

4891. 岡 健藏: 肝臓ニ於ケル銀反應. 【醫公論】780. 昭2(1927).

4892. 佐川英二: 肝臓ノ格子狀纖維ニ關スル知見増補「チフス」並ニ「バラチフス」肝ニ於ケル格子狀纖維ノ變化ニ就テ. 【日微生物誌】21. 昭2(1927). [人].

4893. 百枝 茂: 健康肝ノ組織的構造ニ就テ. 【長崎醫會誌】5,2. 昭2(1927). [人].

4894. —: 肝細胞核「グリコーゲン」ニ就テ. 【長崎醫會誌】5,2. 昭2(1927). [人].

4895. Arima, Jun: Die zytologischen Untersuchungen der Baueingeweide bei den Embryonen. 3. Mitt. Die Studien über die Leber. 【Fol. anat. jap.】5,5. 昭2(1927). (Maus, Mensch).

4896. 井原義定: 肝臓ニ於ケル神經終末ニ就テ. 【日病理會誌】17. 昭2(1927). [人].

4897. 布瀬七一郎: 肝臟珠ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究(其一): 死産兒, 初生兒及ヒ哺乳兒ニ於ケル肝臟脂肪體ノ移動的關係並ニ其ノ法醫學的意義ニ就テ. 【十全會誌】32,1. 昭2(1927).

4898. —: 肝臟珠ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究(其二): 慢性及ヒ亞急性疾患ノ際ニ於ケル肝臟脂肪體ノ消長ニ就テ. 附: 肝臟脂肪量ト肝臟重量トノ關係. 【十全會誌】32,3. 昭2(1927). [人].

4899. —: 肝臟珠ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究(其四): 再ビ死産兒及ヒ初生兒ニ於ケル肝臟脂肪體ノ移動的關係ニ就テ(追加報告). 【十全會誌】32,12. 昭2(1927).

4900. —: 肝臟珠ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究(動物試驗ノ二). 急性黃疸中毒ノ肝臟脂肪分布ニ及ボス影響ニ就テ. 【十全會誌】33,11. 昭3(1928). [海狗].

4901. Nunose, Shichiichiro: Morphological studies of liver, especially of its lipoidal bodies. I. On the distribution of lipoidal bodies in the liver of the still-born, new-born babies and suckling and its significance in the forensic medicine. 【Jap. med. World】8,1. 昭3(1928).

4902. 和田 馨: 非經口的ニ注入セル肝臟細胞

成分ノ肝細胞「ミトヒュンドリア」ニ對スル影響並ニ肝細胞ノ變化ト「ミトヒュンドリア」トノ關係ニ就テ. 【傳研業績】1.【實驗醫誌】12,1. 昭3(1928). [白鼠].

4903. 大串市郎右衛門: 肝臟病理ニ關スル實驗的研究. 附: 肝細胞ノ「ミトコンドリア」ニ關スル研究. 【慶應醫學】8,9. 昭3(1928).

4904. 内藤豐助: 肝細胞(小葉内)ノ部位的機能ノ差異ニ就テ. 【千葉醫會誌】6,2. 昭3(1928). [マウス].

4905. 岡田於菟: 「マウス」肝臓「グリコーゲン」ニ就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

4906. 小出貞亮: 肝臓及ヒ心臓「グリコーゲン」ノ態度ニ就テ. 【千葉醫會誌】6,1. 昭3(1928). [白鼠].

4907. 坂本 脩: 脾臟割出ニヨル肝臓ノ反應的變化ニ就テノ組織學的研究. 【病理學紀要】5,1. 昭3(1928). [犬, 猫, 家兔, 海狗, ラット].

4908. 内藤豐助: 肝臟動脈結紮ニヨル肝臟變化. 【千葉醫會誌】6,3. 昭3(1928). [家兔].

4909. 中林重實: 肝構造單位ニ就テノ研究. 【北海道醫誌】6,12. 昭3(1928).

4910. 舟岡省五: 肝臓ノ構造(肝小葉). 【實驗消化病】3,9. 昭3(1928). [人, 哺乳動物].

4911. —: ————. 【實驗消化病】3,10. 昭4(1929). [人, 哺乳動物].

4912. —: ————. 【實驗消化病】3,11. 昭4(1929). [人, 哺乳類, 兩棲類ノ肝細胞, 脂肪, グリコーゲン, 色素顆粒].

4913. —: ————. 【實驗消化病】4,1. 昭4(1929). [哺乳類, 爬蟲類, 兩棲類ノ肝柱組織, 間質細胞, 膽毛細管].

4914. —: ————. 【實驗消化病】4,2. 昭4(1929). [人, 哺乳類ノ肝臟血管].

4915. 山岸國治: 人類並ニ各種動物ノ肝臟内諸血管及ヒ膽管ノ徑路ニ就テ. 【實驗消化病】4,7. 昭4(1929). [人, 蛇, 家鷄, 哺乳類].

4916. 平塚 隆: 肝臓ノ格子狀纖維ニ關スル綜説. 【成醫會】48. 昭4(1929). [人].

4917. 布瀬七一郎: 肝臟珠ニ其ノ含有脂肪體ノ形態學的研究(動物試驗ノ三). 肝臟脂肪質及ヒ糖原質ノ消長ニ關スル實驗的研究. 【十全會誌】34. 昭4(1929). [家兔].

4918. 金 重華: 肝臟機能ノ形態學的研究(第二報). 含水炭素及ヒ脂肪新陳代謝機能. 【日病理會誌】19. 昭4(1929). [家兔].

4919. Shirasaka, Masakichi: Über den Einfluss verschiedener Leberzellen. 【Arb. med. Fak. Okayama】1,4. 昭5(1930). [Kaninchen].

4920. 土井正徳: 諸種實驗ニヨル肝臟細胞「ミトヒュントリア」ノ變化. 附: 中樞神經組織ノ「ノイロゾーメン」ト肝細胞「ミトヒュンドリア」ニ就テ. 【東北醫誌】13,4. 昭5(1930). [鰻, 家兔].

4921. 和田 馨: 非經口的ニ注入セル肝臟細胞成分ノ肝細胞「ミトコンドリア」ニ對スル影響並ニ肝細胞ノ變化ト「ミトコンドリア」トノ關係ニ就テノ實驗追加. 【傳研業績】11; 【實驗醫誌】14,3. 昭5(1930). [白鼠].

4922. 白坂正吉, 小林平吉: 含水炭素新陳代謝ニ於ケル肝細胞ノ Golgi 氏裝置ノ意義ニ就テ(續報). 【岡山醫會誌】42,487. 昭5(1930). [家兔].

4923. 白坂正吉: 含水炭素新陳代謝ニ於ケル肝細胞内ノ Golgi 氏裝置ノ意義ニ就テ. 【岡山醫會誌】42,480. 昭5(1930). [家兔].

4924. 小林平吉: 「コレステリン」及ヒ「レチン」ノ肝細胞ノ Golgi 氏裝置ニ及ボス影響ニ就テ. 【岡山醫會誌】42,483. 昭5(1930). [家兔].

4925. —: 諸種血管收縮藥ノ作用ニ基ク肝細胞 Golgi 氏裝置ノ變化ニ就テ. 【岡山醫會誌】42,488. 昭5(1930). [家兔].

4926. 笠原親之助: 哺乳動物數種ニ於ケル肝内膽道ノレ線寫眞供覽. 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).

4927. Kutsuna, Masachika: Über den sogenannte Grenzschicht an der Peripherie der Leberläppchens. 【Fol. anat. jap.】8,2. 昭5(1930). (Schwein, Meerschweinchen, Pferd, Hund, Katze, Kaninchen, Mensch).

4928. 佐藤次郎: 人體肝臓ニ於ケル多核肝細胞ニ就テ. 【日病理會誌】20. 昭5(1930).

4929. 久藤 實, 宮本佐市: 肝臓「グリコーゲン」ノ死後ニ於ケル組織學的觀察. 【臺灣醫會誌】29,299. 昭5(1930). [人, 動物].

4930. 谷口健康, 引間正中: 人體ニ於ケル含水炭素新陳代謝ト肝臓ノ組織學的所見. 特ニ「ミトヒュンドリア」トノ比較研究. 【日病理會誌】20. 昭5(1930).

4931. 谷口健康: 肝實質細胞ノ細胞學的研究(續報). 【日病理會誌】21. 昭6(1931).

4932. 葛原 輝: 人肝細胞ノゴルヂー氏内網裝置ニ就テ. 【日病理會誌】21. 昭6(1931).

4933. 尾形 垣: 「ラット」ノ肝細胞ノ Mitochondria ノ形態學的研究. 健康「ラット」ノ肝細胞ノ Mitochondria ノ種々ナル形態ニ就テ. 【成醫會】50,52,53. 昭6-9(1931-34).

4934. 鷺海正己: 肝細胞ノアルトマン氏顆粒

=就テ. 1. 四季蛙肝細胞=就テノ研究. 【日微生物誌】25. 昭8(1931).

4935. 宇野善一: 「コレステリン」及ビ「レチン」試食家兎=於ケル肝細胞内 Golgi 氏装置=就テ. 【岡山醫會誌】43,495. 昭6(1931).

4936. —: 肝小葉殊=肝細胞内「リポイド」ノ實驗的研究. 【岡山醫會誌】43,498. 昭6(1931). [家兎].

4937. 小林平吉: 諸種血管收縮藥ノ作用=基ク肝細胞殊=其 Mitochondrien ノ變化=就テ. 【岡山醫會誌】43,503. 昭6(1931). [家兎].

4938. 村田祥一郎: 肝細胞=於ケルゴルヂー體. 【十全會誌】36,7. 昭6(1931). [鮎, 金魚, 鱒, 山椒魚, 蛙, 龜, 蛇, 鷄, 鳩, 二十日鼠, 白鼠, 海狸, 兔, 馬, 豚, 牛, 犬, 猫, 猿].

4939. —: 肝細胞=於ケルゴルヂー體ノ實驗的研究. 【十全會誌】36,11. 昭6(1931). [二十日鼠].

4940. 阪野於菟: 「マウス」肝臟ノ組織學的竝ニ組織發生學的研究. 【解剖誌】4,2. 昭6(1931).

4941. 伊藤謙介: 豚肝小葉ノ形態並ニ其ノ血管關係=就テ. 【九大醫報】6,6. 昭7(1932).

4942. 森田秀一: 肝細胞ノ構造=就テ(會). 【解剖誌】5,7. 昭7(1932). [蛙].

4943. 小熊 樺: Trichomonas columbae ノ寄生ニ依ル幼鳩肝組織ノ病的變化ノ過程. 【應用動物】4,3. 昭7(1932).

4944. 外村三義, 柴田義一: 固定「マウス」肝臟細胞ノ等電位點=就テ. 【阪醫會誌】31,12. 昭7(1932).

4945. 伊藤謙介: 肝小葉單位=關シテ. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933). [哺乳類, 鳥類, 爬蟲類, 兩棲類, 魚類].

4946. 河合郁二: 實驗的壞血病=於ケル海狸肝細胞ノ Golgi 氏装置ノ消長=就テ. 【岡山醫會誌】45,7. 昭8(1933).

4947. —: 兩側内臟神經切除後 Adrenalin 注射ヲ行ヒシ家兎肝臟ノ組織學的變化=就テ. 【岡山醫會誌】45,7. 昭8(1933).

4948. 濱崎 元: 所謂 dunkle Grenzzellen =就テ. 【解剖誌】6,4. 昭8(1933).

4949. 守屋千代野: 陰極線ノ家兎肝臟=及ボス影響並ニX線作用トノ比較研究(第1報). 【岡山醫會誌】45,12. 昭8(1933).

4950. 宇野善一, 河合郁二: 胸腺ヲ全剔出後家兎肝細胞 Golgi 氏装置ノ變化=就テ. 【岡山醫會誌】45,10. 昭8(1933).

4951. 阿原道雄: 肝臟細胞微細構造ノ機能的

考察. 第1編: 正常狀態=於ケル觀察. 【京府醫大誌】7,1. 昭8(1933). [白鼠].

4952. —: 妊娠分娩及ビ授乳時ノ肝實質細胞ゴルヂー氏内網装置ノ研究. 並ニ各期=於ケル當該細胞ノ機械的考察. 【京府醫大誌】7,4. 昭8(1933). [白鼠].

4953. 遠藤壽太: 血糖=作用スル二三藥物ノ肝細胞内 Golgi 氏装置=及ス影響=就テ. 【岡山醫會誌】45,6. 昭8(1933). [家兎].

4954. 河合郁二: 飢餓時 Adrenalin 注射ヲ行ヘル家兎肝細胞ノ Golgi 氏装置=就テ. 【岡山醫會誌】45,6. 昭8(1933).

4955. 梶原一雄: 硬レ線照射ノ肝臟内糖原質=對スル影響=就テ. 【日レントゲン會誌】10,5-6. 昭8(1933). [ラット].

4956. —: 硬レ線ノ白鼠肝臟=及ボス生物化學的作用=就テ. 【日レントゲン會誌】11,1. 昭8(1933).

4957. 林 敏雄, 丸山幸太郎: 感作動物ノ肝臟ト所謂 Röntgenkater ノ原因論. 【日レントゲン會誌】11,2. 昭8(1933). [モルモット].

4958. 若林春治: 初生兒黃疸ノ本態=關スル研究. 特ニ膽毛細管ノ意義=就テ. 【新潟病報】32. 昭8(1933). [人, 家兎, 犬, 牛, 馬].

4959. 平塚 隆: 肝臟硬變ノ統計的組織學的研究. 【成醫會】52. 昭8(1933). [人].

4960. 小泉猶一: 二十日鼠=於ケル肝臟ノ發生學的研究. 【東京醫誌】2816,2869. 昭8-9(1933-34).

膽囊, 膽管

4961. 秋庭大玄: 解剖所見, 膽囊不具. 【東京醫誌】60. 明12(1879). [人].

4962. 關根可正: 膽囊不具ノ辯. 【東京醫誌】65. 明12(1879). [人].

4963. 篠崎 嘉, 青山敬一: 膽囊不具ノ答辯=曰ク. 【東京醫誌】124. 明13(1880). [人].

4964. 竹崎季薫: 膽管憩室=就テ. 【醫海時報】64,65. 明28(1895). [人].

4965. 松井芳雄: 先天性總膽管閉塞標本供覽. 【北越醫會誌】190. 大2(1913). [6ヶ月男兒].

4966. 井上吉之助: 先天性輸膽管閉塞二例. 【兒科誌】102. 大2(1913). [初生兒].

4967. 前田和三郎: 輸膽管ノ深部=停在セル膽石摘出術=關スル研究. 其一: 局所解剖學上注意事項=就テ. 【日外實】1,1. 大13(1924).

4968. Aschoff, L.: 肝臟外膽道ノ常態及ビ病理(會). 【朝鮮醫會誌】51. 大13(1924).

4969. 松尾 巖: オ、デー氏筋ノ研究. 【醫海時報】1597. 大14(1925).

4970. Iwanaga, Hitoo: Experimentelle Studien über den Mechanismus der Gallenausscheidung, insbesondere über die Funktion des Oddi'schen Sphinkters. 【Mitt. med. Fak. Fukuoka】10. 大14(1925).

4971. Nagai, Kikuo and Sawada, Tsunejiro: Studies on Oddi's sphincter and the relation between the pancreatic duct and the common bile duct of Japanese. 【Acta Scholae med. Kioto】8. 大14-15(1925-26).

4972. 櫻井英一: オ、デー氏筋ノ神經支配=關スル實驗的研究. 【東京醫會誌】40,2. 大15(1926). [家兎].

4973. 諸岡 存, 池田統治郎: 膽囊ノ神經節ノ構造. 【神經誌】26,6. 大15(1926). [犬, 兔, 鼠, 蛙, 蜥蜴].

4974. —, —: 膽囊ノ神經=就テ. 【神經誌】26,7. 大15(1926). [犬, 兔, 鼠, 蛙, 蜥蜴].

4975. —, —: 膽囊ノ神經節ノ構造. 【福岡醫大誌】19,4. 大15(1926).

4976. 丸山幸太郎: オ、デー氏筋ノ組織發生=就テ. 【日病理會誌】16. 大15(1926). [人].

4677. 片田武揚: 膽囊並ニ膽管上皮ノ「コレステリン」排泄態度=關スル實驗的研究. 【病理學紀要】5,3. 昭3(1928). [犬].

4978. 山口 寛: 邦人膽系ノ局所解剖知見(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

4979. 池田三雄: 膽囊ノ病理解剖. 殊ニルシカ氏管=就テ. 【東京醫會誌】43,3. 昭4(1929). [人, 家兎].

4980. 笠原親之助: 日本人膽道ノ形態的研究. 【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

4981. —: 哺乳動物ノ膽道=就テ. 【九大醫報】3,5. 昭4(1929).

4982. 山岸國治: 膽道ノ比較解剖學的研究(第1-3報). 【實驗消化病】4,4; 5,5,7. 昭4-5(1929-30). [魚類, 兩棲類, 爬蟲類, 鳥類, 哺乳類].

4983. 山口 寛: 邦人膽系ノ局所解剖知見. 【解剖誌】3,2. 昭5(1930).

4984. 井上 猛: 「エチルジオン, テトラドール」ニ依ル膽囊撮影法=就テ. 【日レントゲン會誌】8,2. 昭5(1930).

4985. 櫻井英一: Experimentelle Untersuchungen über die Innervation des Oddischen Muskels. 【日醫報】昭5(1930). [Kaninchen].

4986. 笠原親之助: 哺乳動物及ビ人膽道ノ形態學的研究. 附: 臨床的意義. 【醫研究】5,9.

昭6(1931).

4987. 劉祖霞: 膽囊造影=就テ(承前). 【日消化會誌】32,4. 昭8(1933).

3. 呼吸器

呼吸器一般

4988. 齋藤勝壽: 肺臟及ビ氣管ノ缺損セル胎兒ノ「デモンストラチオン」(會). 【東京醫誌】1250. 明35(1902).

4989. 大澤岳太郎: 呼吸器ノ上皮並ニ上皮組織一般=就テノ補遺. 【日新醫學】2,2. 大1(1912). [人, 其他].

4990. 中院孝園: 老性變化ノ形態學的研究. 第一: 人體材料ヲ基礎トセル呼吸器系統ノ變化. 【京都醫誌】15,2-3. 大7(1918).

4991. 小喜多晴雄: 「生命創造」=就テノ實驗的研究. 【日本學會報告】3. 昭2(1927). [大黑鼠ノ肺組織アリ].

4992. 森 優: 人胎兒ノ左側氣管枝及ビ左側肺缺損ノ一例. 【醫研究】2,4. 昭3(1928).

4993. 八田俊之: 胸腔容積及ビ肺臟體積ノ研究並ニ其比的關係=就テ. 【十全會誌】33,6. 昭5(1928). [家兎].

4994. 河越逸雄, 工藤得安: 兩棲類ノ呼吸器ノ發生=就テ. 【解剖誌】4,4. 昭6(1931). [Bufo, Rhacophorus, Hynobius, Diemitylus, Megalobatrachus, Onychodactylus].

4995. 河越逸雄: 兩棲類=於ケル呼吸型ノ發達=就テ. 【北越醫會誌】47,10. 昭7(1932). [Bufo, Rhacophorus, Cryptobranchus, Hynobius, Onychodactylus].

外鼻, 鼻腔

4996. チツセ, ヨーゼフ: 分娩後鼻腔ノ構成. 【東京醫誌】725,726,730,734. 明24(1891). [人].

4997. 大澤岳太郎: 鼻中隔ノ傾斜=就テ. 【東京醫誌】717. 明24(1891). [人].

4998. 岩田 一: 本邦人鼻中隔ノ統計的檢査. 第一報. 【醫新聞】636. 明36(1903).

4999. 富士川游: 鼻ノ觀相=就テ. 【人性】4,10. 明41(1908). [人].

5000. 小山景治: 本邦人ノ鼻腔入口部ヨリ歐氏管咽頭口=至ル臨床ニ=於ケル距離=就テ. 【醫會誌】1300-1305. 明44(1911).

5001. 津田信吉: 本邦人鼻中隔畸形ノ統計. 第一報. 【好生館醫誌】21,1. 大日耳鼻 20,1. 大3(1914).

5002. 細谷雄太: 胎兒及ビ初生兒ニ於ケル鼻腔並ニ副鼻腔ノ發生學的乃至形態學的關係。【大日耳鼻】20,2. 大3(1914).

5003. 松本 鼎: 日本人鼻軟骨ニ就テ。【北越醫會誌】29,3. 大3(1914).

5004. —: 本邦人ノ外鼻軟骨(會)。【第四回日醫會誌】大4(1915).

5005. 木村照一: 健康者ノ鼻汁内ニ顯出スル上皮細胞ニ就テ。【大日耳鼻】21,3-4. 大4(1915).

5006. 大杉 清: 日本人鼻ノ形態學的研究。【大日耳鼻】26,3. 大9(1920).

5007. —: 日本人外鼻形態ノ研究補遺。【京都醫誌】18,10. 大10(1921).

5008. —: 日本人活體鼻徑ニ就テ。【大日耳鼻】28,2. 大11(1923).

5009. 鍋谷傳次郎: 新案鼻ノ生體標本供覽。【大日耳鼻】30,1. 大13(1924). [人].

5010. 横川 讓: 邦人鼻咽腔ノ形態學的研究。【大日耳鼻】30,1. 大13(1924).

5011. 酒井由夫: 呼吸器内ニ於ケル氣流研究。附: 鼻中隔彎曲ト肺臟罹患側トノ關係。【結核】5,5-6. 昭2(1927). [人].

5012. 蘆原 勝: 鼻甲介ノ病理解剖學的研究追補。第一: 下鼻甲介ノ老性變化ニ就テ。【愛知醫會誌】34,3. 昭2(1927). [60-84歳].

5013. 工藤得安: 大山椒魚ノ鼻及ビ腦ノ發生(會)。【北越醫會誌】42,1. 昭2(1927).

5014. 二井一馬: 日本人鼻ノ研究補遺。其二: 梨子狀口ノ形態ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

5015. 張 俊發: 高砂民族活體鼻ノ形態學的研究。第一報。【臺灣醫會誌】27. 昭3(1928).

5016. 河野敏之: 鼻腔前庭ノ解剖的構造ト其局所ノ疾患トノ關係ニ就テ。【大日耳鼻】34,2. 昭3(1928).

5017. 水野文次郎: 日本人壯丁年齡ニ於ケル外鼻形態ニ關スル統計的觀察。鼻背彎曲ニ基ク鼻形態の分類。【軍醫圖】197. 昭4(1929).

5018. 有馬 純: 本邦乳兒外鼻ノ形態學的研究補遺(1)。【耳鼻】2,4-5. 昭4(1929).

5019. 渡部貞助: 鼻中隔畸形ノ一例。【耳鼻】2,11. 昭4(1929).

5020. Chung, I: Über die morphologischen Studien der Nasenregion bei den Urodelen. I. Beitrag zur Morphologie des Nariale bei den japanischen Urodelen. [Acta Med. Keijo] 12. 昭4(1929). [Diemictylus pyrrhogaster, D. ensicauda, Onychodactylus japonicus, Geomolge fischeri, Hynobius nebulosus, H. leechii, H. lichenatus, H.

tushimensis].

5021. 津崎孝道, 鄒 一千: 邦産有尾兩棲類鼻部ノ形態學的研究。其一: Septomaxillareニ就テ。【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

5022. 向笠 潜: 外鼻ノ形態學的研究(第一報)。鼻梁曲線ニ就テ。【耳鼻】3,3. 昭5(1930).

5023. 工藤得安: 青山氏 Cartilago infranasalisニ就テ。【北越醫會誌】45,12. 昭5(1930). [大山椒魚].

5024. 緒方周一: 日本人胎兒ノヤコブソン氏器官ニ就テ。【大日耳鼻】36,4. 昭5(1930).

5025. 二井一馬: 日本人鼻ノ研究補遺。其七: 鼻骨癒合ニ就テ。【十全會誌】36,2. 昭6(1931).

5026. 樋口助弘, 石神 等: 副鼻腔(Nebenhöhle)ノ撮影ニ就テ。【レントゲン會誌】9,3. 昭6(1931). [人].

5027. 石原 亮: 鼻中隔方形軟骨化骨ノ一例。【大日耳鼻】37,5. 昭6(1931). [人].

5028. Chung, Ichun und Yatabe, Teikei: Morphologische Studien über die Nasenregion bei den Urodelen. II. Über das knöcherne Nasenskelett bei den japanischen Urodelen. [Keijo J. of Med.] 2,2. 昭6(1931).

5029. Chung, Ichun: Morphologische Studien über die Nasenregion der Urodelen. III. Über das knorpelige Nasenskelett der japanischen Urodelen. [Keijo J. of Med.] 2,3. 昭6(1931).

5030. Yatabe, Teikai: Morphologische Studien über die Nasenregion der Urodelen. IV. Beitrag zur Kenntnis der Anatomie und Entwicklung des Tränenausgangs bei den japanischen Urodelen. [Keijo J. of Med.] 2,2. 昭6(1931).

5031. 鄒 一千, 矢田部貞介: 有尾兩棲類ノ鼻部ノ研究。【解剖誌】4,4. 昭6(1931). [Onychodactylus japonicus, Geomolge fischeri, Diemictylus pyrrhogaster, D. ensicauda, Pseudosalamander, Hynobius leechii, H. lichenatus, H. nebulosus, H. naevius, H. tushimensis].

5032. 山田廣吉: 日本産蝮蛇蝮科ニ於ル鼻腔ノ發生學的研究。【愛知醫會誌】38,5. 昭6(1931).

5033. —: 日本産蝮蛇蝮科ニ於ケル軟骨性鼻囊ノ發生學的研究。【愛知醫會誌】38,11. 昭6(1931).

5034. —: 蝮蛇蝮科ニ於ケル鼻腔ノ發生學的研究。【大日耳鼻】37,4. 昭6(1931).

5035. 福武敏重: 鼻加答兒ノ發生ガ三叉神經幹或ハ顔面神經幹ノ遮斷ニ上頸神經節ノ摘

出ニ由テ如何ニ影響サルルヤ。【解剖誌】4,1. 昭6(1931). [家兔].

5036. 窪田圭一: 外鼻ノ計測的研究特ニ鼻中隔異形ト顔面骨格トノ關係ニ就テ。【福同醫大誌】25,9. 昭7(1932). [人].

5037. Chung, Ichun: Morphologische Studien über die Nasenregion der Urodelen. V. Beitrag zur Entwicklungsgeschichte des knorpeligen und knöchernen Nasenskeletts bei Hynobius leechii. [Keijo J. of Med.] 3,3. 昭7(1932).

5038. 吉田申次: 初生兒ニ於ケル鼻中隔畸形検査。【耳鼻】6,11. 昭8(1933).

5039. 飯田 新: 鼻腔粘膜ノ異狀増殖上皮層内ニ於ケル粘液腺ノ形成ニ就テ。【大日耳鼻】9,3. 昭8(1933). [人].

5040. 荻野朝一: 鼻甲介鼻茸並ニ竇粘膜ニ於ケル「グリコーゲン」。【大日耳鼻】30,6. 大13(1924). [人].

5041. 西村義太郎: ブローマン氏ノ所謂鼻中隔下腺ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [マウス].

5042. 小川睦之輔: 蝮科ニ於ケル鼻原基及ビ吸蓋ノ移植ニ就テ(會)。【解剖誌】1,1. 昭3(1928). [蝮蛇].

5043. 蘆原 勝: 鼻甲介ノ病理解剖學的研究追補。第三: 胎兒及ビ初生兒下鼻甲介ノ組織所見ニ就テ。【愛知醫會誌】35,4. 昭3(1928).

5044. 福武敏重: Cholesterin 並ニ Iazithin ノ鼻呼吸粘膜ニ及ボス作用ニ就テ。【岡山醫會誌】42,491. 昭5(1930). [家兔].

5045. 高羊禮功: 齧齒類ノ鼻腔特ニ其腺ノ分布ニ就テ。【解剖誌】4,4. 昭6(1931). [ラット, マウス, 朝鮮蝮鼠].

5046. 淺井 寛: 胎兒中鼻甲介ノ組織學的發生所見。【大日耳鼻】37,3. 昭6(1931). [人].

5047. 山本 肇: 人類胎生各期ニ於ケル鼻腔及ビ副鼻腔ノ組織學的研究。【大日耳鼻】37,3. 昭6(1931).

5048. 山田丈夫: 鼻組織營養ノ神經支配ニ就テ。【東京醫會誌】47,10. 昭8(1933). [犬].

5049. —: 鼻粘膜營養ノ神經支配ニ就テ。【神經誌】36,2. 昭8(1933). [犬].

喉 頭

5050. 金杉英五郎: 猫ハノ喉頭ニ就テ。【大日耳鼻】4,8-9. 昭3(1929). [人].

5051. 山極勝三郎: 喉頭ノ畸形。【東京醫誌】1263. 昭3(1929). [人].

5052. —: 喉頭ノ畸形ニ就テ。【大日耳鼻】8,6-7. 昭5(1930). [人].

5053. 中山末雄: 日本人ノ喉頭軟骨ハ如何ニ化骨スル乎。【京都醫誌】5,4. 昭4(1928).

5054. 尾關才吉: 本邦人喉頭副竇ノ形態學。【阪醫會誌】9,1. 昭4(1930). [人種及ビ比較解剖學].

5055. —: 本邦人ノ甲状軟骨。【東京醫會誌】25,21. 昭4(1931).

5056. —: 本邦人ノ環狀軟骨。【東京醫會誌】26,15. 大1(1912).

5057. —: 本邦人ノ環狀甲状筋。【東京醫會誌】27,7. 大2(1913).

5058. Ogura, Kotaro u. Yamane, Inshin: Beiträge zur Kenntnis des Kehlsackes beim Renn-tiere. [J. Coll. Agr. Tohoku Imp. Univ.] 6. 大3-4 (1914-15).

5059. 八木澤文吾: 本邦人喉頭副竇形態學補遺。【大日耳鼻】21,4. 大4(1915).

5060. Hosoya, Yuta: Zum Studium des Stimmorgans beim Japaner. [Mitt. med. Fak. Tokyo] 14,3. 大4(1915).

5061. Nihonsugi, Kinichi: On the Laryngeal musculature of the Japanese. [Acta Scholae Med. Kioto] 5. 大11-12(1922-23).

5062. 河原治作: 喉頭。【福同醫大誌】15,7. 大11(1922).

5063. 柏木正俊: 甲状軟骨左右不對(喉頭斜位)ノ成因ニ就テ。【東京醫會誌】36,9. 大11(1922).

5064. 執行作彌: 甲状腺異常筋ノ本態ニ就テ。【東京醫會誌】2358. 大13(1924). [人胎兒].

5065. 津田終吉: 日光山椒魚(Hynobius nebulosus)ノ喉頭特ニ其ノ發生並ニ形態學的研究。【大日耳鼻】30,1. 大13(1924).

5066. Tsuda, Shukichi: Über die Entwicklungsgeschichte und Morphologie des Kehlkopfes von Hynobius nebulosus. [Fol. anat. jap.] 2, 1. 大13(1924).

5067. 河原治作: 人間胎兒(身長5.1 厘米)ノ喉頭象形複成像。【大日耳鼻】30,3. 大13(1924).

5068. Tsusaki, Takamichi: Quelques observations sur le larynx de l'Elephas indicus. [Mitt. med. Akad. Keijo] 8,3. 大14(1925).

5069. 河原治作: 喉頭特ニ喉頭筋ノ發育學的研究補遺(單)。【大正學館(福同)]. 大15(1926). [人, 豚, 石龜, 赤龜].

5070. —: 喉頭特ニ喉頭筋ノ發生學的研究補遺.【福岡醫誌】19,1.大15(1926).

5071. 保利清: 本邦人ノ喉頭軟骨化骨ニ關スルレントゲン學的研究.【日レントゲン會誌】5,1.昭2(1927).

5072. 工藤得安: 大山椒魚ノ膈及ヒ喉頭ノ發生ニツキテ.【東北醫誌】10.昭2(1927).

5073. 牧野敏雄: 鶏ノ喉頭並ニ下喉頭ノ發生學的研究.【醫研究】1,2.昭2(1927).

5074. 佐山光章: 朝鮮人ニ於ケル後環狀披裂筋ノ破格ニ就テ.【滿洲醫誌】9,6.昭3(1928).

5075. 森優: 日本人胎兒喉頭ノ大キサ及ヒ位置ニ就テ(會).【解剖誌】1,1.昭3(1928).

5076. ガレル著. 戈沼龍譯: 電氣デ反應スル簡易ナ喉頭小模型.【耳鼻喉科】2,10.昭4(1929).

5077. 奥山美雄: 喉頭軟骨ノ化骨ニ就テ.【大日耳鼻】36,8.昭5(1930).【人】.

5078. 三上紀之: 日本人喉頭軟骨化骨ニ關スル解剖學的研究.【解剖誌】3,5.昭5(1930).

5079. 保利清, 下妻彰: 喉頭軟骨化骨ノ性的特徴ニ關シテ骨質ニ關シテ線組織的所見.【日レントゲン會誌】8,2,9,1.昭5-6(1930-31).【人】.

5080. 佐山光章: 支那人喉頭ノ研究.【滿洲醫誌】15.昭5(1930).

5081. —: 支那人ニ於ケル喉頭筋ノ破格.【滿洲醫誌】12,6.昭5(1930).

5082. —: 支那人ノ甲状披裂筋ニ就テ.【耳鼻喉】4,3.昭6(1931).

5083. 森優: 甲状腺腺筋ノ三例ニ就テ.【九大醫報】5,2.昭6(1931).

5084. 松田豪一: 先天性兩個假聲帶癒合ノ一例.【耳鼻喉】4,10.昭6(1931).

5085. 三上紀之: 日本人喉頭軟骨ノ化骨ニ關スル解剖學的研究.【耳鼻喉】4,1.昭6(1931).

5086. Fukuda, Yoshinobu: Beiträge zur Entwicklungsgeschichte und Morphologie des Laryngotrachealskeletts von Megalobatrachus japonicus.【Fol. anat. jap.】9,2.昭6(1931).

5087. 佐山光章: 支那人喉頭軟骨ノ化骨ニ就テ.【滿洲醫誌】14,6.昭6(1931).

5088. —: 支那人喉頭ノ研究.【滿洲醫誌】15,6.昭6(1931).

5089. —: 支那人ニ於ケル喉頭筋ノ破格.【滿洲醫誌】16.昭6(1931).

5090. —: 支那人喉頭ノ研究(第二報).【滿洲醫誌】16,1.昭7(1932).

5091. —: 支那人喉頭ノ研究(第三報).喉頭

腔内景.【滿洲醫誌】16,4.昭7(1932).

5092. —: 支那人喉頭ノ研究.【滿洲醫誌】16.昭7(1932).

5093. 淺井健吉: 鶯ノ發聲器ニ就テ(會).【耳鼻喉】5,6.昭7(1932).

5094. 富田治郎: 動物及ヒ人類ノ喉頭粘膜炎ニ於ケル腺樣組織(所謂喉頭扁桃腺)ニ就テ.【中央醫會誌】102;【大日耳鼻】17,4.昭45(1912).【家兔, モルモット, 犬, 人, 狸々】.

5095. Nihonsugi, Kinichi: On the development of the elastic fibres in the Human Larynx.【Fol. anat. jap.】1,3.大11(1922).

5096. 高崎琢男: 犬聲帶筋ノ運動神經終末ニ就テ.【大日耳鼻】34,5.昭3(1928).

5097. —: 回歸神經喉頭内終末裝置ニ就テ.【九大醫報】2,3.昭3(1928).

5098. 伊藤中二: 喉頭筋ノ交感神經榮養支配ニ就テ.【大日耳鼻】34,10.昭4(1929).【犬】.

5099. 保利清, 下妻彰: 喉頭軟骨化骨ノ性的特徴ニ關シテ骨質ニ關シテ線組織的所見.【日レントゲン會誌】8,2.昭5(1930).【人】.

5100. 原田雄吉: 犬喉頭回歸神經吻合ニ關スル實驗的研究ヨリ得タル標本供覽ニ就テ.【大日耳鼻】37,4.昭6(1931).

5101. 宇野善一: Cholesterin 及ヒ Lecithin ノ家兔喉頭粘膜炎ニ及ボス作用ニ就テ.【岡山醫會誌】44,7.昭7(1932).

氣管, 氣管支

5102. 緒方周一, 忽那將受: 氣管切開後ノ氣管輪軟骨.【熊本醫會誌】3,5.昭2(1927).【家兔】.

5103. 村上純一: Lipiodol 應用ニヨル氣管枝ノレントゲン像.【滿洲醫誌】4.大14-15(1925-1926).【人】.

5104. 村上純一, 西田英雄, 宮田太喜男: 「リビオドール」ニ依ル氣管枝造影法ノ臨床的價值.【滿洲醫誌】6.昭2(1927).

5105. 森優: 日本人胎兒ノ氣管枝ノ位置及ヒ長サニ就テ.【九大醫報】3,2.昭4(1929).

5106. —: 日本人胎兒ノ氣管及ヒ氣管枝ノ大キサ及ヒ位置ニ就テ.【解剖誌】2,2.昭4(1929).

5107. 野崎公義: 日本人ノ氣管, 氣管枝並ニ氣管枝分枝ノ解剖學的研究.【醫研究】3,11.昭4(1929).

5108. 瀧谷重治: 氣管枝造影法.【結核誌】7,11.昭4(1929).【人】.

5109. 田村 耕, 五十嵐 玲: 成人及ヒ胎兒氣管枝ノ線學的研究.【日レントゲン會誌】9,6.昭7(1932).

5110. 小川原亮: 氣管枝樹ニ就テ.【顯微鏡】53.

5111. 小池 重: 氣管及ヒ氣管枝系ニ於ケル彈力纖維ニ就テ.【醫新聞】883.大2(1913).【人】.

5112. 山崎春三: 氣管枝纖毛上皮細胞中ノ褐色色素ニ就テ.【京都醫誌】23,4.【日病理學誌】15.大15(1926).【人】.

5113. 石渡胤繁, 櫻井 基: 鶯ノ氣管腺ニ就テ【日本學會報告】2.大15(1926).

5114. 長松英一: 氣管軟骨ノ灰像ニ就テ.【解剖誌】2,2.昭4(1929).【人】.

5115. 三宅 儀: 血管及ヒ氣管枝筋ノ研究.【日內分泌誌】5,1.昭4(1929).【牛】.

5116. 梅田虎雄: 牛ノ氣管上皮頸毛ノ運動ニ關スル研究.【皮膚紀要】14,6.昭4(1929).

5117. 平澤有路: 氣管内ニ侵入セル異物ノ肺組織内吸收ニ關スル研究.第一報.【結核】8,5.昭5(1930).【家兔】.

肺

5118. 伊庭秀榮: 肺臟缺損ノ成熟胎兒ノ「デモンストラチオン」.【第一回日醫會誌】;産科誌4,1.昭35(1902).【人】.

5119. 齋藤勝壽: 肺臟及ヒ氣管ノ缺損セル胎兒ノ「デモンストラチオン」.【第一回日醫會誌】昭35(1902).【人】.

5120. 高田研安: 肺臟打診界ニ就テ.【醫中央誌】1,3.昭36(1903).【人】.

5121. 久保 武: 肺葉形成ノ異常ニ就テ.【愛知醫事同窓誌】14-16, 19.昭37-40(1904-07).【人】.

5122. —: 肺葉形成ニ關スル形態學的意義ニ就テ肺葉形成異常ノ三例.【東京醫會誌】20, 21; 21, 6-8.昭39-40(1906-07).【人】.

5123. 小黒智四郎: 日本人ノ肺臟ノ外形ニ就テ.【近畿醫會誌】31,3.大5(1916).

5124. 安藤畫一: 完全ニ兩肺ヲ缺如セル一胎兒.【近畿醫會誌】3,7.大8(1919).

5125. 古畑種基, 宮永學而: 左胸腔内ニテ發見セル副肺ノ一例.【國家醫會誌】41,2.大10(1921).【人】.

5126. 工藤得安: 肺ノ横隔膜神經截痕ト乳兒ノ常習性吃逆.【北越醫會誌】42,6.昭2(1927).【人】.

5127. 谷高三郎: 肺原基ノ發生ニ就テ.【岡山醫會誌】40,463.昭3(1928).【豚】.

5128. 野崎公義: 日本人氣管枝分枝狀態ノ解剖學的觀察(會).【解剖誌】1,1.昭3(1928).

5129. 日下部且三: 肺門部神經司配ニ關スル實驗的研究並ニ其ノ臨床的意義.【十全會誌】34,9.昭4(1929).【犬, 猿】.

5130. 梅林銈三: 大山椒魚ノ肺原基ノ發生ニ就テ.【解剖誌】2,5.昭4(1929).

5131. 可知猛男: 金線蛙ノ肺原基ニ於ケル切除及ヒ攪亂實驗.【解剖誌】2,3.昭4(1929).

5132. 鳥居邦康: 肺葉境界ノ線學的檢測法ニ就テ.【日レントゲン會誌】7,1.昭4(1929).【人】.

5133. 谷高三郎: 人胎兒ニ於ケル肺臟ノ形態學的發生ニ就テ.【解剖誌】2,1.昭4(1929).

5134. 淺田 一: 肺ノ機能.【日醫新報】377.昭4(1929).

5135. 可知猛男: 肺ト他ノ諸器官トノ發生學的相互關係ニ就テノ實驗的研究.【解剖誌】2,6.昭5(1930).【蟾蜍, 蛙】.

5136. 鳥居邦康: 肺葉境界ノ線學的檢測法ニ就テ.【日レントゲン會誌】7,5.昭5(1930).【犬, 猿, 兔】.

5137. 經田忠作: 氣管内「リビオドール」注入ニ依ル肋膜炎患者ノ肺臟並ニ氣管狀態ノ研究.【十全會誌】35,6.昭5(1930).【人】.

5138. 前田清一郎: 生體肺臟ニ於ケル氣管枝分布狀態「レントゲン」線學的研究.【東京醫會誌】45,5.昭6(1931).【人】.

5139. 藥師寺忠志: 兩棲類肺臟原基ノ形態學的發生ニ就テ.【岡山醫會誌】43,502.昭6(1931).【ヒノビウス】.

5140. 村山 高, 藥師寺忠志: 肺臟原基ノ形態學的發生ニ就テ.【岡山醫會誌】43,496.昭6(1931).【蛙】.

5141. 阿部謙涉: 奇靜脈葉ニ就テ.【日レントゲン會誌】9,1.昭6(1931).【人】.

5142. 藥師寺忠志: 兩棲類肺臟原基ノ形態學的發生ニ就テ(其二).【岡山醫會誌】44,5.昭7(1932).【蟾蜍】.

5143. 宮本義太: 肺臟原基ノ形態學的發生ニ關スル研究.【岡山醫會誌】44,7.昭7(1932).【豚】.

5144. 増島賴三: 肺臟發生.【千葉醫會誌】11,1.昭8(1933).【爬蟲類】.

5145. 村松篤治: Lobus inferior accessorius ノレントゲン像ニ就テ.【日レントゲン會誌】11,1.昭8(1933).【人】.

5146. 中島真貞, 關戸信吉, 伊勢田静夫: 肺ノ線寫眞撮影法ノ實驗的研究. 【レントゲン會誌】11, 1. 昭8(1933).

5147. 大久保 榮: 肺臟血管ニ於ケル炭末色素ノ沈著ニ就テ. 【醫新聞】754. 明41(1906). 【人】.

5148. 竹中繁次郎: 肺抽出ニ於ケル殘肺ノ顯微鏡的檢査ニ就テ. 【十全會誌】64. 明44(1911). 【家兔】.

5149. —: 肺ヲ抽出セル後他殘肺ニ呈ハルル肉眼的顯微鏡的所見ニ就テ. 【十全會誌】19. 5-6. 大3(1914). 【白鼠, 犬, 猫, 家兔】.

5150. 小川睦之輔: 人肺ノ呼吸の終末分岐ニ就テ. 【京都醫誌】12, 3. 大4(1915).

5151. —: 脊椎動物肺呼吸腔ノ組織學的研究. 【京都醫誌】14, 6. 大6(1917). 【兩棲類, 爬蟲類, 鳥類, 哺乳類】.

5152. Takenaka, Shigejiro: Über makroskopische und mikroskopische Befunde an der Lunge nach einseitiger Exstirpation. 【Mitt. med. Fak. Tokyo】17, 3. 大9(1917). 【Kaninchen, Katze, Hund】.

5153. 眞島卯吉: 肺炎ノ病理組織學的研究(第一報). 肺炎時氣胞腔ニ出現スル諸種遊走細胞並ニ氣胞上皮細胞ノ炎症ニ對スル態度ニ就テ. 【京都醫誌】17, 8. 大9(1920). 【家兔】.

5154. 齋藤正意: 肺ノ脂肪固定(Lipopenie)ト脂肪分解. 【醫海時報】1470. 大11(1922).

5155. 湯川靖洋, 堤 庸三: 過敏症「シヨク」ニ於ケル急性肺氣腫ノ顯微鏡的檢査. 【慶應醫學】2, 3. 大11(1922). 【犬, 家兔, 海狸】.

5156. 松澤松哉: 生體肺臟淋巴管研索法ニ因スル知見. 【愛知醫會誌】30, 5. 大12(1923). 【兔, 犬】.

5157. 大高 誠: 肺臟ノ貪喰細胞ニ就テ. 【日病理會誌】13. 大12(1923). 【家兔】.

5158. 西丸和義: 肺臟ニ至ル血管運動神經ニ關スル研究. 【岡山醫會誌】35, 397. 大12(1923). 【蛙, 蟾蜍, 龜】.

5159. 岩男 督: 肺ニ於ケル「エオジン」嗜好白血球ノ形成ニ關スル知見補遺. 【日病理會誌】13. 大12(1923). 【人】.

5160. 西井 烈: 肺臟内大單核遊走細胞ノ生體色素攝取ニ就テ. 【成醫會】466. 大13(1924). 【人】.

5161. 高泉正輝: 肺臟ニ於ケル脂肪ニ就テ. 【北越醫會誌】42, 3. 昭2(1927). 【人】.

5162. 山崎春三: 5. 肺臟間質結締織性纖維ノ

發生(肺臟ニ於ケル可鍍銀性纖維)ニ就テ. 【日微生物誌】22. 昭3(1928). 【雞】.

5163. 山崎春三: 6. 肺臟間質結締織性纖維ノ發生(彈力纖維ノ發生態樣並ニ其形成細胞)ニ就テ. 【日微生物誌】22. 昭3(1928). 【雞】.

5164. Hayakawa, Masatoshi: Über die epitheloiden Histiozyten nach Hamazaki. II. Studien über die wandständigen epitheloiden Zellen der Lungenalveolen. 【Arb. med. Fak. Okayama】1, 2. 昭4(1929). 【Kaninchen, Ratte, Hund, Katze】.

5165. 有本 康, 三宅川康平: 肺臟分布神經ニ就テノ組織學的研究. 【京府醫大誌】4, 4. 昭5(1930). 【兩棲類, 爬蟲類, 鳥類, 哺乳類】.

5166. 可知猛男: 哺乳動物肺内小氣管枝ノ比較組織學的研究. 【解剖誌】2, 6. 昭5(1930).

5167. 有本 康, 三宅川康平: 肺臟分布神經ニ就テノ組織學的研究. 【日病理會誌】20. 昭4(1930). 【鼠, 犬, 人胎兒】.

5168. 西 弘二: 胎兒肺臟彈力纖維所見. 【長崎法醫報】2, 4. 【社會醫誌】518. 昭5(1930).

5169. 阿久津宏一: 蝙蝠肺胞ノ發生學的研究. 【九大醫報】4, 6. 昭5(1930).

5170. 阿久津宏一: 鳥類肺胞ノ比較發生學的研究. 【東京醫誌】2706. 昭5(1930). 【家雞】.

5171. —: 家雞肺胞ノ發生學的研究(其二). 【東京醫誌】2702. 昭5(1930).

5172. 武田六郎: 種々ナル條件ニ於ケル肺臟組織像ノ比較研究. 【解剖誌】3, 10. 昭6(1931). 【家兔】.

5173. 岩男 督: 喀痰内心臟瓣膜病細胞ハ悉ク肺臟ニテ生成セラレタル組織球ナリ. 【醫海時報】1914. 昭6(1931).

5174. 阿久津宏一: 蛙ノ所謂呼吸上皮ノ細胞學的知見. 【九大醫報】5, 5. 昭6(1931).

5175. —: 蛙ノ所謂呼吸上皮ニ就テノ生體色素攝取試驗. 【東京醫誌】2729. 昭6(1931).

5176. —: 脊椎動物肺胞ノ發生學的研究. 其一: 鳥類肺胞ノ發生ニ就テ. 【解剖誌】4, 4. 昭6(1931). 【家雞, 家鴨, 雀】.

5177. —: 哺乳動物肺胞ノ成立機轉ニ對スル疑義. 【九大醫報】5, 2. 昭6(1931).

5178. —: 哺乳動物胎生期肺上皮ノ運命ニ就テ(其二). 【九大醫報】5, 1. 昭6(1931).

5179. 天野重安, 瀧野増市: 「ラテ」及ビ「マウス」肺臟内神經(特ニ肺臟内血管神經)ニ就テ. 【日内分泌誌】8, 1. 昭7(1932).

5180. 清水源一郎: 肺臟血管收縮神經ニ就テ.

【日新醫學】22, 2. 昭7(1932). 【犬, 猫, 雞】.

5181. 阿久津宏一: 哺乳動物胎生期肺胞上皮ノ運命ニ就テ(其一). 【東京醫誌】2713. 昭6(1932). 【家兔, ラツテ, マウス】.

5182. —: 脊椎動物肺胞ノ細微構造ニ關スル研究(第一-三篇). 【日新醫學】22, 5, 8-10. 昭8(1933). 【成鳥鳥類(家雞, 家鴨, 鳩, 雀等)肺組織; 家雞肺胞ノ發生組織學的研究; 鳥類(家鴨, 雀)肺胞ノ比較發生組織學的研究; 家雞肺臟ノ生體色素攝取試驗等】.

5183. 本郷孝久, 前田勝敏: 肺臟ニ於ケル造血. 第一報: 肺臟塗抹標本ニ就テノ檢索. 【熊本醫會誌】8, 10. 昭7(1932). 【家兔】.

5184. —, —: 肺臟ニ於ケル造血. 第二報: 肺臟ノ組織學的檢索. 【熊本醫會誌】9, 3. 昭8(1933). 【家兔】.

5185. 朴 鍾榮: 肺臟機能ノ形態學的研究. 第三報: 所謂大貪喰細胞ニ就テ. 【朝鮮醫會誌】23, 2. 昭8(1933).

5186. 高森 林, 久持 加藤: 生體染色ニヨル肺炎ノ研究. 【滿洲醫誌】18. 昭8(1933). 【マウス, 家兔, 家雞, 石龜, スツボン, 金線鱈】.

5187. 鬼川 光: 人間ノ正常肺及ビ病の肺ニ於ケル血管殊ニ其ノ吻合ニ就テ. 【東北醫誌】16. 昭8(1933).

胸膜, 胸腔

5188. 服部貞吉: 前縱隔囊腫畸形ノ一例及ビ其發生原因ノ知見補遺. 【北越醫會誌】191. 大2(1913). 【人】.

5189. 小川 勇, 栗原幸三: 所謂健常ナル肋膜腔内ヨリ得タル試驗穿刺液ニ就テ(特ニ支那人ニ關スル調査). 【南滿醫會誌】12, 1. 大12(1923). 【色調, 比重, 反應等】.

5190. 三井田 續: 兩側肋膜腔間ノ交通路ノ存在ニ就テ並ニ該交通路ノ發生學的觀察. 【解剖誌】2, 1. 昭4(1929). 【猪, 犬, 兔, 山羊胎兒, 豚胎兒】.

5191. Hayakawa, Masatoshi: Über die epitheloiden Histiozyten nach Hamazaki. I. Studien über die epitheloiden Histiozyten des Brustfells. 【Arb. med. Fak. Okayama】1, 2. 昭4(1929). 【Kaninchen, Hund, Ratte, Katze】.

5192. 梅谷一郎: 海狸ニ於ケル兩側胸腔ノ交通ニ就テ. 【結核】7, 8. 昭4(1929).

5193. 高橋 實, 經田忠作: 健康人肋膜腔液中遊離細胞知見補遺. 【十全會誌】34, 6. 昭4(1929).

5194. 岩本嘉文: 兩側肋膜腔交通路ニ關スル知見補遺. 【長崎醫會誌】9, 12. 昭6(1931). 【山羊】.

鰓弓 其他

5195. 小山準二: 「キモリ」ノ平衡支持枝, 特ニ消化後ニ於ケルソノ運命ニ就テ. 【動物誌】38, 447. 大15(1926).

5196. —: 消化後ノ「キモリ」ニ於ケル balancerニ就テ. 【動物誌】38, 452. 大15(1926).

5197. 岡室徳之助: 正常成熟哺乳動物ノ遺殘セル後鰓體囊胞ニ就テ. 【日内分泌誌】2, 3. 大15(1926). 【犬, 猫, 家兔, モルモット, 白鼠】.

5198. Murayama, Terukuni: Über die Balancierstange bei Hynobiuslarven. 【Fol. anat. jap.】6, 4. 昭3(1928).

5199. 小關 勉: 鰓弓器官ノ發生的研究. 【醫研究】3, 12. 昭4(1929). 【雀】.

5200. 戸前近太郎: 兩棲類鰓弓ニ於ケル鰓蓋ト前肢. 【解剖誌】2, 2. 昭4(1929). 【蟾蜍】.

5201. 池田雄一郎: RhacophorusノKiemenderivateニ就テ. 【動物誌】44, 503. 昭5(1930).

5202. 溝口壽雄: 鰓後體ノ發生ニ就テ. 【解剖誌】3, 10. 昭6(1931). 【大山椒魚】.

5203. —: 無尾兩棲類ノ鰓後體ノ發生. 【解剖誌】4, 1. 昭6(1931). 【青蛙, 蟾蜍】.

5204. 伊藤 忍: 鳥類ニ於ケル鰓外鰓弓體ニ就テ. 【東京醫誌】2729. 昭6(1931).

5205. 飛永末喜: 有尾兩棲類ノ鰓過突起ニ就テ. 【解剖誌】5, 7. 昭7(1932). 【ヒノビウス】.

5206. 藥師寺忠志: 鰓後小體ノ發生ニ關スル研究. 【岡山醫會誌】44, 8. 昭7(1932). 【ヒノビウス】.

5207. Tobinaga, Sueki: Beitrag zur Kenntnis über die Filterfortsätze an den Kiemenbogen bei den Larven von Hynobius leechii. 【Keijō J. of Med.】4, 1. 昭8(1933).

4. 尿生殖器

尿生殖器一般

5208. 大澤岳太郎: 生殖泌尿器ノ發生. 【産科誌】2, 6. 明33(1900).

5209. —: 泌尿生殖器ノ發生. 【濟生學舍醫報】85. 明33(1900). 【人】.

5210. Hirota, S.: On the dendritic appendage of the urogenital papilla of a Siluroid. 【J. Coll. Sci.】8. 明23(1895). 【Plotosus anguillaris】.

5211. 田中友治: 日本人ノ陰莖ノ大キテ及ビ膀胱ノ容積ニ就テ. 【皮膚誌】5, 2-3. 明38(1905).

5212. Yamagiwa, Samuro: Das Urogenitalsystem der Urodelen. [J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.] 15,大13-14(1924-1925).

5213. 中村 邦: Urogenitalverbindung = 關スル胎生組織學的研究. [日外會誌] 27,大15-昭2(1926-27). [家兔, 犬, 牛, 猪等ノ胎兒].

5214. Asai, S.: Über die sensible Innervation der inneren Geschlechtsorgane und der Harnblase. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 10,1, 昭2(1927). [Kaninchen].

5215. 森 於克, 金子丑之助: 二三骨鱗類ニ於ケル泌尿生殖器ノ形態. [解剖誌] 2,2, 昭4(1929). [鯉, 鰻, 泥鰌, 鱈].

5216. 宮林慶介: 泌尿器臟器ノ生體染色ニ就テ. [日泌尿會誌] 20,8, 昭6(1931).

5217. 志賀 亮, 宮林慶介: 泌尿器系統ノ生體染色ニ就テ. [皮尿誌] 31,6, 昭6(1931).

5218. 田中英雄: 蛙ニ於ケル原腎ト副腎トノ發生的相關ニ就テ. [解剖誌] 6,4, 昭8(1933). [蛙, 蟾蜍].

5219. 橋本哲太郎: 攝護腺輸尿管及ビ輸尿管ノ微細神經纖維ニ就テ. [皮尿誌] 33,4, 昭8(1933).

尿 器
尿管一般

5220. Hatta, Saburo(八田三郎): Preliminary note on the development of the pronephros in Petromyzon. [Annot. zool. Jap.] 1,4, 明30(1897).

5221. —: Contributions to the morphology of Cyclostomata. II. The development of pronephros and segmental duct in Petromyzon. [J. Coll. Sci. Hokk. Univ.] 13,3, 明33-34(199-01).

5222. 渡邊一郎: 腎臟及ビ輸尿管ノ先天性異常並ビニ其ノ外科學的關係. [成醫月報] 447, 大8(1919). [人].

5223. —: 人胎兒泌尿器模型供覽. [日泌尿會誌] 10,1, 大10(1921).

5224. 高橋 明, 里見勤四郎: 腎臟及ビ輸尿管ノ畸形特ニ重複輸尿管ニ就テ. [皮尿誌] 25,6, 大14(1925).

5225. 飯島 尚: 本邦人ノ腎動脈及ビ輸尿管ノ位置的關係ニ就テ. [東京醫誌] 2415, [皮膚紀要] 5,2, 大14(1925).

5226. 中野 等: 泌尿器系結石ノ發生ニ就テ. [醫海時報] 1653, 大15(1925).

5227. 新井寛治: 稀有ナル泌尿器發育異常. [日泌尿會誌] 16,4, 昭2(1927). [女].

5228. 敷波重治郎: 人胎兒ニ於ケル前腎退化物ニ就テ(會). [解剖誌] 1,1, 昭3(1928).

5229. 原田定次: 「グリコゲン」研究. 腎盂, 輸尿管, 膀胱ノG發現ニ就テ. [成醫會] 47-48, 昭3-4(1928-29). [動物實驗].

5230. 高橋 明, 市川篤二: 腎臟及ビ輸尿管ノ先天性畸形ニ就テ(第一報): 腎ノ先天性位置異常, 殊ニ骨盤腎ニ就テ. [皮尿誌] 31,3, 昭6(1931).

5231. 宮田次男: 靜脈内注射ニヨル尿路撮影法, 特ニ「ウロセレクトラン」ノ臨床的經驗ニ就テ. [Grenzgeb.] 5,2, 昭6(1931). [人生體].

5232. 田所 豊: 日本人胎兒ノ腎臟外形並ビニ腎盂, 腎盞ノ形態ニ就テ[解剖誌] 4,6, 昭6(1931). [初生兒, 乳兒及ビ成人ノモノト對照ス].

5233. 栗田太郎: 靜脈腎内注射ニ依ル盂像及ビ膀胱像ニ就テ(第一報). [愛知醫會誌] 38, 7, 昭6(1931). [人].

5234. Kurita, Taro: Über die intravenöse Pyelographie und Cystographie. [Nagoya J. med. Sci.] 6,1, 昭7(1932) (Mensch).

5235. 山田豊次郎: 尿路粘膜炎ノ生體染色ニ就テ. [解剖誌] 5,5, 昭7(1932). [マウス, 家兔].

5236. 高橋 明, 市川篤二: 腎臟及ビ輸尿管ノ先天性畸形ニ就テ(第二報). 重複畸形, 殊ニ重複腎盂及ビ重複輸尿管ニ就テ. [皮尿誌] 32, 1, 昭7(1932).

5237. —, —: 腎臟及ビ輸尿管ノ先天性畸形ニ就テ(第三報). 重複畸形殊ニ過剰輸尿管ノ膀胱外開口ニ由ル尿失禁ニ就テ. [皮尿誌] 32,3, 昭7(1932).

腎

5238. 今田 東: 馬蹄鐵狀腎記事. [中外醫事報] 204, 明21(1888).

5239. 大澤岳太郎: 「ゲシュレヒツニエーレ」ニ就テ. [東京醫誌] 1527, 明40(1907). [人].

5240. 大瀧 登: 畸形腎臟ノ「デモンストラチオン」. [醫公論] 14, 大1(1912).

5241. 長谷部秀邦: 腎ヲ缺如セル實驗. [東京醫誌] 1798, 大1(1912). [人].

5242. 瀬尾雄三: 遊走腎八例及ビ着帯療法ノ成績. [日內會誌] 2, 大3(1914).

5243. 國友 鼎: 游水類ノ腎臟並ニ毛髮ノ示現. [第四回日醫會誌] 大4(1915). [鰻, 海鰻].

5244. 栗田得三: 馬蹄鐵腎一例. [皮尿誌] 15,1

2, 大4(1915).

5245. 石橋松藏: 馬蹄鐵腎ヲ兼ムル一囊胞腎. [醫新聞] 949, 大5(1916). [人].

5246. 工藤得安: 馬蹄鐵腎ノ一例. [北越醫會誌] 32,大6(1917). [人].

5247. 敷波重治郎: 馬蹄鐵腎ノ一例. [東北醫誌] 1,3, 大6(1917). [人].

5248. 井上善吉: 右側發育不全腎及ビ右側重複腎ノ一例. [日泌尿會誌] 6,3, 大6(1917). [人].

5249. 竹下政之助: 前腎ヲ有スル魚ノ一例. [動物誌] 30,551-552, 大7(1918). [シラウヲ].

5250. 安達鳥次: 日本人ノ腎臟ノ重サニ就テ. [臺灣醫會誌] 19, 大9(1920).

5251. 金 關周: 馬蹄鐵腎ノ標本供覽. [朝鮮醫會誌] 38, 大11(1922).

5252. 森 於克: 先天性轉位癒合腎ノ成立機轉ニ就テ. [皮尿誌] 22,4, 大11(1922).

5253. —: 馬蹄鐵腎ノ三例. [皮尿誌] 2,7, 大11(1922).

5254. 渡邊一郎: 重複腎盂腎臟ニ就テ. [成醫會] 478, 大13(1924). [人].

5255. 安達鳥次: 日本人腎臟ノ外形及ビ位置ニ就テ. [臺灣醫會誌] 24,239, 大14(1925).

5256. 渡邊一郎: 重複腎盂腎臟ニ就テ. [日泌尿會誌] 14,1, 大14(1925). [人].

5257. —: 單一腎臟ニ就テ. [日泌尿會誌] 15,3, 大15(1926).

5258. 荒瀧 實: 白鼠ノ腎臟發育ニ就テ. [東京醫誌] 2465, 大15(1926).

5259. 長澤米藏: 輸尿管輸精管及ビ精囊異常ヲ伴ヘル偏腎發育不全並ニ代償性腎肥大ニ就テ. [日醫大誌] 1,3, 昭2(1927). [人].

5260. 工藤貞雄: 腎臟皮下破裂患者ヨリ發見セル重複腎臟ノ一例. [海軍醫誌] 16,2, 昭2(1927). [人].

5261. 小野塚 彌: 腎臟腫ヲ起セル重複腎ノ一例. [皮尿誌] 27,11, 昭2(1927).

5262. 長澤米藏: 腎臟ト腎動脈. [病理治療] 1, 昭2(1927). [人].

5263. 山村 久: 腎葉及ビ腎乳頭ノ發生學的觀察及ビ其相互ノ關係. [皮尿誌] 27,12, 昭2(1927). [人].

5264. 矢ヶ崎勤七: 破格ノ一分症トシテ馬蹄鐵腎ノ一例. [北海道醫誌] 5,1, 昭2(1927).

5265. —: 馬蹄鐵腎ノ一例. [東京醫誌] 2506, 昭2(1927). [人].

5266. 都谷枝高次郎: 巨大ナル囊腫腎ヲ形成

セル馬蹄腎ニ就テ. [Grenzgeb.] 1,11, 昭2(1927). [人].

5267. 中川小四郎, 大道直一: 馬蹄鐵腎ノ一例. [皮尿誌] 28,10, 昭3(1928).

5268. —, —: 腎盂結石ヲ併發セル馬蹄鐵腎ノ一例. [Grenzgeb.] 2,9, 昭3(1928). [人].

5269. 高橋 明, 並木重郎, 市川篤二, 三好祝二: 腎臟疾患「レントゲン」像. [日レントゲン會誌] 7,1, 昭4(1929). [人].

5270. 大庭眞咲: 腎臟ノ位置ニ關スル比較解剖學的考察. [解剖誌] 2,2, 昭4(1929). [哺乳動物].

5271. 龜谷敏三: 交叉性腎臟變位一側二腎. [皮尿誌] 29,9, 昭4(1929).

5272. 末武岩夫: 重複腎ノ一例. [臺灣醫會誌] 28,205, 昭4(1929). [人活體].

5273. 並木重郎: 馬蹄鐵腎ノ三例ニ就テ. [皮尿誌] 29,10, 昭4(1929).

5274. 池田純治郎: 腎筋膜, 腎脂肪囊ノ神經. [日泌尿會誌] 18,1, 昭4(1929). [鼠, 家兔, 犬].

5275. 荒瀧 進: 犬腎臟ノ形態學的研究補遺. [解剖誌] 2,6, 昭5(1930).

5276. —: 成人朝鮮人腎臟ノ統計的觀察. [解剖誌] 3,6, 昭5(1930).

5277. 並木重郎: 邦人腎臟ノ位置ニ就テ. [皮尿誌] 30,6, 昭5(1930).

5278. —: 邦人腎臟ノ位置ニ就テ. [日泌尿會誌] 19,5, 昭5(1930). [X線像所見].

5279. 青木幸三郎: 過剰腎ノ一例. 所謂 Triplicitas renum = 關スル新知見補遺. [千葉醫會誌] 8,7, 昭5(1930). [人].

5280. 市川篤二: 先天性腎臟異常ノ三例. [日泌尿會誌] 19,9, 昭5(1930). [ピエログラム].

5281. Miura, Kyumatsu: Experimentelle Untersuchungen über die genetische Beziehung zwischen dem Wolff'schen Gang und der Niere bei Froschlerven. [Jap. J. of med. Sci. I. Amt.] 2,2, 昭5(1930).

5282. 梅林銈三: 有尾兩棲類 (Hynobius fuscus, Tago) = 於ケル原腎ノ發生學的的研究. [千葉醫會誌] 8,4, 昭5(1930).

5283. 鈴江瑞穂: 腎血管ノ短時間結紮ガ腎臟ニ及ボス影響ニ就テノ實驗的研究. 第一報: 腎靜脈ヲ結紮シタル場合. 第二報: 腎動脈ヲ結紮シタル場合. 第三報: 腎動脈並ビニ腎靜脈ヲ同時ニ結紮シタル場合. [日外賣] 7-8, 1-3, 昭5-6(1930-31).

5284. 並木重郎, 山之内秀三: 邦人男子腎臟

ノレ線寫眞上ノ位置ニ就テ。【皮膚誌】31,10, 昭6(1931).

5285. 岡部直己: 腎出血ヲ呈シ發育不全ヲ兼ネタル骨盤腎ノ一例。【日泌尿會誌】20,5, 昭6(1931).

5286. 大塚 宏: 一側腎臟缺損症ノ一例。【日泌尿會誌】20,1, 昭6(1931).

5287. 武藤春雄: 重複腎ノ一例。【東京醫誌】2756, 昭6(1931). [人].

5288. 藤村實雄: 二個ノ結石ヲ併發セシ馬蹄鐵腎ノ一例。【皮膚誌】31,6, 昭6(1931).

5289. 栗田太郎: 靜脈注射ニ依ル「ネフログラフィ」ニ就テ。【レントゲン會誌】9,1, 昭6(1931).

5290. 窪川經廣: 胎兒腎臟ノ胎生期發育ニ就テ, 殊ニ其ノ解剖學並ニ組織學の數量關係ニ就テ。【成醫會】50, 昭6(1931).

5291. 宮田次男: 馬蹄鐵腎ノ三例標本供覽。【九大醫報】6,1, 昭7(1932).

5292. 村山信衛: 生殖器異常ヲ兼ネタル女子骨盤腎ノ一例。【熊本醫會誌】9,4, 昭8(1933).

5293. 山之内秀三: 先天性軸捻轉腎ノ三例。【日泌尿會誌】22,10, 昭8(1933).

5294. 市川篤二, 大森清一: 畸形腎ノ組織學的研究。【皮膚誌】33,4, 昭8(1933).

5295. 高橋 明, 佐藤 勝: 孤立性腎臟囊腫ト誤診セラレン重複腎盂並腎臟水腫ニ就テ。【皮膚誌】34,3, 昭8(1933).

5296. 濱崎邦夫: 重複腎ノーツニ發生セル巨大腎臟腫ノ一例。【皮膚誌】1,6, 昭8(1933).

5297. 山田 迪: 馬蹄鐵腎ノ二例。【解剖誌】6,7, 昭8(1933). [朝鮮人, 日本人].

5298. 宮田次男: 馬蹄鐵腎ノ四例。附: 馬蹄鐵腎ヲ所有セル死産畸形兒ノ所見。【醫研究】7, 10, 昭8(1933). [人].

5299. 市川篤二: 馬蹄鐵腎ノ一例。【皮膚誌】34,4, 昭8(1933).

5300. 高井義道: 腎臟原基ノ發生ニ關スル研究。【岡山醫會誌】45,6, 昭8(1933). [家兔].

5301. 鹽谷不二雄, 田村利雄: 腎臟炎患者ノ腎中ニ於ケル類脂肪體ノ顯微化學的所見。【日內會誌】3, 大4(1915).

5302. 阿部脩三郎: 兩棲類ニ於ケル腎臟迂曲細尿管表皮細胞ノ分泌現象ニ對スル組織學的研究。【中央醫會誌】27,5-6, 大9(1920). [蛙, 蟾蜍].

5303. 藤谷彌三郎: 腎臟上皮ノ鍍銀顆粒ト「カ

ルミン」顆粒ニ就テ。【日病理會誌】10, 大9(1920). [魚類, 兩棲類, 爬蟲類, 鳥類, 哺乳動物].

5304. 鈴木立男: 腎ノ絲體體ニ就テ。【日病理會誌】10, 大9(1920). [海狸, 家兔].

5305. —: 腎ノ絲體體ニ就テ。【東北醫誌】5, 1, 大10(1921). [家兔, モルモット, 人].

5306. 谷野 駿: 腎臟絲體體ノ活動狀態ニ就テ(生體染色の所見ヲ含ム)。【醫公論】630, 大13(1924). [家兔].

5307. 石原正次: 腎臟ノ形態的變化ト機能的變化トノ關係ニ就テ。【皮膚紀要】3,2, 大13(1924).

5308. 松田 茂: 生理的及病的腎ノ組織的研究。殊ニ其ノ所謂格子狀纖維ニ就テ。附: 余ノ鍍銀法。【十全會誌】29,9, 大13(1924). [人].

5309. Aschoff (鈴木立男抄譯): 腎分泌機能(會)。【醫公論】637-638, 大13(1924). [家兔, ラツテ, 生體染色の所見アリ].

5310. 三田村篤志郎: 腎臟分泌ノ形態及生理。【醫公論】678, 大14(1925). [家兔, 大黒鼠, マウス, 蛙].

5311. 鈴木隆義: 腎臟組織ノ死後變化ニ關スル實驗的研究。特ニ細尿管上皮ニ於ケル潤滑膜樣變化ノ成因ニ就テ。並ニ生體固定法其他諸種固定法比較。【千葉醫會誌】3,2, 大14(1925). [家兔].

5312. 逢澤 薰: 尿素排泄ノ組織學的研究。【十全會誌】30,2, 大14(1925). [白鼠].

5313. 青木 豹: 腎絲體體ノ微細構造ニ關スル知見補遺。【日新醫學】15,4, 大17(1925). [人, 家兔, 海狸, マウス, ラツテ, 牛].

5314. 谷口 駿: 腎臟絲體體ノ機能ニ就テ。【福岡醫大誌】18,5, 大14(1925).

5315. Saeki, Teishichi: Über die Zahl und die Grösse der Glomeruli in der Niere einiger Säugetiere. [Acta Scholae Med. Kioto] 8, 大14-15 (1925-26). [Mensch, weisse Ratte, Kaninchen].

5316. 山極三郎: 家鷄腎臟並ニ肝臟ノ組織發生ト脂肪物質トノ關係ニ就テ。【日微生物誌】20, 大15(1926).

5317. 田村憲造: 腎臟ノ生理及ビ藥理。【日醫新報】245, 大15(1926).

5318. 淺井四郎: 腎臟ニ於ケル知覺神經ノ経路ニ就テ。【京都醫誌】23,12, 大15(1926). [家兔].

5319. 三宅 勇: 腎臟上皮ノ吸收機能ニ就テ。其一: 色素ノ吸收。【皮膚誌】27,7, 昭2(1927). [家兔].

5320. 小濱基次: 日本産蠶繭ニ於ケル腎臟尿

細管ノ蠟板模型ヲ標本示説(會)。【東北醫誌】10, 昭2(1927).

5321. 青木 豹: 腎臟病理學ニ關スル知見補遺【千葉醫會誌】5,4-7, 昭2(1927). [人].

5322. Uwatoko, Yoshihiko: Zur Käliumgranula in Nierenepithelien. [Nagoya J. of med. Sci.] 2,1, 昭2(1927). [家兔].

5323. Miyamura, Kazutoshi: The reabsorption of water in the tubules of the Japanese Toad's kidney. (Studies in the excretion of urine. VI). [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 1,3, 昭2(1927).

5324. Tamura, K. Miyamura, K. Nishina, T. and Nagasawa, H.: The glomerular circulation in the living Frog's kidney. Studies in the excretion of urine. I. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 1,2, 昭2(1927).

5325. Tamura, K. Miyamura, K. Nishina, T. Nagasawa, H. and Hosoya, M.: Changes in the glomeruli, capsules and tubules of the living Frog's kidney. Studies in the excretion of urine. II. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 1,2, 昭2(1927).

5326. Tamura, K. Miyamura, K. Fukuda, F. Hosoya, M. Kishi, K. and Kihara, G.: The glomerular function of the Frog's kidney in water excretion (Studies in the excretion of urine. III.) [Jap. J. of Med. Sci. IV. Pharmacol.] 1,2, 昭2(1927).

5327. Tamura, K. Miyamura, K. Nagasawa, H. Hosoya, M. Kishi, K. and Fujita T.: A new method for the separate investigation of the function of glomeruli and tubules. Studies in the excretion of urine. IV. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 1,3, 昭2(1927).

5328. Tamura, K. Miyamura, K. Nishina, T. Nagasawa, H. Fukuda, F. and Kishi K.: The seats of excretion of dyes in the kidney. Studies in the excretion of urine. V. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 1,3, 昭2(1927).

5329. 佐伯貞七: 腎臟ノ色素排泄ニ關スル知見補遺。【京都醫誌】24,5, 昭2(1927). [家鼠腎臟ノ構造アリ].

5330. 下村四郎: 實驗的腎臟手術ニ關スル機能検査並ニ組織學的研究。【皮膚紀要】10,1, 昭2(1927). [家兔].

5331. 夏 禹鼎: 鹽類利尿ト腎酸素消費。附: 腎臟ノ組織學的所見。【東京醫會誌】42,7, 昭3(1928).

5332. 濱田健男, 西脇弘道: 生蛙腎ノ色素(殊ニ「インヂゴカルミン」并ニ「フェノールズルフォフクレイン」)ノ排泄ニ就テ。【皮膚紀要】12,6, 昭3(1928).

5333. 志賀 亮, 内田 豊: 所謂腎盂靜脈逆流現象(Pyelogenous backflow. Hinmann and Lee-Brown)ニ就テ(第一報)。附: 腎臟上皮細胞ノ色素吸收ニ就テ。【皮膚誌】28,10, 昭3(1928). [人, 家兔].

5334. 小杉虎一: 形態學ヨリ見タル尿生成機轉。【日新醫學】17,6-7, 昭3(1928). [動物一般].

5335. 池田統治郎: 腎被膜ノ神經支配。【日泌尿會誌】17,3, 昭3(1928). [蛙, 鼠, 家兔, 海狸, 犬, 人].

5336. —: 腎被膜, 輸尿管ノ神經ノ標本供覽。【皮膚誌】29,6, 昭4(1929).

5337. 青木 豹: 腎細尿管上皮細胞ノ再生現象殊ニ其病理學的意義ニ就テ。【千葉醫會誌】7,12, 昭4(1929). [人].

5338. 濱田健男, 石田清夫: 活體觀察ニヨル腎ノ色素排出ニ關スル腎排法單位態度ニ就テ。【皮膚紀要】13,4, 昭4(1929). [蛙].

5339. 寺尾平一: 哺乳類細尿管固有介在部 eigentliches Schaltstück ノ分類知見補遺。【日泌尿會誌】18,5, 昭4(1929).

5340. —: 海狸細尿管ノ形態研究。【皮膚誌】29,6, 昭4(1929).

5341. 清水雅之: 腎細尿管及ビ所謂腎盂靜脈逆流現象ニ關スルレ線組織學的研究。【レントゲン會誌】7,1,4, 昭4(1929).

5342. Kosugi, Torachi: Über die valvuläre Konfiguration des Epithels im Hauptstücke der Niere, zugleich eine Stellungnahme zur Anschauung Hoebers über die Harnbildung. [Acta med. Keijō] 12,3, 昭4(1929).

5343. 三田村篤四郎: 腎臟炎病理。【東京顯微鏡會誌】36,4, 昭4(1929). [腎臟ノ形態ト生理トノ關係ニ就キ記載アリ].

5344. 井上愛民: 後腎ノ宗族發生學的考察。【解剖誌】3,3, 昭5(1930). [爬蟲類, 哺乳類].

5345. 岡田真一: 腎細胞ノ生體染色ニ及ボス「フロリチン」ノ影響。【解剖誌】3,3, 昭5(1930).

5346. 三田村篤志郎: 腎臟ノ組織生理及ビ組織病理。【皮膚誌】30,6, 昭5(1930). [人, 二十日鼠, 大黒鼠, 家兔].

5347. 齋藤明彦: 家鷄ノ顯微鏡標本並ニ蠟板模型ノ供覽。【解剖誌】3,3, 昭5(1930).

5348. 大森三彦: 一側腎別出後ノ家兔ニ於ケル

ル殘腎細胞ノGolgi氏装置ニ就テ。【岡山醫會誌】42,490, 昭5(1930).

5349. **Kamakura, Reizo**: Über die Einwirkung von Kalium und Calcium auf die Nierenkanälchen. [Arb. med. Fak. Okayama] 1,4, 昭5(1930). [Kaninchen].

5350. —: Über die Wirkung von Kalium und Calcium auf die Mitochondrien in den Nierenepithelzellen. [Arb. med. Fak. Okayama] 昭5(1930). [Kaninchen].

5351. —: Über die Einwirkung von Cholesterin und Lecithin auf die Zelle der Harnkanälchen. [Arb. med. Fak. Okayama] 1,4, 昭5(1930). [Kaninchen].

5352. —: Über die Veränderung des Golgischen Apparates an den Kaninchennieren nach einseitiger Ureterunterbindung. [Arb. med. Fak. Okayama] 11,1, 昭5(1930).

5353. —: Über die Veränderung des Golgischen Apparates des Harnkanälchens bei den durch einige Gifte hervorgerufenen Nephritiden. [Arb. med. Fak. Okayama] 11,2, 昭5(1930). [Kaninchen].

5354. —: Über die Einwirkung der Nierenextraktes auf den Golgischen Apparat des Harnkanälchens beim Kaninchen. [Arb. med. Fak. Okayama] 11,2, 昭5(1930).

5355. **古武彌四郎**: 尿ノ色素ニ就テ。【醫海時報】1868, 昭5(1930).

5356. **西脇眞澄**: 組織體外培養ニ依ル腎臟ノ生物學的研究(第一報)。【皮尿誌】31,6, 昭6(1931).

5357. **岡田眞一**: 腎被膜剝離ガ腎細胞生體染色ニ及ボス影響ニ就テ。【岡山醫會誌】43,493, 昭6(1931). [家兔].

5358. —: 腎細胞生體染色ガ内臟神經及ビ腎神經叢ノ遮斷ニ由テ如何ニ影響サルルヤ。【岡山醫會誌】43,493, 昭6(1931). [家兔].

5359. **宇津木斌**: 栗鼠腎ノ組織學的構造ニ就テ。【東京醫誌】2749, 昭6(1931).

5360. —: 栗鼠細尿管形態學的研究。【解剖誌】4,8, 昭6(1931).

5361. —: 「ラッテ」細尿管形態學的研究。【解剖誌】4,8, 昭6(1931).

5362. **森繁春**: 家兔腎臟ノ糖原質ニ就テ。【東北醫誌】13,5, 昭6(1931).

5363. **小林平吉**: 植物神經系ニ作用スル二三物質ノタメ起ル腎上皮ノ變化殊ニ其ノGolgi

氏装置ニ「ミトコンドリエン」ニ起ル變化ニ就テ。【岡山醫會誌】43,501, 昭6(1931). [家兔]

5364. **關健藏**: Studien der Niere mit Hilfe der Silberreaktion. [Jap. J. of med. Sci. V. Pathology] 1,3, 昭6(1931). [哺乳類, 鳥類, 爬虫類, 兩棲類, 魚類, 圓口類].

5365. **齋藤明堯**: 二三動物ノ腎細尿管ノ蠟板模型供覽。【解剖誌】4,4, 昭6(1931).

5366. —: 腎細尿管ノ細胞學的研究。其一: 萎ノ細尿管ニ就テ。【解剖誌】5,2, 昭7(1932).

5367. —: 細尿管ノ比較解剖學的研究。【解剖誌】5,2, 昭7(1932). [鰻, 鱒, 鱧, 鰻, ラッテ].

5368. **山本千任**: 腎絲球體ノ數及ビ大サノ變化ニ對スル研究。【社會醫誌】541, 昭7(1932).

5369. **橋本哲太郎**: 腎臟乳頭部神經ノ組織學的所見。【皮尿誌】32,10, 昭7(1932). [海狗, 家兔, 犬, 猪, 豚, 人].

5370. **國府田敏一**: 日本人腎臟ノ腎小體數ニ就テ。【解剖誌】5,7, 昭7(1932).

5371. —: 二三家畜動物ノ腎臟ニ於ケル腎小體數ニ就テノ觀察。【解剖誌】6,1, 昭8(1933). [牛, 馬, 豚, 猪, 犬, 兔, モルモット].

5372. **遠藤壽太**: 二三ノ「プリン」誘導體ニヨリテ起ル家兔腎上皮細胞内Golgi氏装置ノ變化ニ就テ。【岡山醫會誌】45,5, 昭8(1933).

5373. **井上留雄**: 二三血管毒ノ腎臟ニ及ボス組織的變化殊ニ上皮細胞ノGolgi氏装置ニ及ボス影響ニ就テ。【岡山醫會誌】45,10, 昭8(1933). [家兔].

5374. **杉山繁輝, 橋慶一郎**: 腎臟上皮細胞ノ貪喰性ニ就テ。【十全會誌】38,6, 昭8(1933). [家兔, 豚].

5375. **宮原通顯**: 硬レ線照射ノ腎臟中性脂肪及ビ「リポイド」ニ及ボス作用ニ就テ。【日レントゲン會誌】11,1, 昭8(1933). [家兔].

5376. **中村盛三**: 「クマネズミ」ノ細尿管ニ就テ。【熊本醫會誌】9,8, 昭8(1933).

5377. **橋本哲太郎**: 泌尿生殖器系統ニ於ケル微細神經纖維ニ就テ。其一: 腎臟乳頭部ニ於ケル神經纖維。【解剖誌】5,12, 昭8(1933). [人, 海狗, 家兔, 犬, 猪, 豚].

5378. **水田信夫**: 肝臟機能ト腎臟機能トノ關係。【日內會誌】21, 昭8-9(1933-34). [組織學的記載アリ].

輸尿管, 腎盂

5379. **田中友治**: 輸尿管ノ長サ。【皮尿誌】10,9, 昭4(1910).

5380. —: 輸尿管ノ長サ。【第三回日醫會誌】明44(1911).

5381. **北川正博**: 日本人ノ膀胱内輸尿管口ヨリ腎盂マデノ長サ測定。【皮尿誌】16,5, 大5(1916).

5382. **羽太銳治**: 日本人ノ輸尿管ノ長サ及ビ輸尿管口ニ就テ。【日泌尿會誌】6,1, 大6(1917).

5383. —: 再ビ日本人輸尿管ノ長サ及ビ輸尿管口ニ就テ。【日泌尿會誌】6,3, 大6(1917).

5384. **大原芳雄**: 稀有ナル輸尿管標本供覽。【皮尿誌】17,10, 大6(1917).

5385. **高橋明**: 種々ナル輸尿管疾患ノ實驗例。【皮尿誌】20,6, 大9(1920). [複輸尿管四例].

5386. **佐谷有吉**: 輸尿管ノ生理解剖的研究ノ臨床上ニ於ケル意義。【日泌尿會誌】11,5, 大12(1923). [人].

5387. **柳原英, 宮田太喜男**: 「ピエログラフイー」ニ就テ。第1-3報。【東洋醫誌】2; [滿洲醫誌] 3,5, 大13-15(1924-26).

5388. **本間富之助**: 重複輸尿管ノ一例。【皮尿誌】26,12, 大15(1926).

5389. **齋藤貞一**: 重複腎盂, 重複輸尿管ノ一例(會)。【北海道皮膚】3,2, 昭3(1928).

5390. **高橋明, 市川篤二**: 重複腎盂, 重複輸尿管ノ四例。【皮尿誌】28,9, 昭3(1928).

5391. **藤森芳夫**: 高度ノ腎臟腫脹ニ就テ。附: 重複腎盂, 重複輸尿管ノ第四例。【皮尿誌】28, 3, 昭3(1928).

5392. **増子豊**: 重複輸尿管ノ一例。【皮尿誌】28,3, 昭3(1928).

5393. **市川篤二**: 重複輸尿管ノ二例。【皮尿誌】28,3, 昭3(1928).

5394. **喜多 豪**: 輸尿管ノ經過異常竝ニ重複輸尿管ニ就テ。【解剖誌】1,4, 昭4(1929). [人].

5395. **市川篤二**: 「ピエログラフイー」ヨリ見ケル正常腎盂ノ形態ニ就テ。【日泌尿會誌】18,6, 昭4(1929).

5396. **今村豊, 荒瀬進**: 二三哺乳類ノ腎盂及ビ腎動脈ニ就テ。【臺灣醫會誌】28, 昭4(1929). [豚, 犬, 人].

5397. **荒瀬進**: 豚(sus scrofa: キノシシ科)ノ腎盂, 腎盂ノ研究。【朝鮮醫會誌】19,2, 昭4(1929).

5398. —: 成人朝鮮人ノ腎盂, 腎盂ノ形態學的研究。【解剖誌】2,4, 昭4(1929).

5399. **本間富之助**: 重複輸尿管ニ就テ。【皮尿誌】29,1, 昭4(1929).

5400. **久保山高敏**: 輸尿管ノ疾患。【皮尿誌】

29,8, 昭4(1929).

5401. **清水雅文**: 完全重複輸尿管及ビ重複腎盂ノ一例。【皮尿誌】30,2, 昭5(1930). 題名ノミ.

5402. **齋藤貞一**: 重複腎盂, 重複輸尿管ノ第二例。【北海道皮膚】5,2, 昭5(1930).

5403. **廣田康, 高橋弘**: 「ピエログラフイー」ニ依ル朝鮮人腎盂ノ形態ニ就テ。【皮尿誌】30,8, 昭5(1930).

5404. **宮林慶介**: 各種動物ノ腎盂, 腎盂構造ト腎盂外溢流ノ發生機轉ニ就テ。【皮尿誌】30,10, 昭5(1930). [二十日鼠, 鼠, モルモット, 家兔, 猪, 犬, 牛, 豚, 人].

5405. **田所豊**: 日本人胎兒ノ腎盂, 腎盂ノ形態學的研究。【解剖誌】3,3, 昭5(1930).

5406. **喜多 豪**: 日本人輸尿管ノ局所解剖的研究ニ就テ。【日外資】7,4, 昭5(1930).

5407. **高橋明, 土屋文雄, 石津俊**: 靜脈内注射ニ依ル腎盂攝影法ノ手技並ニ「ピエログラム」ノ解釋ニ就テ。【日レントゲン會誌】9,1, 昭6(1931). [人].

5408. **山之内秀三**: レントゲン寫眞上ニ於ケル正常腎盂像ニ就テ。【皮尿誌】31,10, 昭6(1931).

5409. **劉懋淳**: 重複輸尿管ノ一例。【皮尿誌】31,7, 昭6(1931).

5410. **幸田久三**: 輸尿管ノ畸形ニ就テ。【長崎醫會誌】9,2, 昭6(1931). [人].

5411. **百瀬岸雄**: 左側重複腎盂兼完全重複輸尿管ノ一例及ビ右側重複腎盂兼不完全重複輸尿管ニ於ケル結核腎ノ一例。【皮尿誌】32,11, 昭7(1932).

5412. **市川篤二**: 重複腎盂兼重複輸尿管ノ症例追加(第二〇例)。【日泌尿會誌】21,4, 昭7(1932).

5413. **山之内秀三**: レントゲン寫眞上ニ於ケル正常輸尿管像並ニ呼吸ニヨル輸尿管屈曲ニ就テ。【皮尿誌】32,10, 昭7(1932).

5414. **波戸定吉**: 「ピエロウレテログラム」(腎盂輸尿管像)ニ現ハレタル叉狀輸尿管及ビ輸尿管屈曲ニ就テ。【日泌尿會誌】21,4,6, 昭7(1932).

5415. **高井敏道**: 腎盂ノ形態學的發生ニ就テ。【岡山醫會誌】44,11, 昭7(1932). [家兔].

5416. **宮田太喜男, 柳原英**: 「ピエログラフイー」ニ就テ。【滿洲醫誌】16, 昭7(1932). [臨床例約24].

5417. **田中宏**: 重複腎盂竝ニ不完全重複輸尿管ノ二例。【皮尿誌】33,5, 昭8(1933).

- 5418. 市川篤二: 膀胱外輸尿管異常開口治癒症例追加(右側矮小骨盤骨ノ稀有ナル症例). 【皮膚誌】34,4. 昭8(1933).
 - 5419. —: 腎盂結石ヲ合併セル重複腎盂兼不完全重複輸尿管ノ一例. 【皮膚誌】34,4. 昭8(1933).
 - 5420. 田中一男: 左側腎臟結核ヲ伴ヘル兩側重複腎盂兼兩側完全輸尿管ノ一例. 【日泌尿會誌】22,3. 昭8(1933).
 - 5421. 石橋卯吉: 重複腎盂兼重複輸尿管ノ二例. 【日泌尿會誌】22,2. 昭8(1933).
 - 5422. 土屋文雄: 輸尿管下端擴張症ヲ伴ヘル左側重複腎盂兼完全重複輸尿管ノ興味アル一例. 【日泌尿會誌】22,7. 昭8(1933).
 - 5423. 山之内秀三・レントゲン寫眞上ニ於ケル正常輸尿管ニ就テ. 【海軍醫誌】22,3. 昭8(1933). [人].
 - 5424. 北河清, 宮田太喜男: 靜脈内注射ニヨル腎盂攝影法(第一報). 【滿洲醫誌】19. 昭8(1933).
 - 5425. 廣瀬永子: 健腎「ピエログラム」ノ位置的關係ニ就テ. 【日泌尿會誌】22,4. 昭8(1933).
 - 5426. 武市利雄: 輸尿道上皮ニ於ケル「グリコゲン」ニ就テ. 【福岡醫大誌】24,12. 昭6(1931). [兎].
 - 5427. 橋本哲太郎: 輸尿管ノ微細神經纖維ニ就テ. 【皮膚誌】33,5. 昭8(1933). [人, 犬, 豚].
- 膀胱, 尿道**
- 5428. 高橋茂: 胎兒及ビ小兒膀胱位置知識上ノ追加. 【東京醫誌】539-541. 明21(1888).
 - 5429. 山本晋: 第三度下尿道破裂ノ實驗. 【北越醫會報】27-28. 明23(1890).
 - 5430. 朝倉文三: 日本男子前部尿道容量ニ就テ. 【濟生學會醫報】101. 【東京醫誌】1201. 明34(1901).
 - 5431. 井上成美: 膀胱容量ニ就テ. 【皮膚誌】11,7. 明44(1911).
 - 5432. 品川正三: 膀胱容積ニ就テ. 【軍醫圖】40. 大2(1913).
 - 5433. 竹内讓: 日本人膀胱容積ニ就テ. 【皮膚誌】16,6. 大5(1916).
 - 5434. 占部次七: 邦人膀胱容積ノ測定. 【皮膚誌】17,8. 大6(1917).
 - 5435. 佐藤仁: 尿道龜頭上裂及ビ陰莖彎曲症ノ一例. 【皮膚誌】17,10. 大6(1917).

- 5436. 戸塚隆三郎: 日本男子尿道口ノ先天性畸形, 特ニ輕度ノ尿道下破裂ニ就テ. 【皮膚誌】17,2. 大6(1917).
- 5437. —: 本邦男子尿道口ノ大キサニ就テ. 【日泌尿會誌】7,2. 【皮膚誌】18,3. 大7(1918).
- 5438. 佐藤恒祐: 尿道ニ關スル二三模型供覽. 【皮膚誌】18,7. 大7(1918).
- 5439. —: 男子ニ於ケル常態並ニ畸形外尿道口ノ統計的觀察並ニ其淋疾感染ノ關係ニ就テ(第一報). 【皮膚誌】18,6. 大7(1918).
- 5440. 竹谷實: 下裂尿道ノ一例. 【皮膚誌】18,11. 大7(1918).
- 5441. 中島明: 陰囊ニ開口セル尿道畸形ノ一例. 附: 其手術ニ就テ. 【皮膚誌】20,3. 大9(1920).
- 5442. 佐藤恒祐: 「ゼラン」氏癩及ビ癩ニ就テ. 【日泌尿會誌】9,2; 11,1. 大9-11(1920-22).
- 5443. Sato, Tunesuke: Zur morphologischen Untersuchung der männlichen Harnröhre. 【皮膚誌】21. 大10(1921).
- 5444. 佐藤恒祐: 尿道ノ腺囊異同論. 【日泌尿會誌】10,2. 大10(1921). [人].
- 5445. —: 男子尿道ニ於ケル内尿道側管ノ尿道鏡所見. 【日泌尿會誌】11,1. 大11(1922).
- 5446. —: 男子尿道外口及ビ龜頭尿道ニ於ケル先天性畸形ノ形態學的分類並ニ其成因ニ就テ. 【皮膚誌】22,3. 大11(1922).
- 5447. 井尻辰之助: 膀胱憩室ト膀胱結石ノ再發. 【日泌尿會誌】11,5. 大12(1923). [人].
- 5448. 竹内讓: 日本人ノ膀胱ノ容積ニ就テ. 【日泌尿會誌】13,4. 大13(1924).
- 5449. 北村精一: 男子尿道ノX像ニ就テ. 【泌尿誌】26,5. 大15(1926).
- 5450. 重富正人, 宮田太喜男, 梶川尙夫: 尿道ノX線撮影ニ就テ. 【滿洲醫誌】5,6. 大15-昭2(1926-27). [人].
- 5451. 木田寅治: 網狀尿道ニ就テ(會). 【北海道皮膚】2,1. 昭2(1927). [人].
- 5452. 大園正人: 先天性膀胱破裂患者手術例追加. 【 Grenzgeb.】2,10. 昭3(1928). [人].
- 5453. 榎原憲章: 膀胱憩室ニ就テ. 附: 輸尿管憩室ノ一例. 【日泌尿會誌】18,5. 昭4(1929). [膀胱鏡所見].
- 5454. 尾形一郎: 膀胱X線寫眞術(第二報). 特ニ腎臟結核症ニ就テ. 【滿洲醫誌】10. 昭4(1929).
- 5455. 河野通成: 日本人男子尿道(長, 形, 位置)ニ就テ. 【日泌尿會誌】19,7. 昭5(1930).

- 5456. 中村敏郎: 重複尿道ノ二例(會). 【日泌尿會誌】19,9. 昭5(1930). [臨床例].
- 5457. 小林長美: 「ウラヒユス」癩ノ一例. 【皮膚誌】30,4. 昭5(1930).
- 5458. 高橋明, 市川篤二: 膀胱レ線像ニ就テ. 【レントゲン會誌】8,2. 昭5(1930). [人].
- 5459. 北川正博, 能勢博之: 根治的切除術ニヨリ治癒セル眞性膀胱憩室ノ一例. 附: 眞性膀胱憩室ノ統計的觀察. 【日泌尿會誌】20,1. 昭6(1931).
- 5460. 田林綱太, 別府尙兄: 男子尿道ノX線像ニ就テ. 【皮膚誌】31,6. 昭6(1931).
- 5461. 尼ヶ崎正雄: 尿道上裂様外觀ヲ呈セル重複尿道ノ一例. 【皮膚誌】31,7. 昭6(1931).
- 5462. 井尻辰之助: 稀有ナル婦人ニ於ケル膀胱憩室結石ノ一例. 【皮膚】1,3. 昭8(1933).
- 5463. 小室秀一郎: 巨大ナル膀胱憩室ノ一例. 【北海道皮膚】8,1. 昭8(1933).
- 5464. 手島遼, 横哲夫: 高度ノ尿管開放ヲ伴ヘル先天性膀胱畸形. 【東京醫誌】2855. 昭8(1933). [人].
- 5465. 大塚宏, 小川直秀: 先天性尿道狭窄ニ就テ. 附: 尿道球部瓣膜狭窄ノ一例. 【皮膚誌】34,1. 昭8(1933).
- 5466. 志賀亮, 土田佛三郎: 男子重複尿道ノ症例増補. 【皮膚誌】34,1. 昭8(1933).
- 5467. 折茂鼎三: 精阜ノ構造ニ就テ. 【皮膚誌】11,7. 明44(1911).
- 5468. 佐藤恒祐: 内外尿道側管ノ形態及ビ組織的構造ニ就テ. 【皮膚誌】16,4. 大5(1916).
- 5469. —: 外尿道側管ノ形態及ビ組織ニ就テ. 附: 内外尿道側管ノ蠟板模型供覽. 【皮膚誌】17,6. 大6(1917).
- 5470. —: 男子尿道上皮蓋狀細胞ニ就テ. 【皮膚誌】19,2. 大8(1919).
- 5471. —: 尿道腺ニ就テ. 【皮膚誌】20,8. 大9(1920).
- 5472. —: 男子尿道ニ於ケル尿道腺及ビ尿道囊ノ組織學的及ビ形態學的知見. 【日泌尿會誌】10,6. 大11(1922).
- 5473. —: 男子尿道粘膜上皮ニ於ケル所謂上皮内腺ヲ論ジテ上皮内空胞ノ發生原因ニ及ブ. 【日泌尿會誌】10,5. 大11(1922).
- 5474. 渡邊一郎: 膀胱粘膜ニ於ケル上皮性形造物ノ形態及ビ其ノ意義ニ就テ. 【成醫會】45. 大15(1926). [人].

- 5475. 田上初雄: 蓋膀胱ノ神經節分布ニ就テ. 【十全會誌】33,11. 昭3(1928).
- 5476. 藤谷彌三郎: 膀胱ノ神經支配ニ就テ. 【日泌尿會誌】18,8. 昭4(1929). [家兔].
- 5477. 有本廉: 膀胱神經分布ニ關スル組織學的研究. 【日病理會誌】19. 昭4(1929). [鰻, マウス, ラット, 家兔, 猪, 犬, 海狸].
- 5478. 鈴木正孝: 膀胱粘膜下ニ於ケル腺組織ニ就テ. 【皮膚誌】29,9. 昭4(1929). [人].
- 5479. —: 人胎兒膀胱ノ組織學的構造ニ就テ. 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).
- 5480. 菊池武雄: 日本人男子ノ尿道副腺ニ關スル研究. 【日病理會誌】21. 昭6(1931).
- 5481. 宇津木 熈: 各種動物雄性尿道ノ組織學的構造ノ比較研究ニ就テ. 【成醫會】51. 昭7(1932).
- 5482. 鈴木正孝: 膀胱粘膜ニ於ケル腺ニ就テ. 【解剖誌】6,1. 昭8(1933). [人].
- 5483. 北村彦彦: 膀胱知覺神經ノ研究(第一報). 家兔ノ膀胱粘膜ニ於ケル知覺神經終末ニ就テ. 【日泌尿會誌】22,4. 昭8(1933).

**生殖器
生殖器一般**

- 5484. 岩川友太郎: 蝦生殖器ノ件. 【大日本産報】67. 明20(1887).
- 5485. 池田作次郎: 蠶蛾ノ生殖器. 【動物誌】4,46. 明25(1892).
- 5486. 大澤岳太郎: 外陰部ノ發生. 【産科誌】1,5. 明32(1899).
- 5487. Ikeda, Iwaji (池田岩治): On the development of the sexual organs and their products in Phoronis. 【Annot. zool. jap.】4,5. 明34-36(1901-03).
- 5488. 町井貞敏: 生殖腺ニ於ケル「グリコゲン」生成ニ就テ. 【中央醫事】46. 明44(1911).
- 5489. 寺尾新: 「アママツムシ」(Madasumma hibinonis)ノ誘惑腺ノ構造ニ就テ. 【動物誌】34,401. 大11(1922).
- 5490. 生田信保: 生殖腺別出後ノ齒牙發育ノ變化. 【朝鮮醫會誌】54. 大14(1925). [家兔].
- 5491. 増井清, 橋本重郎, 大野勇: 雄雞ニ於ケル退化交尾器官並ニ初生雌ノ雌雄ノ鑑別ニ就テ. 【日本畜産學會報】1,3. 大14(1925).
- 5492. 高橋信美: 生殖腺ノ研究(1, 2). 【野公論】716-717. 大15(1926). [犬, モルモット, 白鼠, 二十日鼠].

5493. —: 生殖腺ノ研究. 【日醫週報】1590, 1591, 1596. 大15(1926). [魚類, 兩棲類, 犬, 白鼠, モルモット].

5494. 田村眞男. 生殖器=分布スル神經ノ組織學的研究. 【日病理會誌】15. 大15(1926). [人].

5495. 藤田經信: 鈎頭蟲類ノ生殖器. 【日學會報告】3. 昭2(1927).

5496. Matsumoto, Seiji: Experimentelle Untersuchungen über die Veränderungen der weiblichen Geschlechtsdrüsen bei Hyperthyreoidismus. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 2,1. 昭2(1927). [Ratte].

5497. Togari, Chikataro: On the appearance of glycogen in the female reproductive glands of Rodents of special reference to their histology. [Fol. anat. jap.] 5,6. 昭2(1927). [Rabbit, mouse, rat, Guinea-pig].

5498. 越田徳次郎: 蛙ト鱒ノ雌雄生殖器. 【水産誌】6,4. 明44(1928).

5499. Nakano, Osamu: Über die Verteilung des Glykogens bei den zyklischen Veränderungen in den Geschlechtsorganen der Fledermaus. Und über die Nahrungsaufnahme der Spermien in dem weiblichen Geschlechtswege. [Fol. anat. jap.] 6,6. 昭3(1928). [Vespertilio abramus].

5500. 高島律三: 邦産金線蛙及ヒメコノ生殖器ノ「パラフィン」化標本供覧. 【解剖誌】3,3. 昭5(1930).

5501. Tanaka, Hideo (田中英雄): Remark on the viviparous character of Coeloplana. [Annot. zool. jap.] 13,4. 昭5-7(1930-32). [ワラゲムシノ卵巣及ヒメコノ構造].

5502. 熊本太久磨: クレーニヒ氏手術ノ實驗的研究. 第一編: 組織學的研究. 【近世婦誌】14,4. 昭6(1931). [家兔. 動脈結紮=ヨル生殖器ノ組織學的變化].

5503. 橋本重郎: 家鳩=於ケル生殖隆起(Phallus)ノ原始(Anlage)=就テ. 並ニ鷺鷥及ヒメコノ生殖隆起(Phallus)ノ比較. 【日畜會報】5,1. 昭6(1931).

5504. —: 鷺ノ交尾器特ニ雌鷺=於ケル生殖隆起(Phallus)ノ痕跡(Rudiment)=就テ【日畜會報】5,1. 昭6(1931).

5505. 市川厚一: 銅蟲ノ繁殖=就テ. 【日學會報告】7,2. 昭7(1932). [生殖管及ヒメコノ構造アリ].

5506. 増井清, 伊藤純之: 初生雌(白色)レグホーン種ノ生殖突起ノ形態並ニ統計的研究.

特ニ初生雌雄鑑別=就テノ考察. 【日畜會報】5,4. 昭6(1931).

5507. —, —: 鷺=於ケル生殖突起ノ形態並ニ統計的研究(會). 【中央獸醫誌】45,8. 昭7(1932).

5508. 宮坂大雄: レ線ノ生殖器=對スル組織化學的作用=就テ. 【日レントゲン會誌】10,1,5,6. 昭7-8(1932-33). [モルモット].

5509. 芳賀武雄: 生殖器ガ卵巣移植ニ及ボス影響. 【東北醫誌】15. 昭8(1933). [家兔].

5510. 橋本重郎, 本岡豊: 雄鷺ノ退化交尾器=於ケル神經分布並ニ雌鷺ノ生殖隆起ノ痕跡トノ比較. 【日畜會報】6,3. 昭8(1933).

5511. 瀬沼秀夫, 雨宮育作: 時季ニ依ル「マガキ」生殖巣ノ成熟變化(概報). 【水産學會報】5,4. 昭8(1933).

5512. 三上正夫: 内分泌腺ノ代償性肥大ニ關スル實驗的研究. 併セテ内分泌腺部分別出ノ他内分泌腺組織ニ及ボス影響=就テ. 第三報: 幼若家兔=於ケル一側生殖器別出實驗. 【朝鮮醫會誌】23,3. 昭8(1933).

副生殖腺, ビツダー氏器

5513. 大澤岳太郎: 副生殖腺=就テ. 【東京醫誌】1767. 大1(1912). [人].

5514. —: 副生殖腺=就テ. 【日泌尿會誌】1,1. 大2(1912). [人, 兔, 鳥, 魚, 蛙, 蛇, 蛙, イモリ, 鱉].

5515. 高橋信美: ビツダー氏器官=就テ. 【第四回日醫會誌】大4(1915). [蝦蟇].

5516. 大澤岳太郎: 有尾兩棲動物ノ肛門ヲ論ジテ脊椎動物ノ副生殖腺ニ及ブ. 【東京醫誌】2062. 大7(1918).

5517. 竹屋男綱, 田口正素: ビツダー氏器官=就テ. 【熊本醫會誌】1,3. 大14(1925). [蛤蜊].

5518. 寺尾新, 陳椿壽: 「フナムシ」(漢名海蛆)ノ生殖腺原基=就テ. 【水産講義報告】21, 4. 大15(1926).

5519. 田中隆一: 金線蛙ノ脂肪體ニ關スル研究. 【北越醫會誌】42,2. 昭2(1927).

5520. 高島律三: 國産蟾蜍=於ケルビツダー氏器官=就テ. 【東北醫誌】10. 昭2(1927).

5521. —: 再ビ國産蟾蜍=於ケルビツダー氏器官=就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).

5522. —: ビツダー氏器官ノ發生=就テ. 【解剖誌】2,2. 昭4(1929). [蛤蜊].

5523. 丸山正: 邦人胎兒外生殖器ノ形態ニ關スル發生學的研究. 附: 肛門隆起=就テ.

【解剖誌】2,2. 昭4(1929).

5524. 武市利雄: 家兔ノ副生殖腺=於ケル粘液細胞=就テ. 【九大醫報】3,5. 昭4(1929).

5525. 丸山正: 人胎兒外生殖器及ビ其附近組織ノ發生ニ關スル形態學的研究並ニ二三組織學的知見補遺. 【解剖誌】3,7. 昭5(1930).

5526. 武市利雄: 副生殖腺=於ケル「グリコゲン」ノ分布=就テ. 【九大醫報】4,4. 昭5(1930).

5527. —: 家兔副生殖腺上皮ノ「ミトコンドリア」=就テ. 【東京醫誌】2706. 昭5(1930).

5528. —: 副生殖腺上皮ノ研究(其一). 【皮膚誌】30,6. 昭5(1930). [海狸, 家兔].

5529. —: 副生殖腺上皮細胞=於ケル細胞學的研究(其二). 【皮膚誌】31,6. 昭6(1931). [家兔].

5530. —: 副生殖腺上皮ノ細胞學的研究. 【福岡醫大誌】24,11. 昭6(1931). [兔].

5531. —: 副生殖腺上皮細胞=於ケルゴルヂー氏裝置=就テ(第一報). 【東京醫誌】2713. 昭6(1931). [家兔].

5532. —: 副生殖腺上皮細胞=於ケルゴルヂー氏裝置=就テ(第二報). 【九大醫報】5,1. 昭6(1931).

5533. —: 副生殖腺上皮細胞=於ケル脂肪及類脂肪=就テ. 【九大醫報】5,2-3. 昭6(1931).

5534. 高島律三: ビツダー氏器官ノ機能ニ關スル實驗. 【解剖誌】5,7. 昭7(1932). [蛤蜊].

5535. —: 兩棲類脂肪體ノ發生ニ關スル知見補遺. 【解剖誌】4,12. 昭7(1932).

5536. —: Bidder氏器官ノ破格二例. 【解剖誌】5,3. 昭7(1932). [蛤蜊].

5537. Takashima, Ritsuzo: Untersuchungen über das Biddersche Organ. I. Über das Biddersche Organ bei den japanischen Kröten. [Fol. anat. jap.] 10,3. 昭7(1932).

5538. —: Untersuchungen über das Biddersche Organ. II. Über die Entwicklung des Bidderschen Organs bei unseren einheimischen Kröten. [Fol. anat. jap.] 10,3. 昭7(1932).

5539. 海野仁造: 鳥類ノ Müller氏管ノ發生ニ關スル研究(其一). 【岡山醫會誌】44,4. 昭7(1932). [家鳩].

5540. 海野仁造, 富岡諒一: 鳥類ノ Müller氏管ノ發生ニ關スル研究(其二). 【岡山醫會誌】44,8. 昭7(1932). [家鳩].

5541. 久富義雄: 生殖腺閉鎖症ノ一例. 【九大

醫報】6,1. 昭7(1932).

5542. 高島律三, 大西 要: 朝鮮産 Hynobius =於ケル生殖腺並ニ脂肪體ノ發生=就テ. 【解剖誌】5,8. 昭7(1932).

半陰陽

5543. 山崎桂策: 男子陰具ノ變形(半陰陽). 【東京醫誌】417. 明12(1879).

5544. 細谷康司: 男女兩性ヲ具シタル小兒畸形ノ概略. 【東京醫誌】170. 明14(1881).

5545. 谷口謙: 半陰陽. 【中外醫事報】140. 明19(1886).

5546. 足立慶三郎: 男女兩性兒 Zwitter 實驗. 【東京醫誌】624. 明23(1890).

5547. 山崎秋津麿: 半陰陽ノ一般ヲ論ジ併セテ其裁判醫學的關係ニ及ブ. 【金澤醫會誌】2, 6-7. 明23(1890). [人].

5548. 田中義雄: 半陰陽ノ實驗. 【順天堂醫誌】194. 明27(1894). [人].

5549. 高口保太郎: 女性假陰陽體ノ實驗. 【產科誌】2,13. 明33(1900).

5550. 矢田耕造: 半陰陽ノ一實驗. 【醫新聞】723. 明39(1906). [人].

5551. 石橋四郎: 外男性假性半陰陽ノ一例=就テ. 【軍醫報】29. 明45(1912).

5552. 丸田美登: 假性半陰陽ノ一例. 【廣西醫報】148. 大2(1913). [人].

5553. 齋藤 一: 女性假性半陰陽ノ二例. 【山田誌】19. 大3(1914).

5554. 秋元洗二: 半陰陽ノ實驗. 【產婆誌】163-164. 大3(1914).

5555. 木村須吉: 男女兩性具有者=於ケル二三ノ點=就テ. 【東京醫誌】1904. 大5(1916).

5556. 坂口勇: 半陰陽ノ數例並ニ其一ニ發生セル乳癌=就テ. 【日泌尿會誌】5,2. 大5(1916). [人].

5557. 土居運篤: 男性半陰陽ノ一例. 【研瑛誌】138. 大7(1918).

5558. 多田羅正俊, 西 業求: 假性半陰陽ノ鑑定=就テ. 【國家醫會誌】403. 大9(1920). [人].

5559. 安藤守元: 半陰陽者ノ三例. 【東京醫誌】2187. 大9(1921).

5560. 廣瀬常雄: 興味アル假性男性半陰陽ノ一例. 【皮膚誌】22,8. 大11(1922).

5561. 前田安之助: 眞性半陰陽=就テ. 【皮膚誌】23,8. 大12(1923).

5562. 久慈直太郎, 三矢義士: 半陰陽ノ一例.

- 【十全會誌】29,12. 大13(1924).
- 5563. 荻川正男, 北川正博: 眞性半陰陽ノ一例. 【日泌尿會誌】15,4. 大15(1926).
- 5564. 諸岡幸三郎: 女性假性半陰陽ノ一例. 【醫公論】74,1. 大15(1926).
- 5565. 高島克己: 半陰陽體ノ一例. 【醫公論】44,8. 大15(1926).
- 5566. —: 半陰陽體ノ一例. 附: 特殊腫瘍ノ形成. 【千葉醫會誌】5,1. 昭2(1927).
- 5567. 久保山高敏: 男性假性半陰陽ノ一例. 【皮膚誌】28,1. 昭3(1928).
- 5568. 鈴木時之助: 男性假性半陰陽ノ一例. 【皮膚誌】28,2. 昭3(1928).
- 5569. 小俣武: 男性外陰假性半陰陽ノ一例. 【東京醫誌】2577. 昭3(1928).
- 5570. Oiye, T.: On the Cases of Pseudohermaphroditismus masculinus internus. 【Mitt. allg. Pathol. etc.】4,2. 昭3(1928).
- 5571. 林田政幸: 男性内外假性半陰陽ノ一例. 【九大醫報】4,4. 昭5(1930).
- 5572. Amemiya, Ikusaku(雨宮育作): On the sexual dimorphism exhibited in Rigor Mortis in a fish, *Hypomesus olidus* (Pallas). 【Jap. J. of Zool.】3. 昭5-6(1930-31).
- 5573. 尾關彌一郎: 男性外陰部假性半陰陽ノ一例. 【日泌尿會誌】20,6. 昭6(1931).
- 5574. 小坂政一: 假性半陰陽ノ一例. 【犯罪學】6,1. 昭7(1932).
- 5575. 山田憲吉: 男性假性半陰陽. 【近畿婦誌】15,1. 昭7(1932).
- 5576. 山本欽三郎: 半陰陽ノ症例. 追加: 夜尿症ヲ主訴トセル外陰男性假性半陰陽ノ一例. 【日泌尿會誌】21,11. 昭7(1932).

男性生殖器一般

- 5577. 長谷川元真: 男性生殖器兼泌尿器先天變生病按. 【東京醫誌】16. 明10(1877).
- 5578. 桐澤金重: 精子輸送路ノ脂肪ニ就テ(第一報). 【北越醫會誌】40,6. 大14(1925). [人].
- 5579. 伊藤斯郎, 安達與五郎: 男性生殖腺脱落ニ因ル外的性徴時ニ陰莖ノ變化ニ就テ. 【皮膚紀要】5,3. 大14(1925). [家兎].
- 5580. 藤田宗一: 男性附屬生殖腺ノ内分泌學的考察. 【醫公論】70,8. 大15(1926). [白鼠, モルモット].
- 5581. 齋藤文雄: 本邦小兒睪丸並ビニ陰莖測定成績. 【兒科誌】33,1. 昭2(1927).

- 5582. Tamura, Sanao: A contribution to the histological study of the nerve fibres in the male genital organs. 【皮膚紀要】11,5. 昭3(1928). [Pigeon, tortoise, rat, cat, rabbit, man].
- 5583. 工藤久之: 男性生殖器ノレントゲン的研究ニ就テ. 【醫新聞】1240. 昭3(1928).
- 5584. 宮田太喜男, 柳原英: X線ニヨル輸精管並ビニ精囊腔撮影法. 【滿洲醫誌】14. 昭4(1929).
- 5585. 武市利雄: 男性副生殖腺ニ於ケル粘液細胞ノ所在. 【解剖誌】3,3. 昭5(1930). [家兎, 猿, 猫, 海狸].
- 5586. 山口英二: 蚯蚓ノ一種 *Pheretima hilgendorfi*, *Michaelsen* ノ雄性生殖孔ノ正常位置ト, 其ノ位置及ビ數ニ關スル異變ニ就テ. 【動物誌】43,511. 昭6(1931).

精子, 精液

- 5587. 増井清: 馬ノ精子ノ生成, 特ニ「アクセソリ」染色體及ビ性ノ決定説ニツイテ. 【中央獸醫誌】30,5. 大6(1917).
- 5588. 山根甚信: 馬匹精液内ニ於ケル精蟲ノ數量及ビ其授精能力ノ關係. 【中央獸醫誌】32,3. 大8(1919).
- 5589. 増井清: 家畜ニ於ケル精蟲發育ノ研究. 第二: 牛ノ精蟲ノ發育特ニ精原細胞ノ無絲分裂並ニ染色體ノ接合及ビ減數ニ就テ. 【中央獸醫誌】32,1. 大8(1919).
- 5590. 芝田清吾, 藤井重直: 輸精管内ニ於ケル家兎精子ノ授精能力. 【中央獸醫誌】40,4. 昭2(1927).
- 5591. 草薙虎雄: 家兎ノ輸卵管内ニ於ケル精蟲ノ生存日數. 【日畜會報】2. 昭2(1927).
- 5592. 加藤浩: 家兎精蟲生活最適水素「イオン」濃度並ニ保存精液授精試驗. 【中央獸醫誌】40,4. 昭2(1927).

睪丸, 副睪

- 5593. 長谷部言人: 人ノ睪丸白膜及ビ眼窩膜ノ裂向ニ就テ. 【東北醫誌】1,2. 大5(1916).
- 5594. 中野等: 「ポリオルヒデー」(多發睪丸)ノ一例. 【皮膚誌】19,1. 大8(1919).
- 5595. 門田治郎: 杓蠶ノ睪丸ニ就テ. 【動物誌】33,390. 大10(1921).
- 5596. 福井信立: 體温ノ睪丸ニ及ボス影響. 【海軍醫誌】40. 大12(1923).
- 5597. 土肥章司: 停滯睪丸ト多睪丸. 【十全會

- 誌】28,4. 大12(1923). [人].
- 5598. —: 前例會ノ「停滯睪丸ト多睪丸」ニ對スル追加訂正. 【十全會誌】28,8. 大12(1923).
- 5599. Fukui, N.: On a hitherto unknown action of heat ray on testicles. 【Jap. med. World】3,2. 大12(1923). [Rabbit].
- 5600. 奈瓦米吉: 睪丸重複(第三睪丸出現)例ニ就テ. 【醫新聞】1147. 大13(1924). [人].
- 5601. 高島令三: 睪丸横變位ノ一例ニ就テ. 【實驗醫報】11,122. 大13(1924). [人].
- 5602. 佐山作次郎: 幼駒睪丸ノ統計的觀察並ビニ隱睪ニ對スル所見. 【陸軍獸醫報】209. 大15(1926).
- 5603. 岩崎衛二: 睪丸轉位一奇例知見追加. 【日鐵道醫會誌】12,9. 大15(1926).
- 5604. 大家武夫: 日本人睪丸ニ關スル研究. 【日病理會誌】15. 大15(1926).
- 5605. 長谷川宗憲: 副睪丸ノ一異型. 【皮膚誌】27,11. 昭2(1927).
- 5606. 三村一: 鶏ニ於ケル睪丸ノ發育ニ就テ. 【中央獸醫誌】40,4. 昭2(1927).
- 5607. 長谷川誠: 日本人ニ於ケル睪丸及ビ副睪丸ノ附屬物ニ就テ(會). 【東北醫誌】10. 昭2(1927).
- 5608. 田中清次: 多睪丸症例. 【皮膚誌】28,4. 昭3(1928). [人].
- 5609. Oyama, Junji: Anadidymous and katedidymous embryos of *Hynobius nebulosus* (Schlegel). 【Fol. anat. jap.】6,3. 昭3(1928).
- 5610. 三村一: 鶏ニ於ケル左右睪丸ノ發育不均衡ニ就テ. 【日畜會報】3,1. 昭3(1928).
- 5611. 田中隆一: 正常及ビ病の狀態ニ於ケル睪丸ノ形態學的研究. 【新潟病報】4. 昭3(1928). [人, 馬, 家兎, 鼠, 海狸, 蝙蝠, 犬, 猫, 猿, 蛇, 蛙等].
- 5612. 神田五郎, 森優: 日本人ノ睪丸並ビニ副睪丸ノ重量及ビ容積ニ就テ. 【醫研究】3,1. 昭4(1929).
- 5613. 長谷川誠: 日本人ニ於ケル睪丸及ビ副睪丸附屬物ニ就テ. 【解剖誌】1,4. 昭4(1929).
- 5614. 高木朋茂: 「マウス」睪丸ノ生後發育ニ就テ(會). 【解剖誌】1,1. 昭3(1928).
- 5615. 蓮見四郎: 哺乳動物ノ睪丸並ビニ副睪丸ノ血管系ノ解剖學的研究. 【醫研究】3,9. 昭4(1929).
- 5616. Hasumi, Shiro: Anatomische Untersuchungen über die Blutgefäße der Hoden und Nebenhoden von verschiedenen Säugetieren. 【Jap. J. of med. Sci. I. Anat.】2,2. 昭5(1930).

- 5617. 齋藤幹: 停止睪丸ノ一例. 【日醫大誌】2,8. 昭6(1931). [人].
- 5618. 江里口春志: 稀有ナル睪丸畸型ノ一例. 【皮膚誌】31,2. 昭6(1931).
- 5619. —: 睪丸横變位(*Dystopia testis transversa*)ニ就テ. 【日泌尿會誌】20,3. 昭6(1931).
- 5620. 千葉喜一郎: 馬ノ左右睪丸重量ノ統計的觀察. 【中央獸醫誌】44,4. 昭6(1931).
- 5621. 牧野佐二郎: 「エゾアカガヘル」ニ見出サレタ精巢異常ノ一例. 【札幌博會報】11,4. 昭6(1931).
- 5622. Uchida, Tohru(内田享): Testis grafts in a frog and their relation to sexuality. 【J. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. VI. Zool.】2,3. 昭8(1933).
- 5623. —: 蛙ノ睪丸移植實驗. 【動物誌】45, 532-3. 昭8(1933). [エゾアカガヘル].
- 5624. 大澤岳太郎: 老人ノ睪丸ニ於ケル組織變化. 【東京醫會誌】8,2. 明27(1894).
- 5625. 肥田七郎: レントゲン線ノ家兎及ビ雄鶏ノ睪丸ニ及ボス影響ニ就テ. 【日泌尿會誌】1,1. 大1(1912).
- 5626. 谷村忠雄: 電ノ副睪丸ノ組織學的検査. 【皮膚誌】22,6. 大11(1922).
- 5627. 森田淳一: 金線蛙精蟲營養細胞ノ細胞學的研究. 【動物誌】34,401. 大11(1922).
- 5628. Fukui, N.: Action of body temperature on the testicle. 【Jap. med. World】3,7. 大12(1923). [Rabbit].
- 5629. 北原義尊: 人類及ビ哺乳動物ノ生殖腺間細胞ノ發生並ビニ其ノ生理的意義ニ就テ. 【福岡醫大誌】17,7. 大13(1924).
- 5630. 椎名順二: 白鼠睪丸小管内巨大細胞ノ出現ニ關スル實驗的研究. 【北海道醫誌】2,5. 大14(1925).
- 5631. 鈴木清: 精細管内ニ出現スル巨態細胞ニ就テ(標本供覽). 【北越醫會誌】39,1. 大13(1924). [ナマズ, 蝶鮒, 蛙, スッポン, 家鴨, 家雞, 白鼠, 犬, 猿, 人].
- 5632. 土屋直義: セルトリー氏細胞核ニ就テ. 【福岡醫大誌】18,3. 大14(1925).
- 5633. 高木朋茂: 睪丸細精管内多核巨態細胞ニ就テ. 【愛知醫會誌】32,6. 大14(1925). [マウス].
- 5634. 萩原真一郎: 睪丸組織内ニ發現スル多

核巨態細胞 = 就テ. 【成醫會】 44. 大14(1925). (人).

5635. 大家武夫: 日本人睪丸ノ組織學的及ヒ統計學的研究. 其一: 發育ニ關スル研究. 其二: 間細胞ニ就テ. 【日外會誌】 26. 大14-15(1925-26).

5636. 佐々木猛次: 人胎兒睪丸ノ組織學的研究. 【十全會誌】 32, 10. 昭2(1927).

5637. 野澤廣行: 大黒鼠ノ一側睪丸細胞成分ノ他側睪丸ニ及ボス影響ニ就テ. 【實驗醫誌】 11, 10. 昭2(1927).

5638. 池崎生喜: 「スベルミオファギー」ニ就テ. 【産婦醫學】 7, 9. 昭2(1927). (人, 家兔, 白鼠).

5639. 佐々木猛次: 病態睪丸ノ格子狀纖維ニ就テ. 【十全會誌】 33, 10. 昭3(1928). (人).

5640. 山田尚允: 豚胎兒睪丸發育ノ組織學的研究. 豚胎兒睪丸ノ解剖學的發展變化ニ就テ. 【成醫會】 47. 昭3(1928).

5641. Tamura, Sanao: A contribution to the histological study of the nerve fibres in the male genital organs. (A supplementary section). An experimental study of the nerve fibres in the pigeon testicle and epididymis. 【皮膚紀要】 12, 2. 昭3(1928).

5642. 野澤廣行: 非經口ニ注入セル睪丸細胞成分ノ睪丸ニ及ボス影響ニ就テ. 【實驗醫誌】 12, 2. 昭3(1928). (大黒鼠).

5643. Oiye, T.: Statistische und histologische Hodenstudien. 【Mitt. allg. Pathol. etc.】 4, 3. 昭3(1928). (人).

5644. 梶本信明: 副睪丸ニ於ケルゴルヂー氏内網狀裝置(會). 【解剖誌】 1, 1. 昭3(1928). (ラツテ).

5645. 小川俊毅: 扁平細胞性細精管固有膜ニ就テ. 【解剖誌】 2, 2. 昭4(1929).

5646. 三井田 積: 陰囊ノ睪丸固有膜(Tunica vaginalis propria testis)ノ被蓋細胞層ノ窓孔ニ就テ. 【長崎醫會誌】 7, 5. 昭4(1929). (犬, 豚, 豚).

5647. 大澤竹治郎, 石黒秀雄: 睪丸及ヒ副睪丸組織ノ銀反應. 【解剖誌】 3, 3. 昭5(1930). (馬, ラツテ).

5648. 小川俊毅: 睪丸間組織ニ關スル組織學的研究. 【解剖誌】 3, 1. 昭5(1930). (人, 犬, 豚, 白鼠, 馬, 牛, 豚, 家兔).

5649. 水口半吉: 實驗的潜伏睪丸ノ研究. 其一: 實驗的潜伏睪丸ニ於ケル諸内分泌腺器ノ組織學的變化. 【日內分泌誌】 8, 4. 昭7(1932). (家兔).

5650. 山代義雄: 睪丸, 副睪丸間ニ存スル特殊腺細胞群ニ就テ. 特ニソノ種屬的並ビニ發生學的研究. 【北越醫會誌】 48, 11. 昭8(1933). (海鼠, マウス, ラツテ, 家鼠, 豚, 家兔, 鳩, 人).

5651. 内藤永二: 精系淋巴管結紮ノ睪丸及ヒ副睪丸ニ及ボス影響ニ就テ. 【日外實】 10, 4. 昭8(1933). (家兔).

5652. 笹木武雄: 諸種溶液ニ對スル睪丸ノ態度. 【皮膚誌】 34, 1. 昭8(1933). (家兔).

5653. 山代義雄: 睪丸細精管並ビニ精路管腔内巨態細胞ニ就テノ一實驗的研究(1-6). 【北越醫會誌】 48, 12. 昭8(1933). (家兔, 犬).

5654. ——: 寒冷睪丸並ビニ熱睪丸ノ組織學的變化ニ就テ. 【北越醫會誌】 48, 13. 昭8(1933). (家兔).

精管, 精囊, 前列腺

5655. 中島一可: 攝護腺論. 【東京醫誌】 454-455. 明19(1886). (人).

5656. 阿久津三郎: 精囊ノ組織學的補遺. 附: 脂肪色素ニ就テノ觀察. 【順天堂醫誌】 357-358. 明35(1902). (人).

5657. ——: 精囊ノ組織併テ脂肪色素ニ對スル注意. 【醫新聞】 621. 明35(1902). (人).

5658. ——: 「モルモット」ニ於ケル精囊ノ神經分布ノ知見補遺. 【順天堂醫誌】 370. 明36(1903).

5659. 高木 繁: 攝護腺ノ組織學的及ヒ病理學的知見増補. 【福四醫大誌】 4, 3. 明13-14(1910-1911).

5660. ——: 攝護腺ノ大キサト重量. 【皮膚誌】 11, 4. 明44(1911).

5661. 保田收藏: 迷走性攝護腺ノ一例. 【福四醫大誌】 5, 2. 明44-45(1911-12).

5662. 高木 繁: 所謂副攝護腺(sog. accessori-sche Prostata)ニ就テ. 【福四醫大誌】 7, 5. 大2-3(1913-14). (人).

5663. 石原正次: 攝護腺ノ生理的老年性變化ニ就テ. 【皮膚誌】 15, 7. 大4(1915).

5664. 久留春三: 輸精管移植ノ一例. 【日泌尿會誌】 4, 1. 大4(1915). (人).

5665. 石原正次: 攝護腺萎縮症ニ就テ. (老人攝護腺ノ組織學的研究). 【日泌尿會誌】 4, 1. 大4(1915).

5666. ——: 攝護腺萎縮ニ就テ. 諸種狀況下ニ於ケル退縮機構. 特ニ注意シテナセル老人攝護腺ノ組織學的研究. 【日泌尿會誌】 5, 1. 大5(1916).

5667. ——: 攝護腺腺胞ノ類脂肪色素ニ就テ. 附: 射精管及ヒ攝護腺筋質ノ色素. 【日泌尿會誌】 5, 3. 大5(1916). (人).

5668. 羽太銳治: 日本人攝護腺ノ大サト重量トニ就テ. 【日泌尿會誌】 6, 3. 大6(1917).

5669. ——: 日本人ノ精囊ノ大小及ヒ重量ニ就テ. 【日泌尿會誌】 6, 1. 大6(1917).

5670. ——: 精囊ノ年齢的變化ニ就テ. 【順天堂醫誌】 541. 大7(1918). (人).

5671. 山岸夏治: 輸精管上皮ノ化生ニ就テ. 【日泌尿會誌】 14, 1. 大14(1925). (人).

5672. 桐澤金重: 攝護腺囊脂肪ノ新知見ニ就テ. 【日病理會誌】 16. 大15(1926). (人).

5673. 深瀬信之: 攝護腺ノ分泌ニ就テ. 附: 澱粉樣體ノ成立ニ就テ. 【十全會誌】 31, 3. 大15(1926). (人).

5674. ——: 攝護腺ニ於ケル色素ニ就テ. 【十全會誌】 31, 10. 大15(1926). (人).

5675. ——: 攝護腺ニ於ケル扁平上皮細胞. 【十全會誌】 31, 10. 大15(1926). (人).

5676. 五島匡一: 精囊及ヒ輸精管遊腹ノ形態ニ就テ. 【皮膚誌】 30, 6. 昭5(1930).

5677. 馬場武夫: 天竺鼠ノ精囊ノ攝護腺並ビニ輸精管ノ神經支配知見補遺. 【福四醫大誌】 43, 497. 昭6(1931).

5678. 五島匡一: 精囊及ヒ輸精管遊腹ノ形態研究並ビニ射精管ノ開口位置ニ就テ. 【福四醫大誌】 25, 4. 昭7(1932). (人).

5679. 橋本哲太郎: 輸精管微細神經纖維ニ就テ. 【皮膚誌】 34, 5. 昭8(1933). (犬).

5680. ——: 泌尿生殖器系統ニ於ケル神經纖維ニ就テ. 其二: 攝護腺ニ於ケル神經纖維. 【解剖誌】 6, 2. 昭8(1933). (人).

5681. ——: 人體攝護腺ニ於ケル微細神經纖維組織學的所見. 【皮膚誌】 33, 3. 昭8(1933).

陰莖, 陰囊, 包皮

5682. 足立文太郎: 本邦人陰莖ノ包皮ニ就テ. 【人類誌】 14, 161. 明32(1899).

5683. 岡村龍彦: 陰莖異常ノ一例. 【皮膚誌】 4, 1. 明37(1904).

5684. 田中達三: 海綿體動靜脈ノ直接吻合及ヒ神經トノ關係. 【醫新聞】 793. 明42(1909). (人).

5685. 野口政秀: 先天性巨大陰莖ノ一例ニ就テ. 【福四醫大誌】 3, 3. 明42-43(1909-10).

5686. 渡邊 晋: 龜頭冠乳嘴體ニ就テ. 【皮膚誌】 11, 1. 明44(1911).

5687. 佐藤恒祐: 陰莖縫隙管ノ模型供覽. 【皮膚誌】 18, 10. 大7(1918).

5688. ——: 包皮管ノ一例. 【皮膚誌】 18, 10. 大7(1918).

5689. 永松武夫: 陰囊ノ汗腺ニ就テ. 【京都醫誌】 16, 2. 大8(1906). (人).

5690. 平島今朝義: 日本人ノ陰莖ト包皮トノ關係ニ就テ. 【北越醫會誌】 35, 3. 大9(1920).

5691. 佐藤恒祐: 男子外陰部副管ノ發生部位ニ就テ. 【皮膚誌】 21, 6. 大10(1921).

5692. 吉田七郎: 所謂陰莖骨ニ就テ. 【千葉醫會誌】 4, 1. 大15(1926). (人).

5693. 本間富之助: 所謂陰莖骨形成ニ就テ. 附: 整形性陰莖硬結ノ三例. 【福四醫大誌】 19, 4. 大15(1926).

5694. 三宅 乾: 陰莖背側管ニ就テ. 【日泌尿會誌】 15, 3. 大15(1926). (人).

5695. 木村 博: 重複陰莖ト其合併症(單純鎖肛, 二腔心, 脾臟缺如等)ニ就テ. 【日泌尿會誌】 19, 4. 昭5(1930). (初生兒).

5696. 中島榮太郎: 陰莖ノ形態學的研究. 【軍醫學】 225. 昭7(1932). (人).

5697. ——: 陰莖ノ形態學ニ關スル二三ノ研究. 【日醫大誌】 4, 8-9. 昭8(1933). (人).

女性生殖器一般

5698. 木村 久: 生殖器不具ノ一奇婦. 【東京醫誌】 127. 明13(1880).

5699. 佐藤恒久: 女子生殖器發育異常ノ一奇症ニ就テ. 【東京醫誌】 799. 明26(1893).

5700. 足立文太郎: 發生異常ト生殖器發育不全. 【中外醫事報】 463. 明32(1899).

5701. 稻葉長治: 先天性女子生殖器畸形三實験報告. 【東京醫誌】 1195-1196. 明34(1901).

5702. 渡邊貞佳: 先天性女子生殖器畸形症ノ一例. 【北海醫報】 3, 4-5. 明36(1903).

5703. 有馬才三: 不妊症ノ原因トナルベキ生殖器ノ發育異常. 【産科誌】 6, 5. 明37(1904).

5704. 緒方十右衛門: 胎生期ヨリ春期發動期ニ至ル間ノ女子生殖器ノ發育ニ就テ. 【兒科誌】 140. 明45(1912).

5705. 吉原 敬: 家兔, 犬及ヒ猫ノ牝性内生殖器ニ子宮及ヒ輸卵管膜ノ神經. 【日婦會誌】 25, 8. 大5(1916). (家兔, 犬, 猫).

5706. 村尾信逸: 雌性生殖器ニ於ケル脂肪問題補遺. 【日病理會誌】 12. 大11(1922). (家兔).

5707. ——: 卵巣並ビニ子宮ニ於ケル脂肪問

題。第二報：人體組織ニ就テノ研究。【近畿婦誌】5,11.大11(1922)。(人)。

5708. 吉川伸：乳汁及ビ乳腺ノ女性生殖器ニ及ボス影響ニ關スル實驗的研究。【醫公論】645.大13(1924)。(白鼠)。

5709. 村岡千儀：脂肪質及ビ類脂肪質試食ニ因ル雌性生殖器ノ形態學的變化ニ就テ(1,2)。【近畿婦誌】8,2.大14(1925)。(家兔)。

5710. 樋口一成：卵巢喇叭管及ビ子宮ニ於ケル異所性腺様組織ニ就テ。【成醫會誌】47.昭3(1928)。(人)。

5711. 池田一男：人體子宮內及ビ外胚黃體ニ於ケル可染色脂肪ノ比較的研究。【慶應醫學】9,5.昭4(1929)。

5712. 小暮健一郎：「ウテロザルビングラフィ」ノ知見。【日レントゲン會誌】7,1.昭4(1929)。

5713. 土屋慶三：雌性動物生殖器ノ「オキシダゼ」反應。第二報：實驗的ニ惹起セラレタル持續的興奮期ニ於ケル生殖器ノ「オキシダゼ」反應ニ就テ。【舊本醫會誌】5,10.昭4(1929)。(白鼠)。

5714. Ikeda, Tamotsu: Über die genetischen und zyklischen Schwangerschaftsveränderungen des Golgischen Apparates in den Epithelzellen des Eileiters und Uterus beim Kaninchen. [Arb. med. Fak. Okayama] 1,2. 昭4(1929)。

5715. 川上博：女子生殖器ノ畸形ト分娩。【産婆誌】14,2.昭4(1929)。

5716. 渡邊達三郎：「ラテ」ノ卵成熟、排卵及ビ受精ビニ是等過程ニ於ケル卵及ビ輸卵管ノ「グリコゲン」ニ就テ。【解剖誌】3,3.昭5(1930)。

5717. 一宮勝三郎：雌性「ラテ」生殖器ノ細胞學的研究。【日病理會誌】20.昭5(1930)。

5718. 梶原一雄：子宮輸卵管造影術ヨリ見タル畸形子宮ノ種々相。【日レントゲン會誌】8,1.昭5(1930)。

5719. 吉原敬：人體女性內生殖器特ニ子宮、輸卵管及ビ卵巢ニ於ケル神經。【成醫會誌】29,11.昭5(1930)。

5720. ——：家兔、犬及ビ猫ノ牝性內生殖器殊ニ子宮及ビ輸卵管間膜ノ神經。【成醫會誌】30,1.昭6(1931)。(家兔、犬、猫)。

5721. 佐藤享：雌性內生殖器分布神經ノ形態學的研究。【京府醫大誌】5,1.昭6(1931)。(鳥類)。

5722. 上野道故：「グイタミン」ト雌性生殖器トノ關係。【關西醫事】3,9.昭6(1931)。

5723. 川名晃：白鼠雌性生殖器ノ年齢的變化

(會)。【日醫新聞】2,8.昭6(1931)。

5724. 山岡秀民：人子宮喇叭管筋層ニ就テノ知見(二)。【東京醫誌】2713.昭6(1931)。

5725. ——：人體子宮及ビ輸卵管筋層ニ就テノ知見補遺。【日醫新聞】2,8.昭6(1931)。

5726. Shimazaki, Y. und Yamada, H.: Vergleichende mikroskopische Anatomie des Eierstockbandes (Ligamentum ovarii proprium) des Menschen und der Säugtiere. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 16,4. 昭5(1933)。(Mensch, Affe, Maus, Ratte, Kaninchen, Meerschweinchen, Rind, Schwein, Katze, Maulwurf, Fledermaus)。

5727. 杉本忠雄：人胎兒女性生殖器系統ノ發生學的研究。【解剖誌】6,4.昭8(1933)。

5728. 阿原道雄：雌性內生殖器諸細胞ノゴルヂー氏内網装置ノ研究。1. 性週期篇。【京府醫大誌】9,1.昭8(1933)。(白鼠)。

5729. ——：雌性內生殖器諸細胞ノゴルヂー氏内網装置ノ研究。2. 妊娠篇。附：去勢後ニ於ケル變化ニ就テ。【京府醫大誌】9,3.昭8(1933)。(白鼠)。

5730. Nakasawa, Rokuro: Der Einfluss der chronischen Nicotinvorgiftung auf die Funktion der Geschlechtsorgane der weiblichen Ratten. [Jap. J. of Med. Sci. IV. Pharmacol.] 7,1. 昭8(1933)。

卵 巢

5731. 林榮：「エプオーホロン」ノ形態學的並ビニ生理學的研究(其一)。【近畿婦誌】2,5.大6(1917)。(人、猿、家兔、海狗、犬、牛、豚、山羊、羊)。

5732. Machida, Jiro: The development of the ovary in the Silkworm (Bombyx mori). [J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo.] 7,4. 大8-15(1919-26)。

5733. 中本完二：人ノ正常卵巢ニ分布スル神經ニ就テ。【近畿婦誌】7,4.大13(1924)。

5734. 戸近太郎：齧齒類ニ於ケル卵巢ノ生後發育ニ就テ(會)。【東北醫學誌】10.昭3(1927)。(マウス、海狗)。

5735. 進藤武男：孵化後ニ於ケル鶏ノ卵巢重量ノ増加ニツイテ(豫報)。【日畜産會報】3,2.昭3(1928)。

5736. ——：鶏ノ卵巢ノ發育。第一報：孵化後ニ於ケル重量ノ増加ニ就テ。【中央獸醫誌】41.昭3(1928)。

5737. 山越 伉：日本婦人副卵巢ノ肉眼的所見ニ就テ。【解剖誌】1,1.昭3(1928)。

5738. 竹村直治、出馬晋策：過剰卵巢及ビ其ノ腫瘍ニ就テ。【臨床産婦】4.昭4(1929)。(人)。

5739. 山越 伉：旁卵巢ノ位置ニ就テ。【解剖誌】2,4.昭4(1929)。(成熟婦人、胎兒及ビ初生兒)。

5740. 長坂忠次郎：畜牛ノ腔液ニ關スル研究(第三報)。發情ト卵巢形態ノ周期的變化ニ就テ(會)。【中央獸醫誌】42,12.昭4(1929)。

5741. 清水 滋：家兔卵巢ノ左右不相稱性。【應用動物】1,3-4.昭4(1929)。

5742. 長坂忠次郎：畜牛ニ於ケル卵巢形態ノ周期的變化ニ關スル研究。卵巢表面ニ發生スル突起ノ形態ト妊娠トノ關係ニ就テ。【中央獸醫誌】43,8.昭5(1930)。

5743. 佐藤繁雄、星 修三：馬ノ生殖ニ關スル研究。第二報。【中央獸醫誌】45,11.昭7(1932)。(發情ト卵巢ニ於ケル變化比較ノ記載アリ)。

5744. 内藤永二：非妊時及ビ妊娠時卵巢ニ於ケル淋巴管ニ就テ。【近畿婦誌】16,2.昭8(1933)。(備)。

5745. 久富義雄：非哺乳類卵巢ニ於ケル一觀察。【解剖誌】6,4.昭8(1933)。

5746. 岡本さかき：第三卵巢ノ成因ニ就テ。【近畿婦誌】16,2.昭8(1933)。(人)。

5747. Aida, Tatsuo(會田龍雄): On the growth of the ovarian ovum in Chaetognaths. [Annot. zool. jap.] 1,3. 明30(1897)。

5748. 赤座善惠吉：三子卵及ビ双子卵ノ多數ヲ爲セル卵巢。【東京醫會誌】11,21. 明30(1897)。(人)。

5749. 井岡忠雄：卵巢濾胞ニ就テ。【近畿婦誌】1,2.大5(1916)。(家兔)。

5750. 明城彌三吉：人卵巢神經殊ニ其終末ニ就テ。【日婦誌】12,1.大6(1917)。

5751. 林 昇：移植セル卵巢ノ生體染色(豫報)。【近畿婦誌】3,6.大7(1918)。(家兔)。

5752. 山崎義男：二三藥物ノ輸送ニヨル家兔卵巢變化ノ組織學的研究。【東洋醫誌】2.大13(1924)。

5753. 林 喬：Untersuchungen über Cetacea. 35. Über den Zeitpunkt des Eintretens der Geschlechtsreife beim Seiwal und über den Follikelinhalt des Seivalvariums. [Jap. J. of Med. II. Biochem.] 1,3. 大14-昭7(1925-32)。

5754. 栗本春吉：卵巢ニ於ケル銀反應。【日病理會誌】17.昭2(1927)。(人、家兔)。

5755. 水美登利：家兔卵巢組織的研究補遺。【十全會誌】32,7.昭2(1927)。

5756. 芝田清吾：家兔ノ生殖生理ニ關スル研究。第三報：實驗的單複卵巢ノ解剖學的並ニ組織學的觀察。【中央獸醫誌】41.昭3(1928)。

5757. Okamoto, T.: Über den Ursprung des Follikelepithels des Eierstockes beim Hunde. [Fol. anat. jap.] 6,6. 昭3(1928)。

5758. 加納知男：人類卵巢ニ於ケル「グリコゲン」ニ就テ。【愛知醫會誌】36,3.昭4(1929)。

5759. 山越 伉：日本婦人ノ副卵巢及ビモルガニ氏附屬體ノ肉眼的並ビニ組織學的研究。【解剖誌】2,4.昭4(1929)。

5760. 武藤友太郎：卵巢基質ニ關スル組織學的研究。【京府醫大誌】3,3.昭4(1929)。(人、家兔、海狗、白鼠、犬)。

5761. 木村誠一：鳩白米病ニ於ケル卵巢分布神經終末ノ變化ニ就テ。【近畿婦誌】13,2.昭5(1930)。

5762. 松山七五郎：豚胎兒卵巢發育ノ組織學的檢索。【成醫會誌】49,63.昭5(1930)。

5763. 小山正直：卵巢病理解剖學的並ニ組織學的研究。其一：胎兒、初生兒、少女及ビ春期發動期前後ノ處女期ニ於ケル生理的人卵巢殊ニ其ノ所謂格子狀纖維ニ就テ。【十全會誌】35,6.昭5(1930)。

5764. ——：卵巢ノ病理解剖學的並ニ組織學的研究。其二：成熟期、經閉期及ビ老年期ニ於ケル生理的人卵巢殊ニ其ノ所謂格子狀纖維ニ就テ。附：黃體ノ發生。【十全會誌】35,9.昭5(1930)。

5765. ——：人體卵巢ニ於ケル含有脂肪體ノ形態學的研究。附：卵巢內含微物質ニ就テ。【十全會誌】36,6.昭6(1931)。

5766. 栗山輝雄：家兔卵巢濾胞(閉鎖濾胞ヲ含ム)ノ周期的増減ニ就テ。【解剖誌】4,2.昭6(1931)。

5767. 蘇 記之：硬レ線照射セル「マウス」卵巢ノ生物學的並ニ組織學的研究知見補遺。【日レントゲン會誌】9,2.昭6(1931)。

5768. 渡邊福明：卵巢ノ子宮糖原質ニ及ボス影響。【北越醫會誌】46,11.昭6(1931)。(家兔)。

5769. Takewaki, Kiyoshi(竹脇 潔): Further note on the ovary of Albino Rat with spayed parabiont. [J. Fac. Sci. Sect. IV. Zool.] 3,2. 昭6(1931)。

5770. ——：Endocrine activity of ovarian tissues transplanted to normal, semispayed and spayed female of Albino Rat. [J. Fac. Sci. Sect. IV. Zool.] 3,2. 昭6(1931)。

5771. 守屋千代野: 陰極線ノ家兎卵巣ニ及ボス作用ニ就テ、特ニ Röntgen 線放射トノ比較研究。【岡山醫會誌】44,11. 昭7(1932).

5772. 太田武夫: 犬ノ多卵性濾胞。【近畿婦誌】16,6. 昭8(1933).

5773. 藤垣喜重郎: 白鼠ニ於ケル卵巣移植ガ性週期ニ及ボス影響ニ就テ。【皮膚紀要】22,4. 昭8(1933).

5774. 梅谷與七郎: 家兎ニ於ケル移植卵巣ノ形態學的研究。【動物誌】45,532. 昭8(1933).

5775. 島崎義明, 山田八郎: 人類及ビ其ノ他ノ哺乳動物卵巣固有靱帶ノ顯微鏡的比較解剖學的研究。【近畿婦誌】16,6. 昭8(1933). [人, 猿, マウス, ラツテ, 家兎, 海狸, 牛, 豚, 猫, 土龍, 編組].

卵 管

5776. 大野精七, 高岡朋三: 稀有ナル喇叭管胎兒腫ノ一例。【瘧】12,1. 大7(1918).

5777. 高祖敏雅: 生理的及ビ病理的状態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究(第一報)。【京都醫誌】15,1-2. 大7(1918). [家兎].

5778. —: 生理的及ビ病理的状態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究。【岡山醫會誌】32,361. 大9(1920). [家兎].

5779. Yagi, H.: On salpingography. A study of Fallopian tubes by X-ray in diagnosis of female sterility. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 11,4. 昭3(1928). [人].

5780. 八木日出雄: 「サルビンゴグラフィ」ニ關スル知見。【近畿婦誌】11,6. 昭3(1928).

5781. 山岡秀民: 人喇叭管筋層ニ就テノ知見。【九大醫報】4,6. 昭5(1930).

5782. —: 人輸卵管粘膜炎複製模型供覽。【九大醫報】5,4. 昭5(1931).

9783. —: 人輸卵管複製模型供覽。【九大醫報】5,5. 昭5(1931).

5784. —: 人輸卵管粘膜炎複製ニ就テ。【九大醫報】6,1. 昭7(1932).

5785. 齋藤賢吉: 稀有ナル一側喇叭管缺損例ニ就テ。【滿洲醫誌】16. 昭7(1932).

5786. 山岡秀民: 人輸卵管粘膜炎複製ノ形態ニ就テ。【東京醫誌】27,6. 昭7(1932).

5787. 上野治郎: 所謂喇叭管括約筋裝置ノ存否ニ關スル一考察。【近畿婦誌】16,3. 昭8(1933).

5788. 山岡秀民: 人輸卵管粘膜炎複製ノ形態學的研究(其二): 象形複製模型標本所見。【日婦會誌】28,14. 昭8(1933).

5789. —: 人輸卵管粘膜炎複製ノ形態學的研究(其三): 雙眼擴大鏡所見。【日婦會誌】28,14. 昭8(1933).

5790. Ueno, J.: A study of the "Sphincter apparatus of Fallopian tube". [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 16,6. 昭8(1933) [人].

5791. 頓宮 寛, 小谷野 格: 鶏輸卵管粘膜炎「テロトビー」ニ就テ。【瘧】6,2. 大1(1912).

5792. 佐藤龜一: 鳥類輸卵管ノ構造及ビ其蛋白質分泌現象並ニ其運命ニ就テ。【中央醫會誌】24,4. 大6(1917). [雞].

5793. —: 鳥類輸卵管ニ就テ。附: 蛋白質ニ對スル知見。【東京醫會誌】32,5. 大7(1918). [雞].

5794. 高祖敏雅: 生理的及ビ病理的状態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究(第二報). 輸卵管ニ於ケル脂肪沈着ニ就テ。【京都醫誌】16,7. 大8(1919). [人].

5795. —: 生理的及ビ病理的状態ニ於ケル輸卵管ノ形態學的研究(第六報). 輸卵管ノ彈力纖維ニ就テ。【近畿婦誌】4,9. 大10(1921). [人, 豚, 雞, 廿日鼠, 白鼠, 海狸, 家兎, 犬, 猫].

5796. 志賀 費: 胎兒新生兒乳兒及ビ處女ノ輸卵管組織ニ就テ。【阪醫會誌】23,7. 大13(1924).

5797. 小山正直: 輸卵管内ニ於ケル胎芽ノ運命並ビニ吸收ニ就テ。【十全會誌】29,2. 大13(1924). [人].

5798. 石川信男: 蠟蟻輸卵管ノ構造ニ於ケル周期的變化ニ就テ。【近畿婦誌】7,2. 大13(1924).

5799. 土屋慶三: 人體喇叭管組織「オキシターゼ」反應ニ就テ。【熊本醫會誌】5,10. 昭4(1929).

5800. 太田隆滋: 輸卵管粘膜炎複製ノ比較形態學的研究。【解剖誌】3,3. 昭5(1930). [猿類, 有蹄類, 食肉類, 靈長類].

5801. —: 輸卵管ノ比較組織學的研究。【解剖誌】2,6. 昭5(1930). [猿, 牛, 豚, 猫, 犬, 狸, 家兎, 海狸, 白鼠, 廿日鼠, 編組, 鼯鼠].

5802. 山岡秀民: 人體輸卵管筋層ニ就テノ知見補遺。【東京醫誌】27,6. 昭6(1931).

5803. 齋藤紫明: 輸卵管妊娠中絶ニ關スル組織學的研究。【東京醫誌】27,45. 昭6(1931). [人].

5804. 久富義雄: 石龜輸卵管ノ組織像ニ就テ。【九大醫報】5,5. 昭6(1931).

5805. —: 鳥類輸卵管ノ組織學の檢索。【九大醫報】6,3. 昭7(1932).

5806. —: 輸卵管ノ比較組織學の所見。(其

一): 鳥類輸卵管ノ組織像ニ就テ(會)。【解剖誌】5,7. 昭7(1932).

5807. 大原敏夫: 輸卵管ノ細胞學的研究。【醫公論】1000. 昭7(1932). [人].

5808. 山岡秀民: 人輸卵管ノ組織學的研究(其一). 人輸卵管壁筋層ニ就テノ知見補遺。【日婦會誌】28. 昭8(1933).

5809. —: 人輸卵管粘膜炎複製ノ形態學的研究(其一). 顯微鏡的所見。【日婦會誌】28,4. 昭8(1933). [人].

子 宮 腔

5810. 白井一太郎: 子宮缺如ノ二例。【産科誌】1,6. 明22(1889).

5811. 山田謙治: 先天性子宮缺如ノ實驗。【金澤醫會誌】2,8. 明23(1890). [人].

5812. —: 先天性子宮缺如ノ實驗。【金澤醫會誌】2,11. 明23(1890). [人].

5813. —: 腔中隔ノ實驗。【東京醫誌】742. 明24(1891). [人].

5814. 榊 順次郎: 本邦婦人ノ子宮底ニ就テ。【東京醫誌】745. 明24(1891).

5815. 緒方正清, 松島秀一: 子宮及ビ腔ノ重複ニ就テ。【東京醫誌】825-828. 明27(1894). [人].

5816. 白井一太郎: 子宮缺如ノ二例。【東京醫誌】1113. 明32(1899). [人].

5817. 秋元洗二: 子宮缺如ノ一例。【東京醫誌】1121. 明32(1899). [人].

5818. 太田新藏: 双角子宮ノ妊娠, 分娩及ビ産褥所見。【産科誌】3,12. 明34(1901).

5819. 佐藤金五郎: 雙腔雙子宮。【産科誌】3,4. 明34(1901). [人體].

5820. 丸山浦治郎: 先天性腔畸形症ノ一治驗。【産科誌】4,9. 明35(1902).

5821. 秋元洗二: 頸管ノ交叉シタル複子宮ノ實驗。【産科誌】5,4. 明36(1903).

5822. 山崎正董, 近藤彌三郎: 子宮頸部延長ノ一例。【西醫報】80. 明36(1903). [人].

5823. 坂本精一: 重複子宮ニ於ケル片側血腫。【産科誌】5,12. 明36(1903).

5824. 山崎正董, 近藤彌三郎: 子宮及ビ腔ノ痕跡ヲ有スル患婦ノ一例。【西醫報】79. 明36(1903).

5825. 河野徹志: 胃ト子宮ニ分布スル神經ノ相互的關係ヲ論ジ其ノ臨床的觀察ニ及ブ。【日消化會誌】2,181-198. 明36(1903). [人].

5826. 北島英夫: 雙腔雙子宮ノ二例。【研瑛誌】64. 明38(1905). [人].

5827. —: 雙腔雙子宮記事追加。【研瑛誌】65. 明38(1905).

5828. 長 直一: 雙腔雙子宮ノ一例。【産科誌】7,8. 明38(1905).

5829. 橋爪 哲: 日本婦人ノ産褥子宮底各日ノ高サニ就テ。【醫中央誌】4,3. 明39(1906).

5830. 穴戸俊治: 腔中隔ノ一例。【醫新聞】723. 明39(1906).

5831. 原田安之助: 雙腔雙子宮ノ一實驗。【産科誌】92. 明40(1907).

5832. 近藤彌三郎: 雙腔雙子宮ノ一例。【西醫報】103. 明40(1907). [人].

5833. —: 右單角子宮兼左萎縮副角妊娠ノ一例ニ就テ。【西醫報】122. 明42(1909). [人].

5834. 緒方十右衛門: 子宮缺部ニ就テ。【日婦會誌】4,1. 明42(1909). [人].

5835. 高尾克巳, 酒井一郎: 單頸重複子宮妊娠及ビ分娩ノ一例ニ就テ。【研瑛誌】96. 明43(1910). [人].

5836. 明島棟三郎: 雙腔雙子宮妊娠ノ一例。【研瑛誌】94. 明43(1910). [人].

5837. 吾妻勝剛, 大石貞夫: 子宮ノ形狀位置ニ關スル統計。【日婦會誌】7,2. 大15(1912). [人].

5838. 吾妻勝剛: 日本婦人子宮ノ位置ニ就テ。【順天堂醫誌】473. 明45(1912).

5839. 菱沼淺治郎: 單角子宮兼萎縮副角妊娠ノ一例。【産婆誌】150. 大2(1913).

5840. 吾妻勝剛, 大石貞夫: 子宮ノ形狀位置ニ關スル研究(第三報)。【日婦會誌】9,1. 大3(1914). [人].

5841. 佐藤勤也: 腔ノ先天性輪狀狹窄症。【東京醫誌】1953. 大5(1916). [人].

5842. 筒井 節: 腔中隔ノ一例。【助産友】3,4. 大5(1916). [人].

5843. 所 秀造: 分解重複子宮並ビニ巨大ナル卵巣腫。【日鐵道醫會誌】2,5. 大5(1916).

5844. 清水虎雄: 雙角子宮ニ就テ。【順天堂醫誌】522. 大5(1916). [人].

5845. 岡林秀一: 本邦婦人ノ子宮正常位置及ビ其後方轉變ノ意義ニ就テ。【近畿婦誌】1,3. 大5(1916).

5846. 小鷹理三郎: 雙角子宮ニ於ケル胎盤稽留ニ就テ。【助産友】3,6. 大8(1919). [人].

5847. 小川庄三: 交互ニ反覆妊娠セル重複子宮ノ一例。【近畿婦誌】6,1. 大12(1923).

5848. 横山茂樹: 家兎子宮ノ移植ニ就テ。【傳

- 鮮會誌] 52, 大13(1924).
5849. 洲崎隆一: レントゲン寫眞ニヨル產褥子宮復舊作用ニ關スル檢索(1, 2). [近畿婦誌] 7, 3; 9, 3. 大13-15(1924-26). [43例].
5850. 五十嵐雄二: 子宮發育不全症ト體質トノ關係. [慶應醫學] 6, 1. 大15(1926).
5851. 本多操, 石原俊士: 日本人女子腔ノ形態學的研究. [近畿婦誌] 9, 2. 大15(1926).
5852. 井關恒: 妊娠子宮形狀ト胎兒體向及ビ胎盤附着部位トノ關係ニ就テ. [臨床產婦科] 2, 昭2(1927).
5853. 日下部求: 雙角單頸子宮ノ妊娠例. [近畿婦誌] 10, 6. 昭2(1927).
5854. 柳榮: 先天性腔中隔ニ就テ. [臨床產婦科] 3, 昭3(1928).
5855. 木村誠一: 雙角子宮ノ妊娠例. [近畿婦誌] 11, 6. 昭3(1928).
5856. 久保田環: 臨床上甚ダ興味アル經過ヲ取リシ雙角子宮妊娠例. [近畿婦誌] 11, 6. 昭3(1928).
5857. Shimasaki, Yoshiaki: Topographisch-anatomische Studien über das Ligamentum teres (Portio intrapelvina) der Japanerin. [Fol. anat. jap.] 8, 1. 昭4(1929).
5858. 岸田久吉: 「アカネズミ」ノコトドモ. [應用動物] 1, 1. 昭4(1929). [子宮ノ形態アリ].
5859. 久保田環: 子宮ノ副交感神經司配ニ就テ. [長崎醫會誌] 7, 1. 昭4(1929). [家兔].
5860. 白井貞次郎, 田原三夫: 家兎子宮一角妊娠時ニ於ケル非妊娠子宮角ノ變化ニ就テ. [醫會誌] 28, 2. 昭4(1929).
5861. 加藤清彦: 子宮及ビ附屬器ノレントゲンの所見. [醫新聞] 1247. 昭4(1929). [人].
5862. 山下憲: 重複子宮ノ一例, 交互妊娠並ビニ腔閉鎖症ノ各一例. [滿鮮醫學] 108. 昭5(1930).
5863. Kimura, S.: Clinical observation of uterus bicornis in pregnancy and labour. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 13, 2. 昭5(1930).
5864. 濱口廣成: 輸尿管ヲ夾シ對稱的筋腫ヲ存セシ雙角子宮ノ一例. [Grenzgeb.] 4, 9. 昭5(1930). [人].
5865. 木村誠一: 雙角子宮ノ妊娠分鏡ニ關スル臨床的知見補遺. [近畿婦誌] 13, 1. 昭5(1930). [人].
5866. 中川純一: 子宮脫垂症ト體質問題. [近畿婦誌] 14, 2. 昭6(1931).
5867. 井上剛: 人體子宮ノ研究. [十全會誌]

36, 3. 昭6(1931).

5868. 相羽利雄: 分離重複子宮(雙鏡)ニ就テト伴ヘル一例. [臨床產婦科] 6. 昭6(1931). [人].
5869. 水野國治: 雙角子宮妊娠ノ一例. 特ニ其診斷ニ就テ. [近畿婦誌] 14, 4. 昭6(1931).
5870. Nakagawa, J.: Morphological changes in the plaster figures of the vaginal cavity before and after the operation for the uterine retroflexion. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 15, 6. 昭7(1932).
5871. 中川潤一, 椋田勳: 石膏像ニヨル「腔腔形態」ノ研究. [近畿婦誌] 15, 6. 昭7(1932). [人].
5872. 影山壽男: 雙角子宮ノ妊娠分鏡ニ就テ. [產婆誌(京都)] 17, 2. 昭7(1932).
5873. Nakagawa, J. and Mukuda, T.: Morphologic study of vaginal cavity in the plaster figures. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 16, 3. 昭8(1933).
5874. 野島規矩男: 雙角子宮妊娠分鏡ニ及ボス影響並ビニ之ガ造影術ニ就テ. [近畿婦誌] 16. 昭8(1933). [人].
5875. 藤江無樂: 子宮並ビニ左右輸卵管缺損症ノ一例ニ就テ. [臨床產婦科] 8. 昭8(1933).
5876. 野島規矩男: 雙角子宮ノ妊娠分鏡ニ及ボス影響並ビニ之ガ造影例ニ就テ. [日鐵道醫會誌] 19, 8. 昭8(1933).
5877. 大槻滿治郎: 子宮胎盤部組織ノ復古狀態ニ就テ(第二報). 附: 「ジンチチウム」細胞發生論. [產科誌] 7, 1. 明33(1935). [人].
5878. 緒方十右衛門: 子宮及ビ腔壁ニ於ケル神經節細胞ニ就テ並ビニ標本供覽. [日婦會誌] 4, 2. 明42(1909). [人].
5879. 齋藤雄一: 子宮粘膜炎ノ周期性變化ニ就テ. [醫中央誌] 8, 10. 明43(1910). [人].
5880. 齋藤次六: 子宮ノ彈力纖維ニ就テ. 附: 彈力纖維ノ意義. [日病理會誌] 6. 大5(1916). [人].
5881. 藤村元張: 子宮粘膜炎及ビ脫落膜ノ組織的研究補遺. [東京醫會誌] 31, 14. 大6(1917). [人].
5882. Groot, J. G.: Étude sur l'hématopoïèse dans l'utérus gravide de *Tupaia javanica* et d'autres mammifères, et dans la moelle osseuse rouge des mammifères adultes. [J. Coll. Agr. Hokk. Imp. Univ.] 8. 大7-8(1918-19).
5883. 大橋義郎: 嚙齒類ニ於ケル妊娠子宮組織ノ發生學的並ビニ生物學的研究(第一). 「マ

- ウス」ニ就テ. [東京醫會誌] 34, 9-10. 大9(1920).
5884. 村尾信遠: 子宮ニ於ケル脂肪沈着ニ就テ. [近畿婦誌] 5, 10. 大10(1921). [家兔].
5885. 大橋義郎: 嚙齒類ニ於ケル妊娠子宮組織ノ研究(第一). 「マウス」ニ就テ續報. 「マウス」產褥子宮ノ整復研究. [東京醫會誌] 36, 4. 大11(1922).
5886. 大木常松: 腔分泌物ノ細胞ニ就テ. [愛知醫會誌] 30, 3. 大12(1923). [人].
5887. 本間英史: 白鼠ノ子宮ニ於ケル高度ナル「エオジン」好染細胞浸染症ノ研究. [東洋醫誌] 2. 大13(1924).
5888. 石川信男: 哺乳動物子宮ノ比較組織學的知見補遺. [近畿婦誌] 7, 1. 大13(1924). [家兔, 海狸, 犬, 甘日鼠, 烟鼠, 猪, 白鼠, 土龍, 家鼠, 栗鼠, 豚, 牛, 狸].
5889. 横山茂樹: 子宮ノ彈力纖維ニ就テ. 並ニ子宮癌ト彈力纖維トノ關係. [日婦會誌] 19, 8. 大13(1924). [人].
5890. 玉川和: 胎兒及ビ初生兒ノ子宮ニ於ケル脂肪ノ檢索. [十全會誌] 29, 12. 大13(1924). [人].
5891. 岡本寛雄: 子宮内腔ノ「ミトヒヨンドリエン」ニ就テ. [日醫學] 14, 10. 大13(1924). [人].
5892. 荻野久作: 子宮粘膜炎ノ周期的變化ニ就テ標本示説. [北越醫會誌] 39, 5. 大13(1924).
5893. 徳橋豊信: 老入子宮ノ組織學的研究(第一報). 一般觀察並ビニ彈力組織ニ就テ. [愛知醫會誌] 32, 1. 大14(1925).
5894. —: 老人子宮ノ組織學的研究(第二報). 脂肪ニ就テ. [愛知醫會誌] 32, 2. 大14(1925).
5895. 村岡千俣: 子宮間質腺ニ就テ. [近畿婦誌] 8, 2. 大14(1925). [家兔].
5896. Okazaki, Katsumi: Untersuchung über Cetacea 13. Über den Inhalt der an den Samenwegen vorkommenden Zysten. Über die Flüssigkeitsansammlung im Uterus. [Jap. J. of med. Sci. II. Biochemie] 1, 1. 大14-昭7(1925-1930).
5897. 洲崎隆一: 產褥子宮ノ整復機轉ニ就テ. (子宮組織ノ整復所見). [近畿婦誌] 9, 1. 大15(1926).
5898. 阿部清三郎: 「マウス」ニ於ケル妊娠中絶子宮結節ニ就テノ組織學的研究. [愛知醫會誌] 33, 6. 大15(1926).
5899. Shinsgawa, Minoru: Über die Uterus-

- muskulatur der Säugetiere. [Acta Schol. Med. Kioto] 9. 大15-昭2(1926-27). [Kaninchen, Katze, Meerschweinchen, Rind, Schwein, Hund].
5900. 竹森啓祐: 子宮及ビ腔ノ異種蛋白透過性ノ變化ニ就テ. [醫海時報] 1736. 昭2(1927).
5901. 加藤喜久男: 家兎妊娠期中子宮上皮ノ變化ニ就テ. [醫會誌] 26, 10. 昭2(1927).
5902. 渡邊建: 白鼠子宮壁「エオジン」嗜好性細胞浸染知見補遺. [千葉醫會誌] 6, 1, 7. 昭3(1928).
5903. 三林隆吉: 子宮内腔ニ於ケルゴルヂー氏内網装置ニ就テ. [北越醫會誌] 44, 1. 昭4(1929).
5904. 加藤喜久男: 「マウス」ノ孕尾期, 妊娠期及ビ產褥期子宮粘膜炎ノ微細組織學的變化ニ就テ. [解剖誌] 2, 5. 昭4(1929).
5905. Kadimura, Masayoshi: Über die biologische Bedeutung und die Verteilung des Glykogens in dem schwangeren Uterus der Fledermaus. 1, 2. [Keijo J. of Med.] 1, 3. 昭5(1930).
5906. —: Über die biologische Bedeutung und die Verteilung des Fettes im schwangeren Uterus der Fledermaus. [Keijo J. of Med.] 1, 4. 昭5(1930).
5907. 濱野次郎: 所謂子宮鱗屑症(Ichthyosis uteri)ノ一例. [慶應醫學] 10, 8. 昭5(1930). [人].
5908. 伊藤吉孝: 海狸腔粘膜炎上皮ニ於ケル妊娠性變化知見補遺. [愛知醫會誌] 37, 7. 昭5(1930).
5909. 三浦義儀: 「マウス」ノ性週期ニ於ケル腔上皮ノ變化ニ關スル知見補遺. [解剖誌] 4, 4. 昭6(1931).
5910. 宮崎展亮: 子宮圓韌帶ノ組織學的研究. 第一報: 圓韌帶ノ彈力纖維ニ就テ. [日婦會誌] 26, 12. 昭6(1931). [人].
5911. —: 子宮圓韌帶ノ組織學的研究. 第二報: 圓韌帶ノ脂肪ニ就テ. [日婦會誌] 26, 12. 昭6(1931). [人].
5912. 石澤政男: 纖毛發生ノ興味アル一過程ニ就テ(子宮粘膜炎). [東京醫會誌] 2713. 昭6(1931).
5913. Kumamoto, T.: Vaginal glands of Japanese fetuses and new-borns. [Jap. J. of Obst. and Gyn.] 14, 4. 昭6(1931).
5914. 熊本太久磨: 日本人胎兒及ビ初生兒ノ腔腺ニ就テ. [近畿婦誌] 14, 4. 昭6(1931).
5915. 忽那將受, 安藤省三: 妊娠子宮ニ於ケル淋巴管ノ態度. [近畿婦誌] 14, 5. 昭6(1931).

- 5916. 増田源三郎, 青木三千雄: 白鼠ノ性週期ニ伴フ子宮粘膜炎ノ組織學的所見ト同粘膜炎細胞内微細顆粒ノ變化ニ就テ. 【臨床産科】7, 昭7(1932).
- 5917. 片山重理: 「マウス」腔粘膜炎ノ妊娠性變化ニ就テ. 【愛知醫會誌】39, 4, 昭7(1932).
- 5918. 猪原修三: 妊娠子宮ノ結締織ニ就テ. 【熊本醫會誌】8, 7, 昭7(1932). [人].
- 5919. 中川潤一: 子宮組織ノ Eosin 染色顆粒細胞ニ就テ. 【病理學紀要】8, 3, 昭7(1932). [人, 白鼠, 家兔].

處女膜, 外陰部, 女性尿道等

- 5920. 保利 聯, 水町猪三郎: 畸形處女膜. 【済生學會醫報】63, 明31(1908). [人].
- 5921. 渡邊 茂: 一二ノ實驗談. (1) 處女膜閉鎖. 【嶺西醫報】72, 明30(1903). [人].
- 5922. 秋元洗二: 婦人陰毛ノ調査 (第一報). 【醫新聞】715, 明39(1909). [人].
- 5923. 村田庚午郎: 腔前庭前面ノ葉狀ニヨリ分娩馬ト未分娩馬トノ鑑別ニツイテ. 【中央獸醫誌】34, 7, 大10(1921). [外陰部ノ外形].
- 5924. 石川信男: 日本婦人ノ外陰部計測. 【近畿醫誌】5, 10, 大10(1921).
- 5925. 飯島 尚: 日本婦人外陰部ノ解剖學的研究. 第一報: 計測. 第二報: 陰核陰核包皮及尿道小帯ノ組織學的檢索. 第三報: 小陰唇ノ組織學的研究補遺. 【近畿醫誌】5, 11; 7, 2; 8, 1, 大11-14(1922-25).
- 5926. 梅澤武雄: 處女膜ノ不完全閉鎖ニ於ケル妊娠ノ一例ニ就テ. 【日鐵道醫會誌】3, 5, 大12(1923).
- 5927. Ishikawa, Nobuo: Beiträge zur Anatomie der Beckenorgane der Japanerinnen. II. Histologische Untersuchungen über die äusseren Genitalien (nebst Achselgrubenhaut und Umgebung des Afters). 【Acta Scholae Med. Kioto】6, 大12-13(1923-24).
- 5928. 飯島 尚: 臺灣蕃人ノ女性外陰部ニ就テ. 【近畿醫誌】8, 1, 大14(1925).
- 5929. 倉上由一: 日本人ニ於ケル處女膜形狀ニ就テ. 【長崎醫會誌】3, 2, 大14(1925).
- 5930. 飯島 尚: 樟太「アイヌ」ノ胎兒ノ女性外陰部. 【人類誌】40, 3, 大14(1925).
- 5931. 山岡員秀: 女子外陰部畸形ノ一例. 【皮膚誌】27, 10, 昭2(1927).
- 5932. 竹村直治: 女性外尿道口ノ重複セル一

- 例ニ就テ. 【臨床産科】3, 昭3(1928).
- 5933. 片山重理, 都筑千秋: 女性外尿道口ノ重複セル一例. 【愛知醫會誌】38, 12, 昭6(1931).

腹膜, 網膜, 腸間膜, 體腔等

- 5934. 池上馨一: 腹膜ノ稀有ナル破格ノ一例. 【研殖誌】87, 明41(1908). [人].
- 5935. —: 腹膜ノ畸形. 【東京醫誌】1610, 明43(1909). [人].
- 5936. 後藤城四郎: 腹膜ニ於ケル脱落膜細胞ノ發現ニ就テ. 【日病理會誌】3, 大9(1914). [人].
- 5937. 鈴木寛之助: 迴盲部腹膜ノ解剖學の異常及ヒ其臨牀上ノ關係. 【十全會誌】22, 8, 大6(1917). [人].
- 5938. 佐藤 清: 胃脾臟織及ヒ迷走神經内臟枝ノ異常ト十二指腸ノ屈曲乃至閉鎖トノ關係ニ就テ(第一報). 附: 急性胃擴張症ノ知見補遺. 【日消化會誌】17, 1, 大7(1918). [人].
- 5939. 横地君人, 山口一: 大網膜腸間膜癒着症ノ一例. 【海軍醫誌】15, 大8-10(1919-21). [人].
- 5940. Hamazaki, Yukio: Comparative studies on the Milk-spots, "Tâches laiteuses" of various animals. 【Fol. anat. jap.】3, 4-5, 大14(1925). [Cattle, pig, cat, Guinea-pig, rat, mouse, frog].
- 5941. Fuse, Nobuyoshi: Untersuchungen über Cetacea. 18. Über die peritonealfüssigkeit. 【Jap. J. of med. Sci. II. Biochem.】1, 2, 大14-昭7(1925-32). [Finwal].
- 5942. Hamazaki, Yukio: On the reticular tissue and lattice-fibers occurring in the Milk-spots of Omentum. 【Fol. anat. jap.】4, 1, 大15(1926). [Cattle, pig, dog, cat, rabbit, Guinea-pig, rat, mouse, chick, man].
- 5943. —: On the Milk-spots of Omentum. I: Histological study. 【Jap. med. World】6, 9, 大15(1926). [Man].
- 5944. 濱崎幸雄: 諸種動物ニ於ケル大網乳斑ノ比較研究. 【日病理會誌】15, 大15(1926). [家兔, ラット, マウス, 海鼠, 犬, 猫, 牛, 豚, 家鷄].
- 5945. —: 大網乳斑ニ於テ見出サレタル網狀組織及ヒ格子狀纖維ニ就テ. 【日病理會誌】16, 大15(1926). [人, 牛, 豚, 犬, 家兔等].
- 5946. 濱崎幸雄, 相原義一: 大網ニ於ケル所謂 Splenoile ト乳斑トノ關係. 【日病理會誌】18, 昭3(1928). [鼠].
- 5947. 中田瑞穂, 岡田 博: 總腸間膜ニ就テ. 【Grenzgeb.】2, 12, 昭3(1928). [人].

- 5948. 竹内 清: 體腔液正常成分トシテノ一新微細絲狀體(新稱體腔絲)(會). 【解剖誌】1, 1, 昭3(1928).
- 5949. —: 體腔絲知見補遺. 【解剖誌】2, 2, 昭4(1929).
- 5950. Shimasaki, Yoshiaki: Sur le diverticule de Nuck de la Japonaise. 【Fol. anat. jap.】8, 1, 昭4(1929).
- 5951. 高橋左右平: 總腸間膜ノレントゲン像. 【レントゲン會誌】7, 3, 昭4(1929). [人].
- 5952. 服部大作, 山口 寛: 邦人ノ腹膜瘻ニ就テ. 【解剖誌】3, 3, 昭5(1930).
- 5953. 木村三郎: 迴盲部ノ附着狀態及ヒ總腸間膜ノ一例. 【九大醫報】5, 5, 昭6(1931).
- 5954. 櫻井與藏: 家兔正常網膜組織ノ諸種染色像ニ就テ(標本供覽). 【十全會誌】36, 12, 昭6(1931).
- 5955. 岩本嘉文: 大網膜, 腸間膜ト其等ノ窓孔ニ就テ. 【長崎醫會誌】9, 12, 昭6(1931). [犬, 猫, 家兔, 海鼠, 白鼠, 家鼠, 山羊, 蛙, 蟾蜍, 蠍, 蜘蛛].
- 5956. 大林治男: 體腔腹膜ニ見ル神經終末棍ニ就テ. 【九大醫報】6, 6, 昭7(1932).
- 5957. 今川與實: 腸間膜ノ構造ニ就テ. 【北越醫會誌】47, 15, 昭7(1932). [人間, 家兔, 海鼠, 白鼠, 二十日鼠, 鳩, 蛙].

會 陰

- 5958. 竹村証一郎: 日本人ノ骨盤出口筋ニ就テ. 【東京醫會誌】45, 10, 昭6(1931).

5. 內 分 泌 器
內分泌器一般

- 5959. 池田長太郎: 卵巣移植並ビニ卵巣內分泌ニ關スル動物試驗. 【第三回日醫會誌】明44(1911). [兔].
- 5960. 三浦謹之助: 神經系ト內分泌腺トノ關係. 【日新醫學】1, 明44-45(1911-12). [副垂腺, 甲状腺, 副甲状腺, 松果腺, 生殖腺, 副腎].
- 5961. 塚口利三郎: 卵巣內分泌細胞ニ就テ. 【醫公論】13, 大1(1912). [家兔, 犬, 猫, 鼠, 人].
- 5962. 野中 鼎: 「ホルモン」學說及ヒ「ホルモン」療法. 【中央獸醫誌】25, 6, 大1(1912).
- 5963. 加茂實一郎: 腦下垂體, 甲状腺, 上皮小體ニ關スル研究. 【海軍醫誌】17, 大6(1917).
- 5964. 木村省三: 「クローム」親和系並ビニ鰓

- 囊器ノ解剖學的所見. 【嶺西醫報】183, 大8(1919).
- 5965. Masui, Kiyoshi and Tamura, Yasushige: The effect of gonadectomy on the structure of the suprarenal gland of mice, with reference to the functional relation between this gland and the sex gland of the female. 【J. Coll. Agr. Imp. Univ. Tokyo】7, 4, 大8-15(1919-26).
- 5966. 塚口利三郎, 高木耕三: 內分泌機轉ノ細胞學的考察(標本供覽). 【阪醫會誌】20, 10, 大10(1921). [犬, 家兔, 人].
- 5967. 池上五郎: 內分泌腺ヲ以テ飼養セル蛙蝌蚪ノ形態的所見. 附: 泌尿生殖器ニ及ボス影響. 【日新醫學】11, 6, 大11(1922). [黑蛙, トノサマ蛙].
- 5968. 林 春雄: 內分泌ニ就テ. 【日獸醫會誌】1, 2, 大11(1922).
- 5969. 小山準二: 「キモリ」ノ內分泌腺ノ解剖【動物誌】34, 409, 大11(1922).
- 5970. 寺尾 新: 蠶ニ及ボス甲状腺及ヒ腦下垂體前葉飼育ノ影響. 【日學報告】1, 大14(1925).
- 5971. 三浦謹之助: 內分泌腺ト神經系統殊ニ交感神經トノ關係ニ就テ. 【神報誌】25, 4, 大14(1925). [副腎, 甲状腺, 副甲状腺, 胸腺, 腦下垂體, 松果腺].
- 5972. 宮川米次, 和田 馨: 內分泌諸臟器細胞ヲ以テ蝌蚪(Bufo bufo japonicus (Schleg.), Rana nigromaculata)ノ飼養實驗. 【實驗醫誌】10, 2, 大15(1926).
- 5973. 横尾秋夫: 松果腺及ヒ睪丸ノ重複別出ニ依ル實驗的研究. 【日內分泌誌】1, 5, 大15(1926). [鰓].
- 5974. 中村八太郎: 內分泌ト體質及ヒ疾病. 【醫公論】795, 昭2(1927). [人].
- 5975. 工藤得安: 性「ホルモン」ノ胎盤不透過性ニ就テ. 【東北醫誌】10, 昭2(1927). [家兔, 海鼠, 白鼠].
- 5976. 井倉 諒: 鹽化「ヒヨリン」注射ニヨル諸種內分泌臟器ノ變化並ビニ「アドレナリン」及ヒ「ヒヨリン」ノ相互關係ニ就テ. 【日內分泌誌】3, 4, 昭2(1927). [白鼠].
- 5977. 森 健吉: 「インスリン」及ヒ甲状腺物質ガ諸臟器ノ「オキソゲーゼ」反應ニ及ボス影響. 【日內分泌誌】2, 6, 昭2(1927). [家兔].
- 5978. 工藤得安: 兩棲類ノ雌性內分泌器官. 【北越醫會誌】42, 6, 昭2(1927).
- 5979. 齋藤公平: 性「ホルモン」成生部位ニ關スル實驗的研究. 第一篇: 性周期發現ニ關スル考察. 【傳殖業誌】42, 昭2(1927). [白鼠].

5980. 水野達彦: Über den Einfluss des Ovarialinkretes auf die Genitalfunktion. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 21,1. 昭2-3(1927-28). [Ratte].
5981. 横森賢治郎: 生殖腺内分泌及び其異常. [臨牀研究] 1. 昭2-9(1927-31). [人].
5982. 星三藏: 剖検材料ノ統計的研究. 第一報: 重量ヨリ見タル副腎, 胸腺ノ發育. [東北醫誌] 11, 1 昭3(1928). [人].
5983. 千野一布, 村尾勝雄: 甲状腺, 脾臓及び生殖腺ガ肝臓及び筋肉内「グリコーゲン」量ニ及ボス影響ニ就テ. [日内分誌] 4,1. 昭3(1928). [家兔].
5984. 西村俊一, 新田一衛, 養田昭子: 外界氣温ニヨル内分泌諸臓器ノ變化ニ就テ. [日内分誌] 4,9. 昭3(1928). [白鼠].
5985. 岡室徳之助: 膵管ト Hassal 氏小體トノ關係. [日病理會誌] 18. 昭3(1928). [海狗].
5986. Ikuta, Nobuyasu: On the relation between endocrine organs and the development of teeth. [Acta med. Keijo] 11,1. 昭3(1928). [White rat, dog, rabbit, Guinea pig].
5987. Muto, Chuji: On the path of the secretion of hormones. The secretion of the hormones of pancreas, testicle and hypophysis cerebri. [Acta med. Keijo] 11,2. 昭3(1928). [Domestic fowl, mouse, Guinea pig, man, sheep].
5988. 井倉 誠: 卵巣物質ノ甲状腺及ビ其他内分泌臓器ニ及ボス影響ニ就テ. [日内分誌] 3,6. 昭3(1928). [白鼠].
5989. 清成要平: 骨發育ニ及ボス骨端化骨現象並ビニ骨「カルシウム」量ニ及ボス生殖腺ノ影響ニ就テ. [日内分誌] 4,5. 昭3(1928). [マウス].
5990. —: 骨發育ニ及ボス胸腺及ビ生殖腺ノ影響並ビニ内分泌諸臓器トノ關係ニ就テ. [日内分誌] 4,11. 昭4(1929). [海狗].
5991. 室原農夫藏: 甲状腺及ビ腦下垂體ト性週期トノ關係. [日内分誌] 5,1. 昭4(1929). [白鼠, 二十日鼠].
5992. 西村俊一: 「ビタミン」B過剰症ノ内分泌諸臓器ノ變化ニ就テ. [日内分誌] 5,1. 昭4(1929). [白鼠].
5993. 森 茂樹: 卵巣「ホルモン」ト交尾期循環. [日内分誌] 5,3. 昭4(1929).
5994. 安田徳太郎: 生殖腺ト諸種内分泌臓器トノ關係ニ就テ. [日内分誌] 5,7. 昭4(1929). [ラット].
5995. 松井好夫: 卵巣濾胞 Hormon ト脂肪脊内細胞像トノ關係ニ就テ. 標本供覽. [北越醫會誌] 45,5. 昭5(1930). [家兔].
5996. 林 春雄: 雌性生殖腺ト内分泌. [日醫新報] 386. 昭5(1930).
5997. 千野一布: 生殖腺並ビニ脾臓ノ糖原質量ニ及ボス影響. [日内分誌] 5,11. 昭5(1930). [家兔].
5998. 梅谷與七郎: 家畜ニ於ケル生殖腺及ビ食道下腺ノ添食ニ依ル影響. 特ニ昆蟲ノ内分泌ニ就テ. [日學報告] 6. 昭5(1930).
5999. 大西康夫: 鶏胎兒發育ニ及ボス諸種内分泌ノ影響ニ就テ. [日内分誌] 6,1. 昭5(1930).
6000. —: 鶏胎兒發育ニ及ボス諸種内分泌ノ影響. 第三: 生殖腺ノ影響ニ就テ. [日内分誌] 7,6. 昭6(1931).
6001. 秋吉夏文: 邦人ノ腦下垂體, 睾丸及ビ副睾丸ノ重量ニ關スル研究. [解剖誌] 4,7. 昭6(1931).
6002. 鳥生芳行: 傳書鳩ニ脾臓摘生後ニ於ケル肝臓及ビ骨髓ノ血球形成ニ就テ. [日獸醫會誌] 10,4. 昭6(1931).
6003. Ikeda, Yuitiro(池田雄一郎): Branchial derivatives of the Green Frog, *Rhacophorus schlegelii*. [J. Fac. Sci. Sect. 4. Zool.] 3,2. 昭6(1931). [胸腺, 頸腺等ノ構造].
6004. 石田 保: 内分泌腺ト血小板. 第一報: 副腎ト血小板ニ「アドレナリン」性血小板増加ノ機轉ニ就テ. [京城醫專紀要] 2,11. 昭7(1932). [白鼠, 家兔].
6005. 緒方 章: 性「ホルモン」ノ話. [體性] 18,3. 昭7(1932).
6006. 藥師寺忠志: 腮囊(特ニ第六腮囊)腮後小體並ビニ甲状腺ノ發生學的研究. [岡山醫會誌] 44,5. 昭7(1932). [蟾蜍].
6007. 服部秀雄: *Hynobius nebulosus*ニ於ケル甲状腺上皮小體, 胸腺, postbranchialer Körper 及ビ Carotisdrüseノ形態學並ニ發生學的研究. [解剖誌] 5,4. 昭7(1932).
6008. 佐野悦司: 女子生殖腺ノ副腎皮質. [十全會誌] 38,10. 昭8(1933). [人].
6009. 林 春雄: 内分泌ニ就テ. [體性] 18,3. 昭7(1932).
6010. —: 内分泌. [體性] 20,4. 昭8(1933).
6011. 菊池 昇: 爬蟲類, 胸腺, 甲状腺, 腮後體ノ發生. [千葉醫會誌] 11,12. 昭8(1933).
6012. 石田 保: 内分泌腺ト血小板. 第四報: 副腎ト血小板ニ interrenin 性血小板減少機

- 轉ニ就テ. [京城醫專紀要] 3,7. 昭8(1933). [家兔].
6013. 池田長太郎: 家兔妊娠時血液「アチドージス」ノ二三内分泌腺ニ及ボス組織的變化ニ就テ. [日新醫學] 23,4. 昭8(1933). [腦下垂體, 甲状腺].
6014. 工藤得安: 抗生長「ホルモン」ニ就テ. 特ニ之ガ惡性腫瘍ニ及ボス影響ニ就テ. [解剖誌] 6,4. 昭8(1933). [家兔, マウス].
- 甲 状 腺**
6015. 鈴木文太郎: 甲状腺ニ就テ. [東京醫會誌] 8,19. 明27(1894). [家兔, 犬, 猫, 鼠, 人].
6016. 木村順吉: 拔設篤氏病ノ病理ニ就テ. [顯微鏡] 2. 明27(1894).
6017. 矢嶋將雄: 甲状腺ニ就テ. [千葉醫專會誌] 23. 明36(1903). [人].
6018. 尾關才吉: 本邦人ノ甲状腺形態學(人種解剖學上ノ補遺). [東京醫會誌] 24,1. 明43(1910).
6019. 中村八太郎: 沃度ト甲状腺(實驗的研究). [日病理會誌] 5. 大5(1916). [兔, 二十日鼠].
6020. 赤松純一: 本邦人ニ於ケル甲状腺管殘胎ノ研究. 附: 之レヨリ發生スル腫瘍及ビ瘻管ニ就テ. [大日耳鼻] 24,1-2. 大7(1918).
6021. 木村省三: 鶏ノ甲状腺ノ組織學的研究. [廣西醫報] 185. 大8(1919).
6022. 石原 勝: 甲状腺抽出實驗. [海軍醫誌] 29. 大9(1920). [家兔].
6023. 高木耕三: 犬甲状腺細胞ノ構造ニ就テ(會). [飯醫會誌] 19,11. 大9(1920).
6024. Takagi, Kozo: A cytological study on the Dog's thyroid gland. [Fol. anat. jap.] 1,2. 大11(1922).
6025. 橋本庄太郎, 加藤多右衛門: 馬甲状腺内小結節ノ病理解剖學的研究. [陸軍醫報] 151. 大11(1922).
6026. 内藤 寛: 甲状腺ノ剝離反應ニ就テ. [陸軍醫報] 152. 大11(1922). [蛙].
6027. 生田信保: 甲状腺及ビ副甲状腺抽出後ノ齒牙發育ノ變化(會). [朝鮮醫會誌] 46. 大12(1923). [ラット, 犬, 家兔].
6028. 執行作彌: 甲状腺ノ形態學的研究(其一). 甲状腺主體ノ形態ニ就テ. [東京醫誌] 2327. 大12(1923). [胎兒, 小兒, 大人].
6029. —: 甲状腺ノ形態學的研究(其二). 副甲状腺ニ就テ. [東京醫誌] 2333. 大12(1923). [人].
6030. —: 甲状腺ノ形態學的研究(其三). 假性副甲状腺ト甲状腺管ノ表皮性殘胎トノ關係. [東京醫誌] 2338. 大13(1923). [人].
6031. —: 甲状腺ノ形態ニ關スル研究. 附: 上皮小體(傍甲状腺)ノ形態ニ就テ. [福岡醫大誌] 17,6. 大13(1924). [人].
6032. 福士政一: 甲状腺ニ就テ. [醫海時報] 1548. 大13(1924).
6033. 辻 寛治: 甲状腺. [日内分誌] 1,1-3. 大14(1925).
6034. 松浦篤實: パセドウ氏病及ビ甲状腺過給動物ニ於ケル頸部交感神經節ノ變化ニ就テ. [日内分誌] 1,1. 大14(1925). [人].
6035. 石丸士郎: 甲状腺細胞ニ於ケルゴルヂー装置. [十全會誌] 30,5. 大14(1925). [家兔].
6036. Ishimaru, Shiro: Über den Golgi-Apparat in den Schilddrüsenzellen. [Fol. anat. jap.] 4,1. 大15(1926). [Kaninchen].
6037. 佐野 進: 甲状腺完全形成缺損ノ一例. [日病理會誌] 16. 大15(1926). [人].
6038. 松浦篤實: 甲状腺物質過給ニヨル臓器内及ビ外神經細胞ノ變性ニ就テ. [日内分誌] 1,5. 大15(1926). [家兔].
6039. 村上来藏: 犬甲状腺ゴルヂー「アパラト」ニ關スル研究. [東北醫誌] 10. 昭2(1927).
6040. 齋藤 隆, 田中賢三: 甲状腺ノ代償性肥大ト沃度含有量. [日内分誌] 3,3. 昭2(1927). [家兔].
6041. 岡田實秋: 甲状腺製劑ノ鶏胎兒發育ニ及ボス實驗的研究. [日内分誌] 3,1. 昭2(1927).
6042. 杉本清治: Experimentelle Untersuchungen über die Veränderungen der weiblichen Geschlechtsdrüsen bei Hyperthyreoidismus. [Jap. J. of med. Sci. IV. Pharmacol.] 2,1. 昭2-3(1927-28). [Ratte].
6043. 山下秀之助: 白鼠ノ甲状腺ニ就テ. [北海道醫誌] 4,5. 昭2(1927).
6044. —: 「アルコール」中毒ニヨル甲状腺ノ變化ニ就テ. [北海道醫誌] 6,5. 昭3(1928). [白鼠, 家兔].
6045. —: 甲状腺濾胞ノ大イサニ關スル計測的研究. [北海道醫誌] 6,10. 昭3(1928).
6046. 養和田益二: 甲状腺抽出ノ皮膚及ビ皮膚腺ニ及ボス影響. [皮膚紀要] 11,3. 昭3(1928). [猫].
6047. 秋山成六: 松果腺抽出ノ甲状腺發育ニ及ボス影響ニ就テ. [日内分誌] 3,6. 昭3(1928). [白鼠].